

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

2013.3

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

東京日本橋を基点とする国道17号は、江戸時代の中山道と三国街道の機能を引継いで北上し、首都圏と群馬県・新潟県とを結ぶ幹線国道として位置づけられています。近年の著しい沿道地域の発展と物流の増加に伴ってその機能強化が求められ、新たに、埼玉県熊谷市の深谷バイパス上武インターチェンジから伊勢崎・前橋の赤城山南麓を経由する「上武道路」として整備されてきました。現在前橋市上細井町まで開通しているこの道路用地内には数多くの遺跡が所在し、その発掘調査の成果につきましては報告を公にしてきたところです。

本書で報告します上町・時沢西組屋谷戸遺跡は、平成24年12月に供用が開始された区間の西端に所在し、国土交通省からの委託を受けて公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施したものです。

この調査により、小さな谷頭のまわりに竪穴住居と掘立柱建物からなる集落の存在が確認され、凹地に沿って両側に側溝をそなえた道路跡や、水田用水を補給する溜井が見つられていたことが明らかになりました。この調査によって、赤城山南麓の白川扇状地域内の古代集落の実態解明に向けた新たな資料を得ることができたと考えております。今後、本報告書が郷土の歴史解明や教育の場で活用されることを切に願ってやみません。

最後に、発掘調査から報告書の作成に至るまで、国土交通省をはじめ、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、並びに地元関係者の皆様には多大なご指導、ご協力を賜りました。本報告書の上梓に際し、関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

平成25年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 須 田 榮 一

例 言

1. 本書は、一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)に伴い発掘調査された上町・時沢西組屋谷戸遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
 2. 遺跡は、群馬県前橋市上細井町905、906、907、915、908-2、909、910、912-1、912-5、911-1、911-2、911-3、947-1、947-4、949-2、949-9、同市富士見町32、33、38、37-1、37-3、39、40-3、47-2他に所在する。
 3. 事業主体は国土交通省関東地方整備局である。
 4. 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月1日に公益財団法人に改定)である。
 5. 発掘調査の期間と体制は次の通りである。

調査期間 平成21年7月1日～平成22年1月31日(調査履行期間平成21年7月1日～平成22年3月31日)

発掘調査担当 専門員(主任) 佐藤明人 主任調査研究員 齋藤 聡

遺跡掘削工事請負 山下工業株式会社

委託 地上測量：技研測量設計株式会社 自然科学分析：株式会社火山灰考古学研究所
土器洗浄・注記事業：須賀工業株式会社
 6. 整理事業の期間と体制は次の通りである。

整理期間 平成24年4月1日～平成25年3月31日(整理履行期間平成24年4月1日～平成25年3月31日)

整理担当者 小島敦子(資料統括)
 7. 本書作成の担当者は次の通りである。

編集 小島敦子

本文執筆 小島敦子

















デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)

遺物観察 石器・石製品：岩崎泰一(上席専門員) 縄文土器：谷藤保彦(上席専門員)
土師器・須恵器：桜岡正信(資料統括) 中近世陶磁器・土器：大西雅広(上席専門員)
金属製品：関 邦一(補佐(総括))

遺物写真撮影 佐藤元彦：補佐(総括)

保存処理 関 邦一：補佐(総括)
 8. 石材同定の一部は飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)に依頼した。
 9. 発掘調査諸資料および出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
 10. 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏よりご助言を得た。記して感謝の意を表します。
(五十音順・敬称略)
- 国土交通省関東地方整備局、群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市教育委員会文化財保護課

凡 例

1. 上町・時沢西組屋谷戸遺跡の遺構平面図は世界測地系国家座標(第IX系)を用いて測量した。遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北で、真北方向角は $0^{\circ} 26' 43.21''$ (東偏)である。
2. 上町・時沢西組屋谷戸遺跡は、合併以前に台帳に登録された前橋市上町遺跡と旧富士見村時沢西組屋谷戸遺跡を合わせたものである。台帳には別名称で登録されているが、遺跡としては同一遺跡と判断し、「上町・時沢西組屋谷戸遺跡」の名称で編集し、記述に際しては遺跡ごとにおこなった。
3. 本書における遺構番号は、遺跡ごとの通し番号であり、原則的には調査時のものをそのまま使用した。しかし、重複したものについては、整理作業時に付け替えた。新旧の遺構番号の対照表を第2表(P.11)に掲げた。
4. 本書で使用した浅間山及び榛名山噴火によるテフラの呼称については以下のように表記した。
浅間Bテフラ：As-B(1108年) 榛名山二ツ岳軽石：Hr-F P(6世紀中葉) 榛名山二ツ岳火山灰：Hr-F A(6世紀初頭) 浅間C軽石：As-C(3世紀終末～4世紀初頭) 浅間板鼻黄色軽石：As-Y P 浅間板鼻褐色軽石：As-B P 浅間白糸軽石：As-Sr また、浅間Bテフラ降下後形成されたスコリアを多量に含む黒褐色土について「浅間B混土」と略した場合がある。
5. 住居の面積は床面積で、デジタルプランメーターにより住居の下場内側を3回計測した平均値である。住居の方位は長軸を計測した。遺構の規模で全体を計測できないものについては、現存の値を記載し「以上」を付した。
6. 掘立柱建物の柱間は、平面測量時の底面標高測点を原則として中心とし、その心々距離を計測した。各辺の長さの計測も同様とした。主軸方位は棟方向を計測した。柱穴は新たにP 1から順に時計回りで付番し、調査時に呼称されたピット番号は第2表(P.11)に記載し、非掲載遺物との照合に配慮した。
7. 遺構図・遺物図の縮尺は以下の通りである。縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付した。
遺構図 住居1：60 掘立柱建物1：80 土坑・ピット1：60 溝1：80または1：100
遺物図 土器1：4 土器拓影1：3 石器・石製品1：3、1：2 大形石器1：6 小形石器1：1
8. 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。
9. 図中で使用したマークは以下のことを表す。
遺構図 灰・炭  焼土  硬化面  粘土  視乱  浅間Bテフラ 
遺物図 石器 磨り面  土器 黒色処理  灰釉  スス付着  油煙  漆 
羽口熱変色範囲  羽口淨化(ガラス質)  ガラス質の融着物  赤色塗彩 
10. 溝の平面図は分割して掲載したものがあるが、分割位置を▶◀で示した。
11. 石斧刃部側の摩耗痕については縦位定規線で、着柄部と想定される部分の摩耗痕については横位定規線で図示した。磨石等礫石器類に用いた縦位・横位定規線は摩耗範囲を示す。その他の斜位定規線は線条痕の走行を示す。一部の紡輪と台石については、整形痕・打痕・摩耗痕を表現するため、必要に応じて拓本を使用した。
12. 遺物写真図版の倍率は、土器は原則として1/3、石器のうち礫・剥片石器は大きさに応じて1/3あるいは1/2、石鏃等の小型のものは1/1に近づけるようにした。
13. 各地図の使用は以下のとおりである。
第1図 国土地理院発行、20万分の1地勢図「宇都宮」平成18年発行
第2図・第8図 国土地理院発行、5万分の1地形図「前橋」平成10年発行
第3図・第7図 前橋市役所発行、2千5百分の1現形図平成21年測図 富士見地区は平成23年測図
第4図 国土地理院発行、2万5千分の1地形図「前橋」「大湖」平成22年発行「渋川」平成14年発行「鼻毛石」昭和56年発行
14. 参考・引用文献は、第8章末に一括して掲載した。周辺遺跡一覧表(第1表)の文献Noもこれに一致する。

目 次

序	
口絵	
例言	
凡例	
第1章 調査に至る経過	
第1節 上武道路について	1
第2節 上武道路と埋蔵文化財	1
第3節 調査に至る経過	2
第2章 調査の方法と経過	
第1節 発掘調査の方法と経過	6
第2節 整理作業の経過と方法	9
第3章 遺跡の立地と歴史的環境	
第1節 遺跡の位置と地形	13
第2節 周辺の遺跡分布	19
第4章 上町遺跡の遺構と遺物	
第1節 概要	23
第2節 検出された遺構と遺物	24
1. 竪穴住居	24
2. 竪穴状遺構	74
3. 掘立柱建物	82
4. ビット列	94
5. 溝	98
6. 井戸	106
7. 土坑	107
8. ビット	117
9. 溜井	129
10. 遺構外出土遺物	140
第5章 時沢西紺屋谷戸遺跡の遺構と遺物	
第1節 概要	141
第2節 検出された遺構と遺物	142
1. 竪穴住居	142
2. 竪穴状遺構	209
3. 掘立柱建物	212
4. 溝	226
5. 井戸	236
6. 土坑	236
7. ビット	251
8. 畠	265
9. 水田	266
10. 遺構外出土遺物	271
第6章 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の遺構と遺物	
第1節 概要	273
第2節 検出された遺構と遺物	273
1. 溝	273
2. 道路	276
第7章 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の自然科学分析	
第1節 分析の目的と成果	289
第2節 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡における テフラ分析	289
第3節 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡における ブランド・オパール分析	294
第8章 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡調査の成果	
第1節 遺構分布の変遷について	297
第2節 遺構について	304
第3節 出土遺物について	306
参考文献	310
遺構一覧表	311
遺物観察表	325
報告書抄録	364
写真図版	
付図 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡全体図	

挿 図 目 次

第1図	上武道路と道路の位置	1	第63図	上町道路6号掘立柱建物平面断面図	86
第2図	上武道路8-1区の道路	3	第64図	上町道路12号掘立柱建物平面断面図	87
第3図	上町・時沢西組屋谷戸道路調査区周辺図	5	第65図	上町道路13号掘立柱建物平面断面図	89
第4図	上武道路調査測量グリッド設定図	7	第66図	上町道路14号掘立柱建物平面断面と出土遺物図	90
第5図	上町・時沢西組屋谷戸道路の基本土層	8	第67図	上町道路15号掘立柱建物平面断面と出土遺物図	92
第6図	群馬県中央部の地形と上町・時沢西組屋谷戸道路	13	第68図	上町道路16号・17号掘立柱建物平面断面と出土遺物図	93
第7図	白川扇状地と上町・時沢西組屋谷戸道路	14	第69図	上町道路1号ピット列平面断面図	94
第8図	上町・時沢西組屋谷戸道路の立地	15	第70図	上町道路2号ピット列平面断面図	94
第9図	上町・時沢西組屋谷戸道路の微地形と土層	18	第71図	上町道路3号ピット列平面断面図	95
第10図	上町・時沢西組屋谷戸道路周辺の道路分布	20	第72図	上町道路4号ピット列平面断面図	95
第11図	上町道路1号・11号住居床面・掘り方面図	25	第73図	上町道路5号ピット列平面断面図	96
第12図	上町道路1号住居出土遺物図	26	第74図	上町道路6号ピット列平面断面図	97
第13図	上町道路4号住居床面図	27	第75図	上町道路1号～4号・10号溝出土遺物図	99
第14図	上町道路4号住居掘り方面図	28	第76図	上町道路1号・2号・4号溝出土遺物図	100
第15図	上町道路4号住居出土遺物図	29	第77図	上町道路5号・9号溝断面と出土遺物図	101
第16図	上町道路5号住居出土遺物図(1)	30	第78図	上町道路6号溝断面と出土遺物図	102
第17図	上町道路5号住居出土遺物図(2)・床面図	31	第79図	上町道路7号・8号・11号溝断面と出土遺物図	104
第18図	上町道路5号住居床面・掘り方面と出土遺物図	32	第80図	上町道路19号～21号溝断面と出土遺物図	105
第19図	上町道路6号住居出土遺物図	33	第81図	上町道路22号・23号溝断面図	106
第20図	上町道路6号住居床面図	34	第82図	上町道路1号井戸平面断面図	106
第21図	上町道路6号住居掘り方面図	35	第83図	上町道路土坑平面断面図(1)円形土坑	108
第22図	上町道路7号住居床面・掘り方面図	36	第84図	上町道路土坑平面断面図(2)円形土坑	109
第23図	上町道路8号住居床面・掘り方面と出土遺物図	38	第85図	上町道路土坑平面断面図(3)円形土坑	110
第24図	上町道路9号住居床面・掘り方面と出土遺物図	39	第86図	上町道路土坑平面断面図(4)楕円形土坑	112
第25図	上町道路10号住居掘り方面図	40	第87図	上町道路土坑平面断面図(5)楕円形土坑	114
第26図	上町道路12号住居床面・掘り方面と出土遺物図	41	第88図	上町道路土坑平面断面図(6)長方形土坑	115
第27図	上町道路13号住居床面図	43	第89図	上町道路土坑出土遺物図	115
第28図	上町道路13号住居掘り方面と出土遺物図	44	第90図	上町道路土坑平面断面図(7)不整形土坑	117
第29図	上町道路16号住居床面・掘り方面図	45	第91図	上町・時沢西組屋谷戸道路のピット分布全体図	118
第30図	上町道路18号住居床面・掘り方面と出土遺物図	46	第92図	上町道路ピットの分布と上層断面と出土遺物図1-1	119
第31図	上町道路19号住居床面・掘り方面図	48	第93図	上町道路ピットの上層断面図1-2	120
第32図	上町道路19号住居掘り方上層断面と出土遺物図	49	第94図	上町道路ピットの分布と上層断面と出土遺物図2	121
第33図	上町道路20号住居出土遺物図	50	第95図	上町道路ピットの分布と上層断面図3	122
第34図	上町道路20号住居床面図	51	第96図	上町道路ピットの分布図4	123
第35図	上町道路20号住居掘り方面図	52	第97図	上町道路ピットの分布と上層断面図5	124
第36図	上町道路21号住居床面・掘り方面図	54	第98図	上町道路ピットの分布と上層断面図6	125
第37図	上町道路21号住居掘り方上層断面と出土遺物図	55	第99図	上町道路ピットの分布と上層断面図7-1	126
第38図	上町道路22号住居出土遺物図	57	第100図	上町道路ピットの上層断面図7-2	127
第39図	上町道路22号住居床面図	58	第101図	上町道路ピットの分布と上層断面と出土遺物図8	128
第40図	上町道路22号住居掘り方面図	59	第102図	上町道路1号掘井平面図	130
第41図	上町道路22号住居掘り方上層断面図	60	第103図	上町道路1号掘井上層断面図(1)	131
第42図	上町道路23号住居出土遺物図	61	第104図	上町道路1号掘井上層断面図(2)	133
第43図	上町道路23号住居床面・掘り方面図	62	第105図	上町道路1号掘井出土遺物図(1)	134
第44図	上町道路24号住居出土遺物図	64	第106図	上町道路1号掘井出土遺物図(2)	135
第45図	上町道路24号住居床面図	65	第107図	上町道路1号掘井出土遺物図(3)	136
第46図	上町道路24号住居掘り方面図	66	第108図	上町道路1号掘井出土遺物図(4)	137
第47図	上町道路24号住居掘り方上層断面図	67	第109図	上町道路1号掘井出土遺物図(5)	138
第48図	上町道路25号住居床面・掘り方面と出土遺物図	69	第110図	上町道路1号掘井出土遺物図分布図	139
第49図	上町道路26号住居床面・掘り方面と出土遺物図	70	第111図	上町道路の遺構外出土遺物	140
第50図	上町道路27号住居出土遺物図	71	第112図	時沢西組屋谷戸道路1号住居出土遺物図	142
第51図	上町道路27号住居床面・掘り方面図	72	第113図	時沢西組屋谷戸道路1号住居床面・掘り方面図	143
第52図	上町道路28号住居掘り方面と出土遺物図	73	第114図	時沢西組屋谷戸道路2号住居床面・掘り方面図	145
第53図	上町道路1号型六状遺構断面と出土遺物図(1)	75	第115図	時沢西組屋谷戸道路2号住居上層断面図・出土遺物図	146
第54図	上町道路1号型六状遺構断面と出土遺物図(2)	76	第116図	時沢西組屋谷戸道路3号住居床面・掘り方面と出土遺物図	147
第55図	上町道路2a号型六状遺構断面図	78	第117図	時沢西組屋谷戸道路4号住居出土遺物図	148
第56図	上町道路2b・2c号型六状遺構断面と全体図	79	第118図	時沢西組屋谷戸道路4号住居床面図	149
第57図	上町道路2a・2b・2c号型六状遺構出土遺物図	80	第119図	時沢西組屋谷戸道路4号住居掘り方面図	150
第58図	上町道路2a号型六状遺構周辺土坑平面断面図	81	第120図	時沢西組屋谷戸道路5号住居掘り方面図	151
第59図	上町道路1号掘立柱建物平面断面図	82	第121図	時沢西組屋谷戸道路5号住居出土遺物図	152
第60図	上町道路3号掘立柱建物平面断面と出土遺物図	83	第122図	時沢西組屋谷戸道路7号住居床面・掘り方面図	153
第61図	上町道路4号掘立柱建物平面断面と出土遺物図	84	第123図	時沢西組屋谷戸道路7号住居出土遺物図	154
第62図	上町道路5号掘立柱建物平面断面図	85	第124図	時沢西組屋谷戸道路8号住居出土遺物図	155

第125回	時沢西組屋谷戸遺跡8号住居床面図	156	第191回	時沢西組屋谷戸遺跡5号溝断面図(1)	230
第126回	時沢西組屋谷戸遺跡8号住居掘り方平面図	157	第192回	時沢西組屋谷戸遺跡5号溝断面図(2)	231
第127回	時沢西組屋谷戸遺跡9号住居床面図	158	第193回	時沢西組屋谷戸遺跡7号溝断面と出土遺物図	232
第128回	時沢西組屋谷戸遺跡9号住居掘り方平面図	159	第194回	時沢西組屋谷戸遺跡8号・9号溝断面図	233
第129回	時沢西組屋谷戸遺跡9号住居土層断面図	160	第195回	時沢西組屋谷戸遺跡10号溝断面図	234
第130回	時沢西組屋谷戸遺跡9号住居出土遺物図	161	第196回	時沢西組屋谷戸遺跡11号溝出土遺物図	235
第131回	時沢西組屋谷戸遺跡10号住居出土遺物図	163	第197回	時沢西組屋谷戸遺跡11号溝断面図	235
第132回	時沢西組屋谷戸遺跡10号住居床面図	164	第198回	時沢西組屋谷戸遺跡1号井戸断面と出土遺物図	236
第133回	時沢西組屋谷戸遺跡10号住居掘り方平面図	165	第199回	時沢西組屋谷戸遺跡土坑断面図(1)円形土坑	237
第134回	時沢西組屋谷戸遺跡10号住居土層断面図	166	第200回	時沢西組屋谷戸遺跡土坑断面図(2)円形土坑	238
第135回	時沢西組屋谷戸遺跡12号住居出土遺物図	167	第201回	時沢西組屋谷戸遺跡土坑断面図(3)円形土坑	239
第136回	時沢西組屋谷戸遺跡11号住居床面・掘り方面と出土遺物図	168	第202回	時沢西組屋谷戸遺跡土坑断面図(4)楕円形土坑	241
第137回	時沢西組屋谷戸遺跡12号住居床面・掘り方面図	169	第203回	時沢西組屋谷戸遺跡土坑断面図(5)楕円形土坑	243
第138回	時沢西組屋谷戸遺跡13号住居床面図	170	第204回	時沢西組屋谷戸遺跡土坑断面図(6)楕円形土坑	244
第139回	時沢西組屋谷戸遺跡13号住居掘り方面と出土遺物図	171	第205回	時沢西組屋谷戸遺跡土坑断面図(7)楕円形土坑	245
第140回	時沢西組屋谷戸遺跡14号住居床面・掘り方面図	173	第206回	時沢西組屋谷戸遺跡土坑断面図(8)長方形土坑	246
第141回	時沢西組屋谷戸遺跡14号住居出土遺物図	174	第207回	時沢西組屋谷戸遺跡土坑断面図(9)不整形	248
第142回	時沢西組屋谷戸遺跡15号住居床面・掘り方面と出土遺物図	175	第208回	時沢西組屋谷戸遺跡土坑断面図(10)ビット状	249
第143回	時沢西組屋谷戸遺跡16号住居床面・掘り方面図	177	第209回	時沢西組屋谷戸遺跡土坑出土遺物図	250
第144回	時沢西組屋谷戸遺跡16号住居出土遺物図	178	第210回	時沢西組屋谷戸遺跡ビット分布全体と土層断面9-1	251
第145回	時沢西組屋谷戸遺跡17号住居床面・掘り方面と出土遺物図	179	第211回	時沢西組屋谷戸遺跡ビットの分布と出土遺物図9-2	252
第146回	時沢西組屋谷戸遺跡18号住居出土遺物図	180	第212回	時沢西組屋谷戸遺跡ビット土層断面図9-3	253
第147回	時沢西組屋谷戸遺跡18号住居床面・掘り方面図	181	第213回	時沢西組屋谷戸遺跡ビット土層断面図9-4	254
第148回	時沢西組屋谷戸遺跡19号住居出土遺物図	182	第214回	時沢西組屋谷戸遺跡ビット土層断面図9-5	255
第149回	時沢西組屋谷戸遺跡19号住居床面・掘り方面図	183	第215回	時沢西組屋谷戸遺跡ビットの分布と出土遺物図10-1	256
第150回	時沢西組屋谷戸遺跡20号住居出土遺物図(1)	185	第216回	時沢西組屋谷戸遺跡ビット土層断面図10-2	257
第151回	時沢西組屋谷戸遺跡20号住居床面図	186	第217回	時沢西組屋谷戸遺跡ビットの分布と土層断面図11	258
第152回	時沢西組屋谷戸遺跡20号住居掘り方平面図	187	第218回	時沢西組屋谷戸遺跡ビットの分布図12	259
第153回	時沢西組屋谷戸遺跡20号住居掘り方土層断面図	188	第219回	時沢西組屋谷戸遺跡ビットの分布と出土遺物図13	260
第154回	時沢西組屋谷戸遺跡20号住居出土遺物図(2)	189	第220回	時沢西組屋谷戸遺跡ビットの分布と土層断面図14	261
第155回	時沢西組屋谷戸遺跡20号住居出土遺物図(3)	190	第221回	時沢西組屋谷戸遺跡ビットの分布図15	262
第156回	時沢西組屋谷戸遺跡21号住居床面図	191	第222回	時沢西組屋谷戸遺跡ビットの分布と土層断面図16	263
第157回	時沢西組屋谷戸遺跡21号住居床面図	192	第223回	時沢西組屋谷戸遺跡ビットの分布と土層断面図17	264
第158回	時沢西組屋谷戸遺跡21号住居掘り方平面図	193	第224回	時沢西組屋谷戸遺跡1号高断面図	265
第159回	時沢西組屋谷戸遺跡22号住居床面図	195	第225回	時沢西組屋谷戸遺跡水田平面図(無名沢Aトレンチ)	267
第160回	時沢西組屋谷戸遺跡22号住居掘り方面図	196	第226回	時沢西組屋谷戸遺跡水田平面図(無名沢Aトレンチ)	268
第161回	時沢西組屋谷戸遺跡22号住居出土遺物図	197	第227回	時沢西組屋谷戸遺跡水田平面図(無名沢Bトレンチ)	269
第162回	時沢西組屋谷戸遺跡23号住居床面・掘り方面図	198	第228回	時沢西組屋谷戸遺跡水田平面図と出土遺物図 (無名沢C・Dトレンチ)	270
第163回	時沢西組屋谷戸遺跡23号住居床面図	199	第229回	時沢西組屋谷戸遺跡の遺構外出土遺物(1)	271
第164回	時沢西組屋谷戸遺跡24号住居床面・掘り方面図	200	第230回	時沢西組屋谷戸遺跡の遺構外出土遺物(2)	272
第165回	時沢西組屋谷戸遺跡24号住居出土遺物図	201	第231回	上町遺跡14号・15号溝断面と出土遺物図	274
第166回	時沢西組屋谷戸遺跡25号住居床面と出土遺物図	202	第232回	時沢西組屋谷戸遺跡15号溝断面と出土遺物図	275
第167回	時沢西組屋谷戸遺跡26号住居床面図	204	第233回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路断面図	279
第168回	時沢西組屋谷戸遺跡26号住居掘り方面図	205	第234回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路土層断面図(1)	281
第169回	時沢西組屋谷戸遺跡26号住居出土遺物図	206	第235回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路土層断面図(2)	282
第170回	時沢西組屋谷戸遺跡27号住居出土遺物図	207	第236回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路土層断面図(3)	283
第171回	時沢西組屋谷戸遺跡27号住居床面・掘り方面図	208	第237回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路土層断面図(4)	284
第172回	時沢西組屋谷戸遺跡1号型6状遺構底面と出土遺物図	209	第238回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路土層断面図(5)	285
第173回	時沢西組屋谷戸遺跡2号型6状遺構底面と出土遺物図	210	第239回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路出土遺物図(1)	287
第174回	時沢西組屋谷戸遺跡3号型6状遺構底面図	211	第240回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路出土遺物図(2)	288
第175回	時沢西組屋谷戸遺跡3号型6状遺構出土遺物図	212	第241回	時沢西組屋谷戸遺跡Q17グリッドの上層柱状図	291
第176回	時沢西組屋谷戸遺跡1号掘立柱建物断面と出土遺物図	213	第242回	上町遺跡15-グリッドの上層柱状図	291
第177回	時沢西組屋谷戸遺跡1号掘立柱建物土層断面図	214	第243回	上町遺跡群状円形地盤の上層柱状図	291
第178回	時沢西組屋谷戸遺跡3号掘立柱建物断面図	215	第244回	時沢西組屋谷戸遺跡43E-Q17-グリッドの火山ガラス比・重粒 鉱物組成ダイアグラム	292
第179回	時沢西組屋谷戸遺跡4号掘立柱建物断面と出土遺物図	217	第245回	上町遺跡群状円形地盤の火山ガラス比ダイアグラム	292
第180回	時沢西組屋谷戸遺跡5号掘立柱建物断面図	218	第246回	上町遺跡群状円形地盤におけるプラントオーバー分析結果	295
第181回	時沢西組屋谷戸遺跡7号掘立柱建物断面図	219	第247回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡の遺構分布の変遷(1)	297
第182回	時沢西組屋谷戸遺跡7号掘立柱建物断面と出土遺物図	220	第248回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡の遺構分布の変遷(2)	298
第183回	時沢西組屋谷戸遺跡8号掘立柱建物断面図	222	第249回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡の遺構分布の変遷(3)	299
第184回	時沢西組屋谷戸遺跡9号掘立柱建物断面と出土遺物図	223	第250回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡の遺構分布の変遷(4)	303
第185回	時沢西組屋谷戸遺跡10号掘立柱建物断面図	224	第251回	上町・時沢西組屋谷戸遺跡出土の火山ガラス比と重粒 鉱物組成ダイアグラム	309
第186回	時沢西組屋谷戸遺跡11号掘立柱建物断面図	225			
第187回	時沢西組屋谷戸遺跡東部遺構位置図	226			
第188回	時沢西組屋谷戸遺跡1号・3号溝断面と出土遺物図	227			
第189回	時沢西組屋谷戸遺跡5号溝出土遺物図	228			
第190回	時沢西組屋谷戸遺跡6号溝出土遺物図	229			

写真図版目次

PL. 1	1. 上野・時沢西組屋谷戸遺跡周辺の赤城山南麓(北から)	7. 9号住居遺全(西から)	
	2. 上野・時沢西組屋谷戸遺跡周辺の赤城山南麓(南から)	8. 9号住居掘り方土層断面C-C'(南西から)	
PL. 2	1. 上野・時沢西組屋谷戸遺跡調査区全(東から)	PL.11	1. 9号住居掘り方土層断面D-D'(西から)
	2. 上野・時沢西組屋谷戸遺跡調査区全(西から)		2. 9号住居掘り方全(西から)
上野遺跡			3. 10号住居全(西から)
PL. 3	1. 1区古代遺構群全(北東から)		4. 10号住居土層断面B-B'(南から)
	2. 2区古代遺構群全(北西から)		5. 12号住居全(北西から)
	3. 2区古代遺構群全(南東から)		6. 12号住居土層断面A-A'(北東から)
	4. 3区古代遺構群全(北東から)		7. 12号住居土層断面C-C'(北東から)
	5. 1号・11号住居土層断面A-A'(南から)		8. 12号住居掘り方全(北西から)
	6. 1号住居2号ビット土層断面A-A'(南から)	PL.12	1. 13号A・5号-7号住居全(西から)
	7. 1号住居全(西から)		2. 13号住居B全(西から)
	8. 1号住居貯蔵穴土層断面C-C'(北東から)		3. 13号住居C全(西から)
PL. 4	1. 1号・11号住居掘り方全(北西から)		4. 13号住居B電土層断面D-D'(西から)
	2. 11号住居掘り方全(西から)		5. 13号住居C電土層断面D-D'(西から)
	3. 4号住居全(西から)		6. 13号住居C掘り方全土層断面D-D'(西から)
	4. 4号住居土層断面B-B'(西から)		7. 13号住居掘り方全(西から)
	5. 4号住居貯蔵穴土層断面E-E'(西から)		8. 16号住居全(北東から)
	6. 4号住居須恵器輪(10・11)・土師器杯(1)出土状態(西から)	PL.13	1. 18号住居全(北から)
	7. 4号住居・1号・74号ビット土層断面C-C'(西から)		2. 18号住居掘り方全(北から)
	8. 4号住居土層断面C-C'(南から)		3. 19号住居全(西から)
PL. 5	1. 4号住居全(西から)		4. 19号住居土層断面B-B'(西から)
	2. 4号住居掘り方土層断面C-C'(南から)		5. 19号住居土層断面C-C'(南から)
	3. 4号住居掘り方全(西から)		6. 19号住居全(西から)
	4. 4号住居掘り方全(西から)		7. 19号住居掘り方全(南西から)
	5. 5号住居全(西から)		8. 19号住居掘り方全(西から)
	6. 5号住居土層断面B-B'(西から)	PL.14	1. 19号住居2号ビット掘り方土層断面F-F'(南から)
	7. 5号住居遺物出土状態(西から)		2. 19号住居3号ビット掘り方土層断面A-A'(南から)
	8. 5号住居鉄製鈴鐺車(23)出土状態(西から)		3. 19号住居4号ビット掘り方土層断面G-G'(南から)
PL. 6	1. 5号住居須恵器書輪(6)出土状態(西から)		4. 19号住居6号ビット掘り方土層断面C-C'(南から)
	2. 5号住居須恵器皿(12)出土状態(西から)		5. 20号住居全(西から)
	3. 5号住居土層断面C-C'(南西から)		6. 20号住居土層断面B-B'(北西から)
	4. 5号住居全(西から)		7. 20号住居土層断面D-D'(西から)
	5. 5号住居掘り方土層断面C-C'(南から)		8. 20号住居全(西から)
	6. 5号住居掘り方全(西から)	PL.15	1. 20号住居堀辺遺物出土状態(南西から)
	7. 5号住居1号床下土上土層断面G-G'(南西から)		2. 20号住居掘り方全(南西から)
	8. 5号住居遺と1号床下土坑(西から)		3. 20号住居P4土層断面1-1'(南から)
PL. 7	1. 6号・5号・7号・13号住居全(西から)		4. 20号住居掘り方全(西から)
	2. 6号住居土層断面B-B'(西から)		5. 21号住居全(西から)
	3. 6号住居貯蔵穴土層断面E-E'(西から)		6. 21号住居土層断面B-B'(西から)
	4. 6号住居貯蔵穴全(西から)		7. 21号住居1号電土層断面D-D'(西から)
	5. 6号住居遺物出土状態(南西から)		8. 21号住居1号電全(西から)
	6. 6号住居須恵器長頸壺(10)出土状態(南西から)	PL.16	1. 21号住居2号電土層断面D-D'(西から)
	7. 6号住居土層断面D-D'(西から)		2. 21号住居2号掘り方全(西から)
	8. 6号住居全(西から)		3. 21号住居掘り方全(西から)
PL. 8	1. 6号住居掘り方全(南西から)		4. 21号住居1号床下土上土層断面G-G'(東から)
	2. 6号住居掘り方全(西から)		5. 21号住居2号・3号床下土上土層断面A-A'(北から)
	3. 6号住居1号ビット掘り方土層断面H-H'(西から)		6. 22号住居全(西から)
	4. 6号住居1号床下土上土層断面F-F'(西から)		7. 22号住居土層断面B-B'(西から)
	5. 6号住居2号床下土上土層断面G-G'(西から)		8. 22号住居貯蔵穴土師器蓋(29)出土状態(南西から)
	6. 7号住居土層断面A-A'(南から)	PL.17	1. 22号住居貯蔵穴土層断面K-K'(西から)
	7. 7号住居掘り方全(西から)		2. 22号住居土層断面D-D'(西から)
	8. 8号住居全(南西から)		3. 22号住居全(西から)
PL. 9	1. 8号住居土層断面B-B'(南西から)		4. 22号住居P2土層断面G-G'(東から)
	2. 8号住居貯蔵穴全(南西から)		5. 22号住居掘り方土層断面H-H'(西から)
	3. 8号住居土層断面C-C'(南から)		6. 22号住居掘り方全(西から)
	4. 8号住居全(南西から)		7. 22号住居4号床下土上土層断面1-1'(東から)
	5. 8号住居掘り方土層断面C-C'(南東から)		8. 22号住居5号・6号床下土上土層断面B-B'(南西から)
	6. 8号住居掘り方土層断面D-D'(南西から)	PL.18	1. 22号住居7号床下土上土層断面A-A'(西から)
	7. 8号住居掘り方全(南西から)		2. 22号住居7号床下土上土師器杯(17)出土状態(西から)
	8. 8号住居掘り方全(南西から)		3. 22号住居9号床下土上土層断面A-A'(南から)
PL.10	1. 9号住居全(西から)		4. 22号住居9号床下土上遺物出土状態(西から)
	2. 9号住居土層断面A-A'(南から)		5. 23号住居全(西から)
	3. 9号住居須恵器蓋(3)出土状態(西から)		6. 23号住居土層断面B-B'(西から)
	4. 9号住居石製紡輪(4)出土状態(西から)		7. 23号住居土層断面D-D'(西から)
	5. 9号住居土師器杯(1)出土状態(北西から)		8. 23号住居全(西から)
	6. 9号住居土層断面D-D'(西から)	PL.19	1. 23号住居掘り方全(西から)

	2.	23号住居掘り方全景(西から)	PL-28	1.	6号溝土層断面A-A'(南東から)
	3.	24号住居全景(西から)		2.	6号溝土層断面B-B'(南東から)
	4.	24号住居土層断面B-B'(西から)		3.	7号・8号溝全景(南東から)
	5.	24号住居土層断面D-D'(西から)		4.	7号・8号溝全景(北西から)
	6.	24号住居土層断面(西から)		5.	7号溝土層断面(北西から)
	7.	24号住居P1土層断面E-E'(南東から)		6.	8号溝土層断面B-B'(南東から)
	8.	24号住居P3土層断面F-F'(北から)		7.	9号溝土層断面C-C'(南西から)
PL-20	1.	24号住居掘り方土層断面A-A'(南から)		8.	9号溝全景(南西から)
	2.	24号住居掘り方土層断面B-B'(西から)	PL-29	1.	10号・4号溝全景(南西から)
	3.	24号住居掘り方全景(西から)		2.	11号溝土層断面C-C'(南東から)
	4.	24号住居1号床下土坑土層断面G-G'(西から)		3.	11号溝全景(南東から)
	5.	24号住居2号床下土坑土層断面H-H'(東から)		4.	23号溝全景(南西から)
	6.	24号住居3号・4号床下土坑土層断面I-I'(西から)		5.	20号溝全景(東から)
	7.	24号住居6号床下土坑土層断面A-A'(西から)		6.	21号溝全景(南から)
	8.	24号住居9号床下土坑土層断面B-B'(北から)	PL-30	1.	58号土坑・15号掘立柱建物P1土層断面A-A'(南から)
PL-21	1.	24号住居11号床下土坑土層断面J-J'(南から)		2.	58号土坑全景(南東から)
	2.	24号住居12号床下土坑土層断面H-H'(東から)		3.	61号土坑全景(東から)
	3.	24号住居13号床下土坑土層断面K-K'(北から)		4.	61号土坑遠景(東から)
	4.	24号住居6号ピット土層部杯(2)出土状態(南から)		5.	37号・24号・36号土坑土層断面A-A'(西から)
	5.	24号住居7号・9号ピット全景(西から)		6.	37号土坑土層断面A-A'(西から)
	6.	24号住居7号ピット全景(南西から)		7.	2号土坑土層断面A-A'(北西から)
	7.	24号住居8号ピット全景(南西から)		8.	2号土坑全景(北西から)
	8.	24号住居9号ピット全景(南西から)		9.	8号土坑土層断面A-A'(南東から)
PL-22	1.	25号住居全景(西から)		10.	8号土坑全景(南東から)
	2.	25号住居貯蔵穴土層断面C-C'(南から)		11.	7号土坑土層断面A-A'(南西から)
	3.	25号住居貯蔵穴土層部杯(1)(北西から)		12.	7号土坑全景(南西から)
	4.	25号住居土層断面B-B'(西から)		13.	50号土坑土層断面A-A'(南から)
	5.	25号住居土層断面(西から)		14.	50号土坑全景(南から)
	6.	25号住居掘り方全景(西から)		15.	15号土坑土層断面A-A'(南西から)
	7.	25号住居掘り方全景(西から)	PL-31	1.	15号土坑全景(南西から)
	8.	26号住居土層断面A-A'(南東から)		2.	10号土坑土層断面A-A'(南西から)
PL-23	1.	26号住居土層断面B-B'(南西から)		3.	10号土坑全景(南西から)
	2.	26号住居土層断面(西から)		4.	51号土坑土層断面A-A'(西から)
	3.	26号住居掘り方全景(南西から)		5.	51号土坑全景(西から)
	4.	26号住居掘り方全景(東から)		6.	5号土坑土層断面A-A'(南東から)
	5.	27号住居全景(東から)		7.	5号土坑全景(南東から)
	6.	27号住居土層断面A-A'(南から)		8.	6号土坑土層断面A-A'(南東から)
	7.	27号住居土層断面C-C'(南西から)		9.	6号土坑全景(南東から)
	8.	27号住居土層断面(西から)		10.	9号土坑土層断面A-A'(南東から)
PL-24	1.	27号住居掘り方全景(西から)		11.	9号土坑全景(南東から)
	2.	27号住居掘り方全景(東から)		12.	16号土坑土層断面A-A'(南西から)
	3.	1号竪穴遺構土層断面(南から)		13.	16号土坑全景(南西から)
	4.	1号竪穴遺構土層断面B-B'(西から)		14.	12号土坑土層断面A-A'(南から)
	5.	2号竪穴遺構土層断面E-E'(北から)		15.	12号土坑全景(南から)
	6.	2号竪穴遺構遺物出土状態(南から)	PL-32	1.	30号土坑全景(南西から)
	7.	2号竪穴遺構掘り方全景(南から)		2.	26号土坑土層断面A-A'(北西から)
	8.	2号竪穴遺構掘り方全景(西から)		3.	26号土坑全景(北西から)
PL-25	1.	1号掘立柱建物全景(南西から)		4.	17号土坑土層断面A-A'(南西から)
	2.	3号掘立柱建物全景(南東から)		5.	17号土坑全景(南西から)
	3.	4号掘立柱建物全景(南から)		6.	45号土坑土層断面A-A'(南西から)
	4.	5号掘立柱建物全景(南から)		7.	45号土坑全景(南西から)
	5.	6号掘立柱建物全景(南西から)		8.	48号土坑土層断面A-A'(南西から)
	6.	12号掘立柱建物全景(南東から)		9.	48号土坑全景(南西から)
	7.	13号掘立柱建物全景(南西から)		10.	69号土坑土層断面A-A'(南から)
	8.	14号掘立柱建物全景(東から)		11.	69号土坑全景(南から)
PL-26	1.	15号掘立柱建物全景(東から)		12.	19号土坑土層断面A-A'(西から)
	2.	16号掘立柱建物全景(南東から)		13.	19号土坑全景(西から)
	3.	17号掘立柱建物全景(南東から)		14.	11号土坑土層断面A-A'(南西から)
	4.	6号ピット列全景(南東から)		15.	11号土坑全景(南西から)
	5.	1号ピット列全景(西から)	PL-33	1.	46号土坑土層断面A-A'(南西から)
	6.	2号ピット列全景(西から)		2.	46号土坑全景(南西から)
	7.	3号ピット列全景(南から)		3.	74号土坑土層断面A-A'(南から)
	8.	4号ピット列全景(南から)		4.	76号土坑全景(南から)
PL-27	1.	5号ピット列全景(南から)		5.	77号土坑土層断面A-A'(南から)
	2.	2区掘立柱建物群全景(北東から)		6.	77号土坑全景(南から)
	3.	1号溝全景(南西から)		7.	49号土坑土層断面A-A'(北西から)
	4.	2号溝全景(南西から)		8.	49号土坑全景(北西から)
	5.	3号溝全景(南西から)		9.	14号土坑土層断面A-A'(南西から)
	6.	3号溝土層断面D-D'・E-E'(南西から)		10.	14号土坑全景(南西から)
	7.	5号溝全景(南西から)		11.	4号土坑、3号・4号ピット土層断面A-A'(南から)
	8.	6号溝全景(南東から)		12.	4号土坑、3号・4号ピット全景(南から)

PL_34	13.	70号土坑上層断面A-A' (南から)	2.	1号掘井1号・2号湧水坑全景(東から)		
	14.	70号土坑全景(南から)	3.	1号掘井2号湧水坑全景(北から)		
	15.	20号土坑全景(南から)	4.	1号掘井3号湧水坑上層断面-F' (北から)		
	1.	78号土坑上層断面A-A' (南から)	5.	1号掘井上層断面B-B' (北東から)		
	2.	57号土坑上層断面A-A' (南東から)	6.	1号掘井上層断面A-A' (南東から)		
	3.	57号土坑全景(南から)	7.	1号掘井上層断面A-A' 西半(北西から)		
	4.	60号土坑上層断面A-A' (東から)	8.	1号掘井上層断面A-A' 東半(北西から)		
	5.	60号土坑全景(東から)	PL_40	1.	1号掘井上層断面B-B' 南半(北東から)	
	6.	13号土坑上層断面A-A' (北から)		2.	1号掘井上層断面B-B' 北半(北東から)	
	7.	13号土坑全景(北から)		3.	1号掘井遺物出土状態(南から)	
	8.	18号土坑上層断面A-A' (西から)		4.	1号掘井遺物出土状態(北から)	
	9.	18号土坑全景(西から)		5.	1号掘井調査風景(東から)	
	10.	18号土坑掘り方上層断面A-A' (西から)		6.	1号掘井1号・2号湧水坑周辺露出土状態(南から)	
	11.	68号土坑上層断面A-A' (南から)		7.	1号掘井2号湧水坑全景(南東から)	
12.	68号土坑全景(南から)	8.		1号掘井1号湧水坑全景(東から)		
13.	47号土坑上層断面A-A' (北西から)	PL_41		1.	1号掘井2号湧水坑上層断面E-E' (北西から)	
14.	47号土坑全景(北西から)			2.	1号掘井3号湧水坑上層断面-F' (南西から)	
15.	33号土坑上層断面A-A' (西から)		3.	1号掘井水路部上層断面(西から)		
PL_35	1.		33号土坑全景(西から)	4.	1号掘井水路部上層断面-C' (北東から)	
	2.		41号土坑上層断面A-A' (南東から)	5.	1号掘井掘り方全景(南から)	
	3.		41号・42号土坑全景(南東から)	6.	1号掘井1号・2号湧水坑掘り方全景(東から)	
	4.		29号土坑上層断面A-A' (南から)	7.	1号掘井掘り方全景(北から)	
	5.	29号土坑全景(南西から)	時沢西組屋谷戸遺跡			
	6.	39号土坑上層断面A-A' (北西から)	PL_42	1.	時沢西組屋谷戸遺跡から赤城山を望む(南から)	
	7.	39号土坑全景(北から)		2.	1区古代遺構群全景(西から)	
	8.	53号土坑上層断面A-A' (南西から)		3.	1区古代遺構群全景(西から)	
	9.	53号土坑全景(南西から)		4.	1区調査風景(南東から)	
	10.	71号・72号土坑上層断面A-A' (南から)	5.	2区調査風景(西から)		
	11.	71号・72号土坑全景(南から)	PL_43	1.	1号住居全景(西から)	
	12.	73号土坑上層断面A-A' (北から)		2.	1号住居上層断面B-B' (西から)	
	13.	73号土坑全景(北から)		3.	1号住居土層断面C-C' (南西から)	
	14.	34号土坑全景(北東から)		4.	1号住居遺全景(西から)	
PL_36	15.	35号土坑上層断面A-A' (西から)	5.	1号住居1号土坑上層断面E-E' (北から)		
	1.	35号土坑全景(北から)	6.	1号住居3号土坑上層断面F-F' (東から)		
	2.	62号土坑上層断面A-A' (南西から)	7.	1号住居掘り方全景(南西から)		
	3.	62号土坑全景(南東から)	8.	1号住居掘り方全景(南から)		
	4.	23号土坑上層断面A-A' (北から)	PL_44	1.	2号住居全景(西から)	
	5.	23号土坑全景(南から)		2.	2号住居上層断面B-B' (西から)	
	6.	25号土坑上層断面A-A' (南西から)		3.	2号住居土層断面C-C' 西半(南から)	
	7.	25号土坑全景(南西から)		4.	2号住居土層断面C-C' 東半(南から)	
	8.	31号土坑全景(北西から)		5.	2号住居遺全景(西から)	
	9.	28号土坑上層断面A-A' (西から)		6.	2号住居1号ビット上層断面-B' (北から)	
	10.	28号土坑全景(西から)		7.	2号住居掘り方全景(西から)	
	11.	32号土坑上層断面A-A' (北から)		8.	2号住居掘り方全景(西から)	
	PL_37	12.	32号土坑全景(北から)	PL_45	1.	3号住居全景(西から)
		13.	54号土坑上層断面A-A' (南から)		2.	3号住居上層断面B-B' (西から)
14.		54号土坑全景(南から)	3.		3号住居土層断面D-D' (南西から)	
15.		59号土坑上層断面A-A' (西から)	4.		3号住居遺全景(西から)	
1.		59号土坑全景(南西から)	5.	3号住居掘り方全景C-C' (南西から)		
2.		63号・64号土坑上層断面A-A' (南から)	6.	3号住居掘り方全景(西から)		
3.		63号・64号土坑全景(南から)	7.	4号住居全景(西から)		
4.		65号土坑上層断面A-A' (南から)	8.	4号住居上層断面B-B' (西から)		
5.		65号土坑全景(南から)	PL_46	1.	4号住居土層断面D-D' (西から)	
6.		66号・67号土坑上層断面A-A' (南から)		2.	4号住居掘り方上層断面C-C' (南から)	
7.		66号・67号土坑全景(南から)		3.	4号住居掘り方全景(西から)	
8.		3号土坑上層断面A-A' (南西から)		4.	4号住居粘土塊出土状態(西から)	
9.		3号土坑全景(西から)		5.	4号住居1号床下土坑と粘土塊(南から)	
10.		27号土坑上層断面A-A' (西から)		6.	5号住居全景(西から)	
11.	27号土坑全景(西から)	7.		5号住居上層断面A-A' (西から)		
12.	22号土坑全景(南から)	8.		5号住居3号土坑上層断面D-B' (東から)		
PL_38	13.	44号土坑上層断面A-A' (南西から)	PL_47	1.	7号住居全景(西から)	
	14.	44号土坑全景(南西から)		2.	7号住居上層断面B-B' (西から)	
	15.	52号土坑上層断面A-A' (南西から)		3.	7号住居2号土坑上層断面G-G' (南から)	
	1.	52号土坑全景(西から)		4.	7号住居土層断面D-D' (南西から)	
	2.	38号土坑上層断面A-A' (北西から)		5.	7号住居土層断面C-C' (西から)	
	3.	38号土坑全景(西から)		6.	7号住居遺全景(西から)	
	4.	40号土坑上層断面A-A' (北から)		7.	7号住居掘り方全景(西から)	
	5.	40号土坑全景(北から)	8.	7号住居掘り方全景(西から)		
	6.	1号井戸上層断面A-A' (西から)	PL_48	1.	7号住居2号ビット掘り方上層断面H-H' (西から)	
	7.	1号掘井全景(北から)		2.	7号住居2号ビット全景(南から)	
	8.	1号掘井湧水部全景(東から)		3.	8号住居全景(西から)	
	PL_39	1.	1号掘井湧水部全景(東から)			

	4.	8号住居土層断面A-A' (西から)	3.	14号住居土層断面C-C' (南西から)	
	5.	8号住居土層断面C-C' (西から)	4.	14号住居土層断面C-C' (西から)	
	6.	8号住居土層断面C-C' (西から)	5.	14号住居土層断面C-C' (西から)	
	7.	8号住居土層断面C-C' (北西から)	6.	14号住居土層断面C-C' (西から)	
	8.	8号住居土層断面C-C' (西から)	7.	14号住居1号床下土層断面E-E' (南から)	
PL-49	1.	8号住居1号・2号床下土層断面D-D' (西から)	8.	14号住居2号床下土層断面A-A' (南から)	
	2.	8号住居1号・2号床下土層断面(東から)	PL-58	1.	15号住居土層断面C-C' (西から)
	3.	9号住居遺物出土状態(西から)	2.	15号住居土層断面A-A' (北から)	
	4.	9号住居土層断面C-C' (西から)	3.	15号住居土層断面A-A' (北から)	
	5.	9号住居土層断面B-B' (西から)	4.	15号住居土層断面A-A' (北から)	
	6.	9号住居土層断面C-C' (南西から)	5.	16号住居土層断面C-C' (西から)	
	7.	9号住居土層断面C-C' (西から)	6.	16号住居土層断面B-B' (西から)	
PL-50	8.	9号住居土層断面F-F' (南から)	7.	16号住居土層断面B-B' (西から)	
	1.	9号住居P 1土層断面G-G' (南から)	8.	16号住居土層断面B-B' (西から)	
	2.	9号住居P 1土層断面G-G' (南から)	PL-59	1.	16号住居土層断面D-D' (西から)
	3.	9号住居P 4土層断面F-F' (南から)	2.	16号住居土層断面C-C' (西から)	
	4.	9号住居土層断面C-C' (西から)	3.	16号住居土層断面B-B' (西から)	
	5.	9号住居3号床下土層断面G-G' (西から)	4.	16号住居土層断面B-B' (西から)	
	6.	9号住居6号床下土層断面L-L' (南東から)	5.	16号住居1号床下土層断面E-E' (南から)	
	7.	9号住居7号床下土層断面B-B' (南から)	6.	16号住居2号床下土層断面A-A' (北から)	
	8.	9号住居9号床下土層断面A-A' (南から)	7.	17号住居土層断面C-C' (西から)	
PL-51	1.	9号住居10号床下土層断面A-A' (西から)	8.	17号住居土層断面B-B' (西から)	
	2.	9号住居5号・6号ピット土層断面(西から)	PL-60	1.	17号住居1号土層断面C-C' (東から)
	3.	9号住居土層断面C-C' (西から)	2.	17号住居2号床下土層断面E-E' (南から)	
	4.	9号住居土層断面C-C' (西から)	3.	18号住居土層断面C-C' (南から)	
	5.	10号住居土層断面C-C' (西から)	4.	18号住居土層断面C-C' (西から)	
	6.	10号住居土層断面B-B' (西から)	5.	18号住居土層断面A-A' (南から)	
	7.	10号住居遺物出土状態(北西から)	6.	18号住居1号床下土層断面A-A' (南から)	
PL-52	8.	10号住居土層断面D-D' (南西から)	7.	19号住居土層断面C-C' (西から)	
	1.	10号住居遺物出土状態(西から)	8.	19号住居土層断面B-B' (西から)	
	2.	10号住居土層断面D-D' (南西から)	PL-61	1.	19号住居土層断面C-C' (南西から)
	3.	10号住居P 1土層断面E-E' (南から)	2.	19号住居土層断面D-D' (南から)	
	4.	10号住居P 2土層断面E-E' (南から)	3.	19号住居土層断面D-D' (西から)	
	5.	10号住居土層断面C-C' (西から)	4.	19号住居土層断面C-C' (西から)	
	6.	10号住居土層断面C-C' (西から)	5.	19号住居1号土層断面E-E' (西から)	
	7.	10号住居1号床下土層断面D-D' (西から)	6.	19号住居土層断面C-C' (西から)	
PL-53	8.	10号住居2号床下土層断面D-D' (東から)	7.	19号住居1号床下土層断面B-B' (南から)	
	1.	10号住居3号床下土層断面D-D' (西から)	8.	20号住居遺物出土状態(西から)	
	2.	10号住居5号床下土層断面L-L' (北から)	PL-62	1.	20号住居土層断面B-B' (西から)
	3.	10号住居5号床下土層断面D-D' (西から)	2.	20号・22号住居土層断面C-C' (西から)	
	4.	10号住居7号床下土層断面L-L' (北から)	3.	20号住居遺物出土状態(西から)	
	5.	10号住居9号床下土層断面B-B' (西から)	4.	20号住居石製紡輪(53)出土状態(西から)	
	6.	10号住居9号床下土層断面(29)出土状態(西から)	5.	20号住居土層断面E-E' (西から)	
	7.	11号住居土層断面C-C' (南西から)	6.	20号住居土層断面C-C' (西から)	
	8.	11号住居土層断面A-A' (北西から)	7.	20号住居土層断面E-E' (南西から)	
PL-54	1.	11号住居土層断面C-C' (南東から)	8.	20号住居土層断面C-C' (西から)	
	2.	11号住居土層断面C-C' (南西から)	PL-63	1.	20号住居土層断面B-B' 北平(西から)
	3.	11号住居土層断面C-C' (南東から)	2.	20号住居土層断面B-B' 南平(西から)	
	4.	11号住居土層断面D-D' (南西から)	3.	20号住居1号床下土層断面F-F' (南から)	
	5.	11号住居土層断面C-C' (南西から)	4.	20号住居2号床下土層断面B-B' (北から)	
	6.	11号住居1号床下土層断面E-E' (南西から)	5.	20号住居3号床下土層断面B-B' (北から)	
	7.	12号住居土層断面C-C' (南から)	6.	20号住居5号床下土層断面D-D' (南東から)	
PL-55	8.	12号住居土層断面C-C' (南から)	7.	20号住居7号床下土層断面D-D' (東から)	
	1.	13号住居土層断面C-C' (南西から)	8.	20号住居9号床下土層断面D-D' (南東から)	
	2.	13号住居土層断面A-A' (南西から)	PL-64	1.	20号住居10号床下土層断面A-A' (南から)
	3.	13号住居土層断面C-C' (南西から)	2.	20号住居11号床下土層断面B-B' (北から)	
	4.	13号住居土層断面C-C' (西から)	3.	20号住居13号床下土層断面K-K' (東から)	
	5.	13号住居北西隅遺物出土状態(西から)	4.	20号住居14号床下土層断面D-D' (西から)	
	6.	13号住居土層断面C-C' (西から)	5.	20号住居15号床下土層断面N-N' (東から)	
	7.	13号住居P 2土層断面E-E' (南から)	6.	20号住居16号床下土層断面D-D' (南から)	
	8.	13号住居P 3土層断面B-B' (南から)	7.	21号住居土層断面C-C' (西から)	
PL-56	1.	13号住居土層断面C-C' (南西から)	8.	21号住居土層断面A-A' (南から)	
	2.	13号住居土層断面C-C' (西から)	PL-65	1.	21号住居土層断面C-C' (南東から)
	3.	13号住居1号土層断面B-B' (西から)	2.	21号住居土層断面D-D' (西から)	
	4.	13号住居2号床下土層断面I-I' (南から)	3.	21号住居土層断面C-C' (南西から)	
	5.	13号住居3号床下土層断面D-D' (南から)	4.	21号住居土層断面C-C' (西から)	
	6.	13号住居4号床下土層断面K-K' (東から)	5.	21号住居1号床下土層断面E-E' (南から)	
	7.	14号住居土層断面C-C' (西から)	6.	21号住居2号床下土層断面F-F' (西から)	
	8.	14号住居土層断面C-C' (西から)	7.	21号住居3号床下土層断面G-G' (南西から)	
PL-57	1.	14号住居土層断面C-C' (南から)	8.	22号住居土層断面C-C' (西から)	
	2.	14号住居土層断面C-C' (南から)	PL-66	1.	22号住居土層断面B-B' (西から)

	2. 22号住居土層断面E-E' (西から)	PL.75	1. 3号型穴状遺構全景(南から)
	3. 22号住居1号・2号電線(西から)		2. 3号型穴状遺構土層断面A-A' (南から)
	4. 22号住居1号電線上方土層断面E-E' (南から)		3. 3号型穴状遺構土層断面B-B' (南西から)
	5. 22号住居2号電線上方土層断面E-E' (南から)		4. 3号型穴状遺構土面全景(南から)
	6. 22号住居掘り方全景(西から)		5. 3号型穴状遺構土面土層断面B-B' (南西から)
	7. 22号住居1号床下土坑土層断面A-A' (南から)		6. 3号型穴状遺構土面土層断面B-B'北端(南西から)
	8. 22号住居2号床下土坑土層断面G-C' (南西から)		7. 3号型穴状遺構土面土層断面A-A'西端(南から)
PL.67	1. 22号住居3号床下土坑土層断面B-B' (南から)		8. 3号型穴状遺構土面遺構蓋(1)出土状態(東から)
	2. 22号住居4号床下土坑踏躰(10)出土状態(南から)	PL.76	1. 掘立柱建物群全景(南西から)
	3. 22号住居1号ビット掘り方土層断面J-J' (東から)		2. 掘立柱建物群全景(南東から)
	4. 22号住居2号ビット掘り方土層断面K-K' (南から)		3. 掘立柱建物群全景(北東から)
	5. 23号住居全景(西から)		4. 8号掘立柱建物P4土層断面A-A' (南から)
	6. 23号住居土層断面B-B' (西から)		5. 1号掘立柱建物全景(南から)
	7. 23号住居須恵器遺(5)出土状態(北東から)		6. 2号掘立柱建物全景(南から)
PL.68	8. 23号住居不明鉄製品(14)出土状態(南西から)		7. 3号掘立柱建物全景(南から)
	1. 23号住居土層断面C-C' (南西から)		8. 4号掘立柱建物全景(南から)
	2. 23号住居電線(西から)	PL.77	1. 5号掘立柱建物全景(南から)
	3. 23号住居電線上方土層断面C-C' (南西から)		2. 8号掘立柱建物全景(南から)
	4. 23号・24号住居掘り方全景(西から)	PL.78	1. 8号掘立柱建物全景(南から)
	5. 24号住居全景(西から)		2. 6号掘立柱建物全景(東から)
	6. 24号住居土層断面B-B' (西から)		3. 7号掘立柱建物全景(南から)
	7. 24号住居貯蔵穴土層断面E-E' (北から)		4. 9号掘立柱建物全景(西から)
	8. 24号住居土層断面D-D' (西から)		5. 1号・2号溝土層断面A-A' (南から)
PL.69	1. 24号住居電線全景(西から)		6. 1号・2号溝全景(南から)
	2. 24号住居電線上方全景(西から)		7. 3号溝土層断面C-C' (南から)
	3. 24号住居掘り方全景(西から)		8. 5号溝土層断面A-A' (南西から)
	4. 24号住居1号床下土坑土層断面G-C' (西から)	PL.79	1. 5号溝全景(南から)
	5. 24号住居2号床下土坑土層断面B-B' (北から)		2. 5号溝土層断面B-B' (南西から)
	6. 24号住居3号床下土坑土層断面B-B' (北から)		3. 5号溝土層断面C-C' (西から)
	7. 25号住居全景(西から)		4. 5号溝全景(南西から)
	8. 25号住居土層断面B-B' (西から)		5. 5号溝・7号土坑土層断面A-A' (西から)
PL.70	1. 25号住居土層断面D-D' (西から)		6. 7号溝土層断面A-A' (南から)
	2. 25号住居電線全景(西から)		7. 10号溝土層断面(南東から)
	3. 25号住居電線上方土層断面C-C' (南西から)	PL.80	1. 61号土坑土層断面(南西から)
	4. 26号住居全景(西から)		2. 61号土坑土層断面(南西から)
	5. 26号住居土層断面B-B' (西から)		3. 62号土坑土層断面(南西から)
	6. 26号住居石製紡輪(16)出土状態(南から)		4. 62号土坑全景(南西から)
	7. 26号住居土層断面D-D' (西から)		5. 74号土坑全景(北西から)
	8. 26号住居電線全景(西から)		6. 16号土坑土層断面A-A' (南から)
PL.71	1. 26号住居電線上方土層断面(南から)		7. 16号土坑全景(南から)
	2. 26号住居電線掘り方全景(西から)		8. 54号土坑土層断面A-A' (南から)
	3. 26号住居掘り方全景(南西から)		9. 54号土坑全景(南西から)
	4. 26号住居掘り方土層断面B-B' (南西から)		10. 63号土坑土層断面A-A' (南西から)
	5. 26号住居掘り方全景(西から)		11. 63号土坑全景(南西から)
	6. 26号住居1号床下土坑土層断面E-E' (西から)		12. 93号土坑土層断面A-A' (西から)
	7. 26号住居2号床下土坑土層断面B-B' (西から)		13. 93号土坑全景(北西から)
	8. 26号住居2号床下土坑土器(1・7)出土状態(西から)		14. 34号土坑土層断面A-A' (南から)
PL.72	1. 26号住居3号床下土坑土層断面A-A' (南から)		15. 34号土坑全景(南から)
	2. 26号住居3号床下土坑築器器杯(6)出土状態(西から)	PL.81	1. 59号土坑土層断面A-A' (西から)
	3. 26号住居4号床下土坑土層断面G-C' (南から)		2. 59号土坑全景(東から)
	4. 26号住居4号床下土坑築器器杯(8)出土状態(南から)		3. 50号土坑土層断面A-A' (南東から)
	5. 26号住居6号床下土坑土層断面I-I' (北東から)		4. 50号土坑全景(南から)
	6. 26号住居7号床下土坑土層断面D-D' (北西から)		5. 53号土坑土層断面A-A' (南から)
	7. 26号住居8号床下土坑土層断面B-B' (西から)		6. 53号土坑全景(南西から)
	8. 27号住居全景(西から)		7. 56号土坑土層断面A-A' (南西から)
PL.73	1. 27号住居土層断面B-B' (西から)		8. 44号・45号土坑土層断面A-A' (北西から)
	2. 27号住居北平土器出土状態(西から)		9. 44号・45号土坑全景(北西から)
	3. 27号住居土層断面C-C' (南から)		10. 60号土坑土層断面A-A' (南から)
	4. 27号住居電線全景(西から)		11. 60号土坑全景(南から)
	5. 27号住居電線掘り方全景(西から)		12. 40号土坑土層断面A-A' (南から)
	6. 27号住居電線掘り方全景(西から)		13. 40号土坑全景(南から)
	7. 27号住居1号土坑土層断面E-E' (西から)		14. 15号土坑土層断面A-A' (南から)
	8. 27号住居1号土坑全景(西から)		15. 15号土坑全景(南から)
PL.74	1. 1号井戸土層断面A-A' (南から)	PL.82	1. 35号土坑土層断面A-A' (南から)
	2. 1号井戸全景(南から)		2. 35号土坑全景(南から)
	3. 1号型穴状遺構全景(北から)		3. 37号土坑土層断面A-A' (南西から)
	4. 1号型穴状遺構土層断面A-A' (北から)		4. 37号土坑全景(南西から)
	5. 1号型穴状遺構土層断面B-B' (東から)		5. 52号土坑土層断面A-A' (南から)
	6. 1号型穴状遺構土層断面C-C' (南東から)		6. 52号土坑全景(南西から)
	7. 2号型穴状遺構全景(南から)		7. 39号土坑土層断面A-A' (南から)
	8. 2号型穴状遺構土層断面A-A' (南から)		8. 39号土坑全景(南から)

	9.	42号土坑上層断面A-A' (南西から)		5.	83号土坑全景(南から)
	10.	42号土坑全景(南西から)		6.	91号土坑上層断面A-A' (西から)
	11.	51号土坑上層断面A-A' (南から)		7.	91号・92号土坑全景(西から)
	12.	51号土坑全景(南西から)		8.	25号土坑上層断面A-A' (南から)
	13.	58号土坑上層断面A-A' (東から)		9.	25号土坑全景(東から)
	14.	58号土坑全景(南から)		10.	38号土坑上層断面A-A' (南から)
	15.	41号土坑上層断面A-A' (南から)		11.	38号土坑全景(南から)
PL_83	1.	41号土坑全景(南から)		12.	68号土坑上層断面A-A' (南東から)
	2.	43号土坑上層断面A-A' (南から)		13.	68号土坑全景(東から)
	3.	43号土坑全景(南から)		14.	69号土坑上層断面A-A' (南西から)
	4.	73号土坑上層断面A-A' (南西から)	PL_88	15.	57号土坑上層断面A-A' (南東から)
	5.	73号土坑全景(南西から)		1.	57号土坑全景(南東から)
	6.	55号土坑上層断面A-A' (南から)		2.	4号土坑上層断面A-A' (西から)
	7.	55号土坑全景(南西から)		3.	11号土坑上層断面A-A' (南西から)
	8.	1号土坑上層断面A-A' (南西から)		4.	11号土坑全景(南西から)
	9.	1号土坑全景(南西から)		5.	6号土坑上層断面A-A' (南から)
	10.	36号土坑上層断面A-A' (南から)		6.	6号土坑全景(南東から)
	11.	36号土坑全景(南から)		7.	10号独立柱建物P 6土層断面A-A' (北西から)
	12.	64号土坑上層断面A-A' (南から)		8.	10号独立柱建物P 6全景(西から)
	13.	64号土坑全景(南から)		9.	22号土坑上層断面A-A' (南から)
	14.	66号土坑上層断面A-A' (南西から)		10.	22号土坑全景(南から)
	15.	66号土坑全景(南西から)		11.	28号土坑上層断面A-A' (北から)
PL_84	1.	26号土坑上層断面A-A' (南西から)		12.	28号土坑全景(北から)
	2.	26号土坑全景(南西から)		13.	29号土坑上層断面A-A' (東から)
	3.	75号土坑上層断面A-A' (南西から)		14.	29号土坑全景(東から)
	4.	75号土坑全景(南から)		15.	30号土坑上層断面A-A' (南から)
	5.	75号土坑全景(南から)	PL_89	1.	30号土坑全景(西から)
	6.	70号～72号土坑上層断面A-A' (西から)		2.	31号土坑全景(南から)
	7.	70号～72号土坑上層断面A-A' (南から)		3.	65号土坑上層断面A-A' (南東から)
	8.	70号土坑全景(南から)		4.	65号土坑全景(南東から)
	9.	71号土坑上層断面A-A' (南から)		5.	77号土坑・34号ビット上層断面A-A' (西から)
	10.	71号土坑全景(南東から)		6.	84号・94号土坑上層断面A-A' (南西から)
	11.	72号土坑全景(南東から)		7.	84号・94号土坑全景(西から)
	12.	80号土坑上層断面A-A' (西から)		8.	8号土坑全景(西から)
	13.	80号土坑全景(西から)		9.	10号独立柱建物P 3土層断面A-A' (南から)
	14.	81号土坑上層断面A-A' (西から)		10.	10号独立柱建物P 3全景(南から)
	15.	81号土坑全景(西から)		11.	13号土坑上層断面A-A' (南西から)
PL_85	1.	81号土坑底面炭層(西から)		12.	13号土坑全景(南から)
	2.	81号土坑炭層断面(南西から)		13.	21号土坑上層断面A-A' (南から)
	3.	82号土坑全景(西から)		14.	21号土坑全景(南から)
	4.	5号土坑上層断面A-A' (南東から)		15.	27号土坑上層断面A-A' (南から)
	5.	5号土坑全景(南東から)	PL_90	1.	46号土坑全景(北西から)
	6.	33号土坑上層断面A-A' (北から)		2.	47号土坑上層断面A-A' (南東から)
	7.	33号土坑全景(北から)		3.	47号土坑全景(南東から)
	8.	18号土坑上層断面A-A' (南西から)		4.	47号土坑遺物出土状態(南から)
	9.	14号土坑上層断面A-A' (南から)		5.	47号土坑遺物出土状態(東から)
	10.	14号土坑全景(南から)		6.	2区遺構調査風景(南から)
	11.	17号土坑上層断面A-A' (西から)		7.	ビット群全景(南から)
	12.	17号土坑全景(南から)		8.	ビット群全景(南西から)
	13.	20号土坑上層断面A-A' (北西から)		9.	ビット群全景(南から)
	14.	20号土坑全景(北西から)		10.	ビット群全景(南から)
PL_86	15.	24号土坑・1号独立柱建物P 8土層断面A-A' (西から)	PL_91	1.	21号ビット全量遺物出土状態(南から)
	1.	24号土坑・1号独立柱建物P 8全景(西から)		2.	22号ビット全量土師器(4)須恵器(5)出土状態全景(南西から)
	2.	67号土坑全景(東から)		3.	85号ビット遺物出土状態全景(南から)
	3.	76号土坑上層断面A-A' (南から)		4.	302号ビット遺物出土状態全景(東から)
	4.	86号土坑上層断面A-A' (南から)		5.	11号独立柱建物P 4土層断面A-A' (南から)
	5.	86号土坑全景(南東から)		6.	11号独立柱建物P 6土層断面A-A' (西から)
	6.	87号土坑全景(南東から)		7.	11号独立柱建物P 3土層断面A-A' (北東から)
	7.	88号土坑上層断面A-A' (東から)		8.	11号独立柱建物P 1土層断面A-A' (南から)
	8.	88号土坑全景(南東から)		9.	11号独立柱建物P 7土層断面A-A' (南から)
	9.	84号・94号土坑上層断面A-A' (南西から)		10.	11号独立柱建物P 2全景(南から)
	10.	78号土坑全景(西から)		11.	11号独立柱建物P 5全景(南から)
	11.	79号土坑上層断面A-A' (西から)		12.	1号魚全景(南から)
	12.	79号土坑全景(西から)			
	13.	85号土坑上層断面A-A' (南から)	PL_92	1.	無名沢調査前風景(南西から)
	14.	85号土坑全景(南東から)		2.	無名沢トレンチ調査風景(北西から)
	15.	3号土坑上層断面A-A' (南から)		3.	無名沢調査風景(西から)
PL_87	1.	3号土坑全景(南から)		4.	無名沢調査風景(西から)
	2.	9号土坑上層断面A-A' (西から)		5.	無名沢Aトレンチ1面全景(西から)
	3.	9号土坑全景(西から)		6.	無名沢Aトレンチ2面全景(西から)
	4.	83号土坑上層断面A-A' (南から)		7.	無名沢Aトレンチ3面全景(西から)

8.	無名沢Aトレンチ3面上層断面A-A' (北東から)	3.	1号道路(上町)上層断面0-0' (南から)
PL-93	1. 無名沢Aトレンチ3面上層断面A-A' (南東から)	4.	1号道路(上町)上層断面P-P' 西半(南から)
	2. 無名沢Bトレンチ全長(南から)	5.	1号道路(上町)上層断面P-P' 東半(南から)
	3. 無名沢Bトレンチ全長(南西から)	6.	1号道路(上町)上層断面Q-Q' (南東から)
	4. 無名沢Bトレンチ上層断面A-A' (北から)	7.	1号道路(上町)下位79号土坑上層断面Q-Q' (南西から)
	5. 無名沢Cトレンチ全長(南西から)	8.	1号道路(上町)上層断面R-R' (北から)
	6. 無名沢Cトレンチ6号溝上層断面A-A' (南から)	PL-100	1. 1号道路(時沢西組屋谷戸)43区C-B8グリッド露出上状態(西から)
	7. 無名沢Cトレンチ上層断面A-A' 西半(南から)		2. 1号道路(上町)4区C7-B8グリッド遺物出土状態(北から)
	8. 無名沢Cトレンチ上層断面A-A' 東半(南から)		3. 1号道路(時沢西組屋谷戸)中央A掘り込み全長(南から)
上町・時沢西組屋谷戸道路			4. 1号道路(上町)西部B掘り込み全長(北から)
PL-94	1. 時沢西組屋谷戸道路15号溝全長(南から)		5. 1号道路(時沢西組屋谷戸)底面と上層断面A-B (南から)
	2. 時沢西組屋谷戸道路15号溝上層断面A-A' (南から)		6. 1号道路(時沢西組屋谷戸)底面と上層断面C-D (南から)
	3. 時沢西組屋谷戸道路15号溝上層断面B-B' (南から)		7. 1号道路(時沢西組屋谷戸)底面と上層断面D (南から)
	4. 上町道路14号溝全長(南から)		8. 1号道路(時沢西組屋谷戸)底面と上層断面F-G (南から)
	5. 上町道路14号溝上層断面A-A' (南から)	PL-101	上町道路4号・5号住居出土遺物
	6. 上町道路15号溝上層断面B-B' (南から)	PL-102	上町道路5号・6号・8号・9号・12号住居出土遺物
PL-95	1. 1号道路(時沢西組屋谷戸)全長(南から)	PL-103	上町道路13号・19号・20号・21号・23号住居出土遺物
	2. 1号道路(上町)全長(南から)	PL-104	上町道路22号・24号住居出土遺物
PL-96	1. 1号道路(上町)全長(東から)	PL-105	上町道路25号・26号・27号住居、1号・2号整穴状遺構、4号ビット、14号掘立柱建物出土遺物
	2. 1号道路(上町)全長(北から)	PL-106	上町道路1号・2号・4号・7号溝、1号掘井出土遺物
	3. 1号道路(時沢西組屋谷戸)全長(北から)	PL-107	上町道路1号掘井出土遺物
	4. 1号道路(時沢西組屋谷戸)上層断面A-A' (南から)	PL-108	上町道路1号掘井、遺構外出土遺物
	5. 1号道路(時沢西組屋谷戸)上層断面B-B' (南から)	PL-109	時沢西組屋谷戸道路1号・2号・3号・5号住居出土遺物
PL-97	1. 1号道路(時沢西組屋谷戸)上層断面C-C' (南から)	PL-110	時沢西組屋谷戸道路4号・7号住居出土遺物
	2. 1号道路(時沢西組屋谷戸)上層断面D-D' (南から)	PL-111	時沢西組屋谷戸道路7号・8号住居出土遺物
	3. 1号道路(時沢西組屋谷戸)上層断面E-E' (南から)	PL-112	時沢西組屋谷戸道路9号住居出土遺物
	4. 1号道路(時沢西組屋谷戸)上層断面F-F' (南から)	PL-113	時沢西組屋谷戸道路8号・10号住居出土遺物
	5. 1号道路(上町)上層断面I-I' 西半(南から)	PL-114	時沢西組屋谷戸道路13号、14号住居出土遺物
	6. 1号道路(上町)上層断面I-I' 東半(南から)	PL-115	時沢西組屋谷戸道路24号、17号住居出土遺物
	7. 1号道路(上町)上層断面J-J' (南から)	PL-116	時沢西組屋谷戸道路18号、19号、20号住居出土遺物
	8. 1号道路(上町)調査風景(南から)	PL-117	時沢西組屋谷戸道路20号住居出土遺物
PL-98	1. 1号道路(上町)上層断面J-J' 西半(南から)	PL-118	時沢西組屋谷戸道路20号・21号住居出土遺物
	2. 1号道路(上町)上層断面J-J' 東半(南から)	PL-119	時沢西組屋谷戸道路22号・23号住居出土遺物
	3. 1号道路(上町)上層断面K-K' 中央西半(南から)	PL-120	時沢西組屋谷戸道路24号・25号・26号住居出土遺物
	4. 1号道路(上町)上層断面K-K' 中央東半(南から)	PL-121	時沢西組屋谷戸道路27号住居、3号整穴状遺構、7号掘立柱建物、5号〜7号・11号溝出土遺物
	5. 1号道路(上町)上層断面K-K' 東端(南から)	PL-122	時沢西組屋谷戸道路14号、15号溝出土遺物
	6. 1号道路(上町)上層断面L-L' (南から)	PL-123	時沢西組屋谷戸道路14号、15号溝出土遺物
	7. 1号道路(上町)上層断面M-M' (南から)	PL-124	上町・時沢西組屋谷戸道路1号道路出土遺物
PL-99	1. 1号道路(上町)上層断面N-N' 西半(南から)		
	2. 1号道路(上町)上層断面N-N' 東半(南から)		

表 目 次

第1表	上武道路8工区調査道路一覧表	214
第2表	上町・時沢西組屋谷戸道路遺構番号変更一覧表	215
第3表	上町・時沢西組屋谷戸道路道路周辺の道路一覧表	216
第4表	上町道路1号掘立柱建物柱穴計測表	216
第5表	上町道路3号掘立柱建物柱穴計測表	219
第6表	上町道路4号掘立柱建物柱穴計測表	221
第7表	上町道路5号掘立柱建物柱穴計測表	221
第8表	上町道路6号掘立柱建物柱穴計測表	223
第9表	上町道路12号掘立柱建物柱穴計測表	224
第10表	上町道路13号掘立柱建物柱穴計測表	225
第11表	上町道路14号掘立柱建物柱穴計測表	293
第12表	上町道路15号掘立柱建物柱穴計測表	293
第13表	上町道路16号掘立柱建物柱穴計測表	293
第14表	上町道路17号掘立柱建物柱穴計測表	293
第15表	上町道路1号ビット列計測表	295
第16表	上町道路2号ビット列計測表	301
第17表	上町道路3号ビット列計測表	307
第18表	上町道路4号ビット列計測表	311
第19表	上町道路5号ビット列計測表	325
第20表	上町道路6号ビット列計測表	359
第21表	時沢西組屋谷戸道路1号掘立柱建物柱穴計測表	214
第22表	時沢西組屋谷戸道路3号掘立柱建物柱穴計測表	215
第23表	時沢西組屋谷戸道路4号掘立柱建物柱穴計測表	216
第24表	時沢西組屋谷戸道路5号掘立柱建物柱穴計測表	216
第25表	時沢西組屋谷戸道路6号掘立柱建物柱穴計測表	219
第26表	時沢西組屋谷戸道路7号掘立柱建物柱穴計測表	221
第27表	時沢西組屋谷戸道路8号掘立柱建物柱穴計測表	221
第28表	時沢西組屋谷戸道路9号掘立柱建物柱穴計測表	223
第29表	時沢西組屋谷戸道路10号掘立柱建物柱穴計測表	224
第30表	時沢西組屋谷戸道路11号掘立柱建物柱穴計測表	225
第31表	テフラ検出分析結果	293
第32表	火山ガラス比分析結果	293
第33表	重金属組成分析結果	293
第34表	屈折率測定結果	293
第35表	プラント・オパール分析結果	295
第36表	時期別の遺構の特徴と出土遺物	301
第37表	当事業団調査の埋填・取掘資料一覧表	307
	遺構一覧表	311
	遺物観察表	325
	非掲載遺物集計表	359

第1章 調査に至る経過

第1節 上武道路について

上武道路は一般国道17号の交通混雑に対応するために計画された大規模バイパスで、埼玉県熊谷市で深谷バイパスから分岐、群馬県前橋市田口町で現道に接続する延長40.5kmの道路である。現道の西には、前橋洗川バイパス、その先には鯉沢バイパス、また計画では上信自動車道が続いて、県北西部の新たな交通幹線網整備事業として期待されている。平成10年には、前橋洗川バイパスを含めて地域高規格道路「熊谷洗川連絡道路」として計画路線の指定を受け、群馬県では『幹線交通乗り入れ30分構想』の中で主要幹線のひとつに位置づけられている。

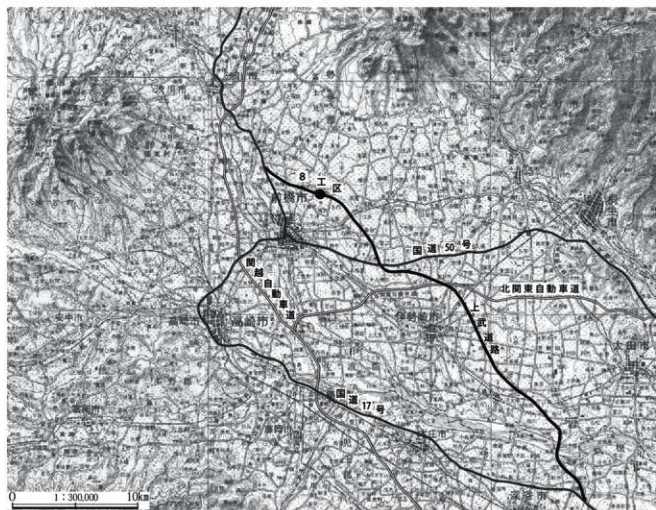
上武道路の建設事業は、昭和45年度から着手され、平成4年2月までには起点から国道50号までの延長27.4km

区間が供用された。その後、供用区間が延伸するとともに交通量は増大し、平成元年度に着手された国道50号から前橋市上泉町までの4.9km区間(7工区)が、平成20年6月に暫定2車線で供用された。

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)が対象とする8工区は、平成17年度に事業が着手され、平成24年度に主要地方道前橋赤城線までの4.7km区間の暫定開通を果たし、全線開通までの最終3.5km区間の発掘調査と工事が進められている。

第2節 上武道路と埋蔵文化財

上武道路が通過する地域は、群馬県内でも有数の埋蔵文化財包蔵地の多い地域である。群馬県は、昭和48年に



第1図 上武道路と道跡の位置 国土地理院発行1/200000地勢図「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用

文化財保護室を文化財保護課に拡充して調査にあたり、昭和53年度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（現公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）が調査事業を受託して、現在に至っている。

上武道路の建設事業は起点側から段階的に進められてきた。その工程は概ね①埼玉県境から国道50号まで、②国道50号から前橋市上泉町まで、③前橋市上泉町から前橋市田口町の現国道17号までの3つの区間に分けることができ、現在は③の中程まで供用が開始されている。

埼玉県境から国道50号までの区間では、35箇所の遺跡の発掘調査が行われ、調査の成果は26冊の発掘調査報告書として刊行されている。この区間の事業が完了した平成7年には、埋蔵文化財調査の成果をより広く公開するため、冊子総集編「地域をつなぐ 未来へつなぐ—上武道路埋蔵文化財22年の軌跡—」が刊行された。この総集編では、「弥生時代の開拓者」といった平野部での発掘調査や「芳郷」の墨書土器出土で話題となった古代勢多郡の芳賀郷、東山道駅路のひとつにも推定されていた「あずま道」など、この地域の歴史的課題に対する検討の結果がまとめられており、今後取り組むべき考古学的課題も特記されている。

国道50号から前橋市上泉町までは7工区にあたる。ここでは17箇所の遺跡が発掘調査の対象となり、16冊の発掘調査報告書が刊行されている。この区間の発掘調査では、荒砥川の東で検出された古墳時代の集落が周辺の今井神社古墳や大室古墳群の築造と関連する可能性があること、荒砥前田Ⅱ遺跡では県内でも希少な巴形銅器破片が出土したこと、女船の調査では浅間粕川テフラが確認されたことで開削年代を特定する手掛かりが得られたこと等が成果としてあげられている。荒砥川の西では、帯状低地に分断された台地ごとに縄文時代前期の集落が立地し、旧石器時代の遺物も暗色帯および上位の複数の土層から出土したこと等が注目されている。

前橋市上泉町から現国道17号までは8工区にあたり、31箇所の遺跡、約40万㎡が埋蔵文化財の調査対象となっている。工区名称は県道前橋赤城線を境界にして東が8-1工区、西が8-2工区と呼ばれている。調査は、平成18年度に8-1工区の東端から始められ、工事工程との調整により、平成23年度からは8-2工区の西端である終点の田口下田尻遺跡の調査も開始された。

8-1工区は、これまでと同様に旧石器時代や縄文時代の遺構・遺物が多いのに対して、8-2工区では縄文時代より新しい遺跡の存在が徐々に明らかになっている。遺跡の実態が未知数であった赤城白川流域の白川扇状地では、予想外の縄文時代の埋没谷や旧石器まで含まれていることが判明している。特に最西端の田口下田尻遺跡では整穴住居280棟が検出された大集落が調査され、従来の広瀬川低地帯の遺跡分布の理解を見直す資料が得られている。

これまで、群馬県内の上武道路関連で発掘調査を実施してきた遺跡には、J Kを冠した遺跡略号が付されている。Jが上武、Kが国道を指しており、南側の起点から順次算用数字を1から付している。8工区も、7工区の最終番号J K52に続けて、この略号を記録類作成に際して使用している。J K52だけは、上泉唐ノ堀遺跡が供用部分の関係で7工区と8工区で分割されたことから、8工区分の上泉唐ノ堀遺跡にはJ K52bをつけて7工区と区別している。また、J K59烏取塚田遺跡は、水田遺構の存在が想定されていたが、試掘調査で遺構の無いことが判明し、発掘調査対象から除外したものの略号は欠番とせず、そのままとした。（第1表）また、当初関根遺跡群で一括されていた遺跡が田口下田尻遺跡、関根細ヶ沢遺跡、関根赤城遺跡に細分されたこと、平成23年度に開始された田口下田尻遺跡を先行して82としたことから、関根細ヶ沢遺跡は81a、関根赤城遺跡は81bとした。

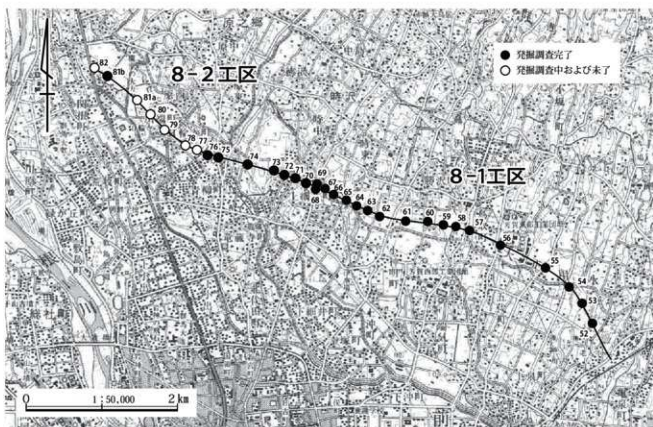
第3節 調査に至る経過

上武道路7工区の発掘調査は、上泉唐ノ堀遺跡を最後に平成16年度末で終了した。その後の工事は順調で、県道前橋大胡線までの供用が間近に迫っていた。さらに同16年度には、国道17号の現道から西の前橋渋川バイパスが着工されたことから、8工区は、開通部分と前橋渋川バイパスとの間に残された格好となり、早期着工を待ち望む声一段と強まった。

8工区が建設に向けて動いたのは、平成18年度に入ってからである。国土交通省による路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が起点側から始まった。これまでの調査状況からみて、埋蔵文化財が用地内にあることは明確であったこ

第1表 上武道路8工区調査遺跡一覧表

JKNb	遺跡名	所在地	市町村 遺跡番号	調査年度	報告書 刊行年度
52b	上原唐ノ堀遺跡	前橋市 上原町	00774	平成18・19・20年度	平成23年度
53	上原新田塚遺跡群	前橋市 上原町	00775	平成18・19・20年度	平成23年度
54	上原武田遺跡	前橋市 上原町	00773	平成19年度	平成24年度
55	五代砂留遺跡群	前橋市 五代町	00772	平成19年度	平成23年度
56	芳賀東部空地遺跡	前橋市 五代町・鳥取町	00357	平成18・19・20年度	平成24年度
57	鳥取松合下遺跡	前橋市 鳥取町	00776	平成20年度	平成23年度
58	那城遺跡	前橋市 鳥取町	00041	平成19・20・21年度	
59	鳥取塚田遺跡	前橋市 勝沢町		調査除外	
60	塚遺跡	前橋市 勝沢町	00034	平成20年度	平成24年度
61	小神明唐沢墳遺跡	前橋市 小神明町	00778	平成20年度	
62	小神明富士塚遺跡	前橋市 小神明町・上細井町	00403	平成20・21年度	平成23年度
63	東田之口遺跡	前橋市 上細井町	00125	平成20年度	平成23年度
64	丑子遺跡	前橋市 上細井町	00134	平成20年度	平成24年度
65	上細井五十嵐遺跡	前橋市 上細井町	00777	平成20・21年度	平成24年度
66	天王・東組屋谷ノ遺跡	前橋市 上細井町	00131	平成20・21年度	
67		前橋市 富士見町	90094	平成20・21年度	
68		前橋市 上細井町	00798	平成21年度	
69	上町・時沢西組屋谷ノ遺跡	前橋市 富士見町	90097	平成21年度	平成24年度
70	王久保遺跡	前橋市 上細井町・富士見町	00794	平成21・24年度	平成24年度
71	新田上遺跡	前橋市 上細井町	00128	平成24年度	
72	上細井中島遺跡	前橋市 上細井町	00787	平成21・24年度	
73	上細井御山遺跡	前橋市 上細井町	00786	平成21・24年度	平成24年度
74	山王・塚遺跡群	前橋市 青柳町	00795	平成21・22・23・24年度	
75	引切塚遺跡	前橋市 青柳町	00434	平成24年度	
76	青柳塚上遺跡	前橋市 青柳町	00325	平成24年度	
77	日輪寺諏訪前遺跡	前橋市 日輪寺町		調査除外	
78	諏訪遺跡	前橋市 日輪寺町	00144	調査除外	
79	川俣根岸遺跡	前橋市 川俣町	00807	平成24年度	
80	川俣山下(道東)遺跡	前橋市 川俣町	00808	平成24年度	
81a	関根縮ヶ沢遺跡	前橋市 関根町	00802	平成24年度	
81b	関根赤城遺跡	前橋市 関根町	00803	平成24年度	
82	田口下田尻遺跡	前橋市 田口町	00804	平成23年度	



第2図 上武道路8工区の道跡 国土地理院1/50000地形図「前橋」平成10年発行を使用

とから、埋蔵文化財の発掘調査を実施するための調整がおこなわれた。

埋蔵文化財の発掘調査について実施に向けての協議が、国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で行われ、平成18年2月16日付で「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の実施に関する協定書」(以下、「協定書」という)が三者の間で締結された。これによって、群馬県教育委員会の調整を経て、埋蔵文化財の発掘調査を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなった。

協定書では、協定の適用区間、発掘調査の実施場所・対象面積が示され、平成18年10月1日～平成29年3月31日に発掘調査を完了させることが明記された。なお、「協定書」は、平成18年6月20日付で、調査期間の開始を3ヶ月前倒しとする変更のための「変更協定書」が締結されて、現在に至っている。この「変更協定書」に基づいて、平成18年7月から東端の上京唐ノ堀遺跡・上京新田塚遺跡群の発掘調査が開始された。

また、各遺跡が発掘調査に入る前には、調査範囲と調査面積の確定、調査期間や経費算定のため、群馬県教育委員会文化財保護課により、平成18年4月25・26日、同年5月17・18日、同年8月11日、同年12月5～7日、平成19年8月16～27日、同年12月10～14日、平成21年1月6日～8日、同年4月20日～5月7日、同年9月25～29日、平成22年12月6～20日、平成23年5月12日、同年8月22日～24日、同年10月18日、の13回(23年度末現在)にわたって、8工区の試掘調査が実施された。

前橋市上細井町、旧富士見村時沢地内の試掘調査は、群馬県教育委員会文化財保護課によって、平成19年12月10日と14日に実施された。調査は、延長500mほどの調査対象地内に、幅1mの試掘トレンチ10か所を設定し、遺構検出面の認定、遺構の有無確認、遺物出土の確認が実施された。このうちトレンチ6で遺構・遺物が検出されなかったが、他のトレンチでは遺構が確認され、本調査が必要とされた。

上町・時沢西組屋谷戸遺跡では試掘トレンチは設定されなかったが、「隣接地で富士見村教育委員会が調査を行い、平安時代の集落を確認していることから、路線内にも集落が広がっていることが想定される」として本調

査の必要があると判断された。

この試掘結果と平成18年2月16日付で国土交通省関東地方整備局長、群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の三者で締結した「協定書」の定めるところによって、平成22年度に本調査が実施されることとなり、平成21年2月25日付けで群馬県教育委員会教育長(文化財保護課)から当事業団へ上町・時沢西組屋谷戸遺跡ほか3遺跡の発掘調査の依頼が出された。

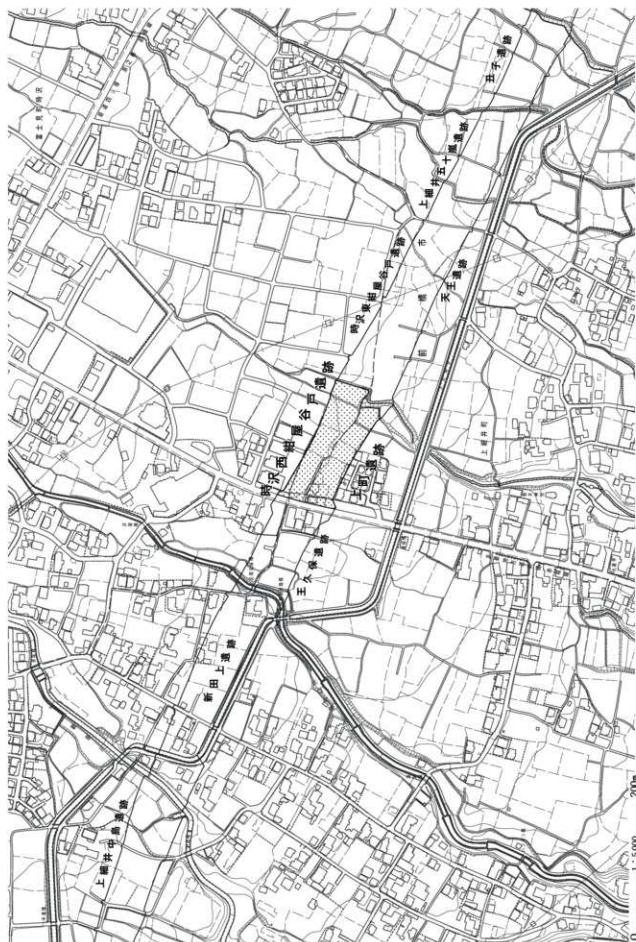
これを受けて、平成21年6月1日付で、国土交通省関東地方整備局長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間に発掘調査の委託契約が締結され、当事業団が上町・時沢西組屋谷戸遺跡、上細井中島遺跡、上細井山遺跡、山王・柴遺跡の本調査を実施することとなった。当初契約では調査期間は平成21年7月1日～平成22年3月31日、契約の履行期間は平成21年6月1日～平成22年3月31日であった。

発掘調査は、平成22年7月1日から開始された。上町・時沢西組屋谷戸遺跡の発掘対象地は、西側は主要地方道前橋赤城線、東側は無名沢で区切られた部分である。西側は主要地方道前橋赤城線を隔てて王久保遺跡と、東側は無名沢を隔てて天王・東組屋谷戸遺跡と接している。

調査の進行に伴って、全体の調査対象面積が減少したため、新規に王久保遺跡を調査対象に加える変更契約を平成21年12月1日に締結した。さらに、用地買収の完了した小神明富士塚遺跡を速やかに調査対象に加える第2回変更契約を平成22年2月16日付で締結した。

契約の通り、上町・時沢西組屋谷戸遺跡は平成22年1月31日までの7ヶ月間の発掘調査を実施し、他の4遺跡とともに平成22年3月31日付けで調査完了報告書を提出して業務を完了した。

平成22年度の業務終了後、工事の進展に伴って、平成23年9月9日に上町・時沢西組屋谷戸遺跡調査区の北側の主要地方道拡幅部分、11月8日に南側の同拡幅部分が群馬県教育委員会文化財保護課によって試掘調査された。北側は遺構・遺物が発見されなかったことから本調査は不要と判断された。南側は古代と推定される溝が1条検出され、群馬県教育委員会文化財保護課が試掘調査時に記録保存を行い、調査を終了した。



第3図 上野・西組屋谷戸道路調査区周辺図
 (前橋市の所蔵、2500分の1) 前橋市地形図(平成21年調査、富士見地区は平成23年調査)を使用)

第2章 調査の方法と経過

第1節 発掘調査の方法と経過

1. 発掘調査の方法

(1) 遺跡・調査区・グリッドの設定

上武道路は赤城山南麓を斜めに横断し、発掘区は8工区(その3)だけでも総延長が数kmにおよぶ。

赤城山南麓には多くの帯状開析谷が穿達しており、上武道路の路線は台地と谷地を交互にくりかえして通る地形になっている。加えて本地域には埋蔵文化財が豊富で、台地上はほとんどが遺跡であり、谷部にも埋没水田等が検出される。したがって遺跡が連続的に分布することになり、遺跡の区切りをどこにするか、遺跡名をどうつけるかが調査上の問題となった。これについて調査担当者間で原案をつくり、前橋市教育委員会と協議した結果、今回の調査では一つの台地とその南東側に接する谷地を含む一単位を一遺跡とすることとした。

上町・時沢西組屋谷戸遺跡は、合併以前に台帳に登録された前橋市上町遺跡と旧富士見村時沢西組屋谷戸遺跡が合併に伴って台帳が統合されるにあたり、別名称で登録された。遺跡としては同一遺跡であると判断し、報告書は「上町・時沢西組屋谷戸遺跡」の名称で編集し、個々の遺構の記述に際しては台帳登録の遺跡ごとにおこなった。

上町・時沢西組屋谷戸遺跡内の調査区は、概ね上町遺跡と時沢西組屋谷戸遺跡を分け、時沢西組屋谷戸遺跡をJK68、上町遺跡をJK69とした。さらに遺跡内を廃土の処理に関わる調査進行単位に分け、北側の時沢西組屋谷戸遺跡西側から1区、2区とし、南側の上町遺跡も西側から1区・2区とし、主要地方道前橋赤城線沿いの調査区を3区とした。なお、主要地方道前橋赤城線の拡幅工事にともなって平成23年に試掘調査時に記録保存された5トレンチを4区とする。

平面図を記録する測量用のグリッドは、路線上の遺跡相互の関連性が把握しやすいように、1000m四方の大グリッド→100m四方の中グリッド→5m四方の小グリッ

ドの階層的なグリッド網を設定した。グリッド名称は各階層で異なる。8工区の1000m四方の大グリッドは全線を一〜13でカバーした。上町・時沢西組屋谷戸遺跡は大グリッド「7」に含まれる。グリッド呼称が煩雑になるので、報告書の記載や個々の図面ではこの大グリッドを省略している。

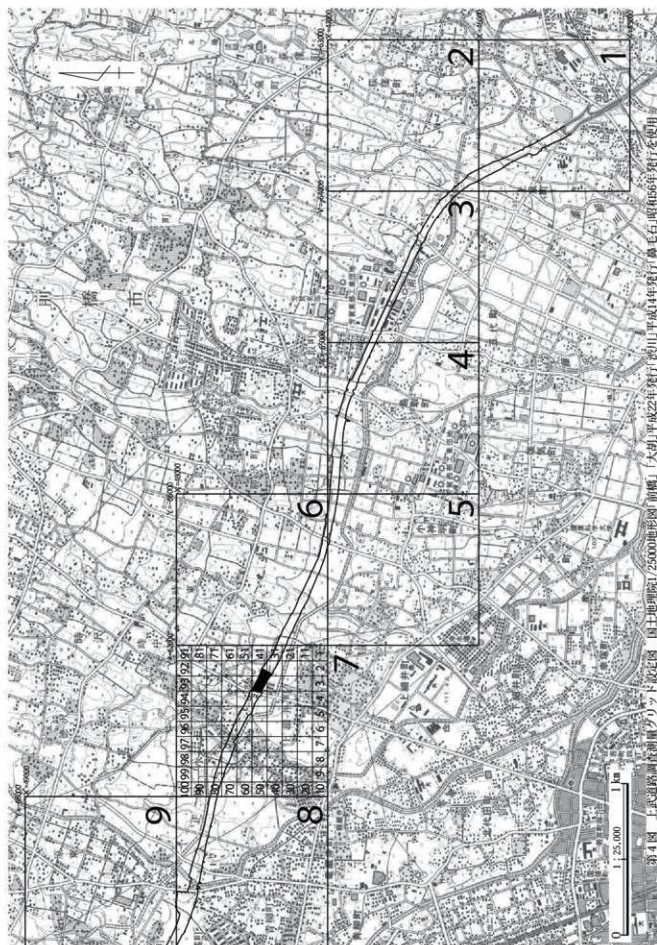
中グリッドは大グリッドを100個に区切り、南東隅からZ方向に1から100までとした。上町・時沢西組屋谷戸遺跡は32、33、42～44区に含まれる。

小グリッドは中グリッドの中を5mずつ区切り、東から西へAからT、南から北へ1～20とした。小グリッドの呼称は南東隅の交点をあて、独立した単位の100m中グリッドと5m小グリッドを並立して、「43区A1」のようにした。

上町・時沢西組屋谷戸遺跡内のグリッドの座標値は、国家座標世界測地系(第IX系)を用いて測量し、7-43区A1がX=47.400km、Y=-67.200kmである。7-44区A1がX=47.400km、Y=-67.300kmである。

(2) 基本土層と遺構確認

上町・時沢西組屋谷戸遺跡の基本土層は第5図の通りである。表土(I層)下にはAs-Bを多量に含む黒褐色土(II層)が堆積していた。As-Bの一次堆積層(III層)は発掘区内では中央の凹地南半部にのみ堆積しており、1108(天仁元)年とされているテフラ降下時には凹地となっていたことがわかる。IV層はHr-F PやAs-C軽石を含む黒褐色土である。2層に分かれ、上層のIVa層にはAs-Cが多量に含まれ、Hr-F Pも含む。下層のIVb層はAs-Cが多量に含まれ、上層より黒味の強い土層である。V層はやや粘質の黒褐色土でAs-Cを含まない。古墳時代初頭と推定されるAs-C降下以前の土層である。なお、本遺跡ではAs-Cの一次堆積層は検出されなかった。VI層は上層が暗褐色土、下層がやや粘質の褐色土である。いわゆる淡色黒ボク土(註1文献3)である。縄文時代のある時期に堆積したと考えられている。VII層は黄褐色土で上層は硬質・粘質。下層にはAs-BP粒を含む。VIII層は粘質のふい黄褐色土でAs-okを含むローム層である。



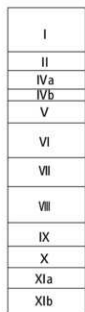
第2章 調査の方法と経過

IX層は粘質のオリブ褐色土で砂を含み硬く締まった土層である。X層は粘質の灰白色土で軽石や砂礫を含まない。XIa層は砂礫を含む砂質灰白土で、下層のXIb層には礫は含まない。IX～XI層は、地点によって堆積の有無がみられた。扇状地堆積物の可能性が高い。

発掘調査では、IV層上面で古代の遺構確認作業を行った。IV層上面で遺構の輪郭が不鮮明な場合はVI層上面まで下げて遺構を確認した部分もある。特に上町遺跡3区および2区南東部ではII～V層が削平されているところがあり、表土直下のVI層上面で遺構確認をおこなった。

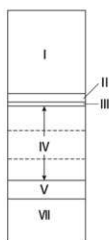
なお、土層中のテフラについては層位確認に必要であったことから、土壌分析を委託して土壌に含まれるテフラを同定した。詳細な報告は第7章に掲載した。

44区B9グリッド



← 遺構確認面

43区N5グリッド



- I. 黒褐色土(10YR3/2)や砂質。表土。
 - II. 黒褐色土(10YR3/2) As-B細粒を多量に含む。
 - III. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-B層。砂質。
 - IVa. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを多量に含む。Ir-FAの軽石をわずかに含む。
 - IVb. 黒褐色土(10YR2/2) 5層よりも黒色土味が強い。
 - V. 黒褐色土(10YR2/2) やや粘質。As-Cを含まない。
 - VI. 上層は暗褐色土(10YR3/3) 下層は褐色土(10YR4/4) やや粘質。
 - VII. 黄褐色土(10YR5/8) 上層は硬く粘質。
- 下層は灰白色粘質土でAs-YP粒1mm以下を含む。
- VIII. にふい黄褐色土(10YR4/3)粘土質。As-OKを含む。
 - IX. オリブ褐色土(2.5Y 4/3)粘土質。砂を含み硬い。
 - X. 灰白色土(10YR8/2)粘土質。ハミス・礫を含まない。
 - XIa. 灰白色土。砂質。2cm大以下の角礫を多量に含む。
 - XIb. 灰白色土。砂質。礫を含まず均質。

第5図 上町・時沢西組屋谷戸遺跡の基本土層

(3) 発掘調査の記録

発掘調査にあたっては、図面・写真および調査所見メモを記録した。

図面は各遺構の断面図と平面図を作成した。平面図は電子平板でデジタル測量を委託し、全体図のデータ作成とともに、遺構については、20分の1の個別平面図の出力を作成した。断面図は遺構図に対応する縮尺で発掘作業員が実測した。断面図は調査と並行して、デジタルトレースを委託した。

各遺構の埋没状況については、土層観察用の土手を十字に設定し、すべての遺構で土層断面図を作成した。断面図の土層の注記は調査担当者各自の観察に委ねたので、色名の記載や硬度について不統一な部分がある。また埋没土にはHr-F PやAs-Cの軽石が混在するが、遺構内には一次堆積層がなかったことから同定作業は行わなかった。土層の注記では確定できる場合を除き、「白色軽石」との記述にとどめた。上町遺跡の凹地に堆積するテフラ一次堆積層やローム層に介在するテフラについては、遺跡を理解するにあたって必要不可欠であるので、土壌の自然科学分析を委託し、記載した。

遺構写真はデジタルカメラおよび、ブローニーモノクロフィルムを用いて撮影対象・撮影日・撮影方向を添付し、地上撮影した。各区の全景写真や旧石器対象のローム層調査状況は高所作業車から撮影した。撮影したデジタル写真は区名・遺構名・撮影内容・撮影方向等を明示したファイル名でリネームし整理した。ブローニーフィルム写真は、ネガシートおよびネガフィルムに通し番号を付し、ネガ番号・撮影対象・撮影日・撮影方向を記入したネガ検索台紙を作成した。

調査所見メモは調査担当者ごとに書式は異なるが、遺構断面図面に直接記入するか、所見を別途文章化して記録した。報告書記載にあたってはその記録を重視し原稿を執筆した。

また、上町遺跡凹地に堆積していたAs-Bの一次堆積層直下の黒色土については土壌を採取し植物珪酸体の分析をおこなった。

2. 発掘調査の経過

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の発掘調査は、平成21年7月から2月まで実施した。各区の調査経過の概略は次の通りである。

- 7月1日 調査準備開始。
- 7月6日 除草・竹林伐採作業開始。
- 7月13日 時沢西紺屋谷戸遺跡1区表土掘削作業開始。
- 7月17日 時沢西紺屋谷戸遺跡1区VI層上面遺構確認作業開始。
- 7月27日 時沢西紺屋谷戸遺跡1区IV層上面遺構調査開始。
上町遺跡2区凹地表土掘削作業開始。
- 7月28日 上町遺跡2区凹地As-B直下面遺構確認作業。
- 7月29日 上町遺跡2区凹地As-B下位遺構調査。
- 7月30日 上町遺跡2区VI層上面遺構確認作業開始。
- 8月21日 時沢西紺屋谷戸遺跡1区全景写真撮影。
ローム調査坑設定。
- 9月2日 上町遺跡2区全景写真撮影。
ローム調査坑設定。
時沢西紺屋谷戸遺跡1区調査終了。
- 9月3日 時沢西紺屋谷戸遺跡1区埋戻し作業開始。
- 9月4日 上町遺跡1区表土掘削作業開始。
- 9月7日 上町遺跡1区VI層上面遺構確認作業開始。
- 9月9日 上町遺跡1区凹地調査開始。
- 9月17日 上町遺跡2区調査終了。
- 9月29日 時沢西紺屋谷戸遺跡2区の排土・表土の移動開始。
- 10月1日 時沢西紺屋谷戸遺跡2区調査開始。
- 10月14日 上町遺跡1区全景写真撮影。
- 10月15日 上町遺跡1区ローム層調査開始。
- 10月27日 時沢西紺屋谷戸遺跡2区表土掘削作業、遺構確認作業開始。
- 10月30日 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡1区全景写真撮影。
- 11月9日 時沢西紺屋谷戸遺跡2区無名沢トレンチ調査開始。
- 11月13日 上町遺跡1区ローム層調査開始。
- 11月27日 時沢西紺屋谷戸遺跡2区無名沢トレンチ調査終了。

- 11月30日 時沢西紺屋谷戸遺跡2区無名沢埋戻し作業終了。
- 12月25日 上町遺跡1区、時沢西紺屋谷戸遺跡2区全景写真撮影。
- 1月19日 上町遺跡3区遺構調査開始。
- 1月22日 時沢西紺屋谷戸遺跡2区ローム層調査開始。
- 1月28日 上町遺跡3区全景写真撮影。
- 1月29日 上町遺跡3区ローム層調査。
時沢西紺屋谷戸遺跡2区ローム層調査。
- 2月1日 調査終了。
- 2月2日 撤収準備。
- 2月15日 埋戻し作業終了。

第2節 整理事業の経過と方法

1. 整理事業の経過

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の発掘成果・出土資料の整理事業および報告書編集作業は、平成24年度一般国道17号(上武道路)改築事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の整理事業として、平成24年4月1日～平成25年3月31日に実施された。

本事業は、平成24年2月6日付けて群馬県教育委員会教育長から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に調査の依頼があり、調整が重ねられた結果、平成24年4月6日付けで、国土交通省関東地方整備局長と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で委託契約を締結した。業務の履行期間および整理期間は平成24年4月1日～平成25年3月31日である。

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡は縄文時代から近代までの遺構・遺物が検出された複合遺跡である。整理事業は平成24年4月1日から開始された。整理事業ではまず、遺構データの集積・確認、遺構台帳の作成、遺構写真の整理、出土遺物の分類・接合作業をおこなった。つぎに掲載遺物を選択し、復元作業、遺物写真撮影、遺物実測・トレース、遺物観察を行った。遺構図面は修正・編集、版下作成を行い、写真については掲載写真を選択し、写真図版のレイアウトと版下作成を実施した。並行して本文原稿執筆をおこなって、3月に報告書を印刷・発行した。

2. 整理作業の方法

(1) 遺物の整理

遺物の整理は、遺物収納箱37箱分の土器と石器類、金属製品を対象とした。

土器は遺構ごとに接合を行った。接合作業は遺構内の遺物出土状況を平面図および写真と確認しながら実施した。遺構外で出土した同時期同型式の遺物とも接合を試みた。次に遺物出土状態や個体数・形態差・構成比等を勘案し、報告書に掲載する遺物を選択した。今回選択した土器は、縄文土器15点、土師器・須恵器741点、中近世陶磁器・土器17点である。選択できなかった土器は遺構ごとに種別を分類し、計数して収納した。

報告書掲載土器は復元し、写真撮影をおこなった。遺物写真は当事業団写真室でデジタルカメラを用いて撮影した。土器実測図は等倍で作成した。完形に近い土器はスリースペースシステムで測点し、その印刷出力図を補測・製図した。破片の土器は断面実測をおこない、縄文原体や文様が読み取れるように留意して採拓した。土器のトレースは墨入れでおこなった。拓本とトレースは台紙に貼付し、スキャニングし縮小してデジタルデータとした。土器の観察は表形式にまとめた。色調は『標準土色帖』の色名を用いて記載し、器形実測できた土器の口径・底径・高さは実測図から計測した。胎上は特徴的な夾雑物を中心に記載した。文様および整形技法を属性表に記載した。

石器類は全220点を石器、剥片、礫・礫片に形態分類した。縄文時代のもので推定される石器は51点、古代以降の石製品は45点が分類されたが、器種を網羅するように石器15点、石製品38点を選択し、15点を報告書掲載とした。剥片は90点、礫・礫片34点は石材・出土位置ごとに計数し収納した。石器の実測図は大型品1/2、その他は等倍で作成した。石器を長焦点カメラで撮影し、その印刷出力図を補測・製図した。トレースは墨入れをおこない、一部の拓本とともにスキャニングして縮小しデジタルデータ化した。石器の属性一長さ・幅・厚さ・重さ・石材等は表形式にまとめた。石材の一部の同定は群馬県地質研究会の飯島静男氏に依頼した。形状・調整加工の特徴は観察表に記載した。

金属製品および鉄生産関連遺物は、全点を形態分類し、

鉄製品と銭貨、キセル、羽口、鉄滓等を確認した。鉄製品52点、銭貨1点、キセル1点はクリーニングし報告書掲載とし、羽口1点とともに写真撮影・実測・トレースを行った。椀形鍛治滓2点を含む鉄滓4点は写真のみを掲載した。

以上のような整理作業を経て資料化し、何らかの形で本書中に掲載した資料は867点である。資料の内訳は土器・土製品756点、石器類53点、古銭1点、鉄および関連遺物57点である。トレースした遺物実測図は、台紙に貼付した上、スキャニングしてデジタルデータを作成した。

(2) 遺構図面・写真の整理

遺構図面については、調査時の平面図・断面図デジタルデータの修正作業を確認し、版下としての編集作業と全体図のデジタルデータの差し替えをおこなった。また、全体図や遺跡位置図・遺跡分布図等を編集しEPSデータとした。

遺構写真については、発掘調査で撮影したモノクロ写真およびデジタル写真から掲載写真を選択した。銀塩フィルムの写真はネガをスキャニングしてTiffデータとした。これらの報告書掲載写真はサイズ調整・レベル補正を実施して、写真図版の原稿データを作成した。最終的には現場撮影・遺構名リネームのRAWデータと、遺物も含む報告書掲載写真のJPEGデータを保存してある。

(3) 報告書の編集

本文・遺物観察表等の原稿は上記作業と平行して執筆した。遺構図・遺物図・文字原稿を印刷して切り貼りし、レイアウトを作成した。レイアウトの通り、上記で作成した各種デジタルデータをアドビ社インデザインにより組版して、報告書のフルデジタル印刷原稿を作成した。印刷原稿データの推敲・校正・編集修正を実施し、報告書を刊行した。本報告書では遺構番号の付け替えを行わざるを得なかったが、第2表に対照一覧表(P.11)を掲げた。

第2表 上町・時沢西組屋谷戸遺跡 遺構番号変更一覧表

遺跡	区	旧遺構番号	新遺構番号 他
上町	2区	2 号住居	1 号竪穴状遺構
上町	2区	3 号住居	2 号竪穴状遺構
上町	2区	14 号住居	2 号竪穴状遺構
上町	2区	15 号住居	2 号竪穴状遺構
上町	2区	17 号住居	34 号土坑
時沢西組屋谷戸	1区	6 号住居	(欠番)
上町	2区	2 号掘立柱建物	5 号ピット列
上町	2区	7 号掘立柱建物	(欠番)
上町	2区	8 号掘立柱建物	(欠番)
上町	2区	9 号掘立柱建物	(欠番)
上町	2区	10 号掘立柱建物	(欠番)
上町	2区	11 号掘立柱建物	(欠番)
上町	3区	18 号掘立柱建物	6 号ピット列
時沢西組屋谷戸	1区	2 号掘立柱建物	(欠番)
時沢西組屋谷戸	2区	1 号ピット列	160 号ピット
時沢西組屋谷戸	2区	4 号溝	(欠番)
上町	2区	1 号土坑	(欠番)
上町	2区	24 号土坑	(欠番)
上町	1区	75 号土坑	(欠番)
上町	3区	80 号土坑	(欠番)
上町	3区	81 号土坑	(欠番)
上町	3区	82 号土坑	(欠番)
上町	3区	83 号土坑	(欠番)
上町	3区	84 号土坑	(欠番)
上町	3区	85 号土坑	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	2 号土坑	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	7 号土坑	10 号掘立柱建物 P 5
時沢西組屋谷戸	1区	10 号土坑	10 号掘立柱建物 P 2
時沢西組屋谷戸	1区	12 号土坑	1 号掘立柱建物 P 10
時沢西組屋谷戸	1区	19 号土坑	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	23 号土坑	1 号掘立柱建物 P 7
時沢西組屋谷戸	2区	32 号土坑	5 号掘立柱建物 P 9
時沢西組屋谷戸	2区	48 号土坑	(欠番)
時沢西組屋谷戸	2区	49 号土坑	(欠番)
時沢西組屋谷戸	2区	90 号土坑	(欠番)
上町	1区	81 号ピット	(欠番)
上町	1区	82 号ピット	(欠番)
上町	1区	83 号ピット	(欠番)
上町	1区	84 号ピット	(欠番)
上町	1区	97 号ピット	(欠番)
上町	1区	197 号ピット	(欠番)
上町	1区	210 号ピット	(欠番)
上町	3区	233 号ピット	17 号掘立柱建物 P 4
上町	3区	235 号ピット	16 号掘立柱建物 P 4
上町	3区	238 号ピット	6 号ピット列 P 2
上町	3区	245 号ピット	(欠番)
上町	3区	246 号ピット	6 号ピット列 P 2
上町	3区	247 号ピット	6 号ピット列 P 1
上町	3区	248 号ピット	17 号掘立柱建物 P 5
上町	3区	252 号ピット	17 号掘立柱建物 P 2
上町	3区	255 号ピット	16 号掘立柱建物 P 2
上町	3区	256 号ピット	17 号掘立柱建物 P 3
上町	3区	259 号ピット	6 号ピット列 P 3
上町	3区	260 号ピット	16 号掘立柱建物 P 5
上町	3区	263 号ピット	16 号掘立柱建物 P 3
上町	3区	272 号ピット	16 号掘立柱建物 P 1
上町	3区	273 号ピット	17 号掘立柱建物 P 1

遺跡	区	旧遺構番号	新遺構番号 他
上町	2区	7 号掘立柱建物 P 1	275 号ピット
上町	2区	7 号掘立柱建物 P 2	276 号ピット
上町	2区	7 号掘立柱建物 P 3	277 号ピット
上町	2区	7 号掘立柱建物 P 4	278 号ピット
上町	2区	8 号掘立柱建物 P 1	279 号ピット
上町	2区	8 号掘立柱建物 P 3	280 号ピット
上町	2区	8 号掘立柱建物 P 4	281 号ピット
上町	2区	8 号掘立柱建物 P 6	282 号ピット
上町	2区	8 号掘立柱建物 P 5	283 号ピット
上町	2区	8 号掘立柱建物 P 8	284 号ピット
上町	2区	8 号掘立柱建物 P 7	285 号ピット
上町	2区	8 号掘立柱建物 P 1	286 号ピット
上町	2区	9 号掘立柱建物 P 5	287 号ピット
上町	2区	9 号掘立柱建物 P 2	288 号ピット
上町	2区	9 号掘立柱建物 P 3	289 号ピット
上町	2区	9 号掘立柱建物 P 4	290 号ピット
上町	2区	10 号掘立柱建物 P 1	291 号ピット
上町	2区	10 号掘立柱建物 P 2	292 号ピット
上町	2区	10 号掘立柱建物 P 3	293 号ピット
上町	2区	10 号掘立柱建物 P 4	294 号ピット
上町	2区	11 号掘立柱建物 P 1	295 号ピット
上町	2区	11 号掘立柱建物 P 2	296 号ピット
上町	2区	11 号掘立柱建物 P 3	297 号ピット
上町	2区	11 号掘立柱建物 P 4	298 号ピット
上町	2区	11 号掘立柱建物 P 5	299 号ピット
上町	2区	11 号掘立柱建物 P 6	300 号ピット
上町	2区	10 号掘立柱建物 P 5	301 号ピット
上町	2区	8 号掘立柱建物 P 12	302 号ピット
時沢西組屋谷戸	1区	3 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	7 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	10 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	13 号ピット	1 号掘立柱建物 P 4
時沢西組屋谷戸	1区	17 号ピット	10 号掘立柱建物 P 6
時沢西組屋谷戸	1区	31 号ピット	1 号掘立柱建物 P 5
時沢西組屋谷戸	1区	33 号ピット	10 号掘立柱建物 P 3
時沢西組屋谷戸	1区	34 号ピット	1 号掘立柱建物 P 12
時沢西組屋谷戸	1区	35 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	36 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	38 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	2 号掘立柱建物 P 1	39 号ピット
時沢西組屋谷戸	1区	2 号掘立柱建物 P 2	40 号ピット
時沢西組屋谷戸	1区	41 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	42 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	43 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	2 号掘立柱建物 P 3	44 号ピット
時沢西組屋谷戸	1区	45 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	46 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	47 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	48 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	51 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	52 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	53 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	2 号掘立柱建物 P 4	55 号ピット
時沢西組屋谷戸	1区	2 号掘立柱建物 P 5	56 号ピット
時沢西組屋谷戸	1区	59 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	62 号ピット	(欠番)
時沢西組屋谷戸	1区	2 号掘立柱建物 P 9	63 号ピット
時沢西組屋谷戸	1区	2 号掘立柱建物 P 7	64 号ピット

第2章 調査の方法と経過

遺跡	区	旧遺構番号	新遺構番号 他
時次西組屋谷戸	1区	66号ビット	3号据立柱建物P1
時次西組屋谷戸	1区	67号ビット	3号据立柱建物P8
時次西組屋谷戸	1区	69号ビット	3号据立柱建物P7
時次西組屋谷戸	1区	71号ビット	(欠番)
時次西組屋谷戸	1区	72号ビット	(欠番)
時次西組屋谷戸	1区	73号ビット	3号据立柱建物P6
時次西組屋谷戸	1区	75号ビット	3号据立柱建物P5
時次西組屋谷戸	1区	77号ビット	3号据立柱建物P4
時次西組屋谷戸	1区	78号ビット	(欠番)
時次西組屋谷戸	1区	79号ビット	3号据立柱建物P3
時次西組屋谷戸	1区	81号ビット	4号据立柱建物P2
時次西組屋谷戸	1区	83号ビット	(欠番)
時次西組屋谷戸	1区	84号ビット	(欠番)
時次西組屋谷戸	1区	88号ビット	1号据立柱建物P11
時次西組屋谷戸	1区	89号ビット	1号据立柱建物P8
時次西組屋谷戸	1区	91号ビット	3号据立柱建物P2
時次西組屋谷戸	1区	93号ビット	(欠番)
時次西組屋谷戸	1区	2号据立柱建物P10	98号ビット
時次西組屋谷戸	1区	99号ビット	(欠番)
時次西組屋谷戸	1区	2号据立柱建物P11	100号ビット
時次西組屋谷戸	1区	104号ビット	1号据立柱建物P13
時次西組屋谷戸	1区	106号ビット	1号据立柱建物P6
時次西組屋谷戸	1区	110号ビット	4号据立柱建物P5
時次西組屋谷戸	1区	111号ビット	4号据立柱建物P6
時次西組屋谷戸	1区	112号ビット	4号据立柱建物P7
時次西組屋谷戸	1区	113号ビット	4号据立柱建物P3
時次西組屋谷戸	1区	118号ビット	10号据立柱建物P1
時次西組屋谷戸	1区	133号ビット	4号据立柱建物P4
時次西組屋谷戸	1区	134号ビット	4号据立柱建物P1
時次西組屋谷戸	1区	135号ビット	4号据立柱建物P8
時次西組屋谷戸	1区	138号ビット	(欠番)
時次西組屋谷戸	1区	139号ビット	1号据立柱建物P9
時次西組屋谷戸	1区	2号据立柱建物P6	142号ビット
時次西組屋谷戸	1区	2号据立柱建物P8	143号ビット
時次西組屋谷戸	1区	147号ビット	1号据立柱建物P2
時次西組屋谷戸	1区	148号ビット	1号据立柱建物P3
時次西組屋谷戸	1区	149号ビット	10号据立柱建物P4
時次西組屋谷戸	1区	153号ビット	4号据立柱建物P9
時次西組屋谷戸	1区	158号ビット	1号据立柱建物P1
時次西組屋谷戸	2区	265号ビット	46号土坑
時次西組屋谷戸	2区	282号ビット	7号据立柱建物P9
時次西組屋谷戸	2区	283号ビット	6号据立柱建物P6
時次西組屋谷戸	2区	284号ビット	6号据立柱建物P7
時次西組屋谷戸	2区	285号ビット	6号据立柱建物P1
時次西組屋谷戸	2区	286号ビット	6号据立柱建物P5
時次西組屋谷戸	2区	299号ビット	6号据立柱建物P8
時次西組屋谷戸	2区	300号ビット	(欠番)
時次西組屋谷戸	2区	310号ビット	11号据立柱建物P4
時次西組屋谷戸	2区	311号ビット	11号据立柱建物P6
時次西組屋谷戸	2区	312号ビット	11号据立柱建物P3
時次西組屋谷戸	2区	313号ビット	11号据立柱建物P1
時次西組屋谷戸	2区	318号ビット	11号据立柱建物P7
時次西組屋谷戸	2区	331号ビット	11号据立柱建物P2
時次西組屋谷戸	2区	342号ビット	(欠番)
時次西組屋谷戸	2区	343号ビット	11号据立柱建物P5
時次西組屋谷戸	2区	385号ビット	(欠番)
時次西組屋谷戸	2区	391号ビット	(欠番)

第3章 遺跡の立地と歴史的環境

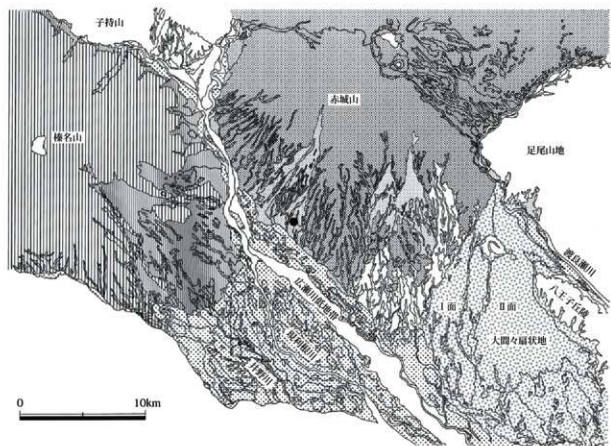
第1節 遺跡の位置と地形

1. 赤城山南麓と白川扇状地の地形

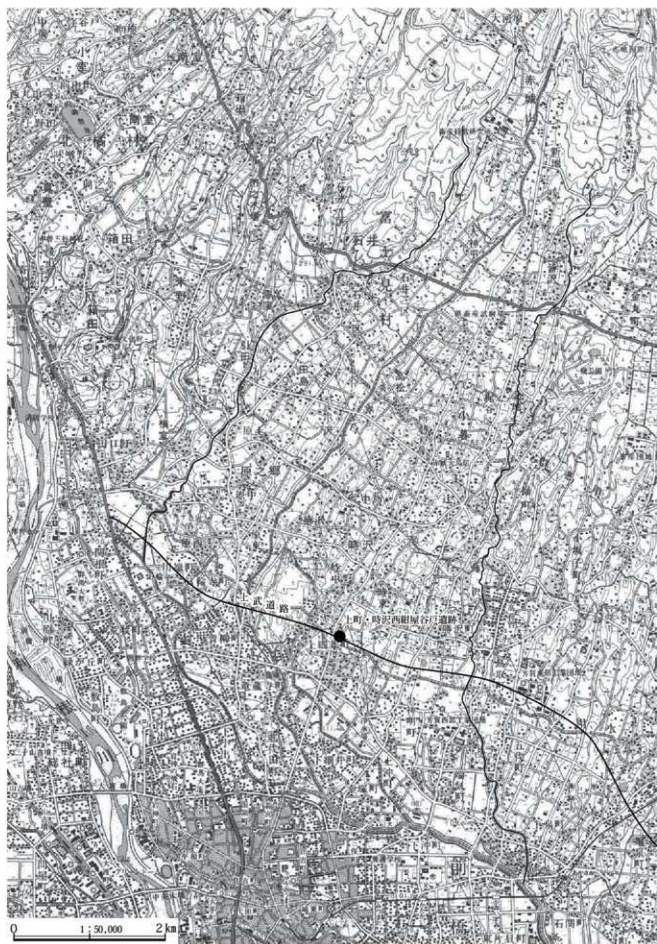
上町・時沢西紺屋谷戸遺跡は、県北の山地と南東の平野部が接する群馬県中央部に位置する。県央地域には西に榛名山、東に赤城山があり、その裾野には丘陵性の台地が広がっている。遺跡はこのうち東側に位置する赤城山の南麓に形成された火山麓扇状地端部にある。

赤城山は40～50万年前から活動を始めた複合成層火山で、3.1～3.2万年前に大規模な軽石噴火をおこして中央火口丘群を形成した後は、現在まで目立った火山活動はなく、火山山麓扇状地の形成期となっている。上町・時沢西紺屋谷戸遺跡も、その火山山麓扇状地の一つ、赤城白川の流域に形成された「白川扇状地」(文献1)上に立地する。

白川扇状地内は標高400mほどの旧富士見村大河原付近を扇頂として、赤城白川両岸に緩斜面を広げる火山山麓扇状地である。(第7図)東端は藤沢川、西端は細ヶ沢川に区切られた微高地である。扇状地内には土石流のような堆積物や火山砂礫層が堆積し、その上位は上部ローム層に覆われている。(文献2)また、近年では、白川扇状地は形成時期の異なる扇状地から構成されていることが判明しつつあり、現赤城白川沿いの新期の扇状地と、その両側に広がる面積の広い古い扇状地があることが分かっている。古期扇状地を形成する砂礫層の上には、ところによって八崎軽石以上のテフラや、板鼻褐色軽石群以上のテフラだけ、板鼻黄色軽石より新しいテフラだけというように降下時期の異なるテフラが風成堆積している。(文献3)



第6図 群馬県中央部の地形と上町・時沢西紺屋谷戸遺跡(群馬県史通史編1付図を簡素化)



第7図 白川扇状地と上町・時沢西組屋谷戸遺跡



第8図 上町・時沢西相屋谷戸遺跡の立地

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡では、43区P17グリッドの北壁土層断面で、扇状地堆積物と推定される砂層の上位で、約1.9～2.4年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BPGroup)か、約1.8～2万年前に降下した浅間白糸軽石(As-Sr)かのどちらかのテフラと、さらに上位で1.3～1.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP)が確認されている(第7章)ことから、本遺跡は古い時期の扇状地にあることがわかる。

白川扇状地は、同じ赤城山麓の粕川や荒砥川の扇状地と同様に、昭和29年のカスリン台風に伴う大雨によって斜面崩壊した土砂が土石流となって上面を覆ったことなどからもわかるように、現在も扇状地形成途上にあると考えられている。

2. 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の立地

白川扇状地は比較的新しい時期の堆積物からなることからほとんど開析されずに残っていて、平坦緩斜面をなしている。しかし、扇状地にはいくつかの小河川が流下し、扇状地面に谷を形成している。上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の周辺では、西側に竜ノ口川、東側に鎌倉川の支流が流れており、その間には小規模な無名谷も刻まれている。

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡はその間にある低平な扇状地表面上に立地する。同じ上武道路地内で西側に隣接して発掘された王久保遺跡は、主要地方道前橋赤城線と区切られているが、同じ地形面にある一連の遺跡と考えられる。また、東側で発掘された天王・東紺屋谷戸遺跡は、上町・時沢西紺屋谷戸遺跡とは無名沢で区切られており、東方は鎌倉川上流部の谷西緑までの扇状地表面上に遺構が分布していた。

竜ノ口川は沖積地を伴わない下刻の進んだ小河川であるが、王久保遺跡西端の調査所見では現河道に向かって緩傾斜していた。古代の景観は不明であり、水田や水路等の遺構は明確に検出されなかった。古代には流域が、水田生産域となっていたと推定される。

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡東側の無名沢は幅20mほどの小規模な谷である。現状では上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の北方600mほどの地点で竜ノ口川と接続され取水しているが、元々はこの周辺に谷頭をもつ小規模な谷地形と推定される。上町・時沢西紺屋谷戸遺跡以北では、一

部大型店舗や住宅の建設で埋積されていて視認できない地点もあるが、緩やかな帯状の凹地を形成している。遺跡南の大正用水の南側では下刻が進み深くなっており、その南の細井神社東側では小規模な谷地形をみせている。この谷は遺跡から600m南で東側からの小谷と合わさり、やや幅広い低地となって広瀬川低地帯に合流している。大正用水より南側の下刻の進行は、低地帯の浸食に影響されたものと推定される。

無名沢と合わさる東側の小谷は、合流地点付近は沢となっているが、大正用水付近では幅8mほどの帯状低地であり、天王・東紺屋谷戸遺跡で検出された帯状凹地につながっている。以上のように上町・時沢西紺屋谷戸遺跡および周辺の遺跡は、白川扇状地上の微地形に扶まれた微高地面に立地しているのである。

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の東端で検出された無名沢では、今回の調査の結果、江戸時代後期には水田が営まれていたことが判明し、その下層から古代の土器も出土した。トレンチ調査にとどまり、谷内下層の堆積物と、谷形成の過程を確認することはできなかったが、谷は自然地形であり、古代には谷は形成されていたことは明らかであろう。

上町・時沢西紺屋谷戸・王久保遺跡の発掘調査では、東西幅250mほどの扇状地表面上に、飛鳥時代以降の竪穴住居群からなる集落が検出された。調査区内のみのデータであるが、王久保遺跡では7世紀末から、上町・時沢西紺屋谷戸遺跡でも7世紀末から8世紀初頭に竪穴住居が建てられるようになることが判明した。このうち、上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の竪穴住居床面下層からは大規模な床下土坑が多数検出されたが、上部ローム層下位に堆積している灰白色粘土の採取が目的の土坑と推定される。

また、上町・時沢西紺屋谷戸遺跡内では埋没凹地が検出された。南北方向の凹地は上町遺跡のほぼ中央、台地全体ではやや無名沢寄りの地点にあった。凹地の形成時期は不明であるが、その埋没は、埋没土壌のテフラ分析から6世紀初頭の榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-F A)降灰後に始まったとみられる。その埋積途中で、凹地西縁には8世紀前半から9世紀後半まで使用された溜井や、8世紀から9世紀に使用されたとみられる道路がトレースするように造られていた。凹地の北側には一部竪穴住居が位置することから、時沢西紺屋谷戸遺跡内あるいはや

や北方に凹地の谷頭があるものと推定される。凹地の周囲には遺構の分布が少なく、集落内の広場のような場所として使われていたのであろう。

後述するように、この凹地では天仁元(1108)年の浅間山噴火以前のいずれかの時期から稲作がおこなわれている。発掘区内では凹地の谷頭部分と西側に掘られた溜井を検出しているが、溜井の掘削された目的や背景を考える上で、この帯状凹地が南側のどの方向に伸びているかは重要である。しかし、発掘区南側は平坦な住宅地と畑地となっており、凹地がどの方向に伸びているかを推定することは現況の地形観察では困難であった。溜井が掘られたことを考えれば、下位の扇状地面の開発に関与している可能性や、無名沢への水補給が考えられるが、受益地の特定も現状では困難である。今後、周辺の同様な地形と遺跡の関係を追究する中で、考えていかななくてはならない。

3. 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の土層

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の土層堆積は、北側の①時沢西紺屋谷戸遺跡台地部、南側の②上町遺跡台地部、中央部の③上町遺跡凹地部、東側の④上町・時沢西紺屋谷戸遺跡東端低地部(無名沢)の4か所では異なっていた。第9図に各地点の代表的な土層断面柱状図を示し、遺跡の立地や遺構の性格を考える上で重要と思われる調査所見を記述しておく。

①時沢西紺屋谷戸遺跡台地部

時沢西紺屋谷戸遺跡台地部は旧石器時代の調査坑の北壁表土下の黒色土にAs-B、Hr-F A、As-Cの主として白色軽石粒が含まれており、層位ごとにその含有量が変化するように堆積していた。As-Cを含む黒色土(以下As-C混黒色土と略す。)の下位には軽石を含まない黒褐色土があり、その下位の淡色黒ボク土とローム漸移層が堆積していた。

①-1地点、①-2地点はほぼ同様な堆積状況であった。①-1地点は第7章で報告したテフラ分析の試料採取地点である。①-3地点は凹地の北方にあたり、全体に土層堆積がやや凹んでいて、①-4地点は凹地の東側であり、①-1、-2地点と同様な土層堆積であった。

②上町遺跡台地部

上町遺跡西端(3区)は主要地方道前橋赤城線の東側に接する地点で、調査以前にⅡ~Ⅴ層が削平されており、遺構確認面であるⅥ層まで掘り込まれていた。したがって、遺構の残存状態も不良であった。

②-2地点、②-3地点では北側の①地点と同様な土層が見られ、多くの竪穴住居や掘立柱建物が分布していた。北側①地点との比高はほぼ1m程度であり、北から南への緩斜面となっていた。

③上町遺跡凹地部

発掘区の中央には埋没帯状凹地があり、古代の集落はこれを取り巻くように形成されていた。凹地部南端の土層断面(第233図1号道路土層断面R-R')では1108年に降下した浅間Bテフラ(As-B)が水平堆積しており、凹地内は二次堆積のAs-CやHr-F Aの軽石粒を含む黒色土で埋積していた。

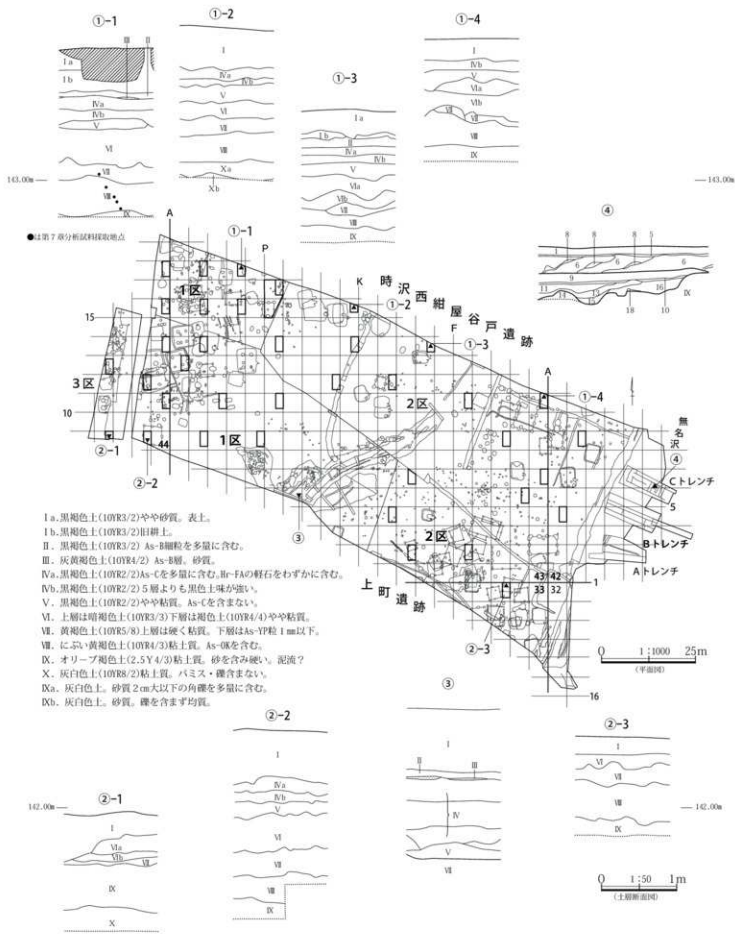
浅間Bテフラ直下およびその下位2点、合計3点の黒色土からイネのプラントオパールが検出されており、この凹地がHr-F A降下以降、1108年までの間は水田化されていたことが判明した。黒色土中には一次堆積のテフラや時期を示す遺物の出土もなかったことから、この水田がいつ開かれたかについては断定できなかった。周囲の集落の時期から推定すれば、最も古い住居が7世紀末であることから、凹地の水田化もそのころと考えられる。8世紀後半にはこの凹地に沿うように道路が造られており、水田域の中を通る古代道路が想定できるかもしれない。

④上町・時沢西紺屋谷戸遺跡低地部

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の東端は無名の小規模な谷が形成されている。谷を埋めていた土砂の大半は近年の圃場整備で動かされたもので、その下面から江戸時代から継続する水田面を検出した。

Bトレンチでは近世の水田の下層を旧河川底まで掘り下げたが、As-Bテフラは確認できなかった、火山灰起源らしい極薄い細砂層を一部で認めたが、同層以下は川底まで砂礫層であった。調査では古代水田面は検出されなかったが、周囲の集落の存在からは、無名沢内が古代から水田化されていた可能性は高いと考えられる。

第3章 遺跡の立地と歴史的環境



第9図 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の微地形と土層

第2節 周辺の遺跡分布

赤城山の南麓地域では多くの遺跡の分布が知られており、発掘調査も実施されている。ここでは、上町・時沢西組屋谷戸遺跡を理解する上で必要な周辺の遺跡分布を概観しておこう。なお、掲載した遺跡分布図は群馬県教育委員会がWeb版で公開している「群馬県文化財情報システム」を基に作成し、概要は各遺跡の発掘調査報告書に拠った。

旧石器時代の遺跡はこれまでほとんど知られていなかったが、近年上武道路建設に伴う発掘調査で遺物が出土している。芳賀東部団地遺跡(136)ではG区で1点、I区で103点の旧石器ブロックが出土した。五代砂留遺跡群(137)では浅間大窪沢第1軽石(As-0k1)下位、浅間板鼻褐色軽石(As-BP)下位、暗色帯中の5か所で石器ブロックが、胴城遺跡(139)では浅間板鼻褐色軽石(As-YP)～As-0k1の層位でナイフ形石器を含む約120点の旧石器が出土し、本地域特に赤城山南麓地域での様相が明らかになっている。また、藤沢川以西の白川扇状地地域では、上細井中島遺跡(81)でAs-0k1下位のローム中から縦長剥片1点が、上細井蟬山遺跡(82)でAs-YPの直下から珪質頁岩製の削器など2点、土坑から黒色頁岩製の槍先形尖頭器1点が出土しており、旧石器と上部ローム層の層序が注目されている。上町・時沢西組屋谷戸遺跡でも旧石器の確認調査をおこなったが、遺物は出土しなかった。

縄文時代の遺跡は上町・時沢西組屋谷戸遺跡周辺でも数多く検出されているが、標高270m以上ではその分布が希薄になっている。遺物散布地として周知の遺跡になっているところが多い。その実態が不明確な遺跡も多いが、近年発掘調査によって具体的な状況が判明してきている。第10図で示した範囲では、20遺跡余りで縄文時代前期を中心に、中期・後期の竪穴住居が数棟ずつ検出されている。端気遺跡(56)では縄文時代草創期の遺物包含層が、堤遺跡(44)では草創期の槍先形尖頭器の製作址が調査されており、注目される。上町・時沢西組屋谷戸遺跡では前期・中期・後期の深鉢破片が10数点出土したのみであった。

本地域では弥生時代の遺跡はごく少ないが、発掘調査で竪穴住居が検出された遺跡がある。小神明倉本遺跡(50)では弥生時代中期後半の竪穴住居が、庄子遺跡(40)、

小神明勝沢境遺跡(43)では後期末の竪穴住居が調査されている。

古墳時代の遺跡は数が増加するが、概ね標高200mより低い地域に分布している。このうち、古墳時代前期の遺跡は限られており、標高150m前後の地点で、庄子遺跡(40)、芳賀東部団地遺跡(136)、五代砂留遺跡群(137)、胴城遺跡(139)、五代中原遺跡(147)、五代江戸屋敷遺跡(154)で1～数棟の竪穴住居が調査されている。庄子遺跡は白川扇状地古期面、芳賀東部団地遺跡等は赤城山麓に立地するが、いずれも弥生時代後期の遺構や土器が検出されている地点にあたる。現状では白川扇状地新时期面には同様な遺跡の分布は見られないが、今後の調査に注意が必要であろう。

古墳時代中期・後期の遺構は、全体に概ね標高200m以下の地域に点在している。前期遺跡が立地しなかった河川沿いの沖積地を農耕地とする集落が拡大した結果と考えられる。古墳はそれよりやや高い300m前後の地点まで分布域を広げており、緩斜面下位の農耕遺地周辺に居住域があり、高標高地点に墓域が造られていたのだろう。上町・時沢西組屋谷戸遺跡では古墳時代の遺構・遺物は検出されなかったが、西側に接する王久保遺跡(3)とともに7世紀末の竪穴住居が調査されている。

奈良・平安時代の遺跡はさらに数が増え、標高250mまで分布域を広げている。古墳時代に開発されなかった高標高の地点へ、居住域が拡大しているのであろう。本地域の発掘調査では水田遺構の検出は少ないが、上細井五十嵐遺跡(14)で天仁元(1108)年に填出した浅間Bテフラで埋没した水田面が検出され、上町・時沢西組屋谷戸遺跡(1)では帯状凹地内の浅間Bテフラ一次堆積層直下からイネのプラントオパールが検出されている。小規模沖積地内での稲作がおこなわれていたことがわかる。上町・時沢西組屋谷戸遺跡、天王(15)・東組屋谷戸(13)遺跡では、平安時代の大規模な溜井が掘られており、周辺の農業水利に関わる遺構も調査されている。

本地域には中世に、伊勢皇太神宮領の「細井御厨」が置かれたところであり、上町・時沢西組屋谷戸遺跡(1)でも密集・継続する古代集落が検出されている。古代から中世にかけての歴史解明に向けて、周辺の奈良・平安時代の遺跡の動向には今後も注意が必要であろう。



第10図 上町・時沢西組屋谷戸遺跡周辺の遺跡分布

国土地理院1/25000地形図「前橋」平成22年12月1日発行「渋川」平成14年10月1日発行を使用

第3章 遺跡の立地と歴史的環境

分布区 番号	市町村 遺跡番号	遺跡名	旧石器 時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代 前期	奈良時代	平安時代	中世	近世	備考	文献番号
	80	00128	新田上遺跡	○								
	81	00787	上編井中島遺跡	○	●中・中後			●	○		上武遺跡調査。中近世独立柱建物・井戸。	55
	82	00786	上編井神山遺跡	○	●前後半		●	●	●		上武遺跡調査	55
	83	00795	山王・高遺跡群	○			●	●	●		上武遺跡調査。近世土坑墓・水田。	55・56
	84	00141	八幡山古墳	○						○		
	85	90008	田島切溝遺跡	○						○		
	86	90007	新井遺跡	○						○		
	87	90038	八幡古墳	○			◆					
	88	90001	十二遺跡	○								17
	89	90096	長泉寺遺跡	○	●中期				○			7
	90	90006	赤城遺跡	○						○	近世溝	7
	91	90012	引田高橋遺跡	○								
	92	90014	森山古墳	○			◆					
	93	90015	道上古墳	○			◆					
	94	90001	田島溝水遺跡	○								
	95	90089	白川遺跡	○					○	○		
	96	90002	田島地蔵	○								
	97	90003	田島2ヶ台遺跡	○								
	98	90004	田島森田林遺跡	○								
	99	90110	小沢谷河遺跡	○								
	100	90036	鎌倉古墳	○			◆					
	101	90090	久保田遺跡	○					○	○		
	102	90029	原之郷鎌倉遺跡	○								
	103	90134	原之郷徳阿舎遺跡	○								
	104	90113	小沢の峰遺跡	○					●		中近世溝。	11
	105	90115	原之郷鎌倉遺跡	○					●			13
	106	90141	原之郷中子遺跡	○					○			
	107	90030	原之郷白川遺跡	○								15
	108	90140	原之郷後原遺跡	○					○	○		
	109	90034	原之郷下白川遺跡	○					○	○		16・17
	110	90031	短久保遺跡	○		●			○	○	○	中近世溝。
	111	90107	短久保遺跡	○		●			○	○	○	9・10・15
	112	00123	白河塚古墳	○			●	◆				9
	113	00434	引切塚遺跡	○後期			●	●	●			26
	114	00122	畑上遺跡	○								26・30
	115	00325	青砥塚上遺跡	○		●			○		昭和27年群大史研調査	4
	116	00119	神明遺跡A	○								
	117	00414	青柳系塚遺跡	○				●	○		水田跡跡不明確。	33
	118	00761	上沖五反田遺跡	○								
	119	90117	小轟北原地遺跡	○	●前期		◆			○	中世墓坑、城跡跡。	14
	120	00556	楳城	○						○	中世城跡、帯堀。	32
	121	00068	犬井下遺跡	○								
	122	00069	入替戸・十二原遺跡	○								
	123	00636	小坂子新林遺跡	○					○	○		
	124	00065	東公田遺跡	○								
	124	00394	東公田古墳	○				◆				
	125	00864	芳賀分母墳	○			◆					
	126	00058	小坂子塚	○						○		溝滅
	127	00966	五反田遺跡	○								
	128	00967	林正田遺跡	○								溝滅
	128	00351	芳賀北部池遺跡	○		●		●	●			31
	129	00057	鬼替戸の倉	○						○		
	130	00059	西門戸遺跡	○								
	131	00050	勝沢城	○						○		
	132	00044	東曲輪遺跡	○								
	133	00054	下路遺跡	○								
	134	00049	鳥取番城遺跡	○						○	一部調査	
	135	00043	宮前遺跡	○						○	一部跡き溝滅	
	136	00053	観音樋戸遺跡	○						○	溝滅	
	136	00357	芳賀東部田中遺跡	○	●		前期→●	●	●	○	上武遺跡調査	20・25・27・53
	137	00772	芳賀的場遺跡群	○	●前期・後期		前期→●	●	●	○	上武遺跡調査	52・53
	138	00776	鳥取古下遺跡	○	●		○後期末	●	●		上武遺跡調査	51
	139	00041	観城遺跡	○	●前期後半	○後期末	前期→◆	●	●	○	上武遺跡調査。近世溝2条。	51・53
	140	00241	芳賀北原遺跡	○				●	●			35
	141	00042	北原遺跡	○						○		
	142	00040	鳥取の倉	○						○		
	143	00028	中津遺跡	○								
	144	00734	五代山崎遺跡	○	●前期・中期			●	●			44
	145	00732	五代深家遺跡	○	●中期			●	●	○	中近世土坑。	37・39・46
	146	00030	江戸原教遺跡	○								
	147	00733	五代中津遺跡	○	●前期		前期→●	●		○		39・43・44
	148	00039	鳥取東原遺跡	○						○		
	149	00027	天神遺跡	○								
	150	00606	鳥取福成寺遺跡	○	●前期			●	●	○	中世建物跡。観音工堀。	36a・36b
	151	00729	五代伊勢宮遺跡	○	●前期・中期		●	●	●	○	構文埋蔵。小石堀。掘立工堀。	38・39・40・42・43・47・48
	152	00731	五代竹花遺跡	○	●中期後半			●	●	○	豊朝十二銭「短切開局」「神功開鑄」出土。	36・45
	153	00730	五代本福遺跡	○	●前期			●	●	○	構文発見。中近世建物跡。砂鉄ピット。掘立工堀。	37・38・45・46
	154	00728	五代江戸原教遺跡	○			前期→●	○	●	○		41
	155	00029	本福遺跡	○								

※文献番号の記載がないものは群馬県教育委員会文化財情報システムWeb版に拠る。

第4章 上町遺跡の遺構と遺物

第1節 概要

上町遺跡では、竪穴住居23棟、竪穴状遺構2基、掘立柱建物12棟、ピット列5基、溝23条、井戸1基、土坑76基、ピット270基、溜井1基、道路跡1基を検出した。

遺構は、中央のやや凹む東西幅約50m部分を除いた東西の台地上に分かれて密集して検出された。調査時の廃土の処理上の都合から、西部の竪穴住居群のなかで4棟の竪穴住居と1基の竪穴状遺構を時沢西組屋谷戸遺跡で名称をつけ調査している。

竪穴住居23棟は比較的深く残存状態は良好であった。出土土器の様相から、その時期は7世紀末から10世紀にかけてと判断される。特に8世紀の竪穴住居は大型で、支柱穴も明確に検出された。また、床下土坑が深く掘られて、塊状の土砂で埋められ貼床を施している状況が顕著であった。これらの床下土坑は地山にある灰白色粘土を採取することが目的と推定される。

異質であったのは14号住居・15号住居として記録した遺構であるが、住居として定型化していない不整形の遺構で2号竪穴状遺構と重複して検出された。調査時は住居番号を付して調査・記録したが、整理作業時に竪穴住居としての属性がほとんど認められないことから、欠番とし、2号竪穴状遺構の周辺遺構として報告した。

竪穴状遺構2基はいずれも大型の長方形で、発掘区南東部で重複して検出された。上位で検出された1号竪穴状遺構は残存壁高が浅かったが、9世紀前半の須恵器破片が多量にまとまって出土した。下位で検出された2号竪穴状遺構は先行する2b号、2c号竪穴状遺構が重複しており、一連の遺構と推定される。周囲には4基の土坑が相前後して検出されており、これらも2a号竪穴状遺構周辺遺構として報告した。

掘立柱建物は11棟が検出されたが、西部に4棟、東部に7棟と分かれていた。当初は18棟の建物を認識していたが、2号建物は北部・東部の柱穴が検出されなかったことから、L字に並ぶ5号ピット列とし、18号建物は南辺の柱穴が住居のピットである可能性が高いことから6号ピット列とした。また、7号～11号の5棟の建物は、

1間×1間の建物として認識していたが、柱間寸法や柱筋の方向に不揃いなものが多く、建物としての確証を得られなかったことから、個々のピットとして報告することとした。

掘立柱建物11棟は、12号掘立柱建物を除き、竪穴住居のないところに建てられており、分布域が分かれていた。どちらが先行するかは一概にいないが、竪穴住居と同じ時期の古代の建物も含まれていると推定される。竪穴住居との新旧関係が判明したのは12号・18号掘立柱建物のみであるが、どちらも竪穴住居より古いことが埋没土層の観察から判明した。東で検出された13号掘立柱建物は主屋に庇または縁が付属した建物で中世以降のものと推定される。その他の掘立柱建物の時期は不明であった。

ピット列6基は、西半部で1基、東半部の遺構群のなかで5基が検出された。5号ピット列は時沢西組屋谷戸遺跡5号掘立柱建物の西南10mのところで、柱筋方向と一致する方向のL字状に検出された。時沢西組屋谷戸遺跡5号掘立柱建物は四隅の柱穴がL字状の特異な建物で、それを囲う施設の柱穴列を推定させる。他の5基のピット列は3基1単位で、方向はそれぞれ異なる。同じ主軸をもつ掘立柱建物や竪穴住居が周囲にあるが、具体的な関係を明確にすることはできなかった。

溝23条は、西部で3条、中央部で9条、東部で11条検出された。西部の3条は小規模で出土遺物もなく、性格や時期を明らかにすることはできなかった。東部の11条のうち、1～4号溝が台地縁辺に掘られた水路と見られ、2号溝は時沢西組屋谷戸遺跡5号溝につながっている。5号溝はコの字形で何らかの区画溝と推定される。6号溝は前橋市と旧富士見村の境で検出された土地区画溝である。13号掘立柱建物と重複しているが、その時期は出土遺物から9世紀の可能性がある。7号・8号・11号溝は細いが長く掘られている溝である。時期・性格ともに明らかにできなかった。

中央部の9条のうち12号・13号・16号・17号溝は1号道路のいずれかの時期の側溝と推定される。この4条の溝と後述する18号溝は1号道路の付属溝として、第5章で報告する。14号・15号溝は1号道路と交わる、古い溝

である。北側は時沢西組屋谷戸遺跡15号溝につながっていた。18号溝は1号より新しい不定型の掘り込みの中で溝状にとらえられた部分である。この不定型な掘り込みは1号道路東側でも検出されている。1号道路の西側には後述する大型の溜井がつくられていた。不定形掘り込みも溜井として整備される部分であった可能性もある。

土坑76基は、竪穴住居や掘立柱建物群のなかで全体に散在していたが、中央部の西半部には比較的土坑の分布は少なかった。本書では形態や規模で、①円形大型、②円形中型から小型(直径1.49m～0.62m漸移的に変化)、③楕円形(長軸1.86～0.48m)、④隅丸方形、⑤長方形、⑥不整形の6種類に分けて報告する。

円形大型とした58号・61号土坑は深さ0.78m、0.89mと深く、西部の近接した位置で検出された。②の中型～小型の円形土坑がいずれも浅いのは大きく異なる。37号土坑は深さ0.37mとやや浅いものの埋没状態は58号・61号土坑と同様である。その位置は東部にあり離れている。また、楕円形で最大の57号土坑は深さ0.87mで、58号・61号土坑と近接した位置で検出された。58号土坑は12号掘立柱建物P1と重複しており、土坑の方が古いことが分かっている。また西側の9号住居(9世紀前半)と近接しており、時間差があることは明らかである。したがって、これらは古代の遺構であることは間違いないと考えられる。④隅丸方形、⑤長方形の中にも53号土坑や71～73号土坑、54号土坑のように深さのある定型的な土坑が含まれている。しかし、出土遺物が少ないことから、その時期や性格を明らかにできた土坑は少なかった。

ピット270基も竪穴住居や掘立柱建物群のなかで全体に散在していたが、中央部の西半部には一部を除いてピットの分布は少なかった。ピットはすべての平面図および断面図を記録することはできなかったので平面図のみを記録し、掘立柱建物の柱穴ととらえられるものや、他の遺構との重複関係が認められるものを除き、埋没土は分類して記号で記録した。

溜井1基は、中央部南西端で検出された。南部で1号道路と重複するとみられるが、南端壁の観察では1号溜井の方が古いと認められる。3か所に湧水部があり、中央の溝によって南南西方向に導水されていた。時期は出土遺物から8世紀前半から使用され始め、9世紀後半まで機能していたと考えられる。遺跡東側の帯状低地(無

名沢)では古代の水田面は検出されていないが、低地内の水田用水を補うために掘られた可能性が最も高い。一方、遺跡内中央は凹地となっており、発掘区域南側に埋没沖積地が形成されている可能性もある。古代には台地上の水田の開発も進行しており、台地上凹地の灌漑用水として使われた可能性も考え得る遺構である。

道路跡1基は上町遺跡中央部から時沢西組屋谷戸遺跡の中央やや東側へ延びる遺構である。新しい不定型な掘り込みによって壊されているが、両側側溝を伴う古代道路跡である。時期は溝からの出土遺物から、8世紀後半から9世紀にかけて機能していたと推定される。1号道路は硬化面の位置や層位が一定でないことから、適宜修復を繰り返したものと推定され、上記の期間道路として機能していたと考えられる。道路跡については第5章で報告する。

第2節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴住居

上町遺跡1号住居

(第11・12図 PL. 3・4 遺物観察表P.326)

グリッド 33区A・B17・18

形状 南東部を4号溝に壊されているため全体形状を記録できなかったが、隅丸の長方形と推定される。

重複 11号住居・2号ピットより新しく、4号溝より古い。

規模 長軸3.48m以上 短軸3.7m 残存壁高0.26m

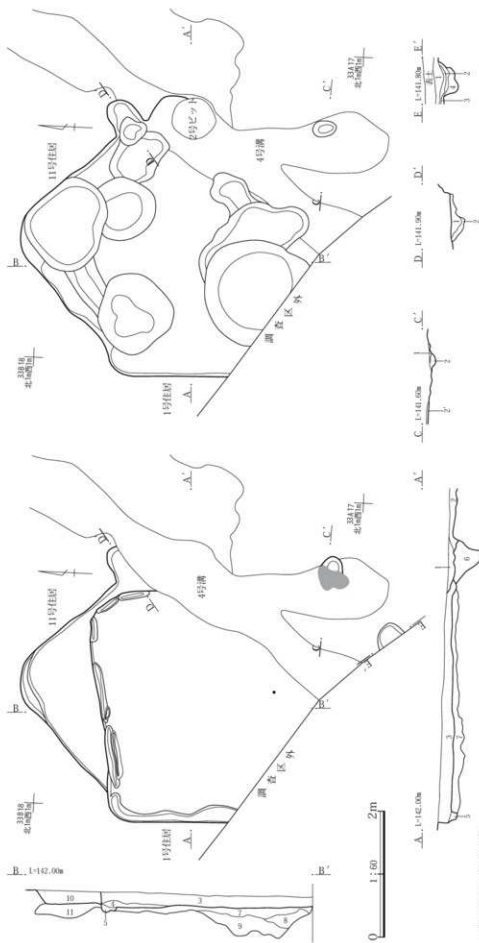
面積 計測不能 長軸方位 N-8°-W

埋没土 ローム塊、As-C、Hr-F A軽石をやや多く、焼土粒を少量含む黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。

竈 住居南東部が壊されていたために、竈の残存状態はきわめて悪かったが、竈東端の落ち込みと焼土が残っており、竈の位置と推定された。竈の出土遺物はなかった。

柱穴 床面および掘り方面ともに主柱穴と思われるピットを検出できなかった。

周溝 周溝は途切れ途切れであったが、壁が残存していた北東隅から北壁、西壁北半にかけて全体に検出された。幅は概ね12～20cm、深さは4～12cmである。



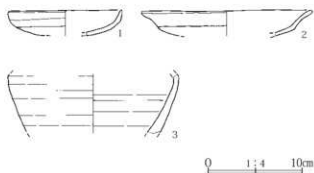
上町1号住居 SPa-A' B-B'
 1. 黒褐色土(100R2/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む、しまりあり。(4号溝埋設土)
 2. 黒褐色土(100R2/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
 3. 黒褐色土(100R2/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。焼土粒を少量含む。
 4. 黒褐色土(100R2/3)ローム塊を多く含む、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む、やや粘性あり。
 5. 黒褐色土(100R2/3)ローム塊を非常に多く含む。(埋溝埋設土)
 6. 粘土、黒褐色土(100R4/2)ローム塊を非常に多く含む、焼土塊、灰を少量含む。(2号ビッド埋設土)
 7. 黒褐色土(100R2/3)ローム塊を非常に多く含む、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
 8. 褐色土(100R4/3)ローム塊(直径50mm以下)を非常に多く含む。
 9. 黒褐色土(100R2/2)ローム塊を多く含む。
 10. 黒褐色土(100R2/2)ローム塊を多く含む、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む、焼土粒をわずかに含む。(11号住居埋設土)
 11. 黒褐色土(100R2/2)ローム塊を非常に多く含む、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む、かたくしまっている。(11号住居掘り方埋設土)

上町11号住居 覆 SPr-D'
 1. 黒褐色土(100R2/2)ローム塊、灰、焼土塊をやや多く含む。(掘り方)
 2. 黒褐色土(100R2/2)ローム塊を非常に多く含む、焼土塊をわずかに含む。(掘り方)

上町1号住居 覆 SPC-C'
 1. 黒褐色土(100R2/3)ローム塊を多く含む、焼土粒を少量含む。
 2. 黒褐色土(100R2/3)ローム塊、焼土塊を多く含む。
 2. 2. 黒土に灰をやや多く含む。

上町1号住居 新堀穴 SPr-E'
 1. 黒褐色土(100R2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)、焼土塊をやや多く含む。
 2. 黒褐色土(100R2/1)軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
 3. 黒褐色土(100R2/3)ローム塊、焼土粒をわずかに含む。
 4. 黒褐色土(100R2/3)ローム塊をやや多く含む、焼土粒をわずかに含む、粘り、しまりあり。

第11図 上町遺跡1号・11号住居跡面・掘り方面



第12図 上町遺跡1号住居出土遺物図

貯蔵穴 竈の南西0.9mのところまで長径0.58m、短径0.28m以上、残存深0.29mの楕円形の土坑が検出され、その位置から貯蔵穴と推定される。ローム粒、焼土粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。出土遺物はなかった。

床面 床面は平坦であった。

掘り方 掘り方面は重複する11号住居の掘り方面と同時に調査・図化したために境界部についてはうまく形状をとらえられなかった。南東部がやや深く掘り込まれている。北壁沿いに不整形形の皿状の掘り込みは見られたが、明瞭な床下土坑の掘り込みは検出されなかった。北東隅で2号ピットが検出されたが、住居より古いと観察された。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第12図1)、土師器皿(2)、須恵器長頸壺(3)が出土した。また、埋没土中から土師器杯類破片50点、壺・甕類破片118点、須恵器杯・碗類破片7点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀前半の住居と考えられる。

上町遺跡11号住居

(第11図 PL. 3・4)

グリッド 33区A・B18

形状 床面の大半を1号住居と4号溝に壊されているため全体形状を記録できなかったが、方形と推定される。

重複 1号住居・4号溝より古い。

規模 長軸2.75m以上 短軸2.6m以上 残存壁高0.24m

面積 計測不能 **長軸方位** N-44°-W

埋没土 上層はローム塊を多く含み、As-C、Hr-F A軽石を少量、焼土粒をわずかに含む黒褐色土、下層はローム塊を非常に多く含み、As-C、Hr-F A軽石を少量含

む、かたくしまった黒褐色土(10YR2/2)で埋まっていた。自然埋没と判断された。

竈 住居北東壁に竈が構築されていたが、東半分は4号溝に壊されていた。確認長0.52m、焚口幅0.32m以上。袖の残存は見られなかった。

柱穴 主柱穴は検出されなかった。底面は平坦である。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は平坦である。

掘り方 掘り方面は北隅が掘り込まれていたが、明確な床下土坑ではない。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物がなかったことから時期は確認できなかった。

上町遺跡4号住居

(第13~15図 PL. 4・5・101 遺物観察表P.326)

グリッド 33区C・D18・19

形状 西壁の一部が攪乱によって壊され、南西隅が調査区外となることから、全形をとらえられなかったが、長方形と推定される。

重複 無し

規模 長軸5.68m 短軸4.4m 残存壁高0.23m

面積 計測不能 **長軸方位** N-0°-E

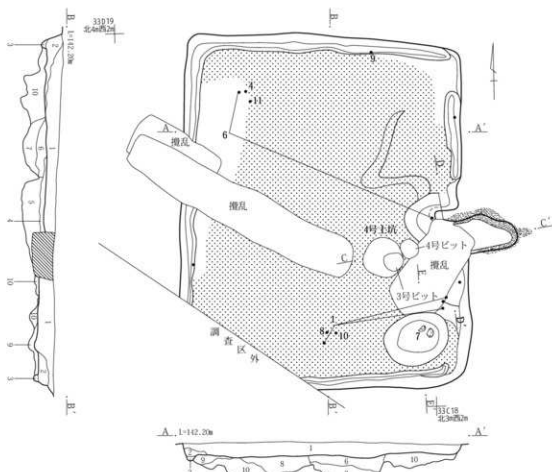
埋没土 As-C、Hr-F A軽石を多く含み、ローム塊、焼土塊を少量含む黒褐色土で埋まっていた。壁沿いにはAs-C、Hr-F A軽石、ローム塊をやや多く含む軟質の黒褐色土が堆積していた。自然埋没と判断された。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。竈燃焼部も攪乱によって壊されていたが、確認長1.04m、焚口幅は0.5mほどと推定される。袖の残存長は向かって右側は欠損、左側が0.4mほどである。壁外に1.08mの煙道が伸びる。竈使用面には灰が広がっていた。遺物は須恵器破片が1点出土した程度である。

柱穴 床面・掘り方面ともに明瞭な主柱穴は検出されなかった。掘り方面では後述するような壁に平行する柱筋をもつピット状の遺構6か所が想定でき、これが構造的な柱穴とも考えられる。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 南東隅に長径1.05m、短径0.83m、深さ0.23m



上町4号住居 SPA-A' B-B'

- 1.黒褐色土(10YR2/3)軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。ローム塊、焼土塊を少量含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)、ローム塊をやや多く含む。軟質。やや粘性あり。
- 3.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。軟質。(四隅埋没上)
- 4.黒褐色土(10YR3/3)ローム塊、焼土塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。かたくしまっている。(階床)
- 5.暗褐色土(7.5YR3/4)ローム塊、焼土塊を非常に多く含む。やや粘性あり。(1号床下土坑埋没上)
- 6.黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、焼土塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。(2号床下土坑埋没上)
- 7.黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。(2号床下土坑埋没上)
- 8.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
- 9.褐色土(10YR4/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊を少量含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。
- 10.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。



上町4号住居 階 SPC-C' D-D'

- 1.暗褐色土(10YR3/4)ローム塊、焼土塊をやや多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。
- 2.褐色土(10YR4/4)ローム塊を主体とし、焼土塊を非常に多く含む。灰を少量含む。(崩落した埋没天井部土砂)
- 3.暗褐色土(10YR3/3)焼土塊を多く含む。ローム粒、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
- 4.暗褐色土(10YR3/4)ローム塊、焼土塊をやや多く含む。(掘り方)
- 5.暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。(住居埋没上)
- 6.褐色土(10YR4/4)ローム塊を主体とし、暗褐色土塊、軽石(As-C, Hr-FA)、焼土塊を少量含む。(竈袖)
- 7.黄褐色土(10YR5/6)夾雑物を含まないローム土。大半が焼土化している。(竈袖)
- 8.暗褐色土(10YR3/4)ローム塊、焼土塊を少量含む。灰をわずかに含む。(竈袖)
- 9.暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。(住居掘り方埋没上)
- 10.褐色土(10YR4/4)ローム塊、焼土塊を多く含む。灰を少量含む。(住居掘り方埋没上)
- 11.褐色土(10YR4/4)ローム塊、焼土塊を非常に多く含む。(住居掘り方埋没上)



3号ピット SPC-C'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。ローム粒、焼土粒をわずかに含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)、ローム塊をやや多く含む。
- 4号ピット SPC-C'
- 1.暗褐色土(10YR3/3)軽石(As-C, Hr-FA)、ローム粒をやや多く含む。焼土粒をわずかに含む。
- 4号土坑 SPC-C'
- 1.黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム粒、焼土粒をわずかに含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)、焼土粒をわずかに含む。

0 1:60 2m

第13図 上町遺跡4号住居床面図

第4章 上町遺跡の遺構と遺物

のほぼ楕円形の貯蔵穴が検出された。中央部に須恵器杯(第15図7)の大型破片が出土した。

床面 床面は平坦である。掘り方面の凹凸の影響でやや凹凸が著しかった。

掘り方 掘り方面は四隅およびそれをつなぐ四辺の壁沿いを深く掘る形で掘られていた。またやや深い楕円形の1号・2号床下土坑が掘られていた。1号床下土坑は中央で検出された。長径1.30m、短径1.08m、深さ0.37mの楕円形。断面形はU字形で、底面は平坦である。2号床下土坑は中央やや北側で検出された。長径1.30m、短径1.10m楕円形。断面形はU字形で、底面は平坦である。

床下土坑はいずれもローム塊、焼土塊を非常に多く含み、やや粘性がある暗褐色土や、ローム塊、焼土塊を多く含み、As-C、Hr-F A軽石をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。

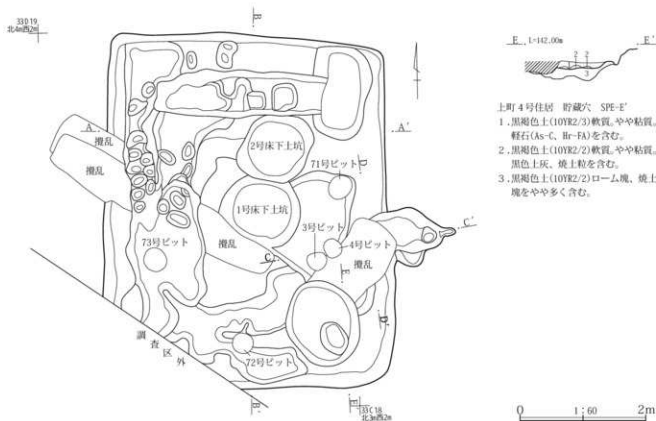
また、掘り方では壁に平行する柱筋をもつビット状の

遺構6か所が想定できた。4号、72号、73号ビットは住居に伴うビットである可能性がある。

遺物と出土状況 床面近くの遺物は住居の周囲から出土した。土師器杯(第15図1)は貯蔵穴の周囲の床面直上から出土した破片が接合している。須恵器椀(10)は貯蔵穴西側の床面上14cmで出土した。北壁沿いの周溝内からは須恵器鉢(9)、北西部床面直上で須恵器の椀(11)と蓋(4)が破片で出土した。また埋没土中から土師器杯(2)、皿(3)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片20点、壺・甕類破片98点、須恵器杯・椀類破片13点、瓶・甕類破片1点が出土した。

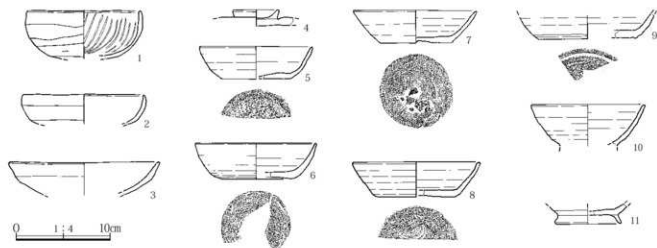
所見 出土遺物から8世紀後半の住居と考えられる。



第14図 上町遺跡4号住居掘り方面図

上町4号住居 貯蔵穴 SPE-E'

1. 黒褐色土(10YR2/3)軟質、やや粘質、軽石(As-C、Hr-Fa)を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)軟質、やや粘質、黒色上灰、焼土粒を含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、焼土塊をやや多く含む。



第15図 上町遺跡4号住居出土遺物図

上町遺跡5号住居

(第16～18図 PL. 5・6・101・102 遺物観察表P.326・353・355)

グリッド 43区D・E 1、33区D・E20

形状 北壁西半がやや膨らんでいるが、概ね長方形である。

重複 6号住居・13号住居より新しい。

規模 長軸4.75m 短軸径4.27m 残存壁高0.21m

面積 14.92㎡ 長軸方位 N-0°-E

埋没土 As-C、Hr-F A 軽石をやや多く、ローム塊、焼土塊、炭化物を少量含む黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。

竈 住居東壁やや南側に竈が構築されていた。確認長0.76m、焚口幅0.50m。袖の残存長は向かって右側が0.30m、左側が0.40m。壁外に0.50m煙道が伸びる。

向かって右側の袖には大型の円礫が、左側の袖には角礫が芯に使われていた。また燃焼部中央には棒状の円礫が支脚として立てられていた。

竈前の床面には焼土が広がり、燃焼部中央および竈前床面には土師器表破片(第16図15)が床面直上で出土した。

柱穴 床面・掘り方面ともに支柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 竈右の東壁の一部と北壁西半の一部を除き、周溝はほぼ全周する。幅は概ね10～16cm、深さは8～13cmほどである。北東壁周溝の底面上13cmで、鉄製刀子(22)が出土した。

貯蔵穴 床面では明確に検出されなかったが、掘り方面の南東隅に長径0.72m、短径0.46m、深さ0.06mの楕円形の土坑が検出され、その位置から、これが貯蔵穴の可

能性がある。遺物は出土しなかった。

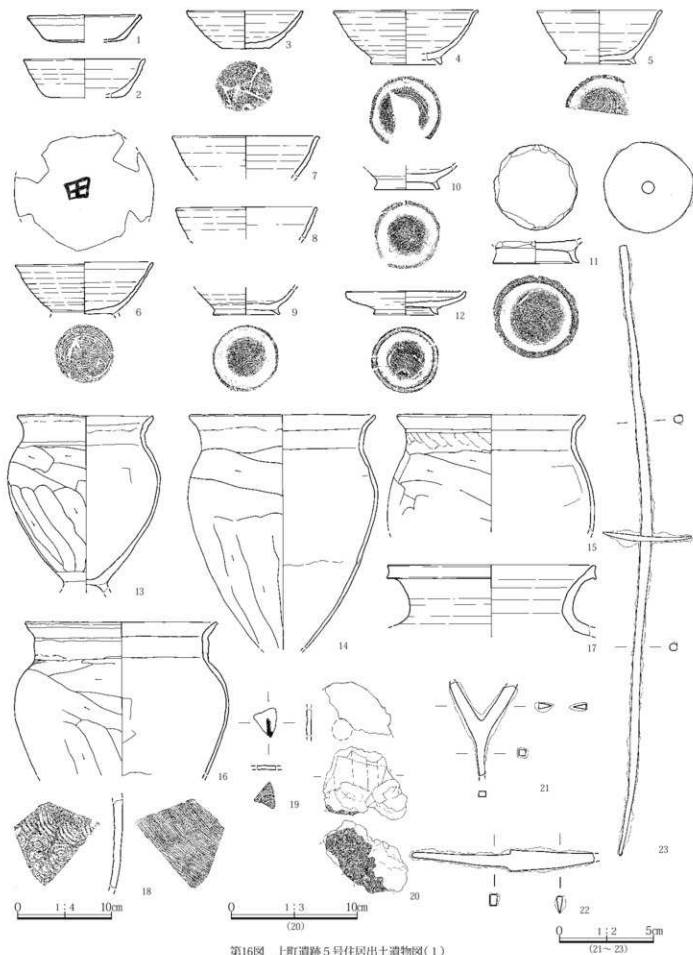
床面 床面は床面下の土坑の掘り込みに影響され、やや凹凸があった。竈周辺は硬化していた。

掘り方 掘り方面は、東壁沿いが円形に、南壁沿いが帯状に深く掘られていた。竈前に長径0.57m、短径0.47m、深さ0.27mの楕円形の1号床下土坑が検出された。1号床下土坑は当初、下位に検出された13号住居の柱穴と記録したが、出土した土師器表(第16図13)の時期から、5号住居の床下土坑と判断した。13はほぼ完形の土師器台付表である。

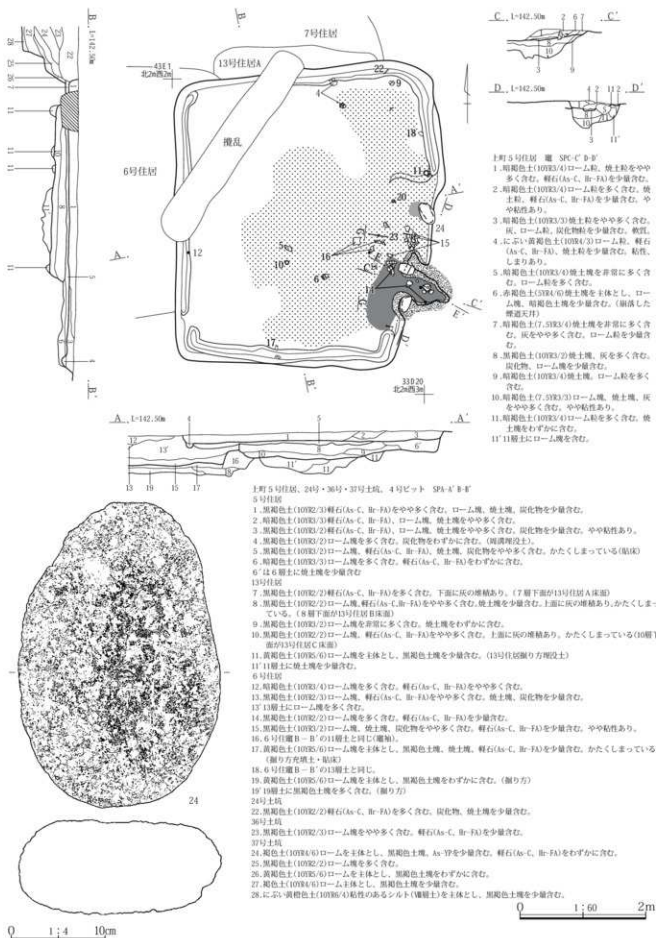
遺物と出土状況 遺物は竈左袖周辺から北東壁、北東隅にかけてに集中して出土した。床面から浮いた遺物もあったが、概ね住居の出土遺物と考えられる。竈左袖脇や前からは土師器表(第16図15・16)、鉄製紡錘車(23)が床面直上で出土した。鉄製紡錘車はほぼ完形である。東壁北半部周溝内縁では須恵器円盤状土製品(11)が床面上14cm、須恵器大甕破片(18)が床面上10cmで出土した。北東隅では先述した鉄製刀子の他、須恵器椀(9)が床面上12cmで出土した。また、北壁際で須恵器椀(4)が床面直上で出土した。住居南西部では須恵器椀(5)が床面上5cm、10と17は床面直上で出土した。埋没土中から土師器杯(第16図1・2・3)が出土した。掘り方埋没土中から雁又形の鉄鎌(21)、須恵器椀(8)、須恵器杯(19)が出土した。

また、本住居からは竈左袖脇の壁際で粗粒輝石安山岩の台石(第17図24)や位置は不明となったが床面直上から敲石が出土した。また、竈左わき床面直上で羽臼破片

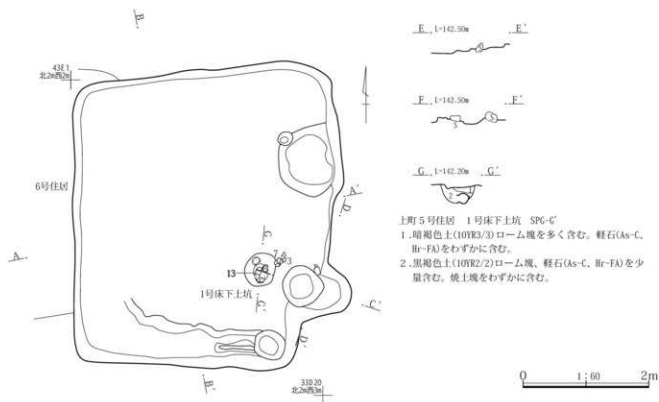
第4章 上町遺跡の遺構と遺物



第16図 上町遺跡5号住居出土遺物図(1)



第17図 上町遺跡5号住居出土遺物(2)・床面図



第18図 上町遺跡5号住居掘り方面図

(20)も出土した。台石の両面は敲打痕跡があり、表面にはいわゆる「粘土汁」の使用を想起させる黒色付着物があった。裏面は黒く煤けていた。台石のすぐ西側には長径2cmほどの土砂を噛み込んだ鉄滓1点(PL.102-25)が出土している。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片35点、壺・甕類破片260点、須恵器杯・椀類破片6点、瓶・甕類破片3点、粗粒輝石安山岩製の敲石1点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀中葉の住居と考えられる。他の住居より鉄製品の出土量が多いことや、台石・鉄滓の出土は鉄生産関連を想定させるが、実際の遺構としてはとらえられなかった。

上町遺跡6号住居

(第19~21図 PL.7・8・102 遺物観察表P.327・355)

グリッド 43区E・F1、33区E・F20

形状 南壁の一部が壊されているが長方形である。

重複 5号住居より古く、13号住居より新しい。

規模 長軸5.18m 短軸3.68m 残存壁高0.5m

面積 15.05㎡ **長軸方位** N-74°-E

埋没土 上層はローム塊を多く含み、As-C、Hr-F A軽石をやや多く含む暗褐色土で、下層はローム塊、As-C、Hr-F A軽石をやや多く含み、焼土塊、炭化物を少量含む黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長1.27m、焚口幅0.67m。袖の残存長は向かって右側が0.35m、左側が0.47m。壁外に0.12m燃焼部が伸びる。竈燃焼部から竈前の床面には灰が広がっていた。焚口部使用面直上で土師器甕(第19図11)が出土した。また土師器杯(2)が竈前床面直上で出土した。

柱穴 主柱穴と思われるピットは床面および掘り方面でも検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 南東隅に長径0.66m、短径0.61m、深さ0.39mのほぼ円形の貯蔵穴を検出。壁に相対する南西脇は高さ4cm、幅21cmの粘土帯で貯蔵穴の周囲を囲っていた。

床面 床面は床下土坑の影響を受けて凹凸が見られた。

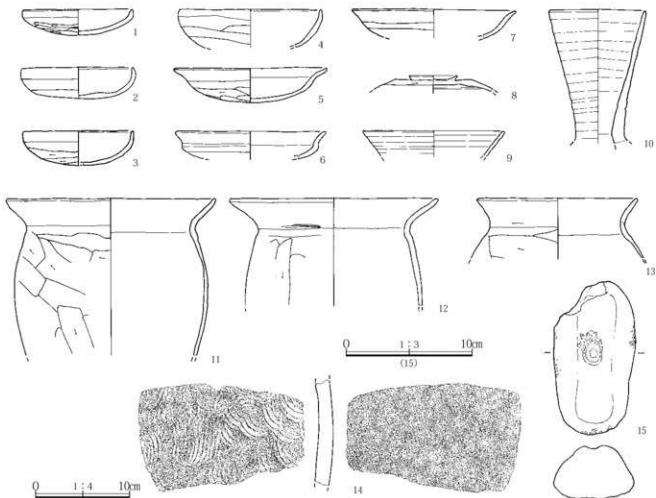
掘り方 掘り方は南壁沿いと北西隅がやや深く掘られていた。2基の床下土坑と2基のピットを検出した。1号床下土坑は中央部で検出された。長軸1.70m、短軸1.40m、深さ0.25mの隅丸方形。断面形は箱形で、底面は平坦である。掘り方埋没土中を掘り込んで上面に貼床している。2号床下土坑は北東部で検出された。長径1.22m、短径1.18m、深さ0.29mのほぼ円形。断面形はボール状である。埋没土中から土師器杯(第19図3)が出土した。その形状から貯蔵穴の可能性もある。

1号ピットは南東部で検出された。直径0.30m、深さ0.26mの円形。断面形は筒状で、底面は平坦である。2号ピットは竈左脇で検出された。長径0.43m、短径0.34m、深さ0.20mの楕円形。断面形は皿状で浅い。

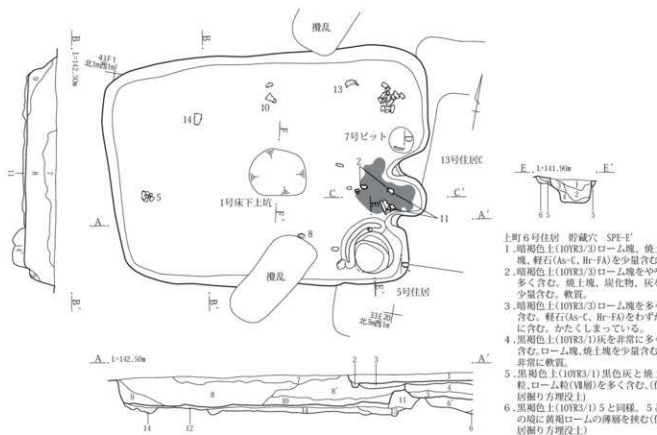
遺物と出土状況 床面近くの遺物は竈周辺に多く出土した。北東隅には棒状礫が14点まとまって床面直上で出土した。石材は粗粒輝石安山岩9、溶結凝灰岩1、ひん岩1、チャート1、変質安山岩1、細粒輝石安山岩1点である。下位は2号床下土坑にあたる、このうち1点が敲打痕跡があり図化した(第19図15)。棒状礫は、他に竈左脇床面直上で1点、西壁際床面直上で1点が出土している。石材は粗粒輝石安山岩と黒色頁岩である。北壁近くでは床面直上で須恵器長頸壺の口縁部(10)が出土した。北東部では土師器甕(13)が床面上3cmで、南壁近くで須恵器蓋(8)が床面上6cmで出土した。埋没土中からは土師器杯(1・4)、皿(6・7)、甕(12)、須恵器椀(9)が出土している。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片35点、壺・甕類破片136点、須恵器杯・椀類破片2点、瓶・甕類破片4点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀前半の住居と考えられる。



第19図 上町遺跡6号住居出土遺物図



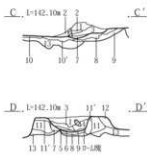
- 上町6号住居 貯蔵穴 SPE-E'
1. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、焼土塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
 2. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊をやや多く含む。焼土塊、炭化物、灰を少量含む。軟質。
 3. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。かたくしまっている。
 4. 黒褐色土(10YR3/1)灰を非常に多く含む。ローム塊、焼土塊を少量含む。非常に軟質。
 5. 黒褐色土(10YR3/1)黒色灰と焼土粒、ローム粒(薄層)を多く含む。(住居廻り方埋設上)
 6. 黒褐色土(10YR3/1)5と同様。5との境に黄褐色ロームの薄層を挟む(住居廻り方埋設上)

上町6号住居 SPA-A' B-B'

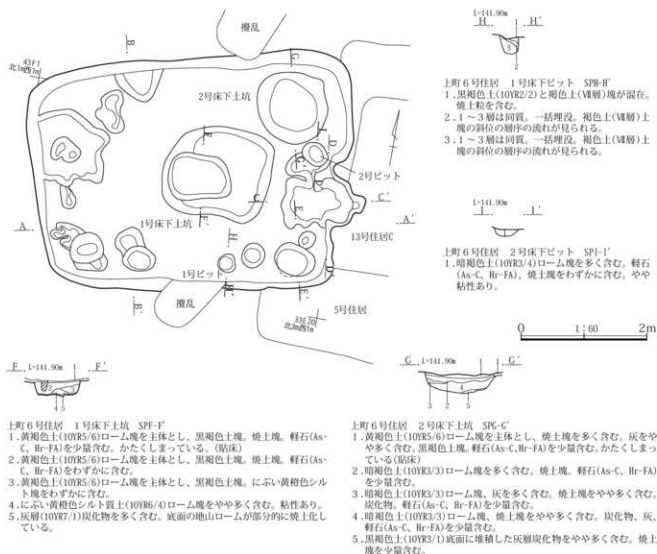
1. 黒褐色土(10YR2/3)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊、焼土塊、炭化物を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を多く含む。炭化物をわずかに含む。(四溝埋設上)
3. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)、焼土塊、炭化物をやや多く含む。かたくしまっている(陥床)
4. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。焼土塊を少量含む。上面に灰の堆積あり。かたくしまっている。(8層下面が13号住居B床面)
5. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。上面に灰の堆積あり。かたくしまっている(10層下面が13号住居C床面)
6. 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊を主体とし、黒褐色土塊を少量含む。(13号住居廻り方埋設上)
7. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
8. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。焼土塊、炭化物を少量含む。
8. 8層上にローム塊を多く含む。
9. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
10. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊、焼土塊、炭化物をやや多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。やや粘性あり。
11. 6号住居B-B'の6層上と同じ(陥床)。
12. 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊を主体とし、黒褐色土塊、焼土塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。かたくしまっている。(掘り方充填土・陥床)
13. 6号住居B-B'の8層上と同じ。
14. 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊を主体とし、黒褐色土塊をわずかに含む。(掘り方)
14. 14層上に黒褐色土塊を多く含む。(掘り方)

上町6号住居 竈 SP-C' D-D'

1. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊をやや多く含む。焼土塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を多く含む。かたくしまっている。(天井崩落土砂)
3. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊、焼土塊を多く含む。下面に灰を多く含む。(天井崩落土砂)
4. 暗赤褐色土(5YR3/6)焼土塊を主体とし、下面に灰を多く含む。(天井崩落土砂)
5. 褐色土(10YR4/4)ロームを主体とし、焼土塊を少量含む。上面と下面に灰を多く含む。
6. 灰層(10YR6/1)焼土塊、炭化物を少量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊、焼土塊をやや多く含む。灰、炭化物を少量含む。
8. 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊を主体とし、黒褐色土塊、焼土塊を少量含む。
9. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊、焼土塊をやや多く含む。灰を少量含む。
10. 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊を主体とし、黒褐色土塊、焼土塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。かたくしまっている。(陥床)
11. 黄褐色土(10YR5/6)ロームを主体とし、焼土塊をわずかに含む。かたくしまっている。(陥床)
11. 10層上が焼土化(赤褐色土5YR4/6)したもの。(陥床)
12. 黄褐色土(10YR5/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊をわずかに含む。かたくしまっている。(陥床)
13. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)、焼土塊をわずかに含む。



第20図 上町遺跡6号住居床面図



第21図 上町遺跡6号住居掘り方面図

上町遺跡7号住居

(第22図 PL.8 遺物観察表P.327)

グリッド 43区D・E 1

形状 住居の北東部しか残されていなかったため全形は把握できなかったが、方形と推定される。

重複 5号住居・6号住居・13号住居より古い。36号・37号土坑より古い。

規模 長軸3.88m以上 短軸2.87m以上 残存壁高0.15m

面積 計測不能 **長軸方位** N-67°-E

埋没土 上層はローム塊、As-C、Hr-F A 軽石をやや多く含む黒褐色土、下層はローム塊を多く含み、As-C、Hr-F A 軽石を少量含む黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。

竈 調査できた範囲の中では竈は検出されなかった。

柱穴 床面では主柱穴と思われるピットは検出されなかった。掘り方面で東壁に近い位置でピットが検出されたが、床面からの深さが0.16mであったことから主柱穴とは判断しなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

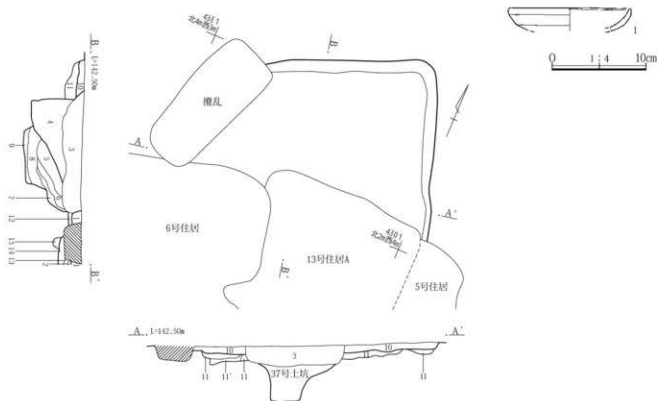
貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 住居中央部は36号・37号土坑で壊されており、床面は顕著に検出されなかった。

掘り方 掘り方面は北隅がやや深く掘られていた。

遺物と出土状況 遺物はほとんど出土しなかった。埋没土中から土師器杯(第22図1)が出土した。ここで図示した遺物以外に、土師器杯類破片4点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀前半の住居と考えられる。



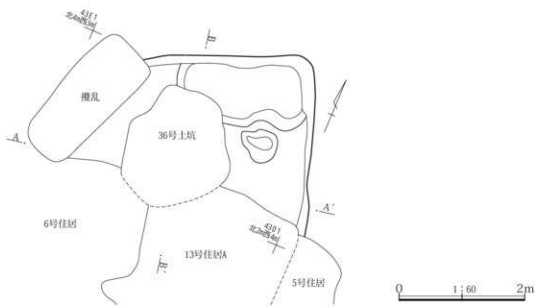
上町7号住居 SPA-A' B-B'
13号住居A

1. 黒褐色土(10YR2/3)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊、焼土塊、炭化物を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)、焼土塊、炭化物をやや多く含む。かたくしまっている(崩床)
- 36号土坑
3. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。炭化物、焼土塊を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊をやや多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
- 37号土坑
5. 褐色土(10YR4/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊、As-YPを少量含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。
6. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。
7. 黄褐色土(10YR5/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊をわずかに含む。
8. 褐色土(10YR4/6)ローム主体とし、黒褐色土塊を少量含む。

9. ぶい黄褐色土(10YR6/4)粘性のあるシルト(Ⅷ層土)を主体とし、黒褐色土塊を少量含む。

7号住居

10. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
11. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。(掘り方)
- 13号住居
12. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。下面に灰の堆積あり。(1層下面が13号住居A床面)
13. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。焼土塊を少量含む。上面に灰の堆積あり。かたくしまっている。(13層下面が13号住居B床面)
14. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。上面に灰の堆積あり。かたくしまっている(14層下面が13号住居C床面)
15. 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊を主体とし、黒褐色土塊を少量含む。(13号住居掘り方埋設上)



第22図 上町遺跡7号住居床面・掘り方面図

上町遺跡8号住居

(第23図 PL.8・9・102 遺物観察表P.327・355)

グリッド 43区F・G1・2

形状 長方形

重複 299号ピットより古い。12号掘立柱建物・13号土坑より新しい。

規模 長軸3.76m 短軸2.9m 残存壁高0.5m

面積 8.12㎡ 長軸方位 N-34°-W

埋没土 上層はAs-C、Hr-F A軽石、ローム塊をやや多く含む黒褐色土で、中層はローム塊を多く、As-C、Hr-F A軽石を少量含む黒褐色土で、下層はローム塊を多く、As-C、Hr-F A軽石をわずかに含む暗褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。

竈 住居北東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長1.00m、焚口幅0.40m。袖の残存長は向かって右側が0.42m、左側が0.52m。燃焼部と焚口を丸く囲むようにつくられていた。壁外に燃焼部および煙道が0.50m伸びる。竈前の床面には灰が広がっていた。

竈は掘り方に厚さ20cmほどの粘土を貼りつけて構築されていた。燃焼部奥の半分は天井部が残っていた。煙道が直立して上方に向かって造られていた。天井部の粘土には暗褐色土塊や焼土も含まれており、粘土のみではなかった。遺物は出土しなかった。

柱穴 床面では主柱穴は検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 竈右脇、住居南東隅に長径0.42m、短径0.38m、深さ0.57mの楕円形の貯蔵穴が検出された。西縁には幅20cm、高さ6～9cmの帯状の粘土で周囲を方形に囲っていた。遺物は出土しなかった。

床面 床面はほぼ平坦である。北側は床下の土坑に影響されて凹凸が見られた。

掘り方 掘り方は、中央やや西側に1基の土坑と、四隅のやや内側が不整形楕円形に掘り込まれていた。1号床下土坑は長径1.30m、短径1.18m、深さ0.18mの楕円形。断面形は箱形である。ローム塊を多く含む黒褐色土で埋まっていた。掘り方埋没土中から土師器杯(第23図2)が出土した。

遺物と出土状況 遺物は竈周辺と東部壁際で多く出土した。土師器杯(第23図1)は南東壁際床面上6cmで、土師器甕(3)は北部床面上28cmで出土した。また粗粒輝石安

山岩製の穀石(4)が竈左脇床面直上で出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片2点、壺・甕類破片17点、須恵器杯・椀類破片3点、瓶・甕類破片1点が出土した。

所見 床面からやや上方で7世紀後半代の遺物が出土しているが、掘り方埋没土中から出土した土器の年代から8世紀後半の住居と考えられる。

上町遺跡9号住居

(第24図 PL.10・11・102 遺物観察表P.327・355)

グリッド 43区G 4

形状 北西隅には風倒木痕跡があったが、隅丸正方形と判明した。

重複 無し

規模 長軸3.13m 短軸3.02m 残存壁高0.4m

面積 5.82㎡ 長軸方位 N-5°-E

埋没土 上層はローム塊、As-C、Hr-F A軽石をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む黒褐色土で、下層はローム塊を多く含む、As-C、Hr-F Aを少量含む黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。

竈 住居東壁中央よりやや南側に竈が構築されていた。確認長1.12m、焚口幅0.40m。袖の残存長は向かって右側が0.13m、左側が0.10m。壁外に0.30m燃焼部が、さらに0.12m煙道が伸びる。竈前の床面には灰と焼土が広がっていた。

竈は掘り方に厚さ10cm前後の粘土を貼り付け竈を構築していた。燃焼部上半部には粘土が残り天井部が残存していた。掘り方は細い溝状であった。掘り方埋没土から土師器杯(第24図2)が出土した。

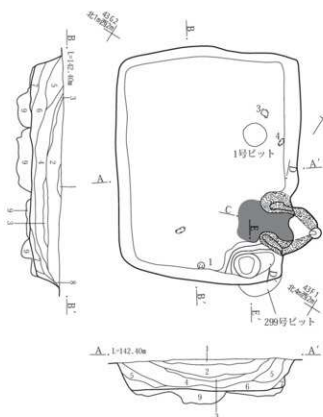
柱穴 床面および掘り方面ともに主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 竈部分を除いて全周する。幅は概ね18cm、深さは8～12cmである。竈左脇の周溝底面直上で砥沢石製の紡輪(4)が出土した。

貯蔵穴 竈右脇、住居南東隅に長径0.42m、短径0.25m、深さ0.11mの小規模な掘り込みが検出された。この位置にあることから、貯蔵穴と推定された。底面は長径0.70m、短径0.60mの楕円形である。

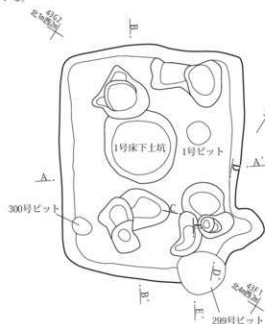
床面 床面は平坦である。

掘り方 掘り方面では北西壁際の周溝の下半部と、南壁

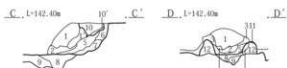


上町8号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)、ローム塊をやや多く含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊をやや多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
5. 黒褐色土(10YR2/2)黒色土塊、ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。
8. 褐色土(10YR4/4)ロームを主体とし、黒褐色土塊を少量含む。軟質。
9. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。黒褐色土塊を少量含む。かたくなっている。



第23図 上町遺跡8号住居床面・掘り方面と出土遺物図



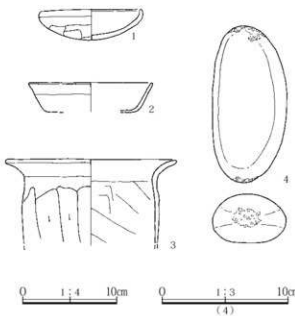
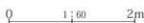
上町8号住居 掘り方面 SPC-C' D-D'

1. 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)、焼土粒を少量含む。
- 1' 1層土に焼土塊をやや多く含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。焼土塊をやや多く含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。焼土塊をやや多く含む。
4. 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊。(天井材崩落土砂の一部)
5. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、焼土塊、灰を多く含む。
6. 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒、焼土粒をやや多く含む。(押道)
7. 黒褐色土(10YR3/2)灰を非常に多く含む。ローム塊、焼土塊をやや多く含む。
8. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。焼土塊を少量含む。
9. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を非常に多く含む。
10. 褐色土(10YR4/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊、焼土塊を少量含む。(天井部)
- 10' 10層土が焼土化したもの(赤褐色土2.5YR4/6) (天井部)
11. 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒を多く含む。焼土塊を少量含む。
12. 黄褐色土(10YR5/6)ローム主体とし、黒褐色土塊を少量含む。

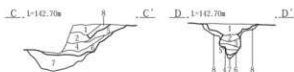
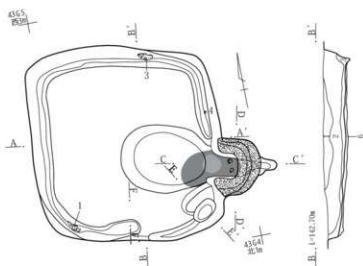


上町8号住居 貯蔵穴 SPE-E'

1. に近い黄褐色土(10YR4/3)ローム粒を非常に多く含む。As-YP, As-C 軽石をやや多く含む。炭化物を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。(11号掘立5号ピット柱痕埋没土)
3. 黄褐色土(10YR5/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊を少量含む。かたくなっている。
4. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、黒褐色土塊を多く含む。粘性あり。
5. 黄褐色土(10YR5/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊をやや多く含む。



第2節 検出された遺構と遺物



上町9号住居 竈 SPC-C' D-D'

1. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)、焼土粒をわずかに含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、焼土塊を非常に多く含む。(崩落した天井材を含む)
4. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、焼土粒、灰をやや多く含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)、焼土粒を少量含む。(煙道)
6. 黒色土(10YR2/1)灰、焼土塊、炭化物を非常に多く含む。ローム塊を少量含む。
7. 黒褐色土(10YR3/2)とローム塊(10YR5/6)の斑状混土。
8. 黄褐色土(10YR5/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊を少量含む。(天井)



上町9号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。炭化物粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)、炭化物粒、焼土粒をわずかに含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を非常に多く含む。
5. 褐色土(10YR4/4)ロームを主体とし、黒褐色土塊をわずかに含む。(壁間溝埋没土)
6. 黄褐色土(10YR5/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊を少量含む。

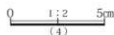
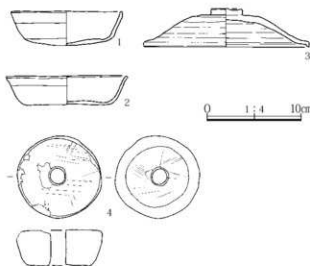
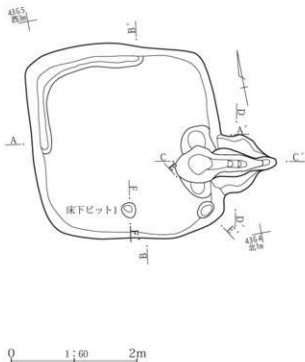
上町9号住居 貯蔵穴 SPE-E'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軟質。粘性あり。



上町9号住居 1号床下ビット SPF-F'

1. 褐色土(10YR4/6)ローム(床)
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒、炭化物をやや多く含む。軟質。



第24図 上町遺跡9号住居床面・掘り方面と出土遺物

沿いに1号ピットを検出した。長径0.25m、短径0.22m、深さ0.28mのほぼ円形。断面形はU字形で、底面は平坦である。

遺物と出土状況 遺物はほとんど出土しなかった。土師器杯(第24図1)は南西隅周溝底面直上で出土した。須恵器蓋(3)北壁周溝内底面上5cmのところ出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片7点、壺・甕類破片24点、須恵器杯・椀類破片5点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀前半の住居と考えられる。

上町遺跡10号住居 (第25図 PL.11)

グリッド 33区A18・19

形状 北壁を5号溝に切られており、残存壁高も著しく低い。全体の形状をとらえることはできなかったが、北西隅と西壁沿いに残った周溝から長方形と推定される。東壁は残っていないが、貯蔵穴と推定される土坑が南東隅にあると仮定して破線で推定した。その線上に竈と推定した土坑も一致する。

重複 5号・10号溝、62号ピットより古い。

規模 長軸4.2m以上 短軸3.6m以上 残存壁高0.02m

面積 計測不能 **西壁方位** N-0°-E

埋没土 床面近くまで削られていたために埋没土は不明である。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていたと推定される。ローム塊、焼土塊を多く含む暗褐色土で埋まった竈の掘り方と推定される土坑が検出された。土坑の規模は長径0.48m、短径0.40m、深さ0.05mである。遺物は出土しなかった。

柱穴 主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 西壁沿いに周溝底部が検出された。幅は概ね16~26cm、深さは8~12cmである。

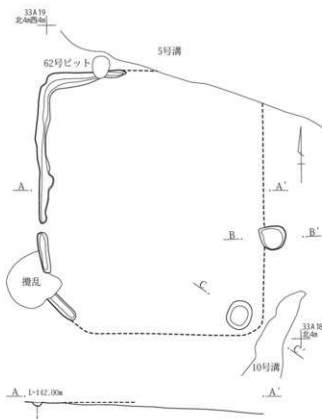
貯蔵穴 南東隅に貯蔵穴と推定される土坑が検出された。長径0.46m、短径0.38m、深さ0.21mの楕円形である。遺物は出土しなかった。

床面 床面は検出されなかった。

掘り方 明確に掘り方はとらえられなかった。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物がなかったことから、時期を確定することはできなかった。



.B., l=142.00m .B'



上町10号住居 竈 SPB-B'

1. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、焼土塊を多く含む。軽石(As-C、Hr-FA)をわずかに含む。(掘り方)

.C., l=142.00m .C'



上町10号住居 貯蔵穴 SPC-C'

1. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、焼土塊、炭化物を多く含む。やや粘性あり。
2. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C、Hr-FA)、焼土塊を少量含む。しまりあり。(掘り方埋没土)
3. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C、Hr-FA)を少量含む。(10号溝埋没土)

上町10号住居 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。炭化物、焼土粒を少量含む。

0 1; 60 2m

第25図 上町遺跡10号住居掘り方面図

上町遺跡12号住居

(第26図 PL.11・102 遺物観察表P.327)

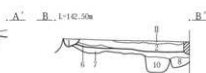
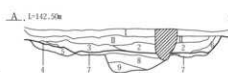
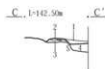
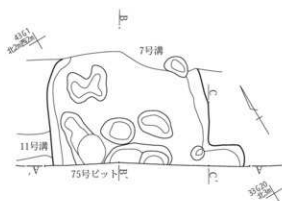
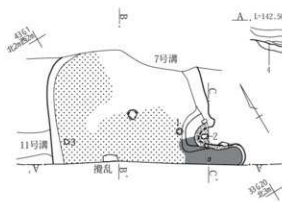
グリッド 43区G 1、33区G20

形状 北壁を7号溝に壊されており、南半分は調査区外となることから全形はとらえられなかったが、隅丸方形であると推定される。

重複 7号溝より古い。11号溝とも重複するが新旧関係は不明である。

規模 長軸1.78m以上 短軸2.5m 残存壁高0.18m

面積 計測不能 長軸方位 N-26°-E



上町12号住居 SPA-A' B-B'

I. 表土(現代の耕作土)

II. As-B層土

VI. 淡色黒ボケ土~薪移層

1. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を多く含む。軽石(As-C、Hr-FA)を少量含む。(7号溝埋没土)

2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。炭化物をわずかに含む。

3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)、焼土塊、炭化物をやや多く含む。

4. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、焼土塊を多く含む。

5. 黒褐色土(10YR2/3)

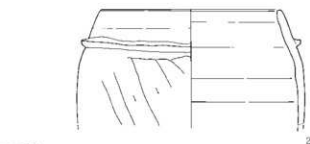
6. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。

7. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。粘性があり、かたくなっている。

8. 褐色土(10YR4/4)ロームを主体とし、黒褐色土塊をわずかに含む。軟質。

9. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を少量含む。

10. 褐色土(10YR4/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊、As-IV塊をわずかに含む。



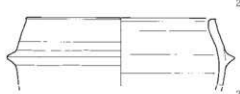
上町12号住居 竈 SPC-C'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)、焼土塊、炭化物をやや多く含む。

2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。(竈の袖)

3. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を非常に多く含む。焼土塊をわずかに含む。(竈の袖)

4. 黒褐色土(10YR2/3)



0 1:4 10cm

第26図 上町遺跡12号住居床面・掘り方面と出土遺物図

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は平坦である。竈前から西壁にかけて硬化していた。

掘り方 竈前の住居の中央にあたる部分で、やや深く掘り込んだ床下土坑2基を検出した。1基は長径0.55m、短径0.42m、深さ0.21mの楕円形で、断面形は箱形。もう1基は北半部のみ調査できたが、長径1.07mの楕円形と推定される。ロームを主体とし、黒褐色土塊をわずかに含む褐色土や、ローム塊を少量含む黒褐色土、ロームを主体とし、黒褐色土塊、As-YF塊をわずかに含む褐色土で埋まっており、人為的埋没であると判断できる。

遺物と出土状況 出土した遺物は少なかった。竈周辺その他、西壁際で須恵器羽釜破片(第26図3)が床面上9cmで出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片4点、壺・甕類破片8点、須恵器杯・椀類破片2点が出土した。

所見 出土遺物から10世紀後半の住居と考えられる。

上町遺跡13号住居

(第27・28図 PL.12・103 遺物観察表P.328・355)

グリッド 43区D・E 1、33区D・E20

形状 長方形

重複 5号・6号住居より古い。

規模 長軸2.8m 短軸2.14m 残存壁高0.23m

面積 5.10㎡ **長軸方位** N-3°-W

埋没土 上層はローム塊、As-C、Hr-F A 軽石をやや多く、焼土塊を少量含む黒褐色土(10YR2/2)で埋まっていた(8層)。上面には灰の堆積があり、硬化していた。下層はローム塊、As-C、Hr-F A 軽石をやや多く含む黒褐色土で埋まっていた(10層)。本層の上面にも灰の堆積があり、上面は硬化していた。後述するように人為的埋没の可能性がある。

竈 住居東壁中央よりやや南側に竈が構築されていた。確認長0.70m、焚口幅0.50m。袖の残存は無かった。壁外に0.55m燃焼部が伸びる。遺物は出土しなかった。

柱穴 主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は床面では検出されなかった。掘り方面の南

西側に周溝状の掘り込みが検出された。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は床下の掘り込みに影響されて凹凸が顕著に認められた。

掘り方 掘り方面では中央部に比較的大きな2基の床下土坑を検出した。上層の5号住居の床下土坑との区別は困難であった。南側の土坑は直径1.6m、深さ0.2mほどの不整形円形で、塊を主体とし、黒褐色土塊と焼土塊を少量含む黄褐色土で埋まっていた。北側の土坑は直径1m、深さ0.13mほどである。いずれも人為的埋没である。

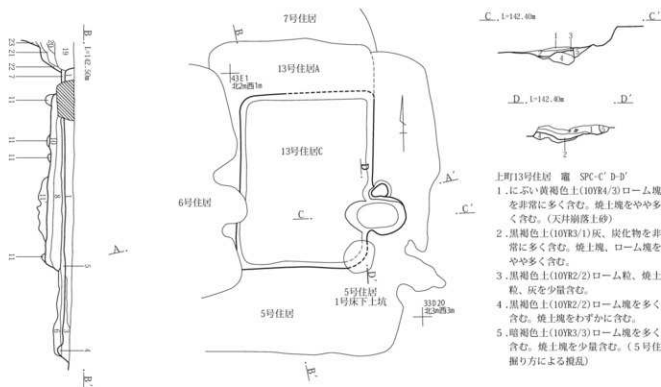
遺物と出土状況 遺物はほとんどが埋没土中から出土した。蛇紋岩製丸柄(第28図9)は13号住居A硬化面上で出土した。埋没土中から土師器杯(2)、土師器甕(6・7)、須恵器杯(5)、須恵器蓋(4)、須恵器甕(8)が出土した。また、B硬化面に連続していた竈使用面で黒色土器杯(3)が出土しているがこの土器破片と1号竈穴状遺構底面上3cmの破片が接合している。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片24点、壺・甕類破片111点、須恵器杯・椀類破片11点、瓶・甕類破片1点が出土した。

所見 埋没土中からは8世紀前半とみられる土器も出土しているが、新しい時期の出土遺物から9世紀中葉の住居と考えられる。

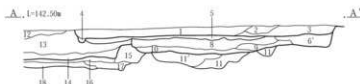
埋没土8層の上面と下面にある2枚の灰と硬化面は、調査時には床面と考え、13号住居A、13号住居Bとして記録した。しかし①13号住居Aとした上面の硬化面の広がり是不安定であること、②13号住居B硬化面と13号住居床面は10cm程度の比高があるが壁は共通していること、③東壁に認められた竈の使用面は13号住居B硬化面と13号住居床面と同レベルで認められたが、13号住居A硬化面に伴う竈は想定した地点から検出されなかった。報告では13号住居A、13号住居Bの硬化面については、①埋没途中につき固められた結果生じた可能性もあり、②竈の使用面が床面からB硬化面に継続して使用されていることから、別の住居があったのではなく、少なくとも13号住居C床面から13号住居B硬化面へ床面の貼り替えが行われた可能性があることを提起しておきたい。13号住居A、13号住居Bの硬化面は写真のみで提示し、遺構図は13号住居Cの床面を示した。

第2節 検出された遺構と遺物



上町13号住居 竪 SPC-C' D-D'

1. 薄い黄褐色土(10YR4/3)ローム塊を非常に多く含む。焼土塊をやや多く含む。(天井崩落土砂)
2. 黒褐色土(10YR3/1)灰、炭化物を非常に多く含む。焼土塊、ローム塊をやや多く含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒、焼土粒、灰を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。焼土塊をわずかに含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。焼土塊を少量含む。(5号住居方り方による掘戻)

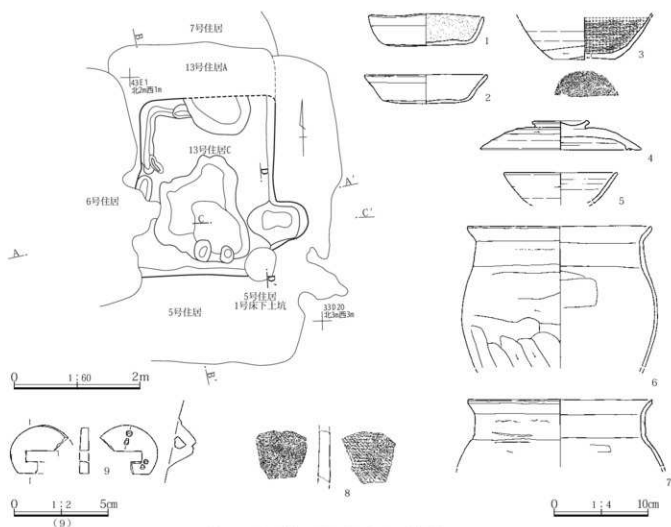


上町13号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊、焼土塊、炭化物を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3)軽石(As-C, Hr-FA)、ローム塊、焼土塊をやや多く含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2)軽石(As-C, Hr-FA)、ローム塊、焼土塊をやや多く含む。炭化物を少量含む。やや粘性あり。
4. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を多く含む。炭化物をわずかに含む。(周溝埋没上)。
5. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)、焼土塊、炭化物をやや多く含む。かたくなになっている(貼床)
6. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。
- 6' は6層上に焼土塊を少量含む
7. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。下面に灰の堆積あり。
8. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。焼土塊を少量含む。上面に灰の堆積あり。かたくなになっている。
9. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を非常に多く含む。焼土塊をわずかに含む。
10. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。上面に灰の堆積あり。かたくなになっている
11. 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊を主体とし、黒褐色土塊を少量含む。(13号住居掘り方埋没上)
- 11' 11層上に焼土塊を少量含む。
12. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
13. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。
14. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊、焼土塊、炭化物をやや多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。やや粘性あり。
15. 6号住居B-B'の11層上と同じ(竪溝)。
16. 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊を主体とし、黒褐色土塊、焼土塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。かたくなになっている。(掘り方充填土・貼床)
17. 6号住居B-B'の13層上と同じ。
18. 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊を主体とし、黒褐色土塊をわずかに含む。(掘り方)
19. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。炭化物、焼土塊を少量含む。
20. 褐色土(10YR4/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊、As-YPを少量含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。
21. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。
22. 黄褐色土(10YR5/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊をわずかに含む。
23. 褐色土(10YR4/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊を少量含む。

0 1:60 2m

第27図 上町遺跡13号住居床面図



第28図 上町遺跡13号住居掘り方面と出土遺物図

上町遺跡16号住居

(第29図 PL.12)

グリッド 33区B・C17・18

形状 北西隅のみの調査となったが、方形と推定される。

重複 34号土坑より新しい。

規模 長軸1.05m以上 短軸1.5m以上 残存壁高0.26m

面積 計測不能 長軸方位 N-1°-W

埋没土 上層はローム塊、As-C、Hr-F A軽石を少量、焼土塊をわずかに含む暗褐色土で、下層はローム塊、As-C、Hr-F A軽石を少量含む黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。

竈 調査できた範囲では、竈は構築されていなかった。

柱穴 調査できた範囲では主柱穴は検出されなかった。

周溝 調査できた範囲では周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲では貯蔵穴は検出されなかつ

た。

床面 床面は凹凸が著しかった。

掘り方 掘り方面にも凹凸が認められたが、調査できた範囲では土坑状になる遺構は検出されなかった。

遺物と出土状況 遺物はほとんど出土しなかった。埋没土中から土師器壺・斐類破片3点が出土した。

所見 埋没土中の出土遺物は小破片で、詳細な時期を判断することはできなかったが、古代の住居と考えることは可能である。

上町遺跡18号住居

(第30図 PL.13 遺物観察表P.328)

グリッド 43区K・L3

形状 西南部が調査区外となり、全形をとらえられなかったが、方形と推定される。

重複 無し

規模 長軸2.37m以上 短軸2.93m 残存壁高0.41m

面積 計測不能 **長軸方位** N-23°-E

埋没土 上層はAs-C・黄褐色土粒を含む黒褐色土で、下層は黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。

竈 調査できた範囲では、竈は構築されていなかった。

柱穴 調査できた範囲では、主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は北西隅を除き、調査できた範囲では全周していた。幅は概ね10～18cm、深さは5cmである。

貯蔵穴 調査できた範囲では、貯蔵穴は検出されなかった。

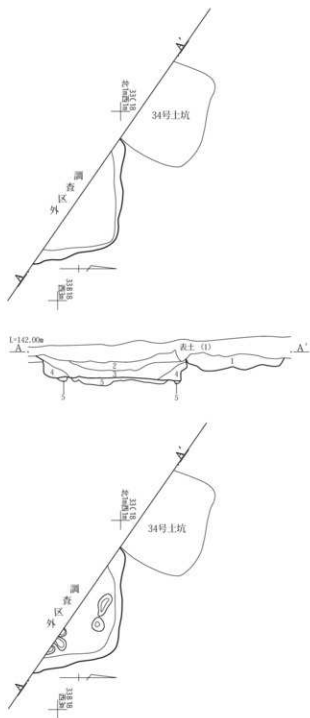
床面 床面は平坦である。

掘り方 掘り方面で1基の土坑と4基のピットを検出した。いずれのピットも直径0.2m、深さ0.2mと小規模で、柱穴とは判断できなかった。1号土坑は北西部で検出された。長径0.70m、短径0.53m、深さ0.35mの楕円形で、断面形はU字形。粘質黄褐色土塊を含む黒褐色土で埋まっていた。最上層には黄褐色土の貼床が確認できた。

遺物と出土状況 遺物は少量出土した。黒色土器碗(第30図1)は北西壁際床面上26cmで出土した。床面直上で出土した遺物はなかった。また、埋没土中から須恵器碗(2)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土器器不明破片3点、須恵器杯・腕類破片1点、瓶・甕類破片2点が出土した。

所見 出土遺物から10世紀中葉の住居と考えられる。



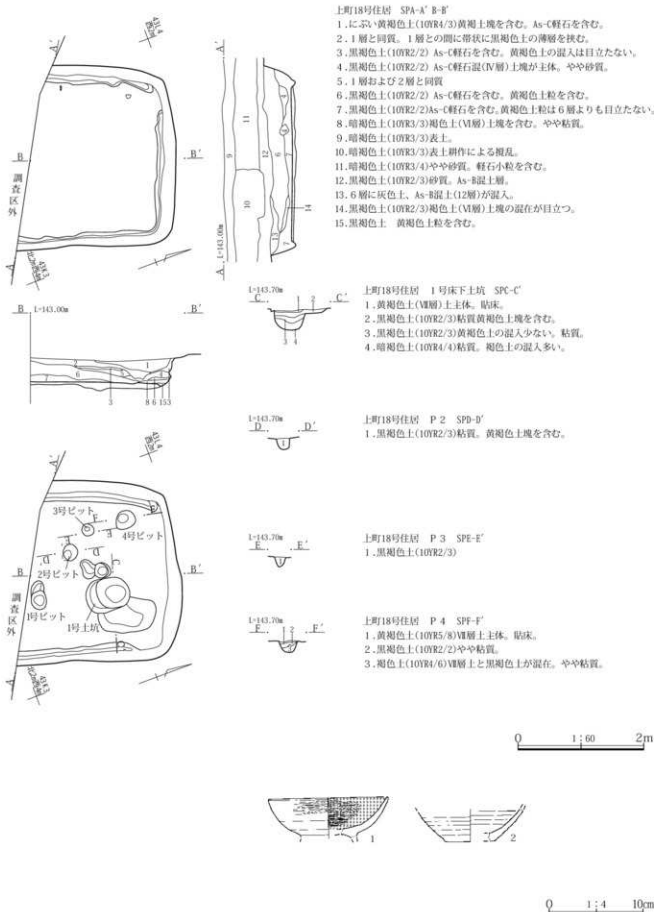
上町16号住居・34号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。(34号土坑埋没土)
2. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。焼土塊をわずかに含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軟質。
5. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。かたくなまっている。

0 1 2m

第29図 上町遺跡16号住居床面・掘り方面図

第4章 上町遺跡の遺構と遺物



上町18号住居 SPA-A' B-B'

1. 1. ぶい、黄褐色土(10YR4/3)黄濁土塊を含む。As-C軽石を含む。
2. 2. 1層と同質。1層との間に帯状に黒褐色土の薄層を挟む。
3. 3. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。黄褐色土の混入は目立たない。
4. 4. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石混(V層)土塊が主体。やや砂質。
5. 5. 1層および2層と同質
6. 6. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。黄褐色土粒を含む。
7. 7. 黒褐色土(10YR2/2)As-C軽石を含む。黄褐色土粒は6層よりも目立たない。
8. 8. 暗褐色土(10YR3/3)褐色土(V層)土塊を含む。やや粘質。
9. 9. 暗褐色土(10YR3/3)表土。
10. 10. 暗褐色土(10YR3/3)表土耕作による混乱。
11. 11. 暗褐色土(10YR3/4)やや砂質。軽石小粒を含む。
12. 12. 黒褐色土(10YR2/3)砂質。As-B混土層。
13. 13. 6層に灰色土、As-B混土(12層)が混入。
14. 14. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土(V層)土塊の混入が目立つ。
15. 15. 黒褐色土 黄褐色土粒を含む。

上町18号住居 1号床下土坑 SPC-C'

1. 1. 黄褐色土(V層)土主体。草床。
2. 2. 黒褐色土(10YR2/3)粘質黄褐色土塊を含む。
3. 3. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土の混入少ない。粘質。
4. 4. 暗褐色土(10YR4/4)粘質。褐色土の混入多い。

上町18号住居 P 2 SPD-D'

1. 1. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。黄褐色土塊を含む。

上町18号住居 P 3 SPE-E'

1. 1. 黒褐色土(10YR2/3)

上町18号住居 P 4 SPF-F'

1. 1. 黄褐色土(10YR5/8)V層土主体。草床。
2. 2. 黒褐色土(10YR2/2)やや粘質。
3. 3. 褐色土(10YR4/6)V層土と黒褐色土が混在。やや粘質。

第30図 上町遺跡18号住居床面・掘り方面と出土遺物図

上町遺跡19号住居

(第31・32図 PL.13・14・103 遺物観察表P.328・353・355)

グリッド 43区Q-11・12

形状 基本形は長方形で、西壁に張り出し部がある。**重複** 北西隅で接するように20号住居と重複する。19号住居が新しい。**規模** 長軸3.82m 短軸3.73m 残存壁高0.23m
西壁の張り出し部 幅0.7m 長さ1.48m**面積** 11.90㎡ **長軸方位** N-9°-E**埋没土** 上層はAs-Cとわずかな焼土粒を含む、やや粘質の黒褐色土で、下層はAs-C、多くの焼土粒、褐色粘質土塊を含む、やや粘質の黒褐色土で埋まっていた。その間には黒色土灰と薄層と灰白色粘土の硬化面を挟む。硬化面に連続して、床面下まで達する黄褐色土が充填された土坑が認められた。埋没過程で何らかの人為が関わっていると推定される。**竈** 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長0.73m、焚口幅0.60m。向かって左の袖は基部が0.3m残存していた。壁外に0.70m燃焼部が伸びる。竈前の床面には灰が広がっていた。竈は掘り方内に厚さ10～20cmの粘土を貼り付けて構築されていた。燃焼部底面左寄りには棒状礎が支脚として立てられていた。**柱穴** 主柱穴と思われるピットは検出されなかった。掘り方で検出されたピットが柱穴であった可能性もあるが、調査では判断できなかった。**周溝** 周溝は検出されなかった。**貯蔵穴** 貯蔵穴は検出されなかった。掘り方で南東隅に検出された1号ピットがその痕跡であった可能性もある。1号ピットの規模は掘り方で長径0.37m、短径0.32m、深さ0.18mで、ほぼ円形である。**床面** 床面は平坦である。西張り出し部には硬化した床面は認められなかったが、住居内の床面と同レベルでつながっていたことから、張り出し部は住居の付属施設と判断した。中央に見られる凹地は床面下まで達する土坑で黄褐色土が充填されていた。**掘り方** 掘り方で10基のピットを検出した。このうち2号～7号ピットは土坑状である。2号ピットは南壁際で検出された。長径1.32m、短径0.67m、深さ0.47mの楕円形。断面形は台形で底面は平坦である。少量のAs-C、黄褐色土粒、焼土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

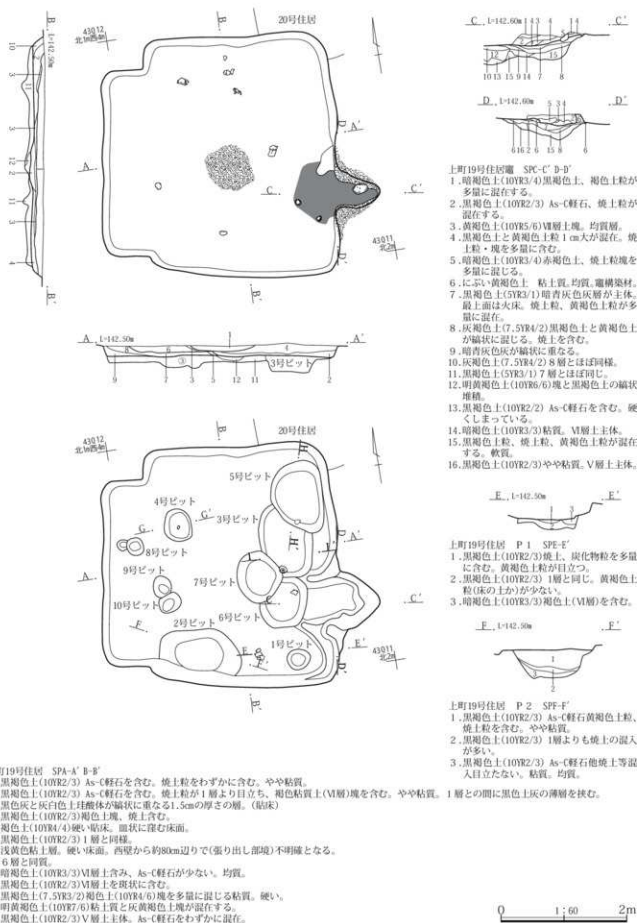
3号ピットは竈左脇で検出された。長径1.18m、短径0.83m、深さ0.21mの楕円形。断面形は台形で底面は平坦である。As-C、黄褐色土粒、焼土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。4号ピットは北西部で検出された。長径0.54m、短径0.47m、深さ0.09mの隅丸方形。断面形は台形で底面は平坦である。As-C、黄褐色土粒、焼土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から砥沢石製の紡輪(第32図13)と、須恵器蓋(7)が出土した。5号ピットは北東隅で検出された。長径1.17m、短径0.84m、深さ0.34mの楕円形。断面形は台形で底面は平坦である。As-Cを含む、やや砂質の黒褐色土で埋まっていた。6号ピットは竈前で検出された。長径0.79m、短径0.75m、深さ0.19mのほぼ円形。断面形は台形で底面は平坦である。埋没土は明黄褐色土塊と焼土粒や炭化物粒を多量に含む黒褐色土が塊状に堆積した状態であった。7号ピットは中央部、3号ピットと6号ピットと重複して検出された。長径0.83m、短径0.73m、深さ0.26mの楕円形。断面形は台形で底面は平坦である。焼土粒、黄褐色土粒が多量に含む黒褐色土で埋まっていた。8号～10号ピットは直径0.28～0.36m、深さ0.30～0.51mのピットで、9号ピット埋没土中から須恵器椀(第32図2)が出土した。

遺物と出土状況 遺物は竈前から住居北部に集中して出土した。須恵器椀(第32図5)は竈前床面直上、土師器甕(11)は竈左前床面上4cm、甕(9)は北部床面上3cm、須恵器甕(12)は北部床面上5cmで出土した。また、埋没土中から須恵器杯(3)、須恵器椀(6)、土師器甕(8)、鉄鏝(14)、鉄製刀子(15)が出土している。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片211点、壺・甕類破片819点、須恵器杯・椀類破片73点、瓶・甕類破片20点が出土した。

所見 出土遺物には8世紀の土器も混在するが、竈周辺から出土した土師器甕や須恵器椀の様相から9世紀中葉の住居と考えられる。西壁に長方形の張り出し部を付属することから重複の可能性は低い。埋没土中に皿状の灰白色土の薄い層が認められ、埋没過程で踏み固められるなどの人為が介在した痕跡と考えられる。

第4章 上町遺跡の遺構と遺物



第31図 上町遺跡19号住居床面・掘り方面図

第2節 検出された遺構と遺物

G, L=142.50m G'



上町19号住居 P 4 SPG-G'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。焼土、黄褐色土粒を含む。軟質。
2. 黒褐色土(10YR2/3)夾雑物少ない。
3. 暗褐色土(10YR4/6)やや粘質。均質。VI層上主体。
4. 黒色土(10YR2/1)夾雑物を含まない。

H, L=142.50m H'



上町19号住居 P 5 SPH-H'

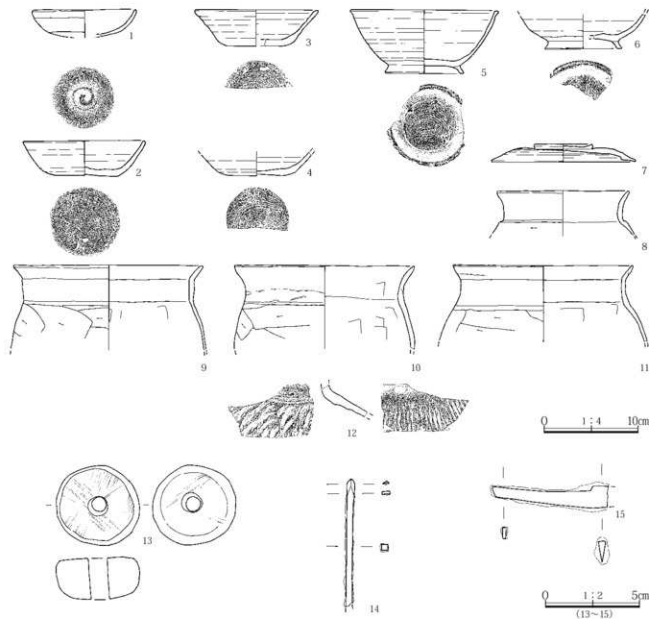
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石は1層よりも目立たない。やや粘質。

I, L=142.50m I'



上町19号住居 P 3 SPI-I'

1. 極暗褐色土(7.5YR2/3) As-C軽石を含む。焼土、黄褐色土粒を多量に含む。硬くしまった凝灰。
2. 黒褐色土(2.5YR2/3) 1層よりも焼土の混入少なく軟質。
3. 黒褐色土(2.5YR2/2)焼土、黄褐色土粒の混入は2層よりも少ない。
4. 暗褐色土(10YR3/4)VI層上主体。やや粘質。均質。
5. 黒褐色土と褐色土塊が混在し硬くしまっている。



第32図 上町遺跡19号住居掘り方土層断面と出土遺物図

上町道跡20号住居

(第33～35図 PL.14・15・103 遺物観察表P.328)

グリッド 43区P・Q12・13

形状 長方形

重複 南東隅で19号住居と接するように重複していたが、20号住居が古い。

規模 長軸6.58m 短軸5.1m 残存壁高0.56m

面積 28.30㎡ 長軸方位 N-0°-E

埋没土 上層はAs-Cと4cm以下の黄褐色土塊を多量に含む黒褐色土で、下層はAs-C、Hr-F A 軽石2cm大、黒褐色土塊、4cm以下大の黄褐色土塊を含む黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長1.45m、焚口幅0.63m。袖の残存長は向かって右側が0.50m、左側が0.60m。壁外に0.42m燃焼部が伸び、さらに煙道が0.38m伸びる。竈前の床面には灰が広がっていた。竈は掘り方面に厚さ5～10cmの粘土を貼り付けて構築されていた。両袖から天井部にかけて粘土材が比較的良好に残存していた。燃焼面も焼土・灰が混在する硬化した面が明確であった。

竈右袖裾部には土師器甕(第33図7)が床面上12cmで出土した。右袖脇には土師器杯(1)が床面上4cmで出土した。燃焼部奥には土師器甕胴部破片が出土した。

柱穴 床面で主柱穴P1・P2・P3・P4を検出した。それぞれの規模(長径×短径×深さ)は、P1が0.94×0.84×0.41m、P2が0.66×0.60×0.49cm、P3が0.95

×0.80×0.52cm、P4が0.81×0.78×0.46cmである。P2・P4には柱痕とみられる埋没土が残っていた。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

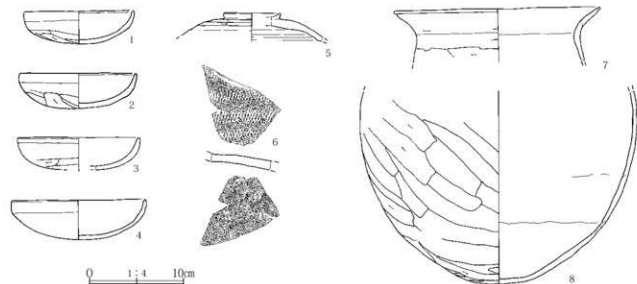
床面 床面は硬化し平坦であった。中央には床下土坑が掘られていたが、上面には焼土粒と炭化物が多量に混入した硬化面が形成されていた。

掘り方 掘り方面で竈部分を除く壁沿い幅1.4mが深さ10cmほど掘り下げられていた。また、中央部で大規模な床下土坑を検出した。この土坑は長径1.68m、短径1.33m、深さ0.38mの楕円形。断面形は箱形で底面はやや凹凸があった。直径10cm大以下の黒褐色土・黄褐色土塊を含む灰黄褐色土で埋まっていた。上層に貼床が施されていた。

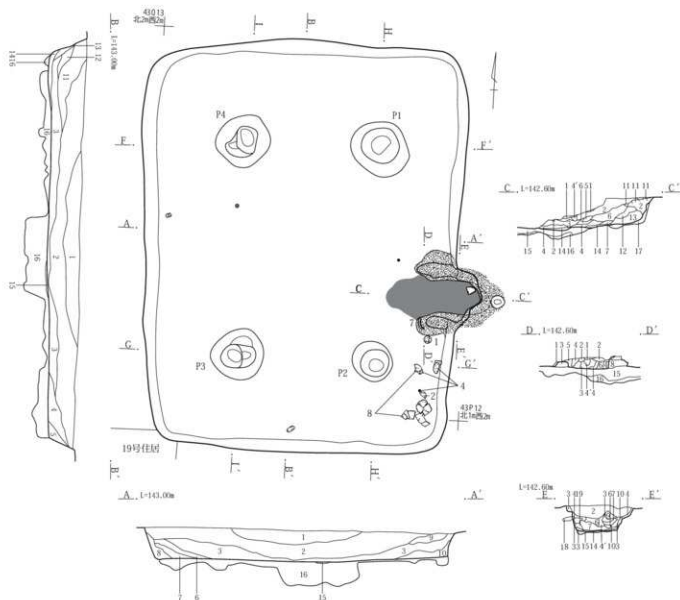
遺物と出土状況 遺物は竈周辺に集中して出土した。住居南東隅では、土師器杯(2・4)がそれぞれ床面直上、床面上7cmで出土した。また土師器甕(8)が床面直上で出土した。また、埋没土中から土師器杯(3)、須恵器蓋(5)、須恵器横瓶の可能性のある破片(6)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片95点、壺・甕類破片155点、不明破片2点、瓶・甕類破片5点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀前半の住居と考えられる。本道跡では主柱穴が検出される住居はまれであるが、本住居は明瞭に主柱穴が認められた。



第33図 上町道跡20号住居出土遺物図



上町20号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや砂質。黄褐色土(10YR5/8)、VII層土塊15cm大以下を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。黄褐色土(VI層)塊4cm大以下を多量に含む。軟質。
3. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。Hr-FA 2cm大を数点見る。黒褐色土(10YR2/2)塊。黄褐色土4cm以下大を含む。軟質。
4. 黒褐色土(10YR2/3) 3層よりも黄褐色土塊が目立つ。軟質。
5. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石混土(N層)を主体とする。軟質。
6. 暗褐色土(10YR3/3)VI層土を多量に含む。
7. 5層と同様。
8. 褐色土(10YR3/3) As-C軽石少なく、VI層土を多量に含む。軟質。
9. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含みやや砂質。3層と1層との中間。
10. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石混土、Hr-FA2cm大を見る。黄褐色土塊。焼土を含む。
11. 黒褐色土(10YR2/3) 2層と12層の中間層。
12. 黒褐色土(10YR2/2) 5層と同じ。
13. 暗褐色土 6層と同じ。
14. 黒褐色土と黄褐色土塊が平々に混じる。土質は16層と同じ。
15. 焼土粒と炭化物の混入が目立つ硬い面。土質は16層と同じ。
16. 灰黄褐色土(10YR4/2) V層、VI層、黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(VII層) 径10cm大以下混在。

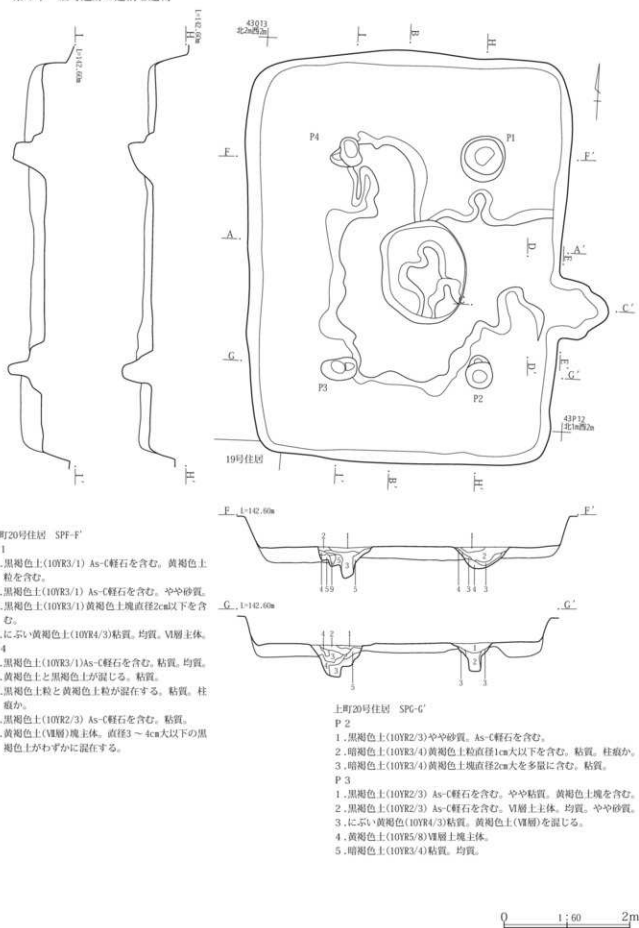
上町20号住居 竈 SPC-C' D-D' E-E'

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4)粘質。黒褐色土をわずかに混在する。
2. 黒褐色土(7.5YR3/2)黄褐色土粒、As-C軽石を含む。焼土を含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4)粘質。均質。焼土塊4cm以下大を斑状に含む。
4. 極暗褐色土(7.5YR2/3)粘質。均質。焼土粒を含む。
- 4'. 焼土。黄褐色土が混在する。
5. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黒褐色土が混在。
6. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 焼土粒1cm大を含む。
7. 極暗褐色土 焼土粒を多量に含む。
8. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土。焼土粒を含む。
9. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石混土(N層)主体。
10. 黒褐色土(5YR3/1)焼土塊直径1.5cm大以下混在。
11. 焼土塊
12. 暗褐色土(10YR3/3)粘質。黄褐粘土、焼土塊を含む。
13. 暗褐色土(10YR3/3)粘質。焼土塊を多量に含む。
14. 黒褐色土(5YR3/1) 青味のある暗灰色灰の薄層が偏状に重なる。焼土粒の薄い層も挟む。
15. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土(10YR4/4)粒を多量に含む。
16. 黒褐色土 15層よりも褐色土(VII層)塊が主体。
17. 暗青灰色灰、焼土粒。黄褐色土塊を混じる。
18. 黒褐色土 焼土粒を含む。

0 1:60 2m

第34図 上町遺跡20号住居床面図

第4章 上町遺跡の遺構と遺物



第35図 上町遺跡20号住居掘り方面図

上町遺跡21号住居

(第36・37図 PL.15・16・103 遺物観察表P.329・353)

グリッド 43区S・T11

形状 ほぼ正方形。北西隅に現代のコンクリート井戸枠が設置されて床面の一部が壊されていた。

重複 60号・61号・71号・72号土坑と重複しているが、いずれの土坑より21号住居が古い。また、19号溝と重複しているが、21号住居が古い。

規模 長軸4.16m 短軸3.76m 残存壁高0.53m

面積 12.39㎡ **長軸方位** N-O°-E

埋没土 上層はAs-Cを含む、やや砂質の黒褐色土で、下層はやや粘質で黄褐色土粒・As-Cを含む黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と推定された。

竈 住居東壁の南端に竈が構築されていた。竈は造り替えが行われており、北側の1号竈の南側に古い竈の痕跡である2号竈が検出された。

1号竈は確認長0.65m、焚口幅0.37m。袖の残存は両袖ともに5cmほど基部が残っていたのみであった。袖の残存長は向かって右側が0.72m、左側が1.03m。壁外に0.40m煙道が伸びる。焚口部中央に棒状礎が支脚として立てられていた。また、竈前の床面には大型の礎が7個散在していた。これらは竈の構築材であった可能性がある。また、焚口部上層には粘土が厚さ5cmほどの層状に残っており、天井部の一部の可能性がある。竈焚口部使用面直上で土師器鉢(第37図7)が出土した。

2号竈は1号竈の左脇で掘り方内に焼土が堆積している状態で検出された。確認長0.56m、掘り方最大幅0.33m。手前の床面にも焼土が詰まった直径15cmほどの竈底面の痕跡が認められた。遺物は出土しなかった。

柱穴 床面・掘り方面ともに主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は平坦である。南壁沿いの60号土坑との重複部分でピット2基を検出したが、床面より古い埋没状態であった。本住居に関連するかどうかの確認は得られなかった。

掘り方 掘り方で3基の床下土坑と4基のピットを検出した。1号床下土坑は西壁沿いで検出された。長径0.75m、短径0.67m、深さ0.36mの楕円形。断面形は箱形で、

底面にはやや凹凸があった。

2号・3号床下土坑は中央部で検出された。3号床下土坑より2号床下土坑が新しい。3号床下土坑が埋められてから2号床下土坑が掘られたことになる。2号床下土坑は長径0.98m、短径0.80m、深さ0.43mの楕円形。断面形は台形で、底面は平坦である。As-Cを含み、暗褐色土が斑状に混在する粘質黒褐色土で一様に埋まっていた。上層は黒褐色土と黄褐色土塊が縞状に重なり踏み固められた貼床となっていた。

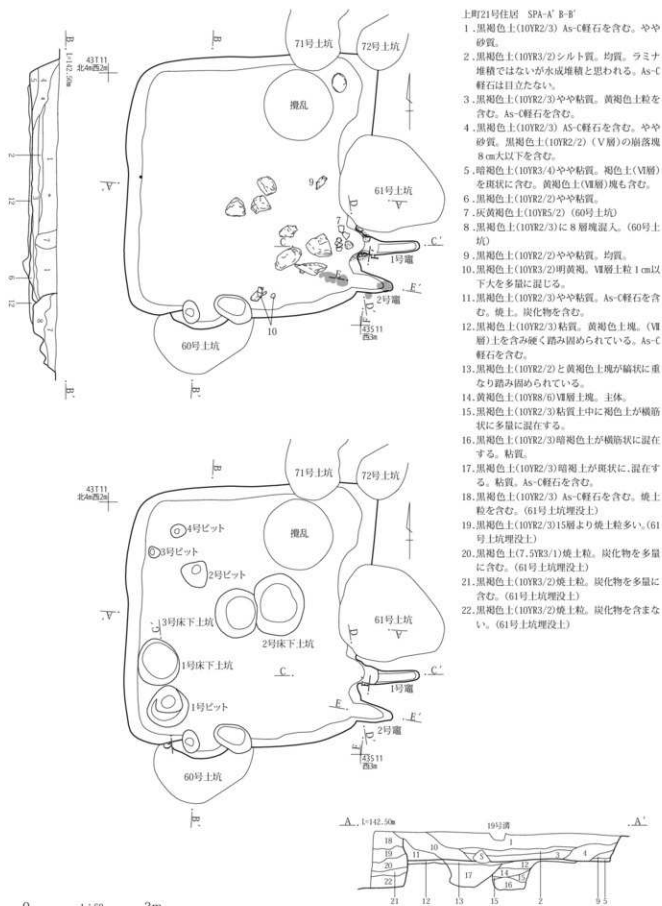
3号床下土坑は長径0.77m、短径0.70m、深さ0.48mのほぼ円形。断面形は箱形で、底面は平坦である。黄褐色土層を挟み、暗褐色土や褐色土が横筋状に混在する黒褐色土で埋まっていた。上層はAs-C、黄褐色土塊を含む粘質の黒褐色土で硬く踏み固められていた。

1号床下ピットは南西隅に検出された。長径0.64m、短径0.60m、深さ0.34mのほぼ円形。断面形は皿状で、北半部がピット状に掘り込まれていた。As-Cを含む軟質黒褐色土で埋まっていた。2号床下ピットは北西部で検出された。長径0.46m、短径0.43m、深さ0.52mのほぼ円形。断面形は筒状。検出された位置からは住居主柱穴の1基とも考えられるが、他の3基が検出できなかったことから、断定はできなかった。3号床下ピットは長径0.20m、短径0.17m、深さ0.25mのほぼ円形。断面形は筒状。4号床下ピットは長径0.24m、短径0.20m、深さ0.49mの円形。断面形は筒状。いずれも北西部で検出されたが、性格は不明である。

遺物と出土状況 遺物は竈周辺に集中して出土した。中央東壁寄り須恵器甕(第37図9)がほぼ床面直上で、須恵器羽釜(10)が南壁寄り床面上2cmで、出土した。また、埋没土中から土師器杯(1)、皿(2)、須恵器杯(4・13)、須恵器椀(6)、蓋(3)、甕(11)、横瓶(12)、刀子茎破片(14)が出土した。

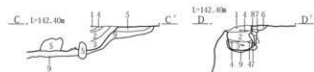
ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片171点、壺・甕類破片808点、須恵器杯・椀類破片38点、瓶・甕類破片2点、灰釉陶器破片1点出土した。

所見 出土遺物には8世紀の土器が混在しているが、竈周辺で出土した甕や羽釜の様相から10世紀の住居と考えられる。



第36図 上町遺跡21号住居床面・掘り方面図

第2節 検出された遺構と遺物



上町21号住居 1号堀 SPC-C' D-D'

- 1.黒褐色土(10YR3/2)やや粘質。As-C軽石を含む。にぶい黄褐色粘土(10YR6/4)塊を含む。礫材。
- 2.黒褐色土(10YR3/2)軟質。As-C軽石を含む。黒褐色土(V層)の薄層を弧状に挟む。
- 3.赤褐色土(2.5YR4/6)焼土塊主体。黒褐色土を含む青灰色灰層を挟む。
- 4.にぶい黄褐色粘土塊
- 5.黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。均質。地山。
- 6.にぶい黄褐色粘土塊(10YR6/4)主体。黒褐色土を混じる。(竈構築材)
- 7.黒褐色土 As-C軽石混のIV層土塊主体。均質。やや砂質。
- 8.赤褐色焼土塊主体。黒褐色土を混じる。
- 9.黒褐色土(10YR2/3)V層土主体。



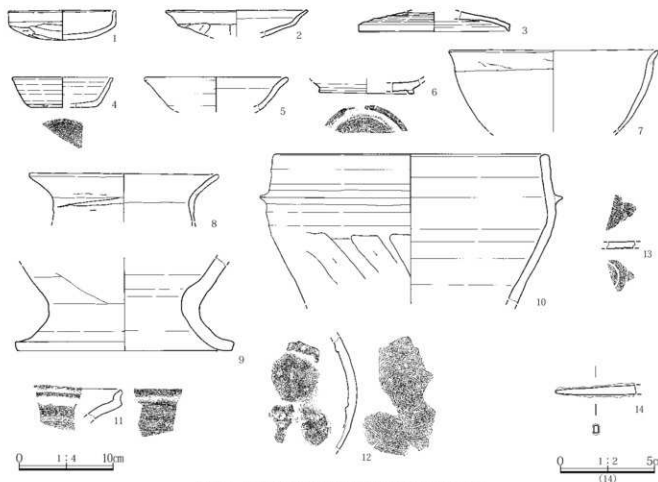
上町21号住居 2号堀 SPE-E' F-F'

- 1.黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。Hr-FAを含む。やや砂質。
- 2.黒褐色土 焼土、黄褐色シルト質土塊を多量に含む。
- 3.黒褐色土(7.5YR3/1)軟質。均質。焼土小粒を含む。
- 4.黒褐色土(7.5YR3/1)軟質。焼土小粒が混在。
- 5.にぶい赤褐色土(2.5Y5/4)シルト質の焼土帯。
- 6.黒褐色土(10YR3/2)粘質。均質。V層。



上町21号住居 P1・1号土坑 SPG-G'

- 1.黒褐色土(10YR2/3)軟質。As-C軽石を含む。
- 2.暗黄褐色土(10YR7/6)Ⅳ層土塊主体。軟質。
- 3.黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。硬く均質。やや砂質。
- 4.黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。Ⅳ層土に近い。
- 5.暗褐色土(10YR3/4)軟質。黄褐色土粒を含む。粘質。



第37図 上町遺跡21号住居掘り方土層断面と出土遺物図

上町遺跡22号住居

(第38～41図 PL.16～18・104 遺物観察表P.329・353・355)

グリッド 44区A・B12・13

形状 北西隅から西壁部は現用水路の維持のために調査区外となり全形がとらえられなかったが、正方形と推定される。

重複 南壁が24号住居と重複するが、22号住居が新しい。また竈煙道部が時沢西谷戸遺跡9号住居と重複するが、22号住居が古い。

規模 長軸7.2m 短軸6.96m 残存壁高0.61m

面積 計測不能 **長軸方位** N-8°-W

埋没土 上層はHr-F A軽石、黄褐色土粒が目立つやや砂質の黒褐色土で、下層はAs-Cを含み、黄褐色土小粒が多く混入する黒褐色土で埋まっていた。本住居は比較的深く、埋没土中に黒色灰層(6層)が帯状に堆積し、埋没土上位から8世紀の土器破片が西方向から比較的多く流れ込んでいる様子が認められた。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長1.48m、焚口幅0.79m。袖の残存長は向かって右側が0.46m、左側が0.44m。壁外に0.56m燃焼部が、さらに0.24m煙道が伸びる。竈から焚口部前の床面には厚く灰層が残されていた。竈は掘り方内面に厚さ10～20cmの粘土を貼り付け構築されていた。遺物の出土は少なく、焚口部で土師器杯破片(第38図4)が床面上6cmで出土した。竈右脇では土師器杯(2)が床面上16cmで出土した。

柱穴 主柱穴4基P1・P2・P3・P4を床面で検出した。それぞれの規模(長径×短径×深さ)は、P1が0.80×0.80×0.56m、P2が0.74×0.57×0.69m、P3が0.50以上×0.27以上×0.70cm、P4が0.75×0.74×0.71mである。P1とP4は規模が大きかった。P2の土層断面では柱痕が認められた。

周溝 周溝は調査できた範囲の中では竈右脇、北西隅の一部を除いて全周していた。幅は概ね15～20m、深さは5～9cmである。

貯蔵穴 検出された位置や埋没土、遺物の出土状態から、掘り方で検出された1号床下土坑が貯蔵穴底面と推定される。床面での規模や形状は写真(PL17-1)のみの記録となった。掘り方面では長軸1.00m、短軸0.90m、深さ0.22mの隅丸方形であった。写真記録からは長軸方向に広がるかと推定される。ほぼ中央から土師器(第38図

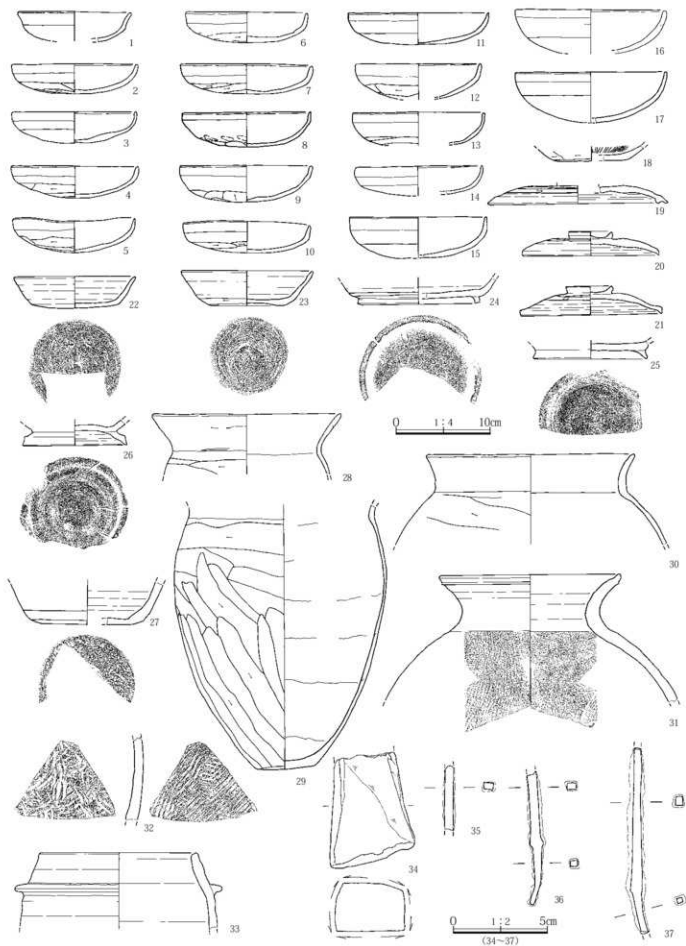
29)が正立して底面直上で出土した。

床面 床面は平坦であったが、7号床下土坑の上面では床面下の影響を受けて床面がやや凹んでいた。

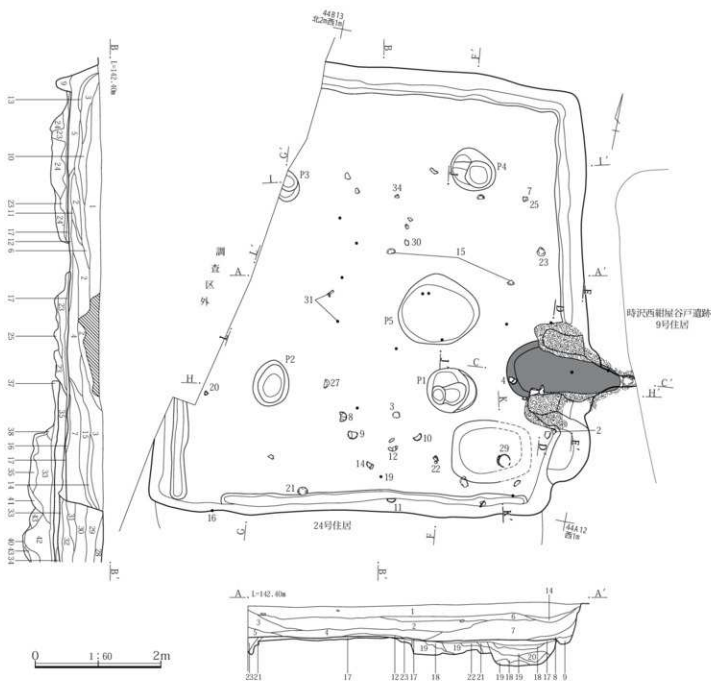
掘り方 掘り方で9基の床下土坑と4基のピットを検出した。そのうち1号床下土坑は前述の通り貯蔵穴底面と推定される。床下土坑は黒褐色土に黄褐色土、焼土塊を多量に含む土で埋まっており、一括して人為埋没と判断される。

2号床下土坑は南西部で検出された。長径1.82m、短径0.86m、深さ0.24mの楕円形で長軸は南壁に平行して掘られていた。断面形は皿状で、底面は凹凸があった。3号床下土坑は南東部で検出された。長径1.30m、短径1.13m、深さ0.31mの楕円形。断面形はU字状で、底面細かい凹凸があった。4号床下土坑は3号床下土坑の西側で検出された。西半は調査区外であった。長径0.67m、短径0.30m以上、深さ0.21mの楕円形と推定される。断面形はU字状で、底面は丸い。5号床下土坑は住居北部で検出された。長径1.48m、短径1.46m、深さ0.21mのほぼ円形。断面形は箱形で、底面は平坦である。6号床下土坑は5号床下土坑の北側に重複して掘られていた。5号が先に掘られて埋まり、その後6号が掘られて埋まり、その後両土坑の上位に貼床が施されていた。6号床下土坑は長径1.53m、短径1.34m、深さ0.28mの楕円形。断面形は箱形で、底面は凹凸があった。7号床下土坑は住居中央部で検出された。長径1.35m、短径1.13m、深さ0.40mの楕円形。断面形は箱形で、底面には凹凸があった。土師器杯(第38図17)が底面直上で、須恵器(32)が底面上21cmで出土した。8号床下土坑は7号床下土坑の北側で重複して検出された。8号床下土坑が先に掘られ埋まっていた。8号床下土坑は長径1.90m、短径1.68m以上、深さ0.20mの不整楕円形。断面形は箱形で、底面は凹凸があった。9号床下土坑は東部で検出された。長径1.70m、短径1.05m、深さ0.40mの隅丸楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦である。埋められた埋没土の単位が良好に観察できた。

4基のピットは主柱穴より規模は小さいが、深さは同様であった。不規則に散在し、その性格を明らかにすることはできなかった。それぞれの規模(長径×短径×深さ)は、P5が0.70×0.65×0.36m、P6が0.40×0.38×0.66m、P7が0.37×0.35×0.62cm、P4が0.29×0.25



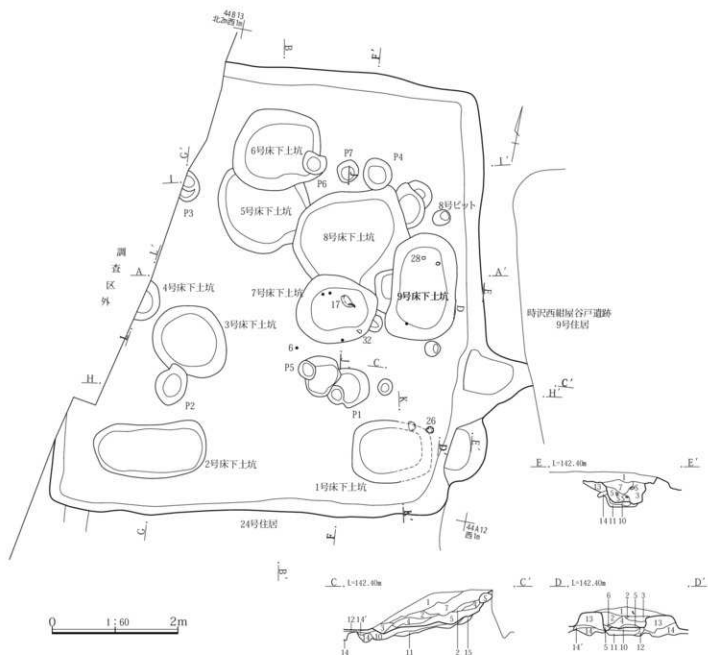
第38図 上町遺跡22号住居出土遺物図



上町22号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。Hr-FA 3cm大以下が点在。やや砂質。黄褐色土粒3cm大以下の混在が目立つ。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。Hr-FAも点在する。青灰色灰、炭化物、焼土の混在が目立つ。やや軟質。
3. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。焼土粒の混在が目立つ。
4. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。黄褐色土小粒1cm大以下の混在が目立つ。
5. 黒褐色土(10YR2/2)As-C軽石を含む。やや軟質。As-C軽石混黒褐色土(IV層)塊が混在する。
6. 黒褐色土(10YR2/2)やや軟質。As-C軽石を含む。暗青灰色灰。炭化物を多量に帯状に含む。
7. 黒褐色土(10YR3/2)やや軟質。やや粘質。黄褐色土粒2cm大以下を多量に含む。
8. 黒褐色土(10YR3/2)やや軟質。やや粘質。焼土、炭化物は7層よりも目立たない。
9. 黒褐色土(10YR3/2)8層よりも焼土、黄褐色土粒が目立つ。
10. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。黄褐色土粒目立たない。
11. 黒褐色土(10YR3/2)6層と同様。暗青灰色灰が帯状に混在。
12. 暗青灰色灰土体。焼土粒の混在が目立つ。
13. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石混在。IV層土主体。
14. に近い黄褐色土 細砂質。
15. 黒褐色土(10YR2/3)7層よりも焼土より目立たない。
16. 黒褐色土(10YR3/2)灰白色土が帯状に堆積。硬い床面の土層。
17. 黄褐色土塊と黒褐色土が混在。焼土を含む。編状に踏み固められた床面。
18. 黒褐色土と黄褐色土塊を帯状に挟む。粘質。
19. 黒褐色土と黄褐色土が混在。
20. 黒褐色土と黄褐色土の混在少ない。粘質。
21. 19層と同じ。
22. 暗青灰色灰層
23. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。黄褐色土(V層)塊を含む。
24. 黄褐色土(10YR5/6)明黄褐色土(V層)塊(粘質)5cm大以下を多量に含む。
25. 24層より黄褐色土が少ない。
26. 黒褐色土塊と黄褐色土塊が混在。焼土を多量に含む。
27. 褐色土(10YR4/6)と灰白色土粒を含む。焼土を多量に混在する。薄い黒色土を挟み4~5層帯状になる。
28. 黒褐色土(10YR2/2)As-C軽石を含む。IV層土主体。黄褐色土細粒を含む。

第39図 上町遺跡22号住居床面図



24号住居 B-B'

28. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。焼土粒等目立たない。
 29. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土との混在は少ない。炭化物が目立つ。As-C軽石を含む。
 30. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含むが、29層よりも少ない。
 31. 灰白色土粒、黄褐色土粒が主体。黒褐色土と混じる。焼土粒の混在が目立つ。
 32. にぶい黄褐色土。焼土粒を多量に含む。均質、粘土質。一括人為埋没。
 33. 暗褐色土。焼土粒の混在が目立つ。粘質、均質。
 34. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。踏み固まった床面。褐色土粒(V層)を含む。
 35. にぶい赤褐色土(5YR4/4)焼土粒を多量に含む。褐色土と混じる。
 36. 灰白色粘土塊主体。黒褐色土と混じる。粘質、硬くしまっている床面。
 37. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。褐色土(V層)塊を含む。焼土を含む。
 38. 黒褐色土(10YR2/2)VI層土主体。As-C軽石を含む。やや粘質。(壁周溝埋没土)
 39. 黒褐色土(10YR2/2)35層に近い。褐色土塊がさらに大きい。
 40. 黒褐色土(10YR2/2)灰白色粘土塊の混在が目立つ。
 41. 黒褐色土(10YR2/2)黒褐色土との混在が多い。
 42. 35層よりも黒褐色土(10YR2/2)主体。粘質。にぶい黄褐色土粒、焼土粒2cm以下を多量に含む。
 43. 42層よりも褐色土塊が大きい。

上町22号住居 断 SPC-C' D-D' E-E'

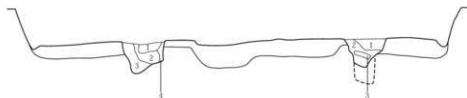
1. 黒褐色土 やや砂質。黄褐色土粘土粒を含む。As-C軽石を含む。焼土わずかに含む。
 2. 褐色土(10YR4/4)粘土質。焼土粒を帯状に挟む。
 3. 褐色土(10YR4/4)黒褐色土を混じる。粘質。
 4. 褐色土(10YR4/4)焼土粒が混在。
 5. 焼土粒・塊主体。褐色土5cm大以下と混在する。
 6. 暗青灰色灰層
 7. 4層と同じ。
 8. 黒褐色土(10YR2/3)均質、粘質。V層土。
 9. 黒褐色土(10YR3/2)焼土をわずかに含む。
 10. 暗青灰色灰層 燼火床面。
 11. 赤褐色土(2.5YR4/6)焼土主体。黒褐色土と灰をわずかに混じる。硬くしまった灰床面。
 12. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土。焼土を含み、積状堆積。
 13. にぶい黄褐色土(10YR5/4)粘質、均質。(竈構築材)
 14. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を多量に含む。As-C軽石を含む。
 15. 暗褐色土(10YR4/4)VI層土主体。均質。

第40図 上町遺跡22号住居掘り方面図

第4章 上町遺跡の遺構と遺物

E, L=142.60m

E'



上町22号住居 P1 SPF-F'

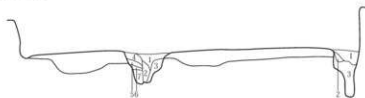
1. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。As-C軽石を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。灰白色粘土粒。焼土を多量に含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)灰白色粘土(10YR8/2)塊を2層よりも多量に含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色粘土塊を含む。

上町22号住居 P4 SPF-F'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや砂質。
2. 褐色土粘質土塊 灰白色粘土塊主体。
3. 灰白色粘土塊

G, L=142.60m

G'



上町22号住居 P2 SPG-G'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。軟質。
2. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土小粒が目立つ。
3. 黄褐色粘土粘土粒が主体。黒褐色土と混じる。帯状の互層をなす。
4. 黒褐色土(10YR2/3)灰白粘土粒の混入が目立つ。
5. 4層よりも灰白土塊が大きく主体をなす。
6. 4層よりも灰白土塊少ない。
7. 4層よりも灰白塊が縮状に挟む。

上町22号住居 P3 SPG-G'

1. 黒褐色土(10YR2/3)軟質。粘質。
2. 黒褐色土 褐色土粘質土を混じる。
3. 黄褐色土 粘土塊主体。黒褐色土を含む。

H, L=142.60m

H'



I, L=142.60m

I'



J, L=141.80m

J'



上町22号住居 7号・8号床下土坑 SPJ-J'

1. 黒褐色土粒と黄褐色土粒の混入。粘質。焼土を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。灰白色土塊を多量に含む。焼土を含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。黄褐色土粒含むが1・2層よりも少ない。焼土が目立つ。
4. 3層とはほぼ同じ。
5. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。黄褐色土粒を含む。焼土は目立たない。

K, L=141.70m

K'



上町22号住居 1号床下土坑(貯蔵穴) SPK-K'

1. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。褐色土粒の混入が目立つ。
2. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。黄褐色土塊3cm以下。灰白色土塊を多量に混入する。

L, L=141.80m

L'



上町22号住居 4号床下土坑 SPL-L'

1. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(VIII層)塊5cm大以下を多量に含む。粘質。

0 1:60 2m

第41図 上町遺跡22号住居掘り方土層断面図

×0.68mである。

遺物と出土状況 遺物はP1周辺と南壁沿いに集中して出土した。北東部東壁沿いでは須恵器杯(第38図25)、須恵器椀(23)がほぼ床面直上で、土師器杯(15)は床面上35cmで出土した。中央部では粗粒輝石安山岩製の砥石(34)が床面上20cmで、土師器甕(30)が床面上6cmで、須恵器甕(31)が床面上38cmで出土した。南部では土師器杯(8・14)が床面直上、9が床面上4cm、須恵器蓋(21)が南壁際床面上5cmで出土した。南部では他にも図示できる遺物が出土したが、いずれも床面から10cm以上浮いた状態で出土した。埋没過程で流れ込んだ遺物であろう。また、埋没土中から鉄鏝3点(35・36・37)、土師器杯(1・5・13・18)、須恵器杯(24)、黒色頁岩製の打製石斧2点が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片692点、壺・甕類破片1227点、不明破片95点、須恵器杯・椀類破片69点、瓶・甕類破片35点、黒色頁岩製の打製石斧2点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀前半の住居と考えられる。

上町遺跡23号住居

(第42・43図 PL.18・19・103 遺物観察表P.330)

グリッド 44区A13・14

形状 長方形 **重複** 無し

規模 長軸3.8m 短軸3.25m 残存壁高0.58m

面積 9.66㎡ **長軸方位** N-1°-W

埋没土 最上層はAs-Cを含む、軟質の黒褐色土が堆積しているが、中層から下層は黄褐色粘質土粒・黒褐色粘質土塊を多量に含むにふい黄褐色土や、黒褐色土と褐色土が斑状に混じる土で埋まっており、人為的な埋没と判断される。

竈 住居東壁中央やや南寄りに竈が構築されていた。確認長0.95m、焚口幅0.46m。袖の残存長は向かって右側が0.27m、左側が0.24mで丸く焚口を囲うような形状を残していた。壁外に0.93m燃焼部および煙道が伸びる。境界部に攪乱があり、煙道の規模は不明である。煙道部から土師器甕(第42図3)が出土した。焚口部には炭化物が少量残るが灰面は顕著ではなかった。焼土の残存も一部であった。燃焼部内右壁際使用面上18cmでほぼ完形の

土師器杯(第42図1)が出土した。燃焼部東では土師器甕破片が出土した。

柱穴 床面では主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

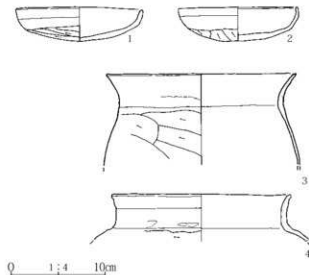
床面 床面は黄褐色土塊を含む黒褐色土で作られていたが、凹凸が著しかった。

掘り方 掘り方で中央部および四隅が顕著に掘り込まれていた。黄褐色土塊を含む黒褐色土で埋まっていた。四隅には小ピットが集中する部分があり、それぞれの最も深いピットが住居平面形と対応することから、柱穴の可能性はあるが、規模が小さく、断定するには至らなかった。これらのピットの床面からの深さは0.11～0.33mで一定でなかった。

遺物と出土状況 遺物は竈周辺に集中して出土した。住居南東隅南壁際では完形の土師器杯(第42図2)が床面上17cmで出土した。また、埋没土中から土師器甕(4)、黒色頁岩製の削器が出土した。

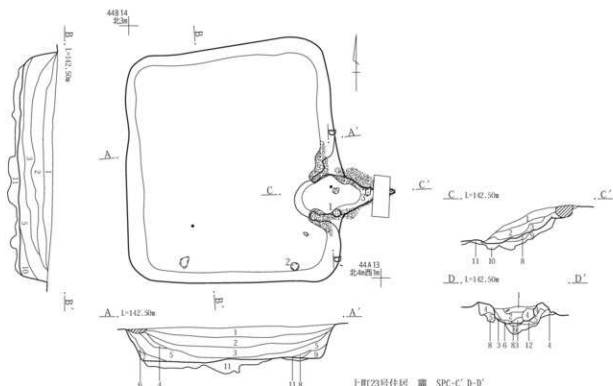
ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片17点、壺・甕類破片75点、須恵器杯・椀類破片10点、瓶・甕類破片4点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀後半の住居と考えられる。



第42図 上町遺跡23号住居出土遺物図

第4章 上町遺跡の遺構と遺物

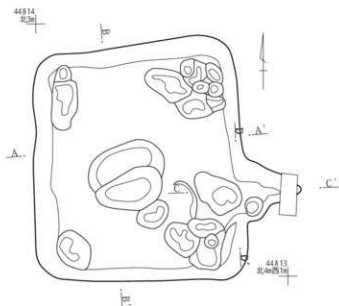


上町23号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(7.5YR3/2) As-O軽石を含む。軟質。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色粘質土粒(V層)を多量に含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色粘質土粒(V層)を多量に含む。黒褐色土(10YR2/3)粘質(V層)塊 5 cm 大以下を含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層と同様。黒褐色土塊を含まない。
5. 暗褐色土(10YR3/4)軟質。黄褐色土粒を多量に含む。やや粘質。
6. 黒褐色土と褐色土(V層)土が斑状に混じる。
7. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土細粒を含む。
8. 黄褐色土 粘質上(V層)塊主体。(竈材の前落土塊)
9. 6層と同じ。
10. 7層と同じ。
11. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色粘土質(V層)塊を多量に含む。

上町23号住居 竈 SPC-C' D-D'

1. 黒褐色土(10YR2/3)にぶい黄褐色粘土(10YR7/4)塊 5 cm 大以下を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土細粒をわずかに含む。やや粘質。
3. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土細粒の混入が目立つ。褐色粘土塊 5 cm 大を含む。
4. 浅黄褐色土(10YR8/4)粘質。均質。下層は厚さ 3 cm が焼土化。
5. 暗褐色土(10YR3/4)粘質。均質。V層主体。
6. 浅黄褐色土(10YR8/4)塊。火床との境部は焼土塊主体。
7. 浅黄褐色粘土 黒褐色土含む。地山との境界部は焼土化し明黄褐色土。
8. 橙色土(2.5YR6/8)焼土。
9. 黒褐色土(10YR2/2)暗褐色土を斑状に含む。粘質。
10. 黒褐色土 焼土。炭化物。暗青灰色灰が混在。粘質。
11. 黒褐色土(10YR2/3)と暗褐色土(V層)土塊を多量に含む。
12. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含む。



第43図 上町遺跡23号住居床面・掘り方面図

上町遺跡24号住居

(第44～47図 PL.19～21・104 遺物観察表P.330・355)

グリッド 44区A・B11・12

形状 北東隅が22号住居に壊されており全形がとらえられなかったが、ほぼ正方形である。北壁側が22号住居に重複し、24号住居が古い。床面レベルは22号住居よりもやや浅いため北壁の立ち上りの痕跡は明瞭には残らなかった。床面で周溝の痕跡が、掘り方調査で全周する周溝が検出できたため住居の形状規模は確認することができた。

重複 北東隅が22号住居と重複するが、24号住居が古い。

規模 長軸6.28m 短軸6.22m 残存壁高0.7m

面積 28.92㎡ **長軸方位** N-15°-W

埋没土 東壁沿いや北部には最下層に黒褐色土塊を含む黄褐色土塊が主体の層が流れ込み、中層にもA-s-Cを含む黒褐色土が帯状に堆積したり、焼土粒や灰白色土粒・黄褐色土粒が混じる黒褐色土が堆積しており、埋没過程で人為的な所作が加わった可能性が想定される。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長1.25m、焚口幅0.62m。袖の残存はほとんど見られなかった。壁外に0.90m燃焼部および煙道が伸びる。卵状に壁を掘込んだ形状で、左右の竈壁の焼土化は認められたが、袖や支脚、掘り方を充填する粘土構築材は認められなかった。焚口部の灰の残存もほとんど見られなかった。遺物も出土しなかった。住居拡張に伴った竈の付け替えを行った形跡は認められなかった。

柱穴 床面で主柱穴と思われるP1・P2・P3・P4を検出した。それぞれの規模(長径×短径×深さ)は、P1が0.85×0.60×0.83m、P2が0.95×0.68×0.83m、P3が0.97×0.57×0.75m、P4が0.70×0.65×0.70mである。

P1・P3ではビットの底が東西方向に2本あり、土層断面でも重複が看取できる。P2・P4でも掘り方で東側に小ビットの痕跡が認められる。また、後述するように北壁および西壁に平行して内側に周溝が掘り方で検出されており、各主柱穴は拡張のために東から西へ掘り替えられたと推定される。

周溝 周溝は南壁中央やや東のところから西壁、北壁の中央付近まで検出された。幅は概ね10～20cm、深さは5～23cmである。また、掘り方調査で西壁と北壁

の0.8mほど内側に平行する周溝の痕跡を検出した。拡張前の壁周溝の痕跡と推定される。この内側の周溝は床面検出の際は確認できなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は平坦である。灰層、黒褐色土、黄褐色粘土、灰白色粘土、焼土粒などが地点により混在の仕方を異にしながら薄く踏み固められ、幾層も厚くなって貼床となっていた。

掘り方 掘り方で13基の床下土坑と5基のビットを検出した。いずれの床下土坑も塊状の土砂や焼土を含む土砂で埋め戻されており、最終的に貼床を形成している。埋め戻す過程で複数の硬化面が検出される。

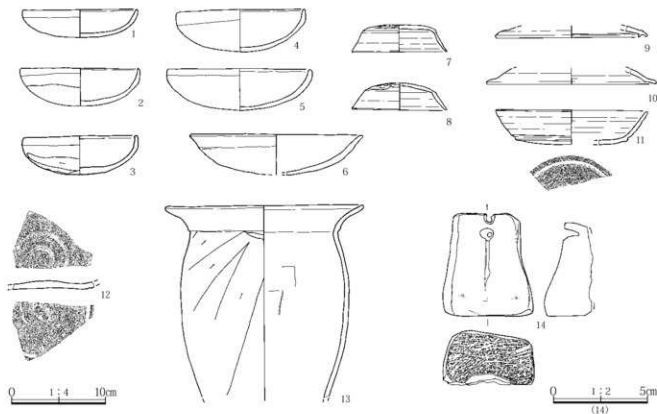
1号床下土坑は南東隅で検出された。長径1.02m、短径0.78m、深さ0.36mの楕円形で長軸は南壁に平行して掘られていた。断面形は深い箱形で、底面は平坦であった。南西縁から土師器裏底部が出土した。本土坑はその位置からすれば貯蔵穴の可能性が高いが、埋没土の特徴は他の床下土坑と同様であり、貯蔵穴とはしなかった。2号床下土坑は1号床下土坑の西側に接して検出された。長径1.48m、短径0.93m、深さ0.29mの楕円形で長軸は南壁に平行して掘られていた。断面形は箱形で、底面は平坦であった。3号床下土坑は中央部やや南西で検出された。長径1.15m、短径1.07m、深さ0.30mのほぼ円形。断面形は皿状で、底面には凹凸があった。4号床下土坑は3号床下土坑の南西側で検出された。長径1.02m、短径0.75m、深さ0.31mの楕円形。断面形は箱形で、底面には凹凸があった。5号床下土坑は4号床下土坑の南東側に重複して検出された。5号床下土坑が掘られ埋められてから4号床下土坑が掘られていた。長径1.07m、短径0.33m以上、深さ0.22mの楕円形。断面形はU字形で、底面には凹凸があった。6号床下土坑はP2の北側で検出された。長径0.95m、短径0.53m、深さ0.15mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦。埋没土の下半には焼土粒の混入が顕著であった。7号床下土坑は3号床下土坑の北西側に重複して検出された。先に7号床下土坑が掘られ埋められてから、7号床下土坑が掘られていた。長径1.13m、短径0.98m、深さ0.21mの楕円形。断面形は箱形で、底面には細かな凹凸があった。8号床下土坑は7号床下土坑の北側に重複して検出された。長径1.50m、短径1.33m、深さ0.30mの楕円形。断面形は箱

形で、底面は平坦であった。9号床下土坑は8号床下土坑の北東側に重複して検出された。長径1.47m、短径1.32m、深さ0.10mのほぼ円形。断面形は箱状で、底面はほぼ平坦であった。10号床下土坑は中央部やや北東で検出された。長径1.20m、短径1.16m、深さ0.21mのほぼ円形。断面形は箱形であるが中央に一部深く掘られた部分があった。南側で砥沢石製の砥石(第44図14)が底面上5cmで出土した。11号床下土坑は10号床下土坑の北東側に重複して検出された。長径1.39m、短径1.05m、深さ0.34mの楕円形。断面形は箱形で底面は平坦であった。埋没土には灰白色粘土塊が挟在し、東端は横方向に掘り込んで壁がオーバーハングする状態であった。12号床下土坑は3号床下土坑の東側で検出された。長径1.30m、短径1.08m、深さ0.27mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦。埋没土は焼土粒を多量に含む。にぶい赤褐色土と褐色土の混土の単一層であった。13号床下土坑は11号床下土坑の南側に重複して検出された。長径1.35m、短径0.90m、深さ0.36mの楕円形。断面形は箱形で、底面は凹凸があった。埋没土にはAs-Cを含む、やや粘質の黒褐色土や灰白色土粘土層が重なり、人為的な埋戻しを行っているとは推定された。

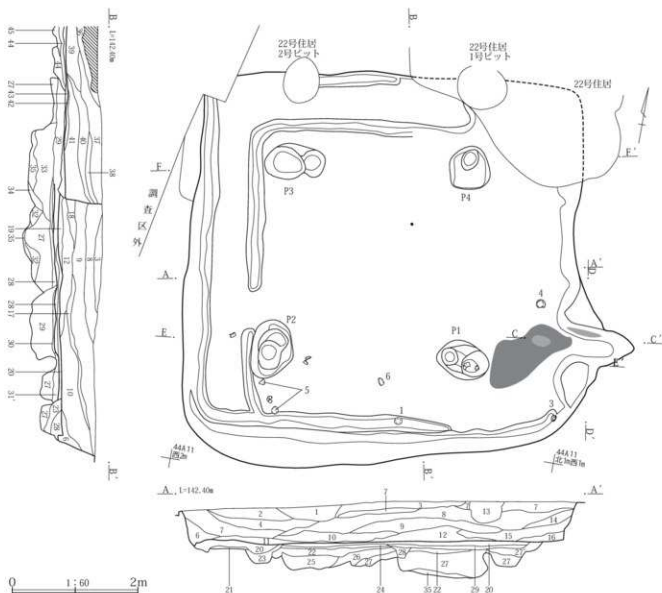
検出された5基のピットの内、5号ピットは先述したように主柱穴P2の拡張前の底面と推定される。6号ピットは拡張後の住居北部で検出された。規模(長径×短径×深さ)は、0.38×0.33×0.26mで、底面上5cmで土師器杯(第44図2)が出土した。7号・8号・9号ピットは東壁ライン上で甕を挟んで検出された。それぞれの規模(長径×短径×深さ)は、7号ピットが0.52×0.35×0.88m、8号ピットが0.30×0.24×0.43m、9号ピットが0.22×0.18×0.50mである。穴径は比較的細いが壁面を縦に穿っている。ピット間の距離は7号・8号ピット間で2.0m、8号・9号ピット間で1.4mであった。

遺物と出土状況 遺物は南西部に比較的集中して出土した。土師器杯(第44図5)は南西隅床面上10cmで出土した。土師器皿(6)は南壁際床面直上で、完形の土師器杯(1)は南壁周溝底面上7cmで出土した。また、埋没土中から須恵器杯(第44図11)、須恵器蓋(7・8・9・10)、須恵器杯(12)、土師器甕(13)、黒色頁岩製の加工痕ある剥片、粗粒輝石安山岩製のスタンプ形石器(第111図12)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片94点、壺・甕類破片733点、須恵器杯・椀類破片17点、瓶・甕類破



第44図 上町遺跡24号住居出土遺物図



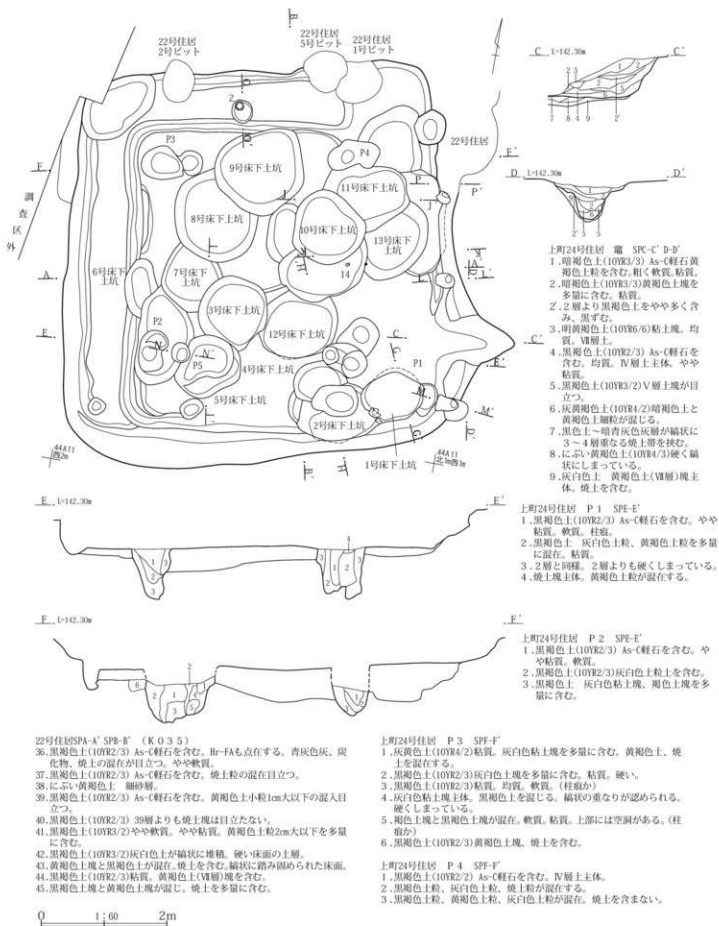
上町24号住居 SPA-A' B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR5/2)砂質。覆土。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。焼土粒、炭化物が目立つ。
3. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。焼土粒等目立たない。
4. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。焼土粒等目立たない。黄褐色土粒を含む。軟質。
5. 黒褐色土(10YR3/2) As-C軽石を含む。Br-FAも見える。均質。
6. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石混土。IV層上塊を含む。
7. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(V層)粒塊の混在は目立つて多い。
8. 黒褐色土(10YR2/3)7層より黄褐色土の混在は少ない。炭化物が目立つ。As-C軽石を含む。
9. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含むが、8層よりも少ない。
10. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。黒褐色土(V層)塊、黄褐色土粒、焼土を含む。
11. 黄褐色土粒、焼土、青灰色灰、黒褐色土を混じる。
12. ぶい黄褐色土 焼土粒を多量に含む。均質。粘土質。一括人為埋没。
13. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。軟質。ピット埋没土か。
14. 黄褐色土粒主体。黒褐色土をわずかに含む。
15. 黒褐色土(10YR5/6~浅黄10YR8/4)塊4cm以下が主体。黒褐色土塊をわずかに含む。
16. 黄褐色土塊主体。黒褐色土が15層よりも目立つ。
17. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。黒褐色土(10YR2/2)塊厚さ2cm程度の帯状に認められる。V層上塊の流れか?
18. 灰白色土粒、黄褐色土粒が主体。黒褐色土と混じる。焼土粒の混在が目立つ。
19. 暗褐色土 焼土粒の混在が目立つ。粘質。均質。

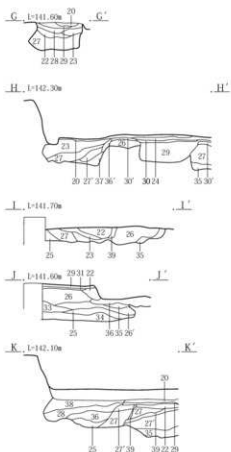
20. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。踏み固まった床面。褐色土粒(V層)を含む。
21. 黒褐色土(10YR2/3)V層上塊との混土目立つ。粘質。
22. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。褐色土(V層)塊を含む。焼土を含む。
23. 黄褐色土 V層上塊に焼土塊と青灰色灰が多量に混じり、ぶい赤褐色土(2.5YR4/4)を呈す。
24. 黒褐色土(10YR3/2)焼土細粒、褐色土細粒を含む。硬くしまっている。古い床面。
25. ぶい黄褐色土 V層上土粒、焼土粒、黒褐色土を混じる。粘質。
26. 褐色土粘土 V層上塊8cm以下主体。黒褐色土と混じる。粘質。
27. 26層よりも黒褐色土(10YR2/2)主体。粘質。ぶい黄褐色土粒、焼土粒2cm以下を多量に含む。
28. 黒褐色土(10YR2/2)VI層上主体。As-C軽石を含む。やや粘質。(壁間溝埋没土)
29. ぶい赤褐色土(5YR4/4)焼土粒を多量に含む。褐色土と混じる。
30. 暗青灰色灰層古い床面。
- 30' 輪状に踏み固まった面。
31. 灰白色粘土塊主体。黒褐色土と混じる。粘質。硬くしまっている床面。
32. 27層よりも褐色土塊が大きい。
33. 黒褐色土(10YR2/2)26層に近い。褐色土塊がさらに大きい。
34. 黒褐色土(10YR2/2)黒褐色土の混在が多い。
35. 黒褐色土(10YR2/2)灰白色粘土塊の混在が目立つ。

第45図 上町遺跡24号住居床面図

第4章 上町遺跡の遺構と遺物



第46図 上町遺跡24号住居掘り方面図



上町24号住居 1号、2号、3号、4号、5号、7号、11号、12号、13号土坑 SPG-G' ~ K-K'

20.黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。踏み固まった床面。褐色土粒(V層)を含む。

21.黒褐色土(10YR2/3)V層土塊との混在が目立つ。粘質。

22.黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。褐色土粒(V層)塊を含む。焼土を含む。

23.黄褐色土 V層土塊に焼土塊と青灰色灰が少量に混じり、にぶい赤褐色土(2.5YR4/4)を呈す。

24.黒褐色土(10YR3/2)焼土細粒、褐色土細粒を含む。硬くしまっている。古い床面。

25.にぶい黄褐色土 V層土粒、焼土粒、黒褐色土を混じる。粘質。

25' 灰白色粘土の混在が目立つ。

26.褐色土粘土 V層土塊8cm大以下主体。黒褐色土と混じる。粘質。

26' 26層より灰白色粘土粒の混在が少ない。

27.26層よりも黒褐色土(10YR2/2)主体。粘質。にぶい黄褐色土粒、焼土粒2cm大以下を少量に含む。

27' 27層と同じだが、焼土がやや目立つ。

28.黒褐色土(10YR2/2)V層土主体。As-C軽石を含む。やや粘質。(壁周溝埋没土)

29.にぶい赤褐色土(5YR4/4)焼土粒を少量に含む。褐色土と混じる。

30.暗青灰色灰層古い床面

30' 陥状に踏み固まった面。

31.灰白色粘土塊主体。黒褐色土と混じる。粘質。硬くしまっている床面。

32.27層よりも褐色土塊が大きい。

33.黒褐色土(10YR2/2) 26層に近い。褐色土塊がさらに大きい。

34.黒褐色土(10YR2/2)黒褐色土の混在が多い。

35.黒褐色土(10YR2/2)灰白色粘土塊の混在が目立つ。(壁の崩落土)

36.灰白色土粘土(V層)層と同じ。

36' 灰白色土粘土 均質。

37.黒褐色土(10YR3/2)粘質。

38.褐色土(10YR4/4)V層土主体。粘質。As-C軽石混土(IV層)塊が現状に混じる。軟質。

39.灰白色粘土粒が飛びをなす。



上町24号住居 P 8 SPL-L'

1.黒褐色土(10YR2/3)

2.黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含む。

3.黒褐色土(10YR2/3)灰白色土粒を少量に含む。粘質。



上町24号住居 P 7 SPW-M'

1.黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。

2.暗褐色土(10YR4/6) As-C軽石は目立たない。やや粘質。

3.暗褐色土 褐色土粒を含む。

4.黄褐色土 粘土塊主体。(壁土崩落土)

5.黒褐色土(10YR2/3)粘質。

6.黒褐色土 灰白色粘土粒を含む。



上町24号住居 P 5 SPV-N'

1.黒褐色土と灰白色粘土塊が混じる。粘質。

2.黒褐色土 灰白色土粒を含む。



上町24号住居 P 6 SP0-O'

1.浅黄褐色土(V層)塊、焼土塊3cm大以下を主体に、褐色土(V層)が混じる。粘質。

2.黒褐色土(10YR3/2)粘質。

3.浅黄褐色(V層)土塊主体。2層と混じる。焼土を含む。



上町24号住居 P 9 SPP-P'

1.灰白色土(V層)塊主体。粘質。

0 1:60 2m

第47図 上町道跡24号住居掘り方土層断面図

第4章 上町遺跡の遺構と遺物

片7点、黒色頁岩製の加工痕ある剥片1点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀末の住居と考えられる。

床下土坑が著しく密集して掘り方面で検出された。これらの床下土坑は粘土採掘坑と推定される。地山Ⅷ層以下は灰白色粘土で、住居壁の下半はこれらの土層になるため、掘り方面ではオーバーハングしてそれが挟り掘られている。床下土坑の埋没土は、黒褐色土に黄褐色土塊、灰白色粘土塊を多量に含み、焼土主体の場合もある。6号床下土坑埋没土の焼土は床面につながっており、掘り方造成とともに粘土を採掘し、採掘穴を埋め戻しながら床面造成する一連の作業の流れがうかがえる。

また東壁ライン上で検出された小ピット3基は、主柱穴の可能性がある。当住居の東側に隣接する同時期・同規格の時沢西組屋谷戸遺跡9号住居でも同様のピットを検出しているが、調査できた範囲ではほかに同じ例は見られなかった。

上町遺跡25号住居

(第48図 PL.22・105 遺物観察表P.331)

グリッド 44区B10・11

形状 西側の大半が調査区外となるため全形がとらえられなかったが、方形と推定される。

重複 無し

規模 長軸4.34m 短軸1.14m以上 残存壁高0.3m

面積 計測不能 **長軸方位** N-4°-E

埋没土 下層は、焼土粒、黄褐色土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長0.87m、焚口幅0.55m。袖の残存長は向かって右側が0.20m、左側が0.23m。壁外に0.30m燃焼部が、さらに煙道が0.23m伸びる。焚口部左右には角礫が芯として粘土に貼られており、竈前には竈構築材の一部とみられる角礫が転落していた。燃焼部中央には円礫が支脚として立てられていた。竈前の床面には灰が広がっていた。竈燃焼部から土師器台付裏(第48図2)が出土した。

柱穴 調査できた範囲では主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 調査できた範囲では周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 床面では検出できなかったが、掘り方面で検出

された1号ピットが貯蔵穴の可能性が高い。1号ピットは住居南東隅で検出された。長径0.84m、短径0.70m、掘り方面からの深さ0.46mの楕円形である。底面直上で土師器杯(第48図1)が出土した。

床面 床面は平坦である。

掘り方 掘り方面では前述の1号ピットを検出したほか、竈左前に小ピットとやや深く掘られた部分を検出した。

遺物と出土状況 遺物は前述したほかは、ほとんど出土しなかった。ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片9点、壺・甕類破片109点、不明破片4点、須恵器杯・椀類破片3点、瓶・甕類破片4点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀後半の住居と考えられる。

上町遺跡26号住居

(第49図 PL.22・23・105 遺物観察表P.331・353)

グリッド 44区C・D14

形状 西部の大半が調査区外となり全形をとらえられなかったが、方形と推定される。

重複 無し

規模 長軸2.84m以上 短軸1.4m以上

残存壁高0.23m

面積 計測不能 **長軸方位** N-9°-W

埋没土 上層はAs-Cを含み、黄褐色土を斑状に含むやや粘質の黒褐色土で、下層はAs-C、灰白色粘土塊、焼土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。北方向から流れ込むような傾斜で堆積していた。人為的な埋没の可能性はある。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長0.90m、焚口幅0.55m。袖の残存長は向かって右側が0.22m、左側が0.12m。壁外に0.70m燃焼部が伸びる。焚口部右側面には角礫が残っていたが、袖の芯に入れられていたものと推定される。竈前の床面には灰・炭化物・焼土が顕著に広がっていた。

柱穴 調査できた範囲には主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 調査できた範囲には周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 掘り方面で南東隅に検出された。長径0.98m、短径0.70m、深さ0.21mの楕円形。南縁には須恵器杯(第

49図1)が出土した。

床面 床面は平坦で、広い範囲に灰や炭化物が広がっていた。

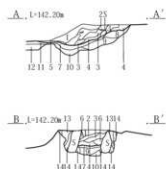
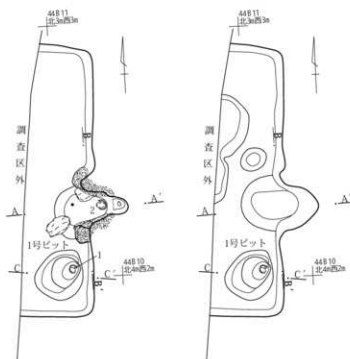
掘り方 掘り方面では前述の貯蔵穴と、竈の掘り方面を検出した。

遺物と出土状況 遺物はほとんど出土しなかった。前述

した遺物のほか、埋没土中から鉄釘(第49図2)が出土している。

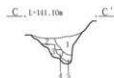
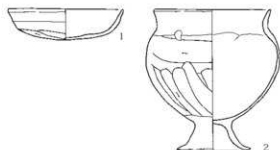
ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片4点、壺・甕類破片45点、須恵器杯・椀類破片10点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀前半の住居と考えられる。



上町25住居 竈SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR3/3)焼土粒、黄褐色土粒を含む。As-C軽石を含む。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)粘質。焼土粒、黄褐色土粒を含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3)粘土質。均質。
4. 赤褐色土 焼土塊。(焼土化した壁の崩落)
5. 黄褐色土 粘土塊主体。
6. 黒褐色土とにぶい黄褐色土の混在。焼土が混在する。
7. 青灰色灰層 焼土を混じる。火床面。焼土が混じる。
8. 黄褐色土塊と青灰色灰、焼土塊が混在する。9層との間に灰層を挟む。
9. 黄褐色土塊に青灰色灰が混じる。焼土をわずかに含む。
10. 黄褐色土塊(2.5YR5/4)粘土質。
11. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土塊を含む。踏み固められている床面。
12. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。黄褐色土・塊を含む。
13. にぶい黄褐色土 粘土質。均質。かたい黄褐色土粒をわずかに含む。(竈構築材)
14. 黒褐色土(10YR3/2)均質。軟質。13層と黒褐色土が混在。



上町25住居 P1(貯蔵穴) SPC-C'

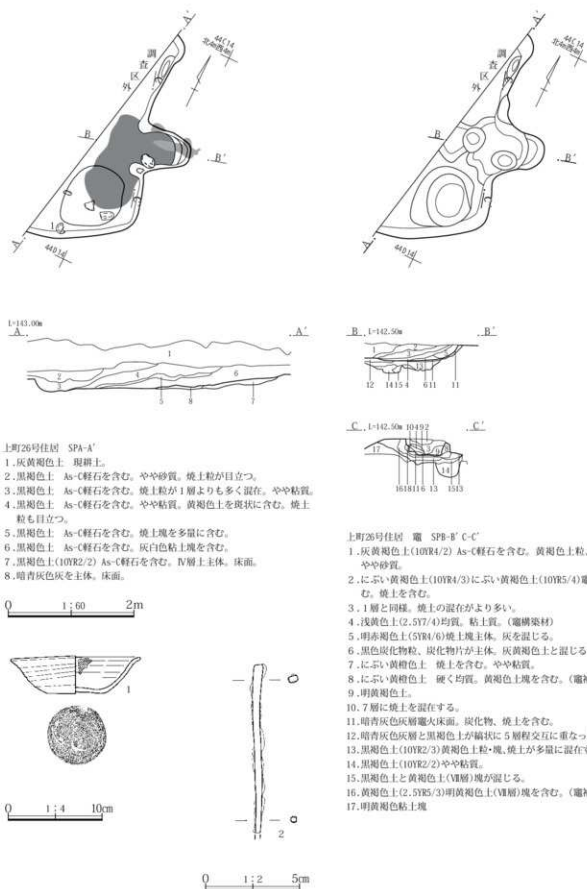
1. 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土粒、炭化物。焼土を含む。粘質。
2. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土塊を含む。粘質。
3. 黒褐色土(10YR3/2)灰白色土粒、炭化物を含む。
4. にぶい黄褐色土粒が主体。粘質。
5. 灰黄褐色土 炭化物、黒色土粒、焼土を含む。

0 1:4 10cm

0 1:60 2m

第48図 上町遺跡25号住居床面・掘り方面と出土遺物図

第4章 上町遺跡の遺構と遺物



第49図 上町遺跡26号住居床面・掘り方面と出土遺物図

上町遺跡27号住居

(第50・51図 PL.23・24・105 遺物観察表P.331・353・355)

グリッド 44区D11・12

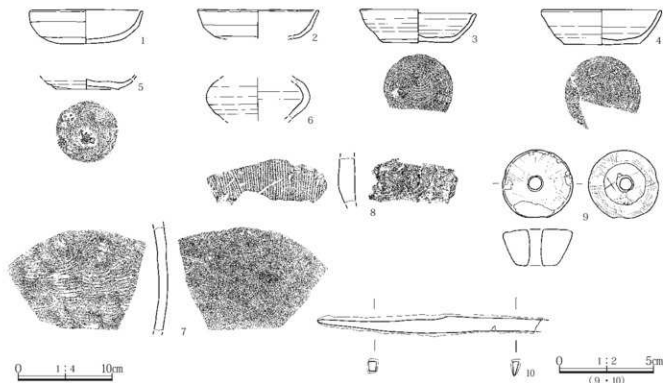
形状 北西隅が調査区外となり全形がとらえられなかったが、長方形と推定される。**重複** 18号掘立柱建物より新しい。**規模** 長軸4.23m 短軸3.12m 残存壁高0.37m**面積** 計測不能 **長軸方位** N-10°-W**埋没土** 上層はAs-C、黒褐色土、炭化物粒を含む黒褐色土で、下層は黄褐色土粒・塊が混入する黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。**竈** 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長1.03m、焚口幅0.45m。袖の残存長は向かって右側が0.15m、左側が0.18m。壁外に0.81m燃焼部および煙道が伸びる。焚口部には灰が広がっていた。**柱穴** 床面では主柱穴と思われるピットは検出されなかったが、掘り方で検出された1号～4号ピットを結んだ線の長軸と住居長軸が平行することから柱穴の可能性がある。ただし、その位置は東壁と南壁に近い位置に偏っていることから、別の機能をもつピットかもしれない。特にP2は18号掘立柱建物P4と一致している。

それぞれの規模(長径×短径×深さ)は、P1が0.50×

0.58×0.60m、P2が0.54×0.47×0.35m、P3が0.46×0.40×0.55m、P4が0.54×0.47×0.38mである。

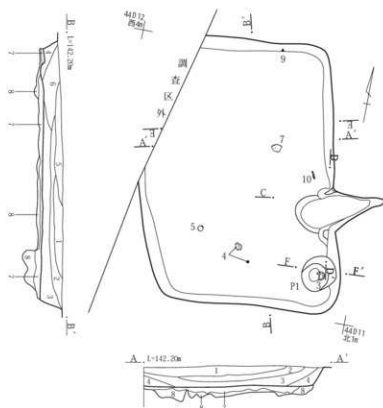
周溝 周溝は検出されなかった。**貯蔵穴** 貯蔵穴は検出されなかった。掘り方で検出された1号ピットは、その位置から貯蔵穴の可能性もあるが、確定できなかった。**床面** 床面は平坦である。**掘り方** 掘り方で前述した4基のピットを検出した。また、住居西壁と北壁沿いが不定形に0.1～0.25mほど掘り込まれていた。**遺物と出土状況** 遺物は竈周辺に集中して出土した。須恵器杯(第50図3)は竈脇東壁際床面直上で、4は南部床面上5cmで、5は南西部床面上34cmで出土した。須恵器甕(7)は北東部床面上4cmで出土した。蛇紋岩製の紡輪(9)は北東部北壁際床面上4cmで出土した。また鉄製刀子(10)は竈左脇床面直上で出土した。埋没土中からは土師器杯(1・2)、須恵器壺(6)、円筒埴輪破片(8)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片8点、壺・甕類破片30点、須恵器杯・椀類破片5点、瓶・甕類破片2点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀前半の住居と考えられる。

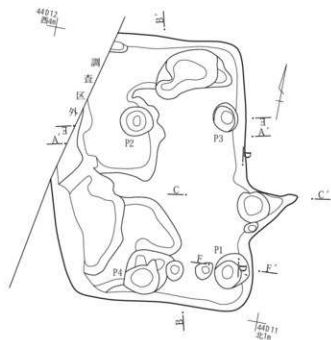
第50図 上町遺跡27号住居出土遺物図

第4章 上町遺跡の遺構と遺物

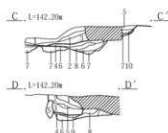


上町27号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。黒褐色土(IV層)塊10YR2/2が混在する。炭化物粒を含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒・塊(V層)の混在が目立つ。
4. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。IV層土が主体。やや砂質。褐色壁土を含む。
5. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒、焼土の混在が目立つ。
6. 暗褐色土(10YR3/3) As-C軽石を含む。
7. 黒褐色土(10YR3/2)褐色土塊、炭化物を含む。硬い床面。
8. 褐色土塊主体。黄褐色土(V層)塊を多量に含む。粘質。

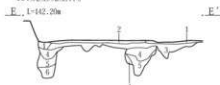


第51図 上町遺跡27号住居床面・掘り方面図



上町27号住居 堀 SPC-C' D-D'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石黄褐色土粒を含む。やや砂質。
2. 黒褐色土粒と黄褐色土粒が帯状に混じる。やや粘質。焼土塊を含む。
3. 濃い黄褐色土(10YR6/4)粘質。(龍材の崩落土)
4. 青灰色灰層火床面。
5. 褐色土(10YR5/1)均質。粘質。
6. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。IV層土主体。褐色土粒を含む。硬くしまっている床。
7. 褐色土塊主体。黒褐色土塊を含む。
8. 暗褐色土(10YR4/1)粘土質。黒褐色土塊、黄褐色土塊、焼土を含む。
9. 青灰色灰層
10. 焼土塊主体。



上町27号住居 P2-P3 SPF-E'

1. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土粒を含む。やや粘質。
2. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊を含む。硬くしまっている。
3. 暗褐色土 褐色土(VI層)を帯状に含む。やや粘質。
4. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。IV層土。
5. 暗褐色土 粘質。VI層土。黄褐色土(VII層)塊を含む。
6. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。灰白色土塊を含む。



上町27号住居 P1(貯蔵穴) SPF-F'

1. 黒褐色土(10YR3/3)軟質。
2. 黒褐色土(10YR3/2) As-C軽石を含む。黄褐色土粘質土塊を多量に含む。粘質。
3. 黄褐色土塊主体。粘質。
4. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。均質。
5. 灰層

0 1:60 2m

上町遺跡28号住居

(第52図 遺物観察表P.331)

グリッド 44区D10

形状 南東隅が攪乱で壊されており全形をとらえられなかったが、隅丸長方形と推定される。

重複 無し

規模 長軸4.54m 短軸3.24m 残存壁高0.2m

面積 計測不能 長軸方位 N-2°-E

埋没土 床面は失われており、埋没土は不明である。

竈 調査できた範囲では竈は検出されなかった。

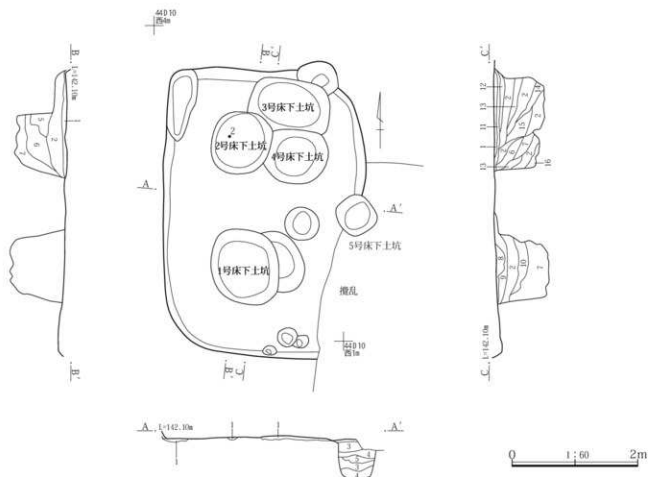
柱穴 調査できた範囲では主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 調査できた範囲では周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲では貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は、黒褐色土、黄褐色粘土塊、焼土が混在する、薄く踏み固められた面が幾層も重なる貼床が造られていた。床面は平坦である。

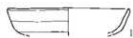
掘り方 掘り方で5基の床下土坑が検出された。い



上町28号住居 SPA-A' B-B' C-C'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。黄褐色土粒・塊含む。硬い床面。
2. 暗褐色土。As-C軽石を含む。黄褐色土塊を多量に含む。粘質。
3. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。粘質。
4. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土塊を含む。
5. 2層と同様。黒褐色土がより目立つ。
6. 黄褐色土粒、焼土、青灰色灰が混在し灰黄褐色土を混じる。粘質。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2)黒褐色土塊、黄褐色土塊を含む。粘質。
8. 灰黄褐色土 As-C軽石、焼土を含む。やや砂質。

9. 黄褐色土 暗灰色土灰、焼土粒、灰黄褐色土が1cm程の厚さに5~6層重なる硬い床面。
10. 暗褐色土 褐色土(VI層)土塊、灰白色土(III層)塊を多量に含む。
11. 9層と同じ。焼土、灰が重なる硬い床面。
12. 暗褐色土(10YR3/3) As-C軽石を含む。やや砂質。
13. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。やや砂質。
14. 2層よりも黄褐色土塊多い。やや粘質。
15. 灰黄褐色土 黄褐色土粒を含む。やや粘質。
16. 灰白色土塊主体。褐色土を混じる。



0 1:4 10cm

第52図 上町遺跡28号住居掘り方面と出土遺物図

れも他の住居の床下土坑より大規模で定型化しており、深く掘られていた。埋没土は黄褐色土塊、焼土を多量に含む土砂で人為的に埋められたと判断される。また最上位には貼床が施されていた。

1号床下土坑は南部で検出された。長径1.32m、短径1.12m、深さ0.68mの楕円形。箱形で、底面は平坦である。2号床下土坑は北部で検出された。長径1.05m、短径0.97m、深さ0.63mのほぼ円形。断面形は箱形で、底面は平坦である。底面上29cm、埋没土中位から土師器台付襷脚部破片(第52図2)が出土した。3号床下土坑は2号床下土坑の北東側に重複して検出された。南側の4号床下土坑が掘られ埋められてから、掘り下げられていた。長径1.30m、短径0.87m、深さ0.64mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦である。4号床下土坑は3号床下土坑の南側に重複して検出された。3号床下土坑が掘られる前に埋められていた。長径1.05m、短径0.88m、深さ0.61mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦である。5号床下土坑は東壁中央部で検出された。長径0.68m、短径0.66m、深さ0.43mのほぼ円形。断面形はU字形で、底面は平坦である。

遺物と出土状況 遺物はほとんど出土しなかった。埋没土中から土師器杯(1)が出土した。ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片8点、壺・襷類破片38点、須恵器杯・椀類破片4点、瓶・襷類破片3点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀前半の住居と考えられる。

2. 竪穴状遺構

上町遺跡では2基の竪穴状遺構が重複して検出された。上位でみつけた1号竪穴状遺構は台形の浅い土坑で遺物が出土した。2号竪穴状遺構は不定型な方形の掘り込みの集合であった。上層を2a号、下位を2b号、2c号として報告した。

2a号竪穴状遺構の周囲には不定型な掘り込みが接してあるいは重複して検出された。その埋没状況は2a号竪穴状遺構の埋没過程に後出あるいは先行しており、それぞれが独立した遺構というより、一連の掘削と埋め立て行為の結果、残された遺構である可能性が高い。ここでは、2a号竪穴状遺構に先行していたとみられる2b号、

2c号竪穴状遺構、23号土坑、同層で埋まっていた21号土坑、後出する20号、22号土坑を記載する。

上町遺跡1号竪穴状遺構

(第53・54図 PL.24・105 遺物観察表P.331・353)

グリッド 33区B・C18・19

形状 不整長方形。やや北東部が掘り広がっていた。

重複 2号竪穴状遺構より新しい。

規模 長軸3.40m 短軸2.52m 残存壁高0.12m

面積 6.76㎡ **長軸方位** N-90°-E

埋没土 多くのローム粒、少量の炭化物、As-C、Hr-F A軽石、わずかな焼土粒を含む暗褐色土で埋まっていた。

底面 明確な硬化面は認められなかったが、埋没土が周囲と大きく異なる面を本遺構とした。

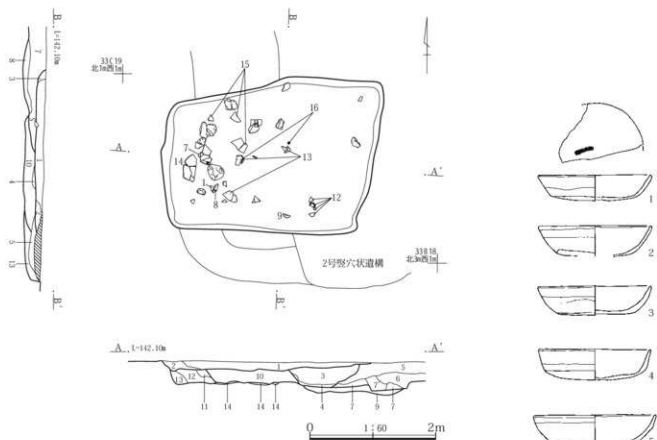
遺物と出土状況 西半部に須恵器・土師器の大型破片が集中して出土した。土師器杯(第53図1・7)は底面直上で、須恵器杯(8・9)は南西部床面4~7cmで、須恵器椀(12)は中央部床面直上および南東部床下7cmで出土した破片が接合した。須恵器横版(第54図13)、須恵器襷(14・15・16)は中央から北西部にかけて床面上6cmおよび床面直上で出土した。また、埋没土中から土師器杯(第53図2~6)、須恵器杯(10・11)、鉄製刀子(第54図17)が出土している。土器のうち土師器杯1に文字不明の、6には「十」の墨書があった。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片149点、壺・襷類破片118点、須恵器杯・椀類破片25点、瓶・襷類破片32点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀前半の遺構と考えられる。本遺構は当初竪穴住居として調査を開始したが、竪等の施設がないことから竪穴状遺構として記録した。

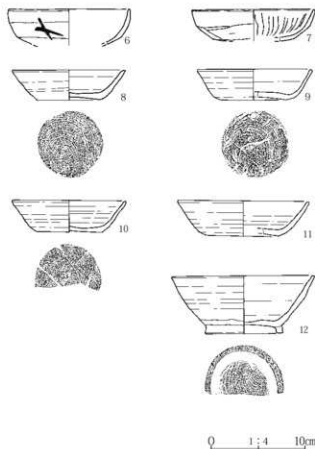
本遺構の周辺には主軸方位をN-90°-Eにする遺構が集中しており、本遺構もそれらに関連する遺構と推定される。定型的な遺構ではないことから、廃棄場等の生活関連の遺構とも考えられる。下層には後述するように不定型な遺構が先行して掘られており、それらも含めた埋没過程で土器の廃棄が行われたのかもしれない。

小破片のため実測はしなかったが、1号竪穴状遺構から出土した土師器椀破片に、北西に21m離れた13号住居竪から出土した破片が接合していることもそれを示していると考えられる。

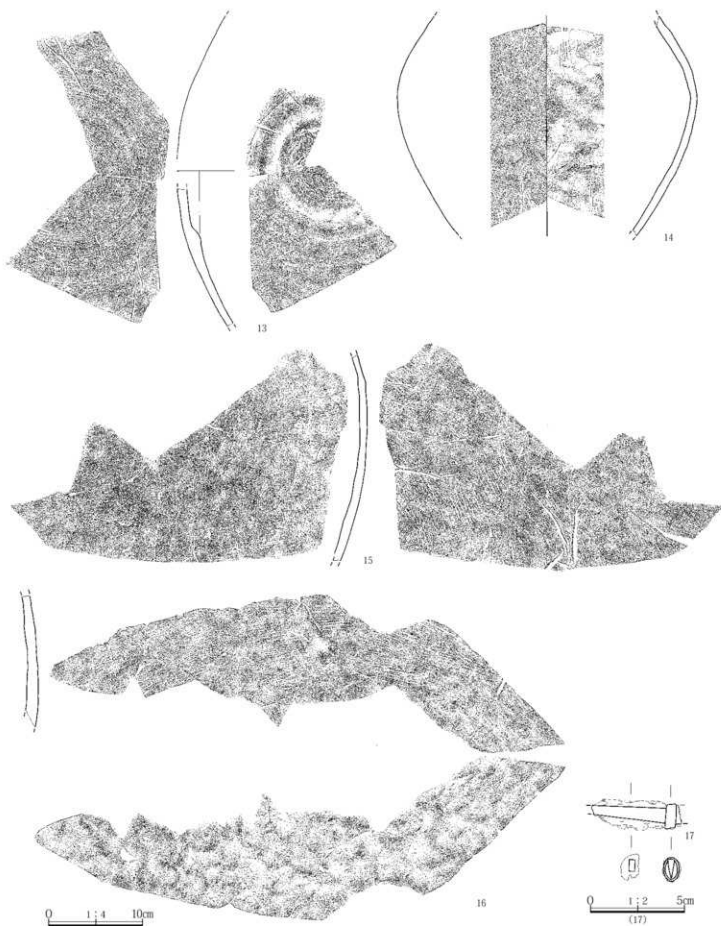


上町1号竪穴状遺構 SPA-A' SPB-B'

1. 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒を多く含む。炭化物、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。焼土粒をわずかに含む。(1号竪穴状遺構埋没上)
2. 黒褐色土(10YR2/3)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。焼土粒を少量含む。(1号竪穴状遺構埋没上)
3. 褐色土(10YR4/4)ロームを主体とし、黒褐色土塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。やや粘性あり。(20号上坑埋没上)
4. 黒褐色土(10YR3/2)炭化物、灰を非常に多く含む。粘質。(20号上坑埋没上)
5. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。ローム塊、炭化物を少量含む。(2a号竪穴状遺構埋没上)
6. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。(2a号竪穴状遺構埋没上)
7. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊をわずかに含む。(2a号竪穴状遺構埋没上)
7. 4層と同質。軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。(2a号竪穴状遺構埋没上)
8. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊をやや多く含む。粘性あり。(2a号竪穴状遺構埋没上)
9. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。粘性があり硬くしまっている。上面には部分的に褐灰色(10YR4/1)粘質土が堆積している。(2a号竪穴状遺構埋没上)
10. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を多く含む。粘性。しまりややあり。(2b号竪穴状遺構埋没上)
11. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)、炭化物を少量含む。(2c号竪穴状遺構埋没上)
12. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊、焼土粒を少量含む。(2c号竪穴状遺構埋没上)
13. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。炭化物をわずかに含む。(2c号竪穴状遺構埋没上)
14. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を多く含む。粘性があり硬くしまっている。(2c号竪穴状遺構埋没上)



第53図 上町遺跡1号竪穴状遺構底面と出土遺物図(1)



第54図 上町遺跡1号竪穴状遺構出土遺物図(2)

上町遺跡2a号竪穴状遺構

(第55・57・58図 PL.24・105 遺物観察表P.332・353・355)

グリッド 33区B・C18・19

形状 不整形

重複 1号竪穴状遺構より古い。

規模 長軸5.4m 短軸4.73m 残存壁高0.41m

面積 11.67㎡ 長軸方位 N-0°-E

埋没土 多量のAs-C、Hr-F A軽石と、少量のローム塊、炭化物を含む黒褐色土で埋まっていた。一部にはローム塊を多く含む12層等も堆積していた。自然埋没とは考えにくく、人為的に埋められた可能性が高い

底面 全体として段差や凹凸が目立つ。一部には硬く締まった16層が堆積している部分もあった。

遺物と出土状況 中央部に底面近くの遺物が少量出土した。土師器杯(第57図1)は底面上4cmで出土した。内面に文字不明の墨書が認められた。須恵器蓋(3)は底面上7cmで、須恵器杯(4)は底面直上で出土した。粗粒輝石安山岩製の敲石(7)が底面上10cm、鉄製鎌(6)が中央部底面上26cmで出土した。埋没土中からは土師器杯(2)、須恵器平瓶(5)、黒色頁岩製の削器が出土している。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片23点、壺・甕類破片19点、須恵器杯・椀類破片5点、瓶・甕類破片2点、黒色頁岩製の削器1点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀前半の遺構と考えられる。本遺構は当初竪穴住居として調査開始したが、形状が不定形で竈等の施設もないことから竪穴状遺構として記録した。北東隅にはオーバーハンクして掘り込まれていることや、東南部には掘り残された部分もあることから、粘土採掘坑あるいは周囲の粘土採掘にかかわる作業場の可能性が考えられる。

上町遺跡遺跡2b号竪穴状遺構

(第56・57図 PL.24・105 遺物観察表P.332)

グリッド 33区B18・19

形状 不整形

重複 2a号竪穴状遺構より古く、2c号竪穴状遺構より新しい。

規模 長径4.12m 短径1.4m以上 残存壁高0.19m

面積 計測不能 長軸方位 N-10°-W

埋没土 ローム塊、As-C、Hr-F A軽石をやや多く含む暗褐色土や、ローム塊を多く含む黒褐色土で埋まっていた。

底面 底面はほぼ平坦であった。顕著な硬化面はなかった。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第57図8~10)、台付甕(17)、須恵器杯(12~16)、須恵器蓋(11)が出土した。これらの土器の時期は2a号竪穴状遺構の出土遺物と同時期であった。ホルンフェルス製の加工痕ある剥片が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片79点、壺・甕類破片136点、須恵器杯・椀類破片25点、瓶・甕類破片10点、ホルンフェルス製の加工痕ある剥片1点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀前半の遺構と考えられる。2a号竪穴状遺構と同様な性格をもつと推定される。

上町遺跡2c号竪穴状遺構

(第56・57図 PL.24・105 遺物観察表P.332・353)

グリッド 33区B・C18・19

形状 不整形

重複 2a号、2b号竪穴状遺構より古い。

規模 長軸2.1m以上 短軸2.74m 残存壁高0.27m

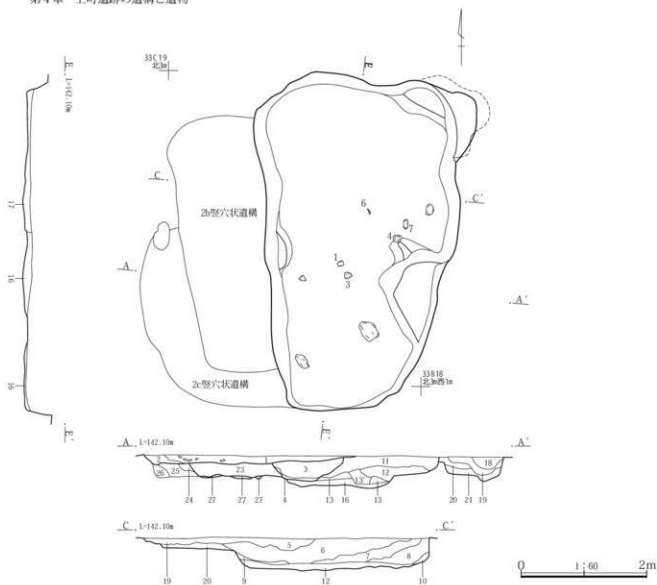
面積 計測不能 長軸方位 N-0°-E

埋没土 ローム塊を多く含む。As-C、Hr-F A軽石、炭化物を少量暗褐色土や、ローム塊、焼土粒を少量含む黒褐色土、ローム塊、As-C、Hr-F A軽石をやや多く含む黒褐色土で埋まっていた。最下層はローム塊を多く含む硬くしまった黒褐色土で埋まっていた。人為的な埋没と判断された。

底面 底面はほぼ平坦であった。顕著な硬化面はなかった。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第57図18)が出土した。ここで図示した遺物以外に土師器壺・甕類破片7点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀代の遺構と考えられる。2a号竪穴状遺構と同様な性格をもつと推定される。

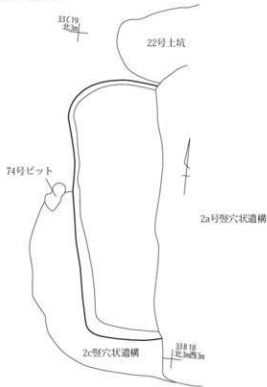


- 上町2号型穴状遺構と周辺遺構 SPA-A' SPB-B' SPC-C' SPD-D'
1. 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒を多く含む。炭化物、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。焼土粒をわずかに含む。(1号型穴状遺構埋没上)
 2. 黒褐色土(10YR2/3)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。焼土粒を少量含む。(1号型穴状遺構埋没上)
 3. 褐色土(10YR4/4)ロームを主体とし、黒褐色土塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。やや粘性あり。(20号土坑埋没上)
 4. 黒褐色土(10YR3/2)炭化物。灰を非常に多く含む。粘質。(20号土坑埋没上)
 5. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。(22号土坑埋没上)
 6. 褐色土(10YR4/4)ロームを主体とし、暗褐色土塊を少量含む。(22号土坑埋没上)
 7. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。(21号土坑埋没上)
 8. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。(21号土坑埋没上)
 9. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を非常に多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。(21号土坑埋没上)
 10. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊をやや多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)。炭化物を少量含む。(2a号型穴状遺構埋没上)
 11. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。ローム塊、炭化物を少量含む。(2a号型穴状遺構埋没上)
 12. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。(2a号型穴状遺構埋没上)
 13. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊をわずかに含む。(2a号型穴状遺構埋没上)

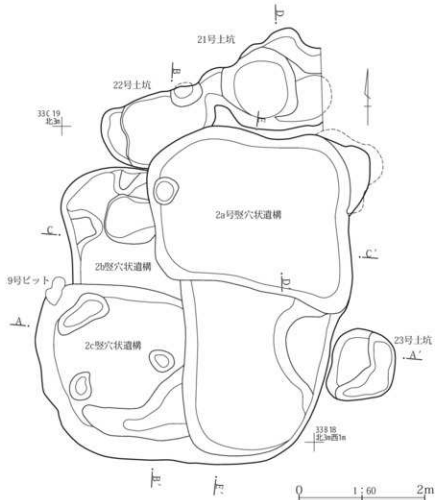
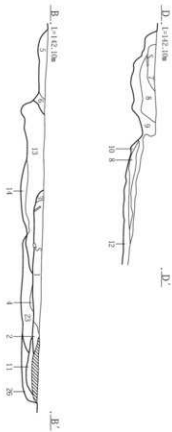
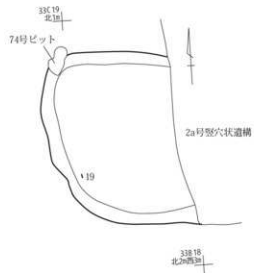
13. 4層と同質。軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。(2a号型穴状遺構埋没上)
14. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊をやや多く含む。粘性あり。(2a号型穴状遺構埋没上)
15. 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を多く含む。粘性あり。(2a号型穴状遺構埋没上)
16. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。粘性があり硬くしまっている。上面には部分的に黒褐色(10YR4/1)粘質土が堆積している。(2a号型穴状遺構埋没上)
17. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。焼土粒をわずかに含む。硬くしまっている。(2a号型穴状遺構埋没上)
18. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。(23号土坑埋没上)
19. 黒色土(10YR2/1)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。(23号土坑埋没上)
20. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を非常に多く含む。(23号土坑埋没上)
21. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。(23号土坑埋没上)
22. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。(2b号型穴状遺構埋没上)
23. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を多く含む。粘性。しまりややあり。(2b号型穴状遺構埋没上)
24. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)、炭化物を少量含む。(2c号型穴状遺構埋没上)
25. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊、焼土粒を少量含む。(2c号型穴状遺構埋没上)
26. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。炭化物をわずかに含む。(2c号型穴状遺構埋没上)
27. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を多く含む。粘性があり硬くしまっている。(2c号型穴状遺構埋没上)

第55図 上町道跡2a号型穴状遺構断面図

2b号竪穴状遺構

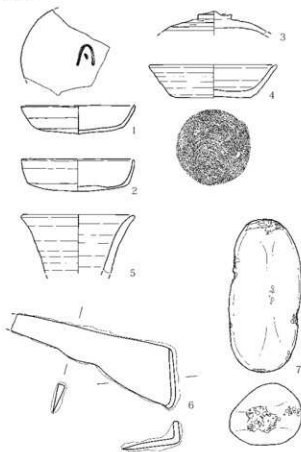


2c号竪穴状遺構



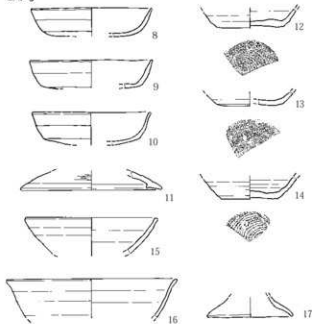
第56図 上町道跡 2b・2c号竪穴状遺構底面と全体図

2a号

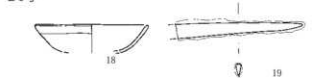


0 1:2 5m
(6)

2b号



2c号



0 1:3 10m
(7)

0 1:4 10m

第57図 上町遺跡 2a・2b・2c号竪穴状遺構出土遺物図

上町遺跡20号土坑(第58・89図 PL.33 遺物観察表P.333)

グリッド 33区B18

形状 楕円形

重複 2a号竪穴状遺構より古く、2b号竪穴状遺構より新しい。

規模 長径2.31m 短径1.32m 残存壁高0.28m

長軸方位 N-8°-W

埋没土 ロームを主体とし、黒褐色土塊、As-C、Hr-F A軽石を少量含む褐色土や、炭化物、灰を非常に多く含む黒褐色土で埋まっていた。底面全体に灰と炭化物が推積していた。人為的な埋没と判断された。

底面 底面はほぼ平坦であった。顕著な硬化面はなかった。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第89図1・2)が出土した。ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片6点、壺・甕類破片4点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀前半の遺構と考えられる。2a号竪穴状遺構と同様な性格をもつと推定される。

上町遺跡21号土坑(第58図)

グリッド 33区B19

形状 不整楕円形

重複 2a号竪穴状遺構より古く、2b号竪穴状遺構より新しい。

規模 長径1.59m以上 短径1.31m 残存壁高0.43m

長軸方位 N-89°-W

埋没土 ローム塊を多く含む。As-C、Hr-F A軽石を少量含む黒褐色土、ローム塊、As-C、Hr-F A軽石をやや多く含む黒褐色土、ローム塊を非常に多く含むAs-C、Hr-F A軽石をやや多く含む黒褐色土で埋まっていた。人為的な埋没と判断された。

底面 底面はほぼ平坦であった。顕著な硬化面はなかった。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 2a号竪穴状遺構と同様な性格をもつと推定される。

上町遺跡22号土坑(第58図 PL.37)

グリッド 33区A18

形状 不整楕円形

重複 2a号竪穴状遺構より新しい。

規模 長径1.83m 短径0.96m以上 残存壁高0.14m

長軸方位 N-66°-W

埋没土 ローム塊、As-C、Hr-F A 軽石をやや多く含む暗褐色土、ロームを主体とし、暗褐色土塊を少量含む褐色土で埋まっていた。人為的な埋没と判断された。

底面 底面はほぼ平坦であった。顕著な硬化面はなかった。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 2a号竪穴状遺構と同様な性格をもつと推定される。

上町遺跡23号土坑(第58図 PL.36)

グリッド 33区B19

形状 隅丸方形

重複 2a号竪穴状遺構より古い。

規模 長径1.25m 短径1.12 残存壁高0.35m

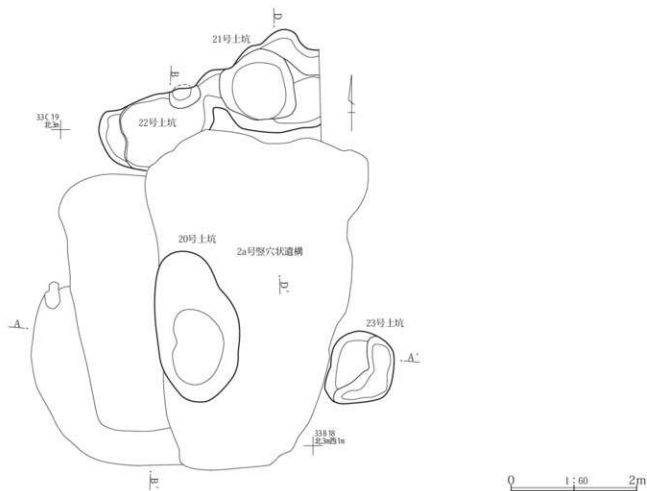
長軸方位 N-39°-E

埋没土 As-C、Hr-F A 軽石を少量含む黒褐色土、ローム塊、As-C、Hr-F A 軽石を少量含む黒色土、ローム塊を非常に多く含む暗褐色土、ローム塊を多く含む黒褐色土(10YR2/2)で埋まっていた。人為的な埋没と判断された。

底面 底面はほぼ平坦であった。顕著な硬化面はなかった。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 2a号竪穴状遺構と同様な性格をもつと推定される。



第58図 上町遺跡2a号竪穴状遺構周辺土坑平面断面図

3. 掘立柱建物

上町遺跡1号掘立柱建物

(第59図 PL.25)

グリッド 43E・F2～4

主軸方位 N-26°-W

重複 6号掘立柱建物と重複し、9号土坑と接するが、いずれも柱穴の直接の重複が無いことから新旧関係は不明である。

形態 桁行3間・梁行2間(4.37～4.70×4.01～4.06m)の側柱建物である。南北棟。柱間は北南辺1.90～2.11m、東西辺1.37～1.84m。東西辺は中央の柱間がやや短い。

各辺ともに柱穴は柱軸にのる。南隅には2基の柱穴が接しているが、西側は6号掘立柱建物P2である。

P1・P6・P8・P9で柱痕跡を検出した。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.67～0.45m、短径0.42

～0.51m、深さ0.24～0.49mと一定ではなかった。

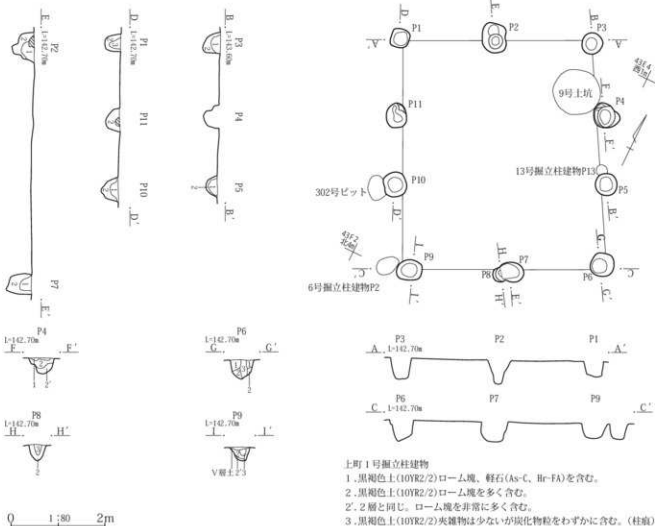
内部施設 無し

出土遺物 遺構検出作業時に土師器杯類破片3点、壺・甕類破片7点が出土した。

所見 柱穴埋没土にAs-Bを含まないことから、古代の掘立柱建物である可能性が高い。

第4表 上町遺跡1号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模	3間×2間		棟方向		南北棟	
主軸方向	N-26°-W		施設		無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)
		長径	短径	深さ		
北辺 4.06	P1	0.45	0.45	0.33	楕円形	2.01
	P2	0.67	0.48	0.49	不整楕円形	2.05
東辺 4.70	P3	0.46	0.43	0.44	円形	1.56
	P4	0.5	0.47	0.34	不整円形	1.44
	P5	0.48	0.45	0.24	円形	1.73
南辺 4.01	P6	0.53	0.5	0.43	円形	1.9
	P7	0.66	0.42	0.44	不整楕円形	2.11
西辺 4.37	P9	0.54	0.43	0.34	楕円形	1.84
	P10	0.54	0.51	0.37	円形	1.37
	P11	0.52	0.43	0.3	円形	1.67



第59図 上町遺跡1号掘立柱建物平面図

上町遺跡3号掘立柱建物

(第60図 PL.25 遺物観察表P.332)

グリッド 33区C・D20

主軸方位 N-11°-W

重複 無し

形態 桁行2間・梁行2間(3.06～3.18×2.96～3.18m)の側柱建物である。平面はほぼ正方形で棟方向不明であるが、東西棟か。柱間は南北辺1.49～1.61m、東西辺1.43～1.63m。南辺は3°北へ軸を変えている。

いずれの辺も中央の柱穴が柱軸から外側にややずれている。

P1・P3・P6・P8で柱痕跡を検出した。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.31～0.39m、短径0.28～0.39m、深さ0.15～0.34mとやや浅い柱穴が多かった。

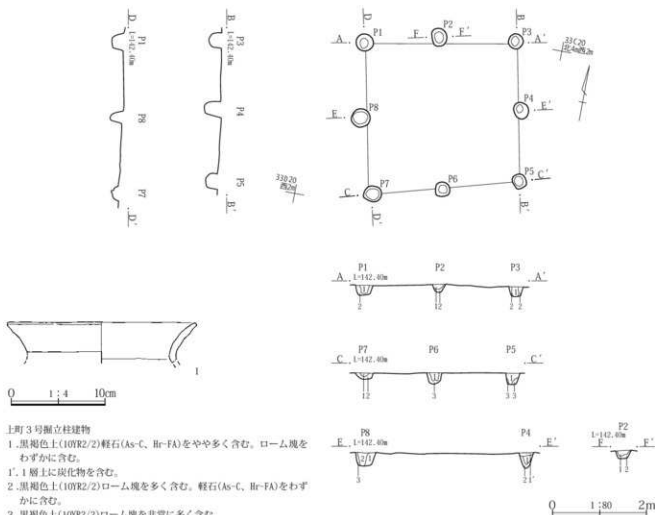
内部施設 無し

出土遺物 P9埋没土中から土師器(第60図1)が出土した。

所見 柱穴埋没土にAs-Bを含まないことから、古代の掘立柱建物である可能性が高い。

第5表 上町遺跡3号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模	2間×2間		棟方向		東西棟か	
	主軸方向		N-11°-W		施設 無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)
		長径	短径	深さ		
北辺 3.18	P1	0.37	0.36	0.25	円形	1.6
	P2	0.37	0.31	0.16	楕円形	1.61
東辺 2.96	P3	0.31	0.3	0.24	円形	1.43
	P4	0.37	0.31	0.34	円形	1.53
南辺 3.06	P5	0.33	0.28	0.2	楕円形	1.6
	P6	0.33	0.32	0.24	楕円形	1.49
西辺 3.18	P7	0.37	0.34	0.15	楕円形	1.63
	P8	0.39	0.39	0.23	円形	1.53



第60図 上町遺跡3号掘立柱建物平面と出土遺物図

上町道跡4号掘立柱建物

(第61図 PL.25 遺物観察表P.332)

グリッド 33区B・C20、43区B・C1

主軸方位 N-80°-W

重複 5号掘立柱建物、9号溝と重複する。柱穴の直接の重複は無いことから5号掘立柱建物との新旧関係は不明である。9号溝との新旧関係も不明であるが、東辺中央の柱穴が検出できなかったことから、9号溝が新しい可能性が高い。

形態 桁行2間・梁行2間(4.55×4.80×3.21～3.70m)の側柱建物。東西棟か。柱間は南北辺2.22～2.53m、西辺1.83～1.87m。南辺・北辺ともに西側の柱間が東側の柱間より短い。南辺は北へ軸を変えている。

東辺の中央の柱穴は9号溝の掘り込みで遺憾ながら検出できなかった。いずれの柱穴でも明確な柱痕跡は検出できなかった。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.43～0.70m、短径0.38～0.51m、深さ0.07～0.32mと

幅がある。

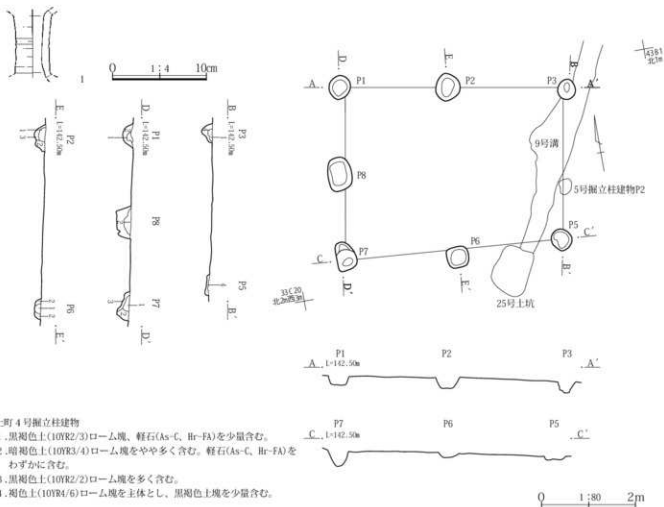
内部施設 無し

出土遺物 P7埋没土中から須石器長頸壺(第61図1)が出土した。

所見 柱穴埋没土にAs-Bを含まないことから、古代の掘立柱建物である可能性が高い。

第6表 上町道跡4号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模	2間×2間		棟方向		形状	次柱穴との間隔(m)
	主軸方向		東西棟			
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)
		長径	短径	深さ		
北辺 4.80	P1	0.51	0.45	0.19	円形	2.27
	P2	0.57	0.51	0.23	楕円形	2.53
東辺 3.21	P3	0.43	0.38	0.24	楕円形	3.21
	(P4)					
南辺 4.55	P5	0.45	0.41	0.07	楕円形	2.22
	P6	0.46	0.44	0.12	楕丸方形	2.34
西辺 3.70	P7	0.61	0.41	0.31	楕円形	1.87
	P8	0.7	0.5	0.32	楕丸長方形	1.83



第61図 上町道跡4号掘立柱建物平面と出土遺物図

上町遺跡 5号掘立柱建物

(第62図 PL.25)

グリッド 33区A・B19・20

主軸方位 N-89°-E

重複 4号掘立柱建物・9号溝と重複する。柱穴の直接の重複は無いことから新旧関係は不明である。

形態 桁行2間・梁行1間(3.50～3.75×3.46～3.81m)の側柱建物。東西棟か。

柱間は南北辺1.70～2.0m、東西辺3.50～3.75m。南辺は軸を変えている。

いずれの柱穴でも柱痕跡は検出できなかった。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.28～0.66m、短径0.24～0.48m、深さ0.10～0.27mと幅がある。特にP4は他より大きい。

内部施設 無し

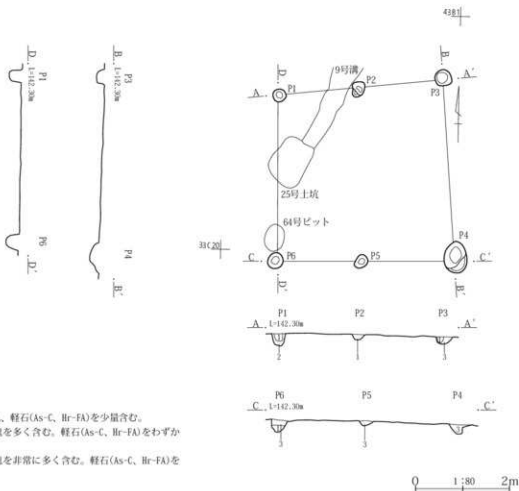
出土遺物 遺構検出作業時に土師器壺・甕類破片136点、

須恵器杯・埴輪破片1点が出土した。

所見 柱穴埋没土にAs-Bを含まないことから、古代の掘立柱建物である可能性が高い。

第7表 上町遺跡5号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模		2間×1間		棟方向		東西棟か	
主軸方向		N-89°-E		築設		無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 3.46	P1	0.28	0.27	0.27	円形	1.7	
	P2	0.35	0.28	0.12	不整形円形	1.76	
東辺 3.75	P3	0.48	0.35	0.17	円形	3.75	
	P4	0.66	0.48	0.22	楕円長方形	2	
南辺 3.81	P5	0.3	0.24	0.1	楕円形	1.82	
	P6	0.34	0.32	0.27	円形	3.5	



上町5号掘立柱建物

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C、Hr-FA)をわずかに含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を非常に多く含む。軽石(As-C、Hr-FA)をわずかに含む。硬質。

第62図 上町遺跡5号掘立柱建物平面図

第4章 上町遺跡の遺構と遺物

上町遺跡6号掘立柱建物

(第63図 PL.25)

グリッド 43区E・F2・3

主軸方位 N-21°-E

重複 1号掘立柱建物と接しているが、柱穴の直接の重複は無いことから新旧関係は不明である。

形態 桁行2間・梁行2間(4.63~4.53×4.10~4.19m)の側柱建物。南北棟。

柱間は南北辺2.19~2.06m、東西辺2.26~2.33m。大型の13号掘立柱建物と主軸がほぼ一致する。

P2を除く柱穴では柱痕跡は検出できなかった。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.30~0.50m、短径0.29~0.36m、深さ0.21~0.50mである。

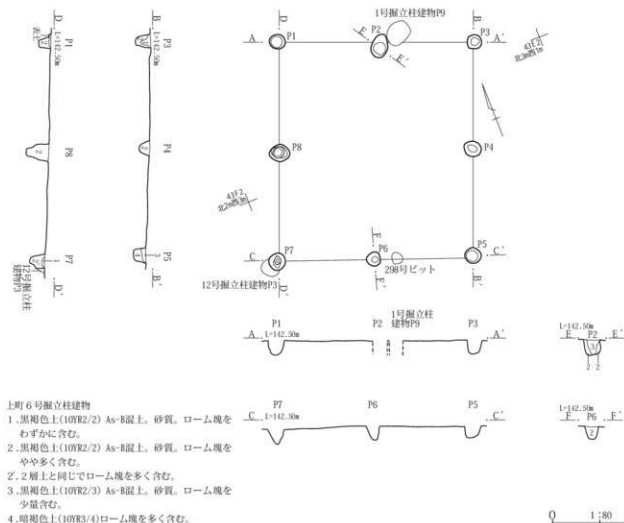
内部施設 無し 出土遺物 無し

所見 この6号掘立柱建物をはじめとする主軸が北東に

振れる建物は、柱穴埋没土がAs-Bが混じるシャリシャリとした砂質土が主体である。このことから軸が堅穴住居と同様にほぼ東西南北を向くものは古代、北東に振れるものは中世と分類することができる可能性がある。

第8表 上町遺跡6号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模	2間×2間		棟方向		南北棟	
	主軸方向		N-21°-E		施設	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)
		長径	短径	深さ		
北辺 4.19	P1	0.34	0.31	0.31	円形	2.19
	P2	0.5	0.34	0.32	楕円形	2.02
東辺 4.53	P3	0.32	0.31	0.32	円形	2.26
	P4	0.38	0.32	0.21	楕円形	2.28
南辺 4.10	P5	0.35	0.33	0.25	円形	2.06
	P6	0.3	0.29	0.29	楕円形	2.06
西辺 4.63	P7	0.36	0.35	0.33	円形	2.29
	P8	0.44	0.36	0.5	楕円形	2.33



第63図 上町遺跡6号掘立柱建物平面断面図

上町遺跡12号掘立柱建物

(第64図 PL.25)

グリッド 43区F・G1・2

主軸方位 N-83°-E

重複 8号住居、7号土坑、7号溝と重複する。8号住居との新旧関係は不明である。7号土坑との直接の重複は無いことから新旧関係は不明である。7号溝は溝埋没土除去後にP6を検出したことから、12号掘立柱建物の方が古い。

形態 桁行2間・梁行1間(3.74~3.78×3.21~3.77m)の側柱建物である。東西棟。柱間は南北辺1.78~2.04m、東西辺3.21~3.78m。南辺は大きく軸を変えている。

P4の埋没土層断面で柱痕跡を確認したのみで、他は

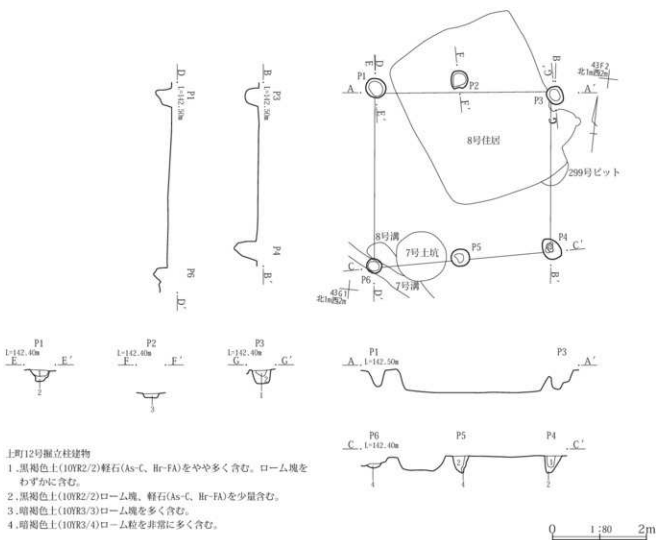
柱痕跡は検出できなかった。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.33~0.50m、短径0.31~0.39m、深さ0.21~0.60mで、比較的揃っている。

内部施設 無し **出土遺物** 無し

所見 柱穴埋没土にAs-Bを含まないことから、古代の掘立柱建物である可能性が高い。

第9表 上町遺跡12号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模		2間×1間		棟方向		東西棟	
主軸方向		N-83°-E		施設		無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 3.78	P1	0.43	0.39	0.21	円形	1.78	
	P2	0.38	0.35	0.6	隅丸方形	2.04	
東辺 3.21	P3	0.39	0.33	0.29	隅丸方形	3.21	
	P4	0.5	0.36	0.47	楕円形	1.91	
南辺 3.74	P5	0.38	0.38	0.37	円形	1.82	
	P6	0.33	0.31	0.25	円形	3.77	



第64図 上町遺跡12号掘立柱建物平面図

第4章 上町遺跡の遺構と遺物

上町遺跡13号掘立柱建物

(第65図 PL.25)

グリッド 43区C～E3・4

主軸方位 N-72°-W

重複 1号掘立柱建物、31号土坑、59号土坑、6号溝と重複していた。31号土坑は13号掘立柱建物P10より古い。またP6・P16は6号溝埋没土除去後に検出していることから、6号溝より古い。59号溝は直接の重複が無いことから新旧関係は不明であるが、土坑の長軸と掘立柱建物主軸がほぼ一致することから、関連する施設である可能性もある。しかし、調査では明らかにすることはできなかった。

形態 桁行3間・梁行2間の身舎(7.04～7.21×4.02～4.06m)の側柱建物。東西棟。北辺の東2間、東辺、南辺の西2間には幅0.8～1.0mほどの底あるいは縁がついていた。柱間は南北辺7.04～7.21m、東西辺4.02～4.06m。きわめて規格的である。身舎内側にあるP20～P22の用途は明確でない。

いずれの柱穴でも柱痕跡は検出できなかった。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.25～0.47m、短径0.22～0.45m、深さ0.13～0.43mと幅がある。

内部施設 無し **出土遺物** 無し

所見 13号掘立柱建物の柱穴埋没土も多量のAs-Bが混じるシャリシャリとした砂質土主体である。6号掘立柱建物と同様に中世の建物と考えられる。

上町遺跡14号掘立柱建物

(第66図 PL.25・105 遺物観察表P.355)

グリッド 44区A・B8・9

主軸方位 N-5°-E

重複 51号土坑と重複しているが、上面の埋没土観察では土坑が新しい。

形態 南西隅が調査区外となり、全体域をとらえられなかったが、他の8基の状況から、桁行2間・梁行2間(4.91×4.62m)の側柱建物と推定される。南北棟か。柱間は南北辺2.24～2.37m、東西辺2.15～2.66m。東辺は西へ大きく軸を変えている。

P1・P2・P3・P5・P6・P8で柱痕跡を検出した。P5の2層は埋没土中の半分を掘り下げた時点で大部分が崩れ空洞化してしまったほどである。柱穴は楕

第10表 上町遺跡13号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模		3間×2間		棟方向		東西棟	
主軸方向		N-72°-W		施設		南・東・北面庇	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)		深さ	形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径				
北辺 7.04	P1	0.37	0.27	0.22	楕円形	2.09	
	P2	0.33	0.28	0.24	円形	2.53	
	P3	0.44	0.39	0.28	円形	2.43	
東辺 4.02	P4	0.38	0.35	0.35	円形	2.97	
	P5	0.31	0.28	0.23	円形	2.05	
南辺 7.21	P6	0.26	0.25	0.28	円形	2.48	
	P7	0.46	0.37	0.32	楕円形	2.56	
	P8	0.47	0.28	0.16	楕丸長方形	2.15	
西辺 4.06	P9	0.46	0.38	0.27	不整楕円形	1.96	
	P10	0.32	0.28	0.21	楕円形	2.1	
	P11	0.33	0.28	0.24	円形	2.72	
	P12	0.33	0.27	0.13	楕円形	2.16	
	P13	0.25	0.22	0.17	楕円形		
	P14	0.47	0.38	0.26	不整楕円形	2.45	
	P15	0.41	0.38	0.39	円形	2.52	
	P16	0.38	0.34	0.29	円形		
	P17	0.35	0.31	0.17	円形	1.85	
	P18	0.46	0.31	0.28	楕円形	2.13	
	P19	0.31	0.29	0.28	円形		
	P20	0.36	0.35	0.43	円形	2.67	
	P21	0.47	0.45	0.38	円形	2.27	
	P22	0.46	0.39	0.33	円形		

第11表 上町遺跡14号掘立柱建物柱穴計測表

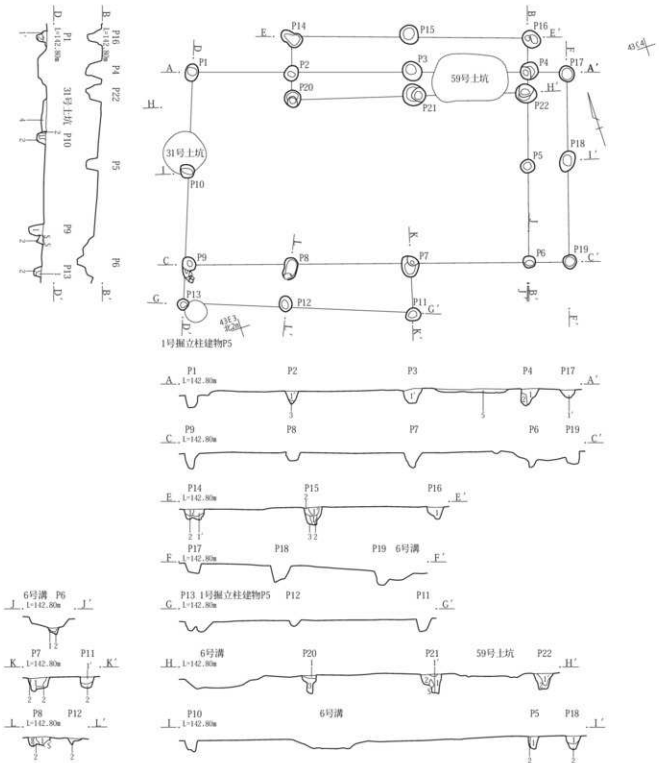
建物全体規模		2間×2間		棟方向		南北棟か	
主軸方向		N-5°-E		施設		無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)		深さ	形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径				
北辺 4.62	P1	0.59	0.55	0.56	楕丸長方形	2.24	
	P2	0.64	0.48	0.76	楕丸長方形	2.37	
東辺 4.91	P3	0.55	0.47	0.61	楕円形	2.66	
南辺 2.15	P4	0.74	0.58	0.85	楕丸長方形	2.25	
	P5	0.54	0.54	0.71	円形	2.15	
	P6	0.82	0.5	0.73	楕丸長方形		
	(P7)						
	P8	0.55	0.48	0.54	楕円形	2.55	

円形あるいは円形で、長径0.54～0.82m、短径0.47～0.58m、深さ0.54～0.85mと比較的揃っており、他の柱穴より大きく深い。

内部施設 無し

出土遺物 P1埋没土中から、砥沢石裂の紡輪(第66図1)が出土した。ここで図示した遺物以外に土師器壺・甕類破片7点、須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

所見 柱穴埋没土にAs-Bを含まないことから、古代の掘立柱建物である可能性が高い。

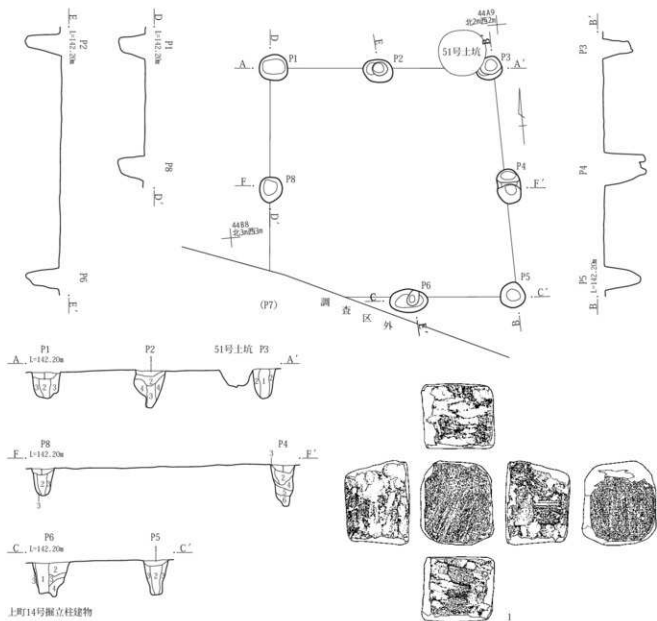


上町13号掘立柱建物

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-B混土軽石(As-C, Hr-FA)。ローム塊を少量含む。
1'は1層土にローム塊を多く含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。
3'. 3層土が非常にたたくしまっている。
4. 黒褐色土(10YR2/2) As-B混土軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊をわずかに含む。(31号土坑)
5. 黒褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)。焼土粒。灰を少量含む。(50号土坑)

第65図 上町遺跡13号掘立柱建物平面断面図

第4章 上町道跡の遺構と遺物



上町14号掘立柱建物

P 1 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
2. 黒色土(10YR2/1)軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。(柱痕)
3. 黒色土(10YR2/1)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。

P 2 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。
3. 黒色土(10YR2/1)軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。(柱痕)
4. 黒色土(10YR2/1)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。

P 3 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)、炭化物、焼土粒をわずかに含む。軟質。(柱痕)
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。

P 4 SPF-F'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)夾雑物を含まない。
4. 黒色土(10YR2/1)ローム塊を少量含む。
5. 3層と同じ。
6. 4層と同じ。

P 5 SPC-C'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)、焼土粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、焼土粒。炭化物をわずかに含む。非常に軟質。(柱痕)
3. 黒色土(10YR2/1)ローム塊をごくわずかに含む。

P 6 SPC-C'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、焼土粒を極わずかに含む。軟質(柱痕)
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)。焼土粒をごくわずかに含む。
4. 黒色土(10YR2/1)ローム塊をわずかに含む。

P 8 SPF-F'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
2. 黒色土(10YR2/1)軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。(柱痕)
3. 黒色土(10YR2/1)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。

0 1:2 5cm

0 1:80 2m

第66図 上町道跡14号掘立柱建物平面と出土遺物図

上町遺跡15号掘立柱建物

(第67図 PL.26 遺物観察表P.332)

グリッド 43区R・S11・12

主軸方位 N-83°-E

重複 57号・58号土坑と重複する。北西隅のP1が58号土坑埋没土を掘込んでいたことから、15号掘立柱建物の方が58号土坑より新しい。57号土坑は直接の重複がなかったことから、新旧関係は不明である。

形態 桁行2間・梁行2間(3.41～3.98×3.31～3.34m)の側柱建物である。東西棟と推定される。柱間は南北辺1.69～1.75m、東西辺1.53～1.78m。

東辺の中央P4は57号土坑に壊されて検出されなかった。P2・P3・P7・P8では土層断面で柱痕跡が検出された。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.45～0.60m、短径0.41～0.54m、深さ0.47～0.81mで、比較的大規模なものであった。

内部施設 無し

出土遺物 P1埋没土中から土師器杯(第67図2)が、P8埋没土中から土師器杯(1)が出土した。また、遺構検出作業時に土師器杯類破片8点、壺・甕類破片117点、須恵器杯・椀類破片2点、瓶・甕類破片1点が出土した。

所見 柱穴埋没土にAs-Bを含まないことから、古代の掘立柱建物である可能性が高い。

第12表 上町遺跡15号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模	2間×2間		棟方向		東西棟	
主軸方向	N-83°-E		施設		無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)
		長径	短径	深さ		
北辺 3.98	P1	0.54	0.52	0.54	楕円形	1.72
	P2	0.45	0.41	0.61	円形	1.75
	P3	0.52	0.45	0.54	楕円形	
東辺 3.34	(P4)					
	P5	0.49	0.44	0.69	円形	1.69
南辺 3.41	P6	0.5	0.46	0.47	楕円形	1.72
	P7	0.6	0.54	0.81	楕円形	1.53
西辺 3.31	P8	0.55	0.5	0.59	楕円形	1.78

第13表 上町遺跡16号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模	2間以上×1間		棟方向		南北棟	
主軸方向	N-42°-W		施設		無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)
		長径	短径	深さ		
北東辺 3.97	P1	0.9	0.6	0.78	不整楕円形	1.86
	P2	0.42	0.41	0.47	円形	2.12
南西辺 3.28	P3	0.43	0.4	0.51	円形	3.28
	P4	0.44	0.36	0.36	楕円形	2.28
北西辺 2.28	P5	0.66	0.51	0.74	楕円形	2.17

上町遺跡16号掘立柱建物

(第68図 PL.26)

グリッド 44区C・D13・14

主軸方位 N-42°-W

重複 26号住居、17号掘立柱建物と重複していた。26号住居隅が16号掘立柱建物P1埋没土上層に造られていることから、16号掘立柱建物は26号住居より古い。17号掘立柱建物は柱穴の直接の重複が無いことから新旧関係は不明である。

形態 桁行3間以上・梁行1間(3.97m以上×3.28m)の側柱建物である。南北西棟。

柱間は東西辺(桁行)1.86～2.28m、南北辺(梁行)3.28m。梁行の柱筋にのる251号ビットは本掘立柱建物の柱の可能性もあるが、柱間が等間隔でなくなることから、単独ビットとして報告した。

いずれの柱穴でも柱痕跡は検出できなかった。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.42～0.90m、短径0.36～0.60m、深さ0.36～0.78mで、比較的大規模なものであった。

内部施設 無し

出土遺物 無し

所見 柱穴埋没土にAs-Bを含まないことから、古代の掘立柱建物である可能性が高い。

上町遺跡17号掘立柱建物

(第68図 PL.26 遺物観察表P.332)

グリッド 44区C・D13～15

主軸方位 N-74°-E

重複 16号掘立柱建物と重複していたが柱穴の直接の重複は無いことから新旧関係は不明である。

形態 桁行2間以上、梁行2間(4.17m以上×4.62m)の側柱建物である。東西棟。

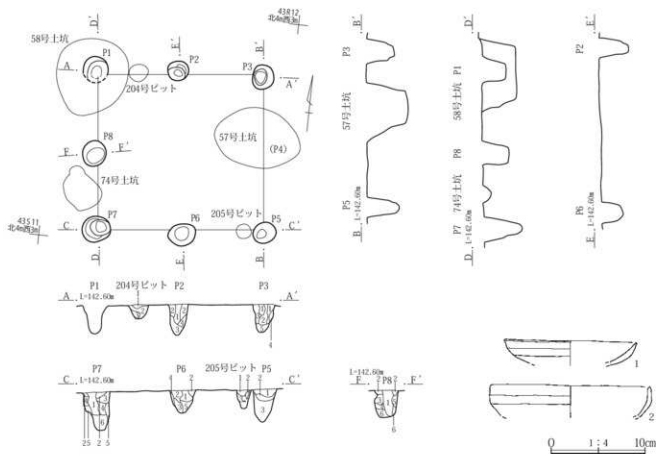
柱間は北辺2.07～2.09m、東辺2.11～2.4m。

いずれの柱穴でも柱痕跡は検出できなかった。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.38～1.20m、短径0.44～0.96m、深さ0.47～0.69mで、深さはほぼ一定であるが、規模には幅がある。抜き取りの痕跡と推定される。

内部施設 無し

出土遺物 P4埋没土中から土師器壺(68図1)が出土した。

所見 柱穴埋没土にAs-Bを含まないことから、古代の掘立柱建物である可能性が高い。



P 2 SPA-A'

1. 極暗褐色土(7.5YR2/3)黄褐色土粒・塊1cm大を含む。やや粘質。(柱痕か)
2. 極暗褐色土(7.5YR2/3)黄褐色土粒・塊を1層よりも多量に含む。焼土粒を含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4)均質。VI層上主体。軟質。
4. 極暗褐色土(7.5YR2/3)2層と4層の中間的土質。

P 3 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/4)やや粘質。黄褐色土を含む。As-C軽石は目立たない。
2. 暗褐色土(10YR3/3)やや粘質。黄褐色土の混入目立たない。均質。As-C軽石は目立たない。(柱痕か)
3. 暗褐色土(10YR3/4)黄褐色土粒を含む。As-C軽石を含む。As-C軽石は目立たない。
4. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。As-C軽石を含まない。均質。V層上主体。
5. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。軟質。As-C軽石は目立たない。均質。

204号ピット SPA-A'

1. 黒褐色土(10Y2/3) As-C軽石を含む。黄褐色土粒を含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石黄褐色土粒、焼土粒を含む。やや砂質。
3. 暗褐色土(10YR3/3)やや粘質。均質。VI層上主体。

P 5 SPC-C'

1. 暗褐色土(10YR3/3)やや粘質。As-C軽石を含む。黄褐色土粒を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒、焼土粒、炭化物粒を含む。やや粘質。
3. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(VI層)粒を含む。

205号ピット SPC-C'

1. 黒褐色土(10YR2/3)
2. 黒褐色土(10YR2/3) V層土を含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊。土器片を含む。

P 6 SPC-C'

1. 暗褐色土(10YR3/3)黒褐色土、褐色土を斑状に含む。(柱痕か)
2. 黄褐色土(10YR5/8) VII層上主体。黒褐色土が混じる。
3. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊を含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。V層上主体。
5. 暗褐色土(10YR2/3)1層よりも黄褐色土の混入少ない(柱痕か)

P 7 SPC-C'

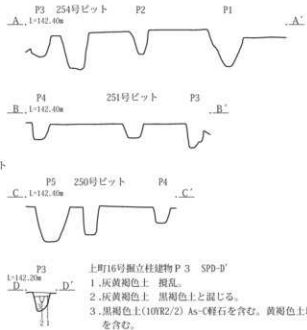
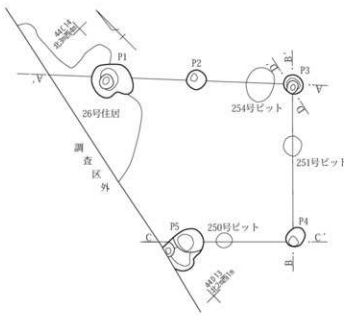
1. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒、焼土粒を含む。(柱痕か)
2. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土。VII層土塊を多量に含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)硬質。部状に褐色土を挟む。As-C軽石を含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3)粘質。褐色土塊を含む。
5. 黒褐色土(10YR2/3) V層上主体。
6. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。黄褐色土塊を含む。

P 8 SPF-F'

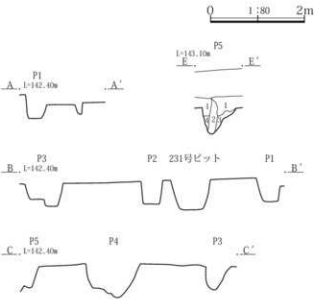
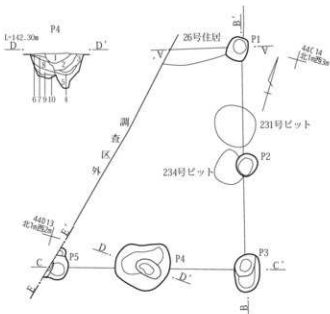
1. 暗褐色土(10YR3/3) As-C軽石、黄褐色土粒を含む。軟質。(柱痕か)
2. 黒褐色土(10YR3/2)褐色土を混じる。As-C軽石を含む。
3. 黒褐色土と暗褐色土が混在。粘質。焼土を含む。
4. 3層と同質。黒褐色土が目立つ。
5. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。V層上主体。
6. にぶい黄褐色土(10YR4/3)粘質。VI層上主体。

第67図 上町遺跡15号掘立柱建物平面図と出土遺物図

第2節 検出された遺構と遺物



- 上町16号掘立柱建物P3 SP0-D'
1. 灰黄褐色土 粗乱。
 2. 灰黄褐色土 黒褐色土と混じる。
 3. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。黄褐色土塊を含む。

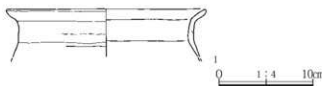


上町17号掘立柱建物P4 SP0-D'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。黄褐色土塊を含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3) 1層よりも黄褐色土塊少ない。やや砂質。
3. 暗褐色土(10YR3/3)褐色土(VI層)を混じる。やや粘質。
4. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土塊を多量に含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土を含まない。粘質。
6. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒を含む。
7. 黄褐色土塊主体。褐色土と混じる。粘質。
8. 黄褐色土 褐色土塊と褐色土が混じる。
9. 暗褐色土 黄褐色土を斑状に含む。
10. 黄褐色土塊主体。

上町17号掘立柱建物P5 SPE-E'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含み。Hr-FAの軽石も見る。黄褐色土を斑状に含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) As-C軽石を含む。軟質。空隙がある(柱痕)。
3. 黒褐色土(10YR3/2) As-C軽石を含む。やや砂質。
4. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。やや粘質。



第14表 上町遺跡17号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模		2間以上×2間		棟方向/東西棟			
主軸方向	N-74°-E	規模(m)		施設 無し			
桁・梁の規模(m)	No	長さ	短径	深さ	形状	次柱穴との間隔(m)	
東辺	4.62	P 1	0.5	0.44	0.5	方形	2.49
		P 2	0.47	0.44	0.5	円形	2.11
南辺	4.17	P 3	0.8	0.53	0.47	縦長方形	2.09
		P 4	1.2	0.96	0.69	不整形円形	2.07
		P 5	0.38	0.68	0.54	不整形円形	2.07

第68図 上町遺跡16号・17号掘立柱建物平面と出土遺物図

4. ピット列

上町遺跡1号ピット列

(第69図 PL.26)

グリッド 33区D・E19 主軸方位 N-82°-E

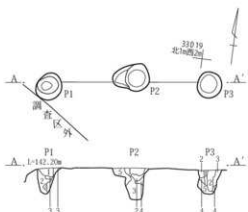
重複 無し。

形態 3基のピットが並ぶ。ピットの間隔は1.42～1.53m。ピットは楕円形あるいは円形で、長径0.78～0.54m、短径0.57～0.51m、深さ0.62～0.49mで比較的大規模であった。P3の土層断面で柱痕跡が検出された。何らかの施設のピット列の可能性はある。

出土遺物 無し

第15表 上町遺跡1号ピット列計測表

主軸方向 ピット列の 規模(m)	柱穴		規模(m)			形状	次ピットとの 間隔(m)
	No		長径	短径	深さ		
3.44	P 1		0.59	0.52	0.51	楕円形	1.42
	P 2		0.78	0.57	0.62	不整楕円形	1.53
	P 3		0.54	0.51	0.49	円形	



上町1号ピット列

P 1 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。軽石(As-C, Ir-FA)を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土をわずかに含む。As-C軽石を含む。
3. 褐色土塊(10YR4/2)軟質。VI層上。
4. 黒褐色土 2層と褐色土を混じる。やや粘質。

P 2 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。軽石(As-C, Ir-FA)を含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3)V層土を混じる。軟質。
3. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(VII層)塊を多量に含む。粘質。
5. 暗褐色土(10YR3/4)黒褐色土と褐色土が斑状に混じる。As-C軽石を含む。

P 3 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。軟質。
2. 暗褐色土(10YR3/3)褐色土。VI層上の混入が目立つ。柱痕の可能性あり。
3. 黒褐色土 黄褐色土(VII層)塊を多量に混じる。
4. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。やや粘質。
5. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土を斑状に含む。やや粘質。As-C軽石を含む。



第69図 上町遺跡1号ピット列断面図

上町遺跡2号ピット列

(第70図 PL.26)

グリッド 43区G・H2 主軸方位 N-73°-W

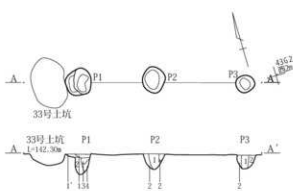
重複 33号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

形態 3基のピットが並ぶ。ピットの間隔は1.97～1.50m。ピットは楕円形あるいは円形で、長径0.57～0.41m、短径0.56～0.37m、深さ0.38～0.27mで比較的小規模なピットであった。3基の土層断面で柱痕跡の可能性ある土層堆積が検出された。何らかの施設のピット列である可能性がある。

出土遺物 無し

第16表 上町遺跡2号ピット列計測表

主軸方向 ピット列の 規模(m)	柱穴		規模(m)			形状	次ピットとの 間隔(m)
	No		長径	短径	深さ		
3.47	P 1		0.57	0.56	0.38	楕円形	1.5
	P 2		0.57	0.49	0.3	隅丸方形	1.97
	P 3		0.41	0.37	0.27	楕円形	



上町2号ピット列

P 1 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。やや砂質。
- 1'. 1層と同質。VI層土をわずかに含む。
2. 褐色土(10YR4/4)VI層土と黒褐色土を混じる。軟質。黄褐色土(VII層)塊を含む。(柱痕か)
3. 暗褐色土(10YR3/3)軟質。均質。As-C軽石は目立たない。
4. 褐色土 2層と同質。黒褐色土塊を含む。やや粘質。

P 2 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。軟質。(柱痕か)
2. 黒褐色土(10YR2/3)1層よりも硬く、褐色土(VI層)を混じる。As-C軽石を含む。

P 3 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。均質。(柱痕か)
2. 暗褐色土(10YR3/4)黒褐色土と褐色土(VI層)を横断的に混じる。



第70図 上町遺跡2号ピット列断面図

上町遺跡3号ピット列

(第71図 PL.26)

グリッド 43区D1 主軸方位 N-12°-W

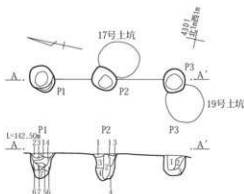
重複 17号・19号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

形態 3基のピットが並ぶ。ピットの間隔は1.35～1.47m。ピットは楕円形あるいは円形で、長径0.59～0.53m、短径0.49～0.44m、深さ0.38～0.57mで比較的大規模で、画一的であった。P2・P3の土層断面で柱痕跡が検出された。何らかの施設のピット列である可能性がある。

出土遺物 無し

第17表 上町遺跡3号ピット列計測表

主軸方向	N-12°-W					次ピットとの間隔(m)
	ピット列の規模(m)	柱穴No	規模(m)			
長径			短径	深さ		
2.81	P 1	0.59	0.49	0.5	楕円形	1.35
	P 2	0.53	0.44	0.57	楕円形	1.47
	P 3	0.53	0.45	0.38	楕円形	



上町3号ピット列

P 1 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含み、やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含み、やや砂質。褐色土(VI層)小粒を含む。
3. 褐色土(10YR4/4)VI層上の均質層。軟質。やや粘質。
4. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-C軽石を含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3)やや粘質。VI層上粒の混入目立つ。
6. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土。VI層上土の混入が目立つ。
7. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(VI層)粒を含む。6層よりも少ない。

P 2 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) As-C軽石を含む。やや砂質。VI層土と混じる。
2. 黒褐色土(10YR2/3)均質でやや砂質。As-C軽石を含む。(柱痕か)
3. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土(VI層)を含む。
4. 黒褐色土 3層と同様だが黄褐色土(VI層)塊を含む。

P 3 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや砂質。褐色土(VI層)粒を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや砂質。黄褐色土(VI層)塊2～3cm大を含む。
3. 褐色土(10YR4/4)VI層上土体。黒褐色土塊、As-C軽石を含む。

0 1:80 2m

第71図 上町遺跡3号ピット列平面断面図

上町遺跡4号ピット列

(第72図 PL.26)

グリッド 33区D19 主軸方位 N-4°-E

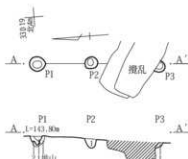
重複 無し。4号住居の西壁すぐに接して、方向を同じくして検出された。

形態 3基のピットが並ぶ。ピットの間隔は1.47～1.13m。いずれのピットでも柱痕跡は検出されなかった。ピットは小規模な楕円形あるいは円形で、長径0.34～0.27m、短径0.31～0.25m、深さ0.24～0.12mであった。

出土遺物 無し

第18表 上町遺跡4号ピット列計測表

主軸方向	N-4°-E					次ピットとの間隔(m)
	ピット列の規模(m)	柱穴No	規模(m)			
長径			短径	深さ		
2.6	P 1	0.34	0.31	0.21	円形	1.13
	P 2	0.27	0.25	0.24	円形	1.47
	P 3	0.16+	0.25	0.12	円形	



上町4号ピット列

P 1・P 2・P 3 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Br-FA)を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。軽石(As-C, Br-FA)をわずかに含む。

0 1:80 2m

第72図 上町遺跡4号ピット列平面断面図

上町遺跡5号ピット列

(第73図 PL.27)

グリッド 44区C・D11・12

主軸方位 N-1°-E

重複 無し。

形態 西辺3間、南辺3間のL字形に8基のピットが並ぶ。ピットの配置から何らかの施設のピット列の可能性がある。南西隅はP4とP5が接しており、西辺と南辺が別の構造物であったことがわかる。

ピットの間隔は南辺2.64～2.15m、西辺2.03～1.84m。いずれのピットでも柱痕跡は検出できなかった。ピットは楕円形あるいは円形で、長径0.78～0.38m、短径0.58～0.33m、深さ0.49～0.22mで規模は一定でなかった。

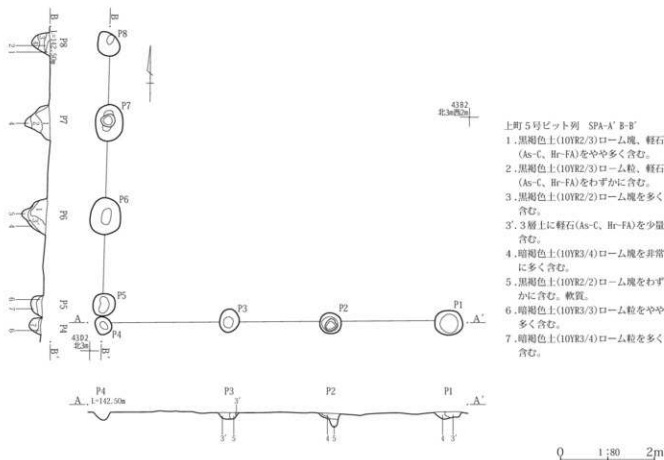
内部施設 無し 出土遺物 無し

所見 本遺構は調査では2号掘立柱建物として記録したが、時沢西組屋谷戸遺跡2区では北東部に連続する遺構が検出されなかったことから、L字形のピット列として報告した。厳密には同時にあったかどうかは不明である

が、北東9mほどのところにある時沢西組屋谷戸遺跡5号掘立柱建物の桁・梁の方向と一致することから、L字形に存在し、時沢西組屋谷戸遺跡5号掘立柱建物と関連する遺構であった可能性が高い。

第19表 上町遺跡5号ピット列柱穴計測表

主軸方向	ピット列の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次ピットとの間隔(m)
			長径	短径	深さ		
南辺 7.31		P 1	0.6	0.53	0.3	円形	2.57
		P 2	0.47	0.44	0.41	円形	2.15
		P 3	0.5	0.41	0.27	楕円形	2.64
西辺 6.05		P 4	0.38	0.33	0.26	楕円形	0.44
		P 5	0.52	0.46	0.22	円形	1.84
		P 6	0.78	0.64	0.44	楕円長方形	2.03
		P 7	0.77	0.58	0.49	楕円長方形	1.72
		P 8	0.56	0.46	0.39	不整形円形	



第73図 上町遺跡5号ピット列平面断面図

- 上町5号ピット列 SPA-A' B-B'
1. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。
 2. 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒、軽石(As-C、Hr-FA)をわずかに含む。
 3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。
 - 3'. 3層上に軽石(As-C、Hr-FA)を少量含む。
 4. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を非常に多く含む。
 5. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をわずかに含む。軟質。
 6. 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒をやや多く含む。
 7. 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒を多く含む。

上町遺跡6号ピット列

(第74図 PL.26)

グリッド 44区D11・12

主軸方位 N-17°-W

重複 無し。

形態 3基のピットが並ぶ。ピットの間隔は南北辺1.51～1.63m、東西辺1.50～1.65m。いずれのピットでも柱痕跡は検出できなかった。ピットは楕円形あるいは円形で、長径0.88～0.65m、短径0.86～0.49m、深さ1.18～0.46mで比較的大規模であった。北側にある17号掘立柱建物と主軸方位がほぼ一致し、P5を通る柱筋の南側延長にあたる可能性もある。P1の土層断面で柱痕跡のような土層堆積が検出された。何らかの施設のピット列の可能性はある。

本遺構は調査では18号掘立柱建物として記録したが南辺のピットとしたピットが他のピットより0.3m深く、27号住居P2と兼ねる位置にあった。検討の結果、このピットは27号住居内の他のピットとの関連から、27号住居P2とした方がよいと判断されたことから、18号掘立

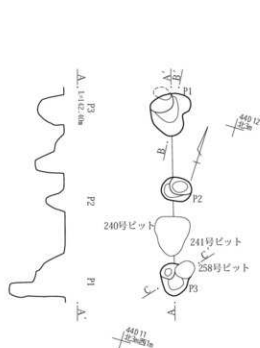
柱建物は欠番とし、東辺のピット列を6号ピット列として報告した。PL.26の遺構写真は1掘立柱建物として撮影したものである。

内部施設 無し

出土遺物 無し

第20表 上町遺跡6号ピット列柱穴計測表

ピット列の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次ピットとの間隔(m)
		長径	短径	深さ		
3.72	P1	0.88	0.86	1.18	不整形	1.92
	P2	0.65	0.49	0.46	楕円長方形	1.83
	P3	0.69	0.59	0.57	楕円長方形	



第74図 上町遺跡6号ピット列平面断面図



上町6号ピット列 P1 SPB-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや粘質。軟質。(柱痕)
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3)
3. 黒褐色土(10YR2/3) 2の塊を含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや粘質。
5. 黒褐色土(10YR2/3)軟質。(柱痕)
6. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや粘質。
7. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土を塊状に含む。
8. 褐色土 V層土塊主体。

上町6号ピット列 P3 SPC-C'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。IV層上土体。
3. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土塊を含む。やや粘質。
4. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。褐色土塊多量に含む。やや砂質。
5. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土粒を含む。やや粘質。
6. 暗褐色土(10YR2/3)やや粘質。VI層上土体。

0 1:80 2m

5. 溝

溝は23条検出されているが、概要(P.23)で記述したように、12号・13号・16号・17号・18号溝は1号道路の付属溝として、第5章で報告した。また、14号・15号溝は1号道路と交わる古い溝で、北側は時沢西組屋谷戸遺跡15号溝につながっていたことから、これも第5章で報告した。したがって、ここでは16条の溝について記述する。

上町遺跡1号溝(第75・76図 PL.27・106 遺物観察表P.333)

1号溝は上町遺跡台地東端で検出された。台地縁辺に沿って掘られた北西から南東方向の溝である。走向はN-68°-E、上幅1.90m、深さ1.26m、調査長は6.30mである。底面は凹凸が著しく、北端が0.21m高かった。

溝内は砂礫層や灰褐色・黄褐色シルト、砂層で埋まっていた。埋没土中から須恵器杯(第76図1)、須恵器瓦塔(2)が出土した。

1号溝の掘削時期は不明である。時沢西組屋谷戸遺跡で無名沢の調査をしたところ、本1号溝の延長の可能性が考えられる6号溝が検出された。この溝の上層にはAs-B塊が認められたことから、6号溝は平安時代以前に掘られた可能性が高い。1号溝が6号溝の延長であるとしたら、1号溝は平安時代以前の溝の可能性がある。埋没土の状況から流水があったと判断された。

上町遺跡2号溝(第75・76図 PL.27・106 遺物観察表P.355)

2号溝も上町遺跡台地東端で検出された。1号溝より西側で台地内部に2.2mほど入った地点である。台地縁辺に沿って掘られた北西から南東方向の溝で、時沢西組屋谷戸遺跡5号溝につながると推定される。上町遺跡調査区北端で1号井戸と重複するが、1号井戸が新しい。

走向はN-20°-E、上幅1.83m、深さ0.46m、調査長は22.0mである。底面は凹凸があり、東半分が凹地状のこっており、西側から東側へ少なくとも2回の掘り直しがあったことがわかる。底面標高は北端が0.23m高かった。溝内はローム塊を含む暗褐色土で埋まっており、流水があった痕跡はなかった。自然埋没と判断された。埋没土中から砥沢石製の砥石(第76図3)が出土した。2号溝の掘削時期は時期を特定できる出土遺物がないことから不明である。

上町遺跡3号溝(第75図 PL.27)

3号溝も上町遺跡台地東端で検出された。2号溝の東側に湾曲して平行する位置にある。台地縁辺に沿って掘られた北西から南東方向の溝である。2号溝よりもさらに残存状況がよくないが、底面に2条の凹地の痕跡がある。埋没土断面から判断するのは難しいが2号溝同様に西側から東側へ掘り替えられたと考えられる。17ライン以南の南端は不明である。

走向はN-14°-E、上幅1.82m、深さ0.22m、調査長は13.50mである。北端と南端の底面標高の差はなかった。溝内はローム塊を含む暗褐色土で埋まっており、流水があった痕跡はなかった。自然埋没と判断された。3号溝の掘削時期は出土遺物がないことから不明である。

上町遺跡4号溝

(第75・76図 PL.29・106 遺物観察表P.333・355)

4号溝も上町遺跡台地東端で検出された。2号溝の西側に平行する位置にある。台地縁辺に沿って掘られた北西から南東方向の溝である。3号溝よりもさらに残存状況がよくないが、底面に数条の凹地の痕跡があり、2号溝同様に掘りかえが行われたと考えられる。1号・11号住居と重複するが、4号溝が新しい。

走向はN-34°-E、上幅2.21m、深さ0.18m、調査長は10.40mである。底面標高は北端が0.16m高かった。溝内はローム塊を含む暗褐色土で埋まっており、流水があった痕跡はなかった。自然埋没と判断された。4号溝東脇から土師器皿(第76図4)が出土しているが、1号住居の遺物が攪乱されて出土したものと推定される。図示した遺物以外に土師器杯類破片24点、壺・甕類破片149点、須恵器杯・椀類破片12点、瓶・甕類破片10点が出土した。

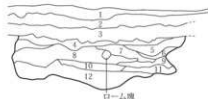
4号溝の掘削時期は伴う出土遺物が明確でないことから不明である。

上町遺跡10号溝(第75図 PL.29)

4号溝の北半部に重複して検出された。台地縁辺に沿って掘られた北西から南東方向の溝である。底面には凹凸が著しく、数条の凹地の痕跡があった。4号溝との新旧関係は不明である。

走向はN-21°-E、上幅0.60m、深さ0.07m、調査長は3.80mである。底面標高の記録はないが、北端が南

A, 1=140.80m



上町1号溝 SPA-A'

1. 表土
2. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。(現代の耕作土である可能性あり)
3. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊(直径10mm以下)を非常に多く含む。As-VP、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。かたくしまっている。(土地改良の際に、谷地部に盛られた土ではないかと考えられる。)
4. 1.にふい黄褐色土(10YR6/4)シルト塊を主体とし、暗褐色土塊、ローム塊を少量含む。
5. 4層上と同じだがより暗褐色土塊を多く含む。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2)にふい黄褐色シルト塊、ローム塊を少量含む。
7. 5層上と同じだが、よりローム塊(直径60mm以下)を多く含む。
8. 黒褐色土(10YR2/3)にふい黄褐色シルト塊、ローム塊を少量含む。やや粘性あり。
9. 灰黄褐色土(10YR4/2)砂質土粒子の細やかな砂、にふい黄褐色シルト粒をわずかに含む。
10. 砂層と9層上のラミナ状堆積層。
11. 10層と同じだが、暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土塊(直径80mm以下)を多く含む。
12. 砂礫層。礫は最大直径50mm程度。

A'

B, 1=141.00m



上町2号溝 SPB-B'

1. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、(直径5mm以下)をわずかに含む。しまりあり。
2. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、(最大直径80mm)を多く含む。しまりあり。

B'

C, 1=141.70m



上町2号溝 SPC-C'

1. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊(直径5mm以下)をわずかに含む。しまりあり。
2. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊(直径20mm以下)をやや多く含む。しまりあり。



D, 1=141.30m



上町3号溝 SPD-D'

1. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、(直径30mm以下)をやや多く含む。やや粘性。しまりあり。

E, 1=141.70m



上町3号溝 SPE-E'

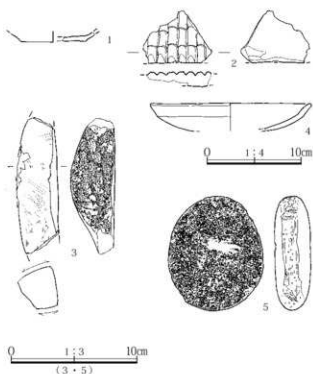
1. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊(直径50mm以下)をやや多く含む。やや粘性。しまりあり。
2. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊(直径20mm以下)を多く含む。やや粘性。しまりあり。

0 1:40 1m

0 1:100 5m

第75図 上町遺跡1号～4号・10号溝断面図

第4章 上町遺跡の遺構と遺物



第76図 上町遺跡1号・2号・4号溝出土遺物図

端より高かった。溝内はローム塊を含む暗褐色土で埋まっており、流水があった痕跡はなかった。自然埋没と判断された。10号溝の掘削時期は伴う出土遺物がなことから不明である。

上町遺跡5号溝(第77図 PL.27 遺物観察表P.333)

5号溝も上町遺跡地東端で検出された。2号溝の西側にコの字に掘られていた。10号住居、1号井戸、6号溝と重複するが、10号住居より新しく、1号井戸より古い。6号溝との新旧関係は不明である。

西辺の溝の走向はN-22°-E、上幅1.43m、深さ0.46m、調査長は22.50mである。底面標高は西辺中央が最も高く、北辺東端より0.37m、南辺東端より0.23m高かった。地形の傾斜に対応すると思われる。北端が0.16m高かった。溝内は、下層がローム塊を含むふい黄褐色土で、上層がローム塊を含む暗褐色土で埋まっており、流水があった痕跡はなかった。自然埋没と判断された。

埋没土中から須恵器碗(第77図1)、壺(2)が出土しているが、埋没土中の状況からして混入と推定される。図示した遺物以外に土師器杯類破片1点、壺・甕類破片1点、須恵器杯・碗類破片1点、瓶・甕類破片1点が出土。

5号溝の掘削時期や性格は不明である。

上町遺跡9号溝(第77図 PL.28)

9号溝は、5号溝の西側4m離れた位置で、5号溝西辺の溝に平行して検出された。南端で25号土坑、南半部で4号・5号掘立柱建物、北端で6号溝と重複していた。掘立柱建物よりは新しい。25号土坑と6号溝との新旧関係は不明である。

走向はN-26°-E、上幅0.92m、深さ0.13m、調査長は7.40mである。北端と南端で、底面標高に差は無かった。溝内は、ローム塊、As-C、Hr-F A軽石、砂、小礫を少量含む暗褐色土で埋まっており、流水があった痕跡はなかった。自然埋没と判断された。

遺物は出土しなかった。

9号溝の掘削時期や性格は不明である。

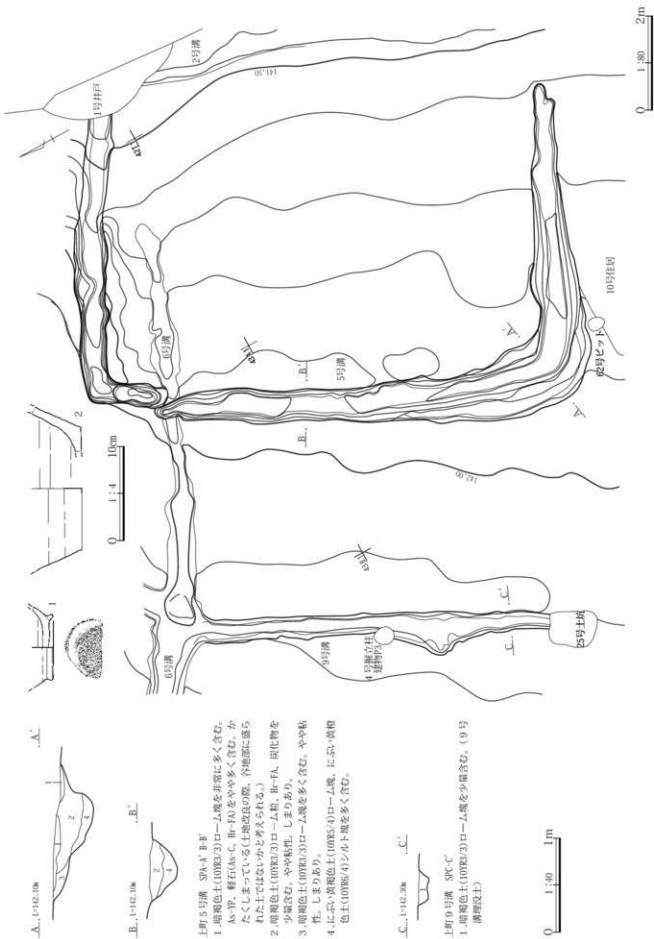
上町遺跡6号溝(第78図 PL.27・28 遺物観察表P.333)

6号溝は、上町遺跡の東半部の北端で検出された。前橋市と旧富士見村の境界に沿って掘られていた。43区のGライン以西には検出されなかった。13号掘立柱建物、5号溝、9号溝と重複する。13号掘立柱建物より新しく、5号・9号溝との新旧関係は不明である。

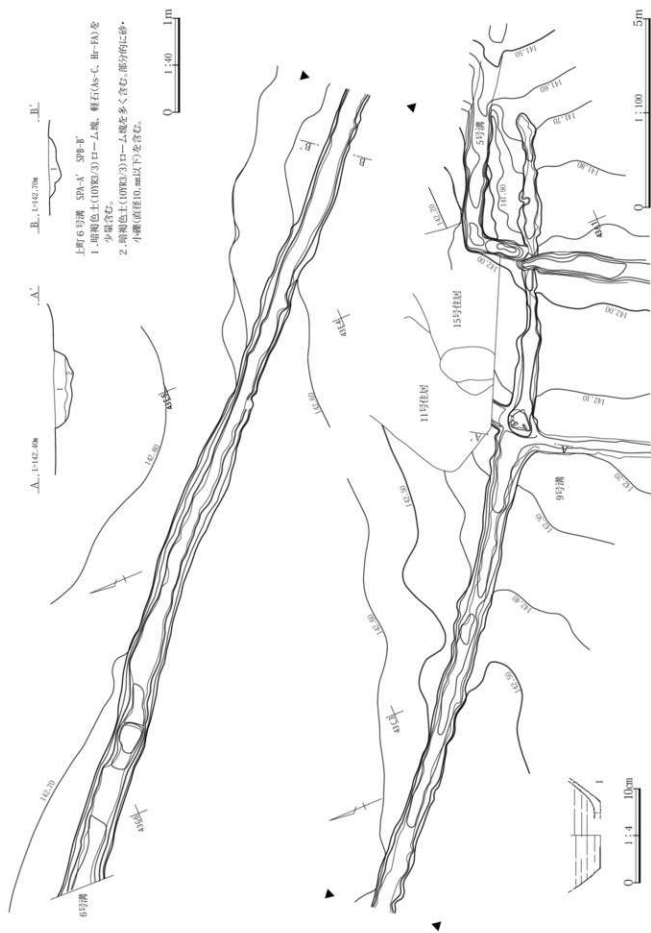
走向はN-55°-W、上幅0.99m、深さ0.38m、調査長は43.70mである。底面標高は43区Fライン周辺が最も高く、東端より0.63m、西端より0.23m高かった。地形の傾斜に対応すると思われる。溝内は、下層が多くのローム塊と部分的に砂・小礫を含む暗褐色土で、上層がローム塊、As-C、Hr-F A軽石を少量含む暗褐色土で埋まっており、流水があった痕跡はなかった。自然埋没と判断された。土地区画溝と考えられる。

埋没土中から須恵器杯(第78図1)が出土しているが、混入と推定される。図示した遺物以外に土師器杯類破片3点、壺・甕類破片3点、須恵器杯・碗類破片3点、瓶・甕類破片6点が出土した。

6号溝の掘削時期は不明である。



第77図 上町遺跡5号・9号溝平面図と出土遺物図



第78図 上町遺跡6号溝平面面と出土遺物図

上町遺跡7号溝(第79図 PL.28-106 遺物観察表P.352)

7号溝は、上町遺跡の東半部の南端で検出された北東側に湾曲する溝である。6号住居、12号住居、8号溝と重複していた。12号住居より新しく、6号住居、8号溝との新旧関係は不明である。

走向は概ねN-66°-Wで、東端部は湾曲していた。上幅1.08m、深さ0.29m、調査長は28.60mである。底面はほぼ平坦で、底面標高は北端が南端より0.31m高かった。溝内は、As-Bを混じる暗褐色土で埋まっており、流水があった痕跡はなかった。埋没自体は自然埋没と判断されたが、埋没土の上位に、南縁から幅0.72mほどの硬化面が、12号住居東端まで認められた。7号溝はこの硬化面を路面とする道路の北側側溝の可能性がある。

12号住居以西の硬化面は調査では検出されなかったが、土地改良工事等に伴って削平されたものと推定される。埋没土中から13世紀中頃から14世紀初頭とみられる龍泉窯系青磁坏破片(第79図1)が出土した。図示した遺物以外に須恵器杯・椀破片4点、瓶・甕類破片5点が出土した。

7号溝の掘削時期は埋没土中にAs-Bが混じていたことから、12世紀以降と考えられる。

上町遺跡8号溝(第79図 PL.28 遺物観察表P.333)

8号溝は、上町遺跡の東半部の南端で検出された直線の溝である。12号住居、7号溝と重複していた。12号住居より新しく、7号溝との新旧関係は不明である。

走向はN-47°-W、上幅0.56m、深さ0.20m、調査長は25.00mである。底面は凹凸があり、3か所の掘り残しが土橋状になっていた。H・I-2・3Gでは底面の凹凸がさらに著しくなっていた。底面標高は北端が南端より0.52m高かった。溝内は、ローム塊を多く含む暗褐色土で埋まっており、流水があった痕跡はなかった。自然埋没と判断された。埋没土中から須恵器杯(第79図2・3)が出土したが、混入であろう。図示した遺物以外に須恵器杯・椀破片2点、瓶・甕類破片1点が出土した。

8号溝は埋没土上位に7号溝に伴うと推定される硬化面がのっていたことから、7号溝や硬化面より古いと考えられる。

8号溝の掘削時期や性格は不明である。

上町遺跡11号溝(第79図 PL.29)

11号溝は、上町遺跡の東半部の北端で検出された。12号住居、35号土坑と重複するが、35号土坑より新しい。12号住居との新旧関係は不明である。

走向はN-62°-W、上幅0.47m、深さ0.10m、調査長は8.00mである。底面標高は北端が南端より0.12m高かった。溝内は、ローム塊、As-C、Hr-F A軽石を少量含む黒褐色土で埋まっており、流水があった痕跡はなかった。自然埋没と判断された。

遺物は出土しなかった。

11号溝の性格や掘削時期は不明である

上町遺跡19号溝(第80図)

19号溝は、上町遺跡の西部で検出された。21号住居、60号土坑と重複するが、いずれの遺構よりも19号溝が新しい。

走向はN-5°-E、上幅0.48m、深さ0.11m、調査長は8.82mである。底面標高は北端が南端より0.07m高かった。埋没土は不明であるが流水があった痕跡はなかった。

遺物は出土しなかった。

19号溝の性格や掘削時期は不明である

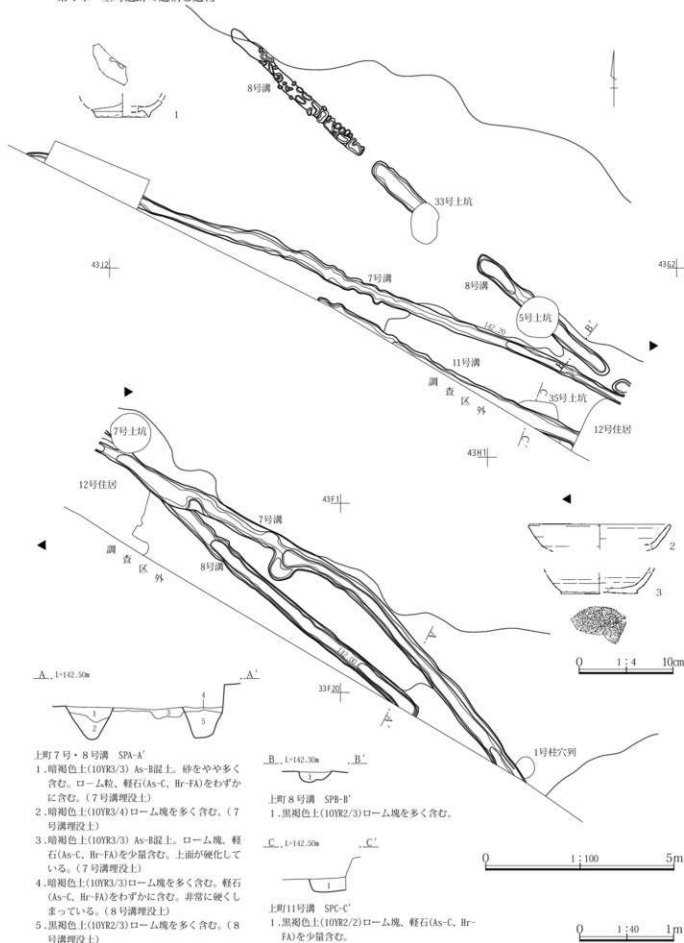
上町遺跡20号溝(第80図 PL.29 遺物観察表P.333)

20号溝は、上町遺跡の西部、19号溝の南東部で検出された。西端が19号溝と接するが、新旧関係は不明である。東半部は溝状であるが、西半部は不定形に掘り広がっていた。

走向はN-79°-E、西半の不定形部分の上幅0.48m、深さ0.11m、東半の溝状部分の上幅0.32m、深さ0.07m、調査長は8.23mである。底面標高は東端が西端より0.21m高かった。溝内はAs-Cを含むやや砂質の黒褐色土で埋まっており、流水があった痕跡はなかった。自然埋没と判断された。

埋没土中から須恵器蓋(第80図1)が出土したが混入と考えられる。図示した遺物以外に土師器杯類破片1点、壺・甕類破片2点、須恵器杯・椀破片1点が出土した。

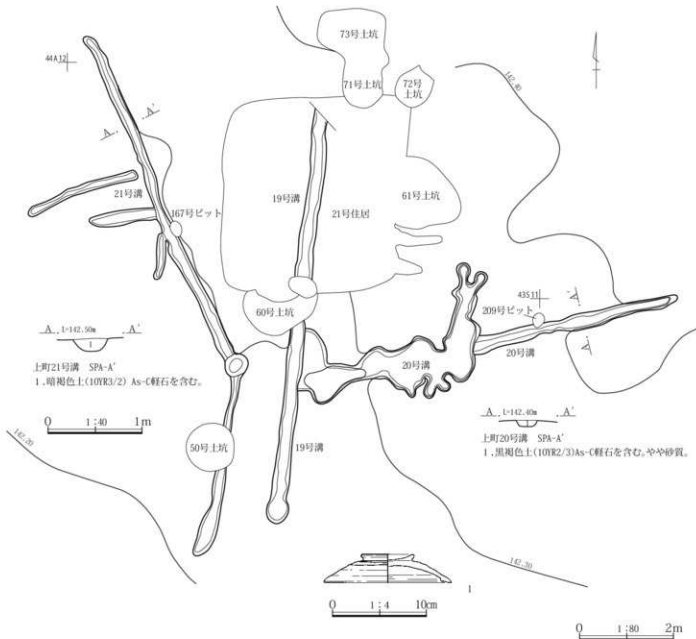
20号溝の性格や掘削時期は不明である



- 上町7号・8号溝 SPA-A'
1. 暗褐色土(10YR3/3) As-B混上。砂をやや多く含む。ローム粒、軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。(7号溝埋没土)
 2. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を多く含む。(7号溝埋没土)
 3. 暗褐色土(10YR3/3) As-B混上。ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。表面が硬化している。(7号溝埋没土)
 4. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。非常に硬くしまっている。(8号溝埋没土)
 5. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。(8号溝埋没土)

- B., 1-142.30m .B'
- 上町8号溝 SPB-B'
1. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。
- C., 1-142.50m .C'
- 上町11号溝 SPC-C'
1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。

第79図 上町遺跡7号・8号・11号溝平面図と出土土物図



第80図 上町遺跡19号～21号溝平面図と出土遺物図

上町遺跡21号溝(第80図 PL.29)

21号溝は、上町遺跡の西部、19号溝の西側で検出された。南部1/3のところで屈曲する。50号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

走向は北半部でN-25°-W、上幅0.50m、深さ0.10m、調査長は11.78mである。底面標高は北端と南端とで差は無かった。溝内はAs-Cを含む黒褐色土で埋まっており、流水があった痕跡はなかった。自然埋没と判断された。遺物は出土しなかった。

21号溝は細の紋間溝か、区画溝である可能性があるが、その性格や掘削時期は不明である

上町遺跡22号溝(第81図)

22号溝は、上町遺跡の中央部の凹地にある1号道路跡の東側で23号溝とともに検出された。重複はない。

走向はN-64°-E、上幅0.53m、深さ0.10m、調査長は8.00mである。底面標高は北端と南端とでほとんど差は無かった。溝内は、As-C・Hr-F A軽石、斑状の黄褐色土塊を含む黒褐色土で埋まっていた。やや砂質で硬くしまっていた。流水があった痕跡はなかった。自然埋没と判断された。

出土遺物は出土しなかった。

22号溝の性格や掘削時期は不明である

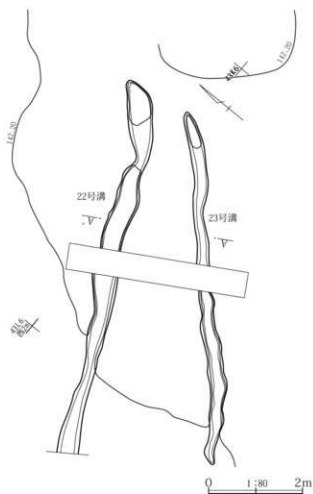
上町遺跡23号溝(第81図 PL.29)

23号溝も、上町遺跡の中央部の凹地にある1号道路跡の東側で22号溝とともに検出された。23号溝が東側である。重複はない。

走向はN-47°-E、上幅0.32m、深さ0.05m、調査長は7.60mである。底面標高は北端と南端とで差は無かった。埋没土中には不明であるが流水があった痕跡はなかった。

遺物は出土しなかった。

23号溝の性格や掘削時期は不明である



上町22号溝 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)軽石(As-C, Br-FA)を含む。黄褐色土(VII層土)を裏に含む。やや砂質。硬くしまっている。



第81図 上町遺跡22号・23号溝断面図

6. 井戸

上町遺跡1号井戸(第82図 PL.38)

グリッド 32区S20 形状 不整楕円形

重複 2号・5号溝より新しい。

規模 長軸3.11m以上 短軸0.85m以上

残存壁高1.03m以上

長軸方位 計測不能

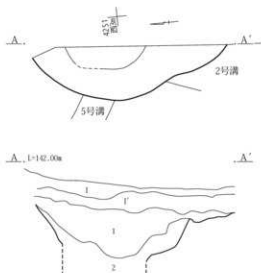
断面形 上端がやや開いた筒形をしていると推定される。

埋没土 上位はローム塊をわずかに含む黒褐色土や、暗灰黄色砂質土塊をやや多く含む黒褐色土で埋まっている。下半部については調査ができなかったため、不明である。

底面 底面形状は不明である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 1号井戸は調査区壁にかかっていたこと、地下水の湧出が著しかったことから、約1m掘削して調査を終了せざるを得なかった。出土遺物もなかったことから井戸の時期は不明である。



上町1号井戸 SPA-A'

1. 表土(現代の耕作土)
1'. 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒、軽石(As-C, Br-FA)を少量含む。(現代の耕作土)
1. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊をわずかに含む。ややしまりあり。
2. 黒褐色土(10YR3/2)暗灰黄色土2.5Y5/2)砂質土塊(直径40mm以下)をやや多く含む。軟質。



第82図 上町遺跡1号井戸断面図

7. 土坑

上町遺跡では76基の土坑が検出された。本書では形態や規模で、①円形大型、②円形中型から小型(直径1.49m～0.62m漸移的に変化)、③楕円形(長軸1.86～0.48m)、④隅丸方形、⑤長方形、⑥不整形の6種類に分けて報告する。

(1) 円形大型の土坑

(第83・89図 PL.30 遺物観察表P.333)

円形大型の土坑は3基検出された。

58号土坑は直径1.53m、深さ0.78mの円形大型土坑で、15号掘立柱建物と重複して検出された。埋没土の観察から58号土坑が15号掘立柱建物P 1より古い。また、9世紀前半の時沢西組屋谷戸遺跡9号住居の竈に近接しており、時間差があることは明らかである。下層はAs-C、褐色土塊を含む黒褐色土が水平に堆積しており、上層には黒褐色土塊、黄褐色土塊を混じる褐色土で埋まっていた。埋没土の状況は人為的埋没を示唆する。埋没土中から土師器壺(第89図5)が出土した。図示した遺物以外に土師器壺・甕類破片21点、瓶・甕類破片1点が出土した。

61号土坑は直径1.46m、深さ0.89mの円形大型土坑で、21号住居と重複して検出された。61号土坑が21号住居の床面を壊していることから、住居より新しい。下層はAs-C、褐色土塊を含む黒褐色土が水平に堆積しており、上層は黒褐色土塊、黄褐色土塊を混じる褐色土で埋まっていた。炭化物、焼土、黒色灰の混入状況から短期間に同質の土を下層から順次埋填したと思われる。埋没土の状況は人為的埋没を示唆する。埋没土中から土師器杯(第89図6)、須恵器杯(7)が出土した。図示した遺物以外に土師器杯類破片41点、壺・甕類破片228点、瓶・甕類破片4点が出土した。

37号土坑は直径1.68m、深さ0.37mの円形大型土坑と推定される。5号住居、7号住居、36号土坑、13号住居と重複しており、複雑な新旧関係が看取された。37号土坑の上位には36号土坑が掘り込まれている。この土坑は5号住居・7号住居・13号住居のいずれの住居も掘り込んでいることから、新しいことがわかる。しかし、37号土坑は13号住居の2層に覆われていると記録されており、どの遺構よりも古いことになる。下層には黒褐色土

塊を少量含むローム主体の褐色土や、黒褐色土塊を少量含むにぶい黄褐色土が水平に堆積しており、上半にはロームを主体とする褐色土(10YR4/6)、ローム塊を多く含む黒褐色土、ロームを主体とし、黒褐色土塊をわずかに含む黄褐色土が斜位に堆積していた。人為的な埋没を示唆している。このような埋没状態や規模は前述した58号・61号土坑と共通しており、同様な円形大型の土坑として分類した。

これらの円形大型の土坑の性格を考えるにあたって留意すべきなのは竪穴住居の床下土坑である。本遺跡では古代の竪穴住居の掘り方で粘土採掘を目的にしたと見られる大規模な土坑が検出されている。これらの床下土坑と円形大型の3基の土坑は規模や埋没土が類似している。このことは住居の床下の掘り方以外のところでも粘土採掘がおこなわれた可能性を示唆する。しかし、これらの土坑の底面レベルはⅧ層の黄褐色粘土質土層まで掘り込んでいるのに対して、大規模な住居床下土坑の底面はさらに下位にありⅩ層の灰白色粘土層まで達している。したがってこれらの単独の大型土坑の性格を別途考えることも必要となる。3基の土坑はいずれも掘削時期は古代である。

(2) 円形中型から小型の土坑

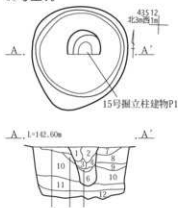
(第83～85図 PL.30～33)

円形で中型から小型の土坑は、28基が検出された。これらの円形土坑は先述した大型土坑と全く異なり、浅くて軽石や炭化物粒、ローム粒を含む砂質の黒褐色土や黒褐色土で埋まっていた。大きさは漸移的に変化し、最大は直径1.45mの2号土坑、最小は0.62mの70号土坑である。遺構平面図は1.4m台、1.1m台、1.0m台・・というように10cmごとに土坑番号順に配置した。

全体的に深さ0.1～0.2mの断面皿状の土坑がほとんどであったが、50号土坑、51号土坑、16号土坑、45号土坑、74号土坑のように深さ0.3～0.5mで断面形が箱形の土坑も混在していた。

埋没土には2種類があり、①As-Bが混じている土坑と、②As-Bがなく、Hr-F AやAs-Cの軽石粒とローム粒が混じることが観察された土坑とがあった。①の土坑は埋没土の状況から中世以降の遺構であり、28基中6基でAs-Bが混在する黒褐色土で埋まっていた。それら

58号土坑



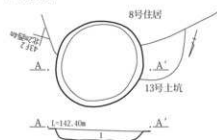
上町58号土坑 SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含み、Hr-FAの軽石も見る。軟質。(15号掘立柱建物P1埋没上)
- 2.褐色土(10YR4/4)黒褐色土と黄褐色土混じる。下部で黄褐色土主体。(15号掘立柱建物P1埋没上)
- 3.暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒を含む。(15号掘立柱建物P1埋没上)
- 4.暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒をわずかに含む。(15号掘立柱建物P1埋没上)
- 5.暗褐色土(10YR3/3)黒褐色土1層土塊を含む。(15号掘立柱建物P1埋没上)
- 6.暗褐色土(10YR3/3) As-C軽石が目立つ。軟質。黄褐色土粒を含む。(15号掘立柱建物P1埋没上)
- 7.暗褐色土(10YR3/3)黒褐色土塊、IV層土と黄褐色土(V層)塊を含む。
- 8.褐色土(10YR4/4) As-C軽石は含まない。IV層土主体。V層土塊をわずかに含む。
- 9.黒褐色土(10YR2/3)と黄褐色土(V層) (10YR5/6)塊を平々に混じる。
- 10.黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや粘質。
- 11.黒褐色土(10YR2/3)褐色土塊を含み10層よりも硬くしまっている。
- 12.黒褐色土(10YR2/3)粘質。褐色土塊を10層よりも多く含む硬くしまっている。

上町61号土坑 SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-C軽石、焼土粒、炭化物を含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(V層)粒・塊を含む。
- 3.黒褐色土(10YR2/2)褐色土粒、焼土粒、炭化物の混入が目立つ。軟質。
- 4.黒褐色土(10YR2/2)3層よりも焼土粒、黒色土灰を多く含む。軟質。
- 5.灰黄褐色土(10YR4/2)粘土質で均質。
- 6.4層と同じ。
- 7.黒褐色土(10YR2/2)粘質。焼土、炭化物少ない。褐色土粒を含む。

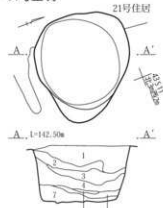
2号土坑



上町2号土坑 SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊。軽石(As-C、Hr-FA)、炭化物粒、焼土粒を少量含む。

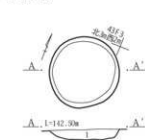
61号土坑



上町61号土坑 SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊。軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊。軽石(As-C、Hr-FA)を少量含む。
- 3.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。(37号土坑埋没上)
- 4.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を主体とし、黒褐色土塊をわずかに含む。(37号土坑埋没上)
- 5.黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C、Hr-FA)を少量含む。(振り方) (7号住居埋没上)
- 6.褐色土(10YR4/6)ローム塊を少量含む。(37号土坑埋没上)
- 7.黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。(7号住居埋没上)

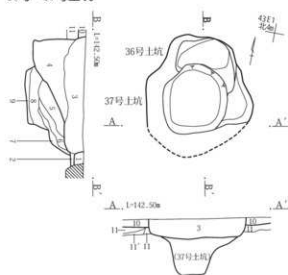
8号土坑



上町8号土坑 SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊。軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。

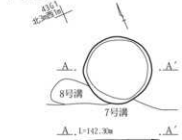
36号・37号土坑



上町36号・37号土坑 APA-A'・APB-B'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、焼土塊。炭化物を少量含む。軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C、Hr-FA)を多く含む。下面に灰の堆積あり。(7層下面が13号住居A床面)
- 3.黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C、Hr-FA)を多く含む。炭化物、焼土塊を少量
- 4.黒褐色土(10YR2/3)ローム塊をやや多く含む。軽石(As-C、Hr-FA)を少量含む。(36号土坑埋没上)
- 5.褐色土(10YR4/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊、As-YPを少量含む。軽石(As-C、Hr-FA)をわずかに含む。(37号土坑埋没上)
- 6.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。(37号土坑埋没上)
- 7.黄褐色土(10YR5/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊をわずかに含む。(37号土坑埋没上)
- 8.褐色土(10YR4/6)ローム塊を少量含む。(37号土坑埋没上)
- 9.にぶい黄褐色土(10YR6/4)粘性のあるシルト(V層土)を主体とし、黒褐色土塊を少量含む。(37号土坑埋没上)
- 10.黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。(7号住居埋没上)
- 11.黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C、Hr-FA)を少量含む。(振り方) (7号住居埋没上)
- 11' 21層土にローム塊を非常に多く含む。(7号住居埋没上)

7号土坑



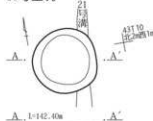
上町7号土坑 SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊。軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。



第83図 上町遺跡土坑平断面図(1)円形土坑

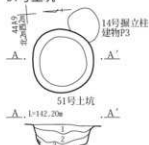
50号土坑



上町50号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊を少量含む。焼土粒をわずかに含む。
2. 黒色土(10YR2/1)軽石(As-C、Hr-FA)、焼土粒をわずかに含む。軟質。

51号土坑



上町51号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊、焼土粒を少量含む。
2. 黒色土(10YR2/1)軽石(As-C、Hr-FA)、焼土粒を少量含む。
3. 黒色土(10YR2/1)軽石(As-C、Hr-FA)、焼土粒をわずかに含む。

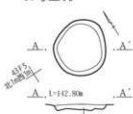
9号土坑



上町9号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。

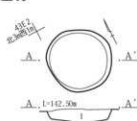
30号土坑



上町30号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)砂質。As-B混土と思われる。軽石(As-C、Hr-FA)を少量含む。

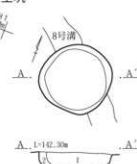
15号土坑



上町15号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。

5号土坑



上町5号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。

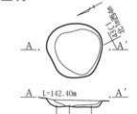
16号土坑



上町16号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)砂質。As-B混土と思われる。ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)を少量含む。

26号土坑



上町26号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-B混土。軽石(As-C、Hr-FA)、ローム塊を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。

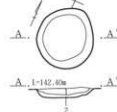
10号土坑



上町10号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。

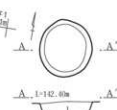
6号土坑



上町6号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。

12号土坑



上町12号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。

17号土坑



上町17号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)砂質。As-B混土と思われる。ローム塊、軽石(As-C、Hr-FA)を少量含む。
- 1'. 1層と同様。ローム塊をやや多く含む。

0 1:60 2m

第84図 上町遺跡土坑平断面図(2)円形土坑

第4章 上町遺跡の遺構と遺物

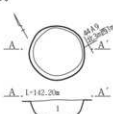
45号土坑



上町45号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。焼土粒をわずかに含む。
2. 黒色土(10YR2/1)軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。

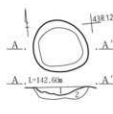
48号土坑



上町48号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊をわずかに含む。

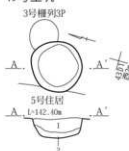
69号土坑



上町69号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。やや砂質。焼土を多量に含む。
2. 黒褐色土。(V層)。掘り過ぎ。

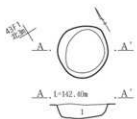
19号土坑



上町19号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)砂質。As-B混土と思われる。ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。

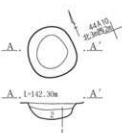
11号土坑



上町11号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。

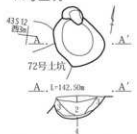
46号土坑



上町46号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
2. 黒色土(10YR2/1)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。

74号土坑



上町74号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を含む。やや砂質。褐色土を斑状に含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)As-C軽石を少量含む。褐色土自立たない。
3. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土を斑状に含む。
4. 褐色土(10YR4/4)V層土主体。

14号土坑



上町14号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)砂質。As-B混土と思われる。ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。

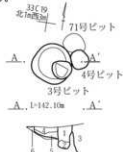
77号土坑



上町77号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや砂質。

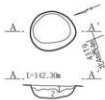
4号土坑



上町4号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2) 軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム粒、焼土粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)、焼土粒をわずかに含む。

49号土坑



上町49号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊、焼土粒をわずかに含む。硬くしまっている。
2. 黒色土(10YR2/1)軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。やや硬くしまっている。

70号土坑



上町70号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-C軽石を含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。褐色土粒を含む。



第85図 上町遺跡土坑平面図(3)円形土坑

の土坑は43区F5グリッドにあった30号土坑を除き、43区C・D 1・2グリッドに集中していた。遺物は出土しなかった。

②の土坑は古代以前の土坑と推定され、調査区内の竪穴住居分布域に数基がまとまって分布していた。出土遺物は少なかったが、2号土坑から土師器杯類破片2点、壺・甕類破片2点、瓶・甕類破片2点が、5号土坑から土師器杯類破片7点が、8号土坑から土師器壺・甕類破片3点が出土した。また、45号土坑から土師器壺・甕類破片4点が、46号土坑から土師器壺・甕類破片2点が、48号土坑から土師器壺・甕類破片1点が、49号土坑から土師器杯類破片1点、壺・甕類破片3点、不明破片2点、瓶・甕類破片1点が、50号土坑から土師器壺・甕類破片16点、須恵器杯・椀類破片2点が、51号土坑から土師器壺・甕類破片8点、瓶・甕類破片4点が出土した。また、69号土坑から土師器杯類破片3点、壺・甕類破片9点が、70号土坑から土師器杯類破片1点、壺・甕類破片2点が、74号土坑から土師器壺・甕類破片2点、不明破片2点が出土した。

(3) 楕円形の土坑(第86図 PL.34・35)

楕円形の土坑は12基が検出された。

楕円形土坑で最大の78号土坑は、長径1.60m以上、短径1.25m、深さ0.83mの大型楕円形土坑である。上方は大きく外に開くが、中位より下位はほぼ垂直に立ち上がる。最下位は壁を0.1～0.15m抉って掘り込んでいた。断面形からはいわゆる陥穴に類似するが、As-C混土塊を含む埋没土の様相から縄文時代の遺構ではない。また逆茂木のピットも検出されなかった。埋没土の堆積は折り重なるようであり、人為的埋没と判断された。9号住居と重複して検出されたが、78号土坑が古い。埋没土中から土師器杯類破片1点、壺・甕類破片2点が出土した。

57号土坑は長径1.86m、短径1.25m、深さ0.87mの大型楕円形土坑である。円形大型の58号・61号土坑と近接した位置で検出された。上方が大きく開き、下半はほぼ垂直に壁が立ち上がる。形態は78号土坑に似ている。As-Cや褐色土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土の堆積は折り重なるようであり、人為的埋没と判断された。遺物は出土しなかった。

60号土坑は長径1.57m以上、短径1.28m、深さ0.17mの中型楕円形土坑である。21号住居より古い。遺物は出土しなかった。

13号土坑は長径1.43m、短径0.57m以上、深さ0.37mの中型楕円形土坑である。8号住居・2号土坑より古い。遺物は出土しなかった。

18号土坑は長径1.33m、短径0.79m、深さ0.29mの中型楕円形土坑である。埋没土中に炭化物、焼土塊、ローム塊を多く含む黒褐色土が薄く堆積しており、底面までの間にはローム粒を多く含む暗褐色土が堆積していた。底部が埋められた後、何らかの行為があったことが推定される。遺物は出土しなかった。

68号土坑は長径1.26m、短径0.99m、深さ0.18mの中型楕円形土坑である。As-C、焼土粒を含む黒褐色土やAs-C、褐色土塊が斑状に混じる暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

47号土坑は長径1.16m、短径0.86m、深さ0.19mの中型楕円形土坑である。124号ピットと重複するが本土坑が新しい。As-C、Hr-F A軽石をやや多く、ローム塊をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は土師器杯類破片2点、壺・甕類破片3点が出土した。

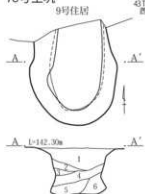
33号土坑は長径1.11m、短径0.69m、深さ0.25mの小型楕円形土坑である。8号溝と重複するが本土坑が新しい。As-Bを混じる黒褐色土で埋まっていた。中世以降の土坑である。遺物は出土しなかった。

41号土坑は42号土坑と重複する不整形の土坑である。長径0.60m、短径0.49m、深さ0.21mで、42号土坑より新しい。42号土坑は長径0.83m、短径0.54m、深さ0.22mの小型楕円形土坑である。南側からの土砂によって埋没しており人為的埋没の可能性がある。As-Cを含む砂質の黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

29号土坑は長径0.79m、短径0.68m、深さ0.21mの小型楕円形土坑で、上層はローム塊、As-C、Hr-F A軽石をやや多く含む黒褐色土で、下層はローム塊を多く含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

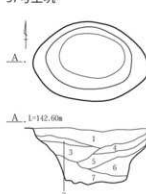
39号土坑は長径0.48m、短径0.43m、深さ0.20mの小型楕円形土坑である。17号溝と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は出土しなかった。

78号土坑



- 上町78号土坑 SPA-A'
1. 暗褐色土(10YR3/4) As-C軽石を含む。軟質。黄褐色土粒を含む。
 2. 黒褐色土(10YR2/2)黒褐色土(N層)塊を含む。
 3. 暗褐色土(10YR3/4)黄褐色土粒を含む。粘質。
 4. 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土粒・塊5cm以下を多量に含む。粘質。
 5. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石混土(N層)塊を多量に含む。粘質。
 6. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土粘質土を含む。粘質。

57号土坑



- 上町57号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。褐色土粒2cm以下、As-C軽石を含む。
 2. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土粒が1層より目立つ。
 3. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。砂質。褐色土粒目立たない。
 4. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土塊3cm以下が目立つ。
 5. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石混土(N層)塊が目立つ。
 6. 暗褐色土(10YR3/4)粘質。褐色土を斑状に含む。
 7. 暗褐色土 6層より褐色土目立たない。黒色土味強い。

60号土坑



- 上町60号土坑 SPA-A'
1. 灰黄褐色土(10YR4/2)やや砂質。黒褐色土、As-C軽石混土(N層)塊を含む。表上の粗丸。
 2. 灰黄褐色土(10YR4/2)やや砂質。黒褐色土、As-C軽石混土(N層)塊を含まない。表上の粗丸。
 3. 灰黄褐色土 やや黒味が強い。
 4. 褐色土 粗丸を多量に含む。
 5. 3層と同じ。

13号土坑



18号土坑



47号土坑・124号ピット



上町13号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を非常に多く含む。

上町18号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)、炭化物を多く含む。ローム塊、粘土粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)炭化物、焼土塊、ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を多く含む。黒褐色土塊を少量含む。(18号土坑掘り方埋没上)

68号土坑

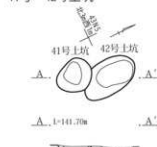


- 上町47号土坑・124号ピット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊をわずかに含む。(47号土坑埋没上)
 2. 黒褐色土(10YR2/1)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。軟質。(124号ピット埋没上)

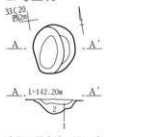
33号土坑



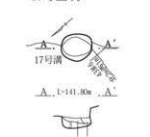
41号・42号土坑



29号土坑



39号土坑



上町33号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-B混土。軽石(As-C, Hr-FA)、ローム塊を少量含む。(33号土坑埋没上)
2. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。(8号埋没上)

上町41号・42号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。As-C軽石をわずかに含む。(41号土坑埋没上)
2. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。黄褐色(V層)粘土粒を含む。(41号土坑埋没上)
3. 黄褐色粘土主体。黒褐色土と混じる。粘質。(42号土坑埋没上)
4. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-C軽石を含む。(42号土坑埋没上)
5. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-C軽石黄褐色土粒を含む。(42号土坑埋没上)

- 上町29号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
 2. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。

- 上町39号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3)暗褐色土塊を混じる。粘質。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cは目立たない。
 3. 黒褐色土(10YR2/2) 2層との境に黄褐色土塊が帯状に入る。

第86図 上町遺跡土坑平面図(4)楕円形土坑

(4) 隅丸方形の土坑

(第87・89図 PL.35・36 遺物観察表P.333)

隅丸方形の土坑は11基が検出された。隅が丸く、正方形に近い形態の土坑をこれに分類した。23号土坑は重複する2号竪穴状遺構で記載した。

最大の53号土坑は長軸2.36m、短軸1.87m、深さ0.47mの大型方形土坑である。上町遺跡西部の住居群の南側で単独で検出された。上層はAs-C、Hr-F A 軽石をやや多く、ローム塊、焼土粒を少量含む黒褐色土で、下層はローム塊を少量、As-C、Hr-F A 軽石、焼土粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は土師器杯類破片5点、壺・甕類破片32点、須恵器杯・椀類破片2点、瓶・甕類破片1点が出土した。

71号土坑と73号土坑はL字形に重複して検出された。新旧関係は不明である。東側に重複する72号土坑は不整形の土坑で、71号土坑より古い。いずれの土坑も褐色土塊や黒褐色土塊を混じる土層が折り重なるように堆積しており、人為的埋没と判断された。特に73号土坑の埋没土断面では埋められた様相が明確である。遺物は71号土坑で土師器杯類破片3点、壺・甕類破片35点、須恵器杯・椀類破片1点が、72号土坑で土師器杯類破片2点、壺・甕類破片9点、須恵器杯・椀類破片1点、瓶・甕類破片1点が、73号土坑で土師器壺・甕類破片3点が出土した。

34号土坑は長軸1.60m、短軸1.26m以上、深さ0.17m。南半部が調査区外となるため、全形がとらえられなかったが、大型方形土坑と推定される。ローム塊を多く、As-C、Hr-F A 軽石をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は須恵器甕類破片1点が出土した。

35号土坑は長軸1.01m以上、短軸1.13m、深さ0.13m。南半部が調査区外となるため、全形がとらえられなかったが、大型方形土坑と推定される。11号溝と重複していたが、本土坑が古い。焼土塊、炭化物粒、As-C、Hr-F A 軽石を多く含む黒褐色土で埋まっていた。35号土坑は18号土坑と同様に上部に炭化物や焼土があり、その下に掘り方のような構造を持っていた。遺物は出土しなかった。

62号土坑は長軸1.26m、短軸1.00m、深さ0.14mの隅が極めて丸い方形の土坑である。As-Cを含むやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。遺物は土師器杯類破片2点、壺・甕類破片12点、須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

25号土坑は長軸0.99m、短軸0.75m、深さ0.38mのやや深い方形土坑である。平面形はやや台形である。9号溝と重複しているが、本土坑が古い。ローム塊を多く含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は土師器杯類破片1点、壺・甕類破片8点、瓶・甕類破片1点が出土した。

28号土坑は長軸0.96m、短軸0.88m、深さ0.12mの隅丸方形土坑である。平面形はやや台形である。8号ピットと重複していたが、本土坑が新しい。遺物は出土しなかった。

31号土坑は長軸0.92m、短軸0.92m、深さ0.10mの隅丸正方形の土坑である。13号掘立柱建物P10と重複して検出された。本土坑が古い。As-C、Hr-F A 軽石をやや多く、ローム塊をわずかに含むAs-B混の黒褐色土で埋まっていた。中世以降の土坑である。重複関係から13号掘立柱建物も中世以降の建物と考えられる。遺物は出土しなかった。

32号土坑は長軸0.79m、短軸0.76m、深さ0.29mの方形土坑である。ローム塊、As-C、Hr-F A 軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から須恵器杯(第89図4)が出土した。その他、土師器杯類破片2点、壺・甕類破片13点、須恵器杯・椀類破片3点が出土した。

(5) 長方形の土坑

(第88図 PL.36・37)

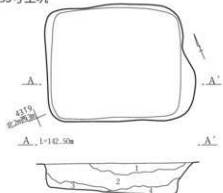
長方形の土坑は7基が検出された。出土遺物が少ないことから、その時期や性格を明らかにできた土坑は少ない。

54号土坑は上町遺跡西部の住居群南側で単独で検出された。長軸1.83m、短軸1.17m、深さ0.59mの大型長方形土坑である。平面形は長方形であるが、隅が丸いことや一定の深さをもっているという点では隅丸方形とした53号土坑に類似する。ローム塊、As-C、Hr-F A 軽石、焼土粒を含む黒褐色土層が折り重なるようにして埋まっており、人為的埋没と判断された。遺物は土師器杯類破片1点、壺・甕類破片2点が出土した。

59号土坑は13号掘立柱建物の北辺の柱筋に重複して検出された。ピットとの直接の重複はなかったため、新旧関係は不明である。建物に付随する遺構の可能性もある。長軸1.62m、短軸0.99m、深さ0.06mで浅く丸みを帯びている。ローム塊を多く、As-C、Hr-F A 軽石、焼土

第4章 上町遺跡の遺構と遺物

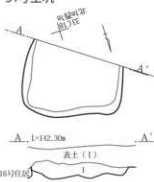
53号土坑



上町53号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊、焼土粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。ローム塊、焼土粒をわずかに含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)、ローム塊、焼土粒をわずかに含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、焼土粒をわずかに含む。やや粘性あり。

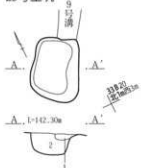
34号土坑



上町34号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。

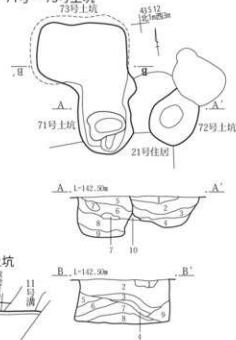
25号土坑



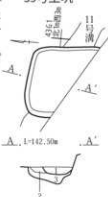
上町25号土坑 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を少量含む。(9号溝埋設上)
2. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。(25号土坑埋設上)

71号~73号土坑



35号土坑



上町35号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。(11号溝埋設上)
2. 黒褐色土(10YR2/3)焼土塊、炭化物粒を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。(35号土坑埋設上)
3. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。炭化物、軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。(35号土坑掘り方埋設上)

28号土坑



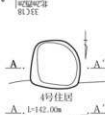
上町28号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。(28号土坑埋設上)
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。(8号ピット埋設上)

上町73号土坑 SPB-B'

1. 灰黄褐色土(10YR5/2)掘り溝。
2. 黒褐色土 明黄褐色土(10YR6/8) 1cm大以下粒を多量に含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含みFr-FAの軽石直径1cm大を見る。粘質。均質。
4. 黒褐色土 黄褐色土粒を含む。2層より少ない。
5. 黒褐色土 黄褐色土粒を含む。2層とはほぼ同じ。
6. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を少量含む。粘質。
7. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。3層とはほぼ同じ。
8. 黒褐色土 粘質。黄褐色土塊、黒褐色土3cm大以下粒を含む。
9. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。7層とはほぼ同じ。

32号土坑



上町32号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。

上町71号・72号土坑 SPA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2)やや砂質。As-Cを含む。Hr-FA粒を含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土粒、焼土粒を含む。As-Cを含む。やや粘質。
3. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土粒・塊を含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2)やや粘質。VI層土をわずかに含む。
5. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。軽石(As-C, Hr-FA)を含む。
6. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土塊を含む。As-C軽石を含む。やや砂質。
7. 褐色土粘質土塊 VI層土主体。黒褐色土、As-C軽石を含む。
8. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土(VII層)塊粒を多量に含む。
9. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。均質。As-C軽石が目立たない。
10. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。

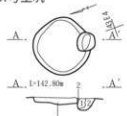
62号土坑



上町62号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-C軽石を含む。

31号土坑



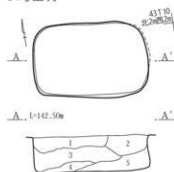
上町31号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-B混上。軽石(As-C, Hr-FA)。ローム塊を少量含む。(2号掘立柱建物P10埋設上)
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。(2号掘立柱建物P10埋設上)
3. 黒褐色土(10YR2/2) As-B混上。軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊をわずかに含む。(31号土坑埋設上)



第87図 上町遺跡土坑断面図(5)隅丸方形土坑

54号土坑



上町54号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊をやや多く含む。軽石(As-C、Hr-FA)、焼土粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C、Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊、焼土粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を少量含む。軽石(As-C、Hr-FA)、焼土粒をわずかに含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を少量含む。やや粘性あり。
5. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C、Hr-FA)を少量含む。ローム塊、焼土粒をわずかに含む。

59号土坑



上町59号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C、Hr-FA)、焼土粒、灰を少量含む。

63号・64号土坑



上町63号・64号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)軽石(As-C、Hr-FA)を含む。やや砂質。焼土を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)軽石(As-C、Hr-FA)を含む。やや砂質。焼土を含まない。

65号土坑



上町65号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-C軽石を含み、焼土粒の混入が目立つ。
2. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。As-C軽石を含まない。均質。褐色土が斑状に混じる。V層上とはほぼ同じ。

66号・67号土坑



上町66号・67号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや砂質。Hr-FAを見る。焼土粒、炭化物が混在。
2. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-C軽石を含む。Hr-FAを見る。

3号土坑



上町3号土坑 SPA-A'

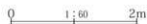
1. 黒褐色土(10YR2/2)砂質。As-B混入と思われる。軽石(As-C、Hr-FA)、炭化物を少量含む。

27号土坑



上町27号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石、炭化物を多く含む。ローム塊、Hr-FAを少量含む。



第88図 上町遺跡土坑平面図(6)長方形土坑

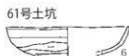
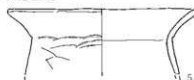
20号土坑



32号土坑



58号土坑



61号土坑



37号土坑



第89図 上町遺跡土坑出土遺物図

粒、灰を少量含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

63号・64号土坑は重複して検出された。個々の形状が長方形かどうかは不明であるが、ここで報告した。全体の形状は長軸1.40m、短軸0.62m、深さ0.11～0.12mで、As-C、Hr-F A 軽石、焼土を含む砂質の黒褐色土で埋まっていた。64号土坑には焼土は含まれていなかった。遺物は63号土坑から土師器杯類破片9点、壺・甕類破片15点、須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

65号土坑は上町遺跡西部の住居群南側で単独で検出された。長軸1.80m、短軸0.98m、深さ0.16mの長方形土坑である。As-Cを含み、焼土粒の混入が目立つやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。下層にはAs-Cを含まない。遺物は土師器杯類破片13点、壺・甕類破片37点、須恵器杯・椀類破片1点、瓶・甕類破片2点が出土した。

66号・67号土坑は重複して検出された。個々の形状が長方形かどうかは不明であるが、ここで報告した。全体の形状は長軸1.48m、短軸0.94m、深さ0.19～0.20mで、As-C、Hr-F A 軽石、焼土を含む砂質の黒褐色土で埋まっていた。遺物は66号土坑から土師器杯類破片3点、壺・甕類破片42点、須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

63号～67号土坑は長軸を同じにして近接して掘られており、関連した遺構である可能性がある。

3号土坑は長軸0.81m、短軸0.58m、深さ0.20mの小型長方形土坑である。As-Bを混じる黒褐色土で埋まっていた。中世以降の土坑である。遺物は出土しなかった。

27号土坑は長軸1.14m、短軸0.63m、深さ0.13mの小型長方形土坑である。底面にピット状の掘り込みがあった。As-C、炭化物を多く含む、ローム塊、Hr-F A 軽石を少量含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(6)不整形の土坑

(第90図 PL.37・38)

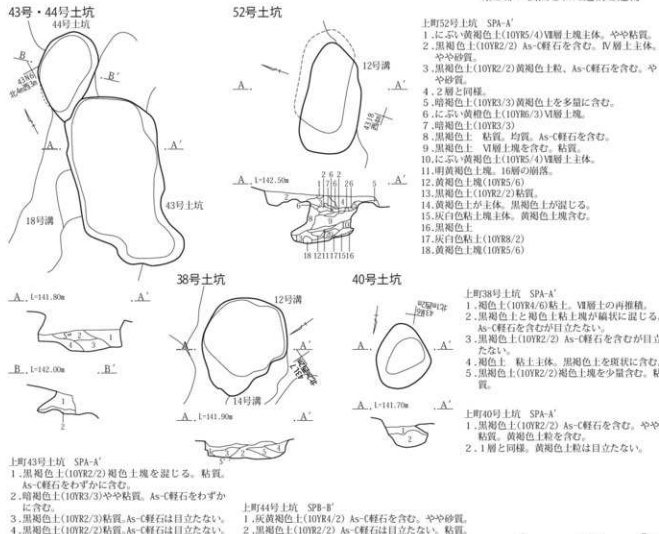
不整形の土坑は4基が検出された。いずれも1号道路の周辺で検出された。下半部を抉るように掘り、人為的に埋めた様相が認められることから、粘土採掘坑の可能性が高い。出土遺物が少ないことから、その時期を明らかにできた土坑はない。

43号・44号土坑は1号道路の南東部を攪乱する掘り込みの底面で検出された。43号土坑は長軸2.79m、短軸1.28m、深さ0.87mで下半部は抉り込んで掘り込んでいた。褐色土塊、As-Cをわずかに含む粘質の黒褐色土や、As-Cをわずかに含むやや粘質の暗褐色土で埋まっていた。西側から重なるように埋まっており、人為的埋没と判断された。遺物は土師器杯類破片1点、壺・甕類破片2点が出土した。44号土坑は長軸1.45m、短軸0.88m、深さ0.60mでAs-Cを含むやや砂質の灰黄褐色土や粘質黒褐色土で埋まっていた。下半部は抉り込んで掘り込まれていた。遺物は出土しなかった。

52号土坑は1号道路中央部の北端で検出された。15号道路より古いと推定される。長軸1.75m、短軸0.88m、深さ0.78mで、北側の下半部は奥深く抉り込まれていた。黒色土塊や黄褐色土、灰白色粘土が混在して埋没しており、人為的埋没と判断された。遺物は出土しなかった。

38号土坑は14号溝と重複して検出された。38号土坑が新しい。長軸1.26m、短軸1.17m、周囲からの深さ0.80mの不整形の土坑である。褐色粘土、黒褐色土と褐色土粘土塊の縮状堆積、黒褐色土(10YR2/2)、褐色土塊を少量含む黒褐色土などが折り重なるように中央部から折り重なるように堆積しており、人為的埋没と判断された。遺物は出土しなかった。

40号土坑は43号・44号土坑と同じ1号道路南東部を攪乱する掘り込み底面で検出された。長軸1.03m、短軸0.84m、周囲からの深さ0.39mの不整形の土坑である。西側は深く抉られていた。As-C、黄褐色土粒を含むやや粘質の黒褐色土で埋まっていた。



第90図 上町遺跡土坑断面図(7)不整形土坑

8. ピット

(第91～101・211・218・221図 遺物観察表P.333・353)

上町遺跡では、単独のピット271基が検出された。竪穴住居や掘立柱建物群のなかで全体に散在していたが、中央部の西半部には一部を除いてピットの分布は少なかった。このほかに11棟の掘立柱建物のピットとして記録できたピットが検出されている。

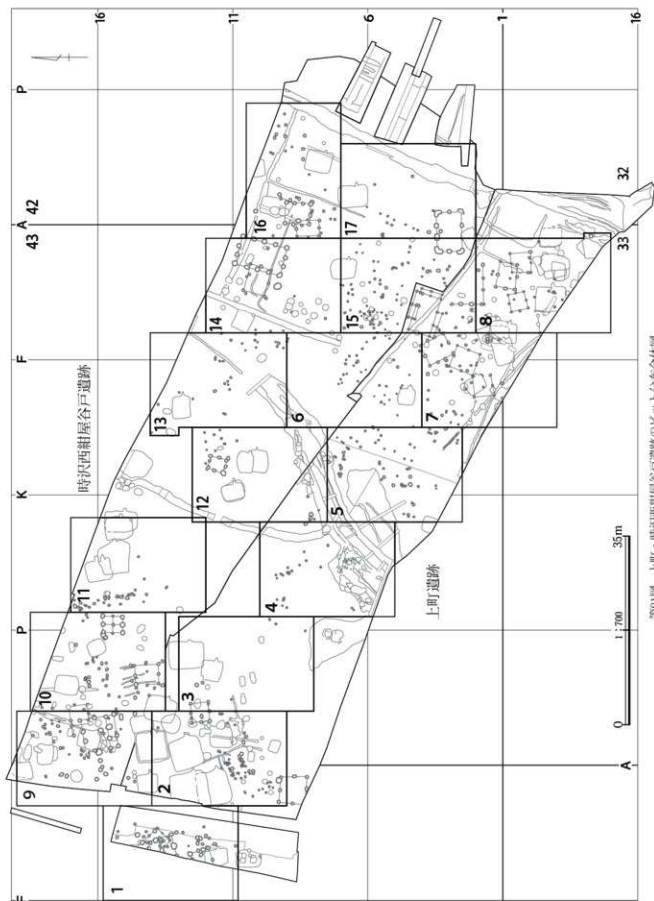
調査ではすべてのピットの平面図および断面図を記録することはできなかったため、規模が大きいもの、他の遺構との重複関係が認められるもの等38基は平面図と断面図を記録した。それらと、調査時には掘立柱建物として記録したが精査の結果、単独ピットとして報告するもの27基を加えた65基については、断面図を掲載して報告とした。その他のピットについては、調査で平面図の

みを図化して埋没土は分類して記号で記録した。

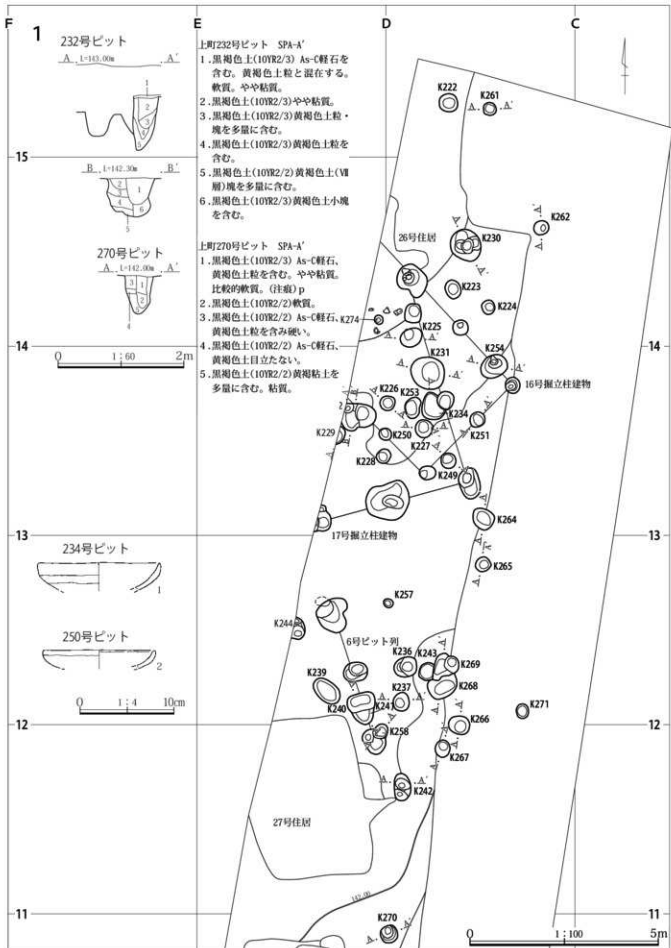
本報告では、ピットは1/100の平面図を割り図1～8として掲載した。割り図は上町遺跡・時沢西組屋谷戸遺跡全体を対象として作成したため、部分的に両遺跡のピットが併載された図がある。埋没土の分類は遺構一覧表(P.316～319)に記載した。

202号ピット、203号ピット、231号ピット、232号ピット、237号ピット、242号ピット、254号ピット、270号ピットには柱痕跡が検出されたことから建物のピットの可能性が高いが、建物全体を推定するには至らなかった。

ピットの埋没土から出土した遺物は非掲載遺物一覧表(P.359・360)に示した。234号ピット埋没土中から、8世紀の土師器杯破片が出土した他は、ピットの時期を明らかにできるような遺物は出土しなかった。



第91図 上町・時沢西組屋舎戸遺跡のピット分布全体図



第92図 上町遺跡ビットの分布と土層断面と出土遺物図 1-1

第4章 上町遺跡の遺構と遺物

225号ピット



- 上町225号ピット SPA-A'
- 1.黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。
 - 2.黒褐色土(10YR2/3)褐色土を混入状を含む。VI層上。
 - 3.黒褐色土。As-C軽石を含む。やや粘質。

227号ピット



- 上町227号ピット SPA-A'
- 1.黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや粘質。
 - 2.黒褐色土(10YR2/3)黒褐色土(VI層)塊(10YR2/2)を混入。
 - 3.黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊を混じる。
 - 4.黒褐色土 2層と同様。

230号・231号ピット



- 上町230号・231号ピット SPA-A'
- 1.黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。やや砂質。
 - 2.黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土塊を混入状を含む。
 - 3.黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土塊を多量に含む。
 - 4.褐色土(10YR4/4)均質。軟質。やや粘質。
 - 5.暗褐色土(10YR3/3) As-C軽石を含む。
 - 6.褐色土(10YR4/4)黒褐色土塊を含む。

226号ピット



234号ピット



- 上町234号ピット SPA-A'
- 1.灰黄褐色土 VI層上。As-C軽石混じり黒褐色土塊が混じる。
 - 2.1層と同様。灰黄褐色土主体。As-C軽石は少ない。
 - 3.灰黄褐色土 VI層上主体。やや粘質。

242号ピット



- 上町242号ピット SPA-A'
- 1.黒褐色土 As-C軽石を含む。軟質。
 - 2.黒褐色土 As-C軽石を含む。(VI層)土を含む。やや粘質。

249号ピット



237号ピット



- 上町237号ピット SPA-A'
- 1.黒褐色土(10YR2/3) やや砂質。As-C軽石を含む。黄褐色土粒を含む。軟質。(柱状)
 - 2.黒褐色土(10YR2/2) やや粘質。黄褐色土塊を含む。(柱状)
 - 3.黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊含み硬くしまっている。
 - 4.黒褐色土。やや粘質。

240号・241号ピット



- 上町240号・241号ピット SPA-A'
- 1.黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。黄褐色土粒を含む。やや粘質。
 - 2.黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒塊を多量に含む。やや粘質。
 - 3.黄褐色土(VI層)土塊主体。黄褐色土と混じる。粘質。
 - 4.黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや砂質。

254号ピット



- 上町254号ピット SPA-A'
- 1.黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。黄褐色土粒を含む。やや軟質。(柱状)
 - 2.黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。黄褐色土粒含み硬くしまっている。

258号ピット



- 上町258号ピット SPA-A'
- 1.黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。褐色土塊多量を含む。
 - 2.黒褐色土(10YR2/2)褐色土粒を含む。やや粘質。
 - 3.黒褐色土(10YR2/2)やや粘質。VI層上主体。

261号ピット



- 上町261号ピット SPA-A'
- 1.黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒。As-C軽石を含む。
 - 2.黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。
 - 3.黄褐色土粘土塊

251号ピット

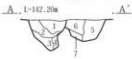


264号ピット



- 上町264号ピット SPA-A'
- 1.灰黄褐色土 As-C軽石を含む。やや砂質。
 - 2.灰黄褐色土 As-C軽石を含む。やや粘質。黒褐色土塊を含む。
 - 3.黄褐色土塊主体。黒褐色土を混じる。

268号・269号ピット



- 上町268・269号ピット SPA-A'
- 1.灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土塊を多量に含む。
 - 2.黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土粘土塊を多量に含む。
 - 3.黒褐色土(10YR2/2)やや粘質。
 - 4.黄褐色粘土塊主体。黒褐色土を混じる。
 - 5.灰黄褐色土 攪乱。
 - 6.黒褐色土 As-C軽石を含む。やや砂質。
 - 7.4層と同じ。

265号ピット



- 上町265号ピット SPA-A'
- 1.黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。黄褐色土粒を含む。やや砂質。
 - 2.黄褐色土粘土塊主体。

266号ピット



- 上町266号ピット SPA-A'
- 1.灰黄褐色土(10YR4/2)黒褐色土(10YR2/2)。As-C軽石混入土(VI層)土塊を含む。
 - 2.灰黄褐色土 黄褐色土粒を多量に含む。やや粘質。攪乱上か?

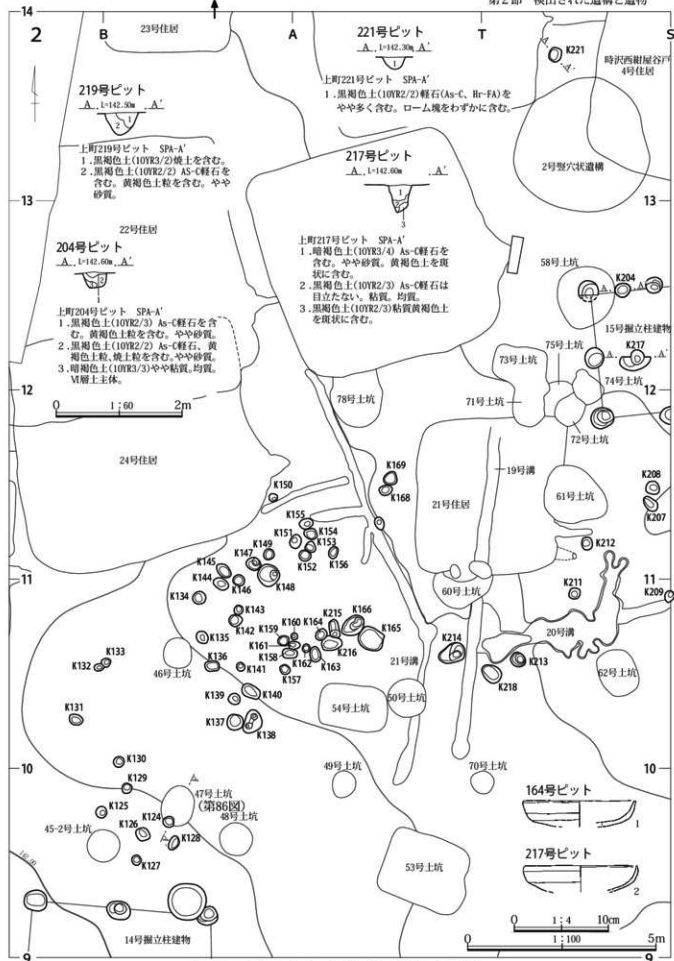
267号ピット



- 上町267号ピット SPA-A'
- 1.灰黄褐色土 As-C軽石を含む。やや砂質。
 - 2.黒褐色土 As-C軽石を含む。やや砂質。
 - 3.褐色土 (VI層)土塊主体。



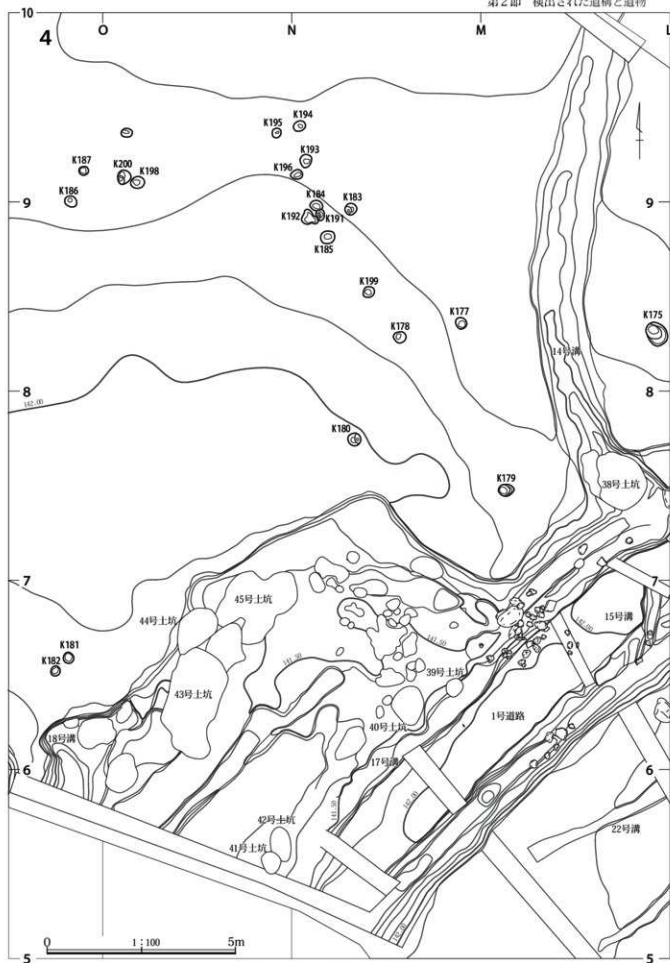
第93図 上町遺跡ピットの土層断面図 1-2



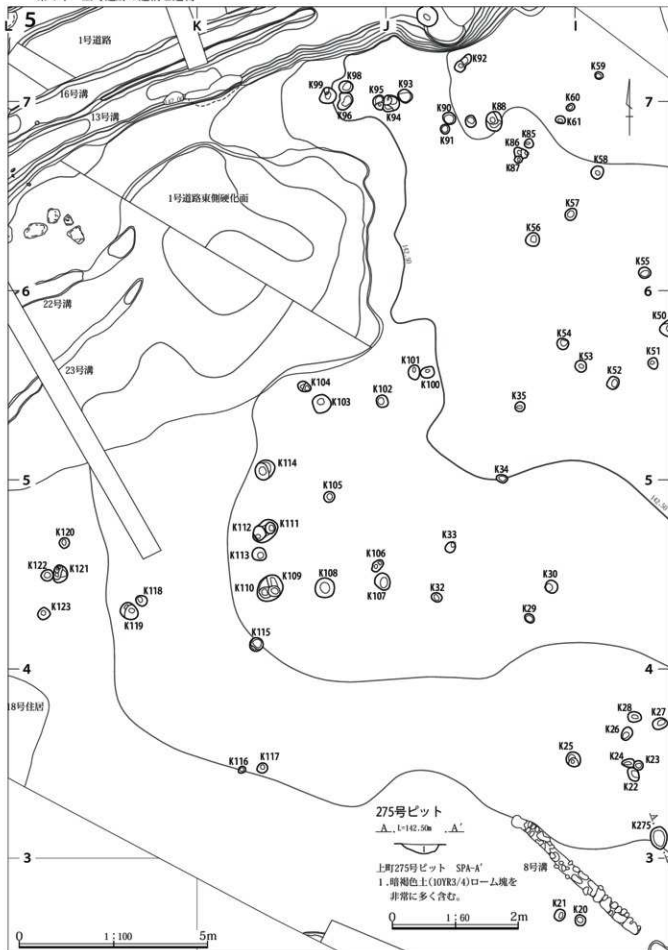
第94図 上町遺跡ピットの分布と土層断面と出土遺物図2



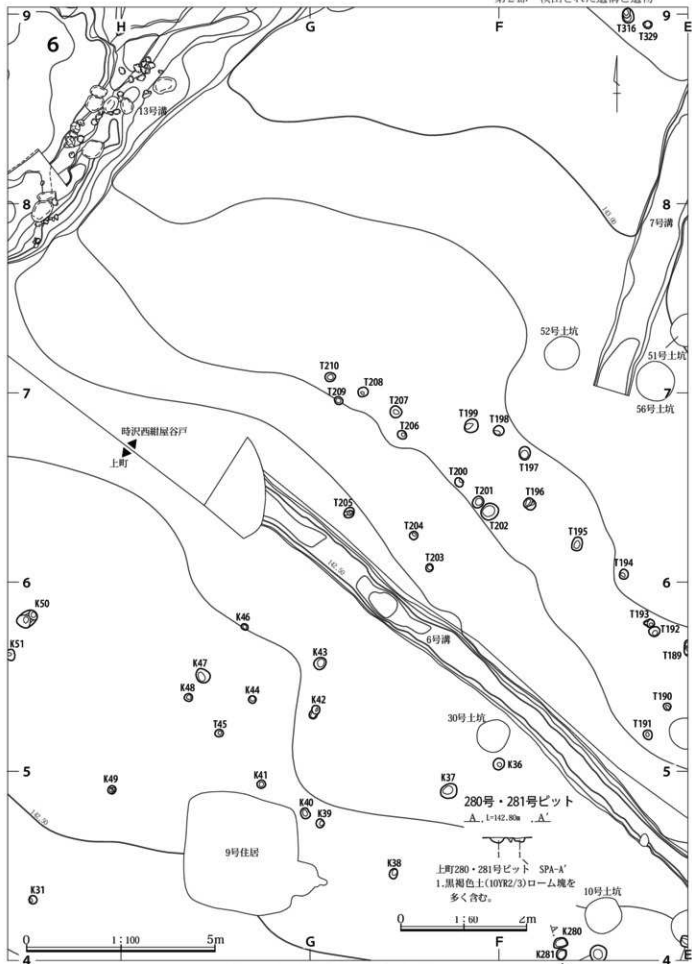
第95図 上町遺跡ピットの分布と土層断面図3



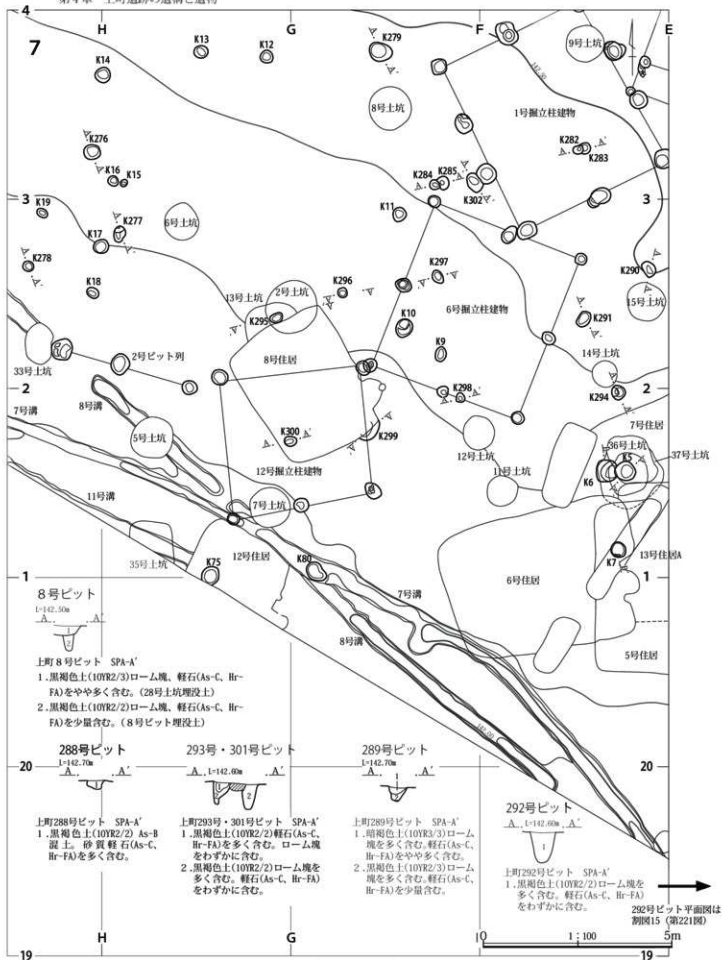
第96図 上町遺跡ピットの分布図4



第97図 上町遺跡ピットの分布と土層断面図5



第98図 上町遺跡ビットの分布と土層断面図6



第99図 上町道跡ピットの分布と土層断面図7-1

1号ビット



上町1号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。

5号ビット



上町5号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)、焼土粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。

6号ビット



上町6号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、にんじょう土色シルト塊を多く含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。
4. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を多く含む。
5. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊をやや多く含む。

279号ビット



上町279号ビット SPA-A'
1. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。
1'. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
2'. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。

276号ビット



上町276号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)、ローム塊をやや多く含む。
2. 褐色土(10YR4/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊を少量含む。

282号・283号ビット



284号・285号ビット



286号・287号ビット



291号ビット



上町291号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。ローム塊をわずかに含む。

277号ビット



上町277号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)、ローム塊をやや多く含む。
2. 褐色土(10YR4/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊を少量含む。

278号ビット



上町278号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)、ローム塊をやや多く含む。
2. 褐色土(10YR4/6)ロームを主体とし、黒褐色土塊を少量含む。

290号ビット



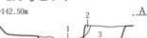
上町290号ビット SPA-A'
1. 暗褐色土(10YR2/2)As-B混上、砂質軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。

294号ビット



上町294号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)を多く含む。ローム塊をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)をわずかに含む。

295号ビット



上町295号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。(13号埋没土)
3. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。(13号埋没土)
4. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を非常に多く含む。(13号埋没土)

296号ビット



上町296号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を多く含む。

297号ビット



上町297号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。

298号ビット



上町298号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を多く含む。

299号ビット



上町299号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。

300号ビット



上町300号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。ローム塊を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、軽石(As-C, Hr-FA)をやや多く含む。

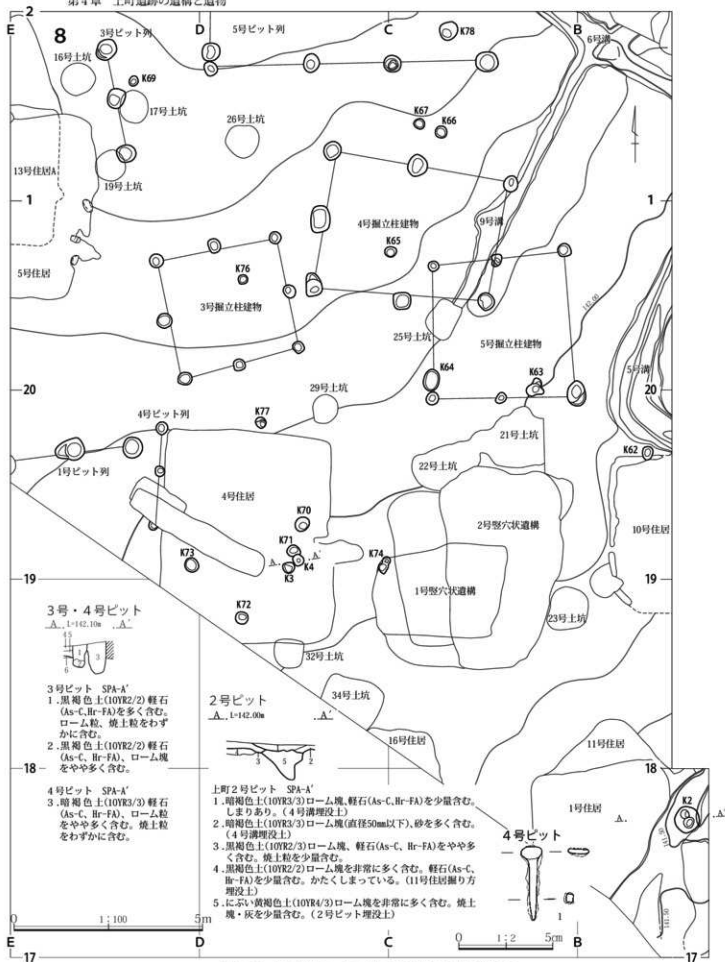
302号ビット



上町302号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。
2. 2層と同じ。ローム塊を非常に多く含む。



第100図 上町遺跡ビットの土層断面図7-2



第101図 上町遺跡ピットの分布と土層断面と出土遺物図8

9. 溜井

上町遺跡1号溜井 (第102~110図 PL.38~41・106~108 遺物観察表P.334~336・355)

グリッド 43区0~Q5~8

規模 長軸約14m 短軸約7.4m 残存壁高約1.10m

水路部方位 N-16°-W

重複 1号道路と接するが、土層断面からは重複関係は不明である。

形状 1号溜井は、ほぼ円形の湧水部と南側に連結した水路からなり、全体としては杓子のような形状をしている。湧水部は調査当初には池状の遺構と考えていたが、調査の進展により石組みの湧水坑を確認した時点で、「溜井」の名称を採用した。

湧水部全体の大きな凹みの、西側から北側さらに東側にかけての立ち上がり部は地山上部の黄褐色粘土層や下部の灰白色粘土層を挟み込んでおり、オーバーハングした形状である。湧水部のなかには8基ほどの小土坑が掘り込まれていたが、そのうちの3基が筒状に掘り込まれ湧水坑となっていた。2基は中央部、1基は北西隅にあった。その他の小土坑の底面レベルは湧水坑より高く湧水があったかどうかは不明である。

南部の水路部は整ったU字形の断面形をしている。東南端の壁際にある緩い傾斜の立ち上がり部は風倒木との重複によるものである。

埋没土 湧水部は中央で交差する土層断面の十字ベルトを設定し、底面まで一気に掘り下げた。東西方向の土層断面A-A'では、西半はAs-Cを含む黒褐色土やAs-C・黄褐色土粒を含むやや粘質の黒褐色土、灰黄褐色粘質土等が重なって埋没しており、それを切って1号湧水坑の上層を埋める円礫や砂を混じる土層や、As-Cや砂を含む砂質の黒褐色土、黄褐色土粒・浅黄褐色土粒や砂を含む砂質の黒褐色土が堆積していた。したがって、溜井西半部の小土坑が1号・2号湧水坑より前に掘られており、後に筒状の湧水坑が整備されたものと推定される。

南北方向の土層断面B-B'でも1号湧水部を埋める土砂と、それ以前の土砂とに分かれており、北西部は1号湧水部の埋没土より古い土砂で埋まっていた。ここでも溜井全体の周縁部に掘られた小土坑が先に掘られていることがわかる。また、1号湧水坑以南の溝部分に湧水坑方

向からの相当量の流水を示す砂層・砂質層が顕著に認められた。調査区南端の土層断面C-C'ではB-B'の砂層につながる溝断面(6層・8層)が観察された。

南端の土層断面C-C'では、断面形が箱形の通水溝となっており、下半部にはAs-Cや黄色土粒を含む黒褐色粘質土が堆積していた。湧水坑から続く砂層は埋没土層の上位で認められた。

湧水坑 湧水部底面には8基ほどの小土坑が掘り込まれていたが、そのうち3基が筒状の井戸のように整備されており、湧水坑として機能していたと推定される。

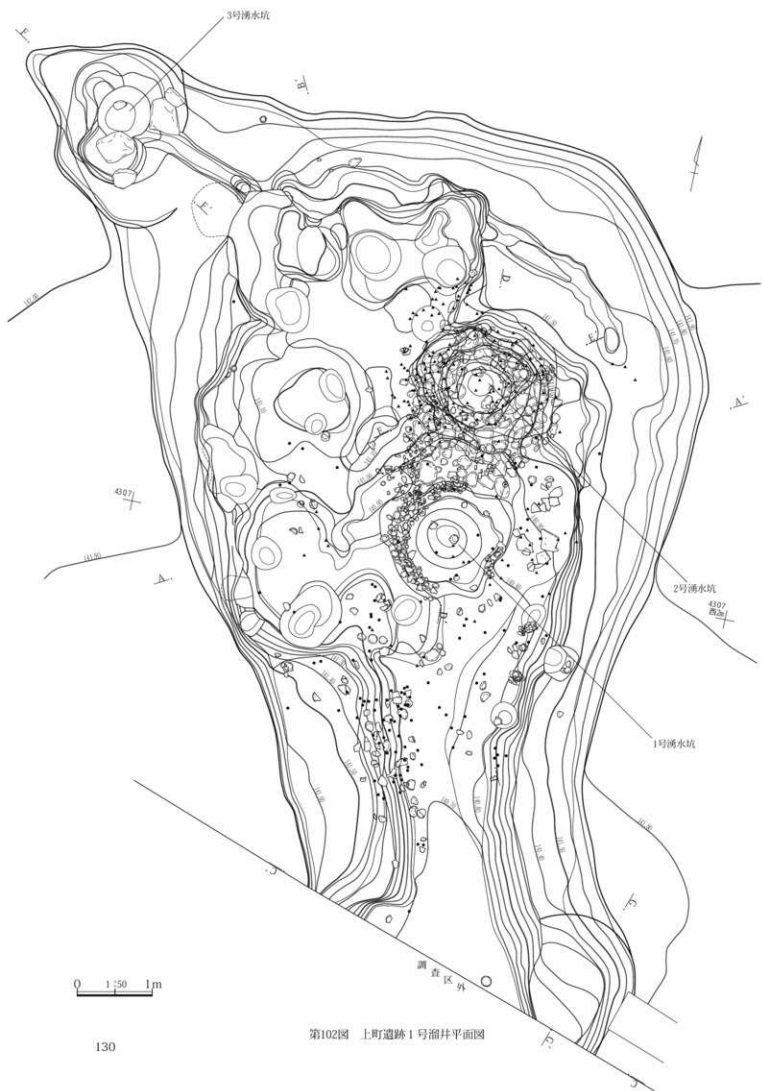
1号湧水坑は中央やや東よりにあり、直径1.8m、深さ0.2mの不整形円形の土坑中央に、直径0.8m、深さ1.02mの筒状の井戸が掘り込まれていた。周囲に小礫が取り巻いていた。小礫に混じて8~9世紀の土器が出土した。小礫は途切れ途切れで、1号湧水坑の埋没土層に2号湧水坑の周囲の礫が堆積していたことから、1号湧水坑が2号湧水坑より古いと判断された。

2号湧水坑は1号湧水坑の北側に接して検出された。2号湧水坑も周囲には小礫の石敷きを取り巻いていた。長径1.92m、短径1.56m、深さ0.52mの不整形円形の土坑の中央に直径0.56m、深さ1.68mの筒状の井戸が掘り込まれていた。上半部に堆積していた小礫の中から9世紀を中心とした土器破片が大量に出土した。湧水坑の周囲は直径10cmほどの小礫によって縁取られ、坑上部内面には小礫が貼り付けられていた。集落内の井戸として整備されていたことが推定される。

3号湧水坑は北西隅に張り出した長径2.32m、短径2.0m、深さ0.28mの不整形円形の土坑の中央に、直径0.68mの筒状の井戸が掘り込まれていた。湧水坑の周囲には大型の礫が4個出土した。3号湧水坑から幅0.3mの細い溝が認められ、さらに溜井の北壁沿いのテラス状の平坦部に弧状に巡る細い溝が検出された。

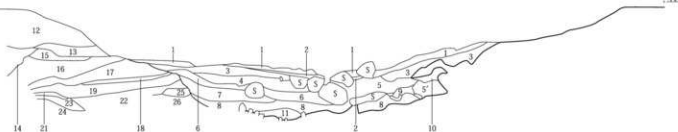
遺物と出土状況 1号溜井の検出時にはまず、東部で人頭大の礫の集積状態があり、また南西部の立ち上がり部で8世紀の須恵器、土師器の杯類を中心とする完形および半完形的大型破片が埋没土に混じて出土した。

第110図に示したように1号湧水坑の周辺と南方向へ延びる水路周辺を中心に多くの土器や少量の石製品が出土した。図化した遺物は90点で、図中に出土位置を示した遺物が52点、埋没土中から出土した遺物が38点である。



第102图 上町遺跡1号溜井平面图

A. L=141.70m

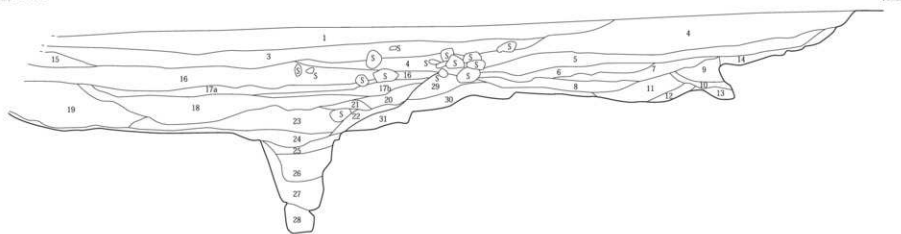


上町1号溜井 SPA-A'

1. 黒濁色土 (10YR3/1) 5cm大以下の小円礫主体。
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 1層との間に薄い酸化鉄分層固による硬い層を挟む。
3. 黒濁色土 (10YR3/2) 砂質。黄褐色土粒を含む。20cm大の礫がある。
4. 黒濁色土 (10YR2/2) As-C 軽石を含む。砂を含む。砂質。
5. 黒濁色土 (10YR3/2) 黄褐色土粒と砂を含む。砂質。
6. 黒濁色土 (10YR3/2) 砂を多量に含む。砂質。
7. 黒濁色土 (10YR3/2) やや粘質。黄褐色土粒を含む。
8. 褐色土 (10YR4/6) 粘土質。黒濁土主体。黒濁色土。小礫を含む。
9. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 粘土質。(東郷の崩落土)
10. 灰黄褐色土 (10YR5/2) 微細砂主体。シルト質。
11. 黒濁色土 (10YR3/2) 砂礫層。礫は井戸の敷石。
12. 黒濁色土 (10YR2/3) As-C 軽石を含む。やや砂質。
13. 黒濁色土 (10YR2/3) 褐色土 (10YR4/4) を塊状に含む。

14. 褐色土 (10YR4/4) 礫士の崩落。粘質。
15. 黒濁色土 (10YR2/2) As-C 軽石を含む。IV層に似る。4層と近似。
16. 黒濁色土 (10YR2/3) As-C 軽石を含む。やや粘質。
17. 黒濁色土 (10YR2/3) As-C 軽石を含む。黄褐色土粒は16層よりも多い。やや粘質。
18. 黒濁色土 (10YR2/2) 15層と同質。
19. 黒濁色土 (10YR3/1) 1層と同質。
20. 黒濁色土 (10YR2/3) 17層と同質。
21. 浅黄褐色土 粘土質。V層土の崩落。
22. 灰黄褐色土 粘質。浅黄褐色土粒を含む。
23. 黒濁色土 (10YR2/2) 粘質。均質。
24. 灰黄褐色土 22層に浅黄褐色土を多量に含む。
25. 灰黄褐色土 浅黄褐色粘土を多量に含む。
26. 浅黄褐色粘土 V層土塊主体。

B. L=142.20m



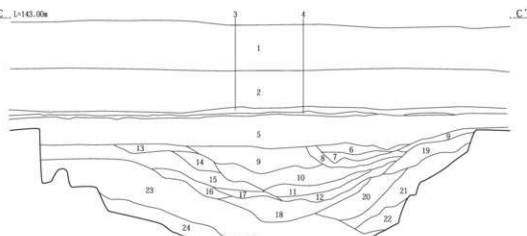
上町1号溜井 SPB-B'

1. 黒濁色土 (10YR2/3) やや粘質。最終的に貫った凹地の樹根。As-C 軽石を含む。(H-H' の1層)
3. 黒濁色土 (10YR2/3) 砂質。As-C 軽石を含む。5cm大の礫を含む。(H-H' の3層)
4. 暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質。IV層土。鉄分沈着。褐色土粒を含む。(H-H' の13層)
5. 黒濁色土 粘質。硬く均質。(H-H' の25層)
6. 黒濁色土 (10YR3/2) 粘質。下部は粘土質。(H-H' の32層)
7. 黒濁色土 (10YR2/3) As-C 軽石を含む。やや粘質。褐色土粒を含むが、6層よりも目立たない。
8. 黒濁色土 (10YR2/3) 黄褐色土 (VII層) 粒の混入が目立つ。硬く粘質。
9. 黒濁色土 (10YR2/2) IV層土主体。As-C 軽石をのみやや砂質。
10. 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土粒を多量に混入する。
11. 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土 (VIII層) 塊 2cm以下を多量に混入する。
12. 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土 (VIII層) 塊よりも黄褐色土の混入少ない。
13. 黄褐色土塊主体。黒濁色土を混入する。
14. 黒濁色土 (10YR2/3) As-C 軽石を含む。やや砂質。褐色土粒を含む。小円礫を含む。
15. 黒濁色土 (10YR3/2) やや砂質。As-C 軽石を含む。
16. 黒濁色土 (10YR3/2) 砂質。細砂 (軽石質) を多量に含む。円礫を含む。(B-B' の5層)
17. 黒濁色土 (10YR3/2) (B-B' の6層)
- 17a. 5cm大以下の小円礫主体。

- 17b. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 17a層との間に薄い酸化鉄分層固による硬い層を挟む。
18. 黒濁色土 (10YR2/2) 粘土質。硬くしまり均質。(H-H' の32層)
19. 黒濁色土 (10YR2/2) やや砂質。(H-H' の33層)
20. 黒濁色土 (10YR2/3) As-C 軽石を含む。砂を多量に混入。砂質。

21. 灰黄褐色土層。
22. 黒濁色土 粘質。黄褐色土粒を含む。
23. 黒濁色土 (10YR3/2) 砂質。酸化鉄沈着と軟粘質黒濁色土 (10YR2/1) が互層をなす。(B-B' の19層)
24. 黒濁色土 (10YR3/2) 細砂質。小礫を含む。
25. 明黄褐色土 (10YR7/6) 粘土質。黒濁色粘質土塊を含む。
26. 黒濁色土 (10YR3/1) 黄褐色土塊を含む。粘質。
27. 黒濁色土 (10YR3/1) 拳大の円礫を多量に含む。
28. 灰白土主体。円礫を含む敷石。
29. 黒濁色土 粘質。As-C 軽石砂を含む。
30. 黒濁色土 粘質。黄褐色土粒と黒濁色土塊が混在。粘質。
31. 黒濁色土 粘質。

C. L=143.00m



上町1号溜井 SPC-C'

1. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 白色軽石をわずかに含む。やや砂質。(近世～近代の耕土)
2. 黒濁色土 (10YR3/2) As-B を混じる。(中世の耕土)
3. 黒濁色土 (10YR2/2) As-B 藍土層。砂質。
4. 暗灰色土 As-B 層 (一次堆積層)。上に青灰色土のシルト (和川テフラ) が硬状に混在する。
5. 黒濁色土 (10YR2/3) As-C 軽石を含む。やや砂質。(IV層)。
6. 黒濁色土 (10YR4/2) 粘質。
7. 灰黄褐色土 細砂層。As-C 軽石の混入が目立つ。
8. 黒濁色土 粘質。薄い硬砂層を挟む。
9. 黒濁色土 (10YR2/3) As-C 軽石の混入が目立つ。やや砂質。黄褐色土粒を含む。
10. 黒濁色土 (10YR2/3) As-C 軽石。黄褐色土粒の混入は9層よりも多い。
11. 黒濁色土 (10YR2/2) 黄褐色土粒が目立たない。やや粘質。
12. 黒濁色土 (10YR2/3) 褐色土。暗褐色 (10YR3/4) の砂を多量に含む。
13. 暗褐色土 (10YR3/3) 鉄分沈着。褐色土粒を多量に含む。
14. 黒濁色土 (10YR2/3) 褐色土粒を含む。
15. 黒濁色土 (10YR2/3) 褐色土粒の混在はIV層よりも多い。
16. 黒濁色土 (10YR2/3) 黄褐色土 (VIII層) 粒を多量に含む。
17. 黒濁色土 (10YR2/2) 粘質。褐色土粒の混入少ない。
18. 黒濁色土 (10YR2/2) 粘質。均質。As-C 軽石を含まない。
19. 黒濁色土 (10YR2/3) As-C 軽石を含む。やや砂質。
20. 黒濁色土 (10YR2/3) As-C 軽石は少ない。やや粘質。
21. 黒濁色土 (10YR2/2) As-C 軽石は目立たない。黄褐色土粒を含む。粘質。
22. 黒濁色土 (10YR2/2) 黄褐色土 (VIII層) 塊を多量に含む。
23. 黒濁色土 (10YR2/3) 20層とほぼ同じ。
24. 黒濁色土 22層とほぼ同じ。

0 1:40 1m



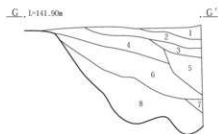
上町1号溜井 1・2号湧水坑SPD-D' SPE-E'

1. 黒褐色土 粘質。
2. 黒褐色土 やや砂質。褐色土粒を多量に含む。5cm以下の円礫を密に全体的に混在する。



上町1号溜井3号湧水坑 SPF-F'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含み、やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含み、やや砂質。
3. 暗褐色土(10YR3/4) As-C軽石は目立たない。VI層土を含む。粘質。
4. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。
5. に近い黄褐色土(10YR4/3)黒褐色土に黄褐色土(VI層)を多量に混在する。
6. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。VII層土粒・塊を含む。やや砂質。
7. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。



上町1号溜井 SPG-G'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。やや砂質。(H-H' 5層)
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を含む。黄褐色土粒の混入目立つ。(H-H' 13層)
3. 黒褐色土(10YR2/3) 1層と同質。やや粘質。(H-H' 13層)
4. 黒褐色土(10YR2/3) As-C軽石を著しく含む。やや砂質。
5. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。やや粘質。(H-H' 23層)
6. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石をわずかに含む。粘質。均質。
7. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石を含む。浅黄色土粘土塊を多量に含む。(H-H' 24層)
8. 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石をまったく含まない。均質。(H-H' 25層)

0 1:40 1m

第104図 上町遺跡1号溜井土層断面図(2)

第4章 上町遺跡の遺構と遺物

遺物のうち土器の時期は、概ね①7世紀前半、②8世紀前半、③8世紀中葉、④8世紀中葉から9世紀代、⑤8世紀後半から9世紀前半、⑥9世紀中葉から9世紀後半の6期に分けられた。①から②の間には数十年の間隔があると思われるが、②から⑥までは継続しているとみられることから、1号溜井は8世紀前半から9世紀後半まで機能を果たしていたものと推定される。

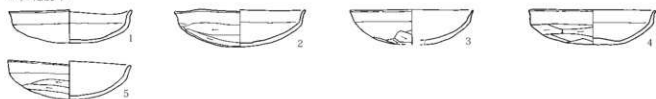
第105図～第109図は、この時期ごとに出土遺物を並べた。第107図の須恵器表類はやや時期の限定は困難な遺

物であるが、④8世紀中葉から9世紀代と考えられる遺物である。第110図には出土位置のわかる実測土器の、時期別の分布図を掲載した。

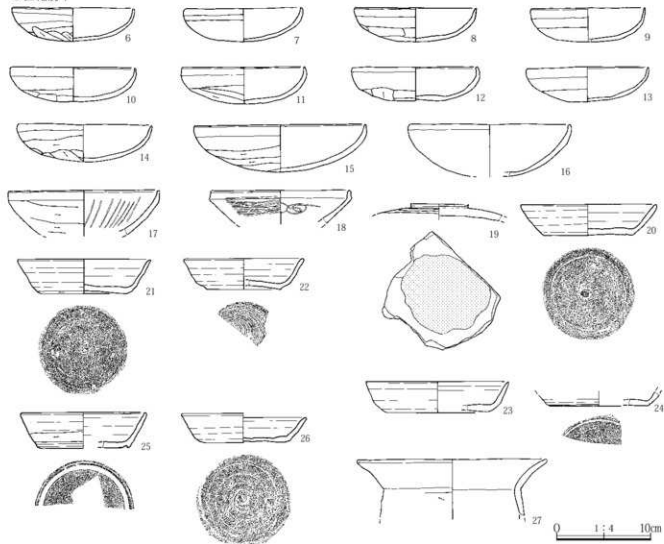
①7世紀前半と推定される土器は溜井南半の水路部に西縁に偏在しており、溜井の使用開始時期を示す可能性がある。(第105図)

②8世紀前半の時期の遺物は1号湧水坑の周囲から水路部にかけての位置で出土した。この時期には溜井周辺に竪穴住居が分布してくるので、確実に溜井使用時期の

7世紀前半

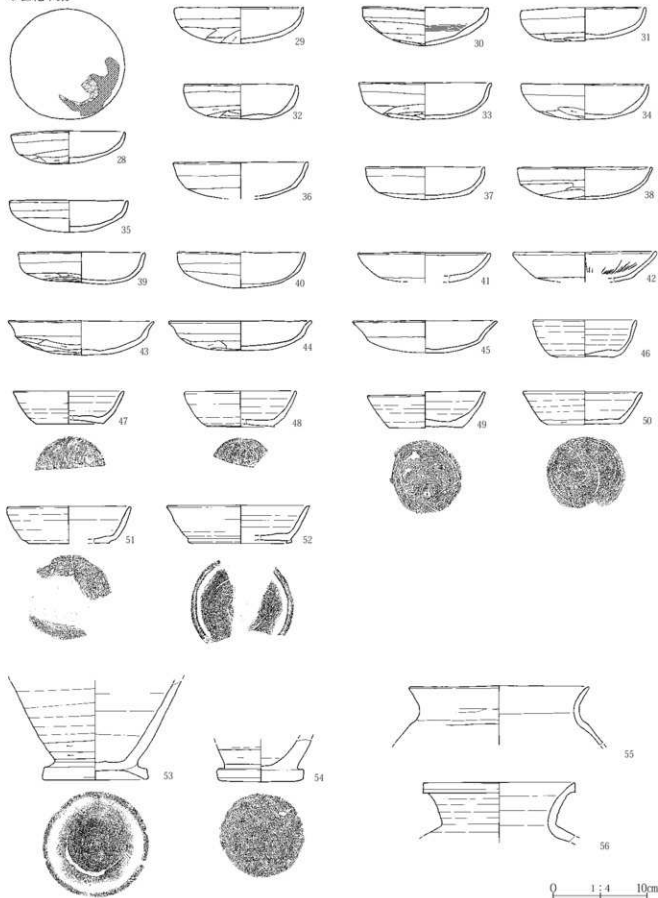


8世紀前半



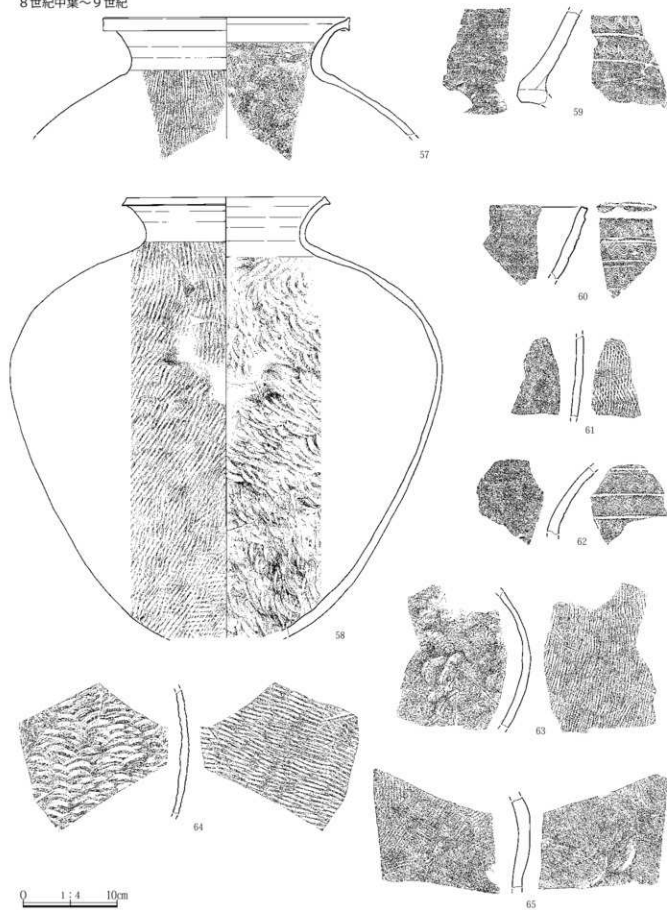
第105図 上町遺跡1号溜井出土遺物図(1)土器：7世紀前半・8世紀前半

8世紀中葉



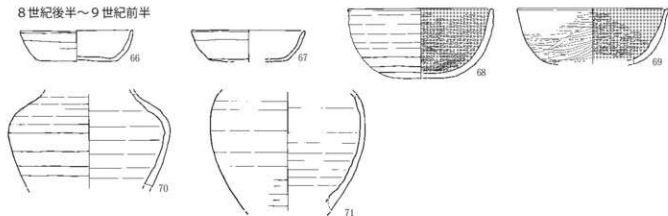
第106図 上町遺跡1号溜井出土遺物図(2)土器：8世紀中葉

8世紀中葉～9世紀

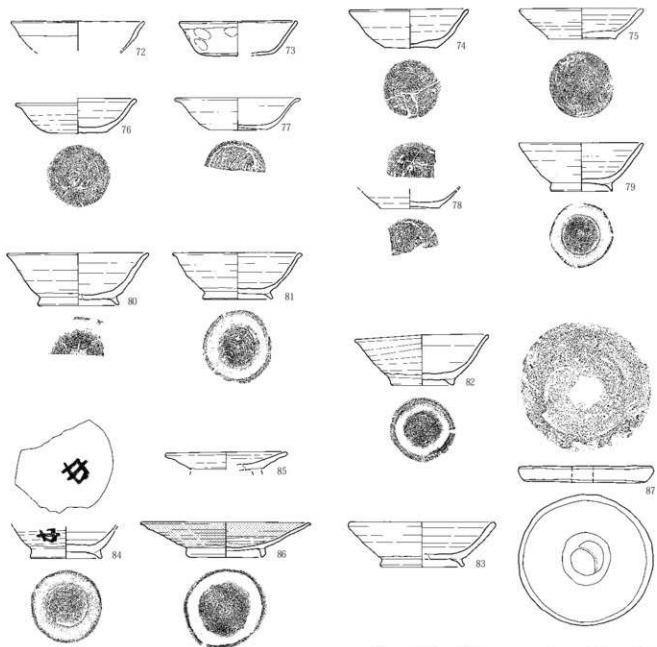


第107図 上町遺跡1号溜井出土遺物図(3)土器：8世紀中葉～9世紀

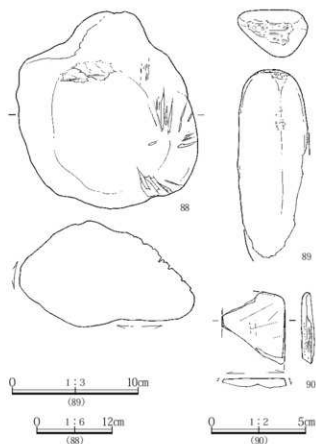
8世紀後半～9世紀前半



9世紀中葉～後半



第108図 上町遺跡1号溜井出土遺物図(4)土器：8世紀後半・9世紀中葉～後半



第109図 上町遺跡1号溜井出土遺物図(5)石製品

土器といえよう。(第105図)

③ 8世紀中葉および④ 8世紀中葉から9世紀代の土器は最も多く出土している。須恵器大甕(第107図58)は1号湧水坑の北側から水路中央部にまで散在する16点におよぶ破片が接合しており、注目される。この時期の土器も1号湧水坑の周囲から水路部にかけての位置で出土した。少なくとも8世紀代は1号湧水坑が機能していた可能性が高い。(第106・107図)

⑤ 8世紀後半から9世紀前半の土器で出土位置が判明しているのは土師器鉢(第108図68)と須恵器壺(第108図71)であるが、いずれも1号湧水坑より下位にある。この時期も1号湧水坑が機能していた可能性がある。(第108図)

⑥ 9世紀中葉から9世紀後半の土器は、2号湧水坑の周囲や3号湧水坑寄りの位置にも出土しており、9世紀中葉ころ、2号湧水坑が設置されたものと推定される。埋没土中から出土した灰軸陶器(86)は光ヶ丘1号窯式の皿である。これらのなかには10世紀までに下る土器はほとんど見られないことから、9世紀末には1号溜井は廃

絶したものと推定される。周囲の堅穴住居も10世紀にはごく少なくなっており、農耕環境の変化があったものと推定される。(第108図)

この他に埋没中から出土した遺物38点を前述した①～⑥の時期別に図示した。内訳は、土師器杯10点(第105図1・12、第106図30・35・38・40・41、第108図66・67・72)、高杯1点(第105図18)、鉢2点(第105図17・第106図42)、須恵器杯10点(第105図21～25、第106図46・47、第108図75・78)、須恵器椀2点(第108図80・83)、須恵器皿1点(第108図85)、灰軸陶器皿1点(第108図86)、土師器甕2点(第105図27、第106図55)、須恵器壺2点(第106図53、第108図70)、須恵器甕5点(第106図56、第107図59・60・64・65)、須恵器横瓶(第107図61)、黒色土器椀(第108図69)、敲石1点(第109図89)、砥石2点(第109図88・90)である。

ここで図示した遺物以外に縄文土器2点(第111図5・7)、土師器杯類破片2368点、壺・甕類破片1668点、須恵器杯・椀類破片600点、瓶・甕類破片246点、黒色頁岩製の打製石斧1点(第111図11)が出土した。

所見 出土遺物から、8世紀前半から9世紀後半にかけての遺構と考えられる。

1号溜井は当初から、調査されたような大型の遺構ではなく、先行する小土坑群と最終的に湧水坑として機能していた部分との複合遺構と推定される。小土坑群の用途は不明であるが、古い湧水坑の痕跡あるいは粘土探掘坑であったことが想起される。本溜井がある地点は帯状凹地西脇の緩斜面であり、粘土の採取は容易であったと考えられ、湧水の可能性も高かったものと考えられる。粘土探掘坑の底面を利用して湧水坑を掘削し、石敷きを設置して、徐々に全体を溜井として整備していった可能性が考えられる。

東側に隣接する天王・東組屋敷戸遺跡でも、本遺跡と同様な帯状凹地の脇に同時期の溜井が検出されている河川のない帯状凹地に湧水を導水して、水を集め、矮小な低地でも水田耕作をおこなっていたものと考えられる。



第110図 上町遺跡1号溜井出土遺物分布図

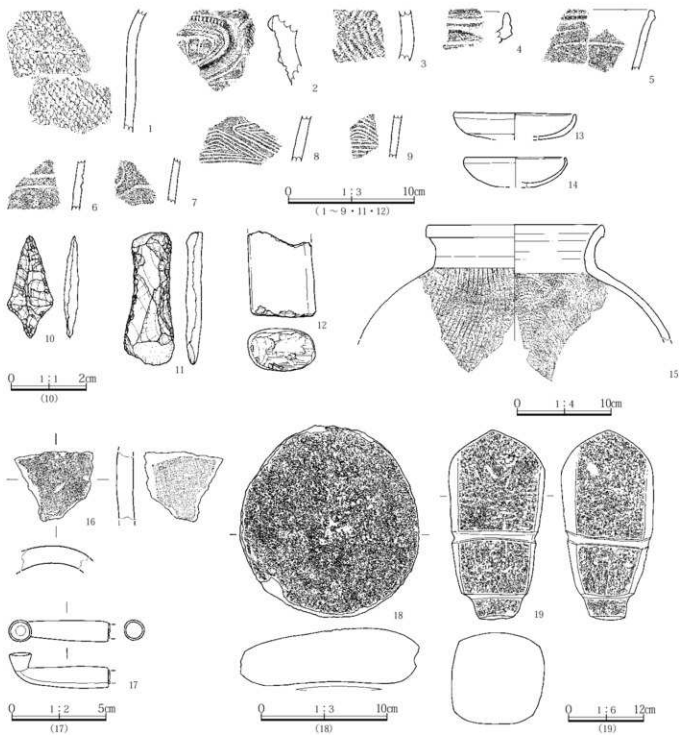
10. 遺構外の出土遺物

(第111図 PL.108 遺物観察表P.336・353・355・357・358)

上町遺跡では、遺構確認作業時に遺構に伴わない状態で土器や石器が出土した。そのうち、1層から出土した空風輪(第111図19)、台石(18)、IV層中から出土した土師器杯(13・14)、須恵器甕(15)、瓦(16)を図示した。ま

た古代の遺構等から出土した縄文時代の土器および石器(第111図1~12)を図示した。

図示できなかった遺物の内訳は非掲載遺物集計表(P.359・360)の通りである。このうち4点の縄文時代石器はIII層から出土した黒色頁岩製の打製石斧1点、VI層から出土した黒色頁岩製の削器1点、石核1点、加工痕ある剥片1点である。石製品は表面採集の敲石1点である。



第111図 上町遺跡の遺構外出土遺物

第5章 時沢西紺屋谷戸遺跡の遺構と遺物

第1節 概要

時沢西紺屋谷戸遺跡では、竪穴住居26棟、竪穴状遺構3基、掘立柱建物9棟、溝14条、井戸1基、土坑90基、ピット333基、畝間溝群1基、水田跡1カ所、道路跡1基を検出した。

遺構は発掘区全体に散在していた。上町遺跡では中央の東西幅約60mの凹地部分では遺構の分布が希薄であったが、時沢西紺屋谷戸遺跡では竪穴住居も分布しており、この部分も居住可能な地点であったことがわかる。時沢西紺屋谷戸遺跡で検出された遺構の密度は西部がやや高い。東部は数条の溝による区画が顕著であったが時期不明の溝が多く、方形地割の溝は中世あるいは近世の遺構であることから古代の遺構との関連は低いと考えられる。なお、調査時の廃土処理の都合から、西部の竪穴住居群のなかで上町遺跡に入る4棟の竪穴住居と1基の竪穴状遺構を、時沢西紺屋谷戸遺跡として名称をつけ調査している。

竪穴住居26棟は比較的深く残存状態は良好である。出土土器の様相から、その時期は8世紀から10世紀にかけてと判断される。特に8世紀の竪穴住居は大型で、主柱穴も明確に検出された。また、多くの竪穴住居で床下土坑が深く掘られて、塊状の土砂で埋められ貼床を施している状況が顕著であった。これらの床下土坑は地山にある灰白色粘土を採取することが目的と推定される。東西の微高地上には、主軸をN-O°-Wにする竪穴住居が顕著で、特に東部には同様な方向の掘立柱建物があり注目される。

竪穴状遺構3基は、方形で横穴の付く遺構1基と大型円形の遺構2基であり、いずれも西部で検出された。

掘立柱建物は9棟が、西部に4棟、東部に5棟と分かれて検出された。これらの掘立柱建物は1号・10号掘立柱建物を除き、竪穴住居のないところに建てられていた。竪穴住居との新旧関係が判明したのは1号掘立柱建物のみで、2号竪穴住居より古いことが埋没土層の観察から判明した。東部で検出された5号掘立柱建物は四隅の柱穴がL字形をしており、特異な形状を示していた。特殊

な建物の可能性が高い。南西部にある上町遺跡5号ピット列とは主軸方位が一致しており関連性のある遺構群と推定される。北側にある6号・7号掘立柱建物、13号・16号・18号住居の長軸方位ともほぼ一致していることから、関連性のある遺構群と推定されよう。また8号掘立柱建物は3間・4間の大規模な建物で重要である。上町6号・時沢13号掘立柱建物の柱穴には浅間B軽石が多く含まれていることから、中世の建物と推定される。

溝14条は、西部で3条、中央部で5条、東部で6条検出された。西部の3条は小規模で出土遺物もなく、性格や時期を明らかにすることはできなかった。東部の6条のうち、5号溝は中世に台地縁辺に掘られた水路と見られ、上町遺跡2号溝につながっている。浅間B軽石が埋没土中にあることから、10号溝も中世と見られ、上町6号・13号掘立柱建物との関連が想定される。7号・11号溝は江戸時代の遺物が出土しており、中世の地割を意識して掘られた区画溝であろう。他の溝については時期や性格を明らかにできなかった。

中央部の5条のうち12号・13号・16号・17号溝は1号道路のいずれかの時期の側溝と推定される。この4条の溝と後述する18号溝は1号道路の付属溝として、第5章で報告する。15号溝は、1号道路より古いことが判明している上町遺跡14号溝につながる溝である。

井戸は西部で1基が検出された。時期は9世紀中葉で、集落の時期に対応する。集落内の飲料水用の井戸として使用されたものであろう。

土坑90基は、竪穴住居や掘立柱建物群のなかで全体に散在していたが、中央部の西半部には比較的土坑の分布は少なかった。また東部では区画の南東部にやや偏する傾向があった。本書では形態や規模で、①円形中型から小型(直径1.49m～0.62m漸移的に変化)、②楕円形(長軸1.86～0.48m)、③隅丸方形、④長方形、⑤不整形の5種類に分けて報告する。上町遺跡で検出された円形大型の土坑は時沢西紺屋谷戸遺跡では検出されなかった。しかし、出土遺物が少ないことから、その時期や性格を明らかにできた土坑は少ないことは否めない。

ピット333基も竪穴住居や掘立柱建物群のなかで全体

に散在していたが、中央部の西半部には一部を除いてピットの分布は少なかった。ピットはすべての平面図および断面図を記録することはできなかったので平面図のみを記録し、掘立柱建物の柱穴ととらえられるものや、他の遺構との重複関係が認められるものを除き、埋没土は分類して記号で記録した。

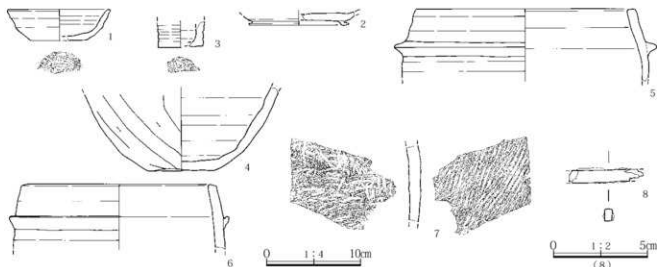
高畝間溝群は発掘区西部の遺構群のなかで6条の高畝間溝が検出された。3号掘立柱建物と重複していたが、高が古い可能性がある。

水田跡は東側の無名沢内にA～Cの3か所のトレンチを設定して検出した。各トレンチとも圃場整備の際の埋め土下から、開田が江戸時代まで遡る可能性のある水田面を検出した。またCトレンチでは古代の可能性のある6号溝を検出した。

道路跡は上町遺跡中央部から時沢西組屋谷戸遺跡の中央やや東側へ延びる遺構である。新しい不定型な掘り込みによって壊されているが、両側側溝を伴う古代道路跡である。溝からの出土遺物から、8世紀後半から9世紀代と推定される。1号道路は硬化面の位置や層位が一定でないことから、適宜修復を繰り返したものと推定され、一定期間道路として機能していたと考えられる。道路跡については第5章で報告する。

第2節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴住居



第112図 時沢西組屋谷戸遺跡1号住居出土遺物図

時沢西組屋谷戸遺跡1号住居

(第112・113図 PL.43・109 遺物観察表P.336・353)

グリッド 43区Q・R16・17

形状 長方形

重複 3号溝と重複するが、1層の落ち込む部分が3号溝と推定されることから、1号住居が古い。

規模 長軸4.5m 短軸3.53m 残存壁高0.56m

面積 12.99㎡ 長軸方位 N-10°-E

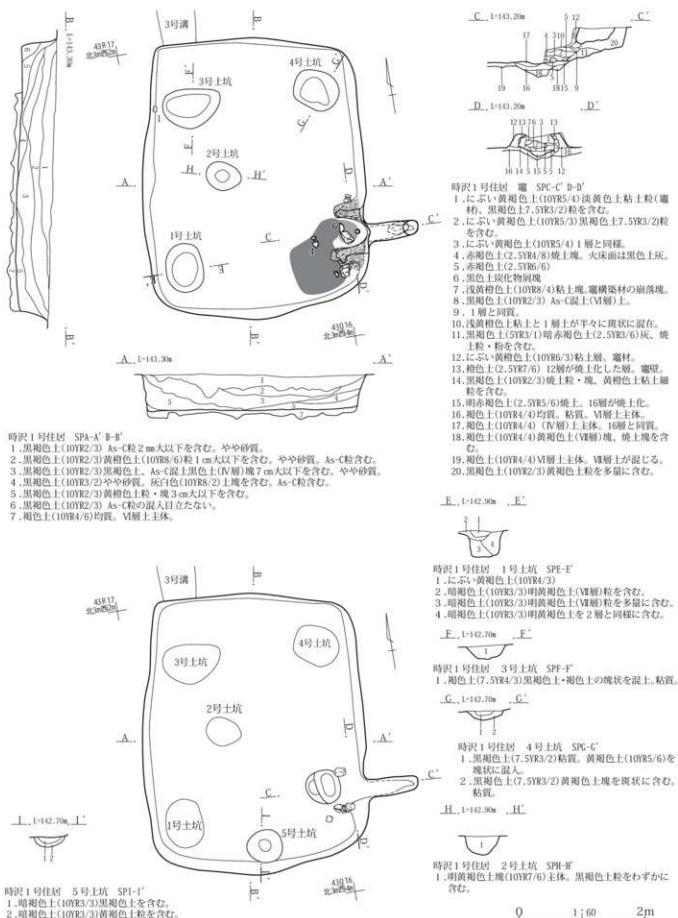
埋没土 上層は白色軽石粒・黄褐色土粒を含む黒褐色土で、下層は黄褐色粒・塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 住居東壁の南側に竈が構築されていた。確認長0.60m、焚口幅0.57m。袖の残存長は向かって右側が0.50m、左側が0.47m。煙道は掘り方調査段階で検出された。0.80mほど壁外にトンネル状に地山を掘り抜いてつくられていた。竈前の床面には灰が広がっていた。

竈は浅黄色粘土でつくられた袖が良好に残っていた。竈の掘り方は浅く、袖の粘土もほとんど壁に貼り付くような状況であった。燃焼部では柱状の角礫が出土しているが燃焼部の炭化物層の上にあることから支脚石ではなく崩落石の可能性が高い。燃焼部焚口付近の竈使用面上2cmで須恵器羽釜(第112図6)が出土した。須恵器羽釜か(4)は竈前の灰層上面の床面直上で出土した。

柱穴 床面で4基の土坑を検出したが、1号土坑以外は浅いボール状の断面形状の土坑で主柱穴と思われるピットではなかった。1号土坑は0.46mの深さがあったが、形状やその位置から主柱穴とは考えられない。後述するように貯蔵穴である可能性が高い。中央の2号土坑の埋

第2節 検出された遺構と遺物



第113図 時沢西館屋谷戸遺跡1号住居床面・掘り方面図

没土は黄褐色土のⅦ層土で一括埋没されたような状況であった。3号土坑も黒褐色土と褐色土の混土で一括埋没されたような状況であった。土坑の性格は不明である。

周溝 周溝は床面・掘り方面ともに検出されなかった。

貯蔵穴 南東隅に長径0.78m、短径0.58m、深さ0.46mの楕円形の貯蔵穴と推定される土坑が検出された。長軸が住居長軸に平行であり、住居に関連した施設である可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。

床面 床面は平坦で、竈前を中心にして硬化していた。

掘り方 掘り方面で新たに南壁中央に5号土坑を検出したが、性格は不明である。貼床を剥がした掘り方面は著しい凹凸がみられたが、これはⅦ層を掘りすぎ、下位のⅦ層上面を検出したためである。

遺物と出土状況 遺物は、北西隅の壁際で須恵器杯(第112図1)が床面直上で出土した他は、竈周辺に集中して出土した。竈前の床面直上で須恵器羽釜が(4)が床面直上で出土した。埋没土中から鉄鎌(8)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片18点、壺・甕類破片134点、須恵器杯・椀類破片46点、瓶・甕類破片13点、灰釉陶器碗破片1点が出土した。

所見 出土遺物から10世紀中葉の住居と考えられる。

時沢西組屋谷戸遺跡 2号住居

(第114・115図 PL.44・109 遺物観察表P.336・337)

グリッド 43区S・T15・16

形状 長方形。住居の西壁付近には先行する大きな風倒木痕があり、黒色土の壁となっていた。

重複 1号掘立柱建物のP2・P3が重複するが、柱穴埋没土上に2号住居の貼床が確認できたことから、2号住居が新しい。

規模 長軸4.1m 短軸3.42m 残存壁高0.51m

面積 11.12㎡ 長軸方位 N-19°-E

埋没土 上層はやや砂質で直径2mm以下のAs-C粒や明黄褐色土粒を多量に混入する黒褐色土で、下層はやや砂質で、浅黄橙土粒を含む褐色土、やや砂質で多量のAs-Cと炭化物粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長0.60m、焚口幅0.35m。壁内に伸びる袖とみられた帯状の粘土は最終燃焼面の灰の上ののっていたために最終の写真記録の際には除去した。竈の修理工程を示すのか

もしれない。壁外に0.20mほど煙道部が伸びる。竈焚口部には灰が広がり、燃焼部底面は焼けて焼土化していた。煙道部上位から角礫・円礫が詰められたような状態で6個出土した。竈使用時のものとはみられなかった。焚口右壁面には角礫が芯に入れられていた。燃焼部内から土師器小破片が出土したが、図示できる大きさのものではなかった。

竈掘り方面では奥の壁に浅黄色粘土が貼られていた。特に左側の壁に顕著に見られた。

柱穴 床面・掘り方面ともに主柱穴と考えられるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は北壁沿いのみ検出された。南壁・西壁は風倒木痕跡や先行する土坑の埋没土との層位が不明確で検出できなかった可能性がある。北壁の周溝の幅は概ね10cm、深さは3~9cmである。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は平坦である。

掘り方 掘り方面で3基の床下土坑と3基のピットを検出した。1号床下土坑は南東部で検出された。直径0.56m、深さ0.31mの円形。断面形はボール状で、角礫が1個出土した。2号床下土坑は中央やや南東寄りで検出された。長径1.12m、短径0.90m、深さ0.28mの楕円形で、断面形は箱形、底面には凹凸があった。3号床下土坑は北部で検出された。長径1.35m、短径1.05m、深さ0.84mの不整形円形。断面形はボール状で、底面はやや深くなっていた。

3基のピットは竈前で1基、西壁沿いに2基が検出された。竈前の1号ピットは長径0.46m、短径0.38m、深さ0.41mの楕円形。2号ピットは直径0.40m、深さ0.31mの円形。3号ピットは長径0.43m、短径0.40m、深さ0.37mの楕円形。ピットの性格は不明である。

遺物と出土状況 遺物は住居中央から竈にかけての位置に偏在して出土した。須恵器杯(第115図3・5)は竈前床面上6cm、15cmで出土した。須恵器羽釜(9)は中央部床面上16cmで出土した。また須恵器羽釜(7)が竈煙道部で出土した。また、埋没土中から石鎌(第230図26)、黒色土器碗(第115図6)、須恵器蓋(2)、灰釉陶器碗(4)、須恵器蓋(1)、須恵器羽釜(8)が出土した。

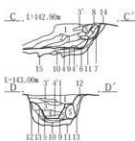
ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片29点、壺・甕類破片341点、須恵器杯・椀類破片67点、瓶・甕類破

第2節 検出された遺構と遺物



時沢2号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-C 2mm以下を多量に混入。明黄褐色土(10YR7/6) 2cm大以下粒の混入目立つ。
2. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cの混入は1層と同様。明黄褐色土粒目立たない。
3. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。浅黄褐色土(10YR8/4)粘土 3cm大以下を塊状に含む。
4. 黒褐色土塊(10YR2/2)IV層土。
5. 褐色土(10YR5/1)やや砂質。浅黄褐色土粒を含む。
6. 黒褐色土(10YR2/3)浅黄褐色土を塊状に含む。
7. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを1層と同様に含む。炭化物粒を含む。
8. 黒褐色土(10YR2/3)明黄褐色土粒の混在目立つ。
9. 黒褐色土(10YR2/3)明黄褐色土塊 3～4cm大を含む。
10. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混土(IV層)を多量に含む。
11. 黒褐色土(10YR2/2)やや粘質。As-Cを含む。褐色土(V層)を塊状に含む。



時沢2号住居 羅 SPC-C' D-D'

1. にぶい黒褐色土(10YR4/3)やや砂質。焼土粒。浅黄褐色土粒を含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)やや砂質。浅黄粒塊 5cm大以下を塊状に含む。
3. 浅黄褐色土粘土の均質。壁体の崩落堆積。
3. 3層より均質を欠く。1層と混じる。
4. 焼土塊主体。黒褐色土と混じる。(崩落焼土壁)
4. 焼土塊主体。黒色土灰を混じる(大床面の灰)
5. 焼土化した硬い瀝瀝。
6. 赤黒色土(2.5YR2/1)焼土粒・塊を含む。粘質。
7. にぶい赤褐色土(5YR5/3)赤化した粘土。瀝瀝。
8. 明黄褐色土(10YR6/4)粘土主体。
9. 灰黄褐色土(10YR5/2)灰が主体。焼土黒色土灰を含む。
10. 赤褐色土(5YR4/8)良好な焼成土。VI層土焼成か?
11. 褐色土(10YR4/4)VI層土。均質。
12. にぶい黄褐色土(10YR6/4)粘土質。瀝材。
13. 暗赤褐色土(5YR3/3)焼土粒。黒色土灰。黒褐色土と混じる。
14. 浅黄褐色土 粘土質。7層との境に黒色土灰の筋が入る。瀝材と同質。
15. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。



時沢2号住居 P1 SPE-E'

1. 赤褐色土 焼土。
2. 黒褐色土 黒色土灰の 2～3mmの厚さの層を挟む。
3. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを多量に含む。
4. 褐色土(10YR4/6)VI層土塊主体。黒褐色土と混じる。
5. 黒褐色土 やや粘質。
6. 褐色土(V層)



時沢2号住居 P2 SPJ-J'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや粘質。
2. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。As-Cは目立たない。黄褐色土を塊状に含む。



時沢2号住居 P3 SPI-I'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。



第114図 時沢西館屋谷戸遺跡2号住居床面・掘り方面図

第5章 時沢西組屋谷戸遺跡の遺構と遺物



時沢2号住居 1号土坑 SPF-F

- 1.黒褐色土 粘質。As-Cを含む。焼土粒を含む。
- 2.褐色土 黒色土灰の2mm程の薄い層を挟む。硬い陥床。
- 3.黒褐色土(10YR2/2)粘質。羽釜破片が出土。



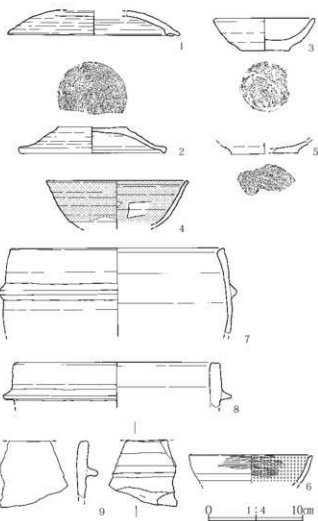
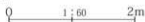
時沢2号住居 2号土坑 SPG-G

- 1.黒褐色土 As-Cを混じる。IV層土と褐色土、VI層土が斑状に混じる。陥床で踏まれて使い。
- 2.黒褐色土 暗褐色土が斑状に混じる。1層とはほぼ同じ。
- 3.2層と同様だが境界には灰白色土の薄層が堆積していた。
- 4.黒褐色土 黄褐色(IV層)土塊を多量に含む。



時沢2号住居 3号土坑 SPH-H

- 1.黒褐色土(10YR2/2) As-Cを混じる。IV層土が主体。
- 2.黒褐色土と褐色(VI層)土が斑状に混じる。
- 3.にぶい黄褐色土(10YR4/3)VI層土主体。



第115図 時沢西組屋谷戸遺跡2号住居土層断面・出土遺物図

片22点が出土した。

所見 出土遺物から10世紀中葉～後半の住居と考えられる。

時沢西組屋谷戸遺跡3号住居

(第116図 PL.45・109 遺物観察表P.337)

グリッド 43区P15・16

形状 長方形

重複 なし

規模 長径3.33m 短径2.87m 残存壁高0.74m

面積 5.19㎡ 長軸方位 N-26°-W

埋没土 土層は直径2mm以下のAs-C粒を含む黒褐色土や直径2mm以下のAs-C粒を含むにぶい黄褐色土で、下層はAs-Cを混じる黒褐色土やVI層土を多量に含む。

暗褐色土で埋まっていた。

竈 住居北東壁ほぼ中央に竈が構築されていた。確認長0.86m、焚口幅0.67m。袖の残存長は向かって右側が0.20m、左側が0.50m。壁外に0.19m煙道が伸びる。袖は粘土を貼ってつくっていたが、竈奥の壁には粘土を張った状況は認められなかった。竈前の灰や焼土はあまり残存していなかった。奥の壁の焼土化もあまり見られなかった。

柱穴 床面・掘り方面ともに主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は床面・掘り方面ともに検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

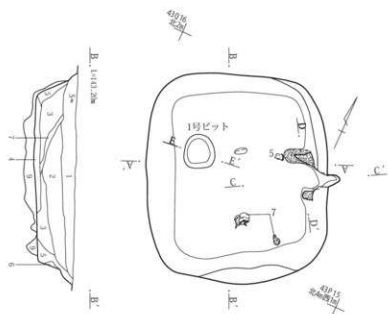
床面 床面は平坦である。

掘り方 掘り方面は中央がやや深く掘り込まれていた。方形に掘った痕跡として北西・南西部には周溝状の掘り方が残っていた。掘り方検出面はVI層とVII層の境界面を検出してしまった部分があった。掘り過ぎで正確な掘り方面を記録できなかった。

遺物と出土状況 遺物は南東壁付近に床面に近い遺物が出土した。土師器甕(第116図7)は住居中央やや南東の床面直上で出土した。7は南東隅床面上7cmで出土した。須恵器蓋(5)は竈左袖前床面上46cmで出土した。また、埋没土中から閃緑岩製の敲石、土師器杯(1・2)、皿(3)、須恵器蓋(4)、土師器甕(6)が出土している。

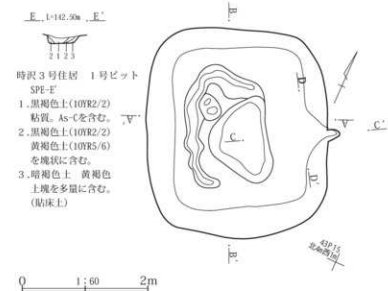
ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片18点、壺・甕類破片19点、須恵器杯・椀類破片7点、瓶・甕類破片

第2節 検出された遺構と遺物



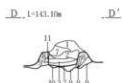
時沢3号住居 SPA-A' B-B'

- 1.黒褐色土(10YR2/3) As-C 2mm 以下の粒を含む。
- 2.にふい黄褐色土(10YR4/3) As-C 2mm 以下も粒を含む。
- 3.黒褐色土 As-C を混じる。IV層土主体、夾雑物少ない。
- 4.暗褐色土(10YR3/4) VI層土を多量に含む。
- 5.黒褐色土(10YR3/3) As-C を含まない。V層土に近い。
- 6.にふい黄褐色土(10YR5/4) VI層土に近い。
- 7.黒褐色土 灰白色土灰層を顕著に堆積する。
- 8.明黄褐色土(10YR7/6) VII層土境。
- 9.黒褐色土(10YR2/2)粘質。黄褐色土(VII層)塊を含む。



時沢3号住居 1号ピット SPE-E'

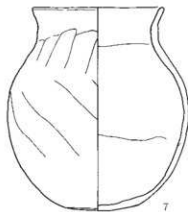
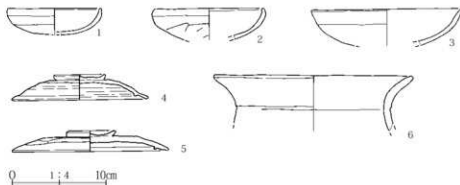
- 1.黒褐色土(10YR2/2) 粘質。As-Cを含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色土(10YR5/6) を塊状に含む。
- 3.暗褐色土 黄褐色土塊を多量に含む。(貼床土)



時沢3号住居 竈 SPC-C' D-D'

- 1.黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を多く含む。As-C、従土塊を少量含む。
- 2.褐色土(10YR4/4)ロームを主体とし、黒褐色土塊を少量含む。(崩壊した天井)
- 3.黒褐色土(7.5Y2/2)塊土塊を多く含む。ローム塊をわずかに含む。軟質。
- 4.黒褐色土(10YR3/1)灰層ローム塊をわずかに含む。
- 5.黒褐色土(10YR3/2)粘質。従土粒を含む。
- 6.黒褐色土(10YR3/2)粘質。従土粒は目立たない。黄褐色土を含む。
- 7.にふい黄褐色土(10YR4/3)粘土質。
- 8.にふい黄褐色土(10YR5/4)黄褐色土(10YR7/8)が塊状に混在。粘土質。竈構築材。
- 9.暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒を含む。
- 10.黒褐色土(10YR2/3)塊土粒。炭化物粒を含む。
- 11.褐色土(10YR4/4)塊土粒が多量に混在する。
- 12.黒褐色土(10YR3/2)粘質。均質土。

0 1:60 2m



第116図 時沢西組屋谷戸遺跡3号住居床面・掘り方面と出土遺物図

1点、閃緑岩製の敲石1点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀末～8世紀初頭の住居と考えられる。

時沢西組屋谷戸遺跡4号住居

(第117～119図 Pl.45・46・110 遺物観察表P.337・353・355)

グリッド 43区R・S13・14

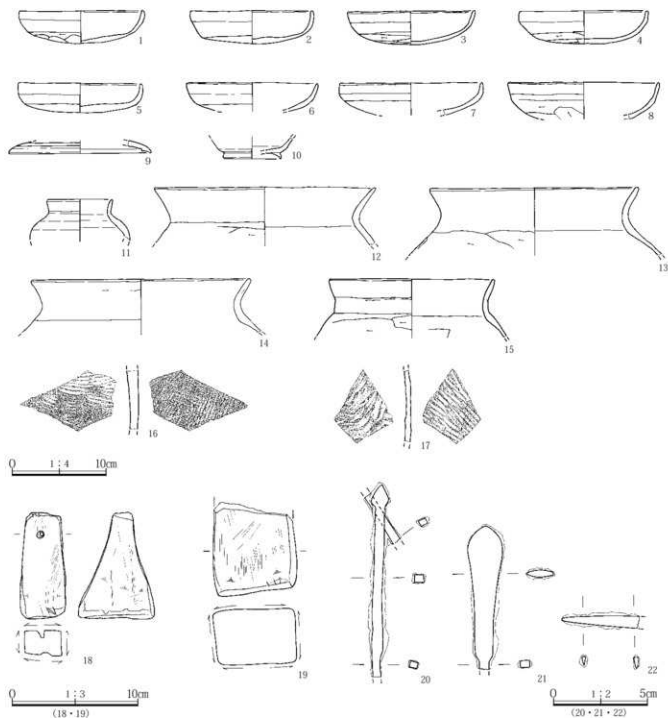
形状 長方形

重複 5号住居・2号竪穴状遺構より新しい。

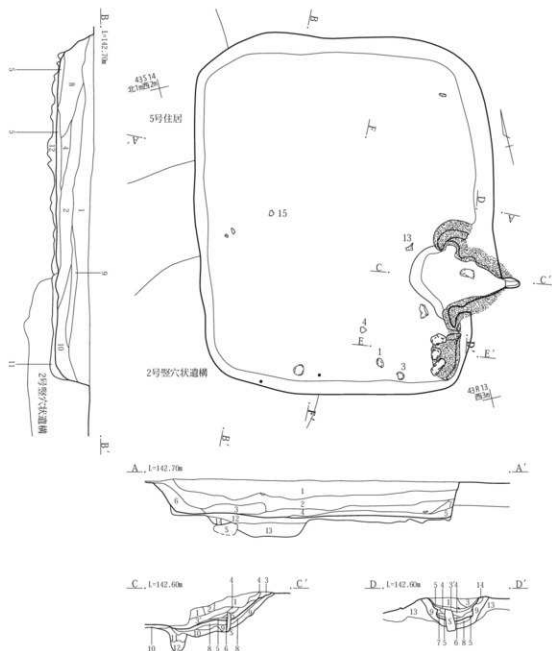
規模 長軸5.7m 短軸4.77m 残存壁高0.59m

面積 21.13㎡ **長軸方位** N-17°-E

埋没土 上層はやや砂質で直径5mm大のHr-F A軽石やAs-Cを含む黒褐色土で、下層はやや砂質で褐色土粒、As-C、Hr-F Aを含む黒褐色土、焼土炭化物、As-Cを混じる黒褐色土で、最下層は褐色粘土粒の混入が目立ち、As-Cを含む黒褐色土で埋まっていた。



第117図 時沢西組屋谷戸遺跡4号住居出土遺物図



時沢4号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-Cを含む。Hr-FA軽石5mm大を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。Hr-FA軽石5cm大を含む。褐色土粘上粒、焼土粒を含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。褐色土粘上(竈材と同じ)塊を含む。焼土を含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-Cを含む。褐色土。焼土の混入少ない。
5. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土粘上粒の混入目立つ。As-Cを含む。
6. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cは目立たない。V層上主体。やや粘質。黄褐色土(V層)塊を含む。
7. 黒褐色土(10YR2/2)4層と5層の中間層。4層に近い。
8. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。褐色土粒を含む。As-C, Hr-FA軽石を含む。
9. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-C混黒褐色土(IV層)塊を混入する。
10. 黒褐色土(10YR2/2)IV層土塊なし。やや砂質。焼土炭化物を含む。As-Cを混入する。
11. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。炭化物。焼土粒が10層よりも多い。
12. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。硬い床面の土。黄褐色土塊を含む。
13. 黒褐色土塊と黄褐色土塊が平々で混在。焼土粒を含む。
14. 黄褐色土粘上塊主体。黒褐色土を混入する。

時沢4号住居 竈 SPC-C' D-D'

1. 褐色土粘上(10YR4/4)均質。焼土粒2cm大以下を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-C, 褐色土粒を含む。軟質。焼土粒を含む。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1)焼土粒、黄褐色土粒を含む。軟質。
- 3', 3'層と同じ。
4. 褐色土(10YR4/4)焼土粒を多量に含む。黒褐色土をわずかに混入する。
5. 焼土塊 青灰色灰を混入する。(崩落確実)
6. 灰黄褐色土(10YR4/2)焼土粒を含む。軟質。
7. 暗青灰色灰層火床面の灰と同じ。
8. 褐色土(5YR5/1)灰層薄い編状の重なりが見られる。
9. 濃い黄褐色土(10YR4/3)蘆葦炭材。均質。粘質。
10. 黒褐色土(10YR2/3)暗褐色土塊が混在。焼土粒を含む。
11. 黒褐色土(10YR2/1)暗褐色土粒、焼土。暗青灰色灰を含む。
12. 暗褐色土粘上塊。焼土を含む。軟質。
13. 暗褐色土(10YR3/4)均質。粘質。VI層土。
14. 黒褐色土 やや粘質。

第118図 時沢西組屋谷戸遺跡4号住居床面図

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長1.22m、焚口幅0.80m。袖の残存長は向かって右側が0.31m、左側が0.56m。壁外に0.60m煙道が伸びる。竈前は0.07mほど凹み灰が広がっていた。燃焼部の中央やや左寄りに棒状円礫が支脚として立てられていた。竈前の床面上14cmで土師器裏(第117図13)が出土した。

竈右袖から住居南東隅にかけて粘土塊と円礫3個が床面直上に残されていた。竈の構築材として使用されたものがそのまま置かれた可能性がある。粘土塊の下は何重もの貼床で、下位に床下土坑が検出されている。

竈の掘り方面の全体に粘土を貼って(第118図9層)竈を構築していた。

柱穴 床面・掘り方面ともに主柱穴と考えられるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は床下土坑に影響されて凹凸が顕著であった。

掘り方 掘り方面で5基の床下土坑を検出した。1号床下土坑は竈前で検出された。直径1.41m、深さ0.73mの円形。断面形はU字形である。南縁で土師器杯(第117図5)が出土した。2号床下土坑は南壁沿いで検出された。長径1.15m、短径0.97m以上、深さ0.31mの楕円形。断面形は箱状で、底面は平坦である。3号床下土坑は中央部で検出された。長径1.72m以上、短径1.65m、深さ0.24mの不整形楕円形。断面形は皿状で、底面には凹凸があった。4号床下土坑は住居中央やや北東側で検出された。長径1.50m、短径1.29m、深さ0.35mの楕円形。断面形は深い皿状で、底面には凹凸があった。土坑内からは土師器杯破片が出土している。これらの2号～4号床下土坑は重複しており、土層の観察からは3号が古く、2号・4号が新しいことがわかった。5号床下土坑は南東隅で検出された。長軸0.56m、短軸0.40m、深さ0.36mの隅丸長方形。断面形は箱形である。

2号～4号床下土坑は粘土探掘坑であろう。他の住居

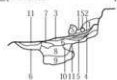
時沢4号住居 1号床下土坑 SPE-F

1. 黄褐色土(10YR5/8)粘土。均質。
2. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。
3. 明黄褐色土(10YR7/8)粘土。Ⅶ層土。均質。
4. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。
5. 黄褐色土主体。黒褐色土を混じる。
6. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混土(IV層)塊主体。
7. 褐色土(10YR4/6)均質。粘質。Ⅵ層土主体。
8. にぶい赤褐色土(5YR4/3)7層に焼土粒を多量に含む。
9. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混土(IV層)主体。黄褐色土粒を含む。
10. 明黄褐色土粘土。Ⅶ層土塊主体。
11. 黒褐色土 焼土粒、青灰色灰が主体。

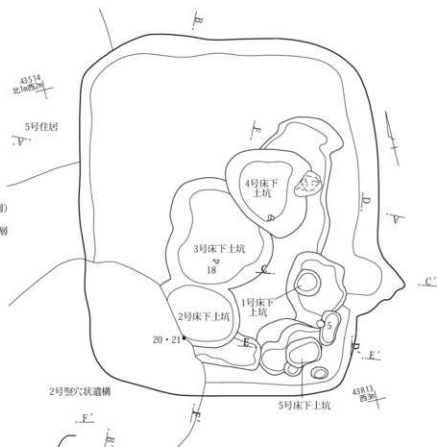
時沢4号住居 2～4号床下土坑 SPF-F

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。黄褐色土(Ⅶ層)粒を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。黄褐色土は1層よりも少ない。
3. 黒褐色土(10YR2/3)焼土を多量に含む。

E, I-142.00m



E, I-142.70m



第119図 時沢西組屋谷戸遺跡4号住居掘り方面図

の床下土坑と特徴が共通し、深さは黄褐色土(VII層)下位の灰白色粘土層まで掘り抜いているのが特徴である。焼土を多量に含む土砂で一括埋没している例が多い。5号土坑は床面で検出された粘土塊の西縁の下位に検出された(PL.46-5)。土坑の位置からすれば貯蔵穴の可能性もあるが、床面調査段階で検出することはできなかった。

遺物と出土状況 遺物は竈周辺に集中して出土した。土師器杯(第117図1・3・5)はそれぞれ南壁沿い床面直上、床面上13cmで出土した。土師器甕(13)は竈前床面上14cm、15は西部床面上10cmで出土した。北東隅床面直上でひん岩製の蔽石が出土した。また、埋没土中からホルンフェルス製削器1点、砥石の砥石(19)、土師器杯(2・6・7・8)、須恵器杯(10)、蓋(9)、土師器甕(12・14)、須恵器壺(11)、須恵器甕(16・17)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片327点、高杯・盤類破片19点、壺・甕類破片1050点、須恵器杯・甕類破片31点、瓶・甕類破片13点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀中葉の住居と考えられる。

時沢西組屋谷戸遺跡5号住居

(第120・121図 PL.46・109 遺物観察表P.338)

グリッド 43区S1

形状 西壁、南東隅が壊されているが長方形と推定される。

重複 4号・10号住居より古い。

規模 長軸4.15m 短軸2.5m以上 残存壁高0.54m

面積 計測不能 **長軸方位** N-10°-W

埋没土 上層はやや砂質As-Cを含む黒褐色土で、下層はAs-Cと多量の褐色粘土塊を多量に含む黒褐色土や、As-C混土(IV層)塊、褐色土黒褐色土を含む黒褐色土で埋まっていた。

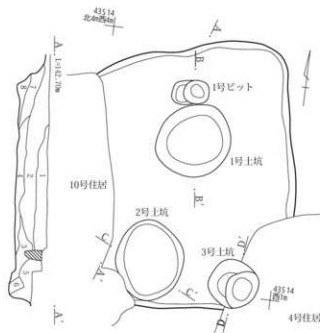
竈 竈は調査できた範囲では検出されなかった。位置から考えると4号住居に切られた可能性が高いが、周辺の床面で焼土・灰は検出されなかった。

柱穴 主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は平坦である。固い床面や粘床は確認できな



時沢5号住居 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。褐色土塊を含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。褐色粘土塊の混入目立つ。
4. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。褐色粘土塊を多量に含む。粘質。
5. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。黄褐色土粒を含む。やや砂質。
6. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cをわずかに含む。粘質。均質。V層土主体。
7. 黒褐色土(10YR2/2)黒褐色土、As-C混土(IV層)塊、褐色土粘土粒を含む。
8. 黒褐色土(10YR2/2)黒褐色土、As-C混土(IV層)塊、褐色土を7層よりも多く含む。

B, 1-142.20m B'

時沢5号住居 1号ピット・1号土坑 SPB-B'

1. 黒褐色土(10YR3/2)粘質。硬くしまっている。均質。褐色土を斑状に含む。As-Cを少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2)粘質。硬くしまっている。均質。1層よりも褐色土の混入がやや少ない。
3. 黄褐色土 粘質。均質。VII層土塊主体。
4. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。やや砂質。

C, 1-142.20m C'

時沢5号住居 2号土坑 SPC-C'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを少量含む。粘質。褐色土を斑状に含む。
2. 褐色土 VII層土粘土塊主体。

D, 1-142.20m D'

時沢5号住居 3号土坑 SPD-D'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混土(IV層)が主体。やや砂質。
2. 暗褐色土(10YR3/3)粘質。焼土塊を含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3)褐色土(IV層)塊を含む。粘質。

0 1:60 2m

第120図 時沢西組屋谷戸遺跡5号住居囲り方面図

かった。床面で3基の土坑と1基のピットを検出した。いずれも埋没土上から掘り込まれたものでないが、明確な貼床等の確認ができなかったため床下の施設かどうかを確定できなかった。

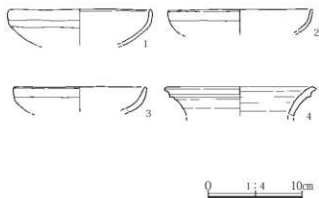
1号土坑は中央部やや北側で検出された。長径1.22m、短径1.12m、深さ0.30mのほぼ円形。断面形はU字形で、底面は平坦である。2号土坑は南西隅で検出された。長径1.30m、短径1.10m、深さ0.28mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦である。3号土坑は南東部で検出された。長径0.78m、短径0.74m、深さ0.35mの隅丸方形。断面形は箱形で、底面は東側が一段下がる。1号ピットは住居北部1号土坑の北縁に検出された。長軸0.36m、短軸0.38m、深さ0.32mの隅丸方形。断面形はV字形である。

掘り方 掘り方の調査は割愛した。

遺物と出土状況 遺物はほとんど出土しなかった。埋没土中から粗粒輝石安山岩製の打製石斧(第230図31)、土師器杯(第121図1・2・3)、須恵器壺(4)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片13点、壺・甕類破片76点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀前半の住居と考えられる。



第121図 時沢西組屋谷戸遺跡5号住居出土遺物図

時沢西組屋谷戸遺跡7号住居

(第122・123図 PL.47・48・110・111 遺物観察表P.338)

グリッド 43区T17・18グリッド

形状 北東隅が1号竪穴状遺構に壊されているが、西壁が短い不整形である。

重複 1号竪穴状遺構より古い。

規模 長軸3.2m 短軸3.07m 残存壁高0.61m

面積 7.27㎡ **長軸方位** N-0°-E

埋没土 上層はやや砂質でAs-Cを含む黒褐色土で、下層はしまり無くやや砂質で、明黄褐色土を斑状に含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 住居南東隅に竈が構築されていた。確認長0.85m、焚口幅0.65m。袖の残存長は向かって右側が0.60m、左側が0.40m。壁外に0.87m煙道が伸びる。竈の主軸はN-70°-Wで住居短軸方位とはずれている。左袖は粘土でつくられていたが基部と崩落部が残存していたのみである。右袖は近接する南壁沿いに粘土や礫を貼って構築していた。煙道は幅広のトンネルが東に延びていた。東端部は6号・18号ピット3号土坑に壊されており本来の大きさは明確ではない。燃焼部内には大小の礫が散在していたが、構築材が崩落したものであろう。燃焼部内から須恵器杯(第123図14)、須恵器羽釜(18)が使用面からそれぞれ13cm、6cm浮いた状態で出土した。

竈前の床面には灰が広がっていた。須恵器椀(6)が床面上8cm、須恵器甕(20)が床面上6cmで出土した。

柱穴 床面・掘り方面ともに主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

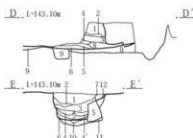
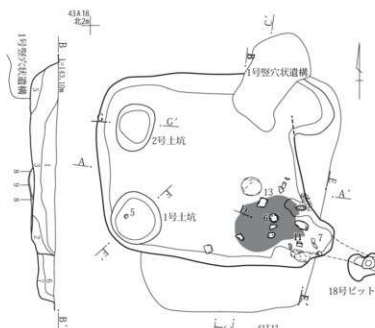
周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

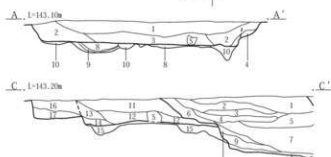
床面 床面は床下の掘り込みに影響されて、やや凹凸があった。床面で土坑2基が検出された。1号土坑は南西隅で検出された。長径0.83m、短径0.78m、深さ0.23mの楕円形。断面形はボール状で、底面は平坦である。2号土坑は北西隅で検出された。長径0.76m、短径0.58m、深さ0.19mの楕円形。断面形はボール状で、底面は平坦である。土坑の性格は不明である。

掘り方 掘り方面で1基の床下土坑と6基のピットを検出した。3号土坑東脇の小ピットは番号を付した調査は実施しなかった。3号床下土坑は住居南西部、1号土坑の北東脇で検出された。長径0.68m、短径0.59m、深さ

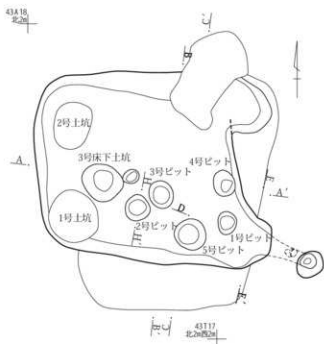
第2節 検出された遺構と遺物



- 時沢7号住居 竈 SP-D'-E-E'
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C, 褐色(10YR4/2)土粒を含む。
 2. 黒褐色土(10YR3/2)灰白色土粘質土を含む。
 3. 黒褐色土(10YR3/2)褐色土粘質土(10YR3/4)を含む。
 4. 黒褐色土 2層と同じ。
 5. 黒褐色土 灰白色土灰の塊を含む。
 6. 赤褐色土(5YR4/8)焼土層。最上位の灰床面の可能性あり。
 7. 黒褐色土(10YR3/2)焼土を含む。
 8. 暗赤褐色土(5YR3/2)軟質。焼土細粒を含む。
 9. 黒褐色土(7.5YR2/2)軟質。均質。黒色土灰、焼土粒を含む。
 10. 暗灰色土(10YR4/1)灰を幅状に多量に含む。
 11. 9層と同じ3cm大の焼土塊を含む。
 12. 黒褐色土(10YR2/3) As-C、焼土を含む。



- 時沢7号住居 SPA-A'-B-B'
1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
 2. 黒褐色土(10YR3/2)やや砂質。As-Cを含む。
 3. 黒褐色土(10YR2/3)しまり無くやや砂質。明黄褐色土を斑状に含む。
 4. にぶい黄褐色土(10YR5/4)VI層土均質。
 5. 黒褐色土(10YR2/3)黒褐色土、As-C混土(IV層)塊を含む。
 6. にぶい黄褐色土 VI層土を主体。斑状。黒褐色土と混じる。
 7. 2層と同質。
 8. 黒褐色土(10YR4/4)軟質。(VI層)土が主体。黒褐色土、灰白色土塊を含む。
 9. 灰白色土(10YR8/1)粘土が帯状、弧状に堆積する。
 10. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混(IV層)土塊と(VI層)土が混在。



- 時沢7号住居 1号土坑 SP-F'
1. 黒褐色土(7.5YR3/2) As-Cを含む。
 2. 褐色土(7.5YR4/3)(VI層)土を含む。1層よりも明るい。



- 時沢7号住居 2号土坑 SPC-G'
1. 黒褐色土(7.5YR3/2) As-Cを含む。焼土粒をわずかに含む。



- 時沢7号住居 2号ピット SPH-B'
1. にぶい黄褐色土(10YR5/4)黒褐色土塊・灰白色土塊を含む。
 2. 灰白色土(10YR8/1)粘土。均質。



第122図 時沢西館屋谷戸遺跡7号住居床面・掘り方面図

0.15mの楕円形。断面形はボール状で、底面に灰白色粘土が敷かれていた。1号ピットは竈前で検出された。長径0.37m、短径0.30m、深さ0.18mの楕円形。断面形は箱形で、黒色土灰、焼土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。2号ピットは南壁中央やや内部で検出された。長径0.42m、短径0.40m、深さ0.15mの楕円形で、断面形は皿状。底面に灰白色粘土が貼られていた。3号ピットは2号ピットの北東脇で検出された。長径0.46m、短径0.38m、深さ0.04mの楕円形で、断面形は皿状。底面に灰白色粘土が貼られていた。4号ピットは東壁際で検出された。長径0.42m、短径0.34m、深さ0.24mの楕円形。断面形はV字形である。5号ピットは南東隅で検出された。長径0.52m、短径0.48m、深さ0.19mの楕円形。断面形は皿状で、底面は平坦である。

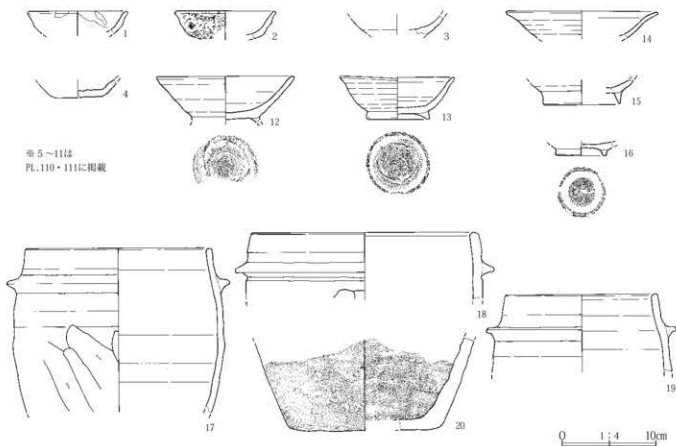
灰白色粘土が底面に貼られていたのは床下で検出された3号土坑、2号ピット、3号ピットである。その意図については調査では明らかにできなかった。

遺物と出土状況 床面近くの遺物は前述したように竈周辺に集中して検出された。須恵器椀(第123図12)は南西

隅1号土坑底面上20cm、13は竈前床面上8cmで、須恵器甕(20)は床面上6cmで出土した。また、埋没土中から須恵器杯(第123図1~4)、須恵器椀(15・16)、羽釜(17・19)が出土した。1~4は内外面に溶融した金属が接触したと推定される酸化物の付着があり、一部に発泡・淨化した部分もあった。埋没土中からは図化した4点に加えて7点の破片が出土している。成分分析は実施していないが、肉眼観察からは銅と推定され、銅製品の製造に際して取銅として転用されたものと推定される。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片8点、壺・甕類破片121点、須恵器杯・椀類破片21点、瓶・甕類破片7点、灰釉陶器椀破片1点が出土した。

所見 出土遺物から10世紀中葉~後葉の住居と考えられる。東壁北半と南壁の外側に一段高い長方形と推定される掘り込みが検出されたが、これは古い遺構が重複しているものと考えられる。竈等の施設や遺物出土もなかったことから、遺構とはしなかった。



第123図 時沢西組屋谷戸遺跡7号住居出土遺物図

時沢西組屋谷戸遺跡 8号住居

(第124～126図 PL.48・49・111 遺物観察表P.338)

グリッド 43区T18・19、44区A18・19

形状 北壁は調査区外、西壁は掘乱で確認できなかったが方形と推定される。

重複 調査できた範囲では無い。

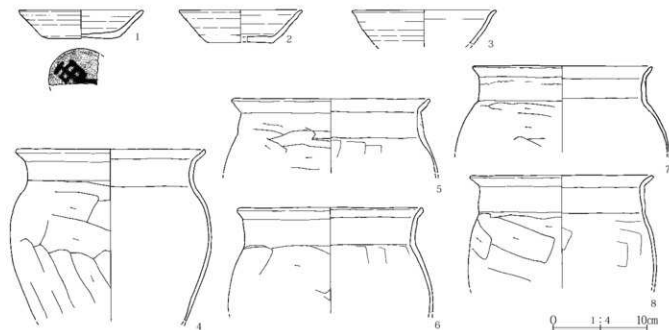
規模 長径5.09m以上 短径3.13m以上 残存壁高0.25m

面積 計測不能 長軸方位 N-12°-W

埋没土 上層はやや砂質でAs-Cを含む灰黄褐色土で、下層はやや砂質で黄褐色土粒、焼土粒を多量に含むにぶい黄橙色土で埋まっていた。

竈 住居東壁に竈が構築されていた。東壁全体での位置は北半部が調査区外であるため不明である。確認長0.85m、焚口幅0.87m。袖は左右共にほとんど残存していなかった。壁外に0.64m燃焼部および煙道が伸びる。竈は礫を芯にして掘り方壁面全体に粘土を貼り構築されており、粘土内面は焼けて焼土化していた。竈前の床面には灰と焼土粒が広がっていた。焚口や竈前に散乱した角礫は竈構築材の崩落と推定される。

燃焼部使用面直上で土師器甕(第124図5)が、使用面上6cmで須恵器碗(3)が、24cmで土師器甕(4)が出土した。煙道部からは土師器甕(6・8)の口縁部から胴部上半が埋め込まれたように底面直上で出土した。



第124図 時沢西組屋谷戸遺跡 8号住居出土遺物図

柱穴 床面では主柱穴は検出できなかった。深さやその位置から主柱穴の可能性のある1号ピット、2号土坑が掘り方で検出されたが、これらは貼床上から掘り込まれていた。また図化はできなかったが3号ピットの東側にも2基のピットが検出されている。第125図では床面図に主柱穴の可能性が高い1号ピットを加筆した。

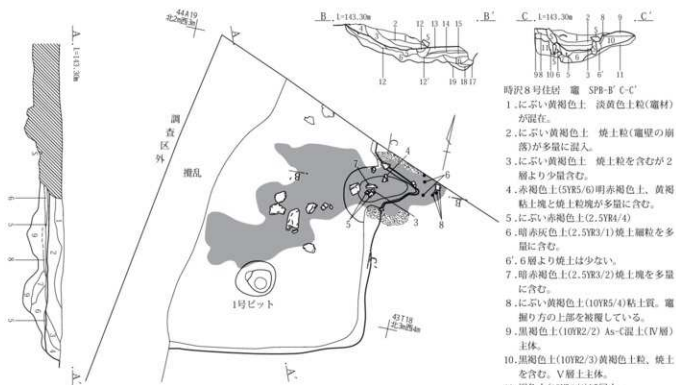
それぞれの規模(長径×短径×深さ)は、1号ピットが0.65×0.58×0.91m、2号土坑が0.67×0.45×0.65mである。1号ピットと2号土坑は近接した位置にあることから柱穴の掘り替えの可能性もあるが、住居の全体が判明していないので、確定はできなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

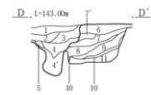
床面 床面は床下の土坑に影響されてやや凹凸がみられた。灰層と粘土が混じった著しく固い薄い層が幾層も縞状に重なっていた。大型の1号土坑、3号土坑はこの貼床下位で検出された。

掘り方 掘り方で2基の床下土坑と1基のピットを検出した。いずれの土坑も住居南東部の竈近くで並んで検出された。1号床下土坑は長径1.09m、短径0.94m、深さ0.52mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦である。灰褐色土粒を含む黒褐色土・暗褐色土の互層で埋まっており、上位には灰と焼土粒を多量に混じた灰褐色土の固い薄層が縞状に堆積し貼床を形成していた。



時沢8号住居 SPA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3)やや砂質。黄褐色土粒、焼土粒を多量に含む。
3. 1層と同様。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土粒を含む。
5. 褐色土中に厚さ15cmの焼土と黄褐色土の混じった硬い層(貼床)を挟む。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2)やや砂質。黄褐色土粒を含む。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2)やや砂質。黄褐色土粒を6層よりも多く含む。
8. 5層と同様の貼床。
9. 黒褐色土。やや粘質。黄褐色土塊を含む。貼床下へ続く。
10. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒、焼土を含む。V層上主体。
11. 褐色土(10YR4/4)VI層上。
12. 黒色土 炭化物、焼土粒主体。
13. 12層に暗褐色土含む。
14. 黒色土 炭化物粒が主体。硬い互層となる貼床。
15. 14層と同質。敷質。床面ではない。
16. 15層よりも多量に褐色土塊を混じる。
17. 褐色土 VI層上主体。
18. 黒褐色土(10YR2/2)
19. 黄褐色土 V層上主体。



時沢8号住居 1号床下土坑 SPD-B'

1. 暗褐色土(10YR3/3)明黄褐色土(VI層)塊を含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。
3. 1層にはほぼ同じ。
4. 黒褐色土(10YR2/2)焼土粒、黄褐色土粒を含む。
- 4'. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。
5. 4層に黄褐色土塊を多量に含む。
6. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土の厚さ3mm程の薄層又は2cm厚さの塊を扁状、帯状に挟む。
7. 黒褐色土(10YR2/2)焼土は少ない。
8. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土を含む。やや粘質。
9. 暗褐色土(10YR3/3)8層よりも黄褐色土粒を多量に含む。
10. 暗褐色土(10YR3/3)黒色土灰薄層。焼土粒を含む。
11. 9層とはほぼ同じ。



時沢8号住居 3号床下土坑 SPE-E'

1. 黄褐色土(10YR5/6)粘土質。貼床上。硬くしまっている。
2. 暗褐色土(10YR3/4)黄褐色土塊(VI層)を含む。貼床上で硬くしまっている。
3. 暗褐色土(10YR3/4) AS-C混黒褐色土(IV層)を斑状に混入。
4. 暗褐色土(10YR3/4)3層よりも黄褐色土粒、塊を多く含む。
5. 黒褐色土(10YR2/2) AS-C混黒褐色土(IV層)塊主体。暗褐色土を混じる。
6. 暗褐色土 3層と同じ。
7. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒、塊を多量に含む。

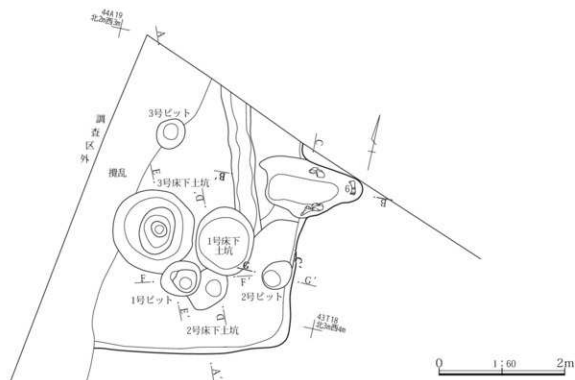


時沢8号住居 2号ピット SPG-G'

1. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土(VI層)を斑状に含む。
2. 褐色土(10YR3/4)VI層土を多量に含む。



第125図 時沢西組屋谷戸遺跡8号住居床面図



第126図 時沢西紺屋谷戸遺跡8号住居掘り方面図

3号床下土坑は長径1.30m、短径1.28m、深さ0.84mのほぼ円形で、断面形はロート状で、底面はピット状である。3号床下土坑も灰褐色土粒を含む黒褐色土・暗褐色土の互層で埋まっており、上位には黄褐色土塊を混じた暗褐色土の固い粘床が形成されていた。隣接する1号ピットは粘床を切って掘られていた。

3号ピットは竈西部で検出された。長径0.52m、短径0.47m、深さ0.29mのほぼ円形である。

遺物と出土状況 遺物は竈周辺で出土した。また、埋没土中から須恵器杯(第124図1・2)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片21点、壺・甕類破片3点、須恵器杯・椀類破片17点、瓶・甕類破片145点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀前半の住居と考えられる。床下的大型土坑はⅦ層の黄白色ローム層まで達しており、竈構築に使用した粘土を採取した土坑と考えられる。

時沢西紺屋谷戸遺跡9号住居 (第127～130図 PL.49～51・112・113 遺物観察表P.338～340・355)

グリッド 43区S・T・A12・13、44区A12・13

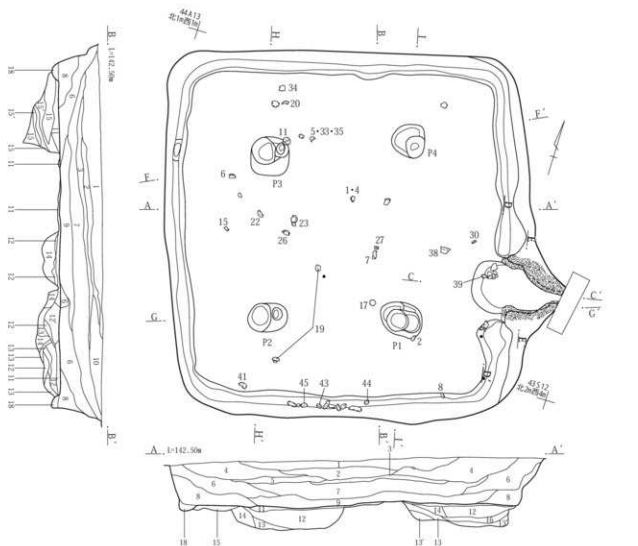
形状 正方形 **重複** なし

規模 長軸5.87m 短軸5.83m 残存壁高0.79m

面積 24.30㎡ **長軸方位** N-20°-W

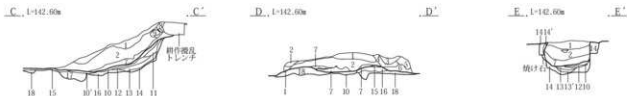
埋没土 上層はAs-C、直径3cm大のHr-F A軽石、直径2cm大以下の黄褐色土塊を混入する黒褐色土、As-C、焼土、炭化物粒を含み、黒色土灰層を挟む黒褐色土で、下層はやや粘質でAs-C、黄褐色土小粒を多量に含み、黒褐色土と黄褐色土の著しい混在が帯状に重なる暗褐色土、黒褐色土の帯状塊、焼土粒、黄褐色土塊等を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。中位に、にぶい赤褐色土、厚さ4cmの灰層が重なり、直径5cm大のにぶい黄褐色土塊の一部焼土化した土層等を主体とする層が挟在していた。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長1.00m、焚口幅0.77m。袖の残存長は向かって右側が0.20m、左側が0.24mで残存状況は不良であった。壁外に0.50mほど煙道が伸びるが、東端は掘乱れによって壊されていた。竈は掘り方内面に粘土を貼って構築されていた。竈埋没土には焼土、灰の堆積量が多く、長期間竈



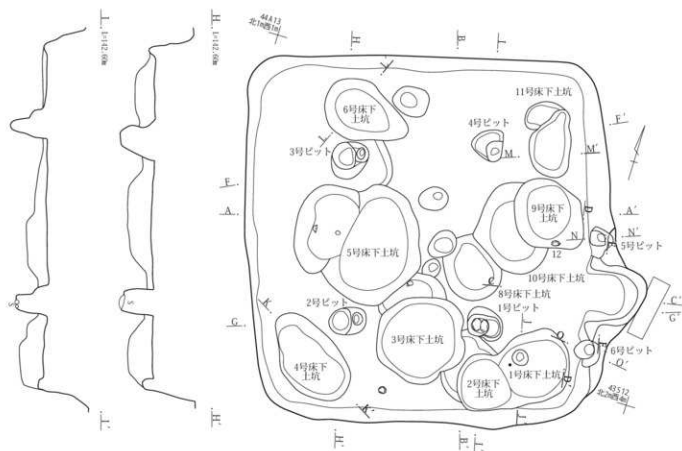
時沢9号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。Hr-FA軽石3cm大を含む。黄褐色土塊2cm大以下の混入目立つ。
2. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。焼土、炭化物粒を含み、黒色土灰層を挟む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)にぶい赤褐色土(5YR4/4)の灰層厚さ4cmの下部に、黒色土灰層が重なる。また、ぶい黄褐色土(VI層)塊5cm大で一部焼土化した上層等を主体とする層。
4. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。
5. 黒褐色土 2層と同様。
6. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや粘質。
7. 暗褐色土(10YR3/3)やや粘質。As-Cを含む。黄褐色土小粒を多量に含む。黒褐色土と黄褐色土の著しい混在が帯状に重なる。
8. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。黒褐色土(N層)を斑状に含む。
9. ぶい黄褐色土(10YR4/3)黒褐色土(10YR3/2)の帯状塊、焼土粒、黄褐色土(VI層)塊等を多量に含む。
10. 1層とほぼ同じ。
11. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土塊を多量に含む。硬く踏み固まった床面。
12. 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土粒、灰白色土粒、焼土粒2cm大以下を大量に混在する。一括埋没。
- 12'. 12層より焼土が少ない。
13. 灰白色粘土塊主体。褐色土塊と混在。
- 13'. 13層と14層の中間層。
14. 黒褐色土粒、黄褐色土粒が混在。粘質。
15. 黄褐色土塊と黒褐色土が混在。
- 15'. 黄褐色土塊主体。
16. 焼土粒2cm以下が主体。黄褐色土と混在。
17. 13'層と同じ。
18. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土を含む。(壁周溝埋没土)



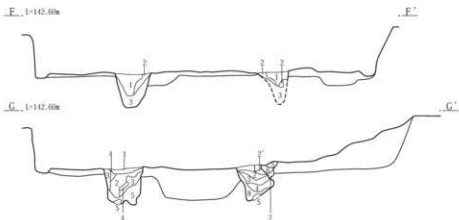
0 1:60 2m

第127図 時沢西組屋谷戸遺跡9号住居床面図



時沢9号住居 竈 SPC-C' D-D' E-E'

1. にぶい・黄褐色土(10YR5/3)粘土質,黒褐色土, As-C混土を帯状に含む。
2. にぶい・黄褐色土(10YR5/3)粘土質,均質,焼土塊が点在する。
3. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混土(IV層)塊を含む。やや砂質。
4. 灰白色土(10YR8/2)粘土質,均質。
5. にぶい・黄褐色土(10YR5/4)粘土質,均質。
6. 黒褐色土 As-C混土と暗褐色土塊が混じる。
7. 赤褐色土(2.5YR5/8)塊主体,黄褐色土と混じる。暗青灰色灰も含む。
8. 黒褐色土 As-C混土(IV層)塊主体,黄褐色土塊,焼土粒を多量に含む。
9. 赤褐色土 焼土塊。
10. 暗青灰色灰主体,焼土が混在。灰床面。
11. 黒色土層。
12. 焼土主体,灰と褐色土が混在する。
13. にぶい・褐色土 均質,竈構築粘土の一部分が焼土化したもの。
14. 焼土塊主体,わずかに灰を含む。
15. 13層と14層が混じる。
16. 浅黄褐色土粘土(10YR8/4)竈掘り方向に貼っている。
17. 14層が焼土化した層。
18. 灰黄褐色土 竈内に踏み固められた床面。
19. にぶい・黄褐色土 焼土粒が混在する。
20. 黒色土 黒色灰を含む。黄褐色土塊を含む。焼土粒は少量含む。
21. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。



時沢9号住居 P 1 SPC-G'

1. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。
2. 灰白色粘土粒と黒褐色土が混じる。
3. 2層と同質,黒褐色土層を2層との間に挟む。
4. 灰白色粘土塊主体。
5. 灰白色粘土粒塊に黒褐色土が混じる。
6. 黒褐色土に黄褐色土塊5cm大を含む。
7. 黒褐色土に黄褐色土粒を含む。
8. 3号・4号ビットの3層と同じ。

時沢9号住居 P 2 SPC-G'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cは少量。
3. 灰白色土(10YR8/2)粘土粒主体,粘質。
4. 灰白色土 粘土粒主体,黒褐色土を混じる。
5. 3号・4号ビットの3層と同じ。

時沢9号住居 P 3 SPF-F'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。軟質。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む,IV層土塊主体。
3. 灰白色粘土粒と黒褐色土粒(10YR8/2),灰黄褐色土(10YR4/2)塊が混在する。

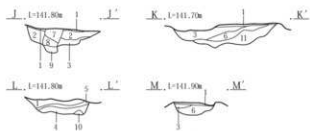
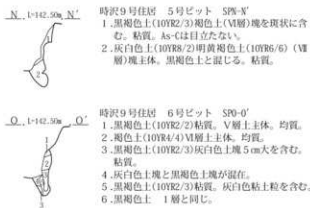
時沢9号住居 P 4 SPF-F'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。軟質。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む,IV層土。
3. 灰白色粘土粒と黒褐色土塊,灰黄褐色土(10YR4/2)塊が混在。粘土質。

0 1:60 2m

第128図 時沢西組屋谷戸遺跡9号住居掘り方面図

第5章 時沢西組屋谷戸遺跡の遺構と遺物



時沢9号住居 1号・4号・6号・11号床下土坑SP9-J'・K' L'-L' M'-M'

1. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土塊を多量に含む。硬く踏み固まった床面。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土粒、灰白色土粒、焼土粒2cm以下を大量に混在する。
3. 黒褐色土粒、黄褐色土粒が混在。粘質。
4. 黄褐色土塊と黒褐色土が混在。
5. 黄褐色土塊主体。
6. 焼土粒2cm以下が主体。黄褐色土と混在。
7. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土を含む。
8. 黒褐色土(10YR3/2)粘質。
9. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。As-Cを含む。
10. 灰黄褐色土。粘質。
11. 灰白色粘土塊。



第129図 時沢西組屋谷戸遺跡9号住居土層断面図

が使用されたことも推定される。竈前の床面には灰が広がっていた。燃焼部使用面直上で土師器杯(第130図13)、甕(39)が出土した。

掘り方面で両竈袖脇基部の下位に直径0.3m、深さ0.38～0.44mの5号ピット、6号ピットが検出された。礎等の出土はなかった。5号ピットの5層は柱痕の可能性もある。竈の構図にかかわるピットの可能性が高いが、詳細は不明である。

柱穴 床面で主柱穴と思われるP1・P2・P3・P4を検出した。それぞれの規模(長径×短径×深さ)は、P1が0.70×0.53×0.63m、P2が0.64×0.44×0.61m、P3が0.60×0.40×0.57m、P4が0.56×0.55×0.60mである。P1底面からは扁平な円礫2個が出土した。

周溝 周溝は全周する。幅は概ね0.23～0.32m、深さは5～16cmである。南壁西半周溝内からは棒状礫10個が並んで出土している。周溝底面からは9～14cm厚いしており、北側の床面と同じレベルで出土した。

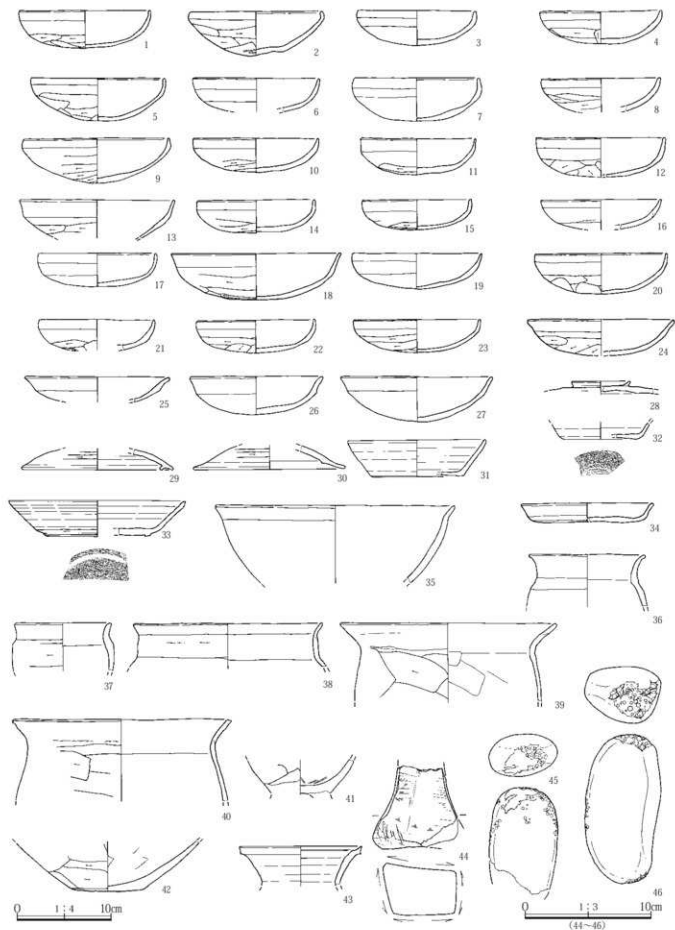
貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。掘り方面で検出された1号床下土坑は埋没土上面に貼床が確認されているので貯蔵穴ではない。

床面 床面は踏み固められており、硬化していた。平坦である。

掘り方 掘り方面で11基の床下土坑を検出した。埋没土には黄灰色粘土塊や焼土粒が多量に混在しており、掘り上げた土が混ぜられて再度段々に埋め戻されたと推定される。また、いずれの土坑も最上位は固く硬化した貼床

が形成されていた。

1号床下土坑は南東部で検出された。長径1.09m、短径1.07m、深さ0.30mの楕円形。断面形は浅いボール状で土師器破片が出土した。2号床下土坑は1号床下土坑の西に隣接して検出された。掘削順は不明。長径0.94m、短径0.80m、深さ0.31mの楕円形。断面形は浅いボール状。3号床下土坑は南壁際で検出された。直径1.43m、深さ0.36mの円形。断面形は浅いボール状。4号床下土坑は南西隅で検出された。長径1.60m、短径0.94m、深さ0.29mの楕円形。断面形は浅いボール状。5号床下土坑は住居中央やや西側で検出された。長径2.09m、短径1.90m、深さ0.40mの楕円形。断面形は浅いボール状。6号床下土坑は北西隅で検出された。長径1.40m、短径0.98m、深さ0.19mの楕円形。断面形は浅いボール状。(7号床下土坑は欠番)8号床下土坑は住居中央部で検出された。長径1.03m、短径0.80m、深さ0.18mの楕円形。断面形は浅いボール状。9号床下土坑は竈左前壁際で検出された。長径1.30m、短径1.05m、深さ0.36mの楕円形。断面形は浅いボール状。南縁底面上15cmで土師器杯(第130図12)が出土した。10号床下土坑は9号床下土坑の南西部に重複して検出された。土層断面の観察から9号床下土坑と同時に埋められたと推定される。長径1.47m、短径0.72m、深さ0.25mの楕円形。断面形は浅いボール状。11号床下土坑は北東部で検出された。長径1.10m、短径0.67m、深さ0.21mの不整楕円形。断面形は浅いボー



第130図 時沢西組屋谷戸遺跡9号住居出土遺物図

ル状。11号土坑の埋没土には焼土粒の混入が著しかった。

遺物と出土状況 遺物は住居全体に散在していたが、図示した出土遺物はほとんどが床面から27～51cm浮いており、埋没土3層に伴って投棄された遺物と推定される。完形および半完形の土師器杯・皿が多く、図示できただけでも26個体(第130図1～26)におよぶ。他に土師器甕(第130図36～42)が含まれていた。

床面直上で出土したのは、中央部で出土した須恵器蓋(第130図28)、土師器杯(7)、西壁際で出土した土師器杯(15)と、先述した竈燃焼面出土土師器杯(13)と南壁周溝内上層で出土した棒状礫群である。また、掘り方で土師器杯(12)が出土しており、これらが9号住居に伴う遺物といえる。

埋没土中からは、黒色頁岩製の打製石斧、黒色安山岩製の打製石斧、土師器杯および皿(第130図3・9・10・14・16・18・21・24・25・26)、土師器甕(37・38)、台付甕(41)、須恵器杯(32・33)、須恵器蓋(29・30)、須恵器壺(43)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片458点、壺・甕類破片1530点、須恵器杯・椀破片69点、瓶・甕類破片16点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀前半の住居と考えられる。

本住居の床下からは多くの土坑が検出されたこれらの土坑の埋没土最上位には硬い貼床が形成されていたことから、床面構築以前に掘られていたことは確実である。土坑の性格は掘削が灰白色粘土層まで及んでいることから、竈構築の際に使用する粘土の採掘坑が最も有力であるが、層位からは竈穴住居掘削以前にあった可能性も否定できない。しかし、掘り方面から出土した土師器杯(12)は床面から出土した遺物とほぼ同時期であることから、掘り方内の床下土坑も住居掘削と同時に掘られたと考えたい。

本住居の埋没土中には焼土粒や黄褐色土塊が多く含まれ、堆積単位も多く通常の自然堆積による埋没土の様相と大きく異なっている。北側に時期の近い10号住居が、接するような近さにあることから、10号住居を建設するためには、9号住居を人為的に埋めて整地することが必要だったと推定される。埋没土中位の焼土や土器は、その過程で投棄されたものと推定される。

時沢西組屋谷戸遺跡10号住居

(第131～134図 PL.51～53・113 遺物観察表P.340・353)

グリッド 43区S・T13・14

形状 正方形。北壁は古い風倒木痕と重複しており、黒色土が壁となっていた。

重複 5号住居より新しい。

規模 長軸5.96m 短軸5.94m 残存壁高0.63m

面積 27.45㎡ **長軸方位** N-9°-W

埋没土 上層はやや砂質As-Cを含む黒褐色土や、As-Cを含み、焼土粒、炭化物粒、暗灰色灰が中央部で帯状に堆積する黒褐色土で、下層は黄褐色粘土粒、焼土粒2cm大以下を多量に含む灰黄褐色土や、As-Cを含むやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。

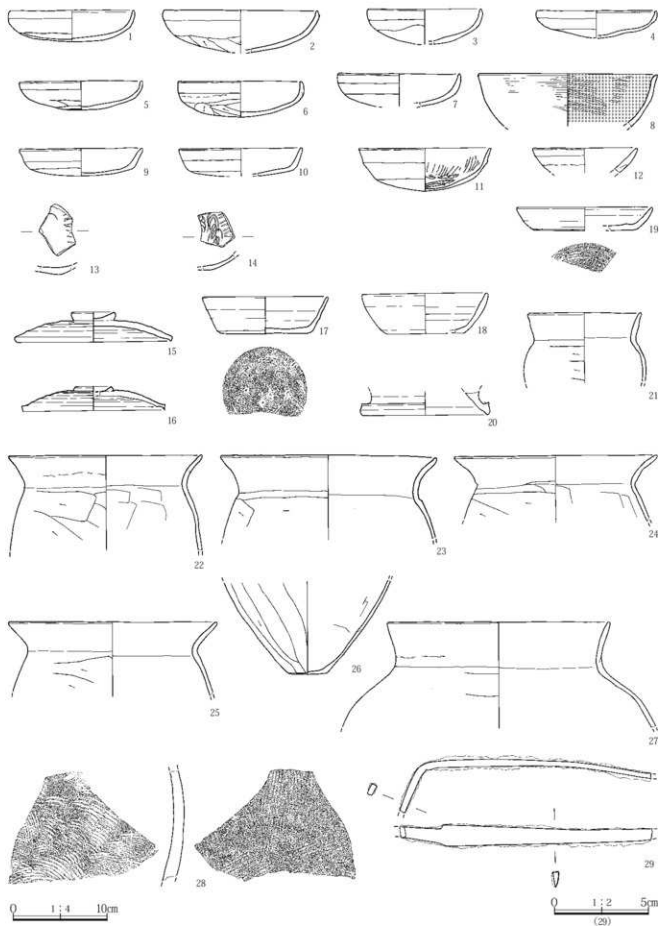
竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長1.00m、焚口幅0.80m。袖の残存長は向かって右側が0.47m、左側が1.10m。壁外に0.30m燃焼部は伸び、さらに煙道が0.17m確認できた。掘り方面に貼り巡らせた粘土が著しく焼土化していた。燃焼部火床面の灰も厚く堆積していたが、竈前の床面の灰の広がりはあまり顕著ではなかった。燃焼部奥に角礫3個が据えられていた。支脚とするには位置が奥に偏っており、その機能を調査で明らかにすることはできなかった。竈左袖上で須恵器杯破片(第131図17)が出土した。

柱穴 床面で主柱穴と思われるP1・P2・P3・P4を検出した。それぞれの規模(長径×短径×深さ)は、P1が0.68×0.64×0.62m、P2が0.84×0.73×0.56m、P3が0.76×0.75×0.56m、P4が0.65×0.55×0.32mである。P2の埋没土は水平に堆積しており、柱固め充填土の可能性もある。P4から出土した土師器甕破片が北側で出土した破片(第131図27)と接合した。

周溝 周溝は全周する。幅は概ね15～20cm、深さは7～14cmである。

貯蔵穴 床面では検出されなかったが、掘り方面で南東隅に長径0.76m、短径0.65m、深さ0.17mのほぼ円形の1号床下土坑を検出した。これが貯蔵穴の痕跡の可能性はある。

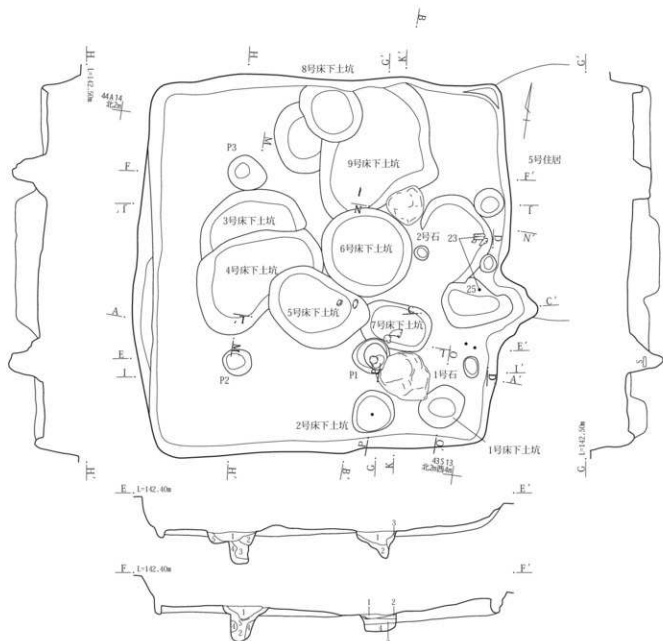
床面 床面は固い貼床が厚く広がっていたが、起伏は大きい。これは床下に大型の土坑が多数あることの影響と推定される。P1とP4の脇で検出された大型礫は、地山の黄褐色粘土中にあることから自然の礫で人為的に掘



第131図 時沢西紺屋谷戸遺跡10号住居出土遺物図



第132図 時沢西組屋谷戸遺跡10号住居床面図

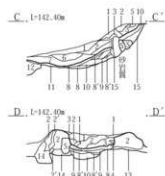


時沢10号住居 P 1 SPE-E'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや粘質。黄褐色土(7YR5/4)粒を含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4)粘質。(7YR5/4)粒が主体。
3. 灰白色粘土(7YR7/0)塊。黄褐色土塊混在。粘質。

時沢10号住居 P 2 SPE-E'

1. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。やや粘質。
2. 黄褐色土(10YR5/6) 4cm以下の土塊主体。
3. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土、灰白色粘土(7YR7/0)粒を多量に混じる。
4. 黄褐色土 灰白色土塊 4cm以下が主体。
5. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cをわずかに含む。粘質。



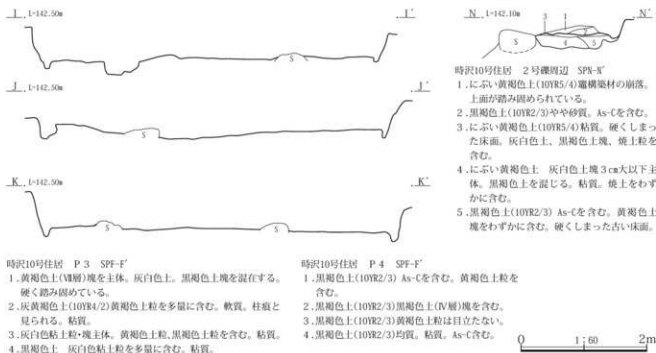
時沢10号住居 竈 SPC-C' D-D'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘質。黄褐色土粒、焼土粒を含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4)粘土。均質。竈材の崩落。
3. 焼土塊 3cm以下主体。にぶい黄褐色土が混じる。
下部部は青灰色灰層
4. 黒褐色土(10YR2/3)焼土粒の混入が多い。
5. 黒褐色土(10YR2/3) 4層と同じ。
6. 黒褐色土粒、にぶい黄褐色土粒、焼土粒のそれぞれ 2cm以下が混在する。
7. 2層と同質。
8. 暗青灰色灰層古い竈火床面。
- 8'. 8より焼土の混入が目立つ。
9. 焼土塊主体。暗青灰色灰を混じる。
10. にぶい黄褐色土に焼土粒、灰が混在する。
11. 黒褐色土粒、黄褐色土粒。灰が混じった硬い床面。
12. にぶい黄褐色土と黒褐色土粒、焼土が混在する。
13. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。炭化物を含む。
14. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(7YR5/4)粒を含む。
15. 黒褐色土 軟質。空隙がある。

0 1:60 2m

第133図 時沢西組屋戸遺跡10号住居囲り方面図

第5章 時沢西組屋谷戸遺跡の遺構と遺物



第134図 時沢西組屋谷戸遺跡10号住居土層断面図

えたものではない。

掘り方 掘り方で9基の床下土坑を検出した。いずれの床下土坑も黄褐色土塊、褐色土塊、黒色土塊の混土を重ねたように埋まっていた。円形または楕円形に掘り込んだ内部を人為的に埋めたものと判断された。

南東隅で検出された1号床下土坑は貯蔵穴の可能性がある。2号床下土坑も南東部で検出された。長径0.75m、短径0.65m、深さ0.22mの楕円形。断面形は浅い箱状で、底面は平坦である。3号床下土坑は西部で4号床下土坑と重複して検出された。3号床下土坑が先に埋まっていた。長径1.67m、短径0.70m以上、深さ0.31mの楕円形。断面形は皿形で、底面は平坦である。4号床下土坑は西部で3号床下土坑と重複して検出された。長径2.12m、短径1.33m、深さ0.35mの楕円形。断面形は皿形で、底面にはやや凹凸があった。5号床下土坑は中央部やや南側、4号床下土坑の東側に重複して検出された。長径1.66m、短径1.16m、深さ0.46mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦であった。6号床下土坑は中央部やや東側、5号床下土坑の北東部に接して検出された。長径1.47m、短径1.38m、深さ0.31mのほぼ円形。断面形は箱形で、底面は平坦であった。7号床下土坑は南東部、5号床下土坑の東側で検出された。長径0.98m以上、短径0.74m、深さ0.16mの楕円形。断面形は箱形で、底面

は平坦であった。底面上5cmで土師器裏破片が出土した。8号床下土坑は北壁沿いで検出された。長径1.05m以上、短径0.90m、深さ0.43mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦であった。9号床下土坑は北部で8号床下土坑と重複して検出された。長径2.45m、短径1.45m、深さ0.27mの大型不整形楕円形。断面形は皿状で、底面にはやや凹凸があった。底面上23cmで鉄製刀子(第131図29)が出土した。竈にも掘り方が検出されたが、底面上10cmで土師器裏(25)、竈北側掘り方底面上17cmで土師器裏(23)が出土した。

遺物と出土状況 多くの遺物が出土したが、床面近くの遺物は住居東半部に散在していた。土師器杯(第131図4)はP1の北縁床面直上で、杯(6)は南壁周溝底面上6cmで、土師器裏(27)はP4の周辺の床面直上で出土した破片が接合した。

埋没土中から土師器杯(第131図3・5・10~14)、黒色土師器椀(8)、須恵器杯(19)、須恵器蓋(15)、土師器小型裏(21)、土師器裏(24)、須恵器裏(28)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片272点、壺・甕類破片515点、須恵器杯・類破片41点、瓶・甕類破片6点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀中葉の住居と考えられる。

時沢西組屋谷戸遺跡11号住居

(第136図 PL.53・54 遺物観察表P.341)

グリッド 43区A 2

形状 南部が15号住居に壊されているが、長方形と推定される。

重複 15号住居・33号土坑より新しい。

規模 長径3.7m 短径2.74m 残存壁高0.38m

面積 計測不能 **長軸方位** N-61°-E

埋没土 上層はAs-C、Hr-F A軽石をやや多く含み、ローム塊を少量含む黒褐色土で、下層はローム塊を多く含み、As-C、Hr-F A軽石をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 住居北東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長0.50m、焚口幅0.46m。袖の残存長は向かって右側が0.34m、左側が0.30m。壁外に0.18m燃焼部が伸びる。竈の両袖は粘土が貼り付けられて構築されており、燃焼部内は焼土化していた。また灰の堆積も顕著であったが、竈前の床面への灰の広がりは少なかった。

柱穴 床面で主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 床面では貯蔵穴は検出されなかったが、掘り方面で住居南東隅に長径0.53m、短径0.40m、深さ0.09mの楕円形の1号床下土坑が検出された。貯蔵穴の可能性はあるが、土坑埋没土を掘り方埋土が覆っていたことから、床下土坑とした。

床面 床面は平坦であった。

掘り方 掘り方面で既述の1号床下土坑と、中央部に深さ0.1mほどの凹地を検出した。埋没土はロームを主体とし、黒褐色土塊を多く含むやや硬くしまった黄褐色土であった。

遺物と出土状況 遺物はほとんど出土しなかった。埋没土中から土師器杯、土師器甕(第136図1)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片2点、壺・甕類破片9点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀代の住居と考えられる。

時沢西組屋谷戸遺跡12号住居

(第135・137図 PL.54 遺物観察表P.341)

グリッド 42区S・T 1・2

形状 住居中央から東部にかけて時沢西組屋谷戸遺跡5号溝や上町遺跡5号溝などに切られ、上層は削平されたために、全体像をとらえることはできなかったが、北西隅が残っていることから、方形と推定される。東半部は東側の沢部への傾斜で失われていた。

重複 5号溝・31号・38号土坑より古い。

規模 長径3.47m以上 短径2.94m以上 残存壁高0.19m

面積 計測不能 **長軸方位** N-68°-E

埋没土 床面を覆うローム塊、As-C、Hr-F A軽石をやや多く、焼土粒を少量含む黒褐色土がわずかに残っており、床面を検出することができた。

竈 調査できた範囲のなかでは竈は検出されなかった。

柱穴 床面で主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は南西部のみ残存していた。平坦であった。

掘り方 掘り方面で一部に0.1mほどの段差を検出したが土坑やピットは検出されなかった。

遺物と出土状況 遺物はほとんど出土しなかった。埋没土中から須恵器甕(第135図1)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器壺・甕類破片4点が出土した。また、近代陶器破片(第229図17)1点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀代の住居と考えられる。



0 1:4 10cm

第135図 時沢西組屋谷戸遺跡12号住居出土遺物図



第136図 時沢西組屋谷戸遺跡11号住居床面・掘り方面と出土遺物図

時沢西組屋谷戸遺跡13号住居

(第138・139図 PL.55・56・114 遺物観察表P.341・353)

グリッド 42区S・T 6・7

形状 隅丸長方形

重複 11号溝と重複するが新田関係は不明である。

規模 長径5.48m 短径4m以上 残存壁高0.38m

面積 18.08㎡ 長軸方位 N-4°-W

埋没土 上層はぶい橙色土塊を混じる灰黄褐色土で、下層は炭化物を含む灰黄褐色粘質土で埋まっていた。

竈 住居東壁中央より南側に竈が構築されていた。確認長0.96m、焚口幅0.67m。袖の残存長は向かって右側が0.28m、左側が0.18m。壁外に0.60m燃焼部が伸びる。掘り方内に粘土が貼り込まれて竈が造られていた。袖も粘土が掘り付けられていた。燃焼部から竈前の床面にかけては、灰が広がっていた。竈右袖内面には土師器裏(第139図7)が出土したが、P 4より北側で出土した破片や貯蔵穴内で出土した破片が接合した。右袖残存粘土上にはほぼ完形の土師器杯(3)や袖の脇では土師器杯(1)が床面直上で出土した。

柱穴 床面で主柱穴と思われるP 1・P 2・P 3・P 4を検出した。それぞれの規模(長径×短径×深さ)は、P 1が0.51×0.48×0.61m、P 2が0.60×0.53×0.51m、P 3が0.44×0.38×0.55m、P 4が0.42×0.40×0.46mである。いずれも大きく深い柱穴で、P 1・P 3の埋没土断面では柱痕跡が認められた。

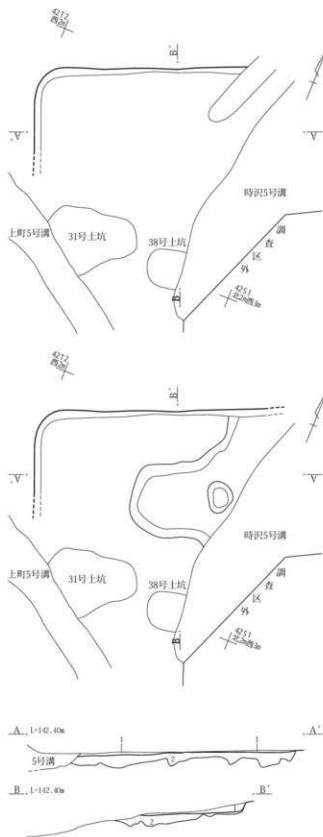
また、南壁のほぼ中央壁際で、5号ピットを検出した。長径0.59m、短径0.50m、深さ0.30mの楕円形のピットである。土層断面B-B'では十分記録できなかった。性格等は不明である。

周溝 周溝は南東隅および北西隅を除いて、ほぼ全周する。幅は0.08～0.20m、深さは0.05～0.16mで、位置によってばらつきがある。南西隅の周溝上には灰白色粘土が残されていた。(PL.55)

貯蔵穴 南東隅に長径0.92m、短径0.77m、深さ0.38mの楕円形の貯蔵穴が検出された。罫が1個落ち込み、土師器杯(第139図2)が底面上18cmで、土師器裏(9)が底面直上で出土した。

床面 床面は平坦であった。

掘り方 掘り方面で4基の床下土坑を検出した。いずれの床下土坑も黄褐色土塊、褐色土塊、黒色土塊の混土を

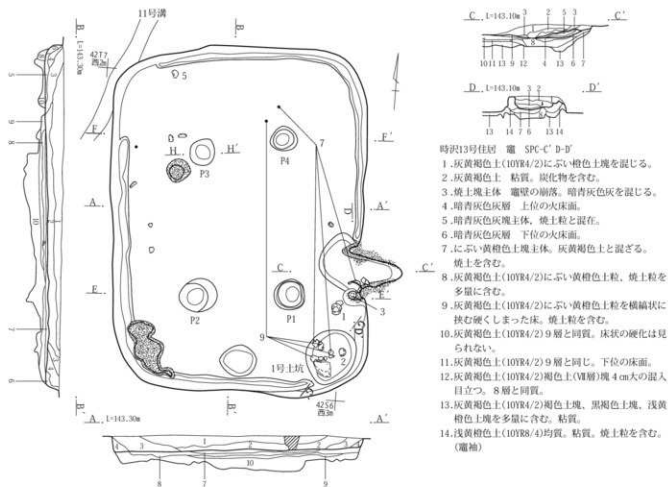


時沢12号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、As-C、Hr-FA軽石をやや多く、焼土粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を非常に多く含む。As-C、Hr-FA軽石をわずかに含む。

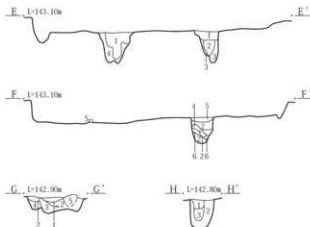
0 1:60 2m

第137図 時沢西組屋谷戸遺跡12号住居床面・掘り方面図



時沢13号住居 SPA-A' B-B'

1. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒を混在。As-C、Hr-Fa軽石を含む。やや砂質。
2. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒・塊3cm以下を多量に含む。やや砂質。
3. 暗褐色土(10YR3/3)黒褐色土(10YR2/2) As-C混土(IV層)塊が混在する。
4. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土を斑状に含む。やや砂質。黄褐色土(10YR5/6) (VII層)粒の混在が目立つ。
5. ぶい黄褐色土(10YR4/3)暗褐色土が混ざり硬くしまっている床面の層。
6. 黄褐色土 VII層土塊主体。壁上の崩落。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2)ぶい黄褐色土が横縞状に混在し硬くしまっている。上面が新しい上位の床面。
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-Cを含む黒褐色土(IV層)塊5cm以下を混じる。褐色土塊を含む。
9. ぶい黄褐色土(10YR7/4)粘質。VII層土。
10. 灰黄褐色土(10YR4/2)浅黄褐色土塊を含む。粘質。黒褐色土塊を含む。



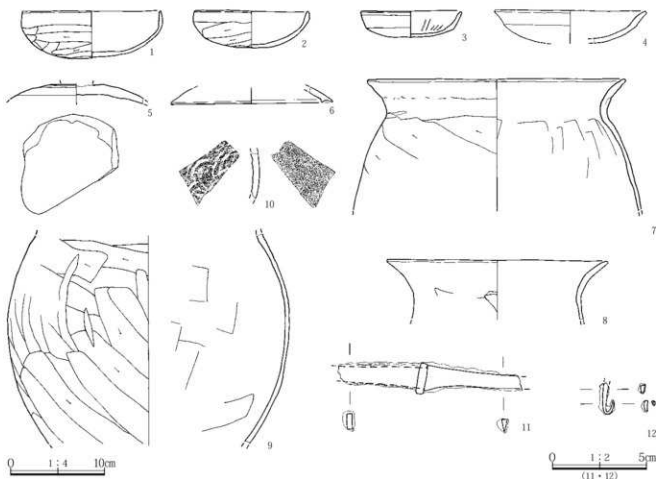
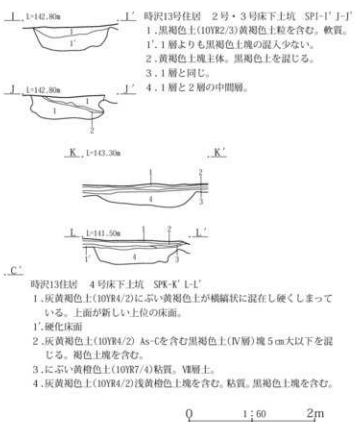
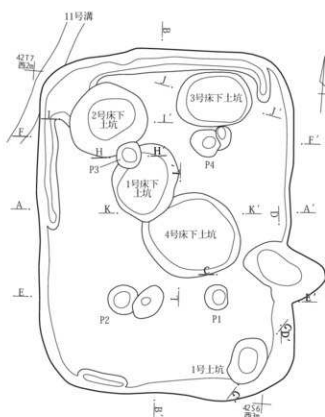
時沢13号住居 P1・P2・P3・P4 SPE-E' F-F' G-C' H-H'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2)浅黄褐色土(10YR8/6)塊を含む。粘質。黒褐色土塊を含む。
2. 灰黄褐色土(10YR4/3)浅黄褐色土粒を多量に含む。粘質。
3. 1層と2層の中間層。
4. 浅黄褐色土(10YR8/6)塊粘質。VII層土主体。黒褐色土(10YR2/3)塊と混じる。
5. 暗褐色土(10YR3/4)炭化物を含む。
6. 灰白色粘土塊



第138図 時沢西組屋谷戸遺跡13号住居床面図

第2節 検出された遺構と遺物



第139図 時沢西附屋谷戸遺跡13号住居掘り方面と出土遺物図

重ねたように埋まっていた。円形または楕円形に掘り込んだ内部を人為的に埋めたものと判断された。

1号床下土坑は北西部で検出された。長径1.20m、短径1.04m、深さ0.23mの楕円形。断面形は皿状で、底面は平坦であった。2号床下土坑は北西隅で検出された。長径1.26m、短径1.08m、深さ0.42mの楕円形。浅い箱形で、底面は平坦であった。埋没土中から鉄製刀子(第139図11)が出土した。また、埋没土中から近世の国産磁器破片1点が出土しているが、混入であろう。3号床下土坑は北東部で検出された。長径1.20m、短径0.86m、深さ0.36mの楕円形。断面形は箱形で下半部がやや掘り込まれており、オーバーハングしていた。底面は平坦であった。4号床下土坑は住居ほぼ中央からやや竈寄りで検出された。長径1.50m、短径1.37m、深さ0.22mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦であった。

遺物と出土状況 遺物は既述したように竈および貯蔵穴周辺に集中して出土した。また、北西隅で須恵器蓋の転用碗(第139図5)が床面上8cmで出土した。また、埋没土中から土師器皿(4)、土師器甕(8)、須恵器蓋(6)、須恵器甕(10)、不明鉄製品(12)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片33点、壺・甕類破片112点、不明破片1点、須恵器杯・頬類破片2点、瓶・甕類破片5点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀前葉～中葉の住居と考えられる。

時沢西紺屋谷戸遺跡14号住居

(第140・141図 PL.56・57・114 遺物観察表P.341)

グリッド 42区R・S7・8

形状 長方形

重複 なし

規模 長径4.8m 短径3.8m 残存壁高0.38m

面積 14.71㎡ **長軸方位** N-14°-E

埋没土 上層は黄褐色土塊やAs-Cを含む暗褐色土、黒褐色土塊、黄褐色土塊を多量に含む暗褐色土で、下層は黄褐色土粒・塊を著しく混入し、黒褐色土塊も含む褐色土で埋まっていた。

竈 住居東壁中央より南側に竈が構築されていた。焚口部は攪乱によって壊されており、全形は不明であるが、概ね確認長0.50m、焚口幅0.60mと推定される。袖の残存は不明である。壁外に0.50m燃焼部が伸びる。

竈の床面には灰面が大きく広がっていた。

柱穴 床面で主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は攪乱で壊された東壁沿いを除いて全周していた。幅は概ね0.12～0.20m、深さは0.02～0.05mである。南壁周溝内で土師器皿(第141図3)が底面上9cmで、須恵器長頸壺(6)が底面上11cmで出土した。3は2号床下土坑から出土した破片も接合した。

貯蔵穴 床面では貯蔵穴は検出されなかった。掘り方面で南東隅に1号床下土坑が検出されたが、これは上層が攪乱土と似た層で埋まっていたこと、下層は掘り方埋没土と似た土で埋まっていたことから、貯蔵穴とはしなかった。

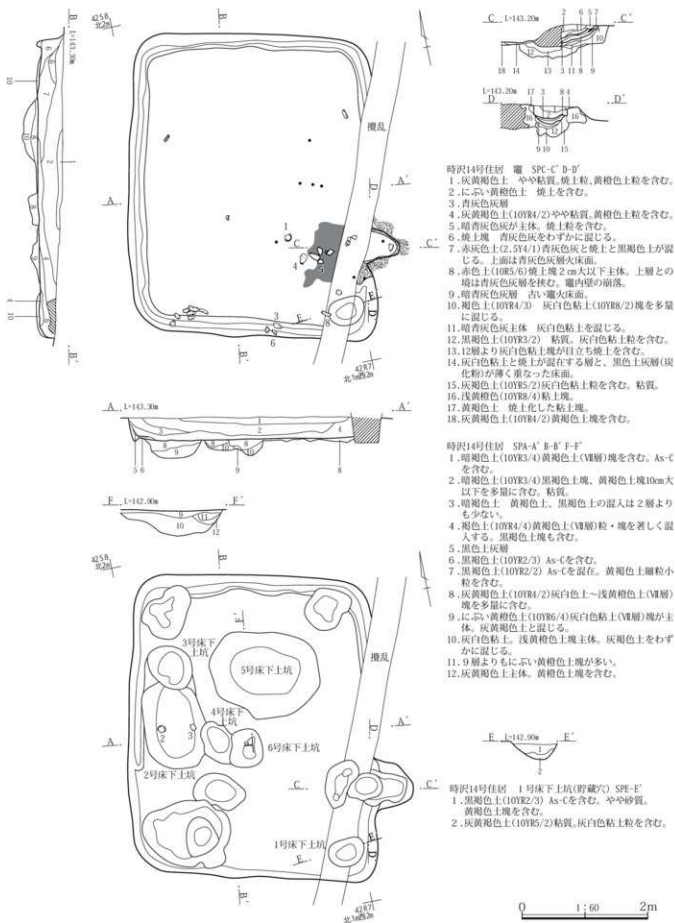
床面 床面は平坦であった。中央部が凹んでいるのは床下土坑の影響と推定される。

掘り方 掘り方面で6基の床下土坑と住居四隅の凹地を検出した。いずれの床下土坑も黄褐色土塊、褐色土塊、黒色土塊の混土を重ねたように埋まっていた。円形または楕円形に掘り込んだ内部を人為的に埋めたものと判断された。

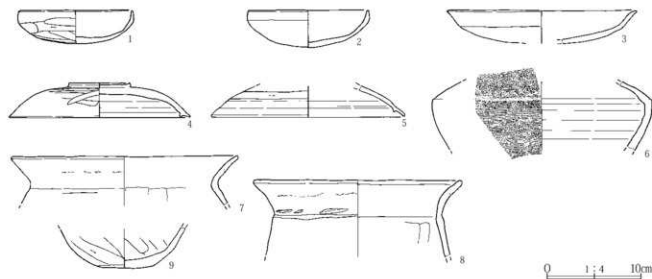
1号床下土坑は南東隅で検出された。長径0.58m、短径0.44m、深さ0.26mの楕円形。断面形はU字形で、底面は丸かった。既述したように攪乱の可能性もある。2号床下土坑は西壁沿いで検出された。長径1.28m以上、短径0.98m、深さ0.27mの楕円形。断面形は逆台形で、底面は平坦であった。底面直上で土師器杯(第141図2)、底面上11cmで土師器皿(3)に接合した破片が出土した。3号床下土坑も西壁沿いで2号床下土坑に接して検出された。長径0.78m、短径0.62m、深さ0.34mの楕円形。断面形は皿形で、底面は平坦である。4号床下土坑は2号床下土坑の東側に接いて検出された。長径0.63m以上、短径0.50m、深さ0.14mの楕円形。断面形は皿形で、底面は平坦である。5号床下土坑は住居北半部で検出された大型の床下土坑である。長径1.77m、短径1.40m、深さ0.43mの楕円形。断面形は皿形で、底面は平坦である。最も深く掘られていた。6号床下土坑は5号床下土坑の南側で検出された。長径0.60m、短径0.50m、深さ0.29mの楕円形。断面形は皿形で、底面は平坦である。

この他に四隅が最深0.2mほど不定形に掘り込まれていた。

第2節 検出された遺構と遺物



第140図 時沢西紺屋谷戸遺跡14号住居床面・掘り方面図



第141図 時沢西紺屋谷戸遺跡14号住居出土遺物図

遺物と出土状況 遺物は竈周辺に集中して出土した。土師器杯(第141図1)は竈前床面直上で、須恵器蓋(4)は床面上5cmで、5は床面上16cmで出土した。また南東隅床面直上で土師器甕(8)が出土した。

また、南西隅には7個の棒状礫が床面直上で集中して出土した。北東部でも単独で1個の棒状礫が出土した。北西部壁際では黒色頁岩製の打製石斧が床面上9cmで出土した。混入であろう。

埋没土中から土師器甕(7・9)が、掘り方埋没土中からホルンフェルス製の加工痕ある剥片が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片10点、壺・甕類破片86点、須恵器杯・椀類破片4点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀末～8世紀初頭の住居と考えられる。

時沢西紺屋谷戸遺跡15号住居

(第142図 PL.58 遺物観察表P.341・342)

グリッド 42区T1・2、43区A1・2

形状 南半分は先行して調査した上町遺跡2区にのびるが、残存状態が不良で記録することはできなかった。全体形状は方形と推定される。

重複 11号住居より新しく、6号溝、33号土坑より古い。

規模 長径4.52m 短径2.52m以上 残存壁高0.22m

面積 計測不能 **北壁方位** N-90°-E

埋没土 ローム塊、As-C、Hr-F A軽石、炭化物を少量に含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では竈は検出されなかった。

柱穴 床面で主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

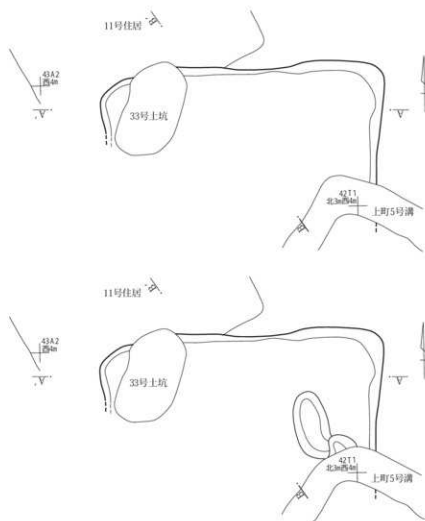
床面 床面は平坦である。

掘り方 掘り方では東部がやや深く掘り込まれていたが、顕著な床下土坑は検出されなかった。掘り方はローム塊、黒褐色土塊を少量含む、やや粘性がある硬くしまったにぶい黄褐色土で埋められていた。

遺物と出土状況 床面近くの遺物は少なかった。埋没土中から土師器杯(第142図1～5)、須恵器蓋(6)、土師器台付甕、須恵器甕(7・8)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片80点、壺・甕類破片145点、須恵器杯・椀類破片10点、瓶・甕類破片5点、黒色頁岩製の打製石斧1点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀中葉～後葉の住居と考えられる。

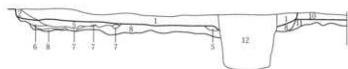


時沢15号住居 33号土坑 SPA-A' B'B'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊, As-C, Hr-FA軽石, 炭化物を少量に含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊, にぶい黄褐色シルト塊を多く含む。粘性があり硬くしまっている。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム塊, にぶい黄褐色シルト塊を多く含む。粘性があり硬くしまっている。
5. 黒褐色土(10YR2/2) As-C, Hr-FA軽石をやや多く含む。ローム塊を少量含む。硬くしまっている。
6. 褐色土(10YR4/4)ロームを主体とし, 黒褐色土塊をわずかに含む。硬くしまっている。
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3)粘質。非常に粘性があり夾雑物を含まない。
8. にぶい黄褐色土(10YR4/3)粘質。ローム(10YR5/6)が塊状に混じる。黒褐色土塊を少量含む。やや粘性があり硬くしまっている。
9. 黒褐色土(10YR2/2) As-C, Hr-FA軽石をやや多く含む。ローム塊を少量含む。(11号住居埋没上)
10. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。As-C, Hr-FA軽石をわずかに含む。(11号住居埋没上)
11. 黄褐色土(10YR5/6)ロームを主体とし, 黒褐色土塊を多く含む。やや硬くしまっている。(11号住居掘り方埋没上)
12. 黒褐色土(10YR2/2) As-B混土, ローム塊, As-C, Hr-FA軽石をわずかに含む。(33号土坑埋没上)

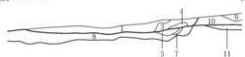
A, l=142.6m

A'

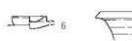
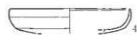
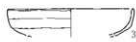


B, l=142.6m

B'



0 1:60 2m



0 1:4 10cm

第142図 時沢西組屋谷戸遺跡15号住居床面・掘り方面と出土遺物図

時沢西組屋谷戸遺跡16号住居

(第143・144図 PL.58・59・115 遺物観察表P.342)

グリッド 43区B 6・7

形状 南東隅がやや膨らむ隅丸長方形である。北壁には古い風倒木が重複していた。壁が黒色土であったために検出が困難であった。

重複 なし

規模 長径4.77m 短径3.73m 残存壁高0.45m

面積 11.83㎡ **長軸方位** N-2°-W

埋没土 上層はAs-Cを含む黒褐色土や、黄褐色土粒を混在する暗褐色土で、下層は黄褐色土、As-Cを混じる黒褐色土を混在する暗褐色土で埋まっていた。典型的な自然埋没と判断された。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長0.88m、焚口幅0.48m。袖の残存長は向かって右側が0.40m、左側が0.38m。壁外に燃焼部が0.20m、さらに煙道部が0.22m伸びる。袖部は粘土を貼り付けて構築されていたが、燃焼部奥の壁には粘土および焼土の残存は顕著でなかった。廃絶時に割れて落ちたものと推定される。燃焼部から焚口部にかけては灰が残り、竈前の床面にも灰面が広がっていた。

竈前には土器が出土したが、土師器甕(第144図8)は床面直上の破片が接合し、土師器杯(3)は床面直上で出土した。一方、土師器甕(9)は床面上8～33cmで出土した破片が接合したもの、甕(10)は床面上12cmと26cmで出土した破片が接合したもの、須恵器蓋(4)は床面上39cmで出土した。

柱穴 床面が主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は東壁北半、北壁、西壁、南壁西半で周溝が検出された。竈両側には周溝は検出されなかった。また、北壁中央は古い風倒木痕と重複していたため、壁が黒色土で周溝の検出が困難であった。幅は概ね0.18m、深さは0.05～0.09mである。

貯蔵穴 床面では貯蔵穴は検出されなかった。掘り方面で南東隅に長径1.00m、短径0.84m、掘り方面からの深さ0.23mの不整楕円形の床下土坑が検出されたが、これが貯蔵穴の痕跡の可能性がある。1号床下土坑の埋没土1層は焼土粒、As-Cを含む黒褐色土で住居埋没土に共通し、2層以下の灰白色粘土塊を含む土層とは異なるこ

とから、貯蔵穴と掘り方埋没土で埋まった1号床下土坑が重複していたものと考えられる。床面では炭化物が混在した黒褐色土の範囲が確認されていた。

床面 床面は平坦である。風倒木の影響で北壁付近の床面レベルは下がっていた。また、北西隅の床面直上で焼土の広がりが認められた。焼土の性格は不明である。

掘り方 掘り方面で3基の床下土坑を検出した。いずれの床下土坑も黄褐色土塊、褐色土塊、黒色土塊の混土を重ねたように埋まっていた。円形または楕円形に掘り込んだ内部を人為的に埋めたものと判断された。

1号床下土坑は既述した通り、南東隅で検出された。2号床下土坑は中央やや竈寄りの位置で検出された。長径1.14m、短径0.99m、深さ0.27mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦である。3号床下土坑は2号床下土坑の西側に接して検出された。長径1.42m、短径1.26m、深さ0.19mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦であった。また、住居北半部の掘り方面には深さ0.15mほどの不定型な掘り込みが検出された。

竈前掘り方底面上12cmで出土した破片が土師器甕(第144図8)に接合した。

遺物と出土状況 遺物は竈周辺、南壁際、西壁際、北東隅に集中して検出された。

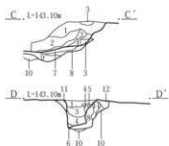
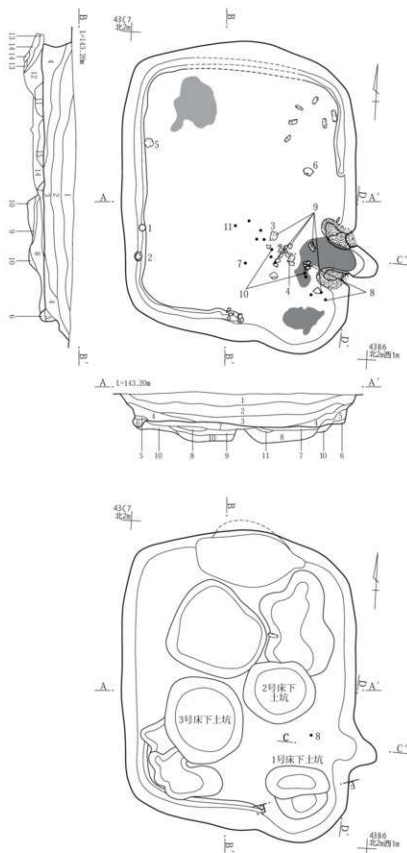
土師器杯2個体(第144図1・2)は西壁周溝内ではほぼ完形で出土した。1は底面上6cmで、2は底面上8cmである。須恵器蓋(5)も北西部西壁沿い床面直上で出土した。北東隅では6個の棒状礫が20cmほどの間隔をあけて散在していた。須恵器蓋(6)は床面上23cmで出土した。中央部では土師器甕(11)が床面上26cmで、須恵器杯(7)が床面直上で出土した。竈周辺で出土した土師器甕には床面から数10cm離れた位置で出土したものが多く、埋没過程で投棄されたものと推定される。

また、埋没土中から細粒輝石安山岩製の加工痕ある破片が出土している。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片36点、壺・甕類破片205点、須恵器杯・楕円破片3点、瓶・甕類破片2点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀前半の住居と考えられる。

第2節 検出された遺構と遺物

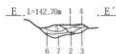


時沢16号住居 竈 SPC-C' D-D'

1. 暗褐色土(10YR3/4)に赤い黄褐色土粒を含む。やや粘質。
2. 赤い黄褐色土(10YR5/4)粘質。竈構築材の前落土主体。暗褐色土、焼土粒を含む。
3. 焼土塊主体。暗褐色土、青灰色灰を混じる。
4. 灰黄褐色土。暗灰色土灰、焼土粒を混じる。
5. 赤い黄褐色粘土土塊主体。竈構築材。
6. 赤い黄褐色粘土土塊主体。4層を混じる。
7. 暗青灰色灰層焼土粒を混じる。
8. 赤い赤褐色土(5YR5/4)に赤い黄褐色土、焼土が混じる。
9. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土(VI層)、黄褐色土(VII層)塊を混じる。
10. 褐色土(VI層)に黄褐色土(VII層)塊が混在。
11. 灰白色粘土(10YR8/2)主体。灰黄褐色土(10YR4/2)が混在する。
12. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土粒と焼土粒を含む。軟質。

時沢16号住居 SPA-A' B-B'

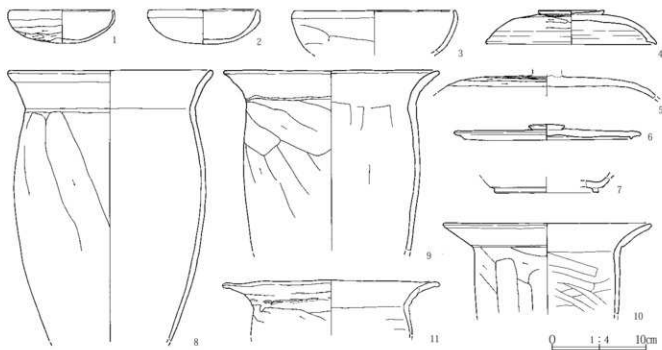
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。軟質。均質。
2. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒を混在する。
3. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土、As-C混黒褐色土(IV層)を混在する。
4. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混土(IV層)塊主体。やや砂質。
5. 褐色土(10YR4/3)褐色土(VI層)を塊状に含む。VI層土主体。軟質。
6. 褐色土と黄褐色粘質土(VII層)塊が混在する。(壁間溝埋没上)
7. 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土(VII層)塊を含む。硬くしまった床面下の層。
8. 7層と同質。硬くない。
9. 灰白色粘土(VII層)塊主体。灰黄褐色土と混じる。
10. 8層と同質。
11. 黒褐色土 As-Cを含む。IV層土。(風倒木埋没上)
12. 黒褐色土(10YR4/2) As-Cが1層より少ない。(風倒木埋没上)
13. 黒褐色土(10YR3/2) V層土。(風倒木埋没上)
14. 明黄褐色土 V層土。(風倒木埋没上)
15. 黒褐色土 2層に似るが、焼土粒を含むことから住居廻り方埋没上の可能性がある。



時沢16号住居 1号床下土坑 SPE-E'

1. 黒褐色土(10YR2/2)焼土粒を含む。As-Cを含む。
2. 黒褐色土 灰白色粘土粒を多量に含む。
3. 黒褐色土 灰白色粘土粒の混入少ない。粘質。
4. 褐色土 VI層土主体。
5. 黒褐色土 2層に似るが灰白色粘土塊が3cm前後で大きい。
6. 4層に似る。
7. 3層と同質。

第143図 時沢西紺屋谷戸遺跡16号住居床面・掘り方面図



第144図 時沢西紺屋谷戸遺跡16号住居出土遺物図

時沢西紺屋谷戸遺跡17号住居

(第145図 PL.59・60・115 遺物観察表P.342)

グリッド 43区D10・11

形状 南東壁を7号溝に壊されていることから、全形をとらえることはできなかったが、長方形と推定される。

重複 7号溝より古い。

規模 長径3.65m以上 短径3.3m 残存壁高0.13m

面積 計測不能 **長軸方位** N-64°-W

埋没土 上層はAs-Cを含む黒褐色土で、下層は黄褐色土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲では竈は検出されなかった。

柱穴 床面で主柱穴と思われるピットは検出されなかった。掘り方面で主柱穴があると推定される位置に小ピットが3基検出されたが、南東隅のピットは検出できなかった。これらのピットを主柱穴と確定することはできなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 南東隅に長径0.55m、短径0.52m、深さ0.36mのほぼ円形の貯蔵穴が検出された。7号溝に落ち込むような位置ではあったが、貯蔵穴東縁で黒色土器杯(第145図1)が出土した。

床面 床面は平坦であった。

掘り方 掘り方面では北壁沿いに幅0.8～1.0mの帯状に掘り込まれた部分と、3基のピットを検出した。

帯状部分には4基の床下土坑が接して掘り込まれていた。いずれの床下土坑も黄褐色土塊、褐色土塊、黒色土塊の混土を重ねたように埋まっていた。円形または楕円形に掘り込んだ内部を人為的に埋めたものと判断された。

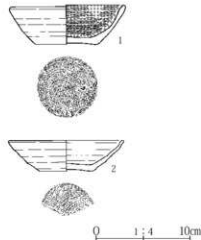
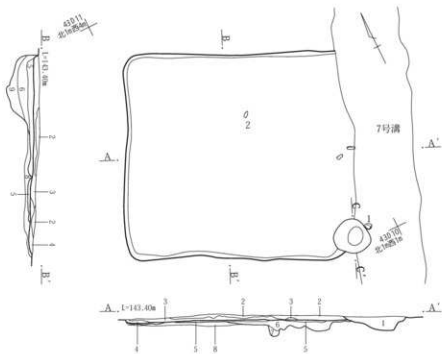
1号床下土坑は長径1.02m以上、短径1.05m、深さ0.24mの不整形。断面形はボール状で、底面は丸い。2号床下土坑は長径0.92m、短径0.48m以上、深さ0.19mの楕円形。断面形は皿状で、底面には凹凸があった。3号床下土坑は長径0.65m、短径0.50m、深さ0.28mの楕円形。断面形は皿状で、底面は凹凸があった。

3号床下土坑は北東部で検出された。位置からすれば主柱穴の可能性はある。長径0.88m、短径0.60m、深さ0.28mの楕円形。4号床下土坑は南西部で検出された。位置からすれば主柱穴の可能性はある。長径0.70m、短径0.60m、深さ0.57mの不整形楕円形。断面形はピット状である。この他に北西部には深さ0.15mのピット状の掘り込みが検出されている。これらのピットは位置からすれば主柱穴の可能性もあったが、既述したように確定するにはいたらなかった。

遺物と出土状況 出土遺物は少なかった。中央部やや北

寄りで須恵器杯(第145図2)が床面直上で出土した。この杯は、掘り方北部底面上8cmの破片と接合している。ここで図示した遺物以外に土師器壺・甕類破片5点、

不明破片1点、須恵器杯・椀類破片13点が出土した。
所見 出土遺物から9世紀後半の住居と考えられる。



時沢17号住居 SPA-A' B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) As-Bを含む。(7号溝埋没土)
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。IV層上主体。
3. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土(VI層)粒を含む。
4. 褐色土(10YR4/4)VI層上主体。黒褐色土が混じる。
5. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土を薄い膜状に挟む。硬くしまった床面。
6. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。IV層上主体。黄褐色土を斑状に含む。
7. にぶい黄褐色土(10YR5/4)VI層上土主体。
8. 褐色土(10YR4/4)VI層上主体。黄褐色土を含む。
9. 褐色土(10YR4/4)VI層上主体。黄褐色土と黒褐色土塊を含む。

時沢17号住居 貯蔵穴 SPC-C'

1. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土とAs-C黒褐色土(IV層)塊を含む。
2. 暗褐色土 黄褐色土(VI層)塊を含む。
3. 暗褐色土 粘質。
4. 暗褐色土 黄褐色土(VI層)塊の混在が目立つ。



時沢17号住居 1号床下土坑 2号床下土坑

3号床下土坑 SPD-D' E-E' F-F'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cは目立たない。褐色土(VI層)塊を斑状に含む。やや粘質。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4)VI層上土主体。黒褐色土が混じる。
3. 褐色土(10YR4/4)VI層上主体。黒褐色土。黄褐色土塊が混じる。
4. 黒褐色土(10YR2/2)IV層上主体。As-Cを含む。



第145図 時沢西組屋谷戸遺跡17号住居床面・掘り方面と出土遺物図

時沢西組屋谷戸遺跡18号住居

(第146・147図 PL.60・116 遺物観察表P.342)

グリッド 42区R・S 9・10

形状 北半分が調査区外となり全形がとらえられなかったが、方形と推定される。

重複 なし

規模 長径2.25m以上 短径3.17m 残存壁高0.23m

面積 計測不能 **長軸方位** N-6°-W

埋没土 上層はAs-C、Hr-F A軽石をやや多く含み、焼土粒、炭化物をわずかに含む黒褐色土で、下層はローム塊、As-C、Hr-F A軽石、焼土粒、炭化物をやや多く含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中に焼土を多く含む層(3層)が堆積していた。

竈 調査できた範囲の中では竈は検出されなかった。

柱穴 床面で主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は明確に検出されなかったが、土層断面A-A'・B-B'には周溝状の掘り込みが確認できた。

貯蔵穴 床面で明確に貯蔵穴は検出されなかったが、掘り方で検出された1号床下土坑が貯蔵穴の可能性がある。1号床下土坑は長径0.50m、短径0.33m、深さ0.44mの楕円形の土坑で2号ピットに切られているが、上層にはローム塊、As-C、Hr-F A軽石、焼土粒、炭化物をわずかに含む黒褐色土や、ローム塊、にぶい黄棕色シルト塊、焼土粒を多く含む黒褐色土のような住居埋没土と同じ土が堆積しており、住居の施設であった可能性が高い。

床面 床面は平坦であった。

掘り方 掘り方で2基の床下土坑と3基のピットを検

出した。いずれの床下土坑も黄褐色土塊、褐色土塊、黒色土塊の混土を重ねたように埋まっていた。円形または楕円形に掘り込んだ内部を人為的に埋めたものと判断された。

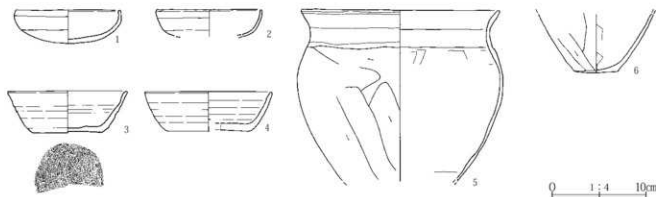
1号床下土坑は南東部で検出された。既述のように貯蔵穴の可能性が高い。2号床下土坑は西部で検出された。長径0.90m以上、短径1.00m、深さ0.09mの楕円形。断面形は皿状で、底面には凹凸があった。他に中央部も0.10mほどの不定型な掘り込みがあった。

1号ピットは南壁際で検出された。長径0.38m、短径0.34m、深さ0.29mのほぼ円形。2号ピットは1号ピットの東側で検出された。長径0.70m以上、短径0.50m、深さ0.22mの楕円形。断面形はボール状で、底面は丸い。1号床下土坑を切っていることから床面で確認できた可能性もある。3号ピットは2号ピットの北側で検出された。長径0.44m、短径0.24m、深さ0.22mである。主柱穴の可能性もある位置であるが、確定できなかった。

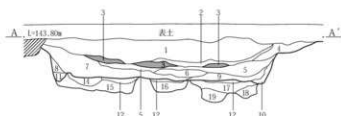
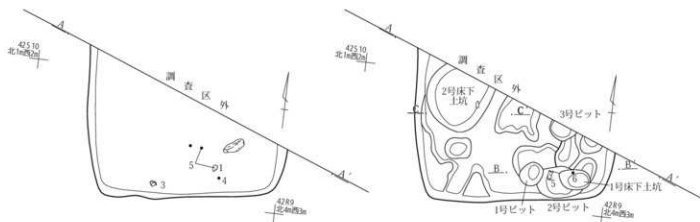
遺物と出土状況 遺物は南壁付近に出土した。土師器杯(第146図1)は床面上18cmで、須恵器杯(4)は床面上12cm、3は床面上19cmで、土師器甕(5)は床面上20cmで出土した。1号床下土坑底面上24cmで出土した破片と接合した。土師器甕(6)は2号ピット底面上37cmで出土した。埋没土中から土師器杯(2)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片21点、壺・甕類破片132点、須恵器杯・碗類破片1点、瓶・甕類破片2点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀中葉の住居と考えられる。

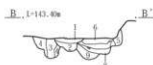


第146図 時沢西組屋谷戸遺跡18号住居出土遺物図



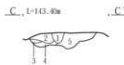
時沢18号住居 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C, Hr-FA軽石をやや多く含む。焼土粒, 炭化物をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-C, Hr-FA軽石を少量含む。黒味が強い。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 焼土塊, 炭化物を多く含む。As-C, Hr-FA軽石を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3) As-C, Hr-FA軽石をやや多く含む。焼土粒, 炭化物をわずかに含む。
5. 黒褐色土(10YR2/3) As-C, Hr-FA軽石を多く含む。焼土粒, 炭化物を少量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊をやや多く含む。As-C, Hr-FA軽石, 焼土粒を少量含む。
7. 黒褐色土(10YR2/2) As-C, Hr-FA軽石をやや多く含む。ローム塊, 焼土粒, 炭化物をわずかに含む。
8. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊を少量含む。軟質。
9. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊, As-C, Hr-FA軽石, 焼土粒, 炭化物をやや多く含む。
10. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊を多く含む。軟質。
11. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊をやや多く含む。粘性がある。(周溝埋没上)
12. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊を非常に多く含む。As-C, Hr-FA軽石, 焼土粒, 灰, 炭化物をわずかに含む。非常に硬くしまっている。(貼床)
13. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊, しぶい黄褐色シルト塊, 焼土塊を非常に多く含む。炭化物を少量含む。粘性部分に比べしまりは少ない。やや粘性がある。
14. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊, しぶい黄褐色シルト塊を多く含む。As-C, Hr-FA軽石, 焼土粒, 炭化物をわずかに含む。やや粘性がある。
15. 黒褐色土(10YR2/2) 塊とローム塊の斑状混土。しぶい黄褐色シルト塊を少量含む。やや硬くしまっている。
16. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊, しぶい黄褐色シルト塊をやや多く含む。焼土粒, 炭化物を少量含む。やや粘性。しまりがある。
17. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊, しぶい黄褐色シルト塊, 焼土塊, 炭化物をやや多く含む。灰を少量含む。やや粘性。しまりがある。
18. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊, しぶい黄褐色シルト塊をやや多く含む。焼土粒, 炭化物, 灰を少量含む。やや粘性がある。
19. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊, しぶい黄褐色シルト塊をやや多く含む。焼土粒, 炭化物をわずかに含む。やや粘性がある。(床下3号ピット埋没上)



時沢18号住居 1号床下土坑 1号・2号ピット SPB-B'

1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊を少量含む。As-C, Hr-FA軽石, 焼土粒, 炭化物をわずかに含む。(2号ピット埋没上)
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊, しぶい黄褐色シルト塊, 焼土塊を多く含む。炭化物をわずかに含む。(2号ピット埋没上)
3. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊, 焼土粒, 炭化物をわずかに含む。軟質。(1号ピット柱礎)
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊, しぶい黄褐色シルト塊を非常に多く含む。焼土粒, 炭化物をわずかに含む。粘性。しまりがある。(1号ピット埋没上)
5. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊を少量含む。軟質。(周溝埋没上)
6. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊, As-C, Hr-FA軽石, 焼土粒, 炭化物をわずかに含む。
7. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊, しぶい黄褐色シルト塊, 焼土粒を多く含む。炭化物を少量含む。
8. 黒褐色土(10YR2/1) ローム塊, 炭化物を少量含む。粘性がある。軟質。
9. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊, しぶい黄褐色シルト塊を多く含む。炭化物を少量含む。やや粘性。しまりがある。



時沢18号住居 2号床下土坑 SPB-C'

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊, しぶい黄褐色シルト塊, 焼土粒をやや多く含む。やや粘性がある。
2. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊, 焼土粒, 炭化物を少量含む。
3. しぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘質。夾雑物を含まない。非常に粘性がある。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊をやや多く含む。やや粘性がある。
5. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊, しぶい黄褐色シルト塊, 焼土粒を多く含む。As-C, Hr-FA軽石, 炭化物をわずかに含む。やや粘性。しまりがある。

0 1:60 2m

第147図 時沢西組屋谷戸遺跡18号住居床面・掘り方面図

時沢西組屋谷戸遺跡19号住居

(第148・149図 PL.60・61・116 遺物図版(表)P.342・353・355)

グリッド 43区G・H12・13

形状 長方形

重複 なし

規模 長径4.12m 短径3.25m 残存壁高0.45m

面積 9.36㎡ 長軸方位 N-88°-E

埋没土 上層はAs-C、Hr-F A軽石を少量含み、焼土粒をわずかに含む黒褐色土で、下層はローム塊を少量含み、As-C、Hr-F A軽石、焼土粒、炭化物をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。

竈 住居東壁中央やや南側で竈が構築されていた。確認長1.14m、燃焼部長0.84m、焚口幅0.83m。袖の残存長は向かって右側が0.16m、左側が0.06m。壁外に燃焼部が0.54m、さらに煙道が0.30m伸びる。

掘り方内に粘土を貼り付けて竈を構築していた。袖の残存は明確ではなかった。燃焼部には灰が残り竈前の床面にも灰面が広がっていた。焚口部使用面直上で土師器甕(第148図3)が、散乱して出土した。また、焚口部左側に罎が置かれていたが、機能は明確にできなかった。

柱穴 床面で主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は東壁竈北側から北壁、西壁南半から南壁西半にのみ、周溝が検出された。幅は0.12～0.30m、深さは0.08～0.15mである。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。南東隅の床面には黒色灰を含む黒褐色土があり床面を形成していると判断した。下位には大規模で深い1号床下土坑が検出された。この土坑は他の住居で検出された床下土坑と同様に黄褐色土塊、褐色土塊、黒色土塊の混土を重ねたように埋まっ

ていたことから床下土坑とした。

床面 床面は平坦であったが、西壁付近で3基の土坑を検出した。いずれの土坑も床面上から掘り込まれており、As-Cを含む、やや粘質黒褐色土で埋まっていた。

1号土坑は南西隅で検出された。長径0.68m、短径0.57m、深さ0.29mの楕円形。断面形はロート状であった。2号土坑は北西部西壁沿いで検出された。長径1.10m、短径0.68m、深さ0.26mの楕円形。断面形は皿状であった。3号土坑は北西部北壁沿いで検出された。長径0.65m、短径0.52m、深さ0.26mの楕円形。断面形はボール状で底面は丸かった。3号土坑埋没土中から鉄器(第148図5)が出土した。これらの土坑の性格は不明である。

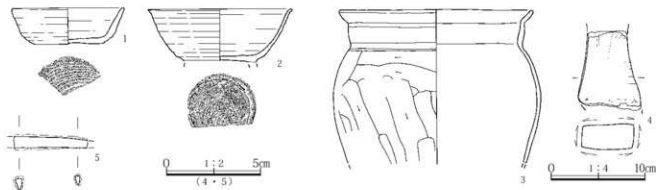
掘り方 掘り方で1基の床下土坑を検出した。1号床下土坑は既述のように南東隅部で検出された。長径1.08m、短径0.70m、深さ0.69mの楕円形。断面形は深い箱形で、中位は壁を挟り込んでいた。にぶい黄橙色土や、黄褐色土粒・塊を含む黒褐色土が重なり水平に堆積していたことから、人為的埋没と判断された。

埋没土2層中にあたる底面直上54cmで須恵器椀(第148図2)、埋没土1層中にあたる底面直上61cmで須恵器杯(1)が出土した。

遺物と出土状況 遺物は竈前に集中して出土したほかは少なかった。埋没土中からは砥沢石裂の砥石(第148図4)が出土した。

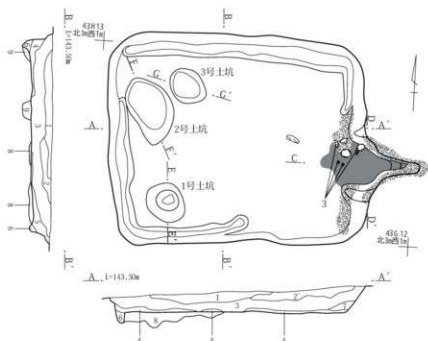
ここで図示した遺物以外に須恵器杯・椀類破片2点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀中葉の住居と考えられる。1号床下土坑から出土した須恵器杯(第148図1)は1層中からの出土であり、床面直上の遺物としてもよい遺物である。



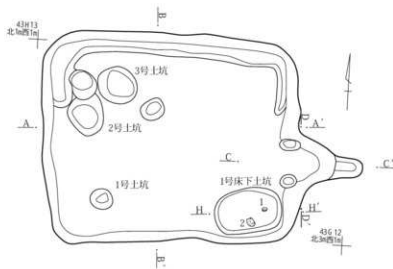
第148図 時沢西組屋谷戸遺跡19号住居出土遺物図

第2節 検出された遺構と遺物



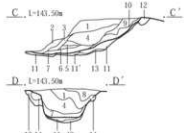
時沢19号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-C, Hr-F軽石を少量含む。焼土粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。As-C, Hr-F軽石、焼土粒をわずかに含む。
- 2' 2層に、にぶい黄褐色シルト塊をやや多く含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を少量含む。As-C, Hr-F軽石、焼土粒、炭化物をわずかに含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。As-C, Hr-F軽石、焼土粒、炭化物をわずかに含む。やや粘性がある。
5. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、As-C, Hr-F軽石をわずかに含む。軟質。
6. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。As-C, Hr-F軽石をわずかに含む。
7. 灰白色粘土。
8. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土(VII層)を頂部に含む。
9. 黒褐色土(10YR2/2)均質。As-Cを含む。



時沢19号住居 1号床下土坑 SPA-E' F-F' G-G'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや粘質。
2. 灰黄褐色土 黒褐色土層を挟み黄褐色塊を含む。粘質。
3. 黄褐色土 VII層上主体。黒褐色土をわずかに混在する。
4. 黒褐色土と黄褐色土が混在する。粘質。



時沢19号住居 竪 SPC-C' D-D'

1. にぶい黄褐色土(10YR6/4)粘土塊主体。黒褐色土と混じる。(竪材)
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや粘質。均質。
3. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒の混在が目立つ。
4. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土粒・塊を含む。As-Cを含む。やや粘質。
5. にぶい黄褐色土(10YR6/4)塊。部分的に焼土化した竪材の崩落。
6. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cが目立つ。均質。やや粘質。
7. にぶい黄褐色土(10YR6/4)塊主体。部分的に焼土化。黒褐色土層が混じる。5層と同質。
8. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含む。As-Cを含む。やや粘質。
9. にぶい黄褐色土(10YR6/4)均質。
10. 焼土塊主体。下部で暗灰色土灰が混じる。
11. 暗青灰色灰層主体。焼土塊を含む。焼土黒色土灰を挟む。
12. 浅黄褐色土(10YR8/3)粘土塊主体。焼土塊を含む。
13. 灰黄褐色土(10YR4/2)粘質。浅黄褐色土粒を含む。
14. 浅黄褐色粘土(10YR8/3)

E-E' 1:10.50m



時沢19号住居 1号土坑 2号土坑 3号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや粘質。
2. 灰黄褐色土 黒褐色土層を挟み黄褐色塊を含む。粘質。
3. 黄褐色土 VII層上主体。黒褐色土をわずかに混在する。
4. 黒褐色土と黄褐色土が混在する。粘質。

H-H' 1:10.50m



時沢19号住居 1号床下土坑 SPA-H'

1. 黒褐色土(10YR2/2)黒色灰を含む。床面。
2. にぶい黄褐色土(10YR7/4)VI層上主体。粘質。
3. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土粒・塊を含む。
- 3'. 3層と同じ。間に4層の薄層を挟む。
4. にぶい黄褐色土(10YR7/4)黒褐色土塊を含む。
- 4'. 4層と同じ。間に3層の薄層を挟む。



第149図 時沢西組屋谷戸遺跡19号住居床面・掘り方面図

時沢西組屋谷戸遺跡20号住居

(第150～155図 PL.61～64・116～118 遺物観察表 P.343・344・353・354・355)

グリッド 43区L・M14・15

形状 調査では、北東隅の方形の掘り込みが検出されなかったことから形状は五角形と判断された。北東辺の周壁は明瞭に直線状に検出できた。しかし、通例の竪穴住居は長方形あるいは正方形をしていることから、特異な形状であることは否めない。

重複 22号住居より古く、26号住居より新しい。

規模 長径6.04m 短径5.98m 残存壁高0.41m

面積 28.47㎡ **長軸方位** N-6°-W

埋没土 上層はAs-C、焼土粒と炭化物、黄褐色土粒を含むやや砂質黒褐色土で、下層は褐色土粒・塊を多量に含み、焼土粒、炭化物の混在も目立つ黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長0.94m、焚口幅0.75m。袖の残存長は向かって右側が0.40m、左側が0.15m。壁外に0.32m燃焼部が、0.18m煙道が伸びる。焚口使用面から竈前の床面に灰面が広がっていた。竈は掘り方内に粘土を貼り付けて構築された。左袖内面には礫が残されており、袖の芯材に入れられたものと推定される。竈左前床面上5cmで須恵器壺(第154図46)が出土している。この壺には中央部から床面8cmおよび14cm上で出土した破片も接合した。

柱穴 床面で主柱穴と思われるピットは検出されなかった。掘り方で検出した1号ピットは柱穴の可能性がある。

周溝 床面で周溝は検出されなかったが、掘り方で南西隅から南壁沿いに周溝を検出した。幅は0.16～0.27m、深さは0.05～0.09mである。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は床面下の土坑の影響を受けて凹凸が著しかった。特に後出する22号住居との重複部分は、22号住居の掘り方が及んでいることから、床面は明確ではなかった。土層断面B-B'では明瞭にとらえることができなかった。中央部に灰と炭化物粒が広がっていた。この部分は13号床下土坑と15号床下土坑の間にあたる。

掘り方 掘り方では土坑の掘り込みは著しかった。16基の床下土坑と8基のピットを記録した。いずれの土坑

にもぶい黄褐色土や、黄褐色土粒・塊を含む黒褐色土が重なり水平に堆積していたことから、人為的埋没と判断された。また2号ピット、7号ピットも土砂が水平に重なるように埋まっており、通常のピットの埋没状態とは異なっていた。また、掘り方では中央部に長軸4.6m、短軸3.4mの長方形の掘り込みを確認した。

床下土坑の規模は下記の通りである。

- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1号床下土坑 | 長径1.20m | 短径0.70m | 深さ0.37m |
| 2号床下土坑 | 長径1.45m | 短径0.80m | 深さ0.36m |
| 3号床下土坑 | 長径1.30m | 短径1.07m | 深さ0.67m |
| 4号床下土坑 | 長径1.23m | 短径0.88m | 深さ0.61m |
| 5号床下土坑 | 長径1.06m | 短径0.92m | 深さ0.42m |

(6号床下土坑 欠番)

- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 7号床下土坑 | 長径1.00+m | 短径1.06m | 深さ0.47m |
| 8号床下土坑 | 長径1.37+m | 短径1.47m | 深さ0.48m |
| 9号床下土坑 | 長径1.22m | 短径0.98m | 深さ0.69m |
| 10号床下土坑 | 長径1.07m | 短径0.63m | 深さ0.51m |
| 11号床下土坑 | 長径1.15m | 短径0.70m | 深さ0.61m |
| 12号床下土坑 | 長径1.20m | 短径1.13m | 深さ0.39m |
| 13号床下土坑 | 長径1.12m | 短径0.90m | 深さ1.19m |
| 14号床下土坑 | 長径1.06m | 短径0.97m | 深さ0.34m |
| 15号床下土坑 | 長径1.20m | 短径1.08m | 深さ1.06m |
| 16号床下土坑 | 長径1.24m | 短径0.65m | 深さ0.49m |

これらの床下土坑には、北側に重複する22号住居の掘り方を一気に調査したことから、22号住居の床下土坑も含まれている。20号住居掘り方遺構図(第152図)に22号住居の輪郭を重ねて表示したが、5号・7号・8号・16号土坑は22号住居の床下土坑の可能性もあるが、掘り分けることができなかった。この部分の床面は明確でなかったこともそのことを傍証している。

3号床下土坑底面上14cmで須恵器蓋(第154図18)が、5号床下土坑底面上10cmで須恵器杯(27)、38cmで須恵器椀(39)が出土した。

また、掘り方で南西隅に長軸2.9m、短軸1.4mの長方形の貼り出し部が検出された。前述の床下土坑のうち3号と4号はこの張り出し部に検出された。埋没土層断面A-A'では貼り出し部に床面は検出されていないことから、3号・4号床下土坑掘削時の掘り込みと推定された。

一方、8基のピットは1号ピットが柱穴の可能性があるが、他のピットについては、その性格は不明である。

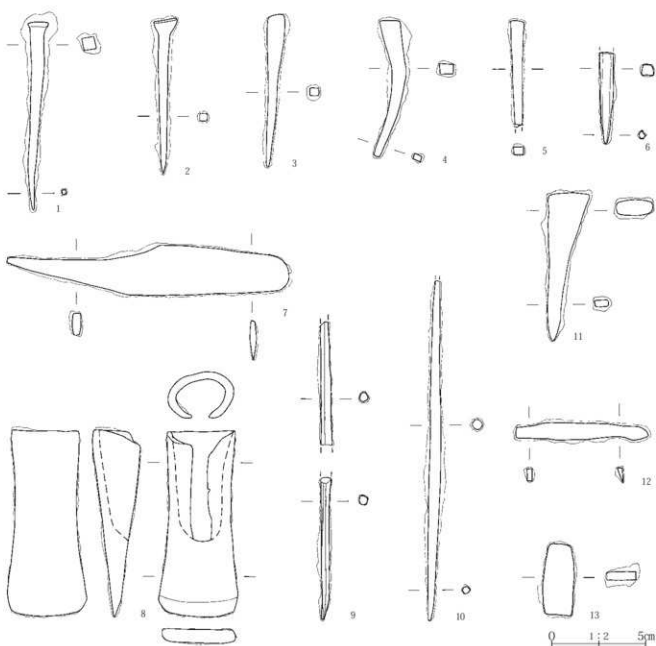
ピットの規模は下記の通りである。

1号ピット	長径0.33m	短径0.31m	深さ0.58m
2号ピット	長径0.24m	短径0.14m	深さ0.44m
3号ピット	長径0.38m	短径0.30m	深さ0.60m
4号ピット	長径0.42m	短径0.33m	深さ0.41m
5号ピット	長径0.37m	短径0.23m	深さ0.40m
6号ピット	長径0.33m	短径0.20m	深さ0.57m
7号ピット	長径0.28m	短径0.18m	深さ0.44m
8号ピット	長径0.26m	短径0.24m	深さ0.16m

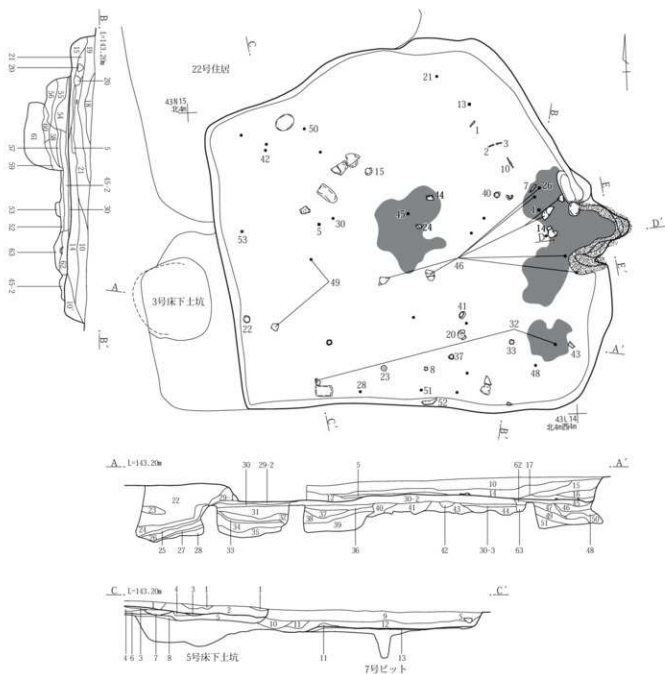
遺物と出土状況 遺物は住居全体に散在していた。床面

近くの遺物は壁に近い周辺部で出土した。須恵器杯(第154図20)や須恵器椀(33・41)は南東部床面直上で出土した。須恵器杯(28)は南西部南壁際、甕(49)は南西部床面直上で出土した。土師器小型甕(42)は北西部床面直上で、蛇紋岩製の紡輪(53)は西壁際床面上4cmで出土した。須恵器杯(21)は北壁際床面下3cmで出土した。

本住居からは鉄製品が多く出土した。不整形な北西壁沿いの床面上2～11cmで、不明鉄製品(第150図13)、釘(1・2・3)、紡錘車軸か(9)、刀子(7)、釘(4)が北西壁に平行して並んで出土した。それぞれの間隔は0.4



第150図 時沢西組屋谷戸遺跡20号住居出土遺物図(1)



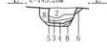
時沢20号住居 SP-C'

1. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。黄褐色土塊を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。焼土が点在する。
3. 黄褐色土と焼土が混在する。硬い床面。
4. 黄褐色土(10YR2/3)
5. 黄褐色土の厚さ1cm前後の踏み固められた床面が幾層も重なっている。
6. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。As-Cを含まない。V層上。
7. 黒褐色土 黄褐色土塊を含み硬くしまった床面。
8. 黒褐色土(10YR2/3)焼土を含む。硬い床面。
9. 黒褐色土 As-Cを含む。焼土粒と炭化物の混在が目立つ。黄褐色土粒を含む。やや砂質。
10. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土。焼土塊を多量に混在する。
11. におい黄褐色土(10YR5/3)やや粘質。
12. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。焼土目立たない。炭化物をわずかに含む。
13. 黒褐色土(10YR2/3)焼土粒を含む。硬い床面。

D, 1-143.20m



E, 1-143.20m

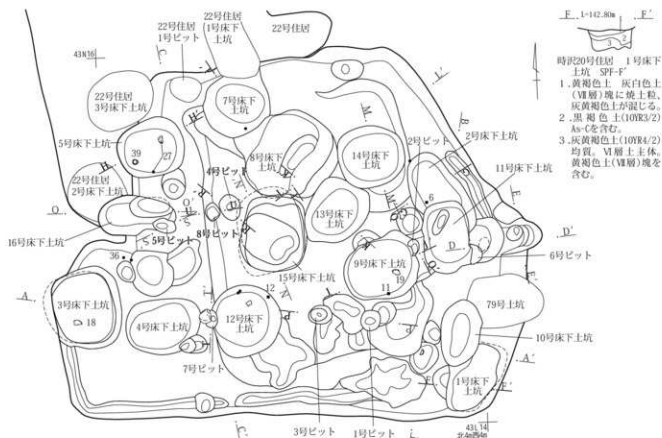


時沢20号住居 竈 SP0-D'E'

1. 暗褐色土(10YR3/3) As-Cを含む。黄褐色土粒を含む。
2. 明黄褐色土(10YR6/6)粘土質。
3. 暗褐色土。焼土塊。明黄褐色土塊が混在。暗褐色土主体。焼土粒・塊。
4. 明黄褐色土塊を含む。粘質。
5. 暗青灰色灰層火床面。
6. 暗褐色土(10YR4/4)焼土粒。黄褐色土粒を含む。
7. 明黄褐色土(10YR7/6)粘土質。焼土を含む。
8. 明黄褐色土(10YR7/6)粘土。礫材。

0 1:60 2m

第151図 時沢西組屋谷戸遺跡20号住居平面図



時沢20号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。黄褐色土塊を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。焼土が点在する。
3. 黄褐色土と焼土が混在する。硬い床面。
4. 黒褐色土(10YR2/3)
5. 黄褐色土の厚さ1cm前後の踏み固められた床面が幾層も重なっている。
6. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。As-Cを含まない。V層上。
7. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。黄褐色土と暗青灰色灰層の踏み固められた床面が幾層も重なる。
8. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。
9. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含まない。V層上。
10. 黒褐色土 As-Cを含む。焼土粒と炭化物の混在が目立つ。黄褐色土粒を含む。やや砂質。
11. 黄褐色土 V層上が多い。
12. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土。焼土塊を多量に混在する。
13. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。焼土目立たない。炭化物をわずかに含む。
14. 黒褐色土(10YR5/3)やや粘質。
15. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土粒。塊を多量に含む。焼土粒。炭化物の混在が目立つ。
16. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを多量に含む。炭化物、黄褐色土を含む。1層と同質。やや砂質。
17. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊。炭化物の混在が目立つ。As-Cを含む。やや粘質。
18. 黒褐色土(10YR3/2) 1層と同質。焼土。黒色土灰層を堆積する。
19. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土を斑状に含む。As-Cを含む。やや砂質。
20. 黄褐色土
21. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。1層と同質。
22. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。炭化物を含む。
23. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。IV層上主体。
24. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土粒。焼土が混在する。やや粘質。
25. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含む。やや粘質。
26. 24層と同じ。
27. 25層と同じ。
28. 黄褐色土。灰白色粘土塊主体。粘質。
29. 黄褐色土(V層)と黒褐色土が4~5単位で飯糰状に互層をなす。硬くしまっている。
30. 黒褐色土 As-Cを含む。硬い床面。
31. 黒褐色土 As-C、黄褐色土粒を塊状に含む。硬い床面。

32. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。焼土粒と炭化物の混在が目立つ。黄褐色土粒を含む。やや砂質。
33. 黄褐色土と褐色土(V層)塊が混在する。やや粘質。
34. 褐色土(10YR4/4)主体。黒褐色土塊を含む。粘質。
35. 34層と同様。灰白色土塊を含む。粘質。
36. 黒褐色土 褐色土。焼土が混在する。硬い面は認められない。
37. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒。塊を含む。やや粘質。
38. 黒褐色土(10YR2/3)焼土は見られない。やや粘質。
39. 黒褐色土(10YR2/3) 3層より黄褐色土塊の混在が目立つ。
40. 39層と同じ。
41. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土5cm以下埋めを含む。やや粘質。
42. 黒褐色土 IV層上主体。
43. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。黄褐色土を斑状に含む。
44. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。43層と同じ。
45. 暗青灰色灰層炭化物の混在が目立つ。硬い床面。
46. 暗青灰色土の筋状の硬面。7面認められる。硬くしまる。
47. 暗褐色土(V層)主体。黄褐色土を含む。軟質。
48. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混入目立つ。IV層上。均質。やや砂質。
49. 黄褐色土(V層)上。黄褐色土塊が混在する。やや粘質。
50. 暗褐色土 As-Cを含まない。均質。やや粘質。
51. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土塊を含む。やや粘質。
52. 黄褐色土塊主体。黒褐色土と帯状に重なる。
53. 黒褐色土 As-Cを含む。
54. 黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土粒。塊を多量に含む。炭化物を含む。やや粘質。
55. 54層と同じ。黄褐色土塊が多い。やや粘質。
56. 55層と同じ。黒褐色土塊がやや多。
57. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土粒を含む。やや粘質。
58. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土粒。焼土が斑状に混在する。やや粘質。
59. 褐色土主体。黄褐色土塊を含む。やや粘質。
60. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。IV層上主体。やや砂質。焼土を含む。
61. 褐色土粒主体。黄褐色土粒。焼土。炭化物を含む。やや粘質。
62. 黒褐色土粒 焼土粒。黄褐色土粒が混在する。
63. 62層と同じ。黄褐色土粒が少ない。

第152図 時沢西組屋谷戸遺跡20号住居囲り方面図

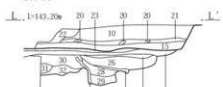
第5章 時沢西組屋谷戸遺跡の遺構と遺物



時沢20号住居 2号床下土坑 SPG-G
 1. 灰黒褐色土 黄褐色土粒・塊を多量に混じる。一括埋没。
 2. 1層と同質。一括埋没。1層と間の黒褐色土の層が堆積していた。



時沢20号住居 9号床下土坑 SPJ-J
 1. 暗青灰色灰層が厚さ5mmほどで5~7層重なる。間に褐色土層を挟む。硬くしまった床面。
 2. 黒褐色土 明黄褐色土塊が混在。焼土粒、青灰色土を含む。
 3. 灰黄褐色土 明黄褐色土粒、焼土粒の混在が目立つ。一括埋没。
 4. にぶい黄褐色土(10YR5/3)明黄褐色粘土(10YR7/6)(V層)塊を多量に含む。
 5. 暗青灰色灰土層。焼土粒を含む。明黄褐色土塊を含む。



時沢20号住居 8号・14号床下土坑 SPL-L
 10. 黒褐色土 As-Cを含む。焼土粒と炭化物の混在が目立つ。黄褐色土粒を含む。やや粘質。
 15. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを多量に含む。炭化物、黄褐色土を含む。10層と同質。やや砂質。
 20. 黄褐色土塊。
 21. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。18層と同質。
 22. 14層と同質。
 23. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土塊を含む。硬く詰みしまった床面。As-Cを含む。
 24. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。褐色土の薄い層。灰層を縞状に挟む。硬くしまった床。
 25. 黒褐色土と黄褐土が塊状に混在。やや粘質。
 26. 明黄褐色土塊主体。焼土粒を含む。灰白色土をわずかに混じる。粘質。一括埋没。
 27. 黒褐色土と明黄褐色土塊が混在。
 28. 26層と同じ。一括埋没。灰白色土を含む。
 29. 灰黄褐色土(10YR4/2)明黄褐色土。焼土。炭化物を含む。軟質。
 30. 暗褐色土(10YR3/3)褐色土(V層)とAs-C混黒褐色土(IV層)が混在。
 31. 明黄褐色土 V層土塊とAs-C混黒褐色土(IV層)が混在する。
 32. 明黄褐色土塊主体。黒褐色土塊が混在する。



時沢20号住居 2号ビット SPQ-Q
 1. 黒色土・灰、黄褐色土、灰黄褐色土が縞状に重なる。硬い床面。
 2. 暗褐色土(10YR3/3)焼土、青灰色土を多量に含む。
 3. 黄褐色土 V層土主体。
 4. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。黄褐色土を縞状に含む。



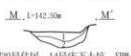
時沢20号住居 8号ビット SPU-U
 1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
 2. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。黄褐色土粒を含む。



時沢20号住居 5号床下土坑 SPH-H
 1. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土塊を含む。As-Cを含む。やや粘質。
 2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)VI層土塊主体。黒褐色土を混じる。
 3. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを少量含む。やや粘質。
 4. にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層よりも黒褐色土・塊の混入多い。
 5. 黒褐色土(10YR2/2)3層と同質。やや粘質。As-Cを含む。やや砂質。



時沢20号住居 13号床下土坑 SPK-K
 1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。IV層土と褐色土(V層)土が混在する。
 2. 褐色土(10YR4/4)塊主体。As-C混じる。黒褐色土と混じる。やや粘質。
 3. 明黄褐色土(V層)土塊の塊に貼り附らせている。
 4. 明黄褐色土塊主体。褐色土を混じる。
 5. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。IV層土。
 6. 黒褐色土中に褐色土、黄褐色土を多量に含む。(7号土坑埋没土)
 7. 1層に近い。(13号土坑埋没土)



時沢20号住居 14号床下土坑 SPH-M
 1. 明黄褐色土塊主体。焼土粒、青灰色土を含む。
 2. 1層に黒褐色土をわずかに混じる。



時沢20号住居 15号床下土坑 SPH-N
 1. にぶい黄褐色土塊。VI層土主体。黒褐色土粒を含む。やや粘質。
 2. にぶい黄褐色土塊と黒褐色土が混じり、明黄褐色土粒を含む。やや粘質。
 3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)粘質。VI層土主体。明黄褐色土(V層)塊を含む。
 4. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。
 5. にぶい黄褐色土 明黄褐色土塊を含む。3層と同じ。
 6. 明黄褐色土塊主体。にぶい黄褐色土を混じる。粘質。



時沢20号住居 4号ビット SPR-R
 1. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土粒を多量に含む。やや粘質。
 2. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土粒を含む。粘質。



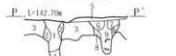
時沢20号住居 5号ビット SPS-S
 1. 黒褐色土(10YR3/2)As-C、黄褐色土粒の混入が目立つ。やや粘質。
 2. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土塊を多量に含む。



時沢20号住居 7号・8号床下土坑 SPI-I
 1. 黒褐色土(10YR3/2)焼土粒。にぶい黄褐色土(10YR5/3)(V層)土を多量に含む。
 2. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土粒・塊を含む。As-C、焼土粒を含む。
 3. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cは目立たない。やや粘質。にぶい黄褐色土粒を含む。
 4. 黒褐色土(10YR2/3)にぶい黄褐色土粒、焼土粒の混入が目立つ。
 5. にぶい黄褐色土 粘質。土坑壁に貼り付けられている粘土。
 6. 黒褐色土 にぶい黄褐色土粒を含む。やや粘質。
 7. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒。褐色土塊を含む。やや粘質。
 8. 黒褐色土 As-Cを含む。IV層土主体。
 9. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土塊を多量に含む。粘質。
 10. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。IV層土主体。



時沢20号住居 16号床下土坑 SPO-O
 1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。やや砂質。IV層土主体。
 2. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土(10YR4/4)塊を縞状に含む。
 3. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土の混入が目立たない。1層と同質。
 4. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土塊を多量に含む。粘質。
 5. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。IV層土主体。均質。やや粘質。



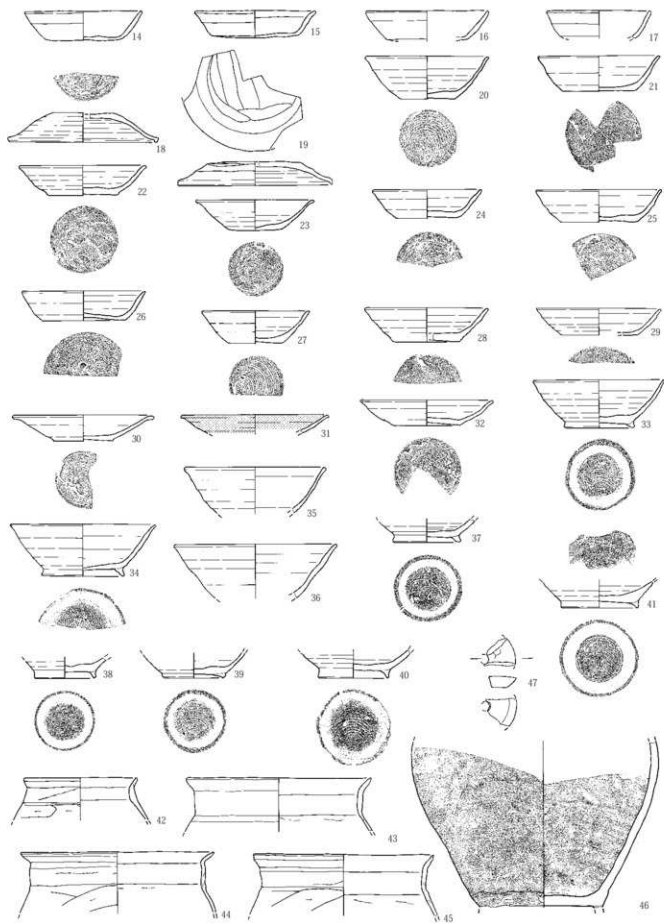
時沢20号住居 1号・3号ビット SPP-P
 1. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊・粒を多量に混在する。軟質。
 2. 黄褐色土(10YR5/6)V層土塊主体。黒褐色土を混じる。比較的軟質。
 3. 黒褐色土 焼土。炭化物、黄褐色土粒を含む。(20号住居掘り方埋没土)
 4. 黒褐色土 1層と同じ。黄褐色土の混入が少ない。
 5. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊を混在する。As-Cを含む。硬くしまった床面。
 6. 黒褐色土 黄褐色土塊を多量に含む。
 7. 黄褐色土(10YR5/6)黒褐色土粒を含む。
 8. 灰黄褐色土 焼土粒を多量に含む。
 9. 黒褐色土と黄褐色土塊が混在する。



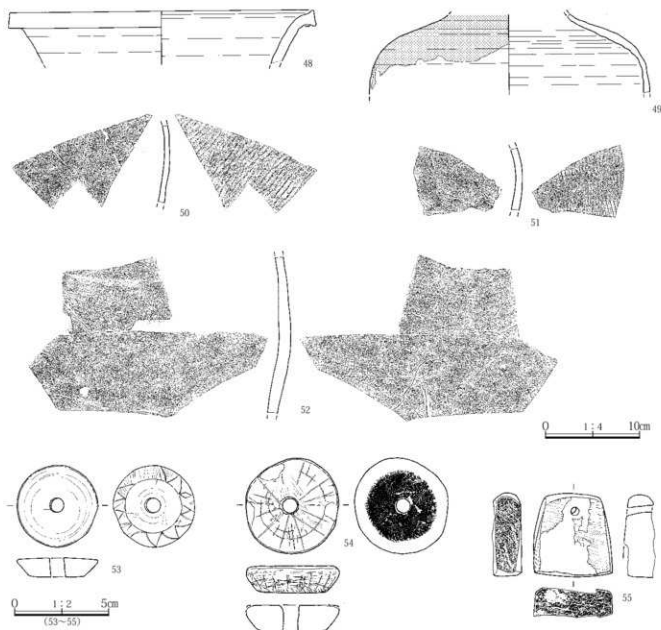
時沢20号住居 7号ビット SPT-T
 1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含むやや砂質。
 2. 黒褐色土塊と黄褐色土塊が混在する。
 3. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土塊を多量に含む。
 4. 2層と同じ。
 5. 3層と同じ。



第153図 時沢西組屋谷戸遺跡20号住居掘り方土層断面図



第154図 時沢西組屋谷戸遺跡20号住居出土遺物図(2)



第155図 時沢西組屋谷戸遺跡20号住居出土遺物図(3)

～0.5mである。また、東壁際では袋状鉄斧(第150図8)が床面直上で出土した。中央や南側では釘(5)が出土した。住居中央には灰や炭化物が広がり、北西部には大型礫が5個出土している。これらの情報と比較的多くの鉄製品との関連を考慮すると、何らかの鉄器生産関連遺構の存在が想起されるが、床面に焼土化し硬化した痕跡や鍛造剥片等の出土は認められなかった。

埋没土中から砥沢石製の砥石(第155図55)、蛇紋岩製の紡輪(53)、滑石製の紡輪(54)、土師器杯(第154図16・17)、須恵器杯(25・29)、須恵器碗(34・35)、灰釉陶器皿(31)、須恵器転用(47)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片235点、壺・甕類破片748点、須恵器杯・碗類破片346点、瓶・甕類破片52点、灰釉陶器碗破片2点出土した。

所見 出土遺物から9世紀中葉の住居と考えられる。掘り方を一気に掘り下げて調査したことから、住居掘り込み前の遺構の有無を確認することができなかった。特に西側にある「3号床下土坑」は住居掘り下げ前には埋まっており、住居掘り方面より古い遺構と考えなければならない。他にもピットや土坑が多数検出され、南西隅には張り出し部分も検出されている。北東壁の特異性も含めて考えると、遺構が重複する可能性もあろう。

時沢西組屋谷戸遺跡21号住居

(第156～158図 PL.64・65・118 遺物観察表P.344・354)

グリッド 43区K・L14・15

形状 隅丸方形

重複 26号住居より新しい。

規模 長径6.13m 短径3.92m 残存壁高0.15m

面積 20.56㎡ 長軸方位 N-0°-E

埋没土 As-C、黄褐色土粒を含む、やや砂質の黒褐色土で埋まっていた。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長0.70m、焚口幅0.80m。袖の残存長は左右ともなかった。壁外に燃焼部が0.62m伸びる。竈内の焼土や灰面の残存は不良で、竈前の床面への灰面はわずかに広がる程度であった。燃焼部で土師器片が出土したが、小破片である。

柱穴 床面で支柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。1号床下土坑は検出された位置が南東隅であったことから貯蔵穴の可能性がある。上層は他の床下土坑と同様に焼土粒や黄褐色土塊を含む灰褐色土が堆積していたが、下層は焼土粒やAs-C等の軽石粒、ローム粒を含む黒色土で埋まってお

り、自然埋没と判断された。

1号床下土坑の規模は長径1.07m、短径0.88m、深さ0.61mの不整楕円形である底面上5cmで棒状の不明鉄製品(第156図9)が出土した。

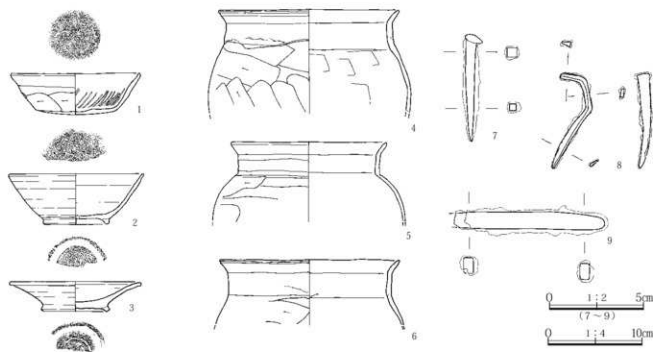
床面 床面は床下土坑の影響で凹凸がみられた。

掘り方 掘り方で3基の床下土坑を検出した。1号床下土坑は南東部で検出された。規模や埋没土の特徴は既述した。住居廃絶時には埋まっていた住居の貯蔵穴の可能性はある。1号床下土坑埋没土中から土砂をかみ込んだ鉄滓1点(PL.118-11)が出土した。

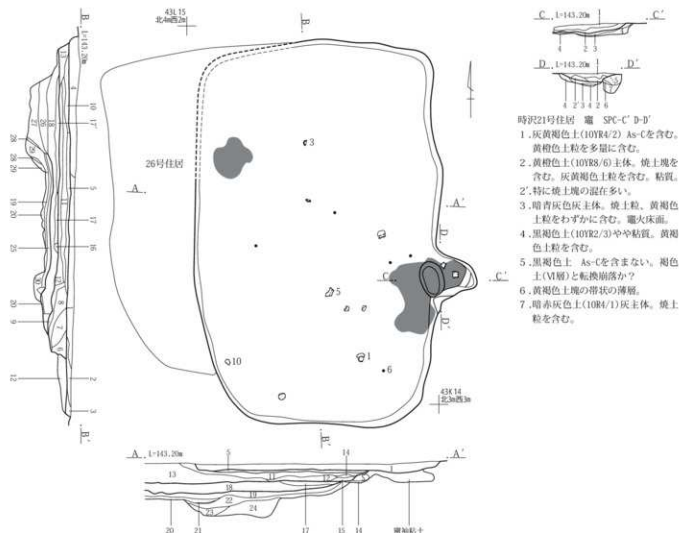
2号床下土坑は北東隅で検出された。長径1.10m、短径0.64m、深さ0.71mの楕円形。箱形で壁は挟り込むように掘られていた。3号床下土坑は竈北側で検出された。長径1.17m、短径0.70m、深さ0.61mの楕円形。断面形は箱形で、底面はやや丸かった。底面上20cmで不明鉄製品(7)が出土した。

遺物と出土状況 遺物は竈周辺に比較的多く出土した。土師器杯(第156図1)は南東部床面直上で、土師器甕(6)は南東部壁近く床面直上で出土した。5は中央部床面直上で出土した。また、一部欠損した埴形鍛冶滓(PL.118-10)が南西隅底面3cmで出土した。

埋没土中から須恵器椀(2)、土師器甕(4)、不明鉄製品(8)が出土した。



第156図 時沢西組屋谷戸遺跡21号住居出土遺物図



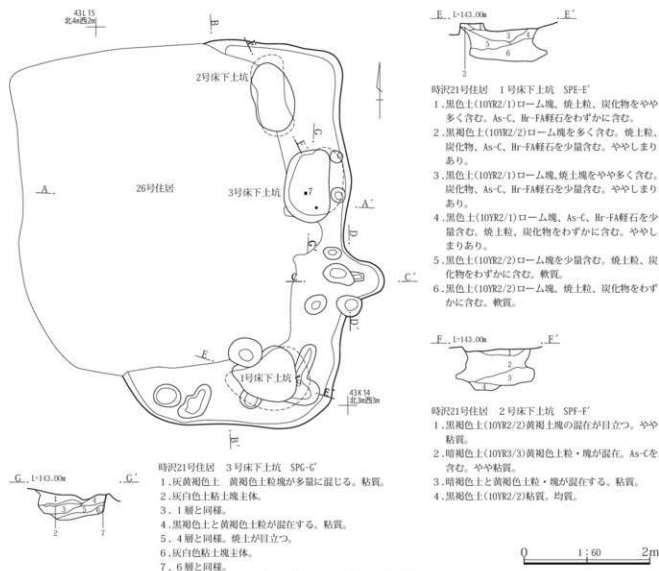
- 時沢21号住居 竈 SPC-C' D-D'
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-Cを含む。黄褐色土粒を多量に含む。
 2. 黄褐色土(10YR8/6)主体。焼土塊を含む。灰黄褐色土粒を含む。粘質。2'特に焼土塊の混在多い。
 3. 暗青灰色灰土体。焼土粒、黄褐色土粒をわずかに含む。竈火床面。
 4. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。黄褐色土粒を含む。
 5. 黒褐色土: As-Cを含まない。褐色土(VI層)と転換面層か?
 6. 黄褐色土塊の帯状の薄層。
 7. 暗赤灰色土(10R4/1)灰土体。焼土粒を含む。

時沢21号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。黄褐色土粒を含む。(21号住居埋没土)
2. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土を斑状に含む。(21号住居埋没土)
3. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含むが少ない。やや粘質。(21号住居埋没土)
4. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土塊を帯状に含む。(21号住居埋没土)
5. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。黄褐色土粒・塊が1cm厚さの帯状に挟み硬くしまっている。(21号住居床面)
6. 褐色土(10YR4/4)黄褐色土塊を多量に含む。(21号住居掘り方埋没土)
7. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質(21号住居掘り方埋没土)
8. 暗褐色土(10YR3/3) As-Cを含む。焼土粒を多量に含む。(21号住居掘り方埋没土)
9. 黄褐色土(VI層)塊と褐色土(VI層土)が混在。(21号住居掘り方埋没土)
10. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。(10層以下26号住居埋没土)
11. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。黄褐色土粒1cm大以下の混在が目立つ。焼土を含む。
12. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒、焼土を含む。やや粘質。As-Cを含むが目立たない。
13. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。
14. 焼土塊主体。黄褐色土と混在する。
15. 黄褐色土粒主体。竈の崩落。
16. 黒褐色土(10YR2/3)均質。
17. 黄褐色土(10YR5/6)塊主体。焼土粒を含む。青灰色灰層の床面を挟む。
18. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。やや粘質。黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土粒・塊を多量に含む。上面は硬化面。
19. 黒褐色土塊と黄褐色土粒・塊が混在。暗青灰色灰層と黄褐色土の硬く薄層が筋状に数層重なる。
20. 黄褐色土(10YR5/6)塊主体。粘質。
21. 黒土上灰層
22. 黄褐色土塊 20層と同様。粘質。
23. 黄褐色土塊 黒褐色土塊が24層より多い。粘質。
24. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土塊を多量に含む。粘質。As-Cを含む。
25. 暗青灰色灰層 中間に厚さ1cmの黒土上灰層。黄褐色土層を筋状に挟む。筋状の柔らかい層。
26. 24層と同様。焼土粒を含む。
27. 黄褐色土粒主体。黒褐色土粒、焼土粒、青灰色灰を含む。
28. 黄褐色土塊主体。
29. 26層と同様。
30. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊を多量に含む。

0 1:60 2m

第157図 時沢西組屋谷戸遺跡21号住居床面図



第158図 時沢西組屋谷戸遺跡21号住居掘り方面図

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片108点、壺・甕類破片155点、須恵器杯・椀類破片77点、瓶・甕類破片9点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀中葉～後葉の住居と考えられる。

調査当初は北壁の位置を認識し、北西部の炭化物の広がりを目安に北壁ラインを想定して、床面の全景写真を撮影した。しかし、本住居の床面下に26号住居が確認され、26号住居の掘り方調査の際に21号住居の北隅の確認ができた。当初は住居平面形が南北に長くなることから躊躇したが、21号住居掘り方東壁は明確に検出することができた。

時沢西組屋谷戸遺跡22号住居

(第159～161図 PL.65～67・119 遺物観察表P.344・354)

グリッド 43区M・N15・16

形状 長方形

重複 20号住居より新しい。

規模 長径4.68m 短径3.8m 残存壁高0.2m

面積 15.49㎡ 長軸方位 N-14°-W

埋没土 上層はAs-Cを含み、黄褐色土塊を多量に含む黒褐色土で、下層はAs-Cを含み、焼土が点在する黒褐色土で埋まっていた。

竈 住居東壁ほぼ中央に1号竈、その南側に2号竈が構築されていた。1号竈が古く、2号竈が新しい。竈はいずれも掘り方内に粘土を貼り付けて構築されていた。

1号竈は、確認長1.42m、焚口幅0.66m。袖の残存長は向かって右側が0.33m、左側は顕著な残存は無かった。袖の芯に使われた礫は残っていた。壁外に0.55m燃焼部が、0.38m煙道が伸びていた。燃焼部使用面上11cmで須恵器椀(第161図4)が出土した。また1号竈左脇で灰釉陶器皿(5)が床面直上で出土した。1号竈の火床面上には灰白色粘土層が踏み固められたような状態で出土した。(4層)を検出した。2号竈構築時に使われた粘土の可能性はある。

2号竈は、確認長1.28m、焚口幅0.82m。袖の残存長は向かって右側が0.37m、左側は0.33mで1号竈右袖が兼用されたものとみられる位置にある。壁外に0.52m燃焼部が、0.30m煙道が伸びていた。2号竈右脇の東壁際床面直上で須恵器円盤状土製品(7)が出土した。

柱穴 床面で主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は床下土坑の影響を受けて凹凸が著しかった。

掘り方 掘り方で4基の床下土坑と2基のピットを検出した。本住居の掘り方調査は、南側に重複する20号住居の掘り方と一緒に調査したことから、20号住居の床下土坑として記録された土坑の中に本住居の床下土坑も含まれている可能性がある。22号住居掘り方遺構図(第160図)に20号住居の輪郭を重ねて表示したが、内部にある5号・7号・8号・16号土坑は22号住居の床下土坑である可能性がある。厳密には掘り分けることができ

なかった。報告では、これらの床下土坑は20号住居の土坑として記載した。

1号床下土坑は1号竈前の位置で検出された。長径1.18m、短径0.65m、深さ0.88mの楕円形。断面形はU字形で、底面は丸かった。埋没土はほぼ水平に堆積していた。

2号床下土坑は南西隅で検出された。長径0.90m、短径0.68m以上、深さ0.57mのほぼ円形。断面形はすり鉢状で、底面は平坦である。

3号床下土坑は西部で検出された。長径1.14m、短径0.90m、深さ0.65mの楕円形。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。

4号床下土坑は北西隅で検出された。長径1.45m、短径1.07m、深さ0.97mの楕円形。深い箱形で、底面近くは挟り込んでいた。底面上0.43mで鉄鏝(第161図10)が出土した。また、比重が比較的重く、磁着度のある板状遺物(PL.119-12)が4号床下土坑埋没土中から出土した。素材は不明である。

1号ピットは住居中央で検出された。長径0.50m、短径0.38m、深さ0.76mのほぼ円形。2号ピットは北東隅で検出された。長径0.52m、短径0.48m、深さ0.23mの楕円形。断面形はボール状で、底面は丸い。2号ピットには灰白色粘土が充填されていた。

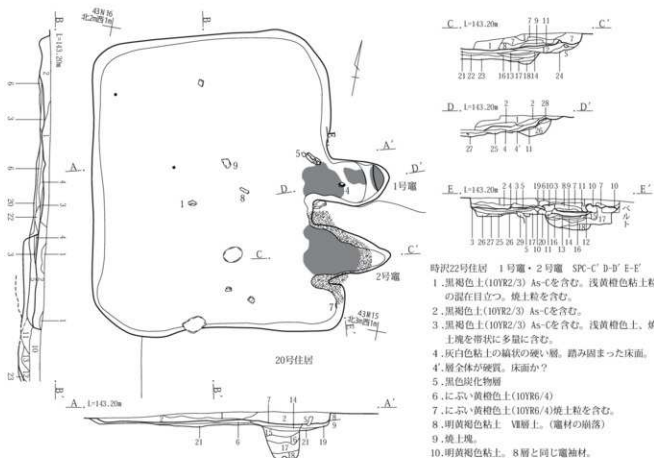
遺物と出土状況 遺物は竈周辺と中央部に散在していた。須恵器杯(第161図1)は住居中央よりやや西側の床面上6cmで、須恵器甕(8・9)は中央部床面直上で出土した。南部床面直上では大型円礫、南壁際では大型角礫が出土したが、使用痕は検出されなかった。埋没土中から黒色頁岩製の研磨具(第230図36)が、須恵器杯(第161図2)、土師器甕(6)、鉄鏝(11)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片44点、甕・甕類破片321点、須恵器杯・椀類破片162点、瓶・甕類破片20点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀中葉の住居と考えられる。

竈は東壁に2基検出されたが、1号竈が廃されて2号竈が造り直されたものと思われる。2号竈は重複し先行する20号住居埋没土中に造られていた。

調査では、重複関係に即して22号住居2号竈を除去して、22号よりも古い20号住居を完掘した。このため22号住居掘り方調査時には1号竈のみが残ることとなった。



時沢22号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。黄褐色土塊を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。焼土が点在する。
3. 黄褐色土と焼土が混在する。硬い床面。
4. 黒褐色土(10YR2/3)
5. 黄褐色土の厚さ1cm前後の踏み固められた床面が幾層も重なっている。
6. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。As-Cを含まない。V層上。
7. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。黄褐色土、暗青灰色灰層の踏み固められた床面が幾層にも重なる。
8. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。別遺構の埋没土。
9. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含まない。V層上。
10. 黒褐色土。As-Cを含む。焼土粒と炭化物の混在が目立つ。黄褐色土粒を含む。やや砂質。
11. 黄褐色土(V層)土が多い。
12. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土。焼土塊を多量に混在する。(20号住居埋没土)
13. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。焼土は目立たない。炭化物をわずかに含む。(20号住居埋没土)
14. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。焼土塊・黄褐色土粒が帯状に堆積する。やや粘質。
15. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。褐色土(10YR4/4) (V層)塊を帯状に含む。
16. 灰黄褐色土(10YR5/2)粘質。均質。V層上。
17. 灰黄褐色土塊。黒褐色土塊が混在する。粘質。
18. 7層よりも黒褐色土塊混在が少ない。粘質。
19. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土の薄い層が2~3層輪状に互層をなす。硬い床面。
20. 黒褐色土(10YR2/3)焼土を含む。硬い床面。
21. 褐色土 V層土主体。焼土を含む。
22. 黒褐色土 黄褐色土塊を含み硬くしまった床面。

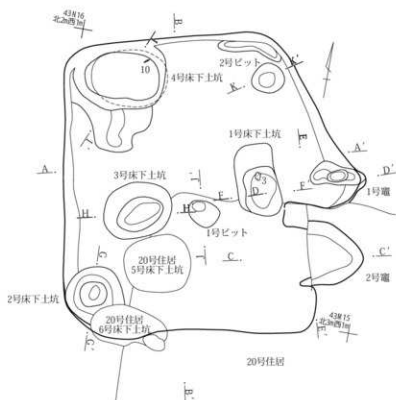
時沢22号住居 1号竈・2号竈 SPC-C' D-D' E-E'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。浅黄褐色粘土粒の混在が目立つ。焼土粒を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。浅黄褐色土、焼土塊を帯状に多量に含む。
4. 灰白色粘土の輪状の硬い層。踏み固まった床面。
- 4'. 層全体が硬質。床面か?
5. 黒色炭化物層
6. にぶい黄褐色土(10YR6/4)
7. にぶい黄褐色土(10YR6/4)焼土粒を含む。
8. 明黄褐色粘土 V層上。(竈材の崩落)
9. 焼土塊。
10. 明黄褐色粘土。8層と同じ竈土材。
11. 暗青灰色灰層竈火床面。
12. 明黄褐色粘土。均質。(竈材の崩落)
13. 褐色土 灰層
14. 明黄褐色土 10層と同じ。
15. 黄褐色土 焼土、灰が混在する。
16. 黒褐色土 炭化物、焼土を含む。
17. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。焼土粒を含む。
18. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土粒を含む。炭化物を混在する。
19. 黒褐色土(10YR2/3)焼土粒、黄褐色土粒を含む。
20. 焼土塊。黒色土灰、黒褐色土が混在。
21. 暗青灰色灰、灰白色土の薄層が輪状に幾層も堆積する。
22. 21層と同じ。黄褐色土の薄層を挟む。
23. 黒褐色土中に焼土、炭化物、黄褐色土粒を多量に混在する。
24. 焼土塊主体。暗青灰色灰が混在する。
25. 黄褐色土 粘質。塊主体。焼土を含む。
26. 焼土粒主体。黄褐色土粒、灰を混在する。
27. 暗青灰色灰層
28. にぶい黄褐色土(10YR5/4)粘土。上部は焼土化。
29. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。(20号住居埋没土)
30. 褐色土(10YR4/4)均質。やや粘質。(20号住居埋没土)

0 1:60 2m

第159図 時沢西組屋谷戸遺跡22号住居床面図

第5章 時沢西組屋谷戸遺跡の遺構と遺物



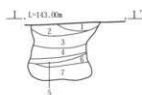
時沢22号住居 2号床下土坑 SPG-G'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。黄褐色土粒を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。IV層上主体。
3. 黒褐色土。粘質。灰白色土塊を多量に含む。



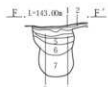
時沢22号住居 3号床下土坑 SPH-H'

1. 黄褐色土塊主体。焼土粒の混入も目立つ。黒褐色土と混じる。やや粘質。硬くしまった床面。
2. 黒褐色土(10YR2/2)やや粘質。As-Cを含む。褐色土(VII層)を混入に含む。
3. 灰黄褐色土(VI層)と黄褐色土(VII層)が混在する。粘質。



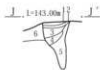
時沢22号住居 4号床下土坑 SPI-I'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C。焼土の混入が目立つ。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。焼土少ない。やや砂質。
3. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒の混入が目立つ。やや砂質。
4. 黒褐色土。黒褐色土粒。褐色土塊を多量に含む。やや砂質。
5. 灰白色粘土塊主体。粘質。
6. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。黄褐色土粒を含む。やや粘質。
7. 4層に近似。やや粘質。灰白色土塊も混じる。



時沢22号住居 1号床下土坑 SPF-E'

1. 黒褐色土と黄褐色土が混在する硬い床面。
2. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。黄褐色土粒を含む。
3. 明黄褐色土(10YR7/6)VII層上塊主体。
4. 黒褐色土。2層に近似。
5. 褐灰色土(10YR5/1)均質な灰褐色炭化物粒を含む。
6. 褐灰色土(10YR4/1)焼土粒。黄褐色土粒。炭化物粒を含む。
7. 褐灰色土(10YR4/1)黒褐色粘質土塊の混在が目立つ。一括埋没。



時沢22号住居 1号ピット SPJ-J'

1. 黄褐色土(VII層)塊主体。焼土を混じる。硬い床面。
2. 褐灰色土。灰。焼土。黄褐色土粒を含む。
3. 暗褐色土(VI層)主体。黄褐色土(VII層)塊を多量に含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土粒をわずかに含む。やや砂質。
5. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。IV層上主体。やや砂質。黄褐色土塊を含む。
6. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。IV層上主体。均質。

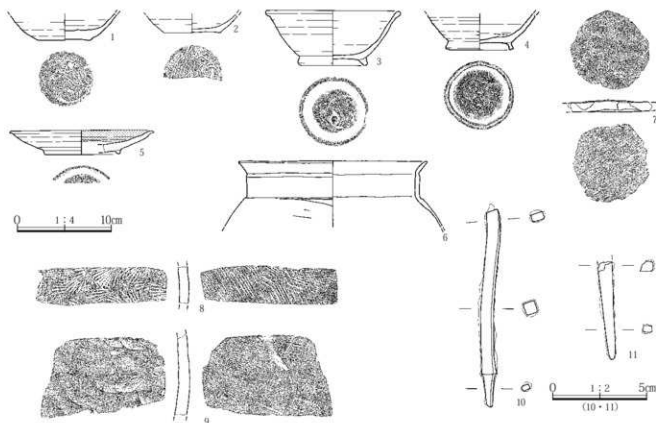


時沢22号住居 2号ピット SPK-K'

1. 明黄褐色土粘土。上面は硬い床面。黒褐色土粒を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。



第160図 時沢西組屋谷戸遺跡22号住居掘り方面図



第161図 時沢西紺屋谷戸遺跡22号住居出土遺物図

時沢西紺屋谷戸遺跡23号住居

(第162・163図 PL.67・68・119 遺物整理表P.344・354～356)

グリッド 43区I・J10

形状 長方形

重複 24号住居より新しい。

規模 長径3.74m 短径3.07m 残存壁高0.5m

面積 8.28㎡ 長軸方位 N-90°-E

埋没土 上層はAs-C、黄褐色土粒を含むやや砂質の黒褐色土で、下層は黄褐色土を斑状に含むやや粘質の暗褐色土や、黄褐色土塊、黒褐色土塊を含み、As-Cをわずかに含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。下層は壁際に高く積まれたような部分もあり、塊状の土砂も含まれることから、人為埋没と判断された。

床面直上の埋没土中に洪水層らしい水成層(5層)が認められた。本遺跡内の他の住居では、この層を確認できなかった。

竈 住居東壁南端に竈が構築されていた。確認長0.82m、焚口幅0.60m。左右ともに袖の残存は無かった。壁外に0.49m燃焼部が伸びる。竈は掘り方内にて明黄褐色粘土を貼り巡らせて造られていた。竈の袖の張り出しは顕著で

なかったが、竈の左袖部掘り方内は粘土と黒褐色土を縮状に重ねて造られていた。

竈前の床面には灰面が広がっていた。土師器甕(第163図8)が竈燃焼部使用面上3cmで出土した。また燃焼部で出土した土師器甕破片が、竈前床面上6cmで出土した土師器甕(7)に接合している。

柱穴 床面で支柱穴と思われるピットは検出されなかった。

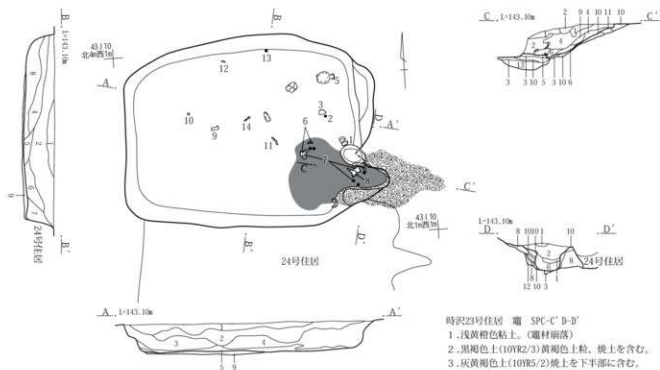
周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は平坦であった。

掘り方 掘り方で1基のピットを竈前で検出した。長径0.50m、短径0.40m、深さ0.25mの楕円形である。本住居の掘り方面では若干の凹凸があったが、大きな掘り込みはなかった。

遺物と出土状況 遺物は東半分にて集中して出土した。須恵器長頸壺(第163図5)は北東隅床面直上でほぼ完形で出土した。北東部で出土した須恵器蓋(3)は33cm、土師器杯(2)は24cm床面から浮いて出土した。土師器小型甕(6)は竈前灰面上6cm、7は6cmで出土した。

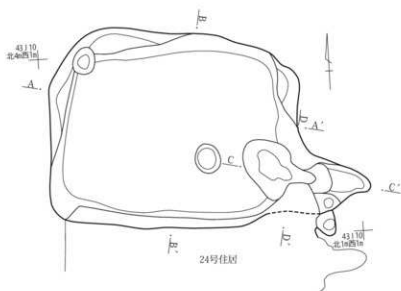


時沢23号住居 SPA-A' B-B'

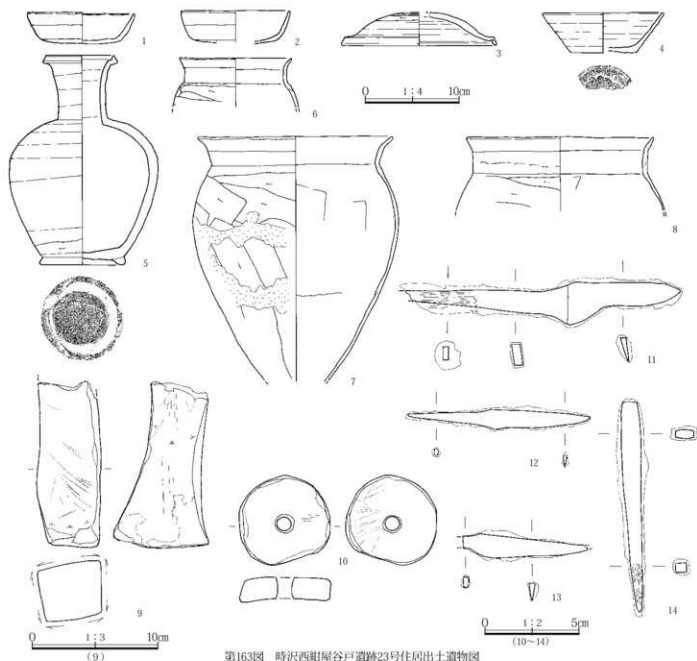
1. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒1cm大の混入が目立つ。As-Cを含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。黄褐色土粒を含む。1層よりも少ない。やや砂質。
3. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土を斑状に。多量に混じる。As-Cを含む。やや粘質。
4. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土を斑状に含むが3層よりも少ない。やや粘質。
5. 灰黄褐色土(10YR5/2)シルト質。均質。水成層。下半部は微細砂の縞状堆積も見られる。As-Cを含まない。
6. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。黄褐色土粒をわずかに含む。
7. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。空隙があり。軟質。
8. にぶい黄褐色土(10YR5/4)黄褐色土塊、黒褐色土塊を含む。As-Cをわずかに含む。
9. 黒褐色土 黄褐色土塊を多量に含む。

時沢23号住居 竈 SPC-C' D-D'

1. 浅黄褐色粘土。(竈材崩落)
2. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒、焼土を含む。
3. 灰黄褐色土(10YR5/2)焼土を下半部に含む。
4. 灰黄褐色土(10YR5/2)黄褐色土粒、黒褐色土を混じる。やや粘質。
5. 暗褐色土(10YR3/3)軟質。均質。
6. 焼土塊主体。黒褐色土を混じる。(竈壁の崩壊)
7. 赤褐色土 焼土。
8. 黒褐色土 As-Cを含みやや砂質。IV層土主体。黄褐色土粒を含む。
9. 褐色土(10YR4/4)均質。やや粘質。
10. 明黄褐色粘土(10YR6/6)
11. 黒褐色土 黄褐色土粒を多量に混じる。
12. にぶい黄褐色土(10YR5/3)
13. 黒褐色土 黄褐色土塊が多量に混在。やや粘質。



第162図 時沢西組屋谷戸遺跡23号住居床面・掘り方面図



第163図 時沢西組屋谷戸遺跡23号住居出土遺物図

本住居からは鉄製品も多く出土した。北壁際床面上6cmで刀子(第163図13)、床面直上で刀子(12)、中央部床面上8cmで不明鉄製品(14)、刀子(11)が床面直上で出土した。また、中央やや西寄り床面上22cmで砥沢石製の紡輪(10)、床面直上で砥沢石の砥石(9)が出土した。埋没土中から黒色頁岩製の加工痕ある剥片、須恵器杯(4)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器壺・甕類破片109点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀中葉の住居と考えられる。

時沢西組屋谷戸遺跡24号住居

(第164・165図 PL.68・69・120 遺物観察表P.345・354)

グリッド 43区I・J 9・10

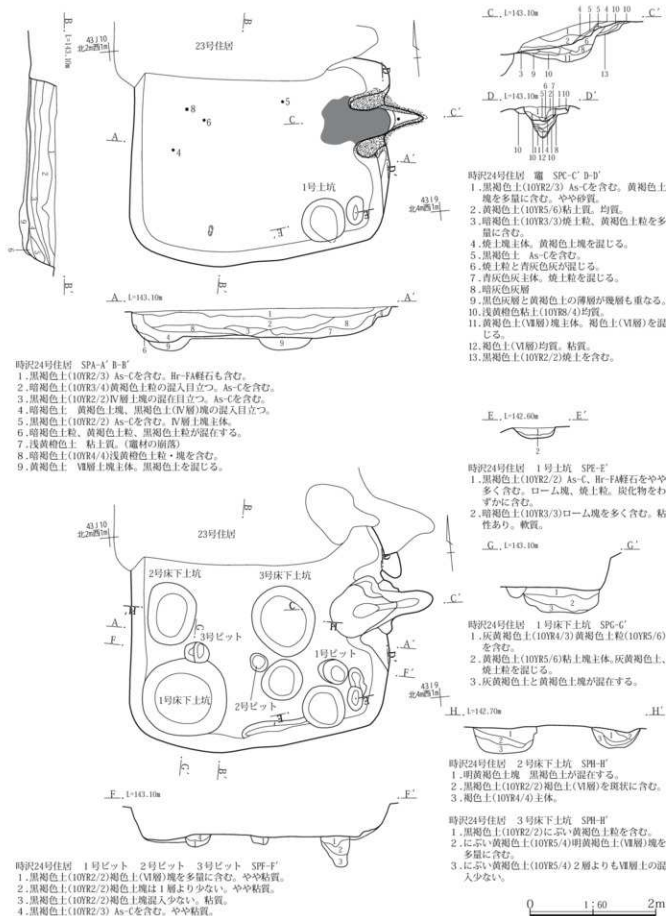
形状 北壁を23号住居に壊されており全形がとらえられなかったが、長方形と推定される。

重複 23号住居より古い。

規模 長径4.10m 短径2.9m以上 残存壁高0.49m

面積 計測不能 **長軸方位** N-6°-E

埋没土 上層はAs-C、黄褐色土粒の混入目立つ暗褐色土で、下層は黄褐色土塊、黒褐色土塊の混入目立つ暗褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。



第164図 時沢西組屋谷戸遺跡24号住居床面・掘り方面図

竈 住居東壁中央やや北側に竈が構築されていた。確認長1.12m、焚口幅0.60m。袖の残存長は向かって右側が0.26m、左側が0.30m。壁外に燃焼部が0.67m、煙道が0.45m伸びていた。竈は掘り方壁面に浅黄橙色粘土を1cmほどの厚さで貼り巡らしている(10層)。竈使用面下にも同様に粘土を敷いていた。竈前の床面には灰面が広がっていた。竈の出土遺物はなかった。

柱穴 床面で主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 南東隅に長径0.70m、短径0.68m、深さ0.20mのほぼ円形の貯蔵穴が検出された。(1号土坑)

床面 床面は平坦であった。

掘り方 掘り方面で3基の床下土坑と3条のピットを検出した。いずれの土坑にもぶい黄褐色土や、黄褐色土粒・塊を含む黒褐色土が重なり水平に堆積していたことから、人為的埋没と判断された。

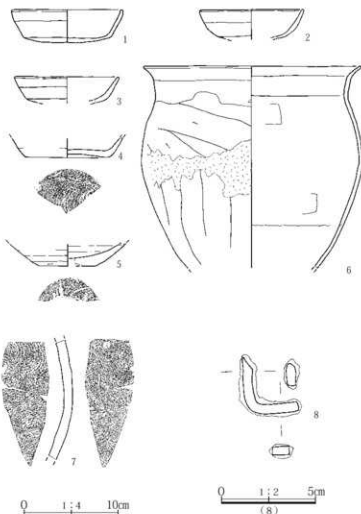
1号床下土坑は南西隅で検出された。長径1.35m、短径1.24m、深さ0.42mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦である。2号床下土坑は西壁沿いで検出された。長径1.00m、短径0.75m、深さ0.32mの楕円形。断面形はボール状で、底面は平坦である。3号床下土坑は中央部竈前で検出された。長径1.14m、短径1.00m、深さ0.44mの楕円形。断面形は箱形で、底面は平坦である。

1号ピットは南東部で検出された。長径0.48m、短径0.37m、深さ0.59mの楕円形。断面形は筒状で、南東隅の住居主柱穴の可能性もある。2号ピットは中央やや南側で検出された。長径0.32m、短径0.27m、深さ0.18mの楕円形。断面形はボール状で浅い。3号ピットは西部で検出された。長径0.40m、短径0.32m、深さ0.28mの楕円形。断面形は浅い箱形で、底面は丸い。

遺物と出土状況 遺物の出土は少なかった。土師器甕(第165図6)は西部床面直上で出土した。須恵器杯(4)は西部床面上44cm、皿(5)は北東部床面上35cmで出土した。埋没土中から土師器杯(1・2・3)、須恵器甕(7)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器類破片15点、壺・甕類破片32点、須恵器杯・椀類破片8点、瓶・甕類破片4点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀中葉の住居と考えられる。



第165図 時沢西組屋谷戸遺跡24号住居出土遺物図

時沢西組屋谷戸遺跡25号住居

(第166図 PL.69・70・120 遺物観察表P.345)

グリッド 43区J・K10・11

形状 不整丸長方形

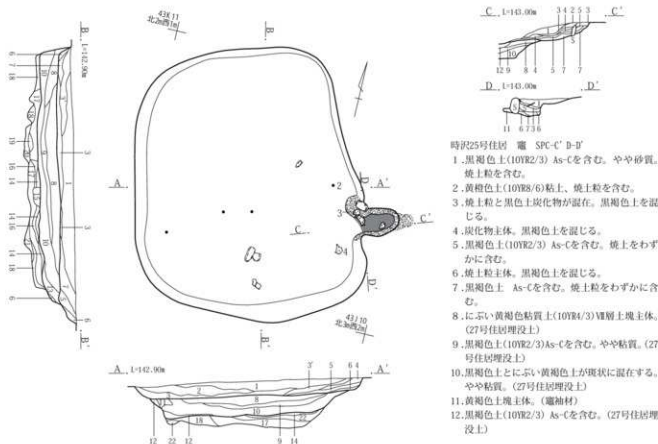
重複 27号住居が真下に重複するが、25号住居が新しい。

規模 長径4.4m 短径3.5m 残存壁高0.28m

面積 11.57㎡ **長軸方位** N-21°-W

埋没土 上層はAs-Cと黄褐色土を斑状に含むやや砂質の黒褐色土で、下層はAs-Cを含むやや粘質の黒褐色土で埋まっていた。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長0.75m、焚口幅0.42m。袖の残存長は向かって右側は無し、左側が0.18m。壁外に0.55m燃焼部および煙道が伸びる。左袖部には芯として入れられた円礫が残っていた。燃焼部中央やや右側には支脚の棒状礫が埋め込まれていた。竈内側面の焼土かは著しくなかった。竈内には

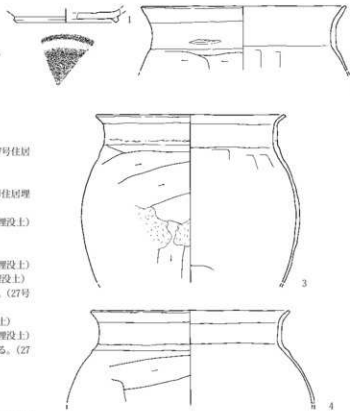


- 時沢25号住居 竈 SPC-C' D-D'
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。焼土粒を含む。
 2. 黄褐色土(10YR8/6)粘土、焼土粒を含む。
 3. 焼土粒と黒土炭化物が混在。黒褐色土を混じる。
 4. 炭化物主体。黒褐色土を混じる。
 5. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。焼土をわずかに含む。
 6. 焼土粒主体。黒褐色土を混じる。
 7. 黒褐色土 As-Cを含む。焼土粒をわずかに含む。
 8. にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3)Ⅷ層土塊主体。(27号住居埋没土)
 9. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。やや粘質。(27号住居埋没土)
 10. 黒褐色土とにぶい黄褐色土が斑状に混在する。やや粘質。(27号住居埋没土)
 11. 黄褐色土塊主体。(竈袖材)
 12. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。(27号住居埋没土)

0 1:60 2m

時沢25号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。やや砂質。黄褐色土を斑状に含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)Ⅳ層土を含む。やや砂質。
3. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。やや粘質。
4. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cは目立たない。やや粘質。
5. 黒褐色土(10YR2/2)Ⅳ層土の混入多い。As-Cを含み。やや砂質。
6. 黒褐色土(10YR2/2)Ⅴ層土主体。やや粘質。As-Cを含まない。
7. 暗褐色土 黄褐色土塊を多量に含む。
8. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。黄褐色土粒を含む。やや砂質。(27号住居埋没土)
9. 黒褐色土(10YR2/2)にぶい黄褐色土(10YR4/3)粒を多量に含む。(27号住居埋没土)
10. 黒褐色土(10YR3/2)As-Cを含む。にぶい黄褐色土粒を含む。(27号住居埋没土)
11. 黒褐色土(10YR2/2)Ⅴ層土。均質。(27号住居埋没土)
12. 褐色土(10YR3/3)粘質。Ⅵ層土主体。(27号住居埋没土)
13. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。やや砂質。Ⅳ層土主体。(27号住居埋没土)
14. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。硬くやや粘質。床面。(27号住居埋没土)
15. 灰黄褐色土(10YR4/2)焼土粒を含む。軟質。ピット状の窪みの埋土。(27号住居埋没土)
16. 褐色土(10YR4/6)塊主体。黒褐色土と混じる。粘質。(27号住居埋没土)
17. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒の混入目立つ。As-Cを含む。(27号住居埋没土)
18. にぶい黄褐色土(10YR5/3)塊主体。Ⅵ層土。粘質。黒褐色土を混じる。(27号住居埋没土)
19. 灰白色粘土(10YR8/2)再堆積。(27号住居埋没土)
20. 灰白色土。赤く焼成している。(27号住居埋没土)
21. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。(27号住居埋没土)
22. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。黄褐色土の混入目立たない。(27号住居埋没土)



0 1:4 10cm

第166図 時沢西組屋谷戸遺跡25号住居床面と出土遺物図

灰面が残っていたが、竈前の床面にはあまり広がっていなかった。土師器裏(第166図3)が焚口部左脇、使用面上13cmで出土した。

柱穴 床面では主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 床面は平坦であった。

掘り方 掘り方は27号住居の埋没土中であり、その形状を平面的に記録することは割愛した。27号住居埋没土層の8層や9層の褐色土塊と黒色土塊が混在する土層が掘り方埋没土である。土坑状に深く掘り込まれる床下土坑は確認されなかった。

遺物と出土状況 遺物は竈周辺と南半部に偏在していた。土師器裏(第166図4)は南東隅床面上16cm、2は竈右脇床面上15cmで出土した。また、須恵器椀小破片が中央部床面上7cm、須恵器蓋小破片が床面直上で出土した。埋没土中から須恵器杯(1)が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器壺・甕類破片36点、須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀中葉の住居と考えられる。

時沢西紺屋谷戸遺跡26号住居

(第167～168図 PL.70～72・120 遺物観察表P.345・354・356)

グリッド 43区K・L14・15

形状 長方形

重複 20号・21号住居より古い。

規模 長径5.17m 短径4.23m 残存壁高0.32m

面積 17.94㎡ **長軸方位** N-5°-W

埋没土 黒褐色土塊と黄褐色土粒・塊が混在する土で埋まっていた。最上層には暗青灰色灰層と黄褐色土の硬い薄層が筋状に数層重なって上位の21号住居の床面を形成していた。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長0.80m、焚口幅0.73m。袖の残存長は向かって右側が0.17m、左側が0.22m。壁外に0.59m燃焼部および煙道が伸びる。掘り方内に粘土を貼り付けて竈が造られていた。竈燃焼部使用面の灰層は厚く堆積しており、長く使用されたことが推定される。竈前の床面には灰面が広がっていた。

柱穴 床面では主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

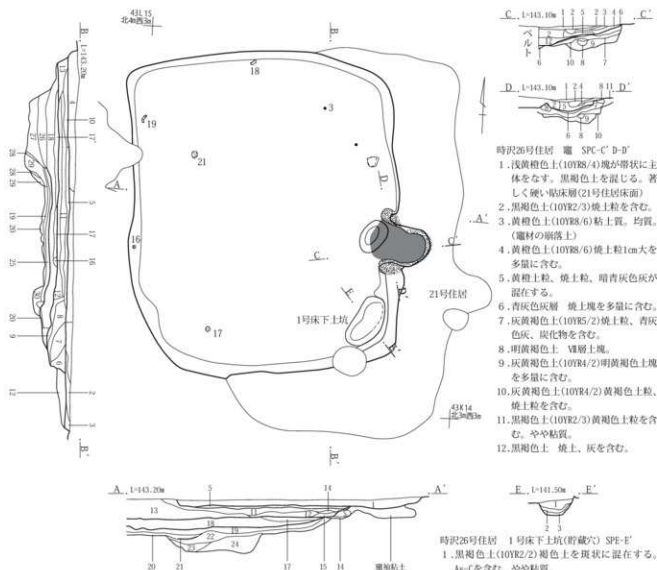
周溝 周溝は検出されなかった。西壁の中央部分を除いてほぼ全周する。幅は概ね13cm、深さは5cmである。

貯蔵穴 床面では明確に貯蔵穴は検出されなかったが、掘り方方面で南東隅に検出された1号床下土坑が貯蔵穴と推定される。1号床下土坑は長径0.87m、短径0.50m、深さ0.31mの楕円形で、最下層に灰、その上位に焼土が堆積しており、上半部は住居埋没土と同じ土で埋まっていた。

床面 床面は平坦であった。竈周辺では固く踏み固められた灰層が目立つ面が幾層も厚く重なっていた。

掘り方 掘り方方面で8基の床下土坑と小さなピット状の掘り込みを検出した。1号床下土坑は既述したように貯蔵穴の可能性がある。2号～8号床下土坑はいずれもにぶい黄褐色土や、黄褐色土粒・塊を含む黒褐色土が重なり水平に堆積していたことから、人為的埋没と判断された。

2号床下土坑も南東部で検出された。長径0.63m、短径0.58m、深さ0.42mのほぼ円形。断面形はU字状で、底面は平坦である。須恵器杯(第169図1)が底面上19cm、土師器裏小破片が底面上22cm、須恵器杯(7)が底面上20cmで出土した。3号床下土坑は中央部で検出された。長径1.70m、短径1.30m以上、深さ0.33mの不整形円形。断面形は皿形で、底面にはやや凹凸があった。底面上15cmで、須恵器杯(6)が出土した。4号床下土坑は北壁沿いで検出された。長径1.20m、短径1.05m、深さ0.40mの楕円形。断面形は箱形で、底面は凹凸があった。須恵器杯(8)が底面上3cmで出土した。5号床下土坑は4号床下土坑の南側で検出された。長径0.62m、短径0.30m、深さ0.10mの楕円形。断面形は皿状であった。6号床下土坑は4号床下土坑の東側で検出された。長径1.08m、短径0.85m、深さ0.51mの楕円形。断面形は箱形で底面が平坦であった。北側は壁下半が欠けて掘り込まれていた。7号床下土坑は6号床下土坑の東側で検出された。長径1.17m、短径0.98m、深さ0.37mの不整形楕円形。断面形は箱形で底面が平坦であった。8号床下土坑は6号・7号床下土坑の東側で検出された。長径1.52m、短径1.05m以上、深さ0.50mの楕円形。断面形は箱形で底面が平坦であった。



時沢26号住居 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。黄褐色土粒を含む。(21号住居埋没土)
2. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土を斑状に含む。(21号住居埋没土)
3. 黒褐色土(10YR2/3) As-C含むが少ない。やや粘質。(21号住居埋没土)
4. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土塊を帯状に含む。(21号住居埋没土)
5. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。黄褐色土粒・塊が1cm厚さの帯状に積み重なっている。(21号住居床面)
6. 褐色土(10YR4/4)黄褐色土塊を多量に含む。(21号住居掘り方埋没土)
7. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質(21号住居掘り方埋没土)
8. 暗褐色土(10YR3/3) As-Cを含む。焼土粒を多量に含む。(21号住居掘り方埋没土)
9. 黄褐色土(V黄層)塊と褐色土(V黄層)が混在。(21号住居掘り方埋没土)
10. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。やや砂質。(10層以下26号住居埋没土)
11. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。黄褐色土粒1cm以下のみ混在が目立つ。焼土を含む。
12. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒、焼土を含む。やや粘質。As-Cを含むが目立たない。
13. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。
14. 焼土塊主体。黄褐色土と混在する。

時沢26号住居 竈 SPC-C' D-D'

1. 浅黄褐色土(10YR8/4)塊が帯状に主体をなす。黒褐色土を混じる。著しく硬い粘床層(21号住居床面)
2. 黒褐色土(10YR2/3)焼土粒を含む。
3. 黄褐色土(10YR8/6)粘土質。均質。(竈材の崩落上)
4. 黄褐色土(10YR8/6)焼土粒1cm大を多量に含む。
5. 黄褐色土粒、焼土粒、暗青灰色灰が混在する。
6. 青灰色灰層 焼土塊を多量に含む。
7. 灰黄褐色土(10YR5/2)焼土粒、青灰色灰、炭化物を含む。
8. 明黄褐色土 V黄層土塊。
9. 灰黄褐色土(10YR4/2)明黄褐色土塊を多量に含む。
10. 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土粒、焼土粒を含む。
11. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含む。やや粘質。
12. 黒褐色土 焼土、灰を含む。

時沢26号住居 1号床下土坑(貯蔵穴) SPE-E'

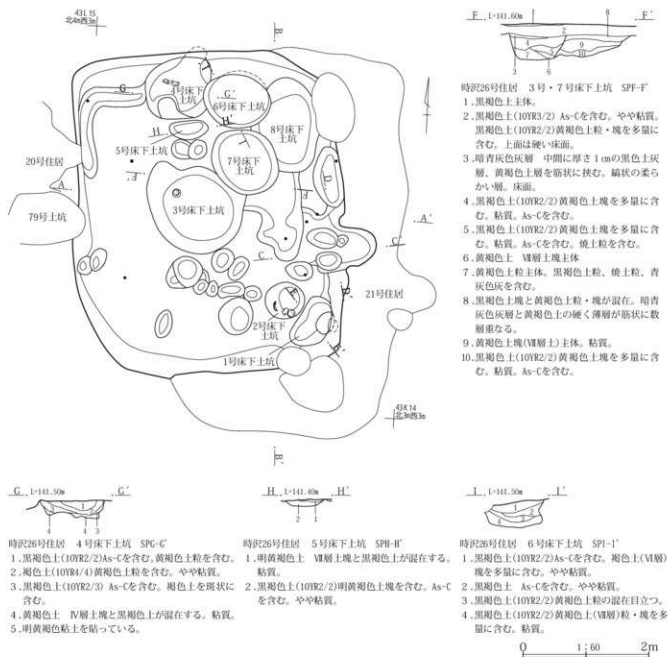
1. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土を斑状に混在する。As-Cを含む。やや粘質。
2. にぶ・黄褐色土(10YR6/4)焼土、灰を含む。粘質。
3. 青灰色灰層 編状をなす。

15. 黄褐色土粒主体。竈の崩落。
16. 黒褐色土(10YR2/3)均質。
17. 黄褐色土(10YR5/6)塊主体。焼土粒を含む。青灰色灰層の床面を挟む。
18. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。やや粘質。黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土粒・塊を多量に含む。上面は硬化面。
19. 黒褐色土塊と黄褐色土粒・塊が混在。暗青灰色灰層と黄褐色土の硬く薄層が帯状に数層重なる。
20. 黄褐色土(V黄層)塊主体。粘質。
21. 黒色土灰層
22. 黄褐色土塊 20層と同様。粘質。
23. 黄褐色土塊 黒褐色土塊が24層より多い。粘質。
24. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土塊を多量に含む。粘質。As-Cを含む。
25. 暗青灰色灰層 中間に厚さ1cmの黒色土灰層。黄褐色土層を筋状に挟む。編状の柔らかい層。
26. 24層と同様。焼土粒を含む。
27. 黄褐色土粒主体。黒褐色土粒、焼土粒、青灰色灰を含む。
28. 黄褐色土塊主体。
29. 26層と同様。
30. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊を多量に含む。

0 1:60 2m

第167図 時沢西組屋谷戸遺跡26号住居床面図

第2節 検出された遺構と遺物



第168図 時沢西紺屋谷戸遺跡26号住居掘り方面図

遺物と出土状況 遺物は壁沿いにやや偏って出土した。土師器杯(第169図3)は北東部床面直上で出土した。また砥石や紡輪、金属製品が散在していた。砥石石製の砥石(18)が北壁際床面直上で、砥石石製の紡輪(16)が西壁際床面上8cmで、砥石石製の砥石から転用するための整形途中の紡輪(17)が南西隅床面直上で出土した。鉄製鎌(19)は北西隅壁際床面直上で、鉄鎌(20)が北西部床面直上で出土した。北西部で完形の椀形鍛冶滓(PL.120-21)が底面直上で出土した。

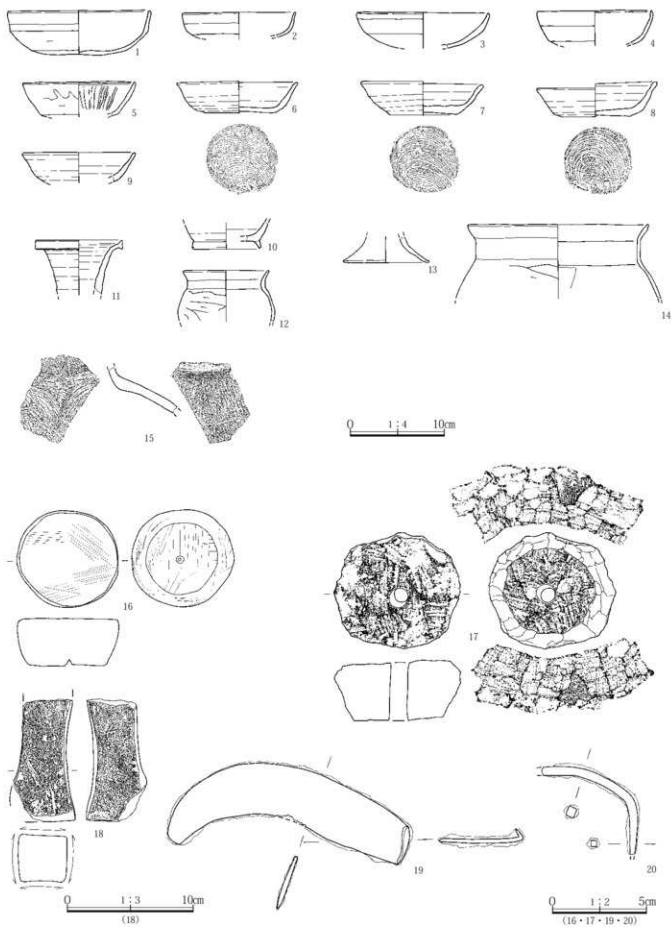
埋没土中から土師器杯(2・4・5)、須恵器杯(9・

10)、須恵器椀小破片、須恵器蓋小破片、土師器小型甕(12)、土師器甕(14)、土師器台付甕(13)、須恵器瓶破片が出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片98点、壺・甕類破片549点、須恵器杯・椀類破片84点、瓶・甕類破片11点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀中葉の住居と考えられる。

第5章 時沢西組屋谷戸遺跡の遺構と遺物



第169図 時沢西組屋谷戸遺跡26号住居出土遺物図

時沢西組屋谷戸遺跡27号住居

(第170・171図 PL.72・73・121 遺物観察表P.345・346)

グリッド 43区J・K10・11

形状 隅丸長方形 重複 25号住居より古い。

規模 長径4.07m 短径2.95m 残存壁高0.57m

面積 9.18㎡ 長軸方位 N-18°-W

埋没土 上層はAs-C、黄褐色土粒を含む、やや砂質の黒褐色土で、下層はAs-C、にぶい黄褐色土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。上層には一部に黄色粘土塊や焼土を含む土砂が見られる。これが上位の25号住居掘り方埋没土中の可能性もあるが、全体としては自然埋没と判断された。

竈 住居東壁中央やや南側に竈が構築されていた。確認長0.80m、焚口幅0.75m。袖の残存長は向かって右側は無し。左側は0.18m。壁外に0.64m燃焼部および煙道が伸びる。上半部は上位の25号住居竈構築時に削られていた。竈内面への粘土の貼り付けは顕著でなかった。燃焼部内には厚く灰が残されていた。竈前の床面にも灰面が広がっていた。土師器杯(第170図2)が竈右脇床面上11cmで出土した。土師器甕(5)は南壁際床面上6cmで出土した。

柱穴 床面で主柱穴と思われるピットは検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 南東隅に長径0.65m、短径0.54m、深さ0.38mの楕円形の貯蔵穴が検出された。断面形は箱形で底面は平坦であった。土師器甕小破片が底面近くで出土した。南縁には土師器杯(第170図3)が床面直上で、出土した。

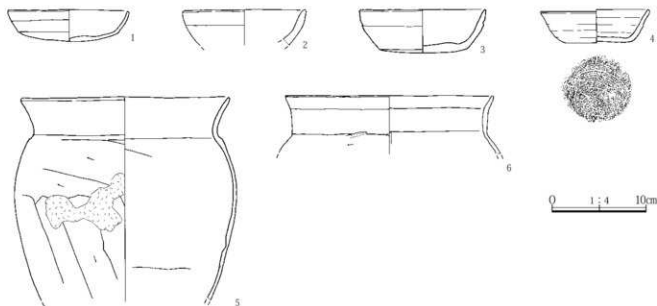
床面 床面は床下土坑の影響とみられる凹凸があった。

掘り方 掘り方面では他の住居のように単独の土坑のようにはなっていないが、南半部に凹凸のある凹みが認められた。褐色土塊や黒褐色土、黄褐色土粒が混在した土が重なり合って堆積していたことから、人為的埋没と判断された。

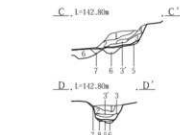
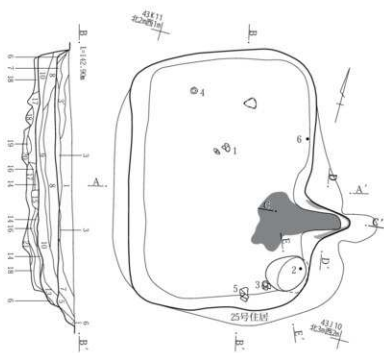
遺物と出土状況 遺物の出土は少なかったが、全体に散在していた。土師器杯(第170図1)は中央部やや北側床面上3cmで、ほぼ完形の須恵器杯(4)は北西部床面上4cmで、土師器甕(5)は南壁際床面上6cmで、6は竈左脇壁際床面上5cmで出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器壺・甕類破片2点が出土した。

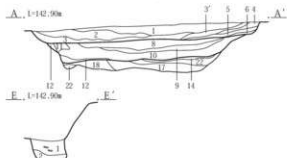
所見 出土遺物から9世紀中葉の住居と考えられる。



第170図 時沢西組屋谷戸遺跡27号住居出土遺物図

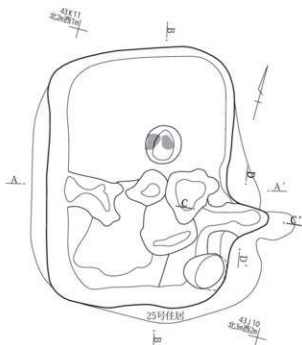


- 時沢27号住居 Ⅱ SPC-C' D-D'
1. 黄褐色土(10YR5/6)粘質。(竈材の崩落)
 2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。焼土粒を混じる。
 3. 焼土塊主体。黒褐色土と混じる。青灰色灰を含む。
 - 3'. 青灰色灰層 焼土粒を含む。
 4. 赤褐色土 焼土と灰黄褐色土と混じる。
 5. 暗青灰色灰層の硬くしまった編状堆積。陥床。焼土を含む。
 6. 灰黄褐色土 黒褐色土、焼土をわずかに含む。
 7. 褐色土(VI層)の赤化焼成層。
 8. 焼土塊主体。灰白色粘土、黒褐色土を混じる。



- 時沢27号住居 SPA-A' B-B'
1. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。やや砂質。黄褐色土を頂状に含む。(25号住居埋没上)
 2. 黒褐色土(10YR2/2)IV層土を含む。やや砂質。(25号住居埋没上)
 3. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。やや粘質。(25号住居埋没上)
 4. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cは目立たない。やや粘質。(25号住居埋没上)
 5. 黒褐色土(10YR2/2)IV層土の混入多い。As-Cを含み、やや砂質。(25号住居埋没上)
 6. 黒褐色土(10YR2/2)V層土主体。やや粘質。As-Cを含まない。(25号住居埋没上)
 7. 暗褐色土 黄褐色土塊を多量に含む。(25号住居埋没上)
 8. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。黄褐色土粒を含む。やや砂質。
 - 8'. 黄褐色土粒やや少ない。
 9. 黒褐色土(10YR2/2)に多い黄褐色土(10YR4/3)粒を多量に含む。
 10. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。に多い黄褐色土粒を含む。
 11. 黒褐色土(10YR2/2)V層土。均質。
 12. 褐色土(10YR3/3)粘質。VI層土主体。
 13. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。IV層土主体。
 14. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。硬くやや粘質。床面。
 15. 灰黄褐色土(10YR4/2)焼土粒を含む。軟質。ビット状の窪みの埋土。
 16. 褐色土(10YR4/6)塊主体。黒褐色土と混じる。粘質。
 17. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒の混入目立つ。As-Cを含む。
 18. に多い黄褐色土(10YR5/3)塊主体。VII層土。粘質。黒褐色土を混じる。
 19. 灰白色粘土(10YR8/2)再堆積。
 20. 灰白色土。赤く焼成している。
 21. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。
 22. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。黄褐色土の混入目立たない。

- 時沢27号住居 1号土坑 SPE-E'
1. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。褐色土(VI・VII層)塊を含む。
 2. 黒褐色土と青灰色灰。焼土粒が混在する。



第171図 時沢西組屋谷戸遺跡27号住居床面・掘り方面図

2. 竪穴状遺構

時沢西組屋谷戸遺跡では3基の竪穴状遺構が検出された。1号竪穴状遺構は方形の土坑の側面に斜めに掘り込まれた土坑が付いたいわゆる「地下式土坑」である。2号、3号土坑は円形および楕円形の大形土坑である。底面の凹凸が著しいことや、埋没土が黄褐色土塊や灰白色粘土塊を含む褐色土で折り重なるようになっていることが共通していた。人為的に埋められたと判断された。

時沢西組屋谷戸遺跡1号竪穴状遺構

(第172図 PL.74 遺物観察表P.346)

グリッド 43区T18

形状 やや隅の丸い不整長方形の土坑の長軸辺に斜め方向の土坑がついていた。

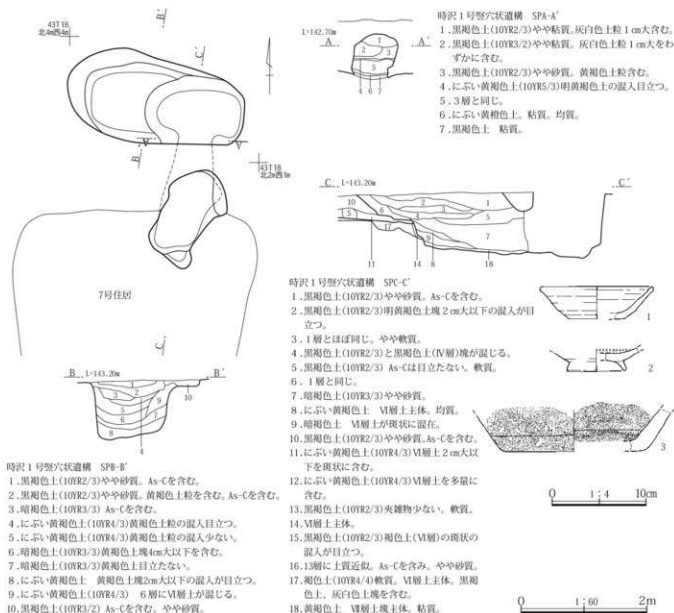
重複 7号住居より新しい。

規模 長軸3.15m 短軸2.87m 残存壁高1.09m

面積 8.8㎡ **長軸方位** N-7°-E

埋没土 上層はAs-Cを含むやや砂質の黒褐色土、下層は黄褐色土目立たない暗褐色土や黄褐色土塊2cm大以下の混入が目立つにふい黄褐色土で埋まっていた。

底面 ほぼ平坦であったが、一部に凹地も認められた。



第172図 時沢西組屋谷戸遺跡1号竪穴状遺構底面と出土物図

遺物と出土状況 底面近くで出土した遺物は無かった。埋没土中から須恵器杯(第172図1)、黒色土器碗(2)、須恵器甕(3)が出土した。ここで図示した遺物以外に土師器杯・碗破片6点、壺・甕類破片75点、須恵器杯・碗類破片23点、瓶・甕類破片9点が出土した。

所見 本遺構はいわゆる地下式土坑であるが、時期は床面直上で出土した遺物がないことから、時期は不明である。

時沢西紺屋谷戸遺跡2号竪穴状遺構

(第173図 PL.74 遺物観察表P.346)

グリッド 43KS12・13

形状 円形

重複 4号住居より新しい。10号住居と接しているが新旧関係は不明である。

規模 長径3.65m 短径3.50m 残存壁高0.86m

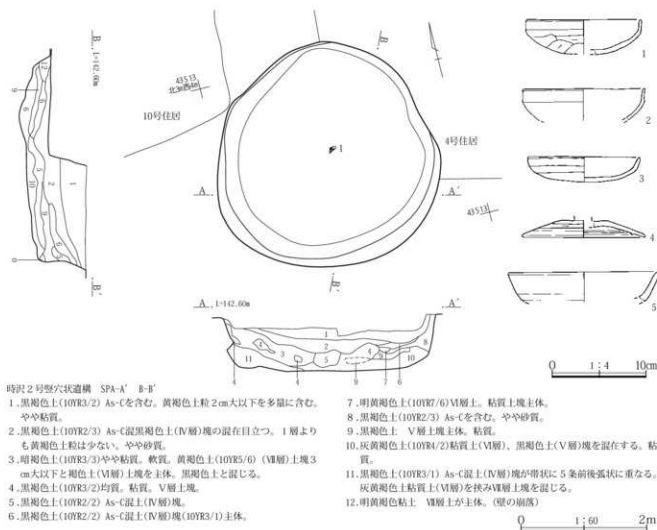
面積 6.98㎡ **長軸方位** N-61°-E

埋没土 上層はAs-C、黄褐色土粒2cm以下を多量に含む、やや粘質の黒褐色土で、下層はAs-C混黒褐色土塊や、灰黄褐色粘質土で埋まっていた。塊状の堆積が重なるようにあり、人為的埋没と判断された。

底面 底面には凹地が認められた。

遺物と出土状況 中央部底面上29cmで土師器杯(第173図1)が出土した。埋没土中から土師器杯(2・3)、須恵器杯(5)、須恵器蓋(4)、土師器甕破片が出土した。ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片68点、壺・甕類破片118点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀末～8世紀初頭の遺構と考えられる。本遺構は凹凸のある底面形状や埋没土の状況から、粘土採掘坑の可能性が高い。



時沢2号竪穴状遺構 SPA-A' B-B'

1. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。黄褐色土粒2cm以下を多量に含む。やや粘質。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C混黒褐色土(IV層)塊の混在が目立つ。1層よりも黄褐色土粒は少ない。やや砂質。
3. 暗褐色土(10YR3/3)やや粘質。軟質。黄褐色土(10YR5/6) (VII層)土塊3cm以下と褐色土(V層)土塊を主体。黒褐色土と混じる。
4. 黒褐色土(10YR3/2)均質。粘質。V層土塊。
5. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混土(IV層)塊。
6. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混土(IV層)塊(10YR3/1)主体。
7. 明黄褐色土(10YR7/6)VI層土。粘質土塊主体。
8. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。
9. 黒褐色土 V層土塊主体。粘質。
10. 灰黄褐色土(10YR4/2)粘質土(VI層)。黒褐色土(V層)塊を混在する。粘質。
11. 黒褐色土(10YR3/1) As-C混土(IV層)塊が帯状に5条前後弧状に重なる。灰黄褐色土粘質土(VI層)を挟みVII層土塊を混じる。
12. 明黄褐色粘土 VII層土が主体。(壁の前落)

第173図 時沢西紺屋谷戸遺跡2号竪穴状遺構底面と出土遺物図

時沢西組屋谷戸遺跡3号竪穴状遺構

(第174・175図 PL.75・121 遺物観察表P.346)

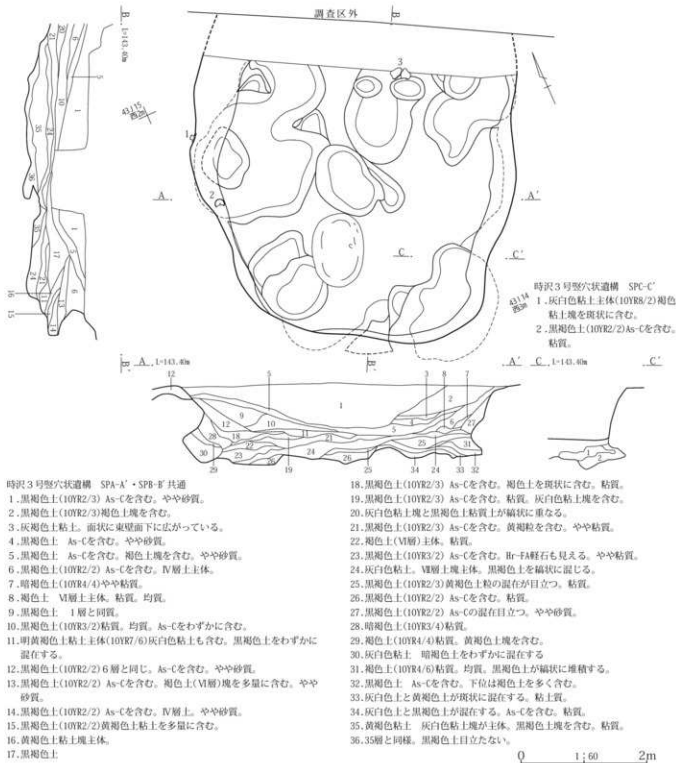
グリッド 43区1・J14・15

形状 不整な大型の楕円形 重複 なし

規模 長径5.22m 短径5.04m以上 残存壁高0.83m

面積 測定不可 長軸方位 N-27°-E

埋没土 上層はAs-Cを含むやや砂質の黒褐色土、下層は黒褐色土、灰白色粘土、褐色土、黄褐色粘土が縞状に重なって堆積していた。1~5層は自然埋没、6層以下は人為的埋没と判断された。掘り下げ作業は、灰白色粘土塊と黒色土が混在する粘質土の縞状堆積層(11層以下)の上面でとめて、埋没土層の記録、全景写真撮影、平面



第174図 時沢西組屋谷戸遺跡3号竪穴状遺構底面図

図作成を行った。その後さらに粘土質綫状堆積層を掘り下げた。

底面 底面は灰白色粘土層で、凹凸が著しかった。中心部で出土した卵形の大型礫は底面からやや浮いた位置で綫状粘土層中で出土した。竪穴の灰白色粘土に達する壁の下部は抉るように掘られており、丸くオーバーハンクした状態であった。

遺物と出土状況 底面近くで出土した遺物は少ないが、前述した大型礫は表面をはつたかのように凹凸が著しかった。須恵器蓋(第175図2)は西壁際底面直上で、須恵器裏(4)は北部底面上67cmで出土した。埋没土中から須恵器裏(3)が出土した。3号竪穴状遺構西縁から出土した須恵器瓶破片が6号溝や12号・14号溝から出土した破片と接合した。(第175図1) ここで図示した遺物以外に土師器壺・裏腹破片3点、須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀後半の遺構と考えられる。本遺構も底面形状や埋没土の状況から粘土採掘坑と考えられる。

3.掘立柱建物

時沢西組屋谷戸遺跡1号掘立柱建物

(第176図 PL.76 遺物観察表P.346)

グリッド 43区S・T15・16

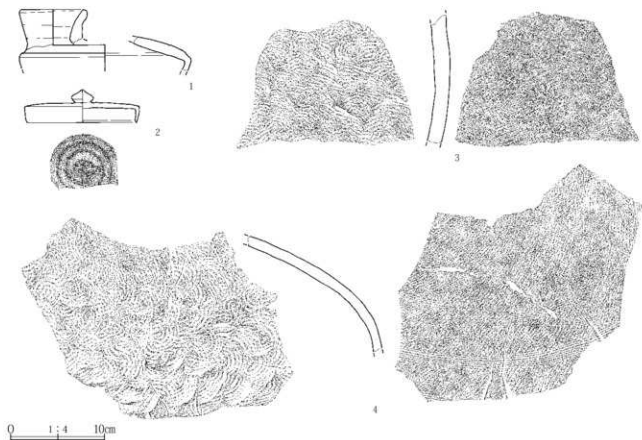
主軸方位 N-80°-E

重複 2号住居と重複するが、P2が2号住居床面下位で検出されたことから、1号掘立柱建物が古い。

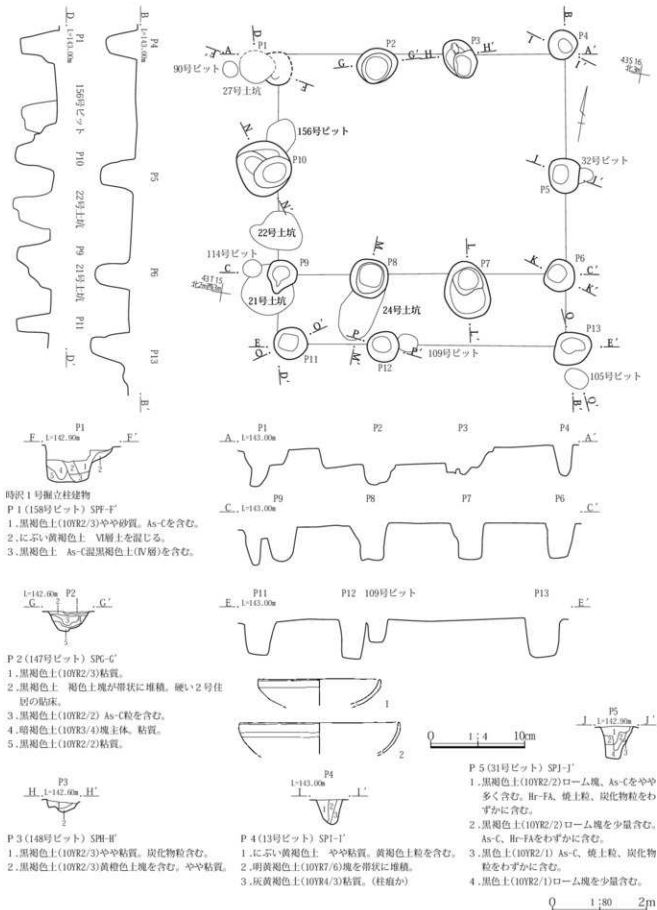
形態 桁行3間・梁行2間(5.83~6.21m×4.15~4.78m)の側柱建物である。南辺には庇あるいは縁が付く。東西棟。

柱間は北南辺1.86~2.16m、東西辺2.08~2.69m。東西辺は中央の柱間がやや長く、特にP4とP5の間が長い。各辺ともに柱穴は柱軸にのる。南辺のP7南側の庇を支える柱穴が検出できなかった。

いずれのピットも規模が大きく規格が整っており、柱痕、柱痕土の周囲に堆積した柱固めの土らしい綫状の土層が認められた。P4・P5・P12で明瞭な柱痕跡を検出した。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.63~1.18



第175図 時沢西組屋谷戸遺跡3号竪穴状遺構出土遺物図



第176図 時沢西組屋谷戸遺跡1号掘立柱建物平面と出土遺物図

第21表 時沢西組屋谷戸遺跡1号掘立柱建物柱穴計測表

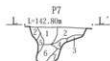
建物全体規模	桁行3間・梁行2間		棟方向		東西棟	
主軸方向	N-80°-E		施設			
桁・梁行の規模(m)	柱穴		規模(m)		形状	
	No	長径	短径	深さ		
北辺 6.21	P 1	0.37*	0.20*	0.76	楕円形	2.16
	P 2	0.85	0.72	0.42	楕円形	1.86
	P 3	0.87	0.64	0.76	楕円形	2.19
東辺 4.78	P 4	0.63	0.59	0.66	円形	2.69
	P 5	0.72	0.64	0.68	楕丸方形	2.08
南辺 5.83	P 6	0.67	0.63	0.72	楕円形	1.88
	P 7	1.11	0.92	0.78	楕円形	2.06
西辺 4.15	P 8	0.82	0.8	0.74	楕丸方形	1.89
	P 9	0.72	0.61	0.68	不整形円形	2.13
	P10	1.18	1.16	0.78	楕円形	2.21
	P11	0.7	0.69	0.66	円形	1.96
	P12	0.67	0.66	0.8	円形	4.03
	P13	0.83	0.68	0.82	楕円形	

★2号掘立柱建物は欠番



P 6 (106号ビット) SPK-K'

1. 灰黄褐色土(10YR3/2)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)VI層土を斑状に含む。
3. I層と同様。
4. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含む。



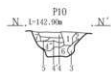
P 7 (23号上坑) SPL-L'

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3)やや砂質。As-C、黄褐色土粒を含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3)明黄褐色土粒3cm大以下を多量に混在。横筋状重ねて固めている。
3. 2層にVI層土を含む。
4. 黒褐色土 As-C混土。IV層上主体。
5. にぶい黄褐色土 VI層土を含む。
6. 灰黄褐色土 I層よりもAs-Cが目立たない。軟質。
7. 黄褐色土 VI層土。粘土塊主体。



P 8 (80号ビット)・24号上坑 SPW-W'

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土粒を含む。やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土粒3cm大以下を多量に含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒を含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。
5. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。(24号上坑埋没土)
6. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土を斑状に含む。やや砂質。(24号上坑埋没土)
7. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土を混じる。(24号上坑埋没土)



P10 (12号上坑) SN-N'

1. にぶい黄褐色土(10YR4/4)やや粘質。明黄褐色土粒1mm以下を含む。(柱直方)
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)やや粘質。明黄褐色土粒の混入1層よりも目立つ。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)やや粘質。明黄褐色土(VI層)塊4cm大以下を含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/4)やや粘質で硬くしませる。明黄褐色土を乱れた斑状に堆積。
4. 4層と同質。
4. 4層と同質。
5. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。As-Cを含む。
6. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。As-Cを含む。
7. にぶい黄褐色土 やや粘質。黄褐色土を斑状に含む。



P11 (88号ビット) SP0-O'

1. にぶい黄褐色土 As-Cを含む。黄褐色土粒(VI層)の混入多量。
2. 黒褐色土(10YR2/2)やや粘質。
3. 暗褐色土(10YR3/3)
4. 黄褐色土(10YR5/6)明黄褐色土塊5cm大以下主体を3層に混じる。



P12 (34号ビット) SPP-P'

1. 暗灰黄色土(2.5YR4/2)やや粘質。As-Cは目立たない。
2. 暗灰黄色土(2.5YR4/2)1層と同じ。やや暗い。
3. 黄褐色土(10YR8/8)塊主体。
4. にぶい黄褐色土 VI層土を含む。黒褐色土(VI層)塊を含む。



P13 (104・105号ビット) SPQ-Q'

1. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊。As-C、Hr-FAを多く含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを多く含む。ローム塊を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。As-Cを少量含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3)ロームを非常に多く含む。As-Cを多く含む。
5. 黒褐色土(10YR2/3)ロームを多く含む。粘性あり。
6. 黒褐色土(10YR2/2) As-C、ローム塊を少量含む。
7. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。As-Cをわずかに含む。
8. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を多く含む。粘性あり。



第177図 時沢西組屋谷戸遺跡1号掘立柱建物土層断面図

m、短径0.59～0.92m、深さ0.42～0.82mと比較的大規模であるが、一定ではなかった。北西隅の柱穴は2か所の掘り込みが検出された。いずれも大きな風倒木痕の黒褐色粘質土層中に掘り込まれていた。東側のビットが柱筋にのる。

内部施設 無し

出土遺物 P 7埋没土中から土師器杯(176国1)、P13埋没土中から土師器杯(2)が出土した。

時沢西組屋谷戸遺跡3号掘立柱建物

(第178国 PL.76)

グリッド 43区QR13・14

主軸方位 N-3°-W

重複 1号島の畝間溝と重複するが、新旧関係は不明である。

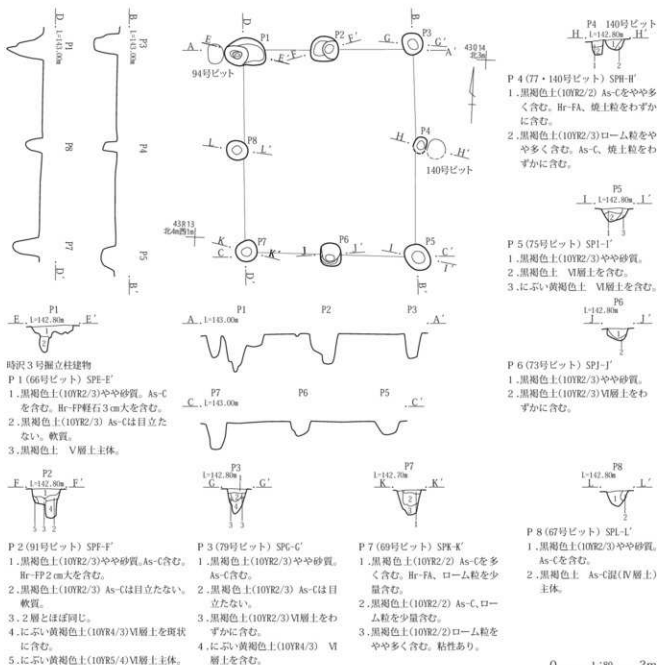
形態 桁行2間・梁行2間(4.17～4.51×3.64～3.72m)の側柱建物である。南北棟。

柱間は北南辺1.77～1.96m、東西辺2.02～2.36m。東西辺の柱間がやや長い。各辺ともに柱穴は柱軸にのる。

ピットの規模はほぼ一定であるが、東西辺中央の柱穴がやや小さい。P3で不明瞭ではあるが、柱痕を検出した。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.47～0.85m、

第22表 時沢西組屋谷戸遺跡3号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模 主軸方向	桁行2間・梁行2間 N-3'-W	棟方向 東西棟			形状	次柱穴との 間隔(m)
		規模(m)				
桁・梁行の 規模(m)	柱穴 No	長径	短径	深さ		
北辺 3.72	P1	0.85	0.56	0.73	不整楕円形	1.96
	P2	0.59	0.53	0.62	隅丸長方形	1.78
東辺 4.51	P3	0.48	0.44	0.54	隅丸方形	2.14
	P4	(0.36)	0.27	0.25	楕円形	2.36
南辺 3.64	P5	0.61	0.48	0.26	隅丸方形	1.87
	P6	0.49	0.44	0.3	隅丸方形	1.77
西辺 4.17	P7	0.47	0.44	0.55	円形	2.16
	P8	0.47	0.41	0.31	円形	2.02



第178図 時沢西組屋谷戸遺跡3号掘立柱建物平断面図

短径0.27～0.56m、深さ0.25～0.73mで、深さにややばらつきがあった。

内部施設 無し 出土遺物 無し

時沢西組屋谷戸遺跡4号掘立柱建物

(第179図 PL.76 遺物観察表P.346)

グリッド 43区0・P15

主軸方位 N-1°-E

重複 無し。

形態 桁行2間・梁行2間(3.55～3.58m×2.91～2.99m)の、本調査区唯一の総柱建物である。主軸方位がほぼ南北と推定される建物である。南北棟。

柱間は北南辺1.38～1.53m、東西辺1.67～1.90m。東西辺の方が南北辺より長い。各辺ともに柱穴は柱軸にのる。

北辺と南辺のピットはいずれも規模が大きく規格が整っており、柱痕、柱痕土の周囲に堆積した柱固めの土らしい縮状の土層が認められた。P2・P3・P5・P6で明瞭な柱痕跡を検出した。中央のP4・P9・P8はやや規模が小さかったが、深さは他の柱穴と大きな差は無かった。柱穴は楕円形あるいは円形で、中央の3基を除くと長径0.68～0.92m、短径0.63～0.83m、深さ0.51～0.65mと一定の規模を示していた。中央の3基は長径0.38～0.47m、短径0.36～0.45m、深さ0.42～0.55mであった。

内部施設 無し

出土遺物 P2埋没土中から須恵器杯(179図1)が出土した。

時沢西組屋谷戸遺跡5号掘立柱建物

(第180図 PL.77)

グリッド 43区0・P15

主軸方位 N-87°-E

重複 P8は11号住居と重複していたが、平面確認および土層断面観察ともに新旧関係を確認することができなかった。

形態 桁行3間・梁行2間(7.05～7.47m×4.24～4.44m)の側柱建物である。東西棟。

柱間は北南辺2.09～2.53m、東西辺2.12～2.26m。東西辺の方が南北辺より長い。各辺ともに柱穴は柱軸にのる。5号掘立柱建物の柱穴のうち、四隅の柱掘り方は平面L字形を呈していた。関東地方の集落遺跡ではしばしばみられる工法と言われている。

柱穴の平面形はいずれも規模が大きく規格が整っていたが、深さは比較的浅かった。柱痕跡は明瞭には認められなかった。柱穴は前述のように四隅がL字形、他はやや方形を意識した楕円形あるいは円形である。四隅と全形が不明なP8以外の柱穴は、長径0.68～1.76m、短径0.55～0.92m、深さ0.14～0.6mで規模にはばらつきがあった。

内部施設 無し

出土遺物 遺構確認作業時に土師器壺・鬘類破片3点が出土した。

所見 集落内では大型の掘立柱建物で、隅の柱穴がL字形をした特殊な建物であるが、調査では時期を明らかにすることはできなかった。竪穴住居の埋没土との共通性から古代の遺構であることは確かである。

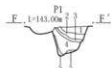
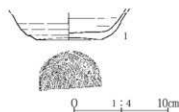
第23表 時沢西組屋谷戸遺跡4号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模	桁行2間・梁行2間		棟方向		形状	次柱穴との間隔(m)
	主軸方向		南北棟			
規模(m)	No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)
		長径	短径	深さ		
北辺 2.99	P1	0.68	0.63	0.6	楕円形	1.48
	P2	0.76	0.69	0.65	楕円形	1.53
東辺 3.58	P3	0.82	0.67	0.65	楕円形	1.9
	P4	0.39	0.37	0.55	円形	1.68
南辺 2.91	P5	0.79	0.68	0.58	楕円形	1.53
	P6	0.92	0.83	0.51	楕円形	1.38
西辺 3.55	P7	0.83	0.75	0.52	円形	1.89
	P8	0.38	0.36	0.42	円形	1.67
	P9	0.47	0.45	0.42	楕円形	

第24表 時沢西組屋谷戸遺跡5号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模	桁行3間・梁行2間		棟方向		形状	次柱穴との間隔(m)
	主軸方向		東西棟			
規模(m)	No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)
		長径	短径	深さ		
北辺 7.05	P1	1.76	0.82	0.6	L字形	2.53
	P2	1.29	0.92	0.49	不整楕円形	2.09
	P3	0.91	0.88	0.29	隅丸長方形	2.44
東辺 4.44	P4	1.52	0.79	0.34	L字形	2.26
	P5	0.68	0.66	0.2	楕円形	2.15
南辺 7.47	P6	1.24	(0.53)	0.27	L字形	2.69
	P7	0.81	0.55	0.18	楕円形	2.5
西辺 4.24	P8	0.5+	0.21+	0.14	楕円形	2.31
	P9	1.42	0.71	0.32	L字形	2.12
	P10	0.91	0.71	0.28	楕円形	2.13

第2節 検出された遺構と遺物



時沢4号掘立柱建物

P 1 (134号ビット) SPF-F'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。
2. 暗褐色土 やや砂質。
3. にぶい黄褐色土 VI層上の混入目立つ。
4. 2層と同じ。
5. にぶい黄褐色土 VI層上主体。



P 2 (81号ビット) SPG-C'

1. 黒色土(10YR2/1) As-Cを多く含む。Hr-FAをやや多く含む。
2. 黒色土(10YR2/1) As-C、Hr-FA、ローム塊を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊をやや多く含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。粘性あり。



P 5 (110号ビット) SPJ-J'

1. 黒色土(10YR2/1)ローム塊。As-Cを少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。



P 4 (133号ビット) SP1-I'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-C、炭化物を含む。硬くしまっている。
2. にぶい黄褐色土 VI層上を含む。



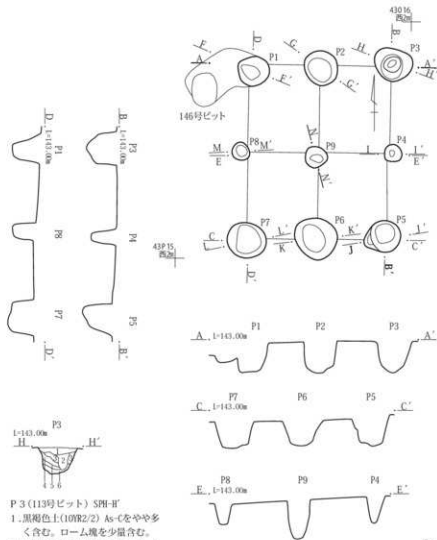
P 8 (135号ビット) SPW-H'

1. 黒褐色土(10YR2/2)やや粘質。As-Cは目立たない。
2. にぶい黄褐色土 VI層上。均質。



P 9 (153号ビット) SPW-H'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-CとVI層上を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-C、IV層上主体。にぶい黄褐色土(VI層)塊を含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)VI層上塊は目立たない。



P 3 (113号ビット) SPH-H'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cをやや多く含む。ローム塊を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-C、ローム塊をわずかに含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊をやや多く含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。粘性あり。
5. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。粘性あり。



P 6 (111号ビット) SPK-K'

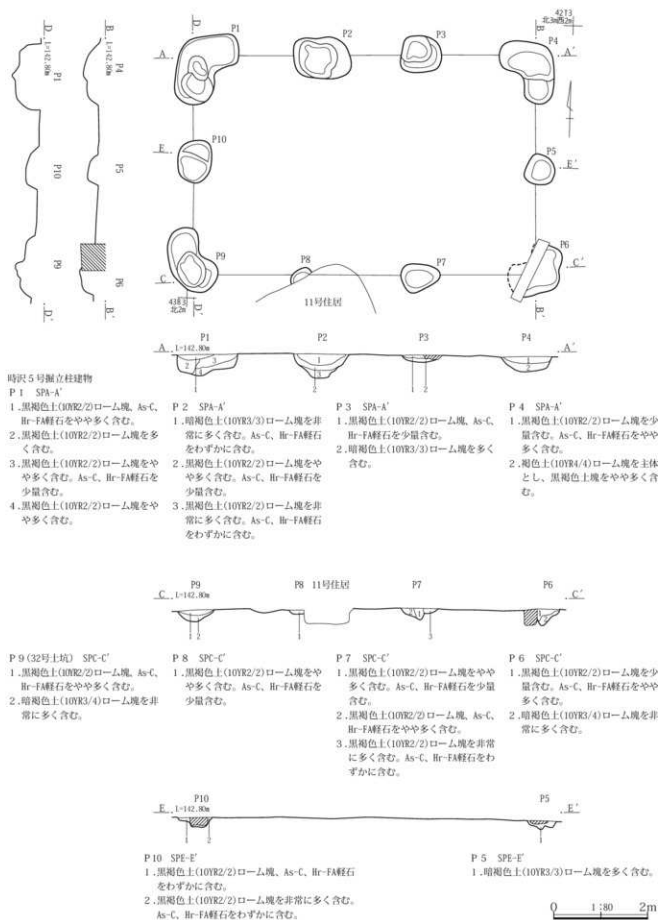
1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊。As-Cを少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊をやや多く含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。粘性あり。



P 7 (112号ビット) SPL-L'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊。As-C、Hr-FAを少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を非常に多く含む。
5. 黒色土(10YR2/1)ローム塊をやや多く含む。粘性あり。

第179図 時沢西組屋戸遺跡4号掘立柱建物平面断面と出土遺物図



第180図 時沢西組屋谷戸遺跡5号掘立柱建物平面図

時沢西組屋谷戸遺跡6号掘立柱建物

(第181図 PL.78)

グリッド 42区T7・8、43区A7・8

主軸方位 N-3°-W

重複 7号掘立柱建物と重複しているが、直接の埋没土の重複がなかったために新旧関係は不明である。

形態 桁行2間・梁行2間(3.89×4.08m×2.88m)の側柱建物である。南北棟。

柱間は北南辺1.39～1.43m、西辺2.03～2.07m、東辺1.71～2.19m。東辺を除く三辺の規格は整っている。東辺は、柱筋は通るが北東隅のP3がやや南に偏っているために、P3・P4間の柱間が短く、P4・P5間の柱間が長くなっている。P3は他の柱穴より浅いが、北辺に偏る柱痕跡を見逃した可能性があるだろう。

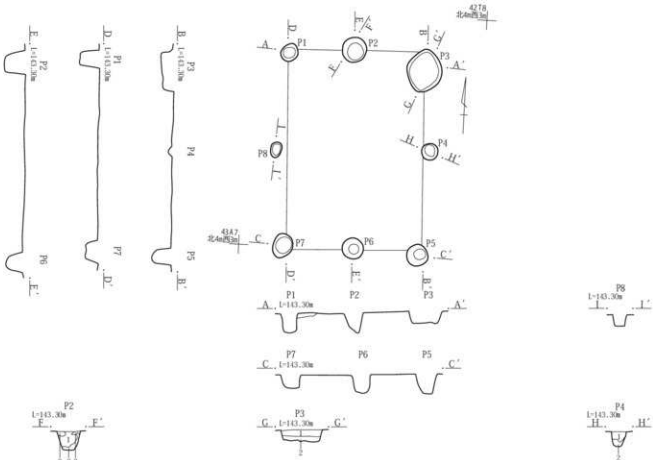
柱穴は桁行中央のP4・P8がやや規模が小さい。P3を除く柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.33～0.91m、短径0.23～0.75m、深さ0.23～0.47mで規模にはばらつきがあった。

内部施設 無し

出土遺物 無し

第25表 時沢西組屋谷戸遺跡6号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模	桁行2間・梁行2間 主軸方向 N-3°-W	柱穴 No	規模(m)			形状	次柱穴との 間隔(m)
			長径	短径	深さ		
北辺 2.88	P1	P1	0.39	0.34	0.41	円形	1.39
		P2	0.54	0.52	0.47	円形	1.52
東辺 3.89	P3	P3	0.91	0.75	0.24	楕円方形	1.71
		P4	0.36	0.36	0.31	円形	2.19
南辺 2.88	P5	P5	0.46	0.46	0.43	円形	1.4
		P6	0.45	0.44	0.4	円形	1.43
西辺 4.08	P7	P7	0.51	0.42	0.26	楕円形	2.03
		P8	0.33	0.23	0.23	楕円形	2.07



時沢6号掘立柱建物

P2 SPF-F

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。炭化物を含む。軟質。
2. 暗褐色土(10YR3/4)VI層上に斑状に含む。
3. 褐色土(10YR4/4)VI層土主体。黄褐色土(VI層)塊を含む。

P3 SPG-C'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Bを含む。塊質。
2. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊を多量に含む。

P4 SPH-B'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。IV層上に近い。
2. 灰黄褐色土 褐色土(VI層)塊を多量に含む。

第181図 時沢西組屋谷戸遺跡6号掘立柱建物平面図

時沢西組屋谷戸遺跡7号掘立柱建物跡

(第182図 PL.78・121 遺物観察表P.346)

グリッド 42区T8・9、43区A8・9

主軸方位 N-3°-E

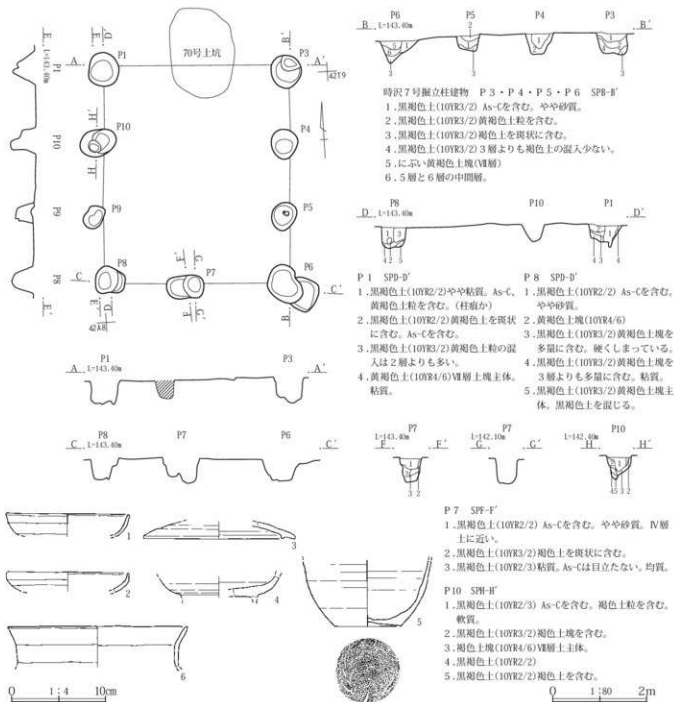
重複 6号掘立柱建物と重複しているが、直接の埋没土の重複がなかったために新旧関係は不明である。また、70号土坑と重複していた。確実な新旧関係を記録できなかったが、北辺のP2は70号土坑に壊されて検出されな

かった可能性が高い。

形態 桁行3間・梁行2間(4.43～4.67m×3.77～3.95m)の側柱建物である。南北棟。

柱間は北南辺1.89m、東西辺は1.33～1.77mで一定でなく北南辺より短い。柱筋の通りはP9がやや外側に寄っているほかは、概ね良い。

柱穴は四隅がやや大きく、桁行中央のP4・P5・P9・P10がやや小さい。土層断面からP1・P4・P8・P



第182図 時沢西組屋谷戸遺跡7号掘立柱建物平面断面と出土遺物図

第26表 時沢西組屋谷戸遺跡7号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模		桁行3間・梁行2間		棟方向		南北棟	
主軸方向		N-3°-E		施設			
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 3.95	P 1	0.71	0.63	0.42	隅丸方形	3.95	
	(P 2)						
東辺 4.67	P 3	0.69	0.63	0.42	円形	1.77	
	P 4	0.63	0.56	0.49	楕円形	1.48	
	P 5	0.61	0.5	0.31	楕円形	1.42	
南辺 3.77	P 6	0.85	0.61	0.44	不整楕円形	1.88	
	P 7	0.79	0.48	0.52	不整楕円形	1.89	
西辺 4.43	P 8	0.62	0.56	0.43	不整楕円形	1.33	
	P 9	0.51	0.35	0.22	不整楕円形	1.51	
	P 10	0.79	0.57	0.52	楕円形	1.64	

10で柱痕跡が認められた。柱穴は楕円形あるいは円形で、長径0.51～0.85m、短径0.35～0.63m、深さ0.22～0.52mで、全体としては比較的規模が大きく、ばらつきが少なかった。

内部施設 無し

出土遺物 柱穴埋没土中から土器が出土した。P 1とP 5から出土した破片が接合した須恵器甕(第182図5)はP 5底面上17cmで出土した。土師器杯(2)はP 3埋没土中、須恵器椀(4)はP 4埋没土中、須恵器蓋(3)、土師器甕(6)はP 6埋没土中、土師器杯(1)はP 10埋没土中から出土した。

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片13点、壺・甕類破片36点、須恵器杯・椀類破片4点、瓶・甕類破片1点が出土した。

所見 出土した土器の時期は8世紀末～9世紀初頭であることから7号掘立柱建物の時期は8世紀末～9世紀初頭と考えられる。

時沢西組屋谷戸遺跡8号掘立柱建物

(第183図 PL.76～78)

グリッド 43区A8～10

主軸方位 N-15°-E

重複 58号土坑、78号土坑、343号ピット、9号溝・10号溝と重複していた。埋没土の観察から、8号掘立柱建物P 2は10号溝、78号土坑より古い。また8号掘立柱建物P 10は58号土坑より古い。

形態 桁行4間・梁行3間(8.24～8.42m×4.89～5.18m)の側柱建物である。南北棟。本発掘区内で最も大型の建物である。

柱間は北南辺1.62～1.88m、東西辺は1.90～2.21mで北南辺が東西辺よりやや短い。また北南辺ではP 2・P 3間とP 9・P 10間の中央の柱間が、両脇の柱間より広がっていた。柱筋の通りが良い。

柱穴は規模が大きく、ほとんどの柱穴で柱痕跡や柱押さえの埋め土と見られる重なって固くしまった土層が観察された。柱穴は楕円形あるいは円形であるが、P 1やP 7、P 14のように隅丸の方形を呈する柱穴もあった。柱穴の規模は長径0.74～1.13m、短径0.64～0.99m、深さ0.28～0.85mで、深さにややばらつきがあったが、全体としては規模の大きな柱穴が規格的に並んだ建物であった。

内部施設 無し

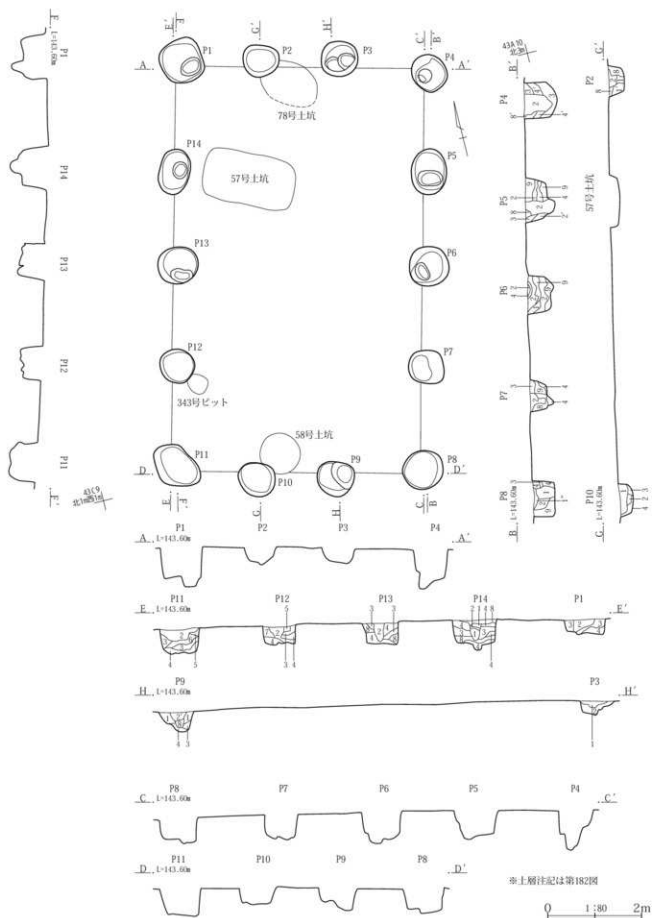
出土遺物 遺構確認作業時に土師器杯類破片2点、壺・甕類破片6点、須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

第27表 時沢西組屋谷戸遺跡8号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模		桁行4間・梁行3間		棟方向		南北棟	
主軸方向		N-15°-E		施設			
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 4.89	P 1	0.99	0.99	0.84	隅丸方形	1.49	
	P 2	0.77	0.65	0.38	楕円形	1.83	
	P 3	0.78	0.78	0.32	円形	1.62	
東辺 8.24	P 4	0.8	0.71	0.85	楕円形	2.14	
	P 5	0.96	0.74	0.61	楕円形	1.97	
	P 6	0.87	0.86	0.61	円形	2.02	
南辺 5.18	P 7	0.82	0.74	0.49	隅丸方形	2.12	
	P 8	0.87	0.81	0.41	円形	1.64	
	P 9	0.79	0.78	0.46	楕円形	1.88	
西辺 8.42	P 10	0.8	0.7	0.28	楕円形	1.69	
	P 11	1.13	0.77	0.51	不整楕円形	2.1	
	P 12	0.74	0.71	0.41	円形	1.9	
	P 13	0.85	0.77	0.56	楕円形	2.21	
P 14	0.96	0.64	0.73	隅丸長方形	2.19		

時沢8号掘立柱建物 SPB-B'E-E' G-C B-II'

- 黒褐色土(10YR2/2) As-C混じる。IV層土が主体。均質。やや砂質。Hr-FA軽石、褐色土粒等を少量含む。
- 1層よりも褐色土の混入が目立つ。(P 2)
- 1層よりも褐色土の混入が目立つ。(P 8)
- 黒褐色土(10YR3/2) As-C混じる。IV層土が主体。褐色土(VI層)土、黄褐色土(VII層)土粒1cm以下を含む。(P 5)
- 2層よりも混入している。(P 5)
- 黒褐色土(10YR3/2)浅黄褐色土(10YR8/4)(VII層)を多量に混入する。
- 浅黄褐色土層は20cm大を含む。(P 4)
- 浅黄褐色土層主体。黒褐色土を混じる。
- 2層よりも黄褐色土粒が目立つ。2層と3層の中間土質。
- 黒褐色土(10YR3/2)褐色土(VI層)を斑状に含む。
- 暗褐色土(10YR3/3)VI層土主体。
- 黄褐色土層を含む。(P 4)
- 暗褐色土(10YR3/3)VI層土主体。黄褐色土粒を含む。



第183図 時沢西組屋谷戸遺跡8号掘立柱建物平面図

時沢西組屋谷戸遺跡9号掘立柱建物

(第184図 PL.78 遺物観察表P.347)

グリッド 43区1・J11

主軸方位 N-22°-E

重複 無し

形態 桁行2間・梁行2間(3.19～3.28m×2.02～2.96m)の側柱建物である。南北棟。

柱間は北南辺0.86～1.36m、東西辺は1.23～1.96mで北南辺が東西辺より短い。全体としてはP3の位置がやや西に偏っていることから柱間の計測値にばらつきがでている。柱筋の通りは良い。

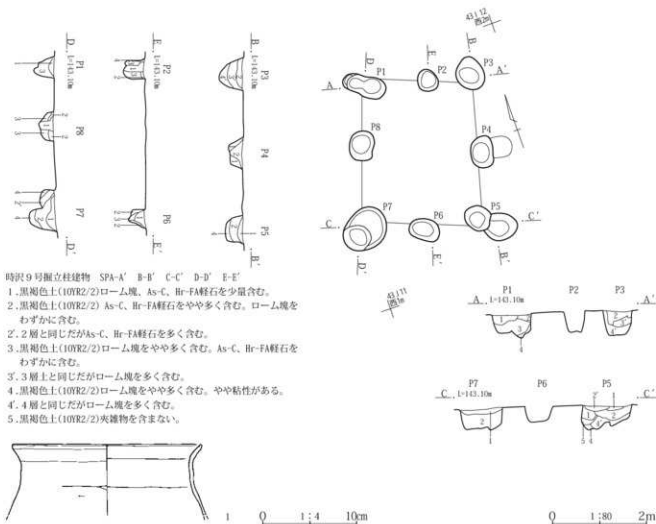
柱穴は規模が一様でなく、抜き取りの穴を伴い、不整形になっている柱穴もあった。P2とP8の土層断面で明瞭に柱痕跡が確認された。柱穴は不整楕円形あるいは円形で、長径0.49～1.02m、短径0.37～0.87m、深さ0.31～0.57mでややばらつきがあった。

内部施設 無し

出土遺物 P2の埋没土中から土師器甕(第184図1)が出土した。ここで図示した遺物以外に、遺構確認作業に土師器壺・甕類破片1点、須恵器瓶・甕類破片1点が出土した。

第28表 時沢西組屋谷戸遺跡9号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模	桁行2間・梁行2間		棟方向		形状	次柱穴との間隔(m)
	N-22°-E		南北棟			
主軸方向	柱穴No	規模(m)		深さ		
		長径	短径			
北辺 2.02	P1	0.94	0.37	0.43	隅丸長方形	1.17
	P2	0.49	0.43	0.46	楕円形	0.86
東辺 3.28	P3	0.71	0.58	0.57	楕円形	1.67
	P4	0.68	0.46	0.41	隅丸長方形	1.63
南辺 2.96	P5	(0.60)	0.58	0.44	楕円形	1.6
	P6	0.66	0.46	0.36	隅丸長方形	1.36
西辺 3.19	P7	1.02	0.87	0.57	楕円形	1.96
	P8	0.63	0.52	0.31	隅丸長方形	1.23



第184図 時沢西組屋谷戸遺跡9号掘立柱建物平面と出土遺物図

時沢西紺屋谷戸遺跡10号掘立柱建物

(第185図)

グリッド 43区R・S16・17

軸方位 N-8°-W

重複 1号・2号溝と重複していたが、新旧関係は不明である。

形態 桁行1間・梁行1間(3.60～3.67m×3.40～3.56m)の側柱建物である。東西棟。北西隅に検出されたP6は、西辺北端の側柱か、堀等の付属施設の柱穴と考えられる。P6が西辺北端の側柱である場合は、南西隅の柱穴は2号住居埋没土中にあっただけであるが、調査で

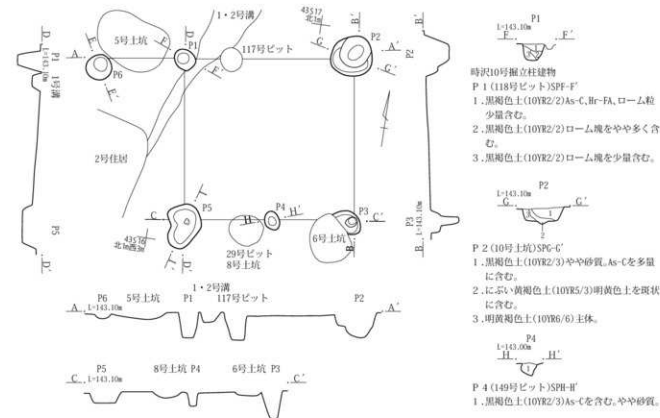
は検出することはできなかった。ここでは、P6は堀等の付属施設に関わる柱穴と考えておきたい。

柱間は北南辺3.60～3.67m、東西辺は3.40～3.56mで全体の形状はほぼ正方形である。柱筋の通りは良い。

柱穴は規模が一様でなく、不整形な柱穴もあった。土層断面でも明確に柱痕跡は確認されなかった。柱穴は不整形円形あるいは円形で、長径0.47～0.96m、短径0.32～0.87m、深さ0.21～0.58mでややばらつきがあった。

内部施設 北辺に堀のような施設が付帯していた可能性がある。

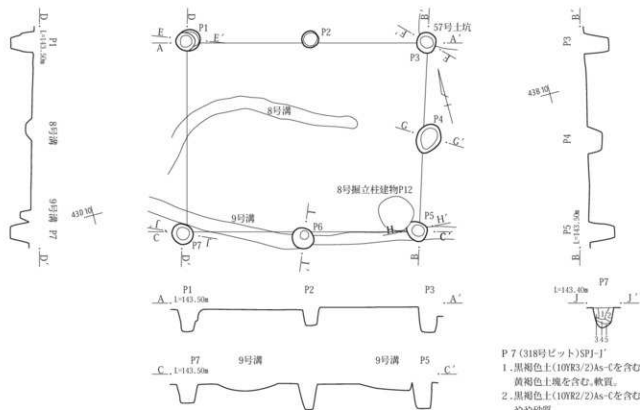
出土遺物 無し



第29表 時沢西紺屋谷戸遺跡10号掘立柱建物柱穴計表

建物全体規模		桁行1間・梁行1間		棟方向		東西棟か	
軸方向		N-82°-E		施設			
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
北辺 3.67	P1	0.47	0.41	0.4	楕円形	3.67	
東辺 3.56	P2	0.91	0.87	0.51	楕円形	3.56	
南辺 3.60	P3	0.67	0.37	0.58	不整形円形	1.71	
	P4	0.40	0.32	0.31	楕円形	1.89	
西辺 3.40	P5	0.96	0.76	0.21	不整形円形	P1まで3.40	
	P6	0.54	0.53	0.45	楕円形	P1まで1.75	

第185図 時沢西紺屋谷戸遺跡10号掘立柱建物平面図



- P 7 (318号ビット)SPJ-I'
1. 黒褐色土(10YR3/2)As-Cを含む。黄褐色土塊を含む。軟質。
 2. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。やや砂質。
 3. 黒褐色土と黄褐色土が塊状に混在する。
 4. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。
 5. 黄褐色土、Ⅴ層土塊主体。黒褐色土を混じる

- 時沢11号独立柱建物
P 1 (313号ビット)SPE-E'
1. 暗褐色土(10YR3/3)軟質。黒褐色土を混じる。
 2. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含む。
 3. 黄褐色土 Ⅴ層土塊。
 4. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土は2層よりも少ない。やや粘質。

- P 3 (312号ビット)SPF-F'
1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。黄褐色土粒を含む。
 2. 黒褐色土と褐色土(Ⅴ層)土が混在。
 3. 黒褐色土。黄褐色土粒。目立たない。
 4. 暗褐色土。均質。やや粘質。
 5. 黒褐色土(10YR2/2)
 6. 黒褐色土。黄褐色土塊多量に多く含む。

- P 4 (310号ビット)SPC-G'
1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。Ⅳ層土主体。Hr-FM軽石含む。やや砂質。
 2. 黒褐色土(Ⅳ層)主体。Hr-FM軽石含む。やや砂質。1層よりも褐色土粒を多量に含む。
 3. 褐色土(Ⅴ層)主体。
 4. 黒褐色土 1層と同質。やや粘質。

- P 5 (343号ビット)SPH-H'
1. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。やや砂質。
 2. 黒褐色土 黄褐色土(Ⅴ層)粒の混入が目立つ。
 3. 黒褐色土(10YR2/2)
 4. 黄褐色土(10YR5/6)Ⅴ層土塊主体。

- P 6 (311号ビット)SPJ-I'
1. 暗灰色土 粗長。
 2. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。
 3. 黄褐色土塊主体。黒褐色土と混じる。
 4. 暗褐色土(10YR3/3)黒褐色土。黄褐色土塊を混じる。
 5. 黒褐色土 As-Cを含む。
 6. 4層と同じ。

第30表 時沢西組屋谷戸遺跡11号独立柱建物柱穴計測表

建物全体規模 主軸方向	桁・梁の規模(m)	柱穴No	規模(m)			形状	柱穴との間隔(m)
			長さ	短径	深さ		
北辺	5.10	P 1	0.52	0.44	0.49	楕円形	2.62
東辺	3.98	P 2	0.36	0.36	0.33	円形	2.49
		P 3	0.44	0.4	0.52	円形	1.98
南辺	5.01	P 4	0.64	0.51	0.33	楕円形	2
		P 5	(0.42)	0.38	0.52	楕円形	2.41
西辺	4.02	P 6	0.47	0.43	0.53	円形	2.6
		P 7	0.46	0.42	0.39	円形	4.02

第186図 時沢西組屋谷戸遺跡11号独立柱建物断面図

時沢西組屋谷戸遺跡11号掘立柱建物

(第186図)

グリッド 43区B・C9・10

主軸方位 N-17°-E

重複 9号溝と重複していたが、11号掘立柱建物P6の土層断面から11号掘立柱建物が古いことが判明している。また、8号掘立柱建物と重複しているが、新旧関係は不明である。

形態 桁行2間・梁行2間(5.01～5.10m×3.98～4.02m)の側柱建物である。東西棟。西辺の中央の柱穴は8号溝と重複していたために検出が困難であった。溝と至近の柱穴の底面レベルからすれば、検出できたはずであった。

柱間は北南辺2.41～2.62m、東西辺は1.98～2.00mで北南辺の柱間が東西辺より長い。柱筋の通りは良い。

柱穴は小規模で規格が整っている。土層断面からP7で柱痕跡が確認できたが、他のビットでは確認できな

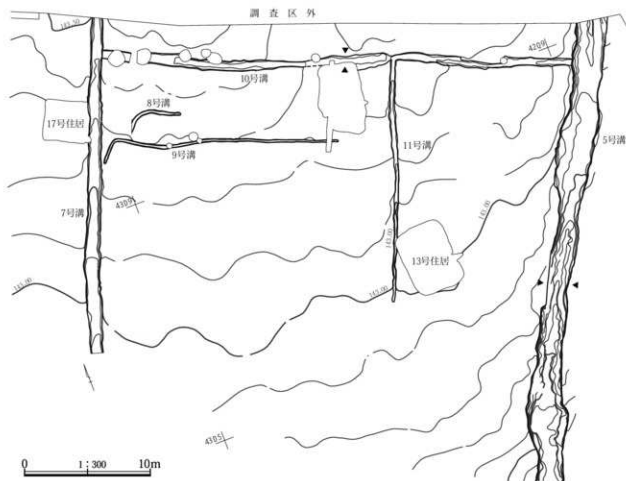
かった。柱穴は不整楕円形あるいは円形で、長径0.36～0.64m、短径0.36～0.51m、深さ0.33～0.53mでややばらつきがあった。

内部施設 無し **出土遺物** 無し

4. 溝

溝は14条検出されているが、概要(P.141)で記述したように西部で3条、中央部で5条、東部で6条検出された。このうち、12号・13号・14号溝は1号道路の付属溝として、上町遺跡12号～18号溝とともに第5章で報告した。また、15号溝は上町遺跡14号溝につながる溝であることから第5章で報告した。したがって、ここでは10条の溝について記述する。

東部の6条の溝の位置は下图の通りである。調査長が長い5号・10号溝の平面図は、▲の位置でほぼ二分し、並行して配置した。



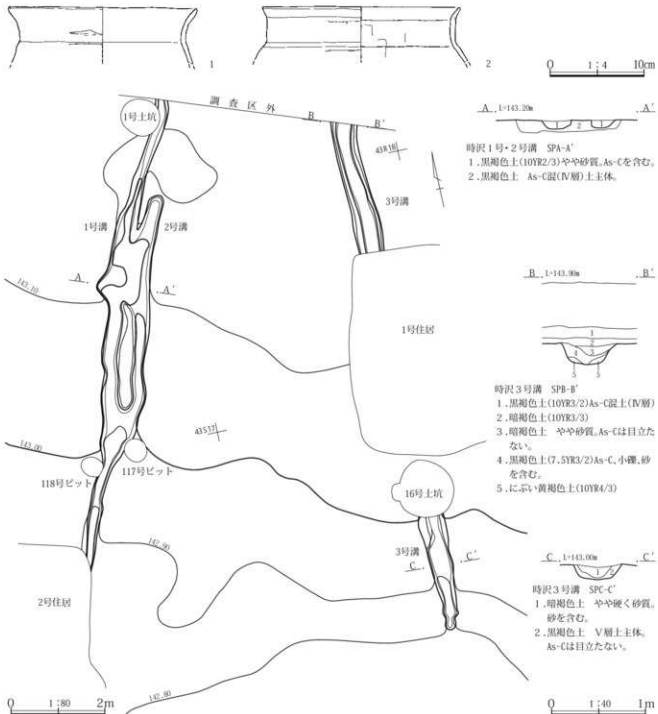
第187図 時沢西組屋谷戸遺跡東部溝群位置図

時沢西組屋谷戸遺跡 1号溝・2号溝
(第188図 PL.78 遺物観察表P.347)

1号溝・2号溝は時沢西組屋谷戸遺跡西部で検出された。ほぼ南北方向の溝である。2号溝は1号溝に沿うようであり、一部では合流していた。2号住居と重複しているが、新旧関係は不明である。2号住居埋没土中では確認されていない。

1号溝は走向N-22°-E、上幅1.13m、深さ0.16m、

調査長は9.93mである。2号溝は走向N-24°-E、上幅1.13m、深さ0.16m、調査長は7.91mである。いずれの溝の断面形はボール状で、底面は丸かった。1号溝は北端が0.31m高かった。溝内はいずれもAs-Cを含む砂質の黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断された。遺物は1号溝で土師器杯類破片14点、壺・甕類破片3点、須恵器杯・椀類破片3点が、2号溝で土師器杯類破片9点、須恵器杯・椀類破片2点が出土した。また1号溝・



第188図 時沢西組屋谷戸遺跡 1号～3号溝断面と出土遺物図

2号溝合流部で土師器杯類破片5点、壺・甕類破片3点、須恵器杯・椀類破片6点、瓶・甕類破片2点が出土した。

1号・2号溝の性格や時期は不明である。

時沢西組屋谷戸遺跡3号溝

(第188図 PL.78)

3号溝は時沢西組屋谷戸遺跡西部で、1号・2号溝の東側で検出された。南北方向の溝である。11号住居と重複しているが、新旧関係は不明である。1号住居埋没土中では確認されていない。

走向N-0°-E、上幅0.60m、深さ0.22m、調査長は11.0mである。断面形はボール状で、底面は丸かった。底面標高は北端が0.27m高かった。

3号溝内は砂を含む暗黒褐色土で埋まっていたが、流水を推定させる堆積状況ではなかった。自然埋没と判断された。

遺物は土師器杯類破片52点、盤類破片1点、壺・甕類破片15点、須恵器瓶・甕類破片2点が出土した。

時沢西組屋谷戸遺跡5号溝 (第189・191・192図

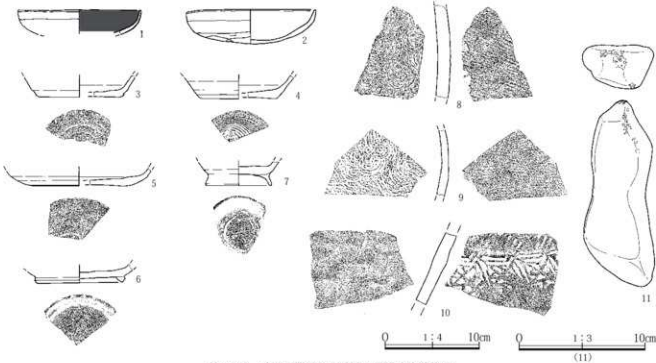
PL.78・79・121 遺物観察表P.347・352・356)

5号溝は時沢西組屋谷戸遺跡発掘区東端で検出された。南北方向の溝である。台地上の縁辺に掘られた溝で

ある。平面形に大きく2条の底面があり、一度掘り直されていることがわかる。埋没土の観察から、西側から中央そして東側の底面が新しい溝と推定される。その新しい溝が上町遺跡2号溝につながると推定されるが、接する部分は調査工程の都合により調査できなかった。また、北部で11号溝と交差するが、新旧関係は不明である。

全体の走向はN-27°-E、上幅3.40m、深さ0.65m、調査長は38.90mである。1条の溝の上幅は1.60mほどである。断面形は逆台形で、底面は平坦であった。底面標高は北端が0.80m高く、新しい溝内は砂礫層で埋まっていたことから、5号溝は用水路と推定される。旧溝には直径10cmを超えるローム塊を混じる黒褐色土が水平堆積しており、新溝を掘った土砂で埋められたと推定される。新溝には厚く砂が堆積しているが、その砂層中にはローム塊が認められ埋め土で造られた壁が崩落したものと考えられる。

旧溝には、土層断面C-C' 9層にAs-Bが直径20mm程の塊で混入していたことから、5号溝は中世以降の溝と考えられる。埋没土中から12世紀～13世紀初頭とみられる渥美陶器甕体部破片(第189図10)が出土した。遺憾ながら新旧どちらの溝から出土したかは不明である。図示した遺物は埋没土中から出土した。ここで図示した遺物以外に埋没土中から土師器杯・碗破片109点、壺・甕類



第189図 時沢西組屋谷戸遺跡5号溝出土遺物図

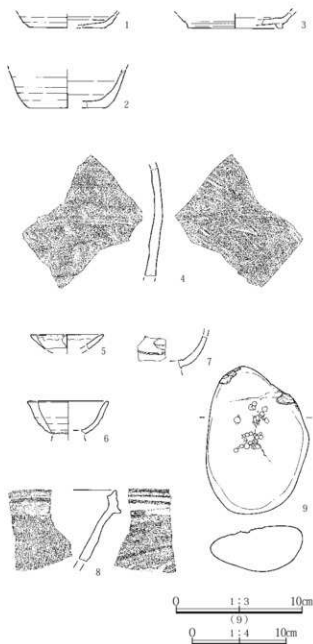
破片204点、須恵器杯・椀類破片32点、瓶・甕類破片28点、国産施釉陶器破片1点が出土した。

時沢西紺屋谷戸遺跡6号溝

(第190・228図 PL.93・121 遺物観察表P.347)

6号溝は時沢西紺屋谷戸遺跡発掘区東端の低地内Cトレンチで検出された。低地の東側台地の西縁辺に掘られた溝で、水田のアゼ脇の溝とみられる。

走向はN-28°-E、上幅0.82m、深さ0.35m、調査長は2.71mである。断面形はボール状で、底面は平坦で



第190図 時沢西紺屋谷戸遺跡6号溝出土遺物図

あった。底面標高は北端が0.05m高く、溝内は小礫砂を混在する粘質の黒褐色土(10YR2/3)で埋まっていた。水流の痕跡のある埋没土であることから6号溝は用水路と推定される。

北端西縁底面12cmで須恵器瓶(第175図1)が出土しており、3号竪穴状遺構で出土した破片と接合した。埋没土中からも須恵器杯(第190図1・2・3)が出土しているが、これは台地上の古代集落から混入した遺物と考えられる。他に埋没土中から龍泉窯系青磁(第190図7)、古瀬戸緑釉皿(5)、丹波陶器すり鉢(8)が出土しており、中世から18世紀までの遺物が混在していた。したがって、6号溝は18世紀以降の溝と考えられよう。

ここで図示した遺物以外に土師器杯・椀破片28点、壺・甕類破片153点、須恵器杯・椀類破片39点、瓶・甕類破片36点、灰陶器椀破片1点、国産施釉陶器破片1点が出土した。

時沢西紺屋谷戸遺跡7号溝

(第193図 PL.79 遺物観察表P.347)

7号溝は時沢西紺屋谷戸遺跡東部で検出された。台地中央を東西に区切るように直線で掘られた南北方向の溝である。

走向はN-21°-E、上幅1.25m、深さ0.27m、調査長は26.60mである。南端部は7ラインで途切れる。断面形は浅い箱形で、底面には凹凸が著しかった。底面標高は北端が0.49m高く、溝内はA・S-Bを含む灰黄褐色土で埋まっていた。水流の痕跡はなく、自然埋没と判断された。

北半部11ライン付近の東縁底面上5cmで16世紀末～17世紀とみられる瀬戸・美濃陶器折縁皿(第193図1)が、9ライン付近の中央部底面上8cmで須恵器長頸壺(3)が、8ライン付近の東縁底面上12cmで17世紀中葉～18世紀の瀬戸・美濃陶器輪壳皿(2)が出土した。須恵器椀は混入であろう。ここで図示した遺物以外に土師器杯・椀破片2点、壺・甕類破片1点、須恵器杯・椀類破片4点、瓶・甕類破片5点、国産施釉陶器破片1点が出土した。

7号溝は出土遺物から18世紀以降の溝と考えられる。

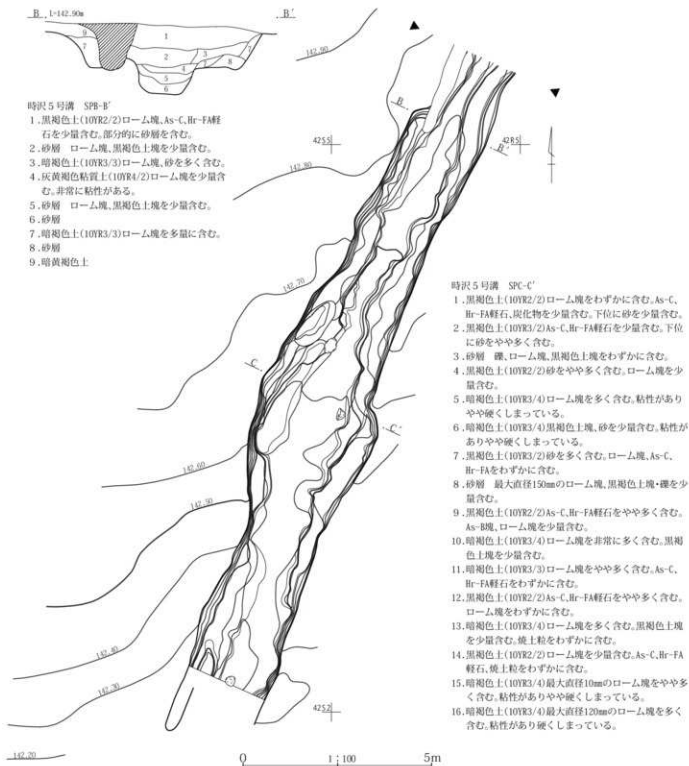
第5章 時沢西組屋谷戸遺跡の遺構と遺物

B, L=142.90m

B'

時沢5号溝 SFB-B'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、As-C、Hr-FA軽石を少量含む。部分的に砂層を含む。
2. 砂層 ローム塊、黒褐色土塊を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊、砂を多く含む。
4. 灰黄褐色粘質土(10YR4/2)ローム塊を少量含む。非常に粘性がある。
5. 砂層 ローム塊、黒褐色土塊を少量含む。
6. 砂層
7. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多量に含む。
8. 砂層
9. 暗黄褐色土

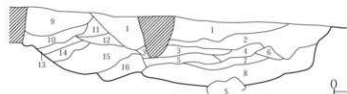


時沢5号溝 SPC-C'

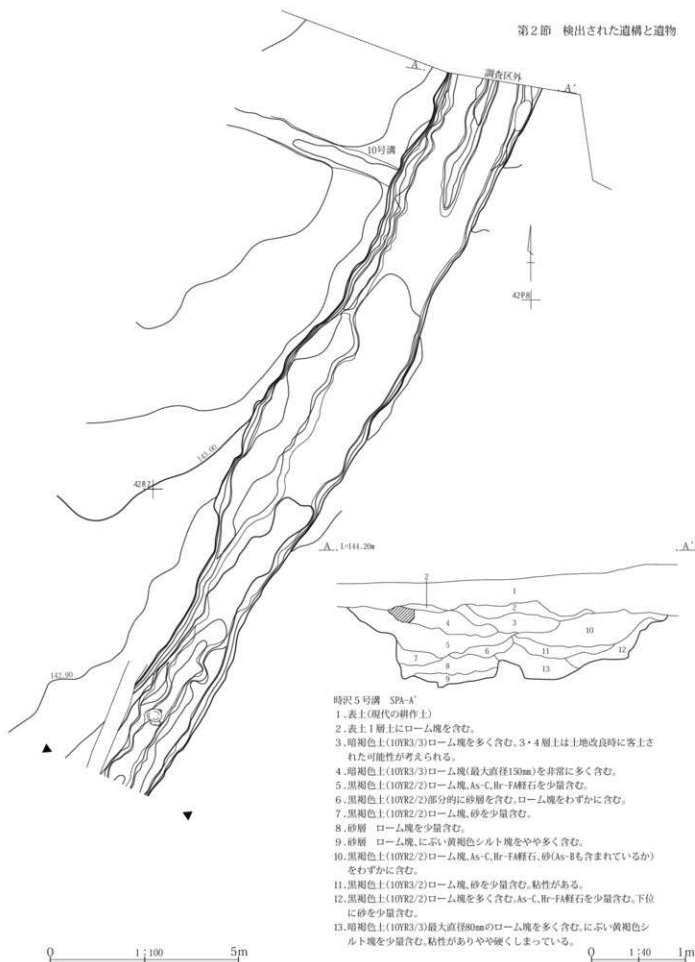
1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をわずかに含む。As-C、Hr-FA軽石、炭化物を少量含む。下に砂を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2)As-C、Hr-FA軽石を少量含む。下に砂をやや多く含む。
3. 砂層 礫、ローム塊、黒褐色土塊をわずかに含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)砂をやや多く含む。ローム塊を少量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を多く含む。粘性がありやや硬くしまっている。
6. 暗褐色土(10YR3/4)黒褐色土塊、砂を少量含む。粘性がありやや硬くしまっている。
7. 黒褐色土(10YR3/2)砂を多く含む。ローム塊、As-C、Hr-FAをわずかに含む。
8. 砂層 最大直径150mmのローム塊、黒褐色土塊・礫を少量含む。
9. 黒褐色土(10YR2/2)As-C、Hr-FA軽石をやや多く含む。As-B塊、ローム塊を少量含む。
10. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を非常に多く含む。黒褐色土塊を少量含む。
11. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊をやや多く含む。As-C、Hr-FA軽石をわずかに含む。
12. 黒褐色土(10YR2/2)As-C、Hr-FA軽石をやや多く含む。ローム塊をわずかに含む。
13. 暗褐色土(10YR3/4)ローム塊を多く含む。黒褐色土塊を少量含む。焼土粒をわずかに含む。
14. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を少量含む。As-C、Hr-FA軽石、焼土粒をわずかに含む。
15. 暗褐色土(10YR3/4)最大直径10mmのローム塊をやや多く含む。粘性がありやや硬くしまっている。
16. 暗褐色土(10YR3/4)最大直径120mmのローム塊を多く含む。粘性があり硬くしまっている。

C, L=143.00m

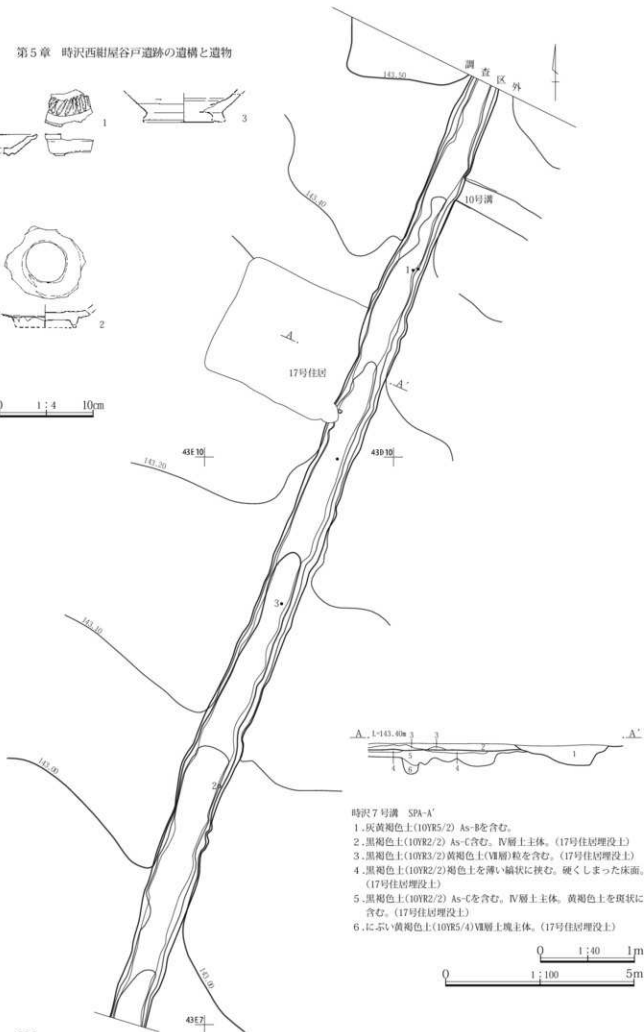
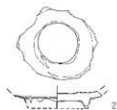
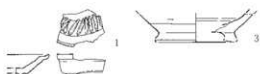
C'



第191図 時沢西組屋谷戸遺跡5号溝平面図(1)

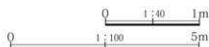


第192図 時沢西組屋戸遺跡5号溝断面図(2)



時沢7号溝 SPA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) As-Bを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-C含む、IV層土主体、(17号住居埋没上)
3. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土(V層)粒を含む、(17号住居埋没上)
4. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土を薄い縞状に挟む、硬くしまった床面、(17号住居埋没上)
5. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む、IV層土主体、黄褐色土を斑状に含む、(17号住居埋没上)
6. にぶい黄褐色土(10YR5/4)VI層土塊主体、(17号住居埋没上)



時沢西紺屋谷戸遺跡 8号溝

(第194図)

8号溝は時沢西紺屋谷戸遺跡発掘区東部、7号溝と11号溝の間で検出された。湾曲する部分の一部が残されたものと推定される。

走向は $N-66^{\circ}-W$ 、上幅0.32m、深さ0.14m、調査長は4.28mである。断面形や埋没土中の記録がなく不明。遺物も出土しなかった。

時沢西紺屋谷戸遺跡 9号溝

(第194図)

9号溝は時沢西紺屋谷戸遺跡発掘区東部、7号溝と11号溝の間で、8号溝の南側で検出された。西端は7号溝の東側で南西方向に屈曲していた。直線部分は北側の10号溝と平行していた。

7号・8号・11号掘立柱建物と重複しているが直接の新旧関係は不明である。

走向は $N-69^{\circ}-W$ 、上幅0.32m、深さ0.20m、調査長は19.70mである。断面形や埋没土中の記録がなく不明。遺物も出土しなかった。

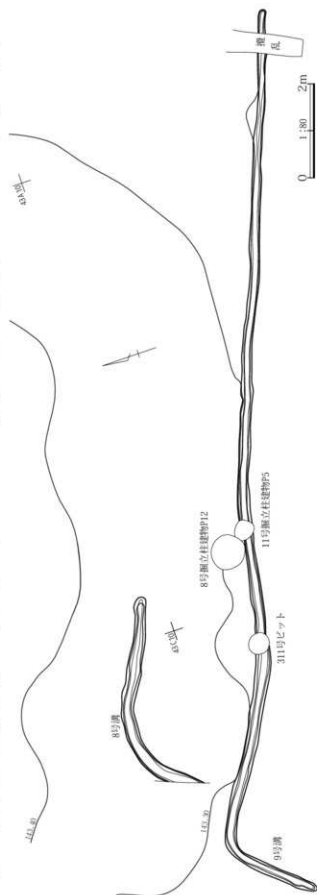
時沢西紺屋谷戸遺跡 10号溝

(第195図 PL.79)

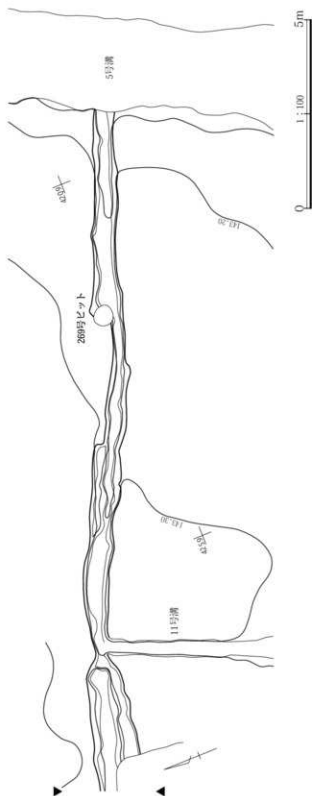
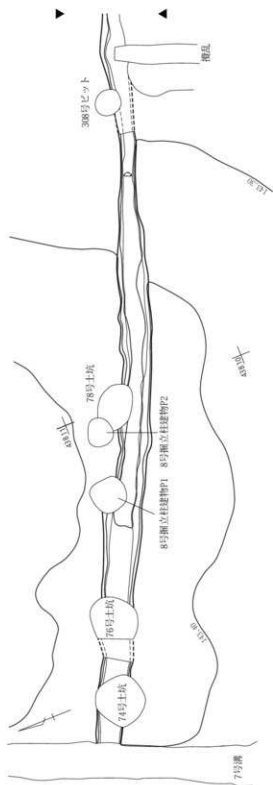
10号溝は時沢西紺屋谷戸遺跡東部北端で検出された。台地を横断する東西方向に掘られた直線の溝である。7号溝と5号溝をつなぐような位置に掘られていた。8号掘立柱建物P1と重複していたが、10号溝が新しい。また、78号土坑と重複していたが、10号溝が古い。交差する5号・7号・11号溝との新旧関係は不明である。

走向は $N-63^{\circ}-W$ 、上幅1.25m、深さ0.19m、調査長は37.20mである。断面形は浅いボール状で、底面は平坦であった。底面標高は西端が0.31m高く、溝内は褐色土を斑状に含む黒褐色土や、As-Bを含み、褐色土の混入が目立つ黒褐色土で埋まっていた。水流の痕跡はなく、自然埋没と判断された。遺物は小破片のため図示しなかったが、土師器杯・椀破片1点、壺・甕類破片1点が出土した。

10号溝の時期は埋没土にAs-Bを含むことから中世以降であり、性格は不明である。



第194図 時沢西紺屋谷戸遺跡 8号・9号溝平面図



第195図 時沢西組屋谷戸遺跡10号溝平面断面図

時沢西組屋谷戸遺跡11号溝

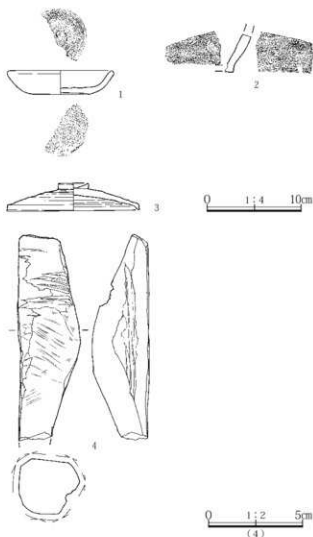
(第196・197図 PL.121 遺物観察表P.347)

11号溝は時沢西組屋谷戸遺跡東部で7号溝の25m東側に平行する位置で検出された。

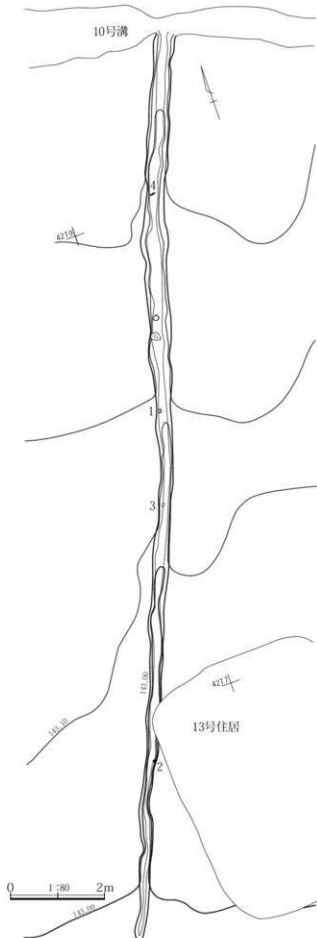
走向はN-23°-E、上幅0.60m、深さ0.73m、調査長は19.50mである。幅に比べて深さのある溝で、底面は平坦であった。標高は北端が0.26m高かった。埋没土中の記録がなく、不明である。

北部9ラインの中央部底面上13cmで砥石製の砥石(第196図4)が、8ライン周辺で江戸時代とみられる在り系土器皿(1)が底面直上で、須恵器蓋(3)が底面上5cmで出土した。また7ライン付近で江戸時代の在り系土器焙烙(2)が底面上5cmで出土した。須恵器蓋は混入であろう。

出土遺物から11号溝は江戸時代以降の溝であろう。



第196図 時沢西組屋谷戸遺跡11号溝出土遺物図



第197図 時沢西組屋谷戸遺跡11号溝断面図

5. 井戸

時沢西紺屋谷戸遺跡 1号井戸

(第198図 PL.74 遺物観察表P.347)

グリッド 44区A16

形状 楕円形 重複 なし

規模 長径2.19m 短径2.14m

残存壁高1.10m

長軸方位 N-87°-W

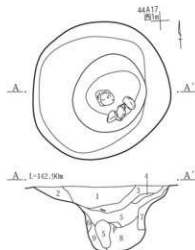
断面形 上方は大きく土坑状で、中央よりやや東に寄った位置に筒形の湧水坑が穿たれていた。

埋没土 上層はAs-C、明黄褐色土塊を含む黒褐色土で、中層はやや砂質のAs-Cを含むにぶい黄褐色土で、下層は暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)で埋まっていた。

底面 底面形状は不明である。

遺物出土状況 大型礫が5~6個出土した。遺物は埋没土中から、土師器杯・椀破片53点、壺・甕類破片66点、須恵器杯・椀破片16点が出土した。

所見 時沢西紺屋谷戸遺跡西部の竪穴住居群のなかで検出された。上位に平坦部のある大型の井戸である。出土遺物から9世紀代の井戸と考えられる。



時沢1号井戸 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)焼土細粒含む。軽石粒(As-C) 0.5cm以下を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。明黄褐色土塊1cm大粒を含む。
3. 明黄褐色土 やや砂質。焼土粒含まない。
4. にぶい黄褐色土(10YR6/4)塊主体。
5. にぶい黄褐色土(10YR6/4)やや砂質。As-Cの混入は上層より少ない。
6. 暗灰黄色土(2.5Y5/2)地山のローム崩落土塊主体。
7. 6層と同様。細かく混在する。
8. 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)
9. 8と同質。ローム塊を含む。

0 1:60 2m

6. 土坑

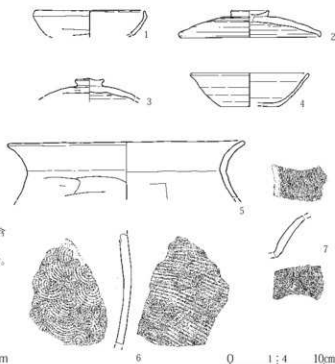
時沢西紺屋谷戸遺跡では90基の土坑が検出された。本書では形態や規模で、①円形中型から小型(直径1.49m~0.79mで漸移的に変化)、②楕円形(長軸1.86~0.48m)、③長方形、④不整形、⑤ピット状の5種類に分けて報告する。なお、上町遺跡で分類された「直径1.5m以上の円形大型」と「隅丸方形」の土坑は時沢西紺屋谷戸遺跡では検出されなかった。

(1) 円形中型から小型

(第199~201・209図 PL.80~83 遺物観察表P.348)

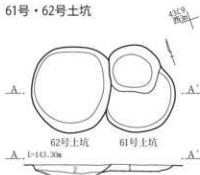
円形で中型から小型の土坑は、32基が検出された。これらの円形土坑は浅くて軽石や炭化物粒、ローム粒を含む砂質の黒褐色土や黒褐色土で埋まっていた。大きさは漸移的に変化し、最大は直径1.39mの62号土坑と74号土坑、最小は0.79mの66号土坑である。遺構平面図は1.3m台、1.2m台、1.1m台・・・というように10cmごとに土坑番号順に配置した。

全体的に深さ0.1~0.2mの断面皿状の土坑がほとんどであったが、74号土坑、16号土坑、63号土坑、93号土



第198図 時沢西紺屋谷戸遺跡1号井戸平面図と出土遺物図

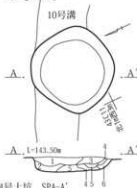
61号・62号土坑



時沢61号・62号土坑 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質。As-Bを混じる。
2. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土(VII層)塊、黒褐色土(IV層)塊を含む。
3. 褐色土(10YR4/6)VI層上塊。黄褐色土塊主体。暗褐色土塊を含む。

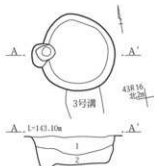
74号土坑



時沢74号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cは目立たない。やや粘質。黄褐色土粒を含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2)As-Cは目立たない。やや粘質。
4. 黄褐色土 VII層上塊。
5. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土粒を含む。
6. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含む。

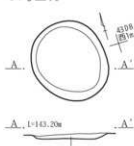
16号土坑



時沢16号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)に赤い黄褐色土(V層)を斑状を含む。

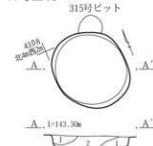
54号土坑



時沢54号土坑 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR2/3) 褐色土(VI層)土を斑状を含む。

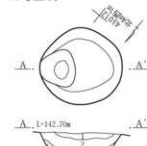
63号土坑



時沢63号土坑 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質。As-Bを混じる。
2. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土(VII層)塊、黒褐色土(IV層)塊を含む。
3. 灰黄褐色土 黄褐色土(VII層)塊を含む。粘質。

93号土坑



時沢93号土坑 SPA-A'

1. 褐色土(10YR4/4)主体。黒褐色土を混じる。As-Cを含む。やや粘質。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-C含む。IV層上主体。やや砂質。
3. 褐色土(10YR4/4)粘質。均質。黄褐色土塊を含む。
4. 褐色土と黒褐色土が混じる。粘質。

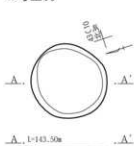
34号土坑



時沢34号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-Bを混じる。砂質。ローム塊、As-C、Br-FA軽石を少量含む。

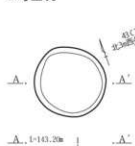
59号土坑



時沢59号土坑 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質。As-Bを混じる。

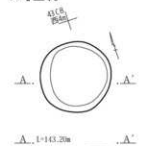
50号土坑



時沢50号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土(VI層)を斑状を含む。

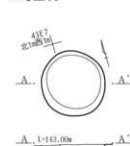
53号土坑



時沢53号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土(VI層)を斑状を含む。

56号土坑



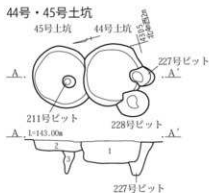
時沢56号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)IV層上主体。As-Cを含む。
2. 黒褐色土 As-Cを含む。黄褐色土塊を含む。



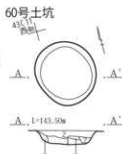
第199図 時沢西館屋谷戸遺跡土坑平面断面図(1)円形土坑

44号・45号土坑



- 時沢44号・45号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Bを混じる。砂質。ローム塊、As-C、Hr-FA軽石を少量含む。炭化物を少量含む。(44号土坑)
 2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Bを混じる。砂質。ローム塊、As-C、Hr-FA軽石を少量含む。(45号土坑)
 3. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊を多く含む。As-C、Hr-FA軽石をわずかに含む。(211号ピット)

60号土坑



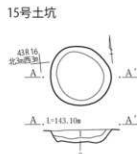
- 時沢60号土坑 SPA-A'
1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質。As-Bを混じる。
 2. 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土(V層)塊、黒褐色土(IV層)塊を含む。

40号土坑



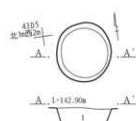
- 時沢40号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Bを混じる。砂質。ローム塊、As-C、Hr-FA軽石を少量含む。ローム塊をやや多く含む。

15号土坑



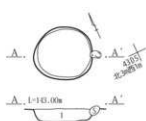
- 時沢15号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) やや砂質。As-Cを含む。
 2. 黒褐色土(10YR2/3) に多い黄褐色土を塊状に含む。

35号土坑



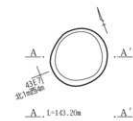
- 時沢35号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Bを混じる。砂質。ローム塊、As-C、Hr-FA軽石を少量含む。

37号土坑



- 時沢37号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Bを混じる。砂質。ローム塊、As-C、Hr-FA軽石を少量含む。

52号土坑



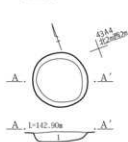
- 時沢52号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) やや砂質。As-Cを含む。
 2. 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土(V層)を塊状に含む。

39号土坑



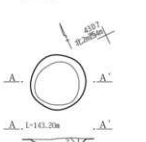
- 時沢39号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Bを混じる。砂質。ローム塊、As-C、Hr-FA軽石を少量含む。

42号土坑



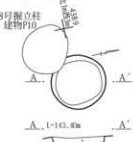
- 時沢42号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Bを混じる。砂質。ローム塊、As-C、Hr-FA軽石を少量含む。

51号土坑



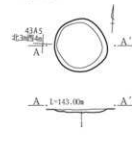
- 時沢51号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) やや砂質。As-Cを含む。
 2. 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土(V層)を塊状に含む。

58号土坑



- 時沢58号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Bを混じる。砂質。
 2. 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土(V層)塊を混じる。

41号土坑



- 時沢41号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Bを混じる。砂質。ローム塊、As-C、Hr-FA軽石を少量含む。



第200図 時沢西組屋谷戸遺跡土坑平面断面図(2)円形土坑

43号土坑



時沢43号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-Bを混じる。砂質。ローム塊、As-C、Hr-FA軽石を少量含む。

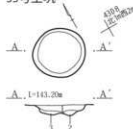
73号土坑



時沢73号土坑 SPA-A'

1. 暗灰色土。As-B混入。均質。砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土(10YR4/4)粒を多量に含む。

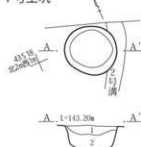
55号土坑



時沢55号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土(VI層)土を斑状に含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土塊(VI層)土を多量に含む。

1号土坑



時沢1号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3) やや粘質。As-Cは少ない。

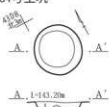
36号土坑



時沢36号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-Bを混じる。砂質。ローム塊、As-C、Hr-FA軽石を少量含む。

64号土坑



時沢64号土坑 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土(VI層)塊。黒褐色土(IV層)塊を含む。
2. 褐色土(10YR4/6)VI層土塊。黄褐色土塊主体。暗褐色土塊を含む。

66号土坑



時沢66号土坑 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質。As-Bを混入る。

0 1:60 2m

第201図 時沢西紺屋谷戸遺跡土坑平面断面図(3)円形土坑

坑、44号土坑のように深さ0.3～0.5mで断面形が箱形の土坑も混在していた。

埋没土には2種類があり、①As-Bが混じている土坑と、②As-Bがなく、Hr-FAやAs-Cの軽石粒とローム粒が混じることが観察された土坑とがあった。

①の土坑は埋没土の状況から中世以降の遺構であり、32基中16基がAs-Bが混在する黒褐色土で埋まっていた。このAs-B混土で埋まっていた土坑は円形土坑に限られていた。それらの土坑は形状が整い43区A1～D6グリッドに集中していた。この地点は、同様にAs-Bを含む土で柱穴が埋まっており中世以降の建物と推定される上町遺跡13号掘立柱建物のすぐ北側にあっており、全体としての中世の土地利用が想定できるかもしれない。遺物が出土したのは59号土坑のみで土師器杯・椀破片1点が出土した。混入であろう。

②の土坑は古代以前の土坑と推定され、調査区内の堅

穴住居分布域に数基がまとまって分布していた。出土遺物は少ないが、16号土坑埋没土中から須恵器椀(第209図4)、須恵器甕(5)が出土した。ここで図示した遺物以外には、1号土坑で土師器壺・斐類破片1点が、15号土坑で須恵器瓶・斐類破片1点が、16号土坑で土師器杯・椀破片20点、壺・斐類破片3点が、34号土坑で土師器壺・斐類破片1点が、74号土坑で土師器杯・椀破片1点、壺・斐類破片1点が、93号土坑で土師器壺・斐類破片2点が出土した。

(2) 楕円形の土坑

(第202～205・209図 PL.84～87・122 遺物観察表P.348)

楕円形の土坑は34基が検出された。時沢西組屋谷戸遺跡では楕円形の土坑の数が多く、大きさは漸移的に変化し、最大は長径1.90mの70号土坑と1.89mの26号土坑、最小は0.75mの69号土坑であった。遺構平面図は1.7m以上、1.6m台、1.5m台・というように10cmごとに土坑番号順に配置した。

楕円形土坑で最大の70号土坑は長径1.90m、短径1.36m、深さ0.3mの大型楕円形土坑である。上方は大きく外に開くが、中位より下位はほぼ垂直に立ち上がる。最下位は壁を0.1～0.15m抉って掘り込んでいた。断面形からはいわゆる陥穴に類似するが、As-C混土塊を含む埋没土の様相から縄文時代の遺構ではない。また逆茂木のピットも検出されなかった。埋没土の堆積は斜めに折り重なるようであり、人為的埋没と判断された。

この70号土坑は71号、72号土坑と重複して検出された。これらの土坑群の周囲は方形の竅穴状に深さ0.2～0.3m掘り込まれていた。大きな竅穴状であったため、調査当初は住居を想定して掘り進めたが、土坑が重複し、その周囲が落ち込んでいた。

71号土坑も長径1.79m、短径1.51m、深さ0.65mの大型楕円形土坑である。70号土坑と同様に最下位は壁を0.1～0.15m抉って掘り込んでいた。埋没土の状況も同様で、人為的埋没と判断された。埋没土中から土師器杯・椀破片2点、壺・甕類破片12点、須恵器瓶・甕類破片2点が出土した。

72号土坑は長径0.70m、短径0.49m以上、深さ0.52mの楕円形の土坑で70号土坑より古い。埋没土の堆積は水平であり、人為的埋没と判断された。

これらの土坑群は形状や埋没土の状況から粘土採掘坑と推定される。上町・時沢西組屋谷戸遺跡では竅穴住居の床下で、大規模な粘土採掘坑が検出されているが、竅穴住居掘削と関連しない粘土採掘も遺跡内で行われていた可能性がある。

26号土坑は長径1.89m、短径1.14m、深さ0.35mの大型楕円形土坑である。やや浅いが、下層はローム塊を多く含む黒褐色土で埋まっていた。土坑の性格を明らかにすることはできなかった。遺物は出土しなかった。

80号土坑は長径1.82m、短径1.32m、深さ0.66mの大

型楕円形土坑である。下層は浅黄褐色土を含む黄褐色土が堆積し、上層は炭化物粒の混入が目立つ黒褐色土で埋まっていた。底面は凹凸が著しかった。遺物は出土しなかった。土坑の性格は不明である。

75号土坑は長径1.77m、短径1.44m、深さ0.45mの大型楕円形土坑である。ボール状の丸い底面であった。底部近くに炭化物が著しく壁面が焼けており、埋没土中に大きな焼土塊と灰層が見られた。土坑内で何らかの焼成行為が行われたことが分かる。他に81号、82号、83号土坑に同様な特徴が認められた。遺物は土師器壺・甕類破片1点が出土した。土坑の性格は不明である。

81号土坑は長径1.60m、短径1.02m、深さ0.66mの中型楕円形土坑である。底面直上に厚さ0.15～0.20mの炭化物層があり、下部壁面が焼けており、特殊な用途の土坑と推定される。上半部はAs-C等を含む黒褐色土で自然埋没と推定される。炭化物中に焼骨等がないか水洗し、篩にかけたが、特に炭化物以外の夾雑物は認められなかった。底面直上で角礫2個が出土した。他に遺物は出土しなかった。

82号土坑は長径1.56m、短径1.25m、深さ0.71mの中型楕円形土坑である。黄色粘土塊や白色粘土塊を多量に含む黒褐色土でほぼ水平に重なるように堆積しており、人為的埋没と判断された。粘土採掘坑の可能性が高い。底面から角礫2個が出土した。また、土師器壺・甕類破片3点、須恵器杯・椀破片1点が出土した。

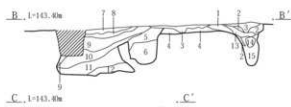
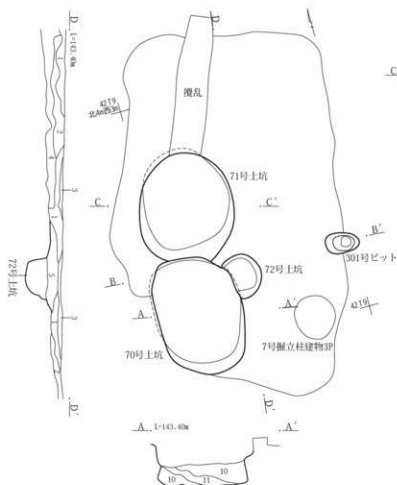
5号土坑は長径1.58m、短径1.07m、深さ0.48mの中型楕円形土坑である。As-Cを多量に含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から須恵器椀(第209図2)が出土した。他に土師器杯・椀破片4点、壺・甕類破片10点、須恵器杯・椀破片2点が出土した。

33号土坑は15号住居と重複して検出された楕円形の土坑である。中央は筒状の断面形をしていた。長径1.57m、短径0.87m、深さ0.67mで、15号住居との新旧関係は不明である。底面付近から角礫が出土した。他に土師器杯・椀破片3点、壺・甕類破片2点が出土した。

18号土坑は北半部が調査区外で全形がとらえられなかったが、楕円形と推定される。長径1.19m、短径0.76m以上、深さ0.61mの中型楕円形土坑である。底面は平坦。As-Cを含むやや砂質の黒褐色土で埋まっており、As-B混土で覆われていたことから、古代の土坑である。

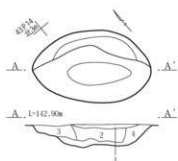
第2節 検出された遺構と遺物

70号・71号・72号土坑



- 時沢70・71・72号土坑・301号ピット SPA-A' SPB-B' SPC-C' SPD-D'
- 1.黒褐色土(10YR2/2) As-C混土(IV層)に暗褐色土(10YR3/4) (VI層)塊を含む。Br-FA軽石も含む。やや砂質。
 - 2.暗褐色土(10YR3/4)黒褐土(VI層)を斑状に含む。
 - 3.暗褐色土 VI層上に黄褐色土(VII層)土塊を混じる。
 - 4.褐色土(10YR4/4)VI層上に黄褐色土(VII層)塊を含む。
 - 5.黒褐色土(10YR2/2) 1層と同様。(72号土坑埋没土)
 - 6.黒褐色土(10YR2/2)As-C混土(IV層)主体。灰白色土(VIII層)土塊含む。(72号土坑埋没土)
 - 7.黒褐色土(10YR2/2) As-C混(IV層)上主体。黄褐色土塊を含む。
 - 8.明黄褐色土(10YR5/6)VII層上の10cm大以下塊主体。
 - 9.黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。黄褐色土塊と褐色土(VI層)塊10cm大以下を多量に含む。
 - 10.暗褐色土(10YR3/4)塊主体。黄褐色土(VIII層)10cm大以下塊を含む。
 - 11.9層と同質。
 - 12.黒褐色土。As-C混土(IV層)主体。6層と同質。
 - 13.1層に褐色土塊を含む。耕作土か。
 - 14.灰白色粘土塊。
 - 15.黒褐色土。As-C、灰白粘土粒を含む。
 - 16.灰黄褐色土(10YR5/2)粘質。

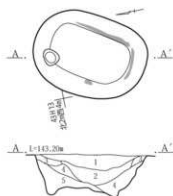
26号土坑



時沢26号土坑 SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、As-Cを少量含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2)As-Cを少量含む。ローム塊をわずかに含む。
- 3.黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。
- 4.黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を非常に多く含む。粘性あり。

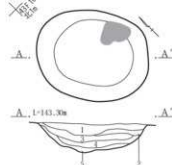
80号土坑



時沢80号土坑 SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。Br-FA軽石も含む。やや砂質。
- 2.黒褐色土(10YR2/3)炭化物1cm大以下の混入が目立つ。
- 3.黄褐色土(10YR4/2)浅黄褐色土塊を含む。
- 4.黄褐色土(10YR4/2)斑状に、にぶい黄褐色土を混じる。炭化物を含む。
- 5.黄褐色土(10YR4/2)浅黄褐色土塊を含む。3層と同質。炭化物を含む。

75号土坑



時沢75号土坑 SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。やや砂質。
- 2.黒褐色土(10YR3/2)炭化物を含む。にぶい黄褐色土(10YR7/4) (VI層)土を斑状に含む。炭化物を含む。やや粘質。
- 3.黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。炭化物を含む。
- 4.黒褐色土(10YR2/3)軟質。As-Cを含む。炭化物とあずき色灰を多量に含む。
- 5.黄褐色土 VII層上(10YR5/8)主体。黒褐色土を混じる。

0 1:60 2m

第202図 時沢西組屋谷戸遺跡土坑平面図(4)楕円形土坑

遺物は須恵器杯・椀類破片1点、瓶・甕類破片2点が出土した。

14号土坑は長径1.30m、短径1.14m、深さ0.28mの底面ボール状の土坑である。東部の埋没土には明黄褐色土と灰黄色土が斑状に混じる土があり、上層はAs-Cを含み黄褐色土1cm大以下を混在するにぶい褐色土で埋まっていた。人為的埋没の可能性があるが、土坑の性格を明らかにすることはできなかった。遺物は土師器杯・椀破片11点、壺・甕類破片7点、須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

17号土坑は長径1.23m、短径0.91m、深さ0.59mの楕円形土坑で、断面形は逆台形である。炭化物(木炭片2cm以下)を多量に含むやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。土坑の性格は不明である。遺物は土師器杯・椀破片10点、須恵器杯・椀類破片2点が出土した。

20号土坑は長径1.38m、短径0.83m、深さ0.62mの楕円形土坑で、断面形は逆台形である。As-Cやローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。土坑の性格は不明である。遺物は土師器杯・椀破片8点、壺・甕類破片3点、須恵器瓶・甕類破片3点が出土した。

24号土坑は長径0.97m、短径0.71m、深さ0.42mの楕円形土坑で、断面形は逆台形で底面には凹凸があった。1号掘立柱建物P8と重複していたが、24号土坑が古い。As-Cを含むやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。土坑の性格は不明である。遺物は土師器壺・甕類破片2点が出土した。

67号土坑は長径1.41m、短径1.10m、深さ0.23mの楕円形土坑で、断面形は皿状で底面には凹凸が著しかった。As-Bを混じる暗褐色土や褐色土で埋まっていた。土坑の性格は不明である。遺物は出土しなかった。

76号土坑は長径1.37m、短径1.15m以上、深さ0.18mの楕円形土坑で、断面形は皿状で底面には凹凸が著しかった。土坑の性格は不明である。遺物は土師器壺・甕類破片2点、須恵器瓶・甕類破片2点が出土した。

86号土坑・87号土坑は並んで検出された。遺構検出面より上位で重複していた。86号土坑が新しい。86号土坑は長径1.31m、短径1.08m、深さ0.80mの楕円形土坑で、断面形は逆台形である。As-Cを含む黒褐色土で埋まっていたが、間に黄褐色土塊を帯状に挟んだ特徴的な埋没状態であった。人為的埋没が想定される。遺物は須恵器

杯・椀類破片2点が出土した。

87号土坑は長径1.15m、短径0.77m、深さ0.65mの楕円形土坑で、断面形は箱形である。黒褐色土と褐色土が斑状に混在する土で埋まっていた。人為的埋没が想定される。遺物は土師器壺・甕類破片1点が出土した。

いずれの土坑の性格も不明であるが、粘土探掘土坑の可能性はある。

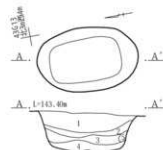
88号土坑は長径1.28m、短径0.95m、深さ0.69mの楕円形土坑で、断面形は箱形である。As-C黄褐色土粒を含むやや砂質の黒褐色土(10YR2/3)が水平に堆積して埋まっていた。人為的埋没と判断された。土坑の性格は不明である。遺物は土師器壺・甕類破片1点、須恵器杯・椀類破片2点が出土した。

94号土坑は長径1.30m、短径0.90m、深さ0.96mの楕円形土坑で、深い箱形で最下部は15cmほど抉り込んで掘られていた。84号土坑と重複するが94号土坑が古い。黄褐色土、黄褐色土塊を多量に含む黒褐色土と、黄褐色土、黄褐色土塊主体の土層が互い違いに重なって堆積していた。土坑の性格は不明であるが、粘土探掘坑の可能性が高い。遺物は須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

78号土坑は長径1.26m、短径0.89m、深さ0.16mの楕円形土坑で、断面形は皿状である。10号溝・8号掘立柱建物P2と重複して検出されたが、いずれの遺構より新しい。As-Bを含む黒褐色土で埋まっていた。土坑の性格は不明である。遺物は出土しなかった。

79号土坑は長径1.22m、短径0.83m、深さ0.88mの楕円形土坑で、断面形は深いU字状で、下半部は抉り込んで掘られていた。79号土坑は20号住居・26号住居と重複していたが、20号住居の東壁に重複する位置にあり、20号住居よりも新しい。26号住居には伴う可能性があるが、西壁ラインより外側にある。79号土坑は黄褐色土粒と黒褐色土が混じる土層は重なり合って水平に堆積していた。人為的埋没と判断された。26号住居床下の粘土探掘坑に共通の特徴がある。一方、94号土坑と形態・埋没土ともに類似する。両遺構間の距離は10mほどである。土坑の性格は明確にできなかったが、粘土探掘坑の可能性が高く、94号土坑との類似は堅穴住居に伴わない単独の探掘坑の可能性もあろう。遺物は土師器壺・甕類破片12点、須恵器杯・椀類破片6点、瓶・甕類破片1点が出土した。

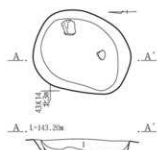
81号土坑



時沢81号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。やや砂質。Hr-FA軽石も含む。
2. 黒褐色土 炭化物を多量に含む。1層と同質。
3. 黒褐色土 炭化物の混入は2層よりも少ない。1層と同質。
4. 炭化物層
5. 3層に黄褐色土(VI層)塊を多量に混在する。

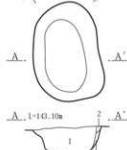
82号土坑



時沢82号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。Hr-FA軽石5cm大を見る。黄褐色土粒を含む。やや砂質
2. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。(IV層)土塊を含む。やや砂質
3. 黄褐色土塊主体 黒褐色土を混じる。粘質
4. 黒褐色土 As-Cを含む。やや粘質
5. 黒褐色土(10YR2/2)白色粘土塊を多量に含む。

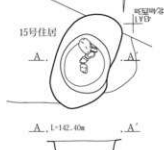
5号土坑



時沢5号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1)As-C混IV層土塊主体。
3. 1層と2層の中間土質。

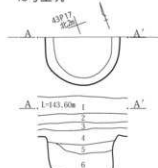
33号土坑



時沢33号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-B混土ローム塊。As-C、Hr-FA軽石をわずかに含む。

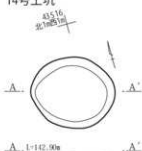
18号土坑



時沢18号土坑 SPA-A'

1. 灰黄色土(2.5Y6/2)やや砂質。(I層)
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)砂質。As-B混土層。最下部に薄いAs-B一次堆積層を挟む。(II層)
3. 黒褐色土(10YR3/2)As-BとAs-Cが混在する。
4. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。やや砂質。
5. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。黒褐色土(IV層)を斑状に含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3)IV層。V層上を含む。

14号土坑



時沢14号土坑 SPA-A'

1. にぶい褐色土(7.5YR5/4)As-Cを含む黄褐色土1cm大以下の混在が目立つ。やや砂質。
2. にぶい褐色土(7.5YR5/4)黄褐色土粒は1層より少ない。
3. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。
4. 明黄褐色土と灰黄色土が斑状に混じる。As-Cを含む。

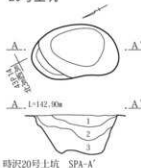
17号土坑



時沢17号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。炭化物(木炭片2cm以下)を多量に含む。
3. にぶい黄褐色土。VI層上を含む。

20号土坑



時沢20号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cをやや多く含む。Hr-FA、ローム塊を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を少量含む。As-C、Hr-FAを少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。

24号土坑



時沢24号土坑 SPA-A'

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土粒を含む。やや砂質。As-Cを含む。(1号掘立柱建物P 8埋没土)
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土粒3cm大以下を多量に含む。(1号掘立柱建物P 8埋没土)
3. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒を含む。(1号掘立柱建物P 8埋没土)
4. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。(1号掘立柱建物P 8埋没土)
5. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
6. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土を斑状に含む。やや砂質。
7. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土を混じる。

67号土坑



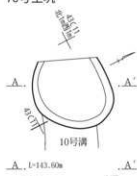
時沢67号土坑 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質。As-Bを混じる。
2. 褐色土(VI層)土塊主体。暗褐色土、As-B混土を含む

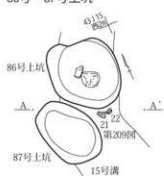
0 1:60 2m

第203図 時沢西組屋谷戸遺跡土坑平断面図(5)楕円形土坑

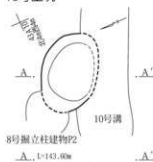
76号土坑



86号・87号土坑



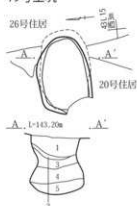
78号土坑



時沢78号土坑・10号溝 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-Bを含む。Hr-Fa軽石2cm大を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土を斑状に含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)As-Bを含む。褐色土の混入が目立つ。

79号土坑



時沢79号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。やや砂質。
2. 黒褐色土 黄褐色土、焼土を含む。
3. 黄褐色土粒と黒褐色土が混じる。焼土粒を含む。
4. 3層と同質。灰色土の薄層を挟む。粘質。
5. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土粒、焼土粒を含む。粘質。

時沢86号・87号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊を帯状に含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。1層と同質。
4. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土を含む。
5. 黄褐色土(10YR5/6)粘土塊主体。VI層土。
6. 黒褐色土と褐色土が斑状に混在する。(87号土坑埋没土)
7. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。褐色土塊を含む。4層と同じ。(87号土坑埋没土)
8. 褐色土(10YR4/4)VI層。(87号土坑埋没土)
9. 黒褐色土(10YR2/3) 1層と同質。

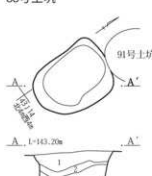
3号土坑



時沢3号土坑 SPA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘質。As-Cは少ない。
2. にぶい黄褐色土 やや粘質。VI層土を含む。

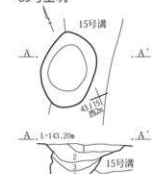
88号土坑



時沢88号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。やや砂質。黄褐色土粒を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。やや砂質。
3. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。黄褐色土塊の混在が目立つ。やや粘質。

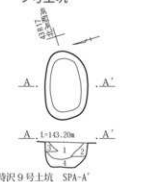
85号土坑



時沢85号土坑 SPA-A'

1. 黄褐色土(10YR5/6)粘土(VI層)主体。黒褐色土を斑状に混じる。
2. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。褐色土塊を含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)均質。
4. 黒褐色土 黄褐色土粒を含む。

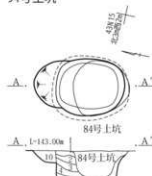
9号土坑



時沢9号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)IV層土塊を含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR6/2)明黄褐色土を斑状に含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cの混入が少ない。

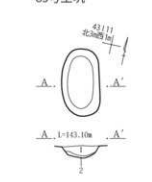
94号土坑



時沢94号土坑 SPA-A'

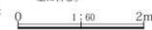
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。(84号土坑埋没土)
2. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含む。やや砂質。(84号土坑埋没土)
3. 明黄褐色土粒塊主体。黒褐色土を混じる。粘質。
4. 黒褐色土 黄褐色土、黄褐色土塊を多量に含む。
5. 黒褐色土 黄褐色土は6層よりも少ない。
6. 黒褐色土 6層と同様。やや粘質。
7. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土、灰白色土塊を含む。
8. 灰白色土主体。黄褐色土塊を含む。
9. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。
10. 黒褐色土 2層と同質。

83号土坑



時沢83号土坑 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3)As-Cは目立たない。東壁面は焼土化。
2. 黒褐色土(10YR2/2)炭化物を多量に含む。



第204図 時沢西組屋谷戸遺跡土坑平面図(6)楕円形土坑

85号土坑は長径1.20m、短径0.84m、深さ0.61mの楕円形土坑で、断面形は逆台形である。15号溝と重複していたが85号土坑が新しい。As-Cや褐色土塊を含む黒褐色土(10YR2/3)で埋まっていた。上層には黄褐色粘土主体で黒褐色土を斑状に混じる土も堆積していた。土坑の性格は不明である。遺物は出土しなかった。

3号土坑は長径1.05m、短径0.68m、深さ0.35mの楕円形土坑で、断面形は逆台形である。少量のAs-Cを含むやや粘質の灰黄褐色土で埋まっていた。土坑の性格は不明である。遺物は出土しなかった。

9号土坑は長径1.08m、短径0.68m、深さ0.41mの楕円形土坑で、断面形は箱形である。As-Cを含むやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。土坑の性格は不明である。遺物は土師器壺・甕類破片7点、須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

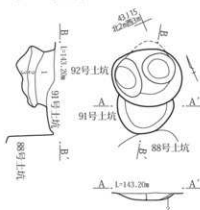
83号土坑は長径1.07m、短径0.60m、深さ0.20mの楕円形土坑で、ボール状である。上層はAs-Cが目立たな

い暗褐色土で、下層は炭化物を多量に含む黒褐色土で埋まっていた。東側の壁面は焼土化していた。土坑の性格は不明である。遺物は出土しなかった。

91号・92号土坑は重複して検出された。91号土坑が新しい。91号土坑は長径0.90m、短径0.43m以上、深さ0.11mの楕円形土坑で、断面形は皿状である。As-Cを含むやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。土坑の性格は不明である。遺物は出土しなかった。92号土坑は長径1.12m、短径0.92m、深さ0.65mの楕円形土坑で、断面形は箱形で下半部は抉り込んで掘られていた。底面は凹凸が著しかった。上層はAs-Cを含むやや砂質の黒褐色土で埋まっていたが、最下層には粘質黄褐色土が堆積していた。黄褐色土粒を含む。土坑の性格は不明であるが、粘土採掘坑の可能性はある。遺物は出土しなかった。

25号土坑は長径0.93m、短径0.80m、深さ0.36mの楕円形土坑で、断面形は浅い箱形である。底面には凹凸があった。ローム塊、As-Cを少量含む黒褐色土で埋ま

91号・92号土坑



時沢91号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む、やや砂質。
2. 黄褐色土 粘質。

時沢92号土坑 SPB-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む、やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む、やや砂質。
3. 褐色土(10YR4/4)粘質、黄褐色土粒を含む。

25号土坑



時沢25号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、As-Cを少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多く含む。粘性あり。

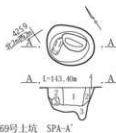
68号土坑



時沢68号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/1)As-Cを含む、やや粘質、炭化物粒を含む。
2. 炭化物主体、焼土をわずかに含む。
3. に近い黄褐色土(10YR5/4)黒褐色土を斑状に含む。粘質。

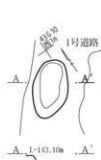
69号土坑



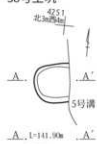
時沢69号土坑 SPA-A'

1. 褐色土(10YR4/1)やや砂質、As-B含む。擾乱。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(VII層)塊を含む。
4. 暗褐色土(10YR3/4)軟質。均質。

89号土坑



38号土坑



時沢38号土坑 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊、焼土塊を多く含む。

0 1:60 2m

第205図 時沢西組尾谷戸遺跡土坑平面図(7)楕円形土坑

ていた。土坑の性格は不明である。遺物は土師器壺・甕類破片1点が出土した。

38号土坑は長径0.62m、短径0.56m以上、深さ0.19mの楕円形土坑で、断面形は皿状である。5号溝と重複していたが、38号土坑が古い。ローム塊、焼土塊を多く含む暗褐色土で埋まっていた。38号土坑は12号住居の貯蔵穴である可能性も考えられたが、位置が西寄りすぎるため単独の土坑とした。土坑の性格は不明である。遺物は土師器杯・椀破片3点、壺・甕類破片9点、須恵器杯・椀類破片2点が出土した。

68号土坑は長径0.85m、短径0.74m、深さ0.33mの楕円形土坑で、断面形は箱形である。底面には凹凸があった。上層はAs-Cや炭化物粒を含むやや粘質の黒褐色土、中位は焼土をわずかに含む炭化物主体層、下層には黒褐色土を斑状に含むにぶい黄褐色土が堆積していた。土坑の性格は不明である。遺物は出土しなかった。

69号土坑は長径0.75m、短径0.51m、深さ0.52mの楕円形土坑で、断面形は箱形である。中央にAs-B混土で埋まったピットが重複しているが、69号土坑が古い。上層はAs-Cを含む黒褐色土で、下層は黄褐色土を含む黒褐色土で埋まっていた。土坑の性格は不明である。遺物は土師器杯・椀破片2点、壺・甕類破片3点、須恵器瓶・甕類破片1点が出土した。

89号土坑は長径0.95m、短径0.56m、深さ0.56mの楕円形土坑で、断面形はU字形である。1号道路の下層で検出された。土坑の性格は不明。遺物は出土しなかった。

(3) 長方形の土坑

(第206・209図 PL.87・88 遺物観察表P.348)

長方形の土坑は3基が検出された。出土遺物が少ないことから、その時期や性格を明らかにできた土坑は少ない。

57号土坑は11号掘立柱建物と一部が重複して指定検出されたが、57号土坑が新しい。長軸1.97m、短軸1.09m、深さ0.24mの大型長方形土坑である。平面形は長方形であるが、隅は丸く掘られていた。上層にはAs-Bを混じる暗褐色土があり、下層は黒褐色土塊・暗褐色土粒を含む黄褐色土で埋まっていた。人為的埋没の可能性もある。遺物は土師器杯・椀破片3点、壺・甕類破片1点、須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

4号土坑は長軸1.54m、短径0.94m、深さ0.48mの長方形の土坑で、断面形は箱形である。上層はAs-Bを混じる暗褐色土で、下層はAs-Cを少量含む黒褐色土で埋まっていた。土坑の性格は不明である。南東隅底面直上24cmで須恵器椀(第209図1)が、埋没土中からも須恵器椀が出土したが、混入の可能性もある。他に遺物は土師器杯・椀破片2点、壺・甕類破片12点、須恵器杯・椀類破片2点、瓶・甕類破片1点が出土した。

11号土坑は長軸1.19m、短軸0.89m、深さ0.32mの隅丸長方形の土坑である。As-Cを多量に含むやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。土坑の性格は不明である。遺物は土師器壺・甕類破片2点、須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

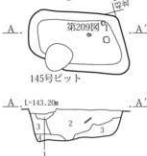
57号土坑



時沢57号土坑 SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質、As-Bを混じる。
2. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土(VII層)塊、黒褐色土(IV層)塊を含む。

4号土坑



時沢4号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)IV層土塊が目立つ。
2. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質、As-Cを混じる。
3. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cは目立たない、VI層土を含む。
4. にぶい黄褐色土 VI層土を多量に含む。

11号土坑



時沢11号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質、As-Cを多量に含む。

第206図 時沢西組屋谷戸遺跡土坑平面図(8)長方形土坑

(4) 不整形の土坑

(第207・209図 PL.88・89 遺物観察表P.348)

不整形の土坑は9基が検出された。発掘区全体に散在していた。断面形にもばらつきがあり、出土遺物が少ないことから、その性格と時期を明らかにできた土坑はない。

6号土坑は西部で33号ピットと重複して検出された。長径1.00m、短径0.86m、深さ0.29mで、断面形は箱形である。As-Cを含むやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。遺物は須恵器杯・椀類破片1点、瓶・甕類破片1点が出土した。

22号土坑は西部で検出された。長径1.13m、短径0.82m、深さ0.85mで、断面形は箱形である。西側下部は挟り込まれるように掘られていた。黄褐色土塊を多量に含むにぶい黄褐色土や黄褐色土粒・塊を含む黒褐色土で埋まっていた。人為的埋没と判断された。小型の粘土採掘坑の可能性が高い。埋没土中から須恵器杯(第209図8)が出土した。他に遺物は土師器杯・椀破片3点、須恵器杯・椀類破片1点が出土した。

28号土坑も西部で検出された。長径2.06m、短径0.84m、深さ0.62mで、断面形は箱形である。細長い溝状を呈していた。坑内は黒褐色土と褐色土塊を含む褐色土が重なり合って堆積しており、人為的埋没と判断された。土坑の性格は不明である。遺物は出土しなかった。

29号土坑は不整な長方形で底面には凹凸が著しかった。長径1.89m、短径0.91m、深さ0.57mで、断面形は箱形である。As-Cを含むやや砂質黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から須恵器杯(第209図10)が出土した。他に遺物は土師器杯・椀破片4点、壺・甕類破片3点、須恵器杯・椀類破片2点が出土した。

30号土坑は2号住居の南側で検出された方形の土坑である。底面には土坑状の凹凸が著しかった。2号住居との新旧関係は不明である。長径2.70m、短径1.59m以上、深さ0.37mで、断面形は箱形である。As-Cや褐色土粘土塊を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器杯(11・12)が出土した。他に遺物は土師器杯・椀破片22点、壺・甕類破片8点が出土した。

31号土坑は上町遺跡5号溝と重複して検出された。31号土坑が新しい。長径1.34m以上、短径0.83m、深さ0.36mの不整楕円形で、断面形は箱形である。ローム塊、焼

土塊、炭化物を含む暗褐色土で埋まっており、竈の埋没土のようであった。しかし土坑の西側で住居本体を検出できなかったので土坑として記録した。埋没土中から土師器甕(第209図13)が出土した。他に遺物は土師器壺・甕類破片21点が出土した。

65号土坑は東部遺構群で検出された。長径1.15m、短径0.88m、深さ0.17mで、断面形は浅い皿状である。上層はAs-Cを含む黒褐色土で、下層はAs-Cを含むやや砂質のにぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

77号土坑は344号ピットと重複して検出された。77号土坑が新しい。長径0.95m、短径0.49m、深さ0.29mの不整楕円形で、断面形はボール状である。As-Cを含む埋まっていた。遺物は出土しなかった。

84号土坑は94号土坑の上層で重複して検出された。長径0.90m、短径0.87m、深さ0.45mの不整楕円形で、断面形はU字形である。As-Cを含むやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。遺物は土師器壺・甕類破片4点、須恵器杯・椀類破片1点、瓶・甕類破片2点が出土した。

(5) ピット状の土坑

(第208・209図 PL.89・90・122 遺物観察表P.348)

ピット状の土坑は6基が検出された。通常のピットとした遺構より大きいのが、断面形がピット状で深さがあるものを分類した。発掘区全体に散在していた。出土遺物も少ないことから、その性格と時期を明らかにできた土坑はない。

8号土坑は西部で検出された。長径0.72m、短径0.63m、深さ0.76mの楕円形で、断面形はピット状である。As-Cを含むやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

13号土坑は西部で検出された。長径0.55m、短径0.53m、深さ0.28mのほぼ円形で、断面形はピット状である。上層はAs-Cを含むやや砂質の黒褐色土で、下層はにぶい黄褐色土が混在する黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

21号土坑は西部で検出された。長径1.10m、短径1.08m、深さ0.58mのほぼ円形で、断面形はピット状である。上位は少量のAs-Cを含むやや砂質の黒褐色土で、下層は黒褐色土と黄褐色土の塊混土層で埋まっていた。遺物



- 時沢6号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
 2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)VI層土を含む。



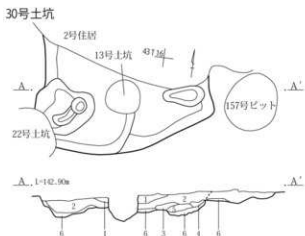
- 時沢22号土坑 SPA-A'
1. にぶい黄褐色土(10YR5/3)黄褐色土壌を多量に含む。
 2. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含む。
 3. 暗褐色土(10YR3/3)粘質。
 4. にぶい黄褐色土(10YR4/3)軟質。均質。黄褐色土を含む。
 5. 4層と同様。黄褐色土を含まない。灰色土味強い。



- 時沢28号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3)
 2. 褐色土(10YR4/4)VI層土、VI層土主体。
 3. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土壌を面状に混じる。
 4. 褐色土(10YR4/4)2層と同様。VI層土主体。



- 時沢29号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(7.5YR2/2)やや砂質。As-Cを含む。
 2. 黒褐色土(7.5YR2/2)軟質。As-Cは目立たない。



- 時沢30号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。褐色土粘土も含む。
 2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。Br-FA軽石3cm大も含む。
 3. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土(VI層)塊の混入目立つ。
 4. 暗褐色土: VI層土主体。
 5. 黒褐色土: やや砂質。
 6. 暗褐色土: VI層土を含む。



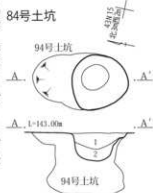
- 時沢31号土坑・上町5号溝 SPA-A'
1. 暗褐色土(7.5YR3/3)ローム塊。焼土塊をやや多く含む。炭化物をわずかに含む。(31号土坑埋設上)
 2. 暗褐色土7.5YR3/4)ローム塊。焼土塊を多く含む。炭化物をやや多く含む。(31号土坑埋設上)
 3. 暗褐色土7.5YR3/4)ローム塊。焼土塊をやや多く含む。As-C, Br-FA軽石。炭化物をわずかに含む。(31号土坑埋設上)
 4. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊。焼土塊をやや多く含む。As-C, Br-FA軽石。炭化物をわずかに含む。かたくしまっている(31号土坑埋設上)



- 時沢65号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/2)IV層土主体。As-Cを含む。
 2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-Cを含む。やや砂質。



- 時沢77号土坑、344号ビット SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。褐色土(VI層)を混じる。
 2. 黒褐色土(10YR2/3)1層よりも褐色土の混入多い。
 3. 褐色土(10YR4/4)VI層土主体。黒褐色土を面状に含む。
 4. 黒褐色土 As-C混土塊と褐色土(VI層)土が混じる。別ビット埋設上A
 5. 1層と同じ。(344号ビット埋設上)



- 時沢84号土坑 SPA-A'
1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。
 2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。褐色土粒を含む。



第207図 時沢西組屋谷戸遺跡土坑平面断面図(9)不整形

は土師器杯・椀破片1点が出土した。

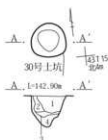
27号土坑は1号掘立柱建物のP1と重複して検出された。長径・短径は計測不能、深さ0.35mで、断面形はビット状である。土坑としては土層断面のみの記録となった。(第208図) As-Cを含むやや砂質の黒褐色土塊と黒褐色土の混土で埋まっていた。遺物は土師器壺・甕類破片15点が出土した。

46号土坑は東部東端で検出された。長径0.74m、短径0.65m、深さ0.94mの不整形円形で、断面形はビット状である。埋没土の記録はない。埋没土中から、土師器杯(第

209図16)、底面上16cmで土師器甕(17)が出土した。他に遺物は土師器杯・椀破片6点、壺・甕類破片5点、須恵器杯・椀類破片2点、瓶・甕類破片1点が出土した。

47号土坑は東部東端で検出された。長径0.64m、短径0.57m、深さ1.03mのほぼ円形で、断面形はビット状である。上層はAs-Cを含むやや砂質の黒褐色土で、下層は粘質の黒褐色土で埋まっていた。中位から下部にかけては人頭形の円砂礫が充填されていた。また、礫内には須恵器甕底部破片(第209図18)が混在していた。他に遺物は出土しなかった。

13号土坑



時沢13号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-C混土(IV層)粒を含む。
3. 黒褐色土 中位に明黄褐色粘土層が帯状に堆積する。
4. 黒褐色土(10YR4/3)にふい黄褐色土(VI層)が混在する。

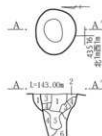
21号土坑



時沢21号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cは少ない。やや粘質。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C混(IV層)土を含む。
3. 2層と同質。黄褐色土を含む。
4. 黄褐色土(10YR5/6)の硬いV層土塊4cm以下を主体。
5. 黒褐色土と黄褐色土の塊混土層。粘質。
6. にふい黄褐色土(10YR5/6)均質。As-Cを含まない。
7. 褐色土(10YR4/6)粘質。均質。

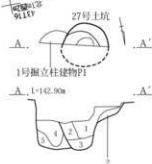
8号土坑



時沢29号ビット・8号土坑 SPA-A'

1. にふい黄褐色土(10YR4/3)As-Cを含む。黄褐色土粒を含む。(柱面か)
2. 1層とAs-C混(黒褐色土(IV層)土塊)が混在。
3. 黄褐色土(10YR8/8)粘土(VII層)の縮状堆積。(柱穴の埋土か)
4. 1層と同様。黒褐色土(IV層)塊を含む。
5. にふい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土粒を含まない。軟質。
6. 4層と5層の中間の上質。

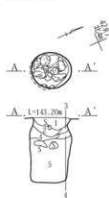
27号土坑



時沢27号土坑→1号掘立柱建物P1 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混(V層)土塊と黒褐色土(VI層)(10YR2/3)層が塊状に混じる。
2. 黒褐色土(10YR2/3)VI層土含む。As-C混(黒褐色土(IV層)塊)がわずかに混入。
3. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土(VII層)塊が混在
4. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。(1号掘立柱建物P1埋没土)
5. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。やや砂質。(1号掘立柱建物P1埋没土)

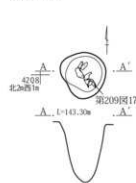
47号土坑



時沢47号土坑 SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。Hr-FM解石少量含む。やや砂質。
3. 暗褐色土(10YR4/0)塊主体。黒褐色土と混じる。粘質。
4. 黒褐色土(10YR2/3)褐色土塊を含む。粘質。
5. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。

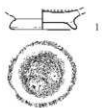
46号土坑



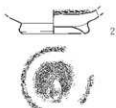
第208図 時沢西組屋谷戸遺跡土坑平面断面図(10)ビット状

0 1:60 2m

4号土坑



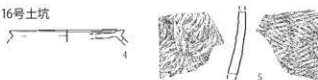
5号土坑



14号土坑



16号土坑



20号土坑



22号土坑



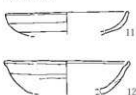
25号土坑



29号土坑



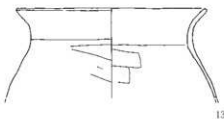
30号土坑



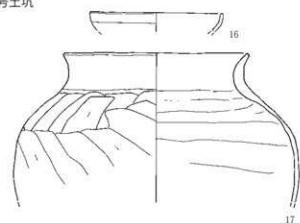
33号土坑



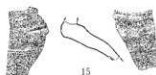
31号土坑



46号土坑



38号土坑



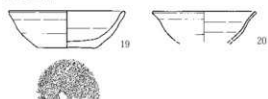
47号土坑



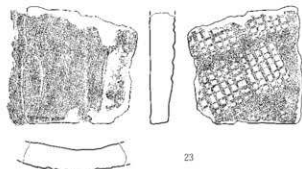
86号土坑



79号土坑



89号土坑



0 1:4 10cm

第209図 時沢西組屋谷戸遺跡土坑出土遺物図

7.ピット

(第210～223図 PL.90・91・122 遺物観察表P.348・349)

時沢西組屋谷戸遺跡跡では、単独のピット333基が検出された。竪穴住居や掘立柱建物群のなかで全体に散在していたが、中央部の西半部には一部を除いてピットの分布は少なかった。このほかに10棟の掘立柱建物の柱穴として記録できたピットが検出されている。

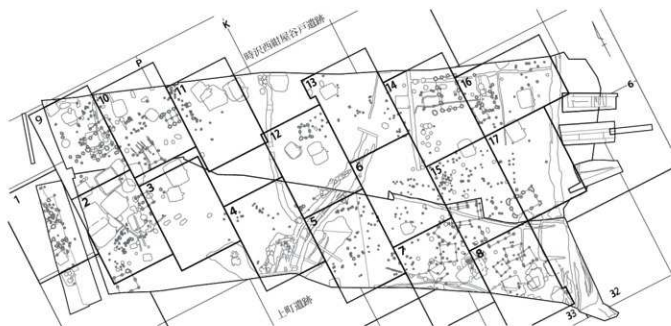
調査ではすべてのピットの平面図および断面図を記録することはできなかったので、規模が大きいもの、他の遺構との重複関係が認められるもの等100基は平面図と断面図を記録した。それらと、調査時には掘立柱建物として記録したが精査の結果、単独ピットとして報告するもの11基を加えた111基については、平断面図を掲載して報告とした。

その他のピットについては、調査で平面図のみを図化して埋没土は分類して記号で記録した。本報告では、1/100の平面図を割り図として掲載した(第211～223

図)。割り図は上町遺跡・時沢西組屋谷戸遺跡全体を対象として作成したため、部分的に両遺跡のピットが併載された図がある。埋没土の分類は遺構一覧表(P.320～324)に記載した。8号ピット、9号ピット、15号ピット、16号ピット、63号ピット、109号ピット、122号ピット、160号ピット、318号ピットには柱痕跡が検出されたことから建物の柱穴の可能性が高いが、周辺で建物を推定するには至らなかった。

20号ピット埋没土中から、土師器杯(第211図1・2)、22号ピット底面上24cmで土師器杯(4)、底面上5cmで須恵器杯(5)、140号ピット埋没土中から土師器破片が出土した。また、302号ピットでは、底面上36cmと底面上43cmで須恵器長頸甕の頸部2個体(第222図1・2)が出土した。また図化はできなかったが6号・18号ピットから羽釜と思われる大破片が重なって出土した。他にはピットの時期を明らかにできるような遺物は出土しなかった。

ピット出土の非掲載遺物の内訳は非掲載遺物集計表(P.361～363)に示した。



2号ピット

A, L-143.10m, A'



時沢2号ピット SPA-A'
1.黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2.にぶい黄褐色土(10YR4/3)。やや粘質。

1号ピット

A, L-143.10m, A'



時沢1号ピット SPA-A'
1.黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2.にぶい黄褐色土 V層土を混じる。
3.黒褐色土 As-C混褐色土(N層)を含む。

4号ピット

L-143.10m, A'



時沢4号ピット SPA-A'
1.黒褐色土(10YR2/3) As-C, 細砂を混じる砂質。
2.黒褐色土 やや粘質。As-Cは目立たない。
3.にぶい黄褐色土(10YR4/3) やや粘質。

5号ピット

A, L-143.00m, A'



時沢5号ピット SPA-A'
1.黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2.黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。As-Cは目立たない。
3.にぶい黄褐色土(10YR4/3)やや粘質。V層土を含む。

0 1:60 2m

第210図 時沢西組屋谷戸遺跡ピット分布全体図と土層断面9-1

6号・18号ビット



時沢6号・18号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-C混黒褐色土(IV層)が塊状に混じる。
2. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cは少ない。やや粘質。
3. 黒褐色土(10YR2/3)
4. 明黄褐色土 均質。粘質。
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3)VI層土を含む。

16号ビット



時沢16号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを少量含む。硬土粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cをやや多く含む。ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cをわずかに含む。ローム塊を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊をやや多く含む。

23号・24号ビット



時沢23号・24号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)(VI層)土を含む。

28号ビット



時沢28号ビット SPA-A'

1. 褐色土(10YR4/4)やや粘質。暗黄褐色土粒の混入が目立つ。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)

86号ビット



時沢86号ビット SPA-A'

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土粒を含む。軟質。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土粒含まない軟質。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3)VI層土を多量に含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3)明黄褐色土粒を塊状に含む。

8号ビット



時沢8号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)やや粘質。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2)明黄褐色土粒の混入が目立つ。(柱痕か)

19号ビット



時沢19号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土。やや粘質。(VI層)。地山。

116号ビット



時沢116号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)VI層土混入が目立つ。VI層土を含む。
3. 明黄褐色土(10YR6/6)塊主体。
4. 灰黄褐色土 I層と同様。VI層土を含む。

時沢116号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cをやや多く含む。Hr-FA、ローム塊をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊。As-Cを少量含む。硬土粒をわずかに含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊をやや多く含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多く含む。粘性あり。

87号ビット



時沢87号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)

9号ビット



時沢9号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。
2. 黒褐色土(10YR2/3)焼土、明黄褐色土粒の混入が目立つ。

21号ビット



時沢21号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。

26号ビット



時沢26号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)。As-Cは目立たない。

37号ビット



時沢37号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土 As-C混土。焼土が点在。
2. にぶい褐色土(7.5YR5/4)黄褐色土粒。焼土粒主体。灰黄色土が混じる。
3. にぶい褐色土(7.5YR5/4)焼土粒の混入が目立つ。
4. 黒褐色土 IV層土、V層土を含む。

90号ビット



時沢90号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 鈍い黄褐色土(10YR4/3)VI層土を含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)I層と同質。VI層土を斑状に含む。
4. にぶい黄褐色土とVI層明黄褐色土が斑状に混じる。

15号ビット



時沢15号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。(柱痕か)
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)VI層土を含む。

22号ビット



時沢22号ビット SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR2/3)やや粘質。As-Cは目立たない。黄褐色土粒を含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土粒の混入が目立つ。やや粘質。
3. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒を含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/3)明黄褐色土を多量に含む。

27号ビット



時沢27号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 灰黄褐色土と明黄褐色土粘質土塊3cm以下の混在。
3. 黄褐色土塊主体。
4. I層と同様。

30号ビット



時沢30号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。

96号ビット



時沢96号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを多く含む。Hr-FA、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)As-C、Hr-FAをわずかに含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊をやや多く含む。

0 1; 60 2m

105号ピット



時沢105号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)ローム粒・塊、焼土粒を少量含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。As-Cを僅かに含む。
- 3.黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を多く含む。粘性あり。

107号ピット



時沢107号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
- 2.にぶい黄褐色土 VI層土を含む。

108号ピット



時沢108号ピット SPA-A'

- 1.にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土粒2cm以下を多量に含む。
- 2.にぶい黄褐色土 黄褐色土粒を含まない。

119号ピット



時沢119号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)As-C, Hr-FAを少量含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を少量含む。
- 3.黒褐色土(10YR2/2)ローム粒をやや多く含む。

123号ピット



時沢123号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)As-C, Hr-FAを少量含む。

151号ピット



時沢151号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2) As-C混(IV層)土主体。
- 2.褐色土(10YR4/6)VI層土主体。

156号ピット



時沢156号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含みやや砂質。焼土を含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/3) 褐色土(10YR4/4)塊を帯状に含む。
- 3.黒褐色土(10YR2/3)褐色土(VI層)を混じる。
- 4.暗褐色土(10YR3/3)粘質。
- 5.暗褐色土 As-Cを含み砂質。1層よりも夾雑物含まない。

109号ピット



時沢109号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/3)軟質。
- 2.黒褐色土(10YR2/2) As-C混(IV層)を含む。硬い。
- 3.2層と同じ。硬い。As-Cの混入は2層よりも少なく4層へ漸次なくなる。
- 4.にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Cを含まない。均質。

120号ピット



時沢120号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)As-Cを少量含む。ローム粒をわずかに含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を少量含む。
- 3.黒褐色土(10YR2/2)ローム粒をやや多く含む。

136号ピット



時沢136号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊。As-Cを少量含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2)ローム塊をやや多く含む。

152号ピット



時沢152号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)焼土粒を含む。As-Cを含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2) As-C混土(IV層)主体。
- 3.褐色土(VI層)と黒褐色土が斑状に混じる。

114号ピット



時沢114号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。黄褐色土粒を含み軟質。(柱状か)
- 3.にぶい黄褐色土(10YR5/4)VI層土主体。
- 4.にぶい黄褐色土(10YR4/3)

121号ピット



時沢121号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/2)As-C, Hr-FAを少量含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/3)ローム粒をやや多く含む。

137号ピット



時沢137号ピット SPB-B'

- 1.黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
- 2.にぶい黄褐色土 VI層土を含む。

154号ピット



時沢154号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/3)軟質。As-Cを含む。
- 2.黒褐色土(10YR2/2)やや硬い。As-C混土(IV層)を混じり褐色土(VI層)を斑状に含む。
- 3.1層とはほぼ同じ。軟質。

157号ピット



時沢157号ピット SPA-A'

- 1.黒褐色土(10YR2/3) As-C混土。焼土粒。ローム粒を含む。やや締まりの強い土。
- 2.暗褐色土 IV・VI層土の混土。As-C。焼土を少量含む。壁沿にローム塊多く見られる。締まりあり。



第213図 時沢西組屋谷戸遺跡ピット土層断面図9-4

11号ビット



時沢11号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。As-Cは少ない。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)M層土を含む。

12号ビット



時沢12号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土、やや粘質、M層土を含む。
3. 1層と同じ。やや黒色土味強い。

14号ビット



時沢14号ビット SPA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2)やや砂質。As-Cを含む。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C混入1層より少ない。
3. 明黄褐色土(10YR7/6)
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3)

39号ビット



時沢39号ビット SA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質。As-Cは少ない。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)粘質。M層土主体。
3. 1層と同じ。

40号ビット



時沢40号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR4/2) As-Cは目立たない。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)M層土を含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3)M層土主体。

44号ビット



時沢44号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR4/2)やや粘質、V層土を含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)M層土を含む。
4. 2層と3層の中間の上質。M層土が斑状に混じる。

49号ビット



時沢49号ビット SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3)IV層を含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)M層土を含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層よりM層を多量に含む。

50号ビット



時沢50号ビット SPB-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)M層土をわずかに含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)M層土を含む。

54号ビット



時沢54号ビット SPA-A'

1. にぶい黄褐色土 M層土を含む。As-Cは目立たない。
2. 黒褐色土(10YR2/3)
3. 1層と同じ。

55号ビット



時沢55号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-C、少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒をわずかに含む。

56号ビット



時沢56号ビット SP1-1'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cをやや多く含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-C、ローム粒をわずかに含む。

57号・58号ビット



時沢57号・58号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを少量含む。

60号ビット



時沢60号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cをやや多く含む。Hr-Faをわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-C、ローム粒をわずかに含む。

61号ビット



時沢61号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cは目立たない。M層土を含む。

63号ビット



時沢63号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)M層土を含む。
3. 1層と2層の中間の上質。

64号ビット



時沢64号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cは目立たない。軟質。
3. 1層にIV層土塊を含む。

65号ビット



時沢65号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-C混黒褐色土(IV層)を含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)

68号ビット



時沢68号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-C、ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を少量含む。

70号ビット



時沢70号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cをやや多く含む。ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊をやや多く含む。

74号ビット

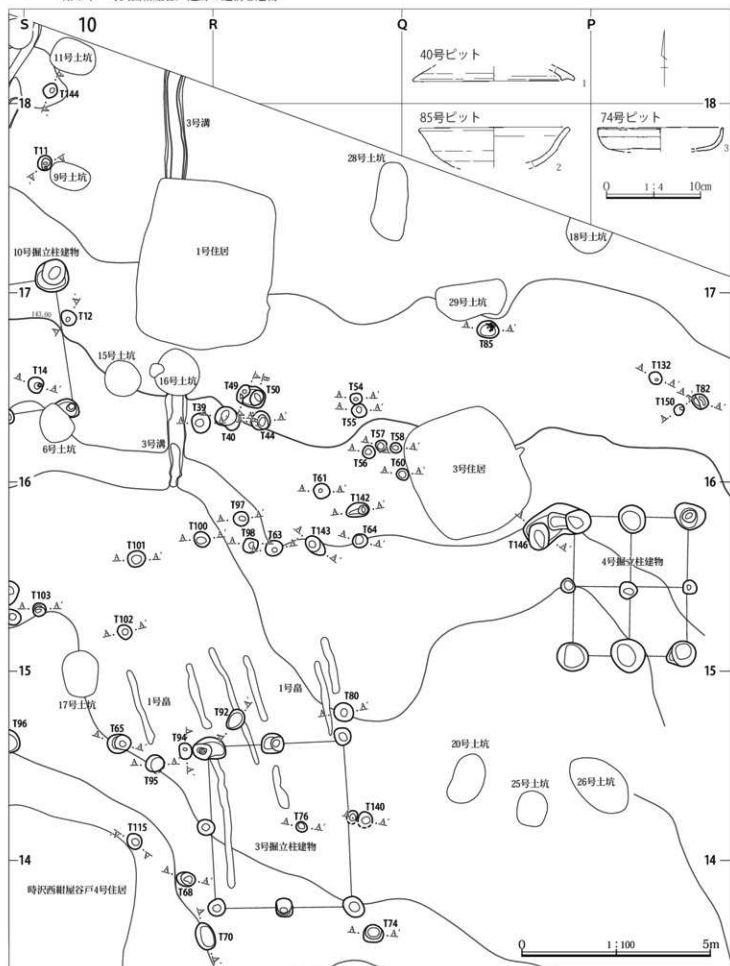


時沢74号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-C、ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒をやや多く含む。

0 1; 60 2m

第214図 時沢西組屋敷戸遺跡ビット土層断面図9-5



第215図 時沢西組屋谷戸遺跡ビットの分布と出土遺物図10-1

76号ビット



時沢76号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを多く含む。ローム粒を少量含む。

92号ビット



時沢92号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-C、Hr-FAを多く含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)As-C、Hr-FAを少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒、As-C、Hr-FAを少量含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒をやや多く含む。

98号ビット



時沢98号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)V層土を含む。

103号ビット



時沢103号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊、As-Cをやや多く含む。焼土粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒を多く含む。

142号ビット



時沢142号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土 やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土 軟質。As-Cは目立たない。
3. にぶい黄褐色土 V層土を含む。

80号ビット



時沢80号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Cは混入少なくV層土を含む。

94号ビット



時沢94号ビット SPB-B'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)V層土を含む。

100号ビット



時沢100号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。

115号ビット



時沢115号ビット SPA-A'

1. 灰褐色土 焼土粒が目立つ。軟質。
2. 灰褐色土 焼土粒とIV層土を含む。
3. 灰褐色土 焼土粒含まない。
4. 明黄褐色(V層)土塊。
5. 3層にV層土が混入する。

143号ビット



時沢143号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土 やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土 As-Cを含まない。軟質。V層土を含む。

82号ビット



時沢82号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む

95号ビット



時沢95号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3)VI層土をわずかに含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)VI層土を塊状に含む。

101号ビット



時沢101号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)(V層)土を含む。

132号ビット



時沢132号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。

146号ビット



時沢146号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(7.5YR2/2)
2. 黒褐色土(7.5YR2/2) As-Cは目立たない。灰褐色土(VI層)を塊状に含む。
3. 黒褐色土(7.5YR2/2)
4. 黒褐色土(7.5YR2/2)VI層土を含む。
5. 褐色土(7.5YR4/3)を塊状に含む。

85号ビット



時沢85号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-Cを含む。
2. 黒褐色土 As-Cは目立たない。均質。V層土主体。

97号ビット



時沢97号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒。As-C、Hr-FAを少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を多く含む。

102号ビット



時沢102号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒。As-C、焼土粒を少量含む。
- 1'. 1層土にローム塊を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒。As-Cをやや多く含む。

140号ビット



時沢140号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cをやや多く含む。Hr-FA、焼土粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒をやや多く含む。As-C、焼土粒をわずかに含む。

144号ビット



時沢144号ビット SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
2. にぶい黄褐色土 V層土を含む。

150号ビット

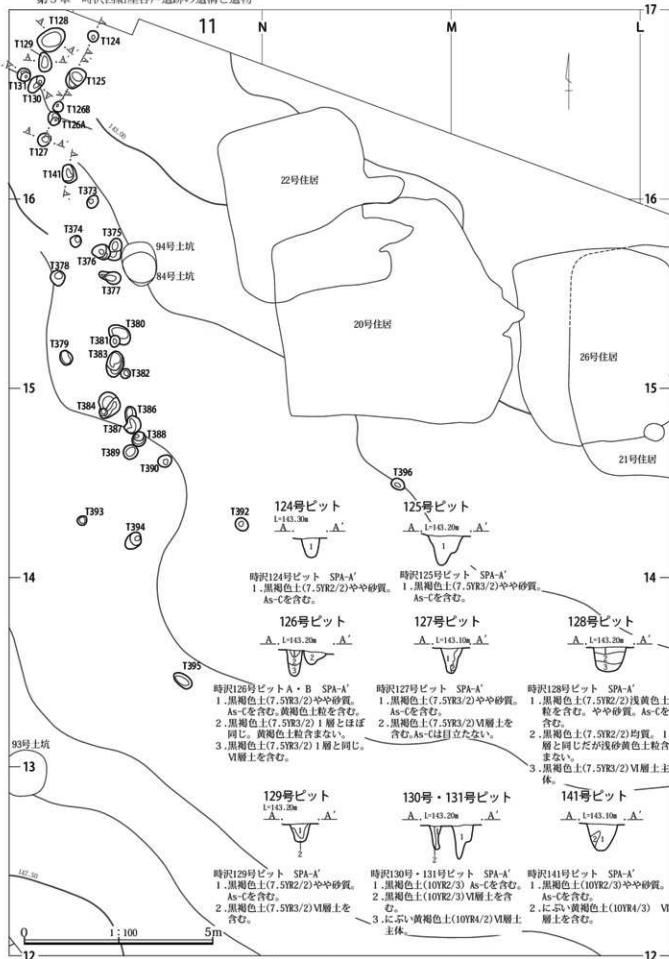


時沢150号ビット SPA-A'

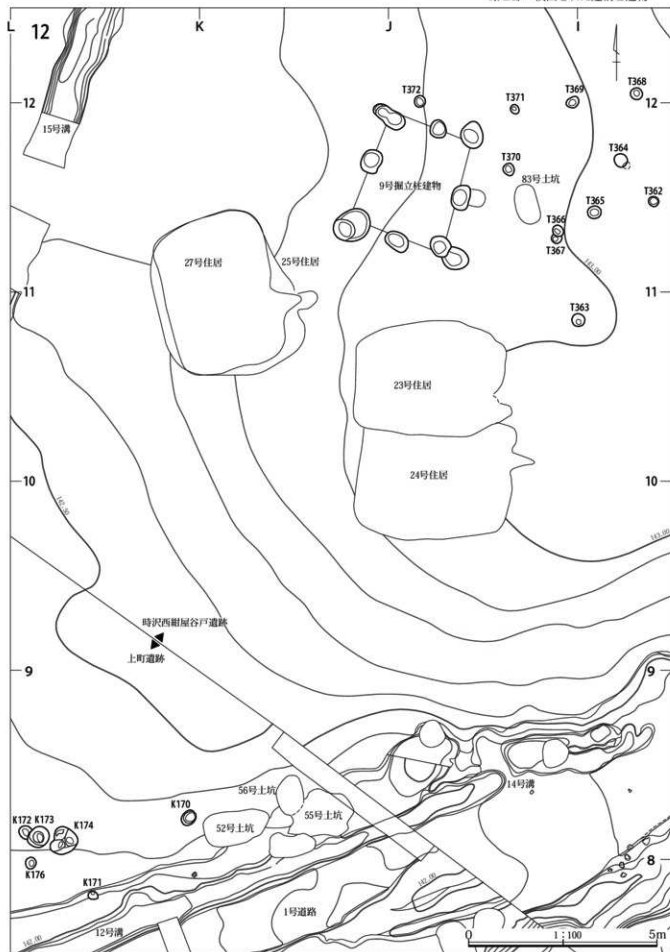
1. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-Cを含む。



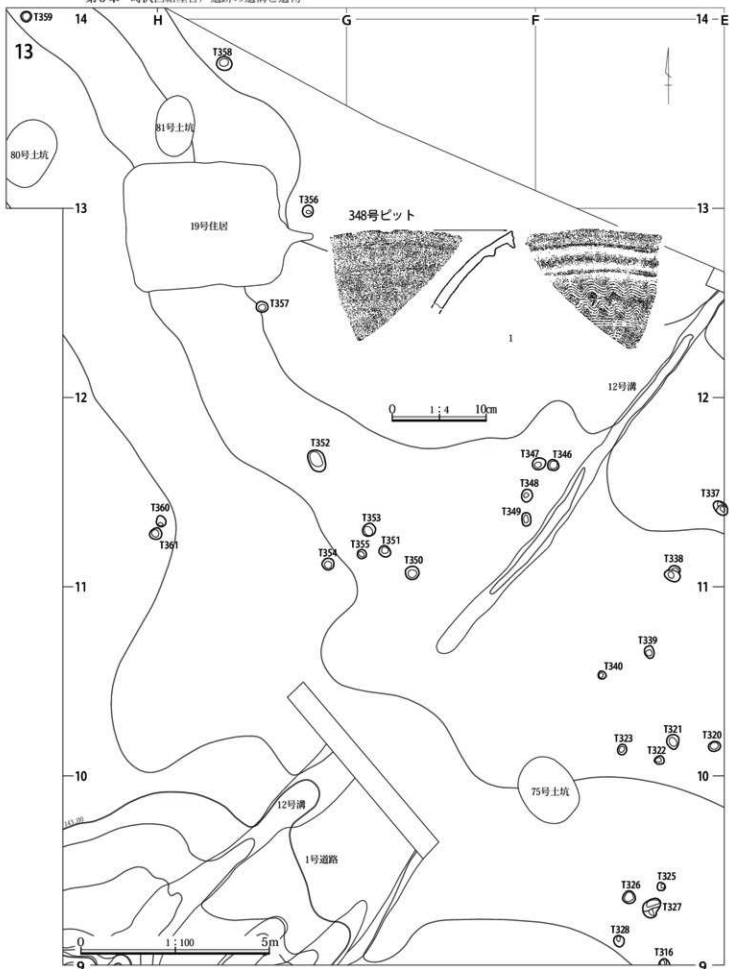
第216図 時沢西附屋倉戸遺跡ビット土層断面図10-2



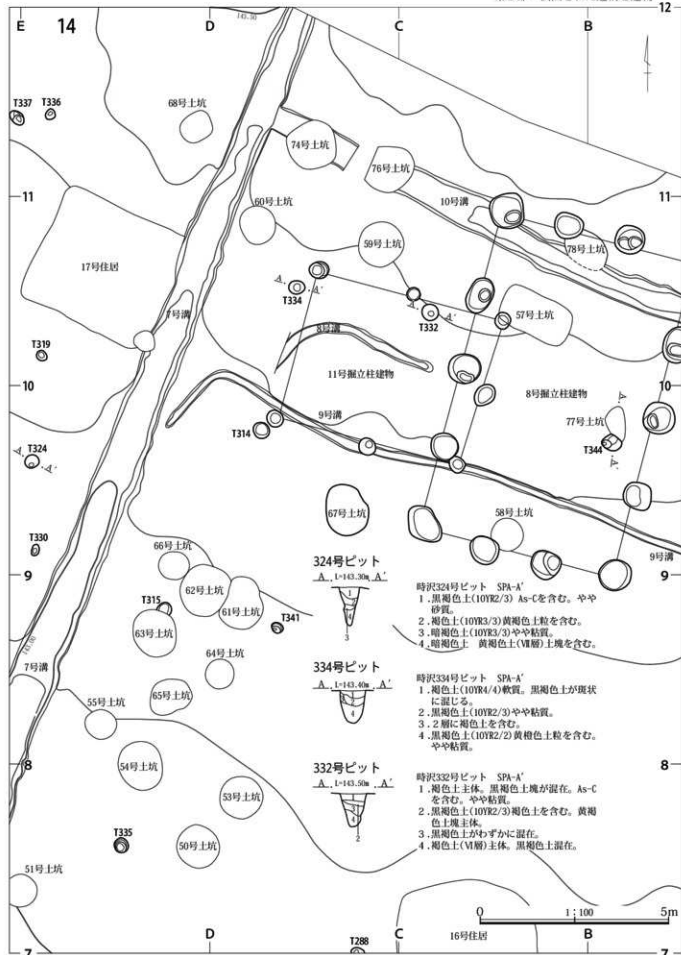
第217図 時沢西組屋谷戸遺跡ビットの分布と土層断面図11



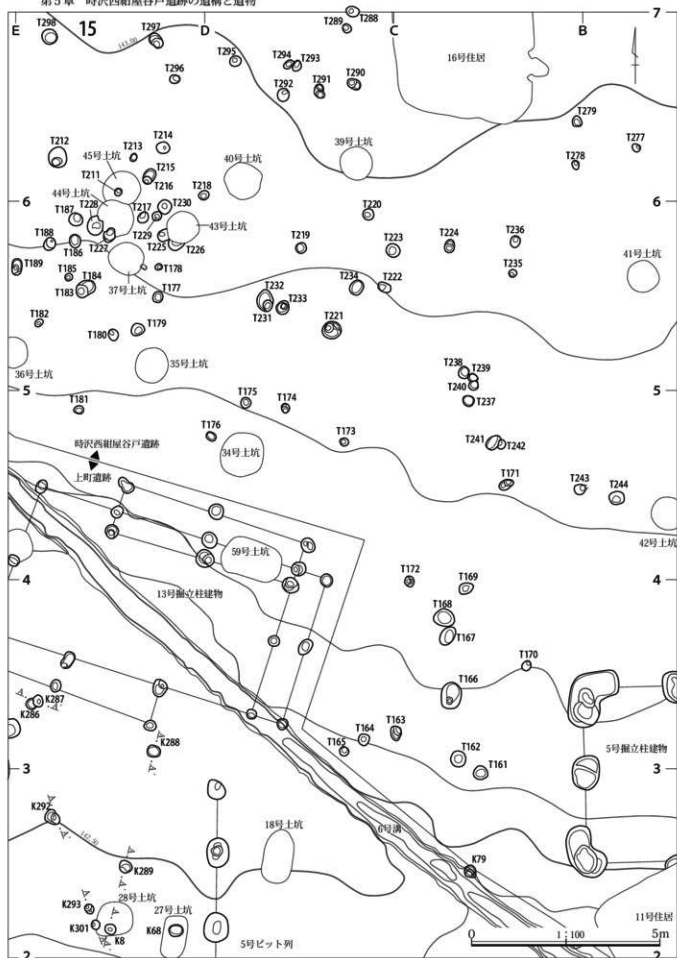
第218図 時沢西組屋谷戸遺跡ピットの分布図12



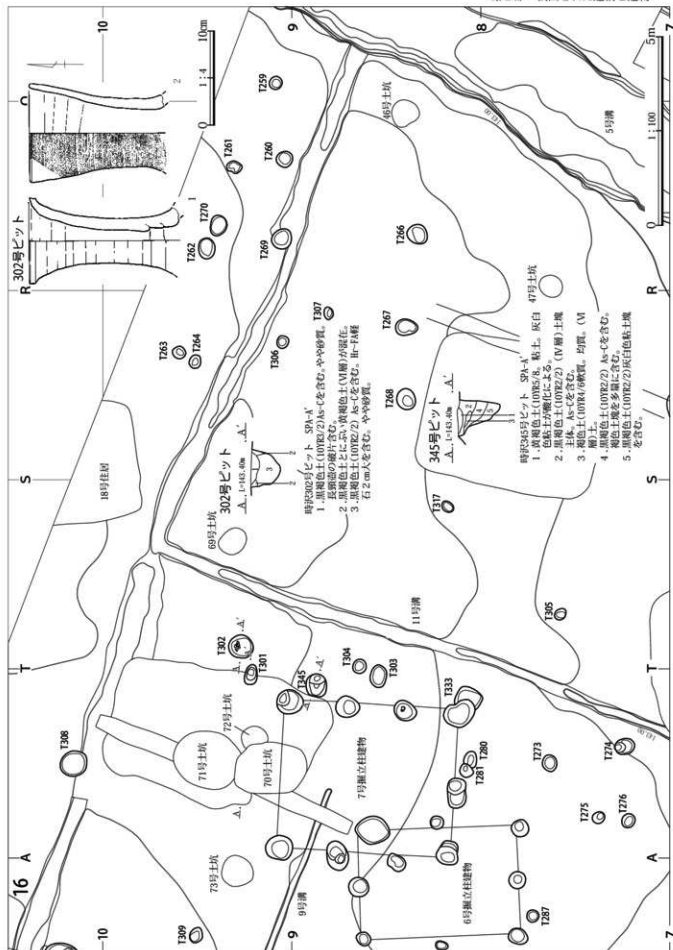
第219図 時沢西組屋谷戸遺跡ピットの分布と出土遺物図13



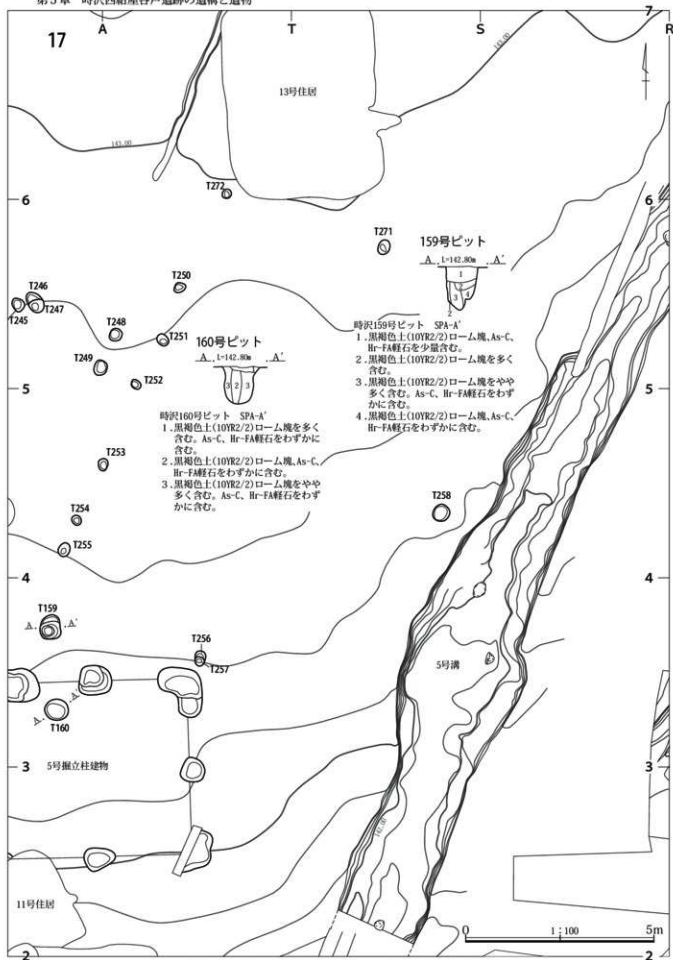
第220図 時沢西紺屋谷戸遺跡ピットの分布と土層断面図14



第221図 時沢西組屋谷戸遺跡ピットの分布図15



第222図 時評西組屋谷遺跡ピットの分布と土層断面・出土遺物図16



第223図 時沢西組屋谷戸遺跡ピットの分布と土層断面図17

8. 畝

1号畝畝間溝群 (第224図 PL.91)

グリッド 43区Q・R14～15

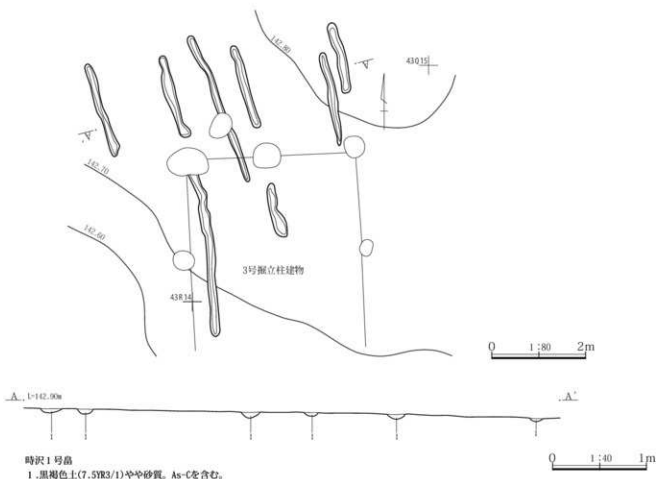
主軸方位 N-23°-W

重複 3号掘立柱建物P1と重複していたが、P1の土層上位に畝間溝は確認されなかったことから、畝が古い可能性がある。

形態 ほぼ直線の6条の溝が途切れながらも検出された。溝の幅は0.16～0.28cm、長さは1.2～6.06m、深さは0.02～0.09mである。溝内はAs-Cを含むやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。畝間溝の間隔は芯々間で0.32～1.52mでばらつきがある。

出土遺物 遺構確認作業時に土師器壺・甕類破片3点が出土した。

所見 溝の間隔は一定ではないことから、これらの溝は一度の耕作の痕跡を示すのではなく、数次にわたる耕耘の一部が残されたものの集合と推定される。溝埋没土はAs-Cを含む黒褐色土で、他の古代の遺構を埋めている土と同様であった。北側にある3号溝とも埋没土は共通し、方向も同じことから3号溝は畝に關係する遺構の可能性がある。



第224図 時沢西組屋谷戸遺跡1号畝平面図

9. 水田(無名沢の調査)

(第225～228図 PL.92・93 遺物観察表P.352・356)

(1) 無名沢について

無名沢は時沢西組屋谷戸遺跡発掘区の東側にある帯状の沖積低地である。その東側は東組屋谷戸遺跡になる。無名沢の上流は、遺跡から約1km北にある時沢神社の南付近で竜の川から分岐している。上流では低地が形成されておらず、むしろ台地部を侵食・縦断している印象である。このことから、古代に竜の川から水を引くために溝が掘られ、やがてその流れが急傾斜地で台地を侵食し谷地を形成し湧水が集まって流れる無名沢ができたとも考えられる。

しかし、現地表面の傾斜に対してⅦ層より下位の土層はほとんど傾斜していない。Ⅵ層は谷内に落ち込んでいないことから、Ⅵ層堆積の時期以降に谷が形成されたと推定される。したがって無名沢の形成年代は縄文時代中期以降である可能性が高いと考えられる。また、無名沢の東縁線に沿っていたと考えられる6号溝から8世紀の遺物が出土していることから、台地上に集落が営まれた頃には既にこの谷が存在していたといえる。無名沢の形成時期は縄文時代中期以降～平安時代以前であろう。

(2) 無名沢の調査について

国交省から当区の早期工事計画の希望を受け、急ぎよ平成21年11月19日～12月2日に、上町遺跡の調査を中断してトレンチ調査を実施した。この調査では古代水田の存在の有無、現代までの耕地の変遷過程を明らかにすることを目的として、沢に直交するA～Dのトレンチ4か所を掘削した。

最北のDトレンチは湧水が著しく、写真や測量記録をとれないまま、即時に埋め戻した。しかしDトレンチに隣接する台地傾斜部の溝状部分の埋没土中より印判染め付け茶碗が出土したことから、沢の埋立ては明治を前後する時期の可能性が判明した。

トレンチ調査のみでは水田の有無確認が不確実であったことから、水田区画の確認のため必要最小限の拡張をAトレンチで行った。Aトレンチは南端の崖際であるため湧水はほとんど無く、2層の埋立て土直下からそれぞれ水田面が良好に検出された。

(3) Aトレンチの調査(第225・226図 PL.92)

第1面水田

現代の水田耕土下の造成土直下の水田面であってアゼ区画と水口、水路を伴う第1面水田を確認した。アゼ区画は西辺、南辺がくの字状につながり、南西隅に空けられた水口を確認した。南辺のアゼを境に南北の水田面には段差があり、水口の落水部は凹みができている。

第2面水田

Aトレンチ拡張区内では第1面の埋没水田の記録後、さらに下位を掘り下げた。2層目の造成土の下面で、東辺と南辺に棚田状に高く段を造り、東辺、南辺、西辺をアゼ区画する良好な第2面水田を確認した。東側アゼの東には水路も検出された。水路は下部で固い砂質水性ローム地山を掘削している。西側はアゼの外に取水溝と想定される幅の狭い溝が治う。

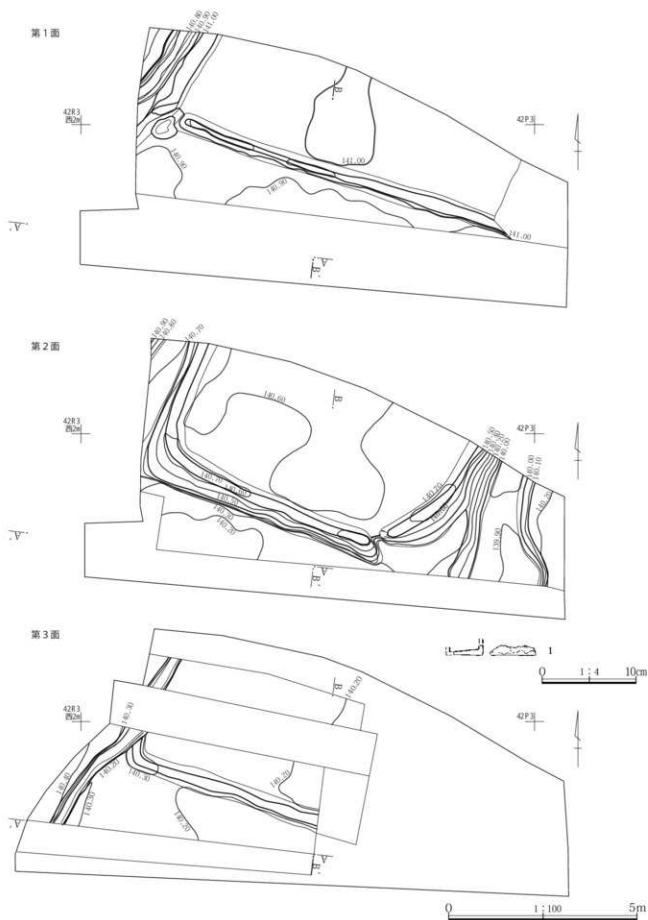
棚田状の第2面水田は、第3面水田の上にローム質の造成土を盛って造られていた。その際第3面水田の東西アゼ以南には第2面水田は造られず、この部分は第3面水田を埋めて、第1面水田が造られている。

第3面水田

Aトレンチの棚田状アゼ区画を伴う水田第2面水田の60cm下に造成土を挟んで、明確なアゼを伴う第3面水田が検出されたが、第3面水田の西端の南北方向の溝は第3面水田とアゼを切っている。この溝は第3面水田の取水路とは考えられない。

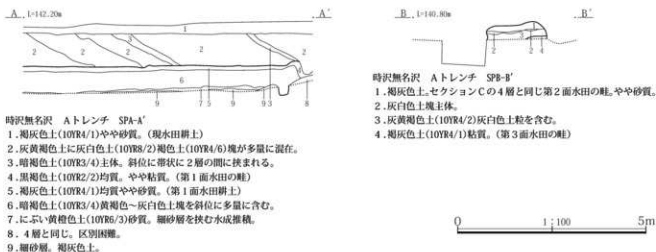
Aトレンチ第3面水田とアゼは西端で幅の狭い南北溝に切られるが、溝東上端から第3面水田直上に下部に薄い細砂層と上部にローム土起源黄褐色の砂層が1cmから3cm程厚さで広がっていた。西端の溝からの氾濫層がアゼの南側に広がっていると推定され、この氾濫層は東にいくにつれて薄くなっていった。造成土は氾濫層の直上に乗っており、氾濫被災面の復旧をしないうまま盛り土造成が行われたことを示している。第2・第3面水田の間に氾濫のあった溝が記録されたものと考えられる。

水田面から18世紀と見られる美濃陶器製水入(第225図1)が出土した。



第225図 時沢西附屋谷戸遺跡水田平面図(無名沢Aトレンチ)

第5章 時沢西組屋谷戸遺跡の遺構と遺物



時沢無名沢 Aトレンチ SPA-A'

1. 褐灰色土(10YR4/1)やや砂質。(現水田耕土)
2. 灰黄褐色土に灰白色土(10YR8/2)褐色土(10YR4/6)塊が多量に混在。
3. 暗褐色土(10YR3/4)主体。斜位に帯状に2層の間に挟まれる。
4. 黒褐色土(10YR2/2)均質。やや粘質。(第1面水田の畦)
5. 褐灰色土(10YR4/1)均質やや砂質。(第1面水田耕土)
6. 暗褐色土(10YR3/4)黄褐色～灰白色土塊を斜位に多量に含む。
7. にぶい黄褐色土(10YR6/3)砂質。細砂層を挟む水成堆積。
8. 4層と同じ。区別困難。
9. 細砂層。褐灰色土。

時沢無名沢 Aトレンチ SPB-B'

1. 褐灰色土。セクションCの4層と同じ第2面水田の畦。やや砂質。
2. 灰白色土塊主体。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2)灰白色土塊を含む。
4. 褐灰色土(10YR4/1)粘質。(第3面水田の畦)

第226図 時沢西組屋谷戸遺跡水田土層断面図(無名沢Aトレンチ)

(4) Bトレンチの調査(第227図 PL.93)

Bトレンチでは近世水田の下層の旧河川底まで掘り下げた。近世水田の下層にA-s-B層は確認できなかった。火山灰起源らしい極薄い細砂層を一部で認めたが、同層以下は砂質又は砂層で下位層は川底まで砂礫層となる。古代水田は流された可能性が高く、その痕跡を確認できなかったが、古代水田が存在した可能性は否定できない。

(5) Cトレンチの調査(第228図 PL.93・122)

上下2面の水田面を良好に確認した。最上位はトレンチを重機掘削の際、アゼを東西方向(谷地の直交方向)に確認できたが平面的な検出はできなかった。上位面は断面とテラス状に水田面を検出し記録した。

上位水田のアゼ

沢の西側立ち上がり部は幅1.5メートル前後のV字状の溝が見られ、この溝と水田面の間に明確なアゼが見られず、耕土層が溝の東立ち上がり部で同じ厚さで底部へ傾斜する状況があった。アゼが溝内へ流れたものかどうかは不明である。V字状の溝には造成土が一気に埋め立てられており、底部でも水の流れた痕跡は認められなかった。

トレンチ東側も緩く下がるが、傾斜部境に明確なアゼは確認できなかった。

下位水田のアゼ

下位水田面は検出に際して湧水による支障が少なくな

かったが、上位水田の下50cm前後のところで黒味かかった水田面を確認した。沢と直交方向は落差の低い棚田状の段が直線的に確認され、水田直上の覆土が黄褐色造成土で段は明確に検出できたが、アゼは不明確であった。水田の西縁辺は台地への立ち上がりのローム地山の傾斜面まで達し直接ぶつかる状況で溝の確認はなかった。東縁辺は平面検出できなかったが、大アゼと東外側に沿う溝が土層断面で明確に認められた。

(6) 埋没水田の時期について

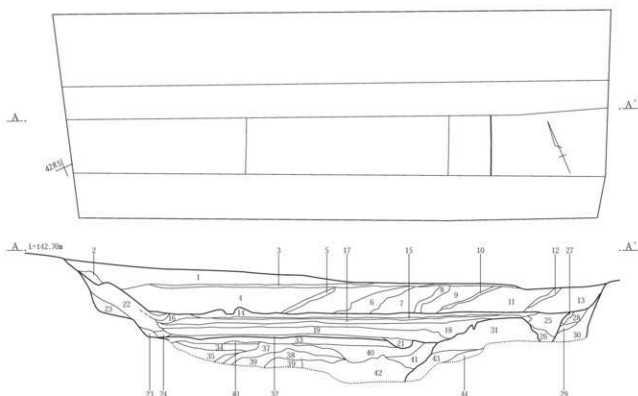
各トレンチで出土した新しい時期の遺物は、18世紀から明治時代にかけての陶磁器類であることから、水田の時期は江戸時代後半以降と考えられる。

調査中に南隣接地地権者からうかがったところによれば、昭和19年から20年代にかけての大正用水工事の時点では、無名沢の水田は現状と同じになっていたとことであるから、厚い造成土による2面の水田の埋没は大正用水以前のこととなる。

明治18年測量の迅速測図と昭和50年測量の2万5千分の1の国土地理院地形図で無名沢の水田範囲を比較したところ、調査トレンチ設定区では水路と水田の外郭形状に一致が認められた。明治18年以前にすでに現地形、現水田範囲であったことの蓋然性が高いと考えられる。

また、古代以前についてはAトレンチでは第2面水田で灰釉陶器の水盤状の底部破片が出土し、第3面では筒型の灰釉陶器小破片、鉄軸の陶器小破片が出土している。染め付けの類は見つっていない。また、土師器杯・椀

4709



時沢無名沢 Bトレンチ SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。均質。(現水田耕土)
2. 灰白色土を混在。地山の崩落土と混在。
3. 褐色土 粘質。鉄分。凝集による。
4. 灰黄色土 灰白色土 褐色土塊が斜位に埋設された層。
5. 5cm以下の灰白色土塊と暗褐色土が混在。
6. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。灰白色土塊10cm以下を含む。
7. 6層と同じ。
8. 6層と同じ。
9. 6層と同じ。
10. 9層よりもわずかに褐色土塊が多い。
11. 7層と同じ。
12. 灰黄褐色土(10YR4/2)
13. 6層と同じ。
14. 灰褐色土粘質。均質。(水田の畦と耕土)
15. 浅黄褐色土 やや砂質。地山
16. 灰黄褐色土 やや粘質。黄褐色土を混在。19層と同じ
17. 灰黄褐色土(10YR4/2)粘質。均質。水田耕土。
18. 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土。粘質土塊。
19. 黄褐色土粘土塊。主体。
20. 灰白色土塊。黒褐色土塊。10cm大主体を斜位に埋設。
21. 灰黄褐色土 黒褐色土(水田耕土)と斑状に混在する粘質。(水田の溝状の窪みの境理上)
22. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。As-B目立たない。確認出来ない。
23. 黒褐色土 浅黄褐色土塊を含む。
24. 黒褐色土(10YR2/3)砂質。細砂主体。As-B起源の可能性あり。下部は粘質。均質。
25. 黄褐色土粘質。
26. 灰黄色土粘質。
27. 灰黄褐色土粘質。
28. 灰黄褐色土 砂質土。25層と29層の薄い互層。
29. 灰黄褐色土 砂質。
30. 31層と同じ。
31. 浅黄褐色土 地山。砂質。15層と同じ。
32. 灰黄褐色土(10YR4/2)にふい黄褐色土。粘質土塊を斑状に含む。19層と同じ水田耕土。
33. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。粘質。均質。As-Bの堆積不明確。(水田耕土第3面)
34. 黒褐色土(10YR3/2)粘質。溝(流路)埋没土
35. 砂礫層3cm以下の円礫主体。溝(流路)埋没土
36. 黒褐色土(10YR3/2)砂礫を堆積する。
37. 黒褐色土(10YR3/2)粘質。小礫を含む。
38. 灰黄褐色土(10YR4/2)小礫。褐色土粘土塊を含む。
39. 灰白色粘土塊。褐色土塊主体。小礫。灰黄褐色土と混じる。
40. にふい黄褐色土(10YR5/3)砂礫を堆積する。
41. 灰黄褐色土(10YR5/2)やや砂質。砂層を堆積する。
42. 礫層20cm大以下の円礫2cm大の礫が主体50cm大の円礫も含む。
43. 浅黄褐色土 粘土塊。小礫。砂を混じる。地山。
44. にふい黄褐色土 硬いシルト質の均質層。地山。

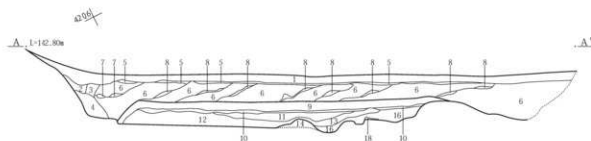
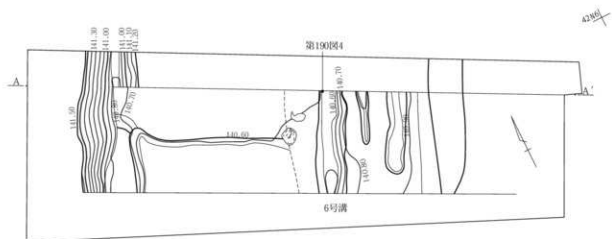
0 1:100 5m

第227図 時沢西紺屋谷戸遺跡水田平面断面図(無名沢Bトレンチ)

破片4点、壺・甕類破片15点、須恵器杯・椀類破片7点、瓶・甕類破片4点、近世国産磁器1点、国産施釉陶器破片1点が出土した。Bトレンチでは近世在地系焙烙銅破片1点が出土した。

以上のように、今回の無名沢の調査では、古代の水田は検出されなかった。しかし、台地上に集落があること

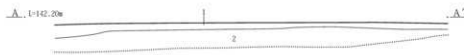
から古代での水田耕作を否定するものではない。集落内には8世紀には溜井も掘られており、白川扇状地内の古代の土地利用については、山麓斜面全体を見る必要がある。今回の調査では、無名沢の確実な水田耕作の遺構として江戸時代後半の水田面を確認することができた。



時沢無名沢 Cトレンチ SPA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2)やや砂質。均質。(現水田耕土)
2. 1層に灰白色土粒。地山崩落土。溝埋没土。水の流れた痕跡(砂層など)なし。
3. 1層に黄褐色土粒(7層)が混じる。
4. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。やや粘質。
5. 褐色土(10YR4/4)粘質。埋没土上端崩。鉄分凝集による褐色土。
6. にぶい黄褐色土 灰白色土 褐色土塊(10cm以下)の混在する斜位に埋没された層。
7. 暗褐色土(10YR3/4)粘質。均質。6層の埋没土の間に50cm前後の間隙で斜位に塊状に堆積する。
8. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。灰白色土塊を含む。

9. 褐灰色土(10YR4/1)やや砂質。均質。(第2面水田耕土)
10. 褐灰色土 浅黄褐色土(10YR8/3)塊を多量に含む。粘質。
11. 褐灰色土 灰白色土塊を含む。溝埋没土やや砂質。
12. 灰白色土 砂質。5cm大の礫を含む。地山土の再堆積。
13. 灰白色土 地山塊埋没土。砂質。12層とほぼ同質。
14. 黒褐色土(10YR3/2)下面の水田耕土と同質。均質。にぶい黄褐色土。砂質土を復状に混在する。
15. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。小礫砂を混在する。水流の痕跡のある溝埋没土。(6号溝埋没土)
16. 暗褐色土(10YR3/4)粘質。均質。水田と同時期の面。水田耕土14層に近い。
17. 灰白色土 砂層。礫を含む。地山。
18. 水田耕土 14層と同じ。



時沢無名沢 Dトレンチ SPA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2)やや砂質。現在の水田。畑耕土。
2. 明黄褐色土(VII層)硬く砂質。



第228図 時沢西組屋谷戸遺跡水田平面図と出土物写真(無名沢C・Dトレンチ)

10. 遺構外の出土遺物

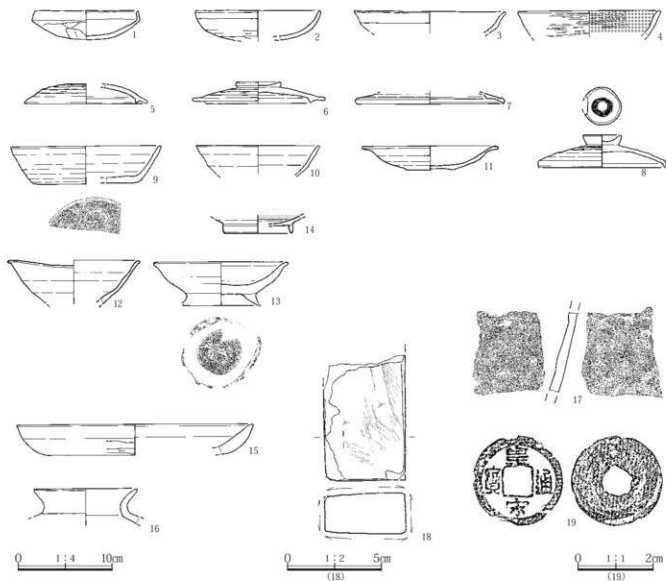
(第229・230図 PL.122・123 遺物観察表P.349・352・354・356～358)

時沢西紺屋谷戸遺跡では、遺構確認作業時に遺構に伴わない状態で土器や石器が出土した。そのうち、Ⅱ層から出土した須恵器蓋(第229図6)、須恵器盤・甕(15・16)、Ⅱ・Ⅲ層から出土した須恵器杯(9)、砥石(18)、Ⅲ層から出土した須恵器蓋・碗(5・13)、Ⅳ層中から出土した土師器杯(2)、須恵器皿(11)、碗(12・14)、蓋(8)

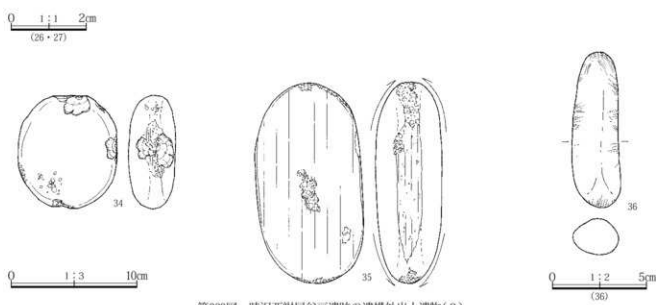
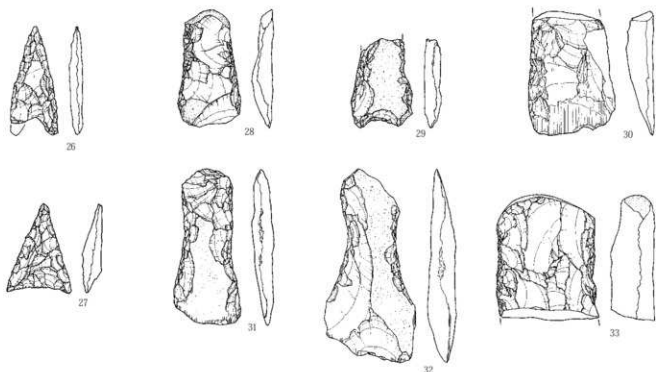
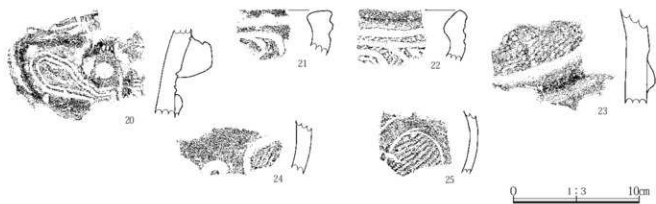
を図示した。また、土師器皿(第229図3)、黒色土器碗(4)、須恵器蓋(7)は当初遺構として掘り始めた掘り込みから出土したが、ここで図示した。17は常滑陶器壺であるが12号住居埋没土中から出土した。19の銭貨は表面

第230図には古代の遺構埋没土や遺構確認作業中に出土した縄文時代の土器・石器(第230図20～36)を図示した。

図示できなかった遺物の内訳は非掲載遺物集計表(P.361～363)の通りである。



第229図 時沢西紺屋谷戸遺跡の遺構外出土遺物(1)



第230図 時沢西組屋谷戸遺跡の遺構外出土物(2)

第6章 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の遺構と遺物

第1節 概要

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡は、前橋市と旧富士見村の境界にあり、それぞれの自治体で別の遺跡名がつけられていた隣接する遺跡である。前橋市と富士見村が合併した現状では、管理事務上は別の遺跡名・遺跡番号が台帳に記載されている。しかし、遺跡としては同一であり、上町遺跡から時沢西紺屋谷戸遺跡にかけて連続する遺構も検出されている。本章では、両遺跡に展開する、溝1条(上町遺跡14号溝-時沢西紺屋谷戸遺跡15号溝)、後述する道路と重複する溝1条(上町遺跡15号溝)と、道路跡1条(1号道路)について報告する。

上町遺跡14号溝と時沢西紺屋谷戸遺跡15号溝は、発掘区の中央部で検出された。調査の都合上分断して調査したために遺跡別に遺構番号が付されているが、連続する1条の溝である。

1号道路は、両側側溝を伴う古代道路跡である。上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の中央部で北東から南西にかけての方向で検出された。時期は側溝からの出土遺物が8世紀後半から9世紀以前に限られることから、9世紀代を中心とした時期の道路跡と推定される。1号道路は硬化面の位置や層位が一定でないことから、適宜修復を繰り返したものと推定され、ある一定期間道路として機能していた遺構と考えられる。上町遺跡部分では12号・13号・16号・17号溝が1号道路のいずれかの時期の側溝と推定される。また、18号溝も1号道路の付属溝として記録された。一方、時沢西紺屋谷戸遺跡部分では12号溝・13号溝が1号道路の側溝として記録された。

第2節 検出された遺構と遺物

1. 溝

上町遺跡14号溝

(第231図 PL.94・123 遺物観察表P.349)

上町遺跡14号溝は、上町遺跡の中央部やや西側で検出

された。北西から南東方向の溝である。南端は1号道路につながる。その先には1号溝と重複する15号溝があり、13号溝につながっている。14号溝と1号道路との関係は、道路底面の調査の際に土層断面K-K'において14号・15号溝が1号道路より新しいことが判明した。

14号溝の走向はN-8°-W、上幅1.50m、深さ1.39m、調査長は13.80mである。断面形は菜研掘状で、上方が大きく開いている。溝底面には凹凸が著しかった。溝内はAs-Cを含む黒褐色土で埋まっていた。これは古代の遺構埋没土であり、砂礫堆積などの流水の痕跡は認められなかった。14号溝埋没土中から土師器杯(第231図1)が出土した。ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片13点、壺・甕類破片25点、須恵器杯・瀬類破片5点が出土した。

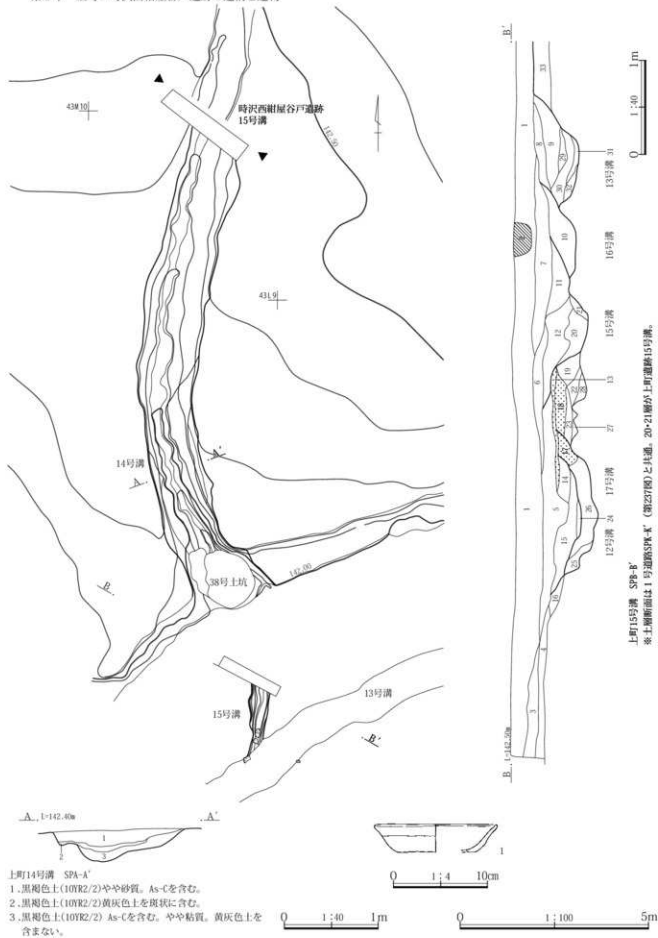
出土遺物と埋没土の特徴から、上町遺跡14号溝は古代、9世紀ころの溝である可能性が高い。

上町遺跡15号溝

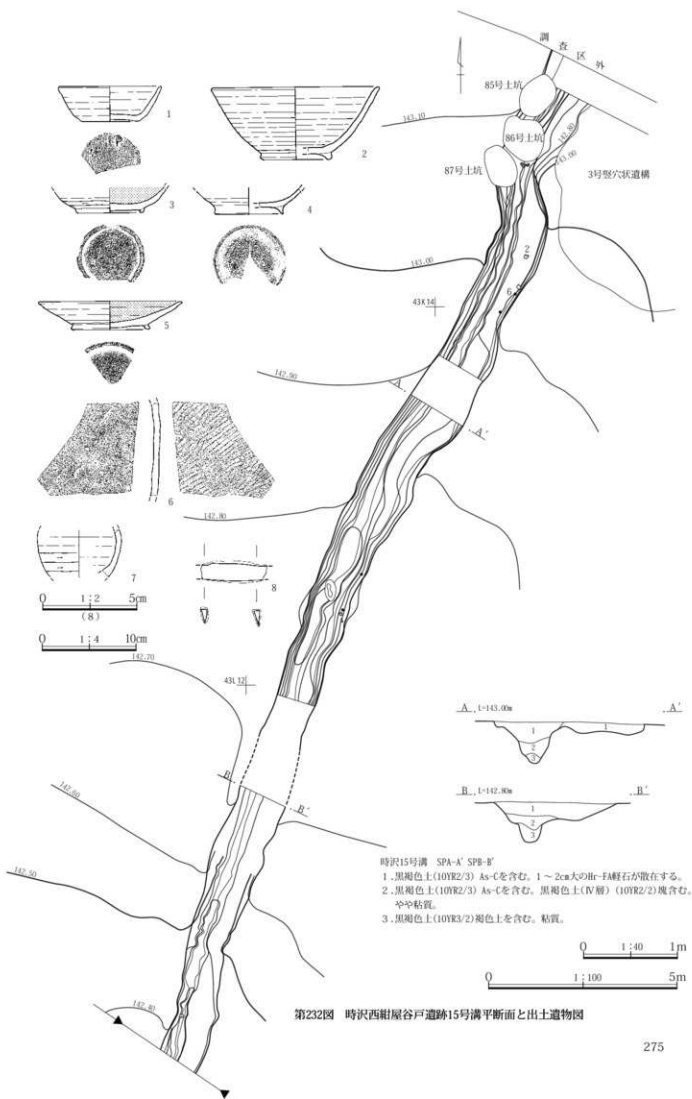
(第231図 PL.94・123)

上町遺跡15号溝は、上町遺跡中央部の1号道路と重複して検出された。北西から南東方向の溝である。14号溝と同様な走向を示し、1号道路内に15号溝に延長部が残ったものと思われたが、後述するように埋没土や底面標高に差があり、同一の溝ではない可能性が高い。15号溝と1号道路との関係は、道路底面の調査の際に土層断面K-K'において15号溝が1号道路より新しいことが判明した。

15号溝は走向がN-5°-E、上幅0.54m、深さ0.36m、調査長は1.75mである。底面標高は北端と南端の差はなかった。溝内は、上層はAs-Cを含むやや砂質の黒褐色土で、下層は多量に砂を含む砂質灰黄褐色土で埋まっていたことから、15号溝は流水があった可能性がある。15号溝底面上9cmで須恵器甕(第240図20)が出土しているが、これらの破片は1号道路の側溝である12号溝や13号溝から出土した破片と接合している。ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片9点、壺・甕類破片3点が出土した。



第231図 上町道跡14号・15号溝平断面と出土遺物図



第232図 時沢西紺屋谷戸遺跡15号溝平面図と出土遺物

時沢西組屋谷戸遺跡15号溝

(第232図 PL.94 遺物観察表P.349・350・354)

時沢15号溝は時沢西組屋谷戸遺跡発掘区中央部で検出された。南端は上町遺跡14号溝につながる事が明らかである。また、北端付近では粘土探掘坑と推定される3号竪穴状遺構の西傍らに掘られている。また、周辺では、不整形円形土坑(82号～91号土坑、粘土探掘坑)と重複するが、新旧関係は不明である。

走向はN-25°-E、上幅1.60m、深さ0.48m、調査長は28.50mである。断面形は逆台形で上方に開く形状であったが、東側立ち上がり部を掘りすぎのため写真撮影した形状は不正確となった。平面図は修正した。底面は平坦であった。底面標高は北端が0.14m高かった。溝内はAs-Cや黒褐色土塊を含む黒褐色土で埋まっており、自然埋没と判断された。

北部14ライン付近の東縁部底面上33cmで須恵器椀(第232図2)、底面上31cmで須恵器甕(6)、埋没土中から須恵器杯(1)、灰軸陶器椀(3)、鉄製刀子(8)が出土した。埋没土中から黒色頁岩製の打製石斧(第230図28)、灰軸陶器皿(第232図5)、須恵器椀(4)、須恵器小瓶(7)が出土した。ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片5点、壺・甕類破片22点、須恵器杯・椀類破片12点、須恵器瓶・甕類破片7点が出土した。

出土遺物と埋没土の特徴から、時沢西組屋谷戸遺跡15号溝は古代の溝である可能性が高い。これは上町遺跡14号溝の調査所見と矛盾しない。

2. 道路

1号道路(第233～240図 PL.95～100・124 遺物観察表P.350・352・354・356)

1号道路は上町・時沢西組屋谷戸遺跡の中央部で検出された。両側側溝が伴い、硬化面が残存する道路跡である。上町遺跡では14号溝・15号溝と重複していたが、道路が古い。

上町遺跡部分の1号道路の検出作業中に、黒色頁岩製の削器3点、加工痕ある剥片2点、土師器杯(第239図4)、須恵器椀(9・10)、須恵器壺(11)、土錘(13)が出土した。

また、時沢西組屋谷戸遺跡部分の1号道路の検出作業中に、黒色頁岩製の加工痕ある剥片1点、土師器杯(第239図1・2・3)、在地系土器焙烙(14～16)、変質安山岩製の敲石(19)、黒色頁岩製の敲石1点が出土した。14～16は混入であろう。

また、ここで図示した遺物以外に、上町遺跡遺跡では土師器杯類破片9点、壺・甕類破片28点、須恵器杯・椀類破片37点、須恵器瓶・甕類破片14点、黒色頁岩製の削器3点、加工痕ある剥片2点が遺構確認作業時に出土した。時沢西組屋谷戸遺跡では土師器杯・椀破片41点、壺・甕類破片43点、須恵器杯・椀類破片27点、瓶・甕類破片28点、中世在地系土器破片1点、近世国産磁器破片1点、在地系皿破片3点が出土した。

(1) 層位

上町遺跡部分の1号道路のあるところは、ローム層上面が浅い帯状凹地状になっており、道路面検出層でAs-B一次堆積層が認められた。(土層断面R-R')このことから、1号道路の時期は1108年のAs-B降下以前ということが判明した。一方、北半部の西組屋谷戸遺跡部分では凹地が浅くなり道路面レベルも高くなっていったため、As-B一次堆積層は認められず、As-B混土層に覆われていた。

なお、R-R'土層断面のAs-B層下の4層および5層で植物珪酸体分析を実施した。周辺ではAs-B一次堆積層が広がっていたが水田の畦等の遺構は検出できなかった。分析結果は第7章に掲載したが、As-B直下でイネの植物珪酸体が多量に検出され、テフラ降下以前に水田耕作が行われていたことが推定される。

(2) 残存状況と重複遺構

1号道路は発掘区の北端から南端まで検出された。北半部の残存状態は不良で道路硬化面は失われており、側溝底面が残されているのみであった。また、南半部では①H～Jライン付近で全体が、②M～Oライン付近で西側側溝が、新しい大規模な掘り込みで失われていた(第4図網掛け部分)。①をA掘り込み部、②をB掘り込み部と呼ぶ。この掘り込みは後述するように粘土探掘坑の可能性が高い。

A掘り込み部では、道路面が北方向に上り傾斜となっ

ているが、最も坂道となるべき部分がこの掘り込みで失われていた。掘り込みの壁は著しく抉り掘られて道路部分へ崩れ落ちており、埋没土層は塊状の土砂による人為的な埋没状況と判断された。埋没過程では人の踏み込み痕や硬化した平坦面も認められた。これは粘土採掘作業時の踏み固め痕跡と推定される。粘土採掘坑の集中する部分の道路の東傍には大礫が群生しており、採掘の際に掘り出された石を集めたものと思われる。このような礫は、上町遺跡K・L7グリッドにも見られた。

遺物は、6ライン付近の底面上5cmで須恵器甕(第240図20)が出土した。また、1ライン-Jライン間の底面直上で須恵器横瓶(第239図12)、底面上28cmで須恵器杯(第240図5)が出土した。

B掘り込み部も粘土採掘に関わるものと推定される。凹地に底面は凹凸が著しく、底面には足跡大の小さな凹みが集合していた。また灰白色粘土層を抉るように掘られていることから粘土採掘坑と推定される不整形の土坑が特に南西部に集中していた。また人為的な掘削の結果と思われる溝状の掘り込みも検出された。足跡状の凹みの形成原因は不明である。方形の凹地の北東隅、凹み北端の交わる部分には大石が落ち込み溝を塞ぐ状態となっていた。

12号溝との交点付近には大小の礫が出土した。道路が廃絶した後に流れ込んだと推定される。この方形掘り込みはAs-B一次堆積層より下位で検出されており、道路面以前の粘土採掘に関わる遺構と推定される。

ここでは、須恵器杯(第239図7)は底面上7cmで、土師器杯(5)が底面直上で、須恵器杯(6)が底面上12cmで出土した。また須恵器甕(8)が底面上20cmで出土した。いずれも8世紀後半から9世紀の時代の土器であり、道路の時期一致する。路面使用時と掘り込み時期には、さほど時間差はなかったものと推定される。

以上のような道路跡の残存状況について地震による陥没の可能性も考慮されたが、いずれの土層断面から地震による液状化等の痕跡は認められなかった。

(3) 道路面について

道路面の規模は調査長62.4m前後、硬化した道路面の幅は北端土層断面A-A'で3.6m、最も残存状態のよい土層断面N-N'で4.4～6.0m、J-J'で3.6m、P-P'で3.2m

であった。ただし土層断面N-N'は重複する新しい溝に伴う硬化面も含まれている可能性があり幅が広がっていることから、概ね硬化した道路面の幅は3.6mと推定される。

道路面は砂と黄褐色粘質土が混ざった土の硬化面として認められた。下部路盤層は砂と直径5cm大の褐色粘土塊を多量に含む黒褐色土であった。上町遺跡部分と西組屋遺跡南端部では路盤の砂と粘質土塊の客土が厚く、As-Cを含むやや砂質の黒色土層と硬化面の間に溝状の砂層が重なり合い、踏み固めたような状態の地点も認められた。As-Cを含む黒褐色土層と砂層の重なりは道路が踏み固まりながら堆積したのではなく、道路造成の際に盛り土をした状況を示すと考えられる。溝状の堆積の砂層は道路面の溝の堆積砂と見られる。後述するように側溝の位置は変化しており、その変化に伴って道路面も造成・補修等がされていったものと考えられる。一方、時沢西組屋谷戸遺跡北半部分の路面はVI層上面まで後世の削平が及んでおり、古代の道路面は明確に残っていない。

路面直上で出土した遺物は無かった。

(4) 側溝について

1号道路の側溝は、上町遺跡部分では12号・13号・16号・17号溝が記録された。土層断面の検討から12号溝を掘り直したのが17号溝、13号溝を掘り直したのが16号溝である。したがって、1号道路には少なくとも2時期の硬化面があると推定される。

時沢西組屋谷戸遺跡部分では、上町遺跡12号溝につながる側溝が14号溝、上町遺跡13号溝につながる側溝が13号溝と記録された。上町遺跡16号溝・17号溝に対応する新規硬化面に伴う側溝については、(2)残存状態でも既述したように上層が失われていたことから、明確に検出されなかった。(写真のみ掲載・PL.154)

ここでは、上町・時沢西組屋谷戸遺跡の1号道路全体の古期硬化面の西側側溝を12号溝、東側側溝を13号溝、新期硬化面の西側側溝を17溝、東側側溝を16号溝として報告する。17号溝は12号溝の南東側に、16号溝は13号溝の北西側にあり、新期硬化面や側溝の規模は古期硬化面より狭くなっていた。

12号溝(第233・240図 PL.95~100・124 遺物観察表P.350)

12号溝は1号道路古期硬化面の西側側溝である。

南半の上町遺跡部分では、やや西に湾曲するが、概ね走向はN-64°-Eで、上幅2.14m、残存深0.59m、調査長は17.70mである。

埋没土は下記の通りであった。

土層断面I-I' 黄褐色土粒や砂層を縞状に混在する暗褐色土や、黄褐色土粒、砂を混じり中に灰褐色土シルト層を挟む暗褐色土。

土層断面J-J' As-Cを含むやや粘質の暗褐色土、硬質褐色土、砂と褐色粘土塊が混在する黒褐色土。

土層断面K-K' 黄褐色土。As-C、砂を含む黒褐色土。

土層断面N-N' As-Cと褐色粘土塊を含む砂質黒褐色土。

12号溝南端は(2)項で既述したように、方形に大きく広がるB掘り込み部によって壊されていた。前述したM~Oライン付近の凹地である。この12号溝南端部では土師器杯(第240図4)が底面上43cm、須恵器椀(7)が底面上24cmで出土した。また、須恵器平瓶(9)がKライン付近の12号溝西縁底面上5cmで出土した。埋没土中から黒色頁岩製の削器1点、石核1点、土師器杯(第240図2・3)、須恵器蓋(6)、須恵器壺(8)が出土した。

北半の時沢西紺屋谷戸遺跡部分では上半部が削られていたために、検出された12号溝は浅くなっていた。走向はN-37°-Eで、上幅0.48m、残存深0.10m、調査長は12.20mである

埋没土は下記の通りであった。

土層断面A-A' As-Cを含むやや粘質の暗褐色土。

土層断面B-B' As-Cを含む砂質黒褐色土や砂層。

土層断面C-C' シルト質灰黄褐色土、細砂主体で黒褐色土と細砂層が帯状に重なる灰黄褐色土。

土層断面D-D' にぶい黄褐色土砂層や黄褐色土と砂層の混土。

道路部の溝は砂の水成堆積(水流による堆積)が明らかで道路が頻りに水道(みずみち)になったと思われる。

Hライン付近で砥石製の砥石(第239図18)が底面直上で出土した。また、須恵器瓶破片が底面上22cmで出土した。この破片は6号溝・14号溝埋没土、3号堅穴状遺構出土の破片とも接合した。(第175図1)

ここで図示した遺物以外に土師器杯類破片1点、壺・甕類破片64点、須恵器杯・椀類破片46点、須恵器瓶・甕

類破片23点、灰軸陶器硬質破片3点、黒色頁岩製の石核1点、削器1点が出土した。

13号溝(第233・240図 PL.95~100・124 遺物観察表P.350)

13号溝は1号道路古期硬化面の東側側溝である。

南半の上町遺跡部分では、12号溝に平行してやや西に湾曲するが、概ね走向はN-58°-Eで、上幅2.06m、残存深0.74m、調査長は25.10mである。

埋没土は下記の通り、砂やシルトを含む土であった。

土層断面I-I' やや粘質黒褐色土、黄褐色土。砂を縞状に含む砂質黒褐色土、黒褐色土と灰黄褐色土の水成砂層の縞状堆積。

土層断面J-J' 黄褐色土塊を含むやや粘質の暗褐色土、黄褐色土塊を多量に含む暗褐色土。

土層断面K-K' 灰黄褐色土砂層、砂を含む黒褐色土、灰黄褐色砂層。

土層断面N-N' 灰黄褐色砂層、細砂と褐色土細粒を含む粘質暗褐色土。

13号溝北端は不定型な凹地に壊されていた。凹地の底面は比較的平坦で、周囲に凹凸が著しく土坑状に掘り込まれていた(土層断面E~H)。底面には13号溝部分には礫が多く出土した。

遺物はLライン付近の底面上5~9cmで須恵器甕(第240図20)が出土したが、この土器は15号溝や17号溝底面上16cmで出土した破片と接合している。また、埋没土中から土師器杯(12・13)、須恵器杯(14~16)が出土した。

北半の時沢西紺屋谷戸遺跡部分では上半部が削られていたために、13号溝は浅くなり、Gラインより北東部では検出できなかった。E~Gライン間で12号溝にはほぼ平行して検出された溝は砂で埋没していたが、12号溝との距離が狭いことから、東側側溝である13号溝とは別の遺構と考えられる。走向はN-53°-Eで、上幅2.19m、残存深0.73m、調査長は14.30mである。土層断面D-D'付近では13号溝はやや乱れており、本来の側溝の状況を把握することはできなかった。

埋没土は下記の通りであった。

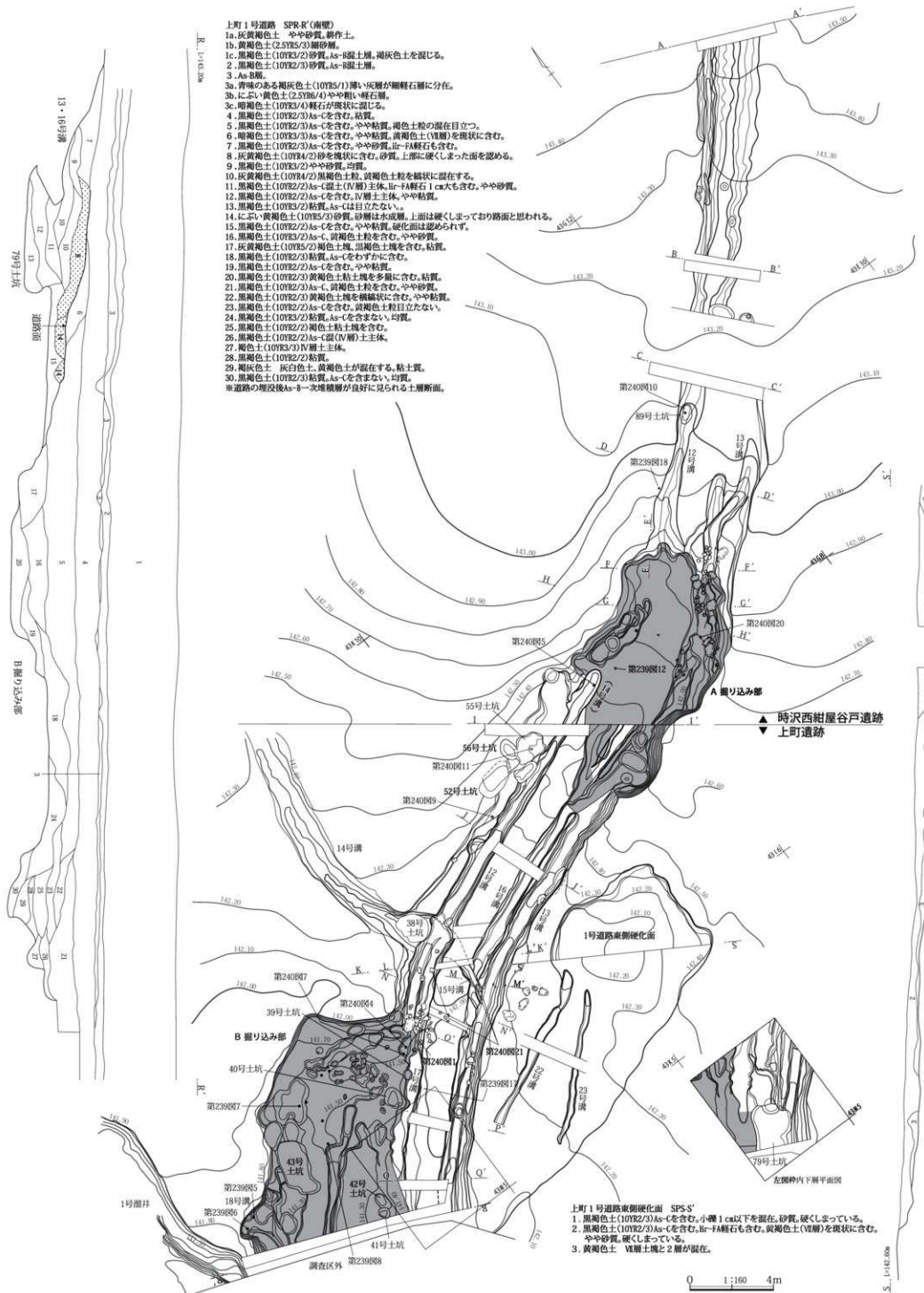
土層断面A-A' やや硬くしまっている砂質灰黄褐色土。

土層断面B-B' (13号溝は検出無し)

土層断面C-C' (13号溝は検出無し)

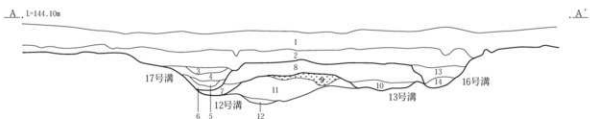
土層断面D-D' As-Cと砂塊を含むやや砂質黒褐色土。

- 上町1号道路 SPR-K' (側面)
- 1a. 灰黄褐色土・やや砂質。礫作土。
 - 1b. 黄褐色土(2.5T8/3)細砂質。
 - 1c. 黒褐色土(10YR3/3)砂質。As-B層土質。褐色土を混じる。
 2. 黒褐色土(10YR2/3)砂質。As-B層土質。
 3. As-B層。
 - 3a. 青味のある褐色土(10Y5/1)薄い灰層が細粒石層に分布。
 - 3b. に近い黄色土(2.5Y8/4)やや粗粒石層。
 - 3c. 暗褐色土(10YR3/4)粗粒石が硬状に混じる。
 4. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。粘質。
 5. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。やや粘質。褐色土粒の混在が目立つ。
 6. 暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む。やや粘質。黄褐色土(V層)を硬状に含む。
 7. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。やや砂質。Hr-FA礫石を含む。
 8. 灰黄褐色土(10YR4/2)砂を塊状に含む。砂質。上部に硬くしまった面を認める。
 9. 黒褐色土(10YR3/2)やや砂質。均質。
 10. 灰黄褐色土(10YR4/2)黒褐色土粒。黄褐色土粒を塊状に混在する。
 11. 黒褐色土(10YR2/2)As-C混土(V層)主体。Hr-FA礫石1cm大も含む。やや砂質。
 12. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。IV層土主体。やや粘質。
 13. 黒褐色土(10YR3/3)粘質。As-Cはほとんどない。
 14. に近い黄色土(10YR5/3)砂質。砂質は水成質。上面は硬くしまっており路面と思われる。
 15. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。やや粘質。硬化面は認められず。
 16. 黒褐色土(10YR3/2)As-C。黄褐色土粒を含む。やや砂質。
 17. 灰黄褐色土(10YR5/2)褐色土質。黒褐色土塊を含む。粘質。
 18. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。As-Cをわずかに含む。
 19. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。やや粘質。
 20. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒。土塊を多量に含む。粘質。
 21. 黒褐色土(10YR2/2)As-C。黄褐色土粒を含む。やや砂質。
 22. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊を塊状に含む。やや砂質。
 23. 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。黄褐色土粒が目立たない。
 24. 黒褐色土(10YR3/3)粘質。As-Cを含まない。均質。
 25. 黒褐色土(10YR2/2)褐色土粒土塊を含む。
 26. 黒褐色土(10YR3/3)IV層土主体。
 27. 褐色土(10YR3/3)IV層土主体。
 28. 黒褐色土(10YR2/2)粘質。
 29. 褐色土。灰白色土。黄褐色土が混在する。粘土質。
 30. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。As-Cを含まない。均質。
- ※道路の埋没後、ホーミング機が良好に見られる土層断面。



- 上町1号道路東側硬化面 SPS-S'
1. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。小礫1cm以下を混在。砂質。硬くしまっている。
 2. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。Hr-FA礫石も含む。黄褐色土(V層)を硬状に含む。やや砂質。硬くしまっている。
 3. 黄褐色土・V層土塊と2層が混在。

第233図 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡1号道路平面図



時沢1号道路 SPA-A'

1. 灰赤色土(2.5YR5/2)白色細軽石粒をわずかに含む。現耕作上。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。Hr-F軽石も見る。やや砂質。
3. 黒褐色土(10YR3/2)粘質。細砂層を薄く堆積する。
4. 灰黄褐色土(10YR5/2)細砂層。シルト質。
5. 灰黄褐色土(10YR5/2)細砂層。
6. 4層と同じ。
7. 暗褐色土(10YR3/4)やや粘質。As-Cをわずかに含む。
8. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。やや砂質。わずかに砂を含む。やや硬くする。路面は不明確。

9. 灰黄褐色土(10YR6/2)砂層。硬くしまっており路面の可能性が高い。
10. 灰黄褐色土(10YR4/2)砂質。9層よりも黒褐色土の混入が多い。やや硬くしまっている。
11. 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含む。やや砂質。砂を含むが路面は明確ではない。
12. 灰黄褐色土 微細砂層。
13. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。
14. 黒褐色土(10YR2/3)微細砂。黄褐色土粒を含む。

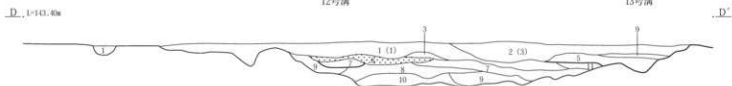
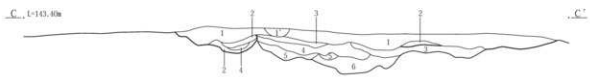


時沢1号道路 SPB-B'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含み砂質硬くしまっている。(H-M'の3層)
2. 砂層 (H-M'の4層)
3. 黒褐色土 As-Cを含む。1層と同質。
4. 砂層 (H-M'の6層)
5. 黒褐色土 As-Cを含み硬くしまっている。

時沢1号道路 SPC-C'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含みやや砂質。硬くしまっている。
- 1'. 黄褐色土粒の混入が目立つ。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)シルト質。均質。(N-N'の4層)
3. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含み砂質。IV層土主体。
4. 灰黄褐色土 細砂主体。黒褐色土と細砂層が帯状に重なる。
5. 褐色土(10YR4/4) As-Cを含む。黄褐色土を含む。
6. 相灰色土 砂層。5mm以下の小礫土主体層と細砂層が互層をなす。



時沢1号道路 SPD-D'

1. 黒褐色土(10YR2/3) (H-M' 1層)
2. 黒褐色土(10YR2/3) (H-M' 3層)
3. にぶい黄褐色土 細砂層。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2)シルト層。均質。
5. 黒褐色土 2層と同質。

6. 灰黄褐色土(10YR4/2)砂質。硬質。路面造成土。
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3)砂層主体。
8. にぶい黄褐色土 砂質。
9. にぶい黄褐色土 砂主体。黄褐色土と斑状に混じる。著しく硬い。
10. 9層と同質。黄褐色土が多く混在する。
11. 黒褐色土よりも黄褐色土粒を含む。

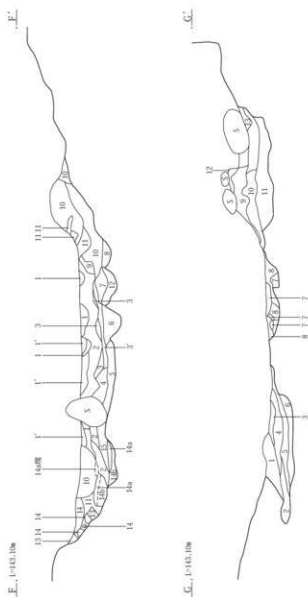


時沢1号道路下面 SPE-E'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。IV層土主体。黄褐色土(V層)崩落土中に陥入している。
2. 黄褐色土(10YR6/6)粘質土(V層)塊崩落上。
3. 黒褐色土(10YR3/1)シルト層。均質。樹根状に陥入している。
4. 灰白色粘土と黄褐色土が混在する。
5. 灰褐色土 As-YPか
6. にぶい黄褐色土(10YR7/2)～灰白色粘土(10YR8/2) 暗褐色土粒(マンガン複集)を含む。

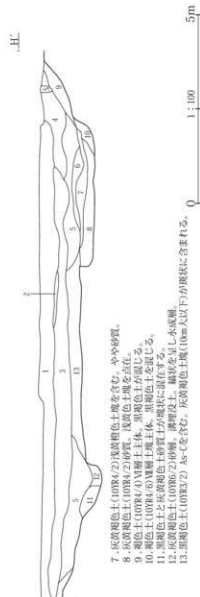
0 1:100 5m

第234図 上町・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路土層断面図(1)



時沢1号遺跡 SFC-F
 1. 灰白色土(100R6/6)褐色土、黒褐色土を流置状に盛り込んだように混在する。
 2. 黒褐色土(100R2/4) As-Cを含む、黄褐色土塊、黒褐色土塊を多量に混在する。
 3. 灰白色粘土、黄褐色土、黒褐色土が混在し、腐状をなす。
 4. 灰白色粘土、黄褐色土主体、黒褐色土と混在し腐状をなす。
 5. 灰白色粘土、黒褐色土主体、黒色土が塊状に混在する。
 6. 黒褐色土(100R2/2)主体、灰白色土と塊状に混在する。だが混入した状況もある。
 7. 黒褐色土主体、黄褐色土塊を含む、粘土質。
 8. 灰白色土、黄褐色土、均質。
 9. 黒褐色土主体、黄褐色土塊と混在する。
 10. 黒褐色土(100R2/3)主体、黒褐色土を粘状に凝集状む。
 11. 黒褐色土(VH層)、黄褐色土(VH層)と混在する。
 12. 褐色土(VH層)主体、黒褐色土を粘状に凝集状む。
 13. 黒褐色土 As-C混土(厚層土塊)。
 14. 黄褐色土 黄褐色土塊。
 14a、As-F以上のハーフローム。
 14b、As-F下層の灰白色粘土。
 15. 黒褐色土塊と褐色土が混在する、粘質。
 ※道路が粘土採取坑で掘られている部分の東西断面を切り断面。

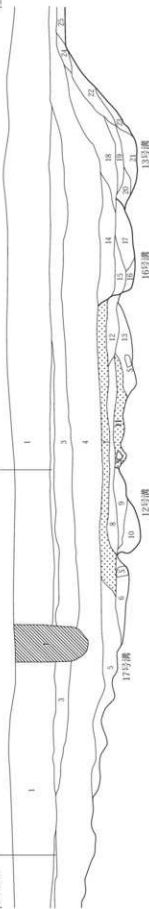
時沢1号遺跡 SFC-C
 1. 灰白色土塊と黄褐色土塊主体、黒褐色土塊が混在する、粘質。
 2. 黒褐色土 シルト質、均質、As-Cを含まない。
 3. 黒褐色土 As-Cを含む。
 4. 灰白色土 黄褐色土主体、黒褐色土塊と混在する、粘質。
 5. 黄褐色土 黄褐色土主体、黒褐色土塊と混在する。
 6. 灰白色土 黄褐色土主体、黒褐色土塊と混在する。
 7. 黄褐色土 黄褐色土主体、流置状に凝った様子。
 8. 黒褐色土と黄褐色土塊。
 9. 黄褐色土 黄褐色土塊。
 10. 黒褐色土(100R2/3) As-Cを含む、黄褐色土塊を帯状に多量に含む。(埋防坑の盛土)
 11. 黒褐色土(100R2/3) As-C、珉・片麻石を含む。
 12. 灰褐色土 砂質、黄褐色土塊を含む。
 13. 黄褐色土塊主体、珉人の礫を含む。
 ※道路が粘土採取坑で掘られている部分の東西断面を切り断面。



時沢1号遺跡 SFC-F
 1. 黒褐色土(100R2/3) As-Cを含む、珉・片麻石も含む、やや砂質。
 2. 黒褐色土(100R2/3) As-Cを含む、黄褐色土塊を多量に含む。
 3. 黒褐色土(100R2/3) As-Cを含む、黄褐色土塊を多量に含む。
 4. 黄褐色土(100R2/3) As-Cを含む、黄褐色土塊を多量に含む。
 5. 黄褐色土(100R2/3) As-Cを含む、黄褐色土塊を多量に含む。
 6. 黄褐色土(100R2/3) As-Cを含む、黄褐色土塊を多量に含む。
 7. 灰褐色土(100R3/2)灰褐色土塊を含む、やや砂質。
 8. 灰褐色土(100R3/2)砂質、黄褐色土塊を多量に含む。
 9. 黄褐色土(100R6/6)黄褐色土塊主体、黒褐色土を混在する。
 10. 黄褐色土(100R6/6)黄褐色土塊主体、黒褐色土を混在する。
 11. 黄褐色土と灰褐色土(100R6/2)砂質、黄褐色土塊を混在する。
 12. 灰褐色土(100R6/2)砂質、黄褐色土、黒褐色土、珉・片麻石も混在する。
 13. 黒褐色土(100R3/2) As-Cを含む、灰褐色土塊(10cm以下)が帯状に含まれる。

第235図 上町・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路土層断面図(2)

上町1号道路 SP1-1' 上町1号道路 SP1-1'

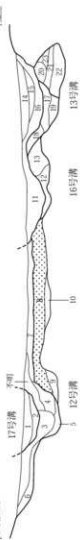


- 17号溝
1. 土壌、黄褐色土(10YR4/3) やや砂質、表土。
 2. 黒褐色土(10YR2/3)砂質、As-Cを含む。
 3. 黒褐色土(10YR2/2)やや粘質、As-Cを含む。
 4. 黒褐色土(10YR2/2)やや粘質、As-Cを含む。
 5. 黒褐色土(10YR2/2)やや粘質、As-Cを含む。
 6. 褐色土(10YR4/6)V層・V層土塊が縦状に黒褐色土層を埋入して重なる。粘質。踏み固められた様子。
 7. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土層を埋入した様子。
 8. 黒褐色土(10YR2/2)砂を含む、やや砂質。
 9. 黒褐色土(10YR2/2)砂を混じる、やや硬い、8層と同様、黄褐色土(V層)塊を含む。

- 12号溝
9. 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土(V層)、砂層を縦状に混入する。
 10. 暗褐色土(10YR3/2)黄褐色土塊5cm以下を多量に含む、中位に灰褐色土シルト層を伴う。
 11. 黒褐色土(10YR3/2)9層よりも黄褐色土塊5cm以下を多量に含む。
 12. 黒褐色土(10YR3/2)12層よりも黄褐色土塊は少ないが砂を含み硬くしている。
 13. 土壌、黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土塊と砂を混じり、硬く縦状を見る。
 14. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む、砂質、褐色土層を混入する。
 15. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む、15層よりも褐色土の混入が少ない。
 16. 土壌、黄褐色土、14層に似る、砂質。

- 10号溝
17. 黒褐色土(10YR2/2)土壌、黄褐色土砂質土塊を多量に含む。
 18. 黒褐色土(10YR3/2)砂質、黄褐色土粒混入目立つ、As-Cを含む。
 19. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。
 20. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土、砂を縦状に含む、砂質。
 21. 黒褐色土(10YR2/3)灰黄褐色土(10YR5/1)の水洗砂層の縦状混入。
 22. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質、As-Cは少ない、V層土主体。
 23. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土(V層)塊を多量に含む。
 24. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混入、V層土主体、やや砂質。
 25. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混入、V層土。

上町1号道路

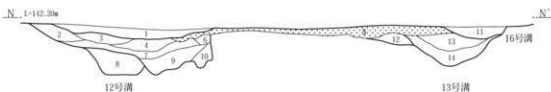


- 上町1号道路 SP1-1'
1. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質、As-Cを含む。
 2. 黒褐色土(10YR2/2)砂質、As-Cを含む。
 3. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質、As-Cを含む。
 4. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質、As-Cを含む。
 5. 黒褐色土 砂と褐色粘土塊が混入。
 6. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土砂を含む、硬くしまっている。(遺跡面)
 7. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土砂を含む、硬くしまっている。
 8. 黒褐色土(10YR3/4)砂質、砂を含む、硬くしまっている。(遺跡面)
 9. 黄褐色土 V層土塊主体、黒褐色土が混入する。
 10. 灰黄褐色土(10YR4/2)砂質、硬くしまっている。
 11. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む、砂質。

- 12号溝
12. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(V層)塊を含む、砂を含み砂質、東壁へすべバーハンダ。
 13. 黒褐色土 V層土塊主体、混入に似る。
 14. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質、As-Cを含む。
 15. 灰黄褐色土 砂質。
 16. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質、黄褐色土の混入が縦状に入る。
 17. 暗褐色土(10YR3/3)やや粘質、黄褐色土塊を多量に含む。
 18. 17層とほぼ同じ、やや粘質、黄褐色土塊を多量に含む。
 19. 暗褐色土、17層よりも黄褐色土塊を多量に含む。
 20. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。
 21. 黒褐色土、やや砂質、黄褐色土(V層)を縦状に混入。
 22. 黒褐色土、やや粘質、黄褐色土塊を含む21層よりも目立たない。
 23. 黒褐色土(10YR2/3)粘質、黄褐色土塊を含む。

- 10号溝
17. 黒褐色土(10YR2/2)土壌、黄褐色土砂質土塊を多量に含む。
 18. 黒褐色土(10YR3/2)砂質、黄褐色土粒混入目立つ、As-Cを含む。
 19. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。
 20. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土、砂を縦状に含む、砂質。
 21. 黒褐色土(10YR2/3)灰黄褐色土(10YR5/1)の水洗砂層の縦状混入。
 22. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質、As-Cは少ない、V層土主体。
 23. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土(V層)塊を多量に含む。
 24. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混入、V層土主体、やや砂質。
 25. 黒褐色土(10YR2/2) As-C混入、V層土。

第286図 上町・時沢西組屋台戸遺跡1号道路土層断面図(3)



上野1号道路・12号溝 SPV-N'

1. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-Cを含む。褐色土粘土小粒を含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-Cを含む。褐色土粒含まない。
3. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-Cを含む。褐色土粘土塊を多量に含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。As-Cを含む。褐色土。小粒を含む。
5. 灰黄褐色土(10YR5/2)細砂質。硬くしまっている。(道路面の砂層)
6. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。細砂。褐色土粒を含む。
7. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。部分的に砂層を挟む。As-Cを含む。
8. 黒褐色土(10YR2/3)砂質。As-Cを含む。褐色土粘土塊を含む。

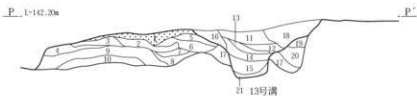
9. 黒褐色土(10YR3/2)砂質。灰黄褐色土。細砂を多量に含む。帯状の黒褐色粘質土層を挟む。
10. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。道路砂の褐色粘土塊主体の路盤の下層に挟込む。
11. 黒褐色土(10YR2/2)砂質。砂を含む。As-Cを含む。(溝埋没上)
12. 暗褐色土(10YR3/3)褐色土粘土塊を含む。
13. 灰黄褐色土(10YR4/2)砂質。
14. 暗褐色土(10YR3/3)粘質。細砂を斑に含む。褐色土細粒を含む。



上野1号道路 SPO-O'

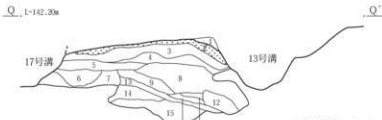
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C、細砂を含む。やや砂質。
2. 黒褐色土 粘質。均質。水成層。
3. 黒褐色土 粘質。黄褐色土粒を含む。
4. 黒褐色土と灰黄褐色土砂が混じる。道路の盛土。

※12号溝を大石が塞ぐ。大石と溝底との間の土層を断面図、石は立面図とした。



上野1号道路 SPP-P'

1. 黒褐色土(10YR3/2)やや砂質。硬くしまっている。褐色土粒を含む。(道路面)
2. 黄褐色土(10YR5/8)VI層土主体。流雲状に黒褐色土がわずかに混じる。
3. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質。硬くしまっている。
4. 黄褐色土 VI層土塊と黒褐色土が帯状に5層くらいに重なり硬くしまっている。(道跡面)
5. 黄褐色土 VI層土主体。黒褐色土が流雲状に混じる。
6. 5層よりも黒褐色土が主体。
7. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cの混入が目立つ。
8. 灰黄褐色土 砂層。水成層。(溝埋没上か)
9. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(VI層)塊を含む。西半部はVI層土は含まない。As-C混入が目立つ。
10. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質。
11. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。As-Cを含む。
12. 黒褐色土(10YR2/3)やや砂を含む。
13. 灰黄褐色土(10YR5/2)砂層。
14. 黄褐色土(10YR2/3)やや粘質。
15. 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土粒。砂を含む。砂質。
16. 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを含む。褐色土粒を含む。
17. 暗褐色土(10YR7/4)黄褐色土と黒褐色土が混じる。VI層土に近い。As-Cを含まない。
18. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。砂質。
19. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。褐色土(VI層)を含む。
20. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。黄褐色土(VI層)塊を含む。
21. 黒褐色土(10YR2/3)粘質。褐色土粒を含む。



上野1号道路 79号土坑 SPQ-O'

1. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。砂を含む。砂質。
2. 黒褐色土(10YR2/3)As-Cを含む。黄褐色土粘土塊を多量に含む。硬くしまっている。路面。
3. 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土粒を含む。As-C、砂を含む。やや砂質。
4. 灰黄褐色土 砂層。細砂。2cm大以下の砂粒(As-Cを主とする)が横断的に堆積する。
5. 黒褐色土 As-Cを含む。やや砂質。比較的硬い。
6. 灰黄褐色土(10YR6/4)砂層。3cm以下大。小礫を含む。粘砂。細砂(軽石も多い)が混在を示す。溝の水成埋没上。

7. 黒褐色土 As-C、の混入が目立つ。(VI層)土。
 8. 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを含む。均質。しまっていない。
 9. 黒褐色土 As-Cを含む。黄褐色土粒をわずかに含む。
 10. 12層と黒褐色土が混じる。
 11. 9層と同じ。
 12. (VI層)土塊。粘土質。
 13. 黒褐色土 As-Cを含む。黄褐色土粒。塊の混入が目立つ。
 14. 黒褐色土 As-Cを含む。9と同じ。
 15. 黒褐色土と黄褐色土が斑状に混じる。粘質。
- ※道路が粘土採掘坑で壊されている部分の南北断ち割り断面。

第238図 上野・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路土層断面図(5)

遺物は、埋没土中から黒色頁岩製の削器1点、打製石鎖(第230図33)、須恵器椀(第240図16・17)、灰釉陶器椀(18)、須恵器甕(19)、美濃陶器製作地不詳の磁器碗(22)、美濃陶器反皿(21)が出土した。陶磁器は混入であろう。

ここで図示した遺物以外に上町遺跡では土師器杯類破片49点、壺・甕類破片9点、須恵器杯・椀類破片21点、須恵器瓶・甕類破片6点が出土した。また、時沢西組屋谷戸遺跡では近世国産施釉陶器破片4点が出土したが、これは混入であろう。

17号溝(第233図 PL.95~100)

17号溝は1号道路新期硬化面の西側側溝である。上町遺跡部分のみで検出された。時沢西組屋谷戸遺跡部分では上層が削られていたために失われたと推定される。北端の土層断面A-A'には表れていた。

17号溝はL~Nラインで12号溝の南東側に接して検出された。走向はN-41°-Eで、上幅0.91m、残存深0.43m、調査長は13.30mである。

埋没土は下記の通りであった。

土層断面K-K' 黒褐色土が混じる灰黄褐色細砂層やAs-C・褐色土塊を含む黒褐色土。

土層断面L-L' 黄褐色土粒を含むにぶい黄褐色砂層。土層断面N-N' 部分的に砂層を挟みAs-Cを含む黒褐色土や、灰黄褐色土・細砂を多量に含む黒褐色土。

遺物は出土しなかった。

16号溝(第233図 PL.95~100)

16号溝は1号道路新期硬化面の東側側溝である。上町遺跡部分のみで検出された。時沢西組屋谷戸遺跡部分では上層が削られていたために失われたと推定される。北端の土層断面A-A'には表れていた。

16号溝は土層断面I-I'ライン~R-R'ライン間で13号溝の北西側に接して検出された。走向はN-54°-Eで、上幅1.02m、残存深0.26m、調査長は24.00mである。

埋没土は下記の通りであった。

土層断面K-K' 褐色土塊を多く含むやや粘質黒褐色土。

土層断面L-L' 不明。

土層断面N-N' As-C・砂を含む黒褐色土。

遺物は土師器杯類破片2点、須恵器杯・椀類破片1点、須恵器瓶・甕類破片2点が出土した。

(5)硬化面下の状況

各土層断面では、1号道路の硬化面の下位の状況を知るために土層の断面調査を実施した。詳細は各土層断面図に記録したが、硬化面の下位には前述したように、砂と黄褐色粘質土、黒褐色土が混ざった土が積み重ねられて形成されていた。

最下面にはローム層上面で凹凸の著しい溝状の凹地が検出されたが、これは道路が建設された凹地の自然地形を反映しそこに、不定形な土坑が掘り込まれて溝状になったものと推定される。全体の最終面の平面図の掲載は割愛したが、各土層断面図と遺構写真(PL.154)で示した。

また、上町遺跡部分南壁土層断面R-R'に記録された79号土坑は、下部が抉り掘られており大型の粘土採掘坑と推定されるが、1号道路面より古い。79号土坑の層位や、道路面下位で検出された掘り込みの状況から、路面強化の目的で下層が掘られたのではなく、道路構築前にも、この凹地内で粘土採掘がおこなわれていたことが想定される。

(6)1号道路東側硬化面

上町遺跡分の1号道路の東側台地縁辺部に南北方向の凹地に比較的固く締まったAs-Cを含む黒褐色土が堆積し、その上位が固く締まったAs-B混土層で覆われた硬化面を検出した。1号道路が廃絶した後の道路の存在の可能性を残すが、硬化面が北方向(時沢西組屋谷戸遺跡方向)へ延びないことから、道路とする積極的な根拠が認められなかった。調査では、硬化面の範囲を記録するにとどまった。

(7)1号道路の時期

1号道路が使用された時期は古代である。同路面の上位には浅間Bテフラを含まない黒褐色土が覆っており、その上位に浅間Bテフラ一次堆積層が水平堆積していたことから、同路面は古代の遺構と考えられる。また、硬化面が2枚認められることから、側溝の掘り返しを挟んで、一定の時間幅があったことが判明した。

道路部分から出土した土器は量が少なく、硬化面および路盤構成層ごとに分けて遺物を取り上げていないので、その時間経過を判断することは難しい。埋没土中の遺物として8世紀後半、9世紀、中世の遺物が混在する

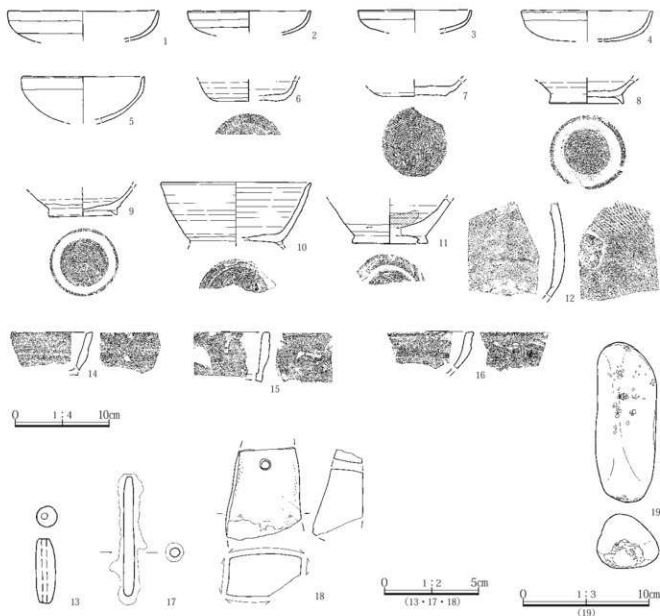
状況であった。道路上層にAs-B一次堆積層があることから、中世の遺物は混入であろう。

新期硬化面に伴う側溝は12号・13号溝である。12号溝から出土した土器は、一部に8世紀代の特徴をもつ土師器杯(1)もあるが少量であり、概ね9世紀の土器であることから、12号溝が側溝として機能していたのは9世紀代と考えられる。ともに側溝として機能していたと推定される13号溝の土器も、主として9世紀代の土器であり、側溝として機能していた時期は9世紀代といえよう。

古期硬化面に伴う側溝のうち、西側の17号溝からは遺物が出土していないので時期を判断できないが、東側側

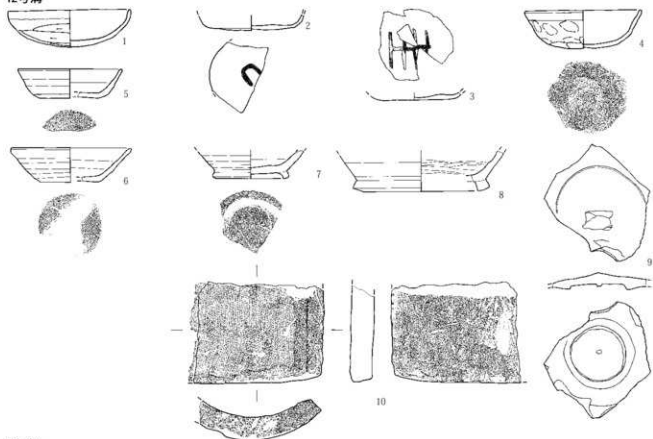
溝と推定される16号溝からは土師器杯2点、須恵器杯2点、甕2点が出土している。これらの土器は小破片ではあるが9世紀代の土器と推定され、なかでも須恵器杯の特徴は9世紀でも新しい要素が見える。このことは16号・17号溝が12号・13号溝より新しい土層断面の観察所見と矛盾しない。

以上のようなことから、1号道路が機能していたのは、同路面と側溝の改築も含めて8世紀後半から9世紀代に収まると考えられる。

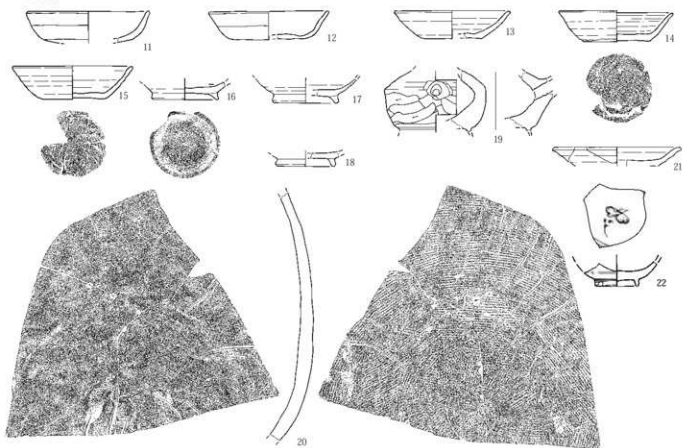


第239図 上町・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路出土遺物図(1)

12号溝



13号溝



第240図 上町・時沢西組屋谷戸遺跡1号道路出土遺物図(2)

0 1:4 10cm

第7章 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の自然科学分析

第1節 分析の目的と成果

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡では、遺跡の理解を深めるために、下記の目的でそれぞれの専門家に委託して自然科学的分析を実施した。分析結果は本文の記述および第7章の総括に反映させたが、分析内容の詳細は下記の通りである。

1. テフラ分析

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡では、発掘区の中央に南北方向の帯状の凹地がある。その東西両側はローム層が堆積する台地になっており、8世紀～10世紀、および中世の遺構が検出された。凹地部分には8世紀に掘削したとみられる大型の溜井や、古代の道路が造られていた。このような遺跡が所在する台地や凹地の成因や堆積過程については、遺跡の立地を考察するうえで重要である。

そこで、台地部分の43区Q-17グリッド北壁、44区A-15グリッド南壁、凹地部分の南壁で土層層序の記載と指標となるテフラの分析を委託して実施した。この分析によって、台地部には1.9～2.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP)が堆積しており、約1.8～2万年前⁹⁾の浅間白糸軽石(As-Sr)の可能性もあるテフラも検出された。

また上町遺跡帯状凹地南壁では、4世紀初頭に浅間火山から噴出したと推定されている浅間C軽石(As-C)と、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳浪川テフラ(Hr-FA)および6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)が検出されたが、一次堆積層が認められないことから、凹地部を覆う土層は、少なくともHr-FA降灰後に形成されたと推定された。ここで検出された遺構は、8世紀以降の溜井や9世紀の道路であり、考古学的に推定されている埋没開始年代と矛盾しない結果となった。また凹地上位で成層したテフラ層が見つかったが、このテフラ層は層相から1108(天仁元年)に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B)と、その上位に1128(大治3)年に浅間火山から噴出したと推定

されている浅間柏川テフラ(As-Kk)に同定された。この分析によって、12世紀初頭の段階には帯状凹地は埋まっていたことが判明した。

2. プラントオパール分析

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡では古代の集落が帯状の凹地を取り巻くように形成されている。この凹地は6世紀以降に埋積が始まり、12世紀初頭には埋まって低平な地形となっていた。この帯状凹地に向かって8世紀に溜井が造られていることから、この凹地が水田耕作地として利用されているかを確認するために、帯状凹地南壁の浅間Bテフラ(As-B)直下、直下の下位層、さらに下位層の3試料のプラントオパールを分析した。分析の結果、3試料ともにイネのプラントオパールが検出され、上位2試料はその密度が高いことが判明した。少なくとも12世紀初頭にはこの凹地が水田になっていたことが判明したが、下位の土層の年代を明らかにするデータがないことから、水田耕作が開始された時期を明らかにすることはできなかった。

第2節 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡におけるテフラ分析

1. はじめに

関東地方北西部に位置する赤城火山とその周辺に分布する後期更新世以降の地層や土壌の中には、赤城はもちろんのこと、榛名や浅間さらに遠方の火山に由来するテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が数多く分布している。テフラの中には、すでに層位や噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、それらとの層位関係を明らかにすることで、遺構や遺物包含層の層位や年代に関する資料を得ることが可能となっている。

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な土層が検出されたことから、地質調査を行うと土層の層序やテフラの層相に関する記載を行うととも

に、採取された試料についてテフラ検出分析、火山ガラスおよび斜方輝石の屈折率測定を行って、土層の層位や年代に関する資料を得ることになった。調査分析の対象となった地点は、時沢西紺屋谷戸遺跡のQ-17グリッドSPA-A'、A-15グリッド、上町遺跡の帯状凹地部南壁の3地点である。

2. 土層の層序

(1) 時沢西紺屋谷戸遺跡Q-17グリッドSPA-A'

時沢西紺屋谷戸遺跡のQ-17グリッドSPA-A'では、いわゆるローム層の土層層序をよく観察できた(第241図)。ここでは、下位より粒径が良く揃った灰色砂層(層厚5cm以上)、橙色軽石層(層厚15cm、軽石の最大径3mm、石質岩片の最大径2mm)、黄色がかかった灰褐色土(層厚10cm)、褐鉄鉱を多く含みやや黄色がかかった灰褐色土(層厚17cm)、褐鉄鉱層(層厚2cm)、黄色軽石層(層厚11cm、軽石の最大径7mm、石質岩片の最大径2mm)、褐色土(層厚4cm)、灰褐色土(層厚3cm以上)が認められる。

(2) 時沢西紺屋谷戸遺跡A-15グリッド

A-15グリッドでは、Q-17グリッドSPA-A'で認められた黄色軽石層を、より保存状態の良い状態で観察できた。ここでは、下位よりやや黄色がかかった灰褐色土(層厚6cm以上)、成層したテフラ層(層厚20cm)、黄褐色砂質土(層厚8cm)、灰褐色土(層厚3cm以上)が認められる(第242図)。成層したテフラ層は、下位より黄色軽石層(層厚11cm、軽石の最大径16mm、石質岩片の最大径2mm)、橙色がかかった成層した褐色砂質細粒火山灰層(層厚5cm)、黄色粗粒火山灰層(層厚1cm)、成層した褐色砂質細粒火山灰層(層厚3cm)からなる。このテフラ層は、層相から約1.3～1.4万年前^{*)}に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP、新井、1962、町田・新井、1992)に同定される。このことから、Q-17グリッドSPA-A'で認められた黄色軽石層も、As-YPの下部と考えられる。

(3) 上町遺跡帯状凹地部南壁

帯状凹地を埋積した土層は、下位より黄色土ブロックに富み黄灰色軽石を含む暗灰褐色土(層厚7cm、軽石の最大径5mm、17層)、黄灰色や白色の軽石を含む暗灰褐色土(層厚34cm、軽石の最大径8mm、5層)、黄灰色軽

石を含む暗灰褐色土(層厚12cm)、黄灰色軽石混じりで鉄分をやや多く含む暗褐色土(層厚9cm、軽石の最大径5mm)、黒褐色腐植質泥層(層厚9cm、以上4層)、成層したテフラ層(層厚7.5cm)、暗褐色土(層厚0.8cm)、成層したテフラ層(層厚1.6cm、以上3層)、黒灰褐色砂質土(層厚7cm、2層)、灰色砂礫層(層厚14cm、礫の最大径21mm)、砂混じり黒灰褐色土(層厚11cm)、灰色砂質土(層厚7cm)、白色軽石混じりで色調がやや暗い灰褐色土(層厚53cm、以上1層)からなる(第243図)。

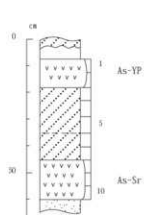
これらのうち、下位の成層したテフラ層は、下位より成層した青灰色砂質細粒火山灰層(層厚1.5cm)、橙色がかかった灰色粗粒火山灰層(層厚2cm)、黄色がかかった灰色粗粒火山灰層(層厚2cm)、桃色砂質細粒火山灰層(層厚2cm)から構成される。このテフラ層は、層相から1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B、荒牧、1968、新井、1979)に同定される。一方、上位の成層したテフラ層は、下位より黄灰色粗粒火山灰層(層厚0.2cm)、青みがかかった灰色粗粒火山灰層(層厚0.4cm)、青みがかかった灰色細粒火山灰層(層厚1cm)からなる。このテフラ層は、層相から1128(大治3)年に浅間火山から噴出した浅間粕川テフラ(As-kk、早田、1990、2004)に同定される。

3. テフラ検出分析

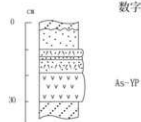
(1) 分析試料と分析方法

時沢西紺屋谷戸遺跡Q-17グリッドSPA-A'および上町遺跡帯状凹地部南壁において断面から採取された試料のうち、6点について指標テフラの検出同定を行うためにテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

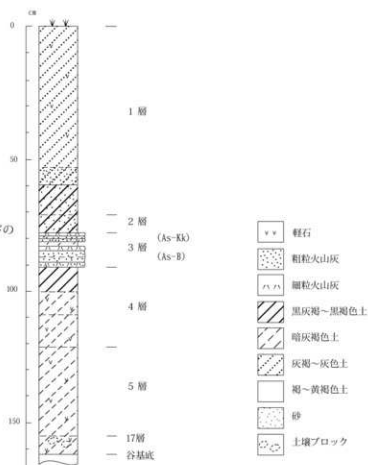
- 1) 試料12gについて超音波洗浄により泥分を除去。
- 2) 80℃で恒温乾燥。
- 3) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。
- 4) 分析篩により1/4-1/8mmおよび1/8-1/16mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で1/4-1/8mmの250粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別比率を求める。
- 6) テフラ層から採取されたQ-17グリッドSPA-A'の試料10の1/4-1/8mmの重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を示す。



第241図 時沢西紺屋谷戸遺跡Q17グリッドの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号



第242図 上町遺跡A-15グリッドの土層柱状図



第243図 上町遺跡帯状凹地部南壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

(2)分析結果

含まれるテフラ粒子の特徴把握(狭義のテフラ検出分析)、火山ガラス比、および重鉱物組成分析の結果を第31～33表に示す。また、火山ガラス比と重鉱物組成をダイヤグラムにして第244図および第245図に示す。

1)テフラ検出分析結果

時沢西紺屋谷戸遺跡Q-17グリッドSPA-A'では、軽石やスコリアは検出されなかったものの、火山ガラスはいずれの試料からも検出された。火山ガラスはいずれも無色透明や白色の軽石型や、透明の分厚い中間型である。試料10や試料8さらに試料4にやや多く含まれる傾向にある。

上町遺跡帯状凹地部南壁の試料2には、灰白色や白色の軽石型ガラスが少量含まれている。後者の斑品には角閃石が認められる。

2)火山ガラス比分析結果

時沢西紺屋谷戸遺跡Q-17グリッドSPA-A'における火山ガラス比分析の結果、火山ガラスはやはり試料10や試料8により多く含まれる傾向にある(10.8～11.2%)。これらの試料には、スポンジ状に発泡した軽石型、繊維束状に発泡した軽石型、そして中間型の火山ガラスが同じような比率で含まれている。より上位の試料でも、これらの火山ガラスが認められる。

上町遺跡帯状凹地部南壁の試料2には、火山ガラスが9.6%含まれている。火山ガラスは比率が高い順に、中間型(6.4%)、繊維束状の軽石型(2.0%)、スポンジ状の軽石型(1.2%)である。

3)重鉱物組成分析

時沢西紺屋谷戸遺跡Q-17グリッドSPA-A'の試料10には、比率が高い順に斜方輝石(53.2%)、磁鉄鉱(33.2%)、単斜輝石(10.0%)、角閃石(0.8%)が含まれている。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

指標テフラとの同定精度を向上させるために、温度変化型屈折率測定法により、時沢西紺屋谷戸遺跡Q-17グリッドSPA-A'の試料の試料10に含まれる火山ガラス(n)と斜方輝石(y)の屈折率の測定を、古澤地質社製MA10Tを利用して行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を第34表に示す。時沢西紺屋谷戸遺跡Q-17グリッドSPA-A'の試料の試料10に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.506-1.508 (29粒子)と1.503 (1粒子)である。また、斜方輝石の屈折率(y) 1.702-1.710 (40粒子)である。

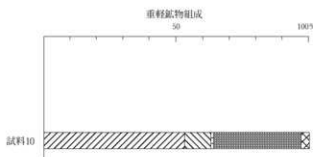
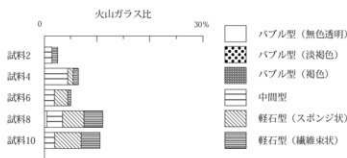
5. 考察

テフラ分析の対象となった試料のうち、時沢西紺屋谷戸遺跡Q-17グリッドSPA-A'の試料の試料10が採取されたテフラ層は、層相、火山ガラスの形態や屈折率、重鉱物の組み合わせ、斜方輝石の屈折率などから、浅間火山に由来すると推定される。その中では、1.9～2.4万年前¹⁾に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962)の中部(町田・新井, 2003)か、約1.8～2万年前¹⁾の浅間白糸軽石(As-Sr, 町田ほか, 1984, 中沢ほか, 1984など)が候補としてあげられる。今回の火山ガラスおよび斜方輝石の屈折率特性は、前者の1.508-1.511および1.700-1.709、後者の1.506-1.510および1.702-1.708と完全に一致するものではない。後者により類似しているようにも思えるが、As-BP Groupの層序や屈折率特性の把握には課題も多く、今回得られた屈折率特性での高精度のテフラ同定は難しい。そこで、今回はAs-Srの可能性を指摘するが、このテフラの同定に関しては周辺での調査分析の成果も合わせて今後慎重に検討したい。

一方、試料2のテフラ層は、火山ガラスはさほど検出されなかったものの、それは粗粒の軽石質テフラによるため、層相からAs-YPに同定される。これらの間から検出されるテフラ粒子の中には、その特徴から浅間大窪沢第1軽石(As-0k1, 約1.7万年前¹⁾, 中沢ほか, 1984,

早田, 1996)および浅間大窪沢第2軽石(As-0k2, 約1.6万年前¹⁾, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)からなる大窪沢テフラ群(As-0k Group)に由来するものが含まれていると思われる。

上町遺跡帯状凹地部南壁の試料2に含まれる灰白色や白色の軽石型ガラスは、それぞれテフラ粒子の岩相から、4世紀初頭に浅間火山から噴出したと推定されている浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000)と、6世紀初頭に権名火山から噴出した権名二ツ岳浅川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)および6世紀中葉に権名火山から噴出した権名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井,



第244図 時沢西紺屋谷戸遺跡43区Q-17グリッドの火山ガラス比・重鉱物組成ダイアグラム



第245図 上町遺跡帯状凹地部南壁の火山ガラス比ダイアグラム

1992)に由来すると考えられる。これらの一次堆積層が認められないことから、凹地部を覆う土層は、少なくともHr-FA降灰後に形成されたと推定され、考古学的に推定されている埋没開始年代と矛盾しない。

なお、火山ガラス比分析で少量ながら検出された無色透明のバブル型ガラスは、その形態や色調などの特徴から、約2.4～2.5万年前^{*1}に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 2003, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995など)に由来すると考えられる。

6. まとめ

上町・時沢西組屋谷戸遺跡において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、下位より浅間白糸軽石(As-BP Group, 約1.8～2万年前^{*)})の可能性のあるテフ

ラ層、浅間大窪沢テフラ群(As-Ok Group, 約1.6～1.7万年前^{*)})、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3～1.4万年前^{*)})、浅間C軽石(As-C, 4世紀初頭)、榛名ニッ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)および榛名ニッ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、浅間柏川テフラ(As-Kk, 1128年)などの多くのテフラ層やテフラ粒子を検出することができた。凹地部の埋没開始は少なくともHr-FA降灰後にはじまったと推定される

*1 放射性炭素(¹⁴C)年代, ATとAs-YPの較正年代については、順に約2.6～2.9万年前および約1.5～1.65万年前と考えられている(町田・新井, 2003)。

第31表 テフラ検出分析結果

遺跡	地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス	
			量	色調	最大径	形態	色調
時沢西組屋谷戸	Q-17グリッドSPA-A'	2	*	pe, nd	透明, 白		
		4	**	pe, nd	透明, 白		
		6	*	pe, nd	透明, 白		
		8	**	pe, nd	透明, 白		
		10	**	pe, nd	透明, 白		
上町	1区帯状凹地南壁	2	**	pe, nd	透明, 白		

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない, 最大径の単位は, mm, bw: バブル型, pe: 軽石型, nd: 中間型

第32表 火山ガラス比分析結果

遺跡	地点	試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	その他	合計
時沢西組屋谷戸	Q-17グリッドSPA-A'	2	0	0	0	4	0	3	243	250
		4	0	0	0	11	3	2	234	250
		6	0	0	0	5	6	1	238	250
		8	1	0	0	8	10	9	222	250
		10	0	0	0	5	12	9	224	250
上町	1区帯状凹地南壁	2	0	0	0	16	3	5	226	250

bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 無色透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 縦糸束状, 数字は粒子数

第33表 重鉱物組成分析結果

遺跡	地点	試料	ol	opx	cpx	am	bi	mt	その他	合計
時沢西組屋谷戸	Q-17グリッドSPA-A'	10	0	133	25	2	0	83	7	250

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, mt: 磁鉄鉱, 数字は粒子数

第34表 屈折率測定結果

遺跡	地点	試料	火山ガラスの屈折率 (粒子数)	斜方輝石の屈折率 (粒子数)
時沢西組屋谷戸	Q-17グリッドSPA-A'	10	1.503 (1), 1.506-1.508 (29)	1.702-1.710 (40)

測定は、温度変化型屈折率測定装置(MA10T)による。

文献

- 新井房夫(1962)関東東地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 新井房夫(1979)関東東地北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
- 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質。地質研専報, no.45, 65p.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・小林哲夫(1995)南九州, 始良カルデラ起源の大規模降軽石と入戸火砕流 中の炭化樹木の加速器¹⁴C年代。第四紀研究, 34, p.377-379.
- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1978)南九州境界カルデラから噴出した広域テフラ—アカホヤ火山灰。第四紀研究, 17, p.143-163.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学—考古学研究に際して—。テフラのカタログ。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987)始良Tn火山灰(AT)の¹⁴C年代。第四紀研究, 26, p.79-83.
- 村山權史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦(1993)四国沖ビストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討—タンデムロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の¹⁴C年代。地質雑報, 99, p.787-798.
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984)浅間火山。黒雁—前編期のテフラ層。日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
- 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源A・F層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉(1980)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 勉(1991)浅間火山の生い立ち。佐久考古通信, no.53, p.2-7.
- 早田 勉(1996)関東東地—東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御店第1テフラより上位のテフラについて—。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.
- 早田 勉(2004)火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史—とくに平安時代の噴火について—。かみつけの里博物館編「1184—浅間火山—中世への形跡」, p.45-56.
- 友成哲也(1988)古式土師器出現期の榛名と浅間山。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.
- 若狭 徹(2000)群馬の弥生土器が終わるとき。かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで水田跡(稲作跡)の検証や探査が可能である(藤原・杉山, 1984, 杉山, 2000)。

2. 試料

分析試料は、凹地部南壁地点から採取された3点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法(藤原, 1976)を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで2時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)。
- 3) 電気炉灰化法(550°C・6時間)による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散。
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤(オイキッパ)中に分散してプレパラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10⁻⁵g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる(杉山, 2000)。

4. 分析結果

プラント・オパール分析では、イネ、ムギ類(穎の表皮細胞)、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な6分類群について同定・定量を行っている。分析結果を第35表および第246図に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を写真図版に示す。

第3節 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡 におけるプラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO₂)が蓄積したものであり、植物が枯れたあとでも微化石(プラント・オパール)となって土壌中に半永久

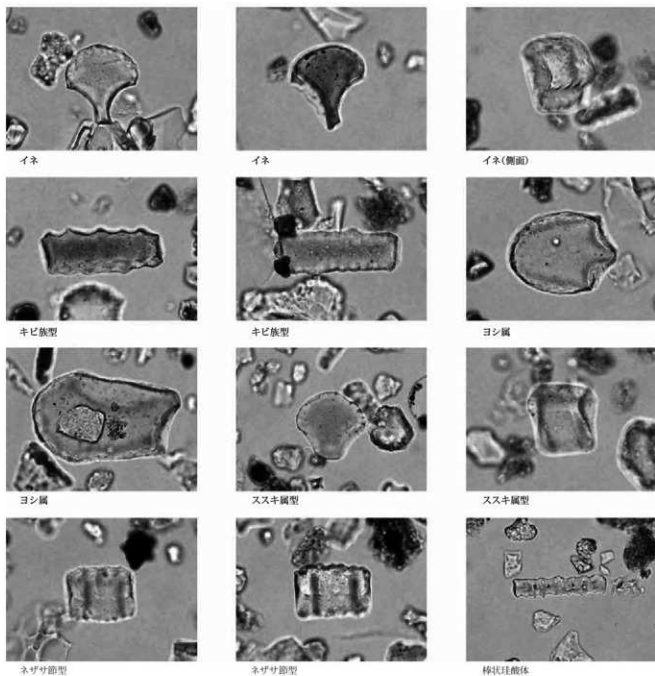
6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、テフラ層直下の4層では、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、5層でも比較的少量のイネが検出され、稲作が行われていた可能性が認められた。

文献

- 杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール)。考古学と植物学、同成社、p.189-213。
 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)―数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法―。考古学と自然科学、9、p.15-29。
 藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)―プラント・オパール分析による水田址の探査―。考古学と自然科学、17、p.73-85。

写真1.植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真

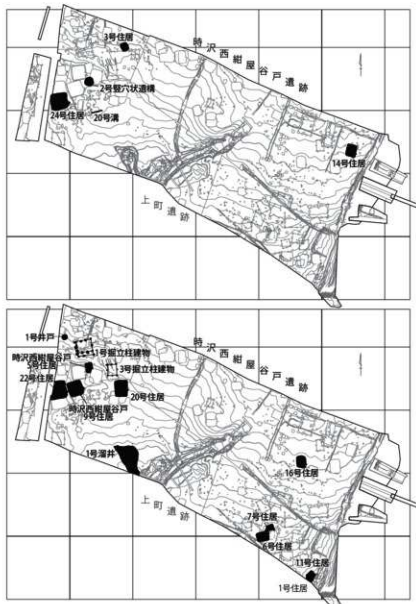


第8章 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡調査の成果

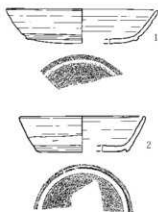
第1節 遺構分布の変遷について

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡では、南半部の上町遺跡で竪穴住居23棟、掘立柱建物11棟、北半部の時沢西紺屋谷戸遺跡で竪穴住居26棟、掘立柱建物10棟が検出され、赤城山南麓における古代集落の様相が明らかになった。出土遺物の整理作業を実施した結果、すべての遺構の時期が判明したわけではないが、7世紀末から10世紀にかけて、中世以降、江戸時代という三つの時期に遺構が掘り込まれていたことが明らかになった。ここでは調査の成果として、発掘区内の遺構分布の変遷と特徴的な出土遺物をまとめておきたい。

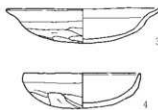
遺構の時期は出土遺物のうち、実測可能な完形に近い大型破片で、床面近くで出土した土器によって推定した。各世紀の中葉を想定して30年間隔くらいの時期差を想定できるが、遺構の重複状況と出土土器からみると同時期内での竪穴住居の廃棄・埋め立て・新築を想定せざるを得ない場合もあった。古代の遺構は7世紀末～8世紀初頭、8世紀前半、8世紀中葉、8世紀後半、9世紀前半、9世紀中葉、9世紀後半、10世紀中葉～後半の8期に分けられた。ここでは中世・近世を加えた10期の遺構分布の特徴をまとめて、調査の成果とする。第36表(P.301)には時期別の遺構の特徴をまとめた。



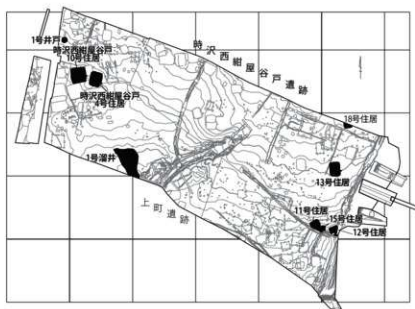
1. 7世紀末～8世紀初頭



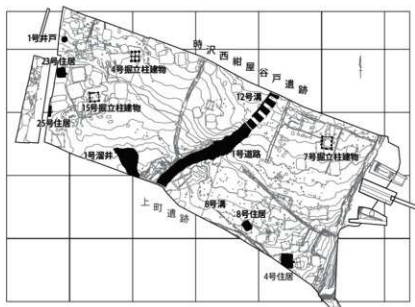
2. 8世紀前半



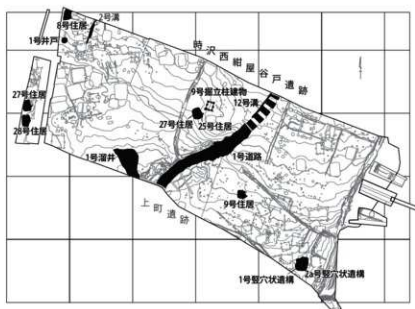
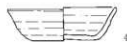
第247図 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の遺構分布の変遷(1)



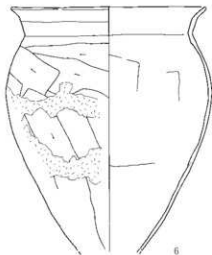
3. 8世紀中葉



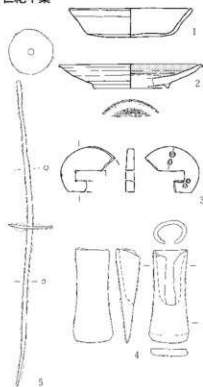
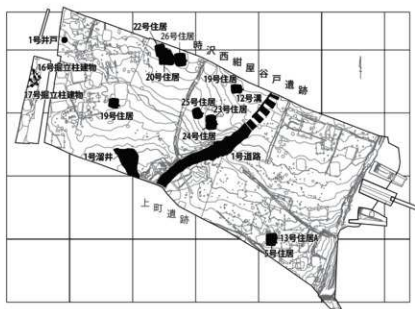
4. 8世紀後半



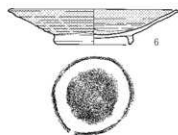
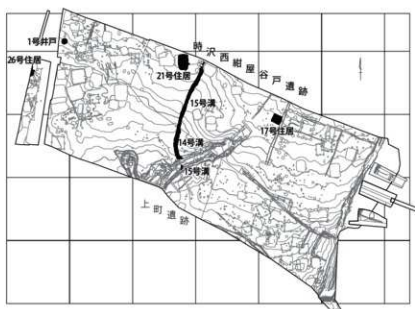
5. 9世紀前半



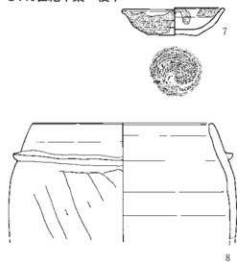
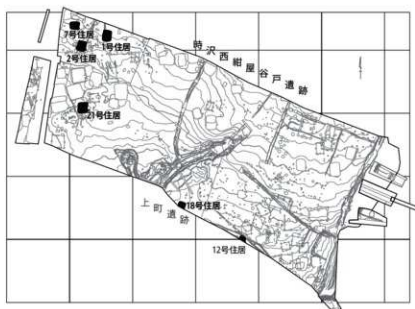
6. 9世紀中葉



7. 9世紀後半



8. 10世紀中葉～後半



第249図 上町・時沢西組屋谷戸遺跡の遺構分布の変遷(3)

1. 7世紀末～8世紀初頭の遺構分布(第247図)

中央の帯状低地を隔てて西側の微高地には、時沢3号住居、上町24号住居、上町2号竪穴状遺構があった。東側には時沢14号住居、上町11号住居があった。全体として遺構は散在する。この時期の竪穴住居は西側に隣接する王久保遺跡でも検出されており、さらに西へ広がるのが分かっている。24号住居は大型で主柱穴が明確に検出された。3号住居は小型で24号住居とは対照的である。小型の住居にも竪は設置されていたことから、階層差のある人々の竪穴住居である可能性がある。上町24号住居と時沢14号住居の床下には大型で深い土坑が掘られており、この時期に床下土坑の掘削が始まっている。上町2号竪穴状遺構は円形の大形土坑で、特殊な機能をもつと推定されるが調査では明確にできなかった。

遺物は上町24号住居から底部外面が膨らむ須恵器杯(第247図1)が出土しており、特徴的である。また、この時期を特徴づける削り出し高台の須恵器杯(2)が1号溜井埋没土中で出土しているが、溜井の本格的な使用は次の時期からと推定される。

2. 8世紀前半の遺構分布(第247図)

8世紀前半になると、遺構の分布はやや多くなり、西側微高地に竪穴住居4棟、掘立柱建物2棟、井戸1基、東側微高地に竪穴住居5棟が検出された。西側微高地には大型住居が偏在し、東側には小型住居が分布する傾向がある。西側微高地の竪穴住居は近接し、一部が重複もしていることから、2時期の建て替えが行われたことが分かる。上町22号住居、上町20号住居には主柱穴も検出された。上町20号住居のみ長方形であることが異質である。これらの大型の住居の床下には深い土坑が掘り込まれ、粘土採掘がおこなわれている。上町22号住居からは鉄製破片3本、砥沢石製の砥石が、小型の時沢5号住居からも砥沢製の砥石が出土した。また、掘立柱建物の時期を確定することは難しいが、時沢1号・3号掘立柱建物の柱穴からは、当該期の土器が出土しており、主軸方向も一致することから、この時期から掘立柱建物が建てられた可能性を指摘しておきたい。また、西側微高地には井戸が掘られた。1号井戸の出土遺物は8世紀初頭から中葉、9世紀代の土器が混在しており、9世紀後半までの西微高地集落の時期全体に機能していた可能性が高い。

また、この時期から1号溜井が機能し始めている可能性がある。1号溜井では土器が大量に埋没土中で出土したが、期的には幅があり、第110図に示したように7世紀前半から9世紀後半までの遺物が混在していた。7世紀前半から中葉の土器は少数で、溜井水路が合流する帯状凹地部分に集中しており、湧水坑付近には出土していなかったことから、凹地にもともと埋まっていた土器と推定される。出土量が最も多いのは8世紀中葉から9世紀後半にかけての土器で、新しい時期の破片ほど北寄りに出土した。湧水坑が北寄りに整備されていた可能性がある。この溜井の直接の受益地は、調査で明らかにすることはできなかった。周辺の今後の調査に期待したい。図示した土師器杯(3・4)は新旧形態が混在する当該時期の特徴を示す資料である。

3. 8世紀中葉の遺構分布(第248図)

8世紀中葉の時期の遺構は前半と同様な分布を示し、西側微高地と東側微高地に分かれた分布は変わらない。西側微高地には時沢4号住居、10号住居が建てられ、これらも近接することから同時にあったとは考えられないことから、2時期にわたっていることがわかる。この時期にも深い床下土坑が掘られている。時沢1号井戸も引き続き使われていた。また、時沢4号住居からは鉄製と鉄製刀子、砥沢石製の砥石が、時沢10号住居からは鉄製刀子が出土した。東側微高地には中型の住居が散在する。時沢13号住居は長方形でやや小型であるが、4本主柱穴が検出された。発掘区内では主柱穴が確認できたのはこの時期までである。掘立柱建物の時期は不明である。東微高地の南東部にも住居の軸と共通する軸をもつ建物は複数あるが、その時期の特定は難しいことから図示しなかった。

この時期に1号溜井は盛んに使われていたと推定される。1号溜井からは多くの土器が出土したが、この時期の典型と言える土師器杯(第248図1)や須恵器杯(2)が多量にあり、須恵器(第107図58)等の大型器種の破片も多く出土した。

4. 8世紀後半の遺構分布(第248図)

8世紀後半から、発掘区内では、遺構の内容にやや変化がみられた。大型住居がなくなり明確な主柱穴をもつ

第36表 時期別の遺構の特徴と出土遺物

●：深い床下土坑 (数字は個数)

△：浅い掘り方

※：遺物のため掘り方調査無し

時期	遺跡	遺構名	主柱穴	床下土坑	出土遺物				溝	時期不明の遺構
					金属製品	鉄滓	石製品	紡輪		
7世紀末	上野	24 住居	4	● 13					上野 20溝	
7世紀末～8世紀初頭	時沢	3 住居		△						
7世紀末～8世紀初頭	時沢	14 住居		● 6						
7世紀末～8世紀初頭	時沢	2 竪穴								
8世紀前半より古い	上野	11 住居		△						
8世紀前半	上野	1 住居		△					上野 18溝	
8世紀前半	上野	6 住居		△						
8世紀前半	上野	7 住居		△						
8世紀前半	上野	20 住居	4	● 1						
8世紀前半	上野	22 住居	4	● 9	鉄器③					
8世紀前半	上野	3 竪立柱建物						磁石		
8世紀前半	時沢	16 住居		● 3						
8世紀前半	時沢	5 住居		※						
8世紀前半	時沢	9 住居	4	● 11				磁石		
8世紀前半	時沢	1 竪立柱建物								
8世紀前半～中葉	時沢	13 住居	4	● 4	刀子					
8世紀中葉	時沢	4 住居		● 5	鉄器・刀子			磁石②	上野 5溝	
8世紀中葉	時沢	10 住居	4	● 9	刀子				上野 8溝	
8世紀中葉	時沢	18 住居		● 2						
8世紀中葉～後葉	時沢	15 住居		△						
8世紀代?	時沢	11 住居		△						上野
8世紀代?	時沢	12 住居		△						10号住居
8世紀後半	上野	15 竪立柱建物								16号住居
8世紀後半	上野	4 住居		● 2						上野
8世紀後半	上野	8 住居		● 1						1号竪立柱建物
8世紀後半	上野	23 住居		△						5号竪立柱建物
8世紀後半	上野	25 住居		△						溝柱穴(上野)
8世紀後半	時沢	4 竪立柱建物	廻柱							14号竪立柱建物
8世紀末～9世紀初頭	時沢	7 竪立柱建物								時沢
9世紀前半	時沢	9 竪立柱建物		△						時沢 1溝
9世紀前半	上野	9 住居		△	刀子			石製紡輪		3号竪立柱建物
9世紀前半	上野	27 住居		△						5号竪立柱建物
9世紀前半	上野	28 住居		● 5						6号竪立柱建物
9世紀前半	上野	1 竪穴			刀子					6号竪立柱建物
9世紀前半	上野	2 竪穴			鎌・刀子					(大型3周×4周)
9世紀前半	時沢	8 住居		● 2						10号竪立柱建物
9世紀中葉	時沢	23 住居		△	刀子			磁石	石製紡輪	11号竪立柱建物
9世紀中葉	時沢	27 住居								
9世紀中葉	上野	5 住居		※	鉄器・紡輪等・刀子	三口		磁石	土製未成品	
9世紀中葉	上野	13 住居		● 2				台石		上野
9世紀中葉	上野	19 住居		● 6	鉄器・刀子			丸瓶		2号溝
9世紀中葉	上野	17 竪立柱建物								3号溝
9世紀中葉	時沢	19 住居		● 1	刀子			磁石		4号溝
9世紀中葉	時沢	20 住居		● 16	釘・紡輪等・弁・刀子			磁石		11号溝
9世紀中葉	時沢	32 住居		● 4	釘			磁石		19号溝
9世紀中葉	時沢	24 住居		● 3	不明			磁石		21号溝
9世紀中葉	時沢	25 住居		※						22号溝
9世紀中葉	時沢	26 住居		● 8	鎌 棒	粉形滓		磁石	石製紡輪未成品②	
9世紀後半以前	上野	16 竪立柱建物								
9世紀中葉～後葉	時沢	21 住居		● 3	釘					上野 14号・15号溝
9世紀後半	上野	26 住居		△	鉄器					
9世紀後半	時沢	17 住居		● 4						
8世紀前半～9世紀後半	上野	1 堀井						磁石	土製紡輪	12・13・16・17号溝
8世紀前半～9世紀後半	時沢	1 井戸								
8世紀後半～9世紀	上野	1 道路								
9世紀後半 1号道路より新しい	上野	14溝								
9世紀後半 1号道路より新しい	上野	15溝								
9世紀	上野	6溝								
10世紀中葉	時沢	1 住居			釘					
10世紀中葉	上野	18 住居		△						
10世紀中葉	時沢	7 住居		△						
10世紀中葉～後半	時沢	2 住居		● 3						
10世紀後半	上野	12 住居		● 2						
10世紀	上野	21 住居		● 3	釘					
中世以降	上野	6 竪立柱建物								
中世以降	上野	13 竪立柱建物								
中世以降	上野	7溝								
中世以降	時沢	5溝								
中世以降	時沢	10溝								
18世紀以降	時沢	6溝								
18世紀以降	時沢	7溝								
江戸時代以降	時沢	11溝						磁石		
江戸時代以降	時沢	1 竪穴								

竪穴住居はない。上町4号・8号住居では深い床下土坑は継続して掘られている。発掘区内では住居の数が減少し、遺構密度が低下した。時沢1号井戸は使われていた。

一方で、これらの住居の長軸と軸が一致し、ほぼ南北方向に向く掘立柱建物がある。東微高地には四隅の柱穴がし字形である大型の時沢5号掘立柱建物と7号掘立柱建物がほぼ同方向である。この時沢5号掘立柱建物の南東には上町2号ピット列があり、建物の南西側を囲っている位置になる。西微高地には総柱の4号掘立柱建物と小規模な15号掘立柱建物がある。時沢5号掘立柱建物を除き、柱穴から当該期の土器の破片が出土しており、8世紀後半における本遺跡の土地利用に何らかの動きがあったことを推定させる。

さらに、この時期には、中央の凹地に沿って小規模ではあるが両側側溝のある道路が使用され始めている。道路面は不明確な部分もあり、明確な時期を確定できないが、側溝や周辺から出土した土器の時期からは、8世紀後半から9世紀に使用されていたと推定することができる。この時期の住居からは金属製品は出土していないが、1号溜井の出土土器のなかに、黒色土器椀(第248図3)が2個体あり、希少な器種で県内でもやや古い資料として位置づけられる。

5. 9世紀前半の遺構分布(第248図)

9世紀前半代になると、遺構の規模や密度は変わらないが、本発掘区内では中央低地部に遺構が造られるようになる。小型の時沢27号住居が谷頭部に造られ、その北側の時沢9号掘立柱建物の柱穴からもこの時期の土器が出土している。

1号道路も継続して機能していると推定される。東微高地の上町9号住居とともに道路脇に建つ小家屋の景観が想定される。西微高地の遺構は発掘区西側に偏る分布であり、時沢1号井戸も使われていた。この偏在傾向は西に隣接する王久保遺跡の遺構分布との関連性が想定される。1号溜井もこの時期の土器が出土していることから、同時に機能していたと推定される。

当該時期の土器は典型的なコ字状口縁の器壁の薄い甕(第248図6)を使用しており、須恵器杯(4)と土師器杯(5)は平底の典型的な形態になっている。上町27号住居や1号・2号竪穴状遺構では刀子や鎌(第50・54・57図)

が出土した。また、第4節で評述するように、砥石石製の砥石と紡輪が本期以降出土している。

6. 9世紀中葉の遺構分布(第249図)

9世紀中葉の遺構はこれまでとやや分布が異なっていた。西微微高地には遺構がほとんどなくなるが、時沢1号井戸は使われていたと推定される。

前代の中央帯状凹地近くの地点に加えて、その北西側の、これまで遺構が無かった地点に竪穴住居が3棟つくられた。前の時期よりやや大型の住居である。時沢20号住居と22号住居は同じ9世紀中葉の時期内で重複していることから、20～30年ごとの建て替えが推定される。重複の関係から20号住居が古いとわかった。特に時沢20号住居は、主柱穴は見つからなかったが大型で、遺物が多量に出土した。釘・紡錘車紡輪・斧(第249図4)・刀子等の鉄製品が出土し、砥石石製の砥石と紡輪が出土した。20号住居の東側で重複する26号住居では鎌や棒状鉄製品に加えて腕形鍛冶滓が1点出土している。いずれの住居も鍛冶は検出されていないが当該住居も含めて周辺での鉄製品生産が想定される。

東微高地南部には上町5号住居が建てられた。本住居では明確な遺構としてはとらえられていないが、鉄鎌・紡錘車(第249図5)・刀子・羽目破片・鍛冶作業に使用された可能性がある台石が1点出土した。調査では鍛造剥片は確認されていないが、本資料からも周辺での鉄製品生産が想定できる。

掘立柱建物の時期は確定できない。8世紀で既述した建物の主軸方位等も本時期に一致するものがあり、時期が判明した竪穴住居とどの建物がともに建っていたのかを明らかにすることはできなかった。大型の時沢8号掘立柱建物は方位からすれば9世紀代の建物と考えることもできる。また、発掘区西端の上町16号掘立柱建物は9世紀後半の上町26号住居より古いことがわかっている。9世紀中葉以前の建物である。上町17号掘立柱建物の柱穴からは9世紀中葉の土器破片が出土している。

以上のように9世紀中葉の竪穴住居では鉄製品生産や製糸に関連する遺物が出土しており、この時期の集落の手工業生産の可能性を示している。また、この時期には1号溜井・1号道路も引き続き機能している。さらに上町13号住居からは蛇紋岩製の丸柄1点(第249図3)が、

時沢22号住居からは黒笹14号窯式と推定される灰軸陶器皿(第249図2)が出土している。

7. 9世紀後半の遺構分布(第249図)

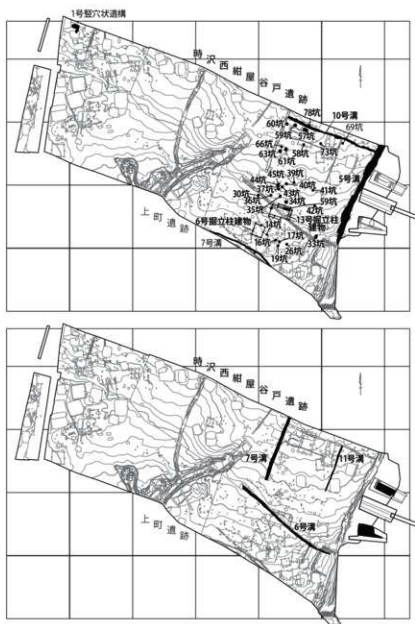
9世紀後半になると発掘区内の遺構は減少する。確実に時期のわかる竪穴住居は西微高地の時沢21号住居と1号井戸、東微高地の時沢17号住居である。

時沢21号住居からは釘や椀形滓・鉄滓1点ずつが出土している。1号溜井・1号道路も引き続き機能しているが、この時期に上町・時沢14号溝が掘られている。この溝には流水の痕跡があることから、北方向からの用水補給が下流の低地に図られていることがわかる。この溝は1号道路より新しいので、この頃には1号道路の機能は

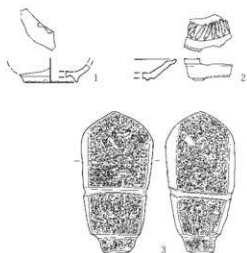
失われている可能性が高い。1号溜井からは光ヶ丘1号窯式の灰軸陶器皿(第249図6)が出土しており、溜井の使用が継続されていた時期を示す資料となっている。

8. 10世紀中葉～後半の遺構分布(第249図)

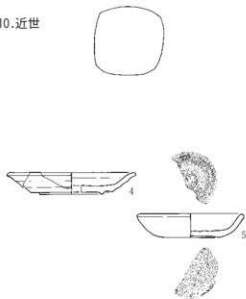
発掘区内では10世紀前半の遺構は検出されなかった。再び遺構が分布するのは10世紀中葉の上町18号住居、時沢1号・7号住居、後半の上町12号・20号住居、時沢2号住居の6棟である。この10世紀前半の欠落は発掘区域内の現象であって付近に継続して竪穴住居が建てられたものと推定される。10世紀中葉～後半の6棟のうち、4棟は西微高地に、1棟は帯状低地内に、1棟は東微高地南部にあった。この時期にはすでに凹地部の溜井や道路



9. 中世



10. 近世



第250図 上町・時沢西附屋谷戸遺跡の遺構分布の変遷(4)

の機能は停止していると推定される。低地内では1108年に降下した浅間Bテフラがほぼ水平に堆積しており、その間に9世紀後半の遺構は徐々に埋まり始め、土砂に覆われていったのであろう。また、西側微高地にあった1号井戸からは10世紀の土器は出土していないことから、この時期には使われなくなっていたと推定される。

10世紀中葉～後半の竪穴住居はすべて小型で、散在していた。上町12号住居からは、この時期を特徴づける小型の須恵器杯(第249図7)や須恵器羽釜(8)が出土している。

9. 中世の遺構分布(第250図)

中世の遺構と明確に確認できた遺構は東微高地に限られる。上町13号掘立柱建物と上町6号掘立柱建物の柱穴埋没土には浅間B軽石が多量に含まれており、12世紀以降の中世の建物と推定される。また、時沢10号溝、時沢5号溝の埋没土にも浅間B軽石や軽石層塊が多く含まれており、建物の軸方位とも方向が一致する両溝は本発掘区内の中世の土地区画を示した遺構配置をみせている。一見すると古代の掘立柱建物との関連が想定されそうな東微高地の溝群であったが、後述のように近世の溝も含まれており、これらの方形区画は中世以降のものである。

また7号溝と10号溝の間の区域に、小型円形土坑と分類した土坑が分布するが、そのうち第250図に示した25基が浅間B軽石を多く含む砂質黒色土で埋まっていたことから、これらは中世の土坑と推定される。建物北側の空間に数地点に集中して掘られた土坑であるが、調査ではそれらの性格や機能を具体的に明らかにすることはできなかった。

10. 近世の遺構分布(第250図)

発掘区では江戸時代の遺物を出土し、形態や重複関係からも江戸時代の遺構と考えることができる遺構が検出された。これらの遺構は中世の遺構と同様に東微高地に偏在していた。時沢7号・11号溝は中世の方形地割を意識した何らかの区画溝であろう。上町6号溝は旧富士見村と前橋市の境界にあった溝で、その地割りは中世には遡らないことが判明した。

第2節 遺構について

1. 1号溜井について

上町・時沢西組屋谷戸遺跡では、溜井1基と古代道路1基が検出された。1号溜井は8世紀前半から9世紀後半、1号道路は8世紀後半から9世紀後半の土器が出土し、同様の時期にあった古代集落のなかで、それぞれの機能を果たしていた。

溜井は農業用水を得るための井戸である。低地に面した台地・微高地縁辺に土坑状に掘られ、水田面に導水する溝が附設されている。乏水性の低地に農業用水を補給するために掘られた。九州では弥生時代の溜井があり(文献59・60)、古くからおこなわれていた農耕技術であるが、群馬県では6世紀初頭の榛名二ツ岳火山灰(Hr-F A)に覆われた熊野堂遺跡第1地区の例が今のところ最も古い例である。(文献58)

調査では1号溜井の湧水部と導水部の一部が検出されたが、その受益地について明らかにすることはできなかった。1号溜井は上町遺跡の中央南端部にあり、水路部と上町・時沢西組屋谷戸遺跡中央にある帯状低地との合流部近くまでしか確認できなかったことから、南側のどこへ導水されていくのかは判然としない。(第8図)発掘区の南側は平坦な畑が続いており、その台地面の開発に関係する可能性もある。また、溜井水路が中央の帯状低地に合流し、下流の谷内の水田用水補給に使われた可能性もある。しかし、下流谷内の受益地が狭いことから、さらに南側の広瀬川低地帯内の水田用水補給の可能性も考えられる。

上町・時沢西組屋谷戸遺跡の東側にある天王・東組屋谷戸遺跡にも同時期の溜井が2基検出されており、本地域の溜井灌漑は広域的になされていた可能性が高い。(第8図)現在、天王・東組屋谷戸遺跡の調査報告書は編集途中であり、その他の遺跡内容も含めて検討し、白川扇状地地域の古代開発について総合的に考えていく必要がある。

2. 1号道路について

1号道路は上町・時沢西組屋谷戸遺跡の中央帯状低地に沿って検出された両側溝をもつ道路である。硬化した道路面の幅は約3.6mで、両側に上端幅2mの側溝が設

けられていた。施行主体や目的は不明であるが、両側溝を備え、路面を丁寧に構築する状況から、道路構築あるいは道路幅の維持に対する強い意志を読み取ることができる。また、帯状凹地に沿って道路は構築されており、「蛇行」するかのような状況であるが、傾斜勾配に対してきわめて自然に昇降できるルートを探っている。道路が直線的でないことは、地形等の要因と考えられる。

側溝は1度の掘り替えが認められた。路面は途切れるところもあり、順次、造成・修復が繰り返されたと推定される。路面や側溝の出土遺物から、存続時期は8世紀後半から9世紀後半である。10世紀の土器はごく少ない。周囲の集落は10世紀まで存続しているが、道路が機能していたかは不明である。1108年降下の浅間Bテフラが路面上25cm上位に水平に一次堆積しており、道路廃絶後帯状低地は埋積が進んだものと推定される。

路面は凹地上に造成されているが、路面の下位には砂と黄褐色粘質土塊、黒褐色土塊が混ざった土が積み重ねられて形成されていた。最下にはローム層上面で凹凸の著しい溝状の凹地が検出されたが、これは道路が建設された凹地の自然地形を反映したものと推定される。しかしそこに堆積していた土塊が混在した土は凹地に自然に堆積したものとは考えられない。

道路を造成するにあたり、路盤強化のために下位の土を入れ替えた可能性も否定できないが、一部には上町遺跡部分南壁土層断面R-R'に記録した79号土坑のように、下部が抉り掘られている大型の土坑状になっている地点もあった。(第233図) 後述するように、本遺跡では多くの竪穴住居の床下土坑が大規模な土坑状になっており、粘土採掘がおこなわれていたと推定できる状況がある。このことからすれば、道路構築前にこの凹地内でも粘土採掘がおこなわれていた可能性を否定できない。

また、道路面には3カ所の新しい掘り込みがあり、路面が壊されて掘り込まれていた。これの目的も明確ではないが、道路廃絶後の粘土採掘の可能性も考えられよう。盛んな粘土採掘の背景については、次節で述べる。

3. 竪穴住居の床下土坑について

本遺跡の竪穴住居は深い床下土坑をもつことが特徴である。7世紀末から10世紀にかけての各時期に、深い床下土坑を掘り込む住居がある。各時期すべての竪穴住居

で掘られているわけではないが、なかでも大型で4本柱穴をもつような住居で掘られている傾向がある。

竪穴住居1棟で掘られる床下土坑の数は第36表(P.301)で示した通りで、平均4.9基である。なかには上町24号住居の13基、時沢9号住居の11基、時沢20号住居の16基などのようにばらばらと数多く掘られている例もあった。土坑内は黒褐色土・黄褐色土・褐色土の大小土塊が混じった土で充填されており、掘り込んで周囲に溜まった土で埋め戻したと推定される。

土坑の底面は平坦な場合や、凹凸が著しい場合もあったが、底面脇を抉り込んで掘っている土坑も多かった。底面は基本土層のⅧ層の上半の黄褐色粘質土まで掘り込まれており、さらに深い床下土坑の底面は下半の灰白色粘土まで達していた。土坑内にはⅣ～Ⅵ層が混じった層が重なるように人為的に埋められていたことから、この床下土坑を含む住居掘り方は、Ⅷ層の粘土を採掘し、竪穴住居の床面を造成し、貼土を施した痕跡と推定される。上記で示した床下土坑数の多い竪穴住居ではより多くの粘土が採掘されたものと考えられる。

この粘土の用途は、まず、竈の構築であったと考えられる。本遺跡の竈には竈掘り方に厚さ5～10cmの粘土を貼り付けて、燃焼部天井まで構築するものが多く、相当量の粘土が必要であったと推定される。また、時沢13号住居のように床面に粘土塊が置かれていた住居もあることから、別の用途に粘土を使用していた可能性が高い。第36表に示したように床下土坑が顕著に掘られている9世紀中葉の住居には、鉄製品や鉄生産関連遺物、砥石、紡輪の出土数が多くなっており、集落内で手工業的な行動が盛んに行われた可能性がある。そのなかで鍛冶が構築や土器生産等のための粘土の需要が高まったのではなかろうか。

本遺跡には、単独の土坑の中にも、上町52号・38号・40号土坑、1号道路の下位で見つかった79号土坑、時沢85号・86号・88号土坑・3号竪穴遺構などのようにⅧ層まで達する深さで、土塊の混じった土で人為的に埋められたと判断できる遺構があった。竪穴住居の掘り方だけでなく、粘土採掘がおこなわれていた可能性がある。本遺跡では粘土調達が必要な生産活動の一つであったのだろう。

第3節 出土遺物について

1. 金属酸化物付着の須恵器杯について

上町・時沢西組屋谷戸遺跡では、時沢7号住居から金属が酸化溶解した物質が付着した須恵器杯の破片11点が出土した。出土位置は住居内および竈燃焼部の埋没土中である。7号住居は南東隅に竈をもつ隅丸方形の竃穴住居で、住居の時期は床面からやや浮いて出土した完形に近い杯および羽釜破片(第123図)の時期から10世紀と推定される。金属酸化物が付着した須恵器杯も10世紀中葉ごろの特徴を示しており、出土土器の比較検討では、これらの須恵器杯が7号住居に伴うと推定される。

出土した11点の内、1～4の4点は第123図に実測図を、写真図版(PL.110)に写真を掲載した。5～11の7点は写真図版(PL.110・111)に写真のみ掲載した。

これらの土器の金属酸化物の付着状況は、下記の通りである。なお現状では緑青のある破片は見られなかった。

- 1：口縁部破片。黒い溶融物が付着。
- 2：口縁部破片。内面に付着しており一部は錆化。外面まで発砲している。
- 3：杯部下半破片。底部内面に飛沫状に付着している。
- 4：底部破片。内面全面に付着。一部赤変。一部錆化。
- 5：口縁部破片。付着物はないが同一個体とみられる。
- 6・7：底部破片・口縁部破片。内面に厚くガラス質部分が付着。10も接合する可能性があるが、発砲して変形しているために確実に接合できない。
- 8：口縁部破片。発砲し肥厚している。
- 9：体部破片。内面に飛沫状に付着している。3と同一個体と推定される。
- 10：底部破片 全体に付着している。
- 11：付着物はないが、器形からいずれかの破片と同一個体と推定される。

これらの資料については、今回付着物の成分分析は行っていないので確定はできないが、肉眼観察では、銅の可能性が高いと推定される。銅であれば、この須恵器杯は転用の取瓶である可能性が高いと考えられよう。時沢7号住居では銅器生産に関する遺構が検出されていないが、遺跡周辺で銅器鋳造が行われていた可能性を考慮することができる。

第37表は当事業団でこれまでに発掘調査で出土した埴

埴・取瓶の資料をまとめたものである。埴埴は供伴している土器から、転用取瓶は遺物自体から時期を想定して、時期順に並べた。今回は全県出土資料を悉皆的に集積できなかったが、14遺跡96点の資料が出土していることが判明した。

この中で最も古い資料は高崎市三ツ寺1遺跡で出土した埴埴破片3点で、6世紀初頭の榛名山二ツ岳火山灰に覆われた豪族居館の西側貼り出し部から出土した。古墳時代中期の銅製品生産を示す資料として重要である。この資料については東京文化財研究所の平尾良光先生の分析によって「銅」であることが分析され、発掘調査報告書で報告されている。

7世紀の資料は埴埴破片が3点、竃穴住居や竃穴状遺構から出土している。溶融し付着した金属は分析された資料はなく不明である。上野国分僧寺・尼寺中間地域I区25号住居例や下東西清水上遺跡2区170号住居例は精選された粘土でつくられた器壁の厚い大型の埴埴である。東田之口遺跡1号竃穴状遺構例は、小型の埴埴破片で内外面が赤化している。

8世紀の資料はやや増えているが、最も数がまとまって出土しているのは前橋市鳥羽遺跡の工房跡から出土した埴埴と、転用して鋳造作業に使用した土師器・須恵器破片である。鳥羽遺跡は国庁を造営するための工房跡が検出された特殊な遺跡である。一方、工房以外の竃穴住居でも埴埴や転用取瓶は出土しており、鳥羽遺跡以外でも融通寺遺跡5区19号住居などで出土例がある。鳥羽遺跡では一部の資料の分析が行われ、銅であることが判明している。

9世紀の資料は鳥羽遺跡の竃穴住居から出土する資料が多い。継続して遺跡周辺で鋳造が行われていたのであろう。また、前橋市前田遺跡A区31号住居でも埴埴が出土している。加工した金属は不明である。

10世紀の資料は鳥羽遺跡の資料に加えて、高崎市塚田中原遺跡247号土坑や、有馬遺跡50号住居例がある。いずれも加工した金属は不明である。上町・時沢西組屋谷戸遺跡で出土した転用取瓶破片もこの時期の資料として位置づけられる。

中世の資料も出土しており、二之宮宮西遺跡4号溝、高崎城2区高伏遺構下遺構群、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡G区117号住居例がある。なかでも高崎城と上

第37表 当事業団調査の増埜・取瓶資料一覧表

遺跡名	種別・器種	時期	出土遺構	付着金属	備考	調査報告書掲載図版番号等			
						通番	掲載頁	図版番号	P.L.番号
三ツ寺I	土製品-埴埴	6世紀初頭	西边第1張出部	銅	羽口も出土	67	83	59 754~756	107 7~9
上野国分僧寺・尼寺中間地域	土製品-埴埴	7世紀中葉	I区25号住居	不明		127	49	61 4	138 4
下東西清水上	土製品-埴埴	7世紀後半	2区170号住居	不明		239	209	216 7	145 7
東田之口	土製品-埴埴	7世紀	1号竪穴状遺構	不明		523	238	161 19	0 0
鳥羽 I・J・K区	土製品-埴埴	8世紀~	I区2号工房跡	銅		70	442	694 8・9	261 8・9
鳥羽 I・J・K区	土製品-埴埴	8世紀~	I区3号工房跡	銅		70	444	696 19・20	262 19・20
鳥羽 I・J・K区	土器-杯・鉢	8世紀~	I区3号工房跡	銅	転用取瓶か	70	444	696 18・21~24	262 18・21~24
鳥羽 I・J・K区	土製品-埴埴	8世紀後半	I区4号工房跡	銅		70	448	700 3	263 3
鳥羽 I・J・K区	土製品-埴埴	8世紀~	I区A地点	銅		70	467	712 8	268 8
鳥羽 I・J・K区	土器-杯・不明	8世紀~	I区A地点	銅	転用取瓶か	70	467	712 9~13	268 9~13
鳥羽 I・J・K区	土製品-埴埴	8世紀~	I区B地点	銅		70	474	719 88~94	273 88~94
鳥羽 I・J・K区	土器-不明	8世紀~	I区B地点	銅	転用取瓶か	70	474	719 95~96	273 95~96
鳥羽 I・J・K区	土器-壺・瓶	8世紀~	I区B地点	銅	転用取瓶か	70	474	719 97~102	273 97~102
鳥羽 I・J・K区	土器-杯	8世紀~	I区B地点	銅	転用取瓶か	70	474	719 103・104	273 103・104
鳥羽 I・J・K区	土器-壺	8世紀~	I区B地点	銅	転用取瓶か	70	474	719 105・106・108・110・111	273 105・106・108・110・111
鳥羽 I・J・K区	土器-杯	8世紀~	I区B地点	銅	転用取瓶か	70	474	719 107	273 107
鳥羽 I・J・K区	土器-不明	8世紀~	I区B地点	銅	転用取瓶か	70	474	719 109	273 109
鳥羽 I・J・K区	土製品-埴埴	8世紀~	I区その他	銅		70	505	740 290~292	286 290~292
鳥羽 I・J・K区	土器-瓶	8世紀~	I区その他	銅	転用取瓶か	70	505	740 293・303	286 293・303
鳥羽 I・J・K区	土器-壺	8世紀~	I区その他	銅	転用取瓶か	70	505	740 294・295・305	286 294・295・305
鳥羽 I・J・K区	土器-瓶	8世紀~	I区その他	銅	転用取瓶か	70	505	740 296・304	286 296・304
鳥羽 I・J・K区	土器-杯	8世紀~	I区その他	銅	転用取瓶か	70	505	740 297	286 297
鳥羽 I・J・K区	土器-不明	8世紀~	I区その他	銅	転用取瓶か	70	505	740 298~301	286 298~301
鳥羽 I・J・K区	土器-壺	8世紀~	I区その他	銅	転用取瓶か	70	505	740 302・306	286 302・306
鳥羽 I・J・K区	須恵器-杯	8世紀前半	I区2 5 X	銅	転用取瓶か	70	541	758 14~16	292 14~16
鳥羽 G・H・I区	土製品-埴埴	8世紀初頭	I区105号住居	銅		55	742	821 4	347 4
融通寺	土製品-埴埴	8世紀初頭	5区19号住居	不明		118	577	609 1806	218 1806
鳥羽 I・J・K区	土製品-埴埴	8世紀前半	J区59号住居	銅		70	76	124 4	43 4
鳥羽 G・H・I区	土製品-埴埴	8世紀中葉	I区80号住居	不明		55	663	743 4	311 4
鳥羽 L・M・N・O区	須恵器-杯	8世紀	I区	銅	転用取瓶か	101	489	605 56	192 56
鳥羽 G・H・I区	土製品-埴埴	9世紀中葉	I区45号住居	不明		55	528	623 30	255 30
鳥羽 A・B・C・D・E区	土製品-埴埴	9世紀中葉	D区60号住居	不明		128	65	83 6	45 6
鳥羽 I・J・K区	土製品-埴埴	9世紀後半	K区31号住居	銅		70	200	327 23	0 23
前田	土製品-埴埴	9世紀後半	A区31号住居	銅		335	53	59 16	96 16
鳥羽 L・M・N・O区	須恵器-杯	9世紀	L区163号住居	銅	転用取瓶か	101	243	329 6・7	108 6・7
鳥羽 A・B・C・D・E区	土製品-埴埴	9世紀	E区11号住居	銅		128	110	156 4	56 4
鳥羽 A・B・C・D・E区	須恵器-不明	10世紀前半	D区83号住居	不明	転用取瓶か	128	82	117 6	49 6
塚田中塚	土製品-埴埴	10世紀前半	247号土坑	銅	未使用	323	118	402 621	142 621
鳥羽 G・H・I区	土製品-埴埴	10世紀後半	I区76号住居	銅		55	651	729 4	305 4
鳥羽 L・M・N・O区	須恵器-杯	10世紀	M区9号住居	銅	転用取瓶か	101	15	23 5	36 5
有馬	土製品-埴埴	10世紀末	50号住居	不明		94	68	133 16	87 16
二之宮宮下西	かわらけ	中世か	4号溝	銅	転用取瓶か	189	236	194 225	120 0
高崎城XV	石製品-埴埴	中世 16世紀	2区畠状遺構下遺構群	銅		369	167	126 158	39 158
高崎城XV	在地土器-取瓶	中世 16世紀	2区畠状遺構下遺構群	銅	転用取瓶	369	167	126 159~169	39 159~169
上野国分僧寺・尼寺中間地域	石製品-埴埴	中世か(住居は10世紀前半)	G区117号住居	不明		71	237	309 2	126 2
前橋城	陶器-天目茶碗	近世	5次5号・6号集石	鉄・銅	転用取瓶	文献 63	101	50 4~6	巻頭 10
鳥羽 L・M・N・O区	須恵器-瓶	不明	J・I区1号溝	銅	転用取瓶か	101	480	597 23・24	186 23・24
後田	土製品-埴埴	不明	遺構	銅か		76	517	887 8	312 8
鳥羽 L・M・N・O区	土製品-埴埴	不明	J・I区1号溝	銅		101	480	597 22	186 22
鳥羽 L・M・N・O区	土製品-埴埴	不明	K区	銅		101	542	663 55	207 55
中里見中川	土製品-埴埴	不明	遺構外	不明		271	76	95 186	0 0
家前	土製品-埴埴	不明	1区I面遺構外	不明		503	529	477 156~159	175 156~159

野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡G区117号住居から出土した例は石製である。また高崎城出土の出堀・転用取鍋は分析が行われ、溶融・付着した金属は銅と判明している。

近世の資料としては前橋城5次調査区北側の鍛冶遺構と推定されている5号・6号集石で、天目茶碗3点が取鍋として転用された例がある。

以上のように、当事業団管理資料だけでも銅鋳生産に関わる資料が出土している。これまでは単体としての検討に終始していたが、今後は金属に関わる産業全体の歴史を意識しながら、資料整理をすべき段階にきていると思われる。また、本遺跡の報告では成分分析を実施しなかったが、肉眼観察での成分確定の可能性も視野に入れ、標準資料の作成を必要とあろう。なお、資料の時期については当事業団職員桜岡正信氏と大西雅広氏の助言を得た。

2. 砥沢石の利用について

上町・時沢西組屋谷戸遺跡では7世紀末から10世紀にかけての集落内で、石製品が出土している。そのうち、砥沢石製の砥石とそれを加工して製作したとみられる紡輪が10世紀を除く古代集落の竪穴住居から出土した。(P.301第36表)

砥沢石は群馬県甘楽郡南牧村で産出される流紋岩の一種で、古くから砥石として使われてきた石である。群馬県内では古墳時代から砥石に加工され使われてきた。本遺跡でも7世紀末から9世紀にかけての古代集落内で砥石、特に中型・小型の置き砥、あるいは吊り下げ用の小穴のあいた下げ砥として使用されたものが出土している。刀子などの刃物が道具として使用されたであろう古代集落内においては、砥石は生活必需品であった。出土品のなかには中央で折れたものも多く見受けられ、小さくなるまで使い続けていることも砥石の観察から見ることができる。

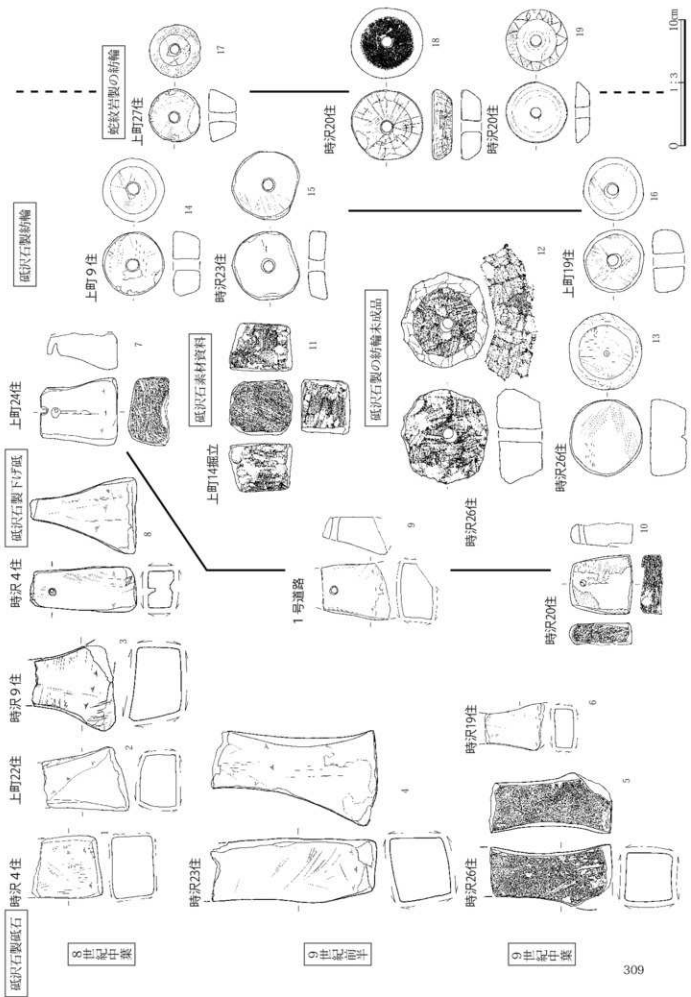
本遺跡で注目されるのは、この砥沢石製の紡輪が3点、砥沢石製の紡輪の未成品が1点、砥沢石製の砥石を再利用してつくられる途中の紡輪が1点、出土したことである。1990年代後半に精力的に紡輪(当時は紡錘車と呼称)の研究をされた中沢悟氏の集成によれば、年代のわかる石製紡輪575点のうち、流紋岩製のものは33点で全体の5%であった。やや古いデータではあるが、全体の5%にすぎない石材の紡輪が本遺跡では未成品も含めて5点

出土していることになる。この5点の時期はその出土した竪穴住居の時期から推定すると9世紀前半から中葉にかけてであり、砥沢石の紡輪への利用は今のところ、この時期に主としておこなわれたと推定される。

第251図で示したように砥沢石製の紡輪は上町9号住居(第251図14)、時沢23号住居(15)、上町19号住居(16)で出土している。直径4.5cmほどのやや小型のもので、14と16は高さがあり、15は扁平である。砥沢石製の紡輪の未成品は13で、全体が磨かれた後、軸孔を裏面から穿孔し始めた資料である。12も同様に砥沢石製の紡輪であるが、詳細な遺物観察の結果、砥沢石製の砥石を再利用してつくられる途中であることが判明した。この紡輪には軸孔はすでに穿たれていたが、外面はまだ粗く打ちかかれたままの製作途中であり、その側面の一部に砥石として使った際の砥き面が残されていた。

一方、11は砥沢石製のサイコロ状の加工品である。側面の4面はノミ状工具で平坦に粗く整形しており、12と類似している。表裏面には線状痕が残るが、砥石であったかどうかは判然としなかった。形状も紡輪とするには小型で厚みがある。何らかの石製品の素材となるものと思われるが、不明とせざるを得なかった。

本遺跡で出土した砥沢石製紡輪未成品は、遺跡内で使われていた同時期の砥沢石製の砥石と比べると、砥き面の状況は共通していた。第251図4の砥石あるいはやや大きめの一定の太さをもつ砥石破損品があれば、紡輪として再加工可能な大きさを確保できることから、12・13は使い終わった砥石を再加工して紡輪をつくる未成品、14～16はそのようにしてつくられた紡輪である可能性を考えることができる。中沢氏は、未成品が石材産地周辺で出土することが多いことから、石材産地での紡輪生産を考えている(文献62)が、砥沢石については砥石からの再加工の事例がみつかったことで、砥石消費地での製作もあったと考えられることになる。なお、本稿は、当事業団職員岩崎泰一氏との討論の成果である。



第251図 上町・時沢両組屋谷戸遺跡出土の砥沢石と紡輪

参 考 文 献

1. 守屋以智雄1968『赤城火山の地形及び地質』前橋宮林局
2. 新井房大1971『第一編自然の第二巻地・地質』『前橋市史第一巻』
3. 早田勉・能登健1990『第一章 群馬県と自然と風土』『群馬県史通史編1』群馬県史編さん委員会
4. 前橋市1971『前橋市史第1巻』
5. 富士見村教育委員会1992『小暮地区道跡群 広面道跡』
6. 富士見村教育委員会1992『東祖屋谷V道跡』
7. 富士見村教育委員会1993『富士見地区道跡群 赤城道跡・長泉寺道跡』
- 8a. 富士見村教育委員会1995『小暮地区道跡群 上百駄山道跡・寺間道跡・孫田道跡』
- 8b. 富士見村教育委員会1996『小暮地区道跡群 上百駄山道跡Ⅱ』
9. 富士見村教育委員会1997『平成8年度 村内道跡』
10. 富士見村教育委員会1998『原之郷郷沢道跡』
11. 富士見村教育委員会1998『小沢の場道跡』
12. 富士見村教育委員会1998『時沢中谷道跡』
13. 富士見村教育委員会1998『原之郷郷沢道跡』
14. 富士見村教育委員会1998『小暮北受地道跡』
15. 富士見村教育委員会1999『平成10年度 村内道跡』
16. 富士見村教育委員会2001『平成12年度 村内道跡』
17. 富士見村教育委員会2002『平成13年度 村内道跡』
18. 前橋市教育委員会1983『端気道跡群Ⅰ昭和57年度』
- 19a. 前橋市教育委員会1983『小神明道跡群Ⅰ』
- 19b. 前橋市教育委員会1984『小神明道跡群Ⅱ』
20. 前橋市教育委員会1984『芳賀東部団地道跡Ⅰ』
21. 前橋市教育委員会1984『端気道跡群Ⅱ』
22. 前橋市教育委員会1985『小神明道跡群Ⅲ』
23. 前橋市教育委員会1986『小神明道跡群Ⅳ』
24. 前橋市教育委員会1987『小神明道跡群Ⅴ』
25. 前橋市教育委員会1988『芳賀東部団地道跡Ⅱ』
26. 前橋市教育委員会1988『引切塚道跡』
27. 前橋市教育委員会1990『芳賀東部団地道跡Ⅲ』
28. 前橋市教育委員会1991『芳賀西部団地道跡』
29. 前橋市教育委員会1991『谷端道跡』
30. 前橋市教育委員会1993『引切塚Ⅱ道跡』
31. 前橋市教育委員会1994『芳賀北部団地道跡』
32. 前橋市教育委員会1994『嶺城道跡』
33. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1984『青柳寄居道跡』
34. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1985『南田之口道跡』
35. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1991『芳賀北原道跡』
- 36a. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998『鳥取福蔵寺道跡』
- 36b. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1999『鳥取福蔵寺Ⅱ道跡』
37. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001『五代木福Ⅱ道跡・五代深堀Ⅱ道跡』
38. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001『五代竹花道跡・五代木福Ⅰ道跡・五代伊勢宮Ⅰ道跡』
39. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002『五代道跡宮Ⅲ道跡・五代深堀Ⅱ道跡・五代中原Ⅰ道跡・五代伊勢宮Ⅳ道跡』
40. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002『五代伊勢宮Ⅱ道跡』
41. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002『五代江戸屋敷道跡』
42. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003『五代伊勢宮Ⅴ道跡』
43. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003『五代伊勢宮Ⅵ道跡・五代中原Ⅱ道跡』
44. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2004『五代中原Ⅲ道跡・五代山街道Ⅰ道跡・五代山街道Ⅱ道跡』
45. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2004『五代竹花Ⅱ道跡・五代木福Ⅲ道跡』
46. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2005『五代木福Ⅳ道跡・五代深堀Ⅲ道跡』
47. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2007『五代伊勢宮道跡(1)』
48. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2009『五代伊勢宮道跡(2)』
49. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『東田之口道跡』
50. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『小神明勝沢境道跡 小神明富士塚道跡』
51. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『棚城道跡 鳥取松合下道跡』
52. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『五代砂留道跡群』
53. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『上武道路・旧石器時代道跡群(3)』
54. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『年報28』
55. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『年報29』
56. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『年報30』
57. 富士見村役場『富士見村誌 続編』1979
58. 群馬県埋蔵文化財調査事業団1984『熊野堂道跡(1)』
59. 福岡市教育委員会1991『比恵道跡群(10)』
60. 吉留秀敏1996『弥生時代瀬川灌漑の出現とその展開』『日本考古学協会第62回総会研究発表要旨』
61. 中沢慎1996『紡錘車の基礎研究(1)―群馬県を中心として―』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要13
62. 中沢慎1996『紡錘車の基礎研究(2)―群馬県内を中心として―』専修考古学第6号
63. 群馬県教育委員会1999『前橋城道跡Ⅱ』

第37表 資料掲載報告書

64. 第55集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『鳥羽道跡 G・H・I区』
65. 第67集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『三ツツⅠ道跡』
66. 第70集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『I・J・K区』
67. 第71集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『上野田分館寺・尼寺中間地域道跡』
68. 第76集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『後田道跡Ⅱ』
69. 第94集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『有馬道跡Ⅰ 大久保道跡』
70. 第101集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『L・M・N・O区』
71. 第118集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『融通寺道跡』
72. 第127集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『上野田分館寺・尼寺中間地域道跡(3)』
73. 第128集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『A・B・C・D・E区』
74. 第189集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『二之宮下西道跡』
75. 第239集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『下東宮清水上道跡』
76. 第271集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『中里見道跡群』
77. 第323集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『元総社西川・塚田中原道跡』
78. 第335集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『前田道跡』
79. 第369集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『高崎城ⅤV』
80. 第503集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『桑前道跡』
81. 第523集 (財)群馬埋蔵文化財調査事業団『東田之口道跡』

遺構一覧表

凡例

1. 遺構一覧表は、遺構ごとに作成し、発掘区の遺構番号順に並べた。
2. 遺構名称および番号は本文記載の報告時のものである。
整理作業時に欠番が確認された遺構および番号を付け替えた遺構についてはここでは割愛した。
本文P.11第2表に欠番および旧遺構番号を併記し対照できるようにした。
3. グリッドは大区画を省略している。
4. 遺構の計測値は、重複等で計測できないものは計測不能とした。()を付したものは残存長である。
5. 本文は掲載頁、挿図は掲載図番号、写真図版は遺構写真および遺物写真の掲載PL番号を記載した。

目次

1. 竪穴住居一覧表	312
2. 竪穴状遺構一覧表	312
3. 掘立柱建物一覧表	312
4. ビット列一覧表	313
5. 溝一覧表	313
6. 井戸一覧表	313
7. 土坑一覧表	314
8. ビット一覧表	316
9. その他の遺構一覧表(畠・溜井・道路)	324

遺構一覽表

1. 竪穴住居一覽表

遺跡	区	No	遺構種	グリッド	平面形	長軸			長軸方位	面積	本文	検出	写真
						長さ	短軸	残存壁高					
						m	m	m	㎡	本文	検出	写真	
						m	m	m	方位	面積	本文	検出	写真
上野	2区	4	母住居	33区A・B17・18	隅丸長方形	3.48以上	3.70	0.26	N-8°-W	—	24	11	3・4
上野	2区	4	母住居	33区C・D18・19	長方形	5.68	4.40	0.23	N-0°-E	—	26	13・14	4・5
上野	2区	5	母住居	43区D・E1, 33区D・E20	長方形	4.75	4.27	0.21	N-0°-E	14.92	29	17・18	5・6
上野	2区	6	母住居	43区E・F1, 33区E・F20	長方形	5.18	3.68	0.50	N-74°-E	15.05	32	20・21	7・8
上野	2区	7	母住居	43区D・E1	方形	3.80以上	2.87以上	0.15	N-67°-E	—	35	22	8
上野	2区	8	母住居	43区E・G1・2	長方形	3.76	2.90	0.50	N-34°-W	8.12	37	23	8・9
上野	2区	9	母住居	43区G4	隅丸正方形	3.13	3.02	0.40	N-5°-E	5.82	37	24	10・11
上野	2区	10	母住居	33区A18・19	長方形	4.2以上	3.60以上	0.02	N-0°-E	—	40	25	11
上野	2区	11	母住居	33区A・B18	方形	2.75以上	2.60以上	0.24	N-44°-W	—	26	11	3・4
上野	2区	12	母住居	43区G1, 33区G10	隅丸長方形	1.78以上	2.50	0.18	N-26°-E	—	41	26	11
上野	2区	13	母住居	43区D・E1, 33区D・E20	長方形	2.80	2.14	0.23	N-3°-W	5.1	42	27・28	12
上野	2区	16	母住居	33区E・C17・18	方形	1.05以上	1.50以上	0.26	N-1°-W	—	44	29	12
上野	1区	18	母住居	43区X・13	方形	2.37以上	2.93	0.41	N-23°-E	—	45	30	13
上野	1区	19	母住居	43区O11・12	長方形	3.82	3.73	0.23	N-9°-E	11.9	47	31・32	13・14
上野	1区	20	母住居	43区F・O12・13	長方形	6.58	5.10	0.56	N-0°-E	28.3	50	34・35	14・15
上野	1区	21	母住居	43区S・T11	ほぼ正方形	4.16	2.76	0.53	N-0°-E	12.39	53	36・37	15・16
上野	1区	22	母住居	44区A・B12・13	正方形	7.20	6.96	0.61	N-8°-W	—	56	39~41	16~18
上野	1区	23	母住居	44区A13・14	長方形	3.80	3.25	0.58	N-1°-W	9.66	61	43	18・19
上野	1区	24	母住居	44区A・B11・12	長方形	6.28	6.22	0.70	N-15°-W	28.92	63	45~47	19~21
上野	1区	25	母住居	44区S10・11	方形	4.34	1.14以上	0.30	N-4°-E	—	68	48	22
上野	3区	26	母住居	44区C・D14	方形	2.84以上	1.40以上	0.23	N-9°-W	—	68	49	22・23
上野	3区	27	母住居	44区O11・12	長方形	4.23	3.12	0.37	N-10°-W	—	71	51	23・24
上野	3区	28	母住居	44区S10	隅丸長方形	4.54	3.24	0.20	N-3°-E	—	73	52	—
時次西郷屋谷戸	1区	1	母住居	43区D・R16・17	長方形	4.50	3.53	0.56	N-10°-E	12.99	142	113	43
時次西郷屋谷戸	1区	2	母住居	43区E・T15・16	長方形	4.10	3.42	0.51	N-19°-E	11.12	144	114・115	44
時次西郷屋谷戸	1区	3	母住居	43区P15・16	長方形	3.33	2.67	0.74	N-26°-W	5.19	146	116	45
時次西郷屋谷戸	1区	4	母住居	43区S・S13・14	長方形	5.70	4.77	0.99	N-17°-E	21.13	148	118・119	45・46
時次西郷屋谷戸	1区	5	母住居	43区S14	長方形	4.15	2.52以上	0.54	N-10°-W	—	151	120	46
時次西郷屋谷戸	1区	7	母住居	43区T17・18	不整形方形	3.20	3.07	0.61	N-0°-E	7.27	152	122	47・48
時次西郷屋谷戸	1区	8	母住居	43区T18・19, 44区A18・19	方形	5.08以上	3.13以上	0.25	N-12°-W	—	155	125・126	48・49
時次西郷屋谷戸	1区	9	母住居	43区S・T1・A12・13, 44区A12・13	正方形	5.87	5.83	0.79	N-20°-W	24.3	157	127~129	49~51
時次西郷屋谷戸	1区	10	母住居	43区S・T13・14	正方形	5.96	5.94	0.63	N-9°-W	27.45	162	132~134	51~53
時次西郷屋谷戸	2区	11	母住居	43区A2	長方形	3.70	2.74	0.38	N-61°-E	—	167	136	53・54
時次西郷屋谷戸	2区	12	母住居	42区S・T1・2	方形	3.47以上	2.94以上	0.19	N-68°-E	—	167	137	54
時次西郷屋谷戸	2区	13	母住居	42区S・T6・7	長方形	5.48	4.00	0.38	N-4°-W	18.08	169	138・139	55・56
時次西郷屋谷戸	2区	14	母住居	42区S・T7・8	長方形	4.80	3.80	0.38	N-14°-E	14.71	172	140	56・57
時次西郷屋谷戸	2区	15	母住居	42区T1・2, 43区A1・2	方形	4.52	2.52以上	0.22	N-90°-E	—	174	142	58
時次西郷屋谷戸	2区	16	母住居	43区R6・7	長方形	4.77	3.73	0.45	N-2°-W	11.83	176	143	58・59
時次西郷屋谷戸	2区	17	母住居	43区O10・11	長方形	3.65以上	3.30	0.13	N-64°-W	—	178	145	59・60
時次西郷屋谷戸	2区	18	母住居	42区S・T9・10	方形	2.75以上	3.17	0.23	N-6°-W	—	180	147	60
時次西郷屋谷戸	2区	19	母住居	43区E・T12・13	長方形	4.12	3.25	0.45	N-88°-E	9.36	182	149	60・61
時次西郷屋谷戸	2区	20	母住居	43区L・M14・15	不整形五角形	6.04	5.98	0.41	N-6°-W	28.47	184	151~153	61~64
時次西郷屋谷戸	2区	21	母住居	43区K・M14・15	長方形	6.13	3.92	0.15	N-0°-E	20.56	191	157・158	64~65
時次西郷屋谷戸	2区	22	母住居	43区K・M15・16	長方形	4.68	3.80	0.20	N-14°-W	15.49	194	159・160	65~67
時次西郷屋谷戸	2区	23	母住居	43区・T10	長方形	3.74	3.07	0.50	N-90°-E	8.28	197	162	67・68
時次西郷屋谷戸	2区	24	母住居	43区・T9・10	長方形	4.10	2.92以上	0.49	N-6°-E	—	199	164	68・69
時次西郷屋谷戸	2区	25	母住居	43区・T10・11	隅丸長方形	4.40	3.50	0.28	N-21°-W	11.57	201	166	69・70
時次西郷屋谷戸	2区	26	母住居	43区・T14・15	長方形	5.17	4.23	0.32	N-5°-W	17.94	203	167・168	70~72
時次西郷屋谷戸	2区	27	母住居	43区・T10・11	隅丸長方形	4.07	2.95	0.57	N-18°-W	—	211	171	72・73

2. 竪穴遺構一覽表

遺跡	区	No	遺構種	グリッド	平面形	長軸			長軸方位	面積	本文	検出	写真
						長さ	短軸	残存壁高					
						m	m	m	㎡	本文	検出	写真	
						m	m	m	方位	面積	本文	検出	写真
上野	2区	1	竪穴遺構	33区B・C18・19	長方形	3.40	2.52	0.12	N-90°-E	6.76	74	53	24
上野	2区	2a	竪穴遺構	33区E・C18・19	不整形方形	5.40	4.73	0.41	N-0°-E	11.67	77	55	24
上野	2区	2b	竪穴遺構	33区E18・19	不整形方形	4.12	1.40以上	0.19	N-10°-W	—	77	56	24
上野	2区	2c	竪穴遺構	33区E・C18・19	不整形方形	2.1以上	2.74	0.27	N-0°-E	—	77	56	24
時次西郷屋谷戸	1区	1	竪穴遺構	43区T18	不整形方形	3.15	2.87	1.09	N-7°-E	8.8	209	172	74
時次西郷屋谷戸	1区	2	竪穴遺構	43区S12・13	円形	3.65	3.50	0.86	N-61°-E	6.98	210	173	74
時次西郷屋谷戸	2区	3	竪穴遺構	43区・T14・15	不整形円形	5.22	5.04以上	0.83	N-27°-E	—	211	174	75

3. 掘立柱建物一覽表

遺跡	区	No	遺構種	グリッド	柱間	桁行			棟方	主軸方位	本文	検出	ビット	写真
						桁行×梁行	桁行	梁行						
						m	m	m	方位	本文	検出	ビット	写真	
						m	m	m	方位	本文	検出	ビット	写真	
上野	2区	1	母竪立柱建物	43区E・F2~4	3間×2間	4.37~4.70	4.01~4.06	—	南北棟	N-26°-W	82	59	7	25
上野	2区	3	母竪立柱建物	33区C・O20	2間×2間	3.06~3.18	2.96~3.18	—	東西棟	N-11°-W	83	60	8	25
上野	2区	4	母竪立柱建物	33区B・C20, 43区B・C1	2間×2間	4.55~4.80	3.21~3.70	—	東西棟	N-89°-W	84	61	8	25
上野	2区	5	母竪立柱建物	33区A・B19・20	2間×1間	3.46~3.81	3.51~3.75	—	東西棟	N-89°-E	85	62	8	25
上野	2区	6	母竪立柱建物	43区E・F2・3	2間×2間	4.36~4.53	4.10~4.19	—	南北棟	N-21°-E	86	63	7	25
上野	2区	12	母竪立柱建物	43区F・G1・2	2間×1間	3.74~3.78	3.21~3.37	—	南北棟	N-83°-E	87	64	7	25
上野	2区	13	母竪立柱建物	43区C~E3・4	3間×2間	7.04~7.21	4.02~4.06	—	東西棟	N-72°-W	88	65	15	25

3. 孤立柱建物一覧表

道跡	区	№	道構種	グリッド	柱間 桁行×梁行	桁行 m	梁行 m	棟方向	主軸方位	本文 面積	棟回 番号	ビット 断面%	写真 P.L
上野	1区	15	号孤立柱建物	43区R・S11・12	2間×2間	3.41~3.98	3.31~3.34	東西棟	N-83°-E	91	67	2・3	26・30
上野	3区	16	号孤立柱建物	44区C・D13・14	不明×1間	3.97以上	3.28	南北棟	N-42°-W	91	68	1	26
上野	3区	17	号孤立柱建物	44区C・D13~15	不明×2間	4.17以上	4.62	東西棟	N-74°-E	91	68	1	26
時次西船屋谷戸	1区	1	号孤立柱建物	43区S・T15・16	3間×2間	5.83~6.21	4.15~4.78	東西棟	N-80°-E	212	176・177	9	76
時次西船屋谷戸	1区	3	号孤立柱建物	43区O・R13・14	2間×2間	4.17~4.51	3.64~3.72	南北棟	N-3°-W	214	178	10	76
時次西船屋谷戸	1区	4	号孤立柱建物	43区O・P15	2間×2間	3.55~3.58	2.91~2.99	南北棟	N-1°-E	216	179	10	76
時次西船屋谷戸	2区	5	号孤立柱建物	42区T・3、43区A・82・3	3間×2間	7.05~7.47	4.24~4.44	東西棟	N-87°-E	216	180	15・17	77
時次西船屋谷戸	2区	6	号孤立柱建物	42区T・7、8、43区A・7	3間×2間	3.89~4.08	3.28	南北棟	N-3°-W	219	181	16	78
時次西船屋谷戸	2区	7	号孤立柱建物	42区T・9、43区A・9	3間×2間	4.43~4.67	3.77~3.95	南北棟	N-3°-E	220	182	16	78
時次西船屋谷戸	2区	8	号孤立柱建物	43区A・88~10	4間×3間	8.24~8.42	4.89~5.18	南北棟	N-15°-E	221	183	14	76~78
時次西船屋谷戸	2区	9	号孤立柱建物	43区I・J11	2間×2間	3.08~3.19	2.02~2.52	南北棟	N-22°-E	223	184	12	78
時次西船屋谷戸	2区	10	号孤立柱建物	43区R・S16・17	1間×1間	3.60~3.67	3.40~3.56	東西棟	N-82°-E	224	185	9・10	88・89
時次西船屋谷戸	2区	11	号孤立柱建物	43区B・C9・10	2間×2間	5.01~5.10	3.98~4.02	東西棟	N-17°-E	226	186	14	91

4. ビット列一覧表

道跡	区	№	道構種	グリッド	柱間 桁行×梁行	桁行 m	梁行 m	棟方向	主軸方位	本文 面積	棟回 番号	ビット 断面%	写真 P.L
上野	2区	2	号ビット列	43区G・H2	2間	3.47			N-73°-W	94	70	7	26
上野	2区	3	号ビット列	43区D1	2間	2.81			N-12°-W	95	71	8	26
上野	2区	4	号ビット列	33区D19	2間	2.60			N-4°-E	95	72	8	26
上野	2区	5	号ビット列	44区C・D11・12	3間×3間	7.31	6.05		N-1°-E	96	73	15	27
上野	2区	6	号ビット列	44区D11・12	2間	3.72			N-17°-W	97	74	1	28

5. 溝一覧表

道跡	区	№	道構種	グリッド	調査長		残存深	走向	本文 面積	棟回 番号	写真 P.L
					m	上端					
上野	2区	1	号溝	32・33区S16~A16	6.30	1.90	1.26	N-68°-E	98	75	27
上野	2区	2	号溝	32・33区T16~S20	22.00	1.83	0.46	N-20°-E	98	75	27
上野	2区	3	号溝	32区S17~S19	13.50	1.82	0.22	N-14°-E	98	75	27
上野	2区	4	号溝	32・33区A17~T18	10.40	2.21	0.18	N-34°-E	98	75	29
上野	2区	5	号溝	32・33・42・43区T~A19・1	22.50	1.43	0.46	N-22°-E	100	77	27
上野	2区	6	号溝	42・43区T11~66	43.70	0.99	0.38	N-55°-W	100	78	27・28
上野	2区	7	号溝	33・43区E19~12	28.60	1.08	0.29	N-66°-W	103	79	28
上野	2区	8	号溝	33・43区E19~13	25.00	0.56	0.20	N-47°-W	103	79	28
上野	2区	9	号溝	33・43区R20~A1	7.40	0.92	0.13	N-26°-E	100	77	28
上野	2区	10	号溝	33区A18	3.80	0.60	0.07	N-21°-E	98	75	29
上野	2区	11	号溝	43区G~H1	8.00	0.47	0.10	N-62°-W	103	79	29
上野	2区	12	号溝	33区M6~J8	17.70	2.14	0.59	N-64°-E	278	233~238	95~100
上野	2区	13	号溝	43区M5~18	25.10	2.06	0.74	N-58°-E	278	233~238	95~100
上野	2区	14	号溝	43区L7~9	13.80	1.50	1.39	N-8°-W	273	231	94
上野	2区	15	号溝	43区L6	1.75	0.54	0.36	N-5°-E	273	231	94
上野	2区	16	号溝	43区M5~17	24.00	1.02	0.26	N-54°-E	286	233~238	95~100
上野	2区	17	号溝	43区M5~17	13.30	0.91	0.43	N-41°-E	286	233~238	95~100
上野	1区	19	号溝	43区T10~S11	8.82	0.48	0.11	N-5°-E	103	80	-
上野	2区	20	号溝	43区R~S10	8.23	1.33	0.11	N-79°-E	103	80	29
上野	2区	21	号溝	43区T8~11	11.78	0.50	0.10	N-25°-W	105	80	29
上野	2区	22	号溝	43区R~L5・6	8.00	0.53	0.10	N-64°-E	105	81	-
上野	2区	23	号溝	43区R~L5・6	7.60	0.32	0.05	N-47°-E	106	81	29
時次西船屋谷戸	1区	1	号溝	43区S16~R18	9.93	1.13	0.16	N-22°-E	227	188	78
時次西船屋谷戸	1区	2	号溝	43区S16~S18	7.91	1.13	0.16	N-24°-E	227	188	78
時次西船屋谷戸	1区	3	号溝	43区R15~18	11.00	0.60	0.22	N-0°-E	228	188	78
時次西船屋谷戸	2区	5	号溝	42区S1~P9	38.90	3.40	0.65	N-27°-E	228	191・192	78・79
時次西船屋谷戸	2区	6	号溝	42区O5・6	2.71	0.82	0.35	N-28°-E	229	228	93
時次西船屋谷戸	2区	7	号溝	43区E7~(C11)	26.60	1.25	0.27	N-21°-E	229	193	79
時次西船屋谷戸	2区	8	号溝	43区B~C10	4.28	0.32	0.14	N-66°-W	233	194	-
時次西船屋谷戸	2区	9	号溝	42・43区T8~O10	19.70	0.32	0.20	N-69°-W	233	194	-
時次西船屋谷戸	2区	10	号溝	42・43区P8~C10	37.20	1.25	0.19	N-63°-W	233	195	79
時次西船屋谷戸	2区	11	号溝	42区L6~S9	19.50	0.60	0.73	N-23°-E	235	197	-
時次西船屋谷戸	2区	12	号溝	43区F10~D12	12.20	0.48	0.10	N-37°-E	278	233~238	95~100
時次西船屋谷戸	2区	13	号溝	43区I7~F9	14.30	2.19	0.73	N-53°-E	278	233~238	95~100
時次西船屋谷戸	2区	14	号溝	43区I8	2.95	0.89	0.24	N-67°-E	278	233~238	95~100
時次西船屋谷戸	2区	15	号溝	43区L10~J15	28.50	1.60	0.48	N-25°-E	276	232	94

6. 井戸一覧表

道跡	区	№	道構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	長軸方位	本文 面積	棟回 番号	写真 P.L
時次西船屋谷戸	1区	1	号井戸	44区A16	楕円形	2.19	2.14	1.10	N-87°-W	236	198	74

遺構一覧表

7. 土坑一覧表

遺跡	区	No	遺構種	グリッド	平面形	長軸	短軸	残存壁高	長軸方位	本文頁	検出番号	写真P.L
						m	m					
上野	2区	2	母土坑	43X5F2	円形	1.45	—	0.21	—	107	83	30
上野	2区	3	母土坑	43X5D1	楕丸長方形	0.81	0.58	0.20	N-17°-E	113	88	37
上野	2区	4	母土坑	33X5C19	円形	0.66	—	0.25	—	107	85	33
上野	2区	5	母土坑	43X5G1	円形	1.16	—	0.25	—	107	84	31
上野	2区	6	母土坑	43X5G2	円形	0.99	—	0.15	—	107	84	31
上野	2区	7	母土坑	43X5G1	円形	1.09	—	0.28	—	107	83	30
上野	2区	8	母土坑	43X5F3	円形	1.15	—	0.17	—	107	83	30
上野	2区	9	母土坑	43X5E3	円形	0.99	—	0.18	—	107	84	31
上野	2区	10	母土坑	43X5A4	円形	1.02	—	0.08	—	107	84	31
上野	2区	11	母土坑	43X5E1	円形	0.84	—	0.26	—	107	85	32
上野	2区	12	母土坑	43X5E1	円形	0.91	—	0.21	—	107	84	31
上野	2区	13	母土坑	43X5F2	楕円形	1.43	0.57	0.37	N-13°-W	111	86	34
上野	2区	14	母土坑	43X5E2	円形	0.69	—	0.18	—	107	85	33
上野	2区	15	母土坑	43X5E2	円形	1.04	—	0.18	—	107	84	30・31
上野	2区	16	母土坑	43X5D1	円形	0.92	—	0.32	—	107	84	31
上野	2区	17	母土坑	43X5D1	円形	0.88	—	0.28	—	107	84	32
上野	2区	18	母土坑	43X5C2	楕円形	1.33	0.79	0.29	N-7°-E	111	86	34
上野	2区	19	母土坑	43X5D1	円形	0.83	—	0.30	—	107	85	32
上野	2区	20	母土坑	33X5B18	楕円形	2.31	1.32	0.28	N-8°-W	80	58	33
上野	2区	21	母土坑	33X5B19	不整楕円形	1.59	1.31	0.43	N-89°-W	80	58	—
上野	2区	22	母土坑	33X5B19	不整楕円形	(1.83)	0.96以上	0.14	N-66°-E	81	58	37
上野	2区	23	母土坑	33X5A18	楕丸方形	1.25	1.12	0.35	N-39°-E	81	58	36
上野	2区	25	母土坑	33X5B20	楕丸方形	0.99	0.75	0.38	N-34°-E	113	87	36
上野	2区	26	母土坑	43X5C1	円形	0.89	—	0.10	—	107	84	32
上野	2区	27	母土坑	43X5E2	楕丸長方形	1.14	0.63	0.13	N-8°-E	113	88	37
上野	2区	28	母土坑	43X5E2	楕丸方形	0.96	0.88	0.12	N-7°-E	113	87	36
上野	2区	29	母土坑	33X5C19	楕円形	0.79	0.68	0.21	N-37°-E	111	86	35
上野	2区	30	母土坑	43X5E5	円形	0.90	—	0.07	—	107	84	32
上野	2区	31	母土坑	43X5E4	楕丸方形	0.92	0.92	0.10	N-0°-E	113	87	36
上野	2区	32	母土坑	33X5C18	楕丸方形	0.79	0.76	0.29	N-90°-E	113	87	36
上野	2区	33	母土坑	43X5H2	楕円形	1.11	0.69	0.25	N-1°-W	111	86	34・35
上野	2区	34	母土坑	33X5C18	楕丸方形	1.60	1.26以上	0.17	N-22°-E	113	87	35
上野	2区	35	母土坑	43X5G1	楕丸方形	(1.01)	1.13	0.13	N-83°-E	113	87	35・36
上野	2区	36	母土坑	43X5E1	不整形	1.14	0.49以上	0.73	N-88°-W	107	83	30
上野	2区	37	母土坑	43X5E1	円形・大型	1.68	—	0.37	—	107	83	30
上野	1区	38	母土坑	43X5L7	不整楕円形	1.26	1.17	0.80	N-39°-E	116	90	38
上野	1区	39	母土坑	43X5K6	楕円形	0.48	0.43	0.20	N-41°-E	111	86	35
上野	1区	40	母土坑	43X5K6	不整楕円形	1.03	0.84	0.39	N-8°-E	116	90	38
上野	1区	41	母土坑	43X5K5	不整形	0.60	0.49	0.21	N-4°-E	111	86	35
上野	1区	42	母土坑	43X5K5	楕円形	0.83	0.54	0.22	N-12°-W	111	86	35
上野	1区	43	母土坑	43X5K6	不整楕円形	2.79	1.28	0.87	N-20°-E	116	90	—
上野	1区	44	母土坑	43X5K6	不整楕円形	1.45	0.88	0.60	N-41°-E	116	90	37
上野	1区	45	母土坑	44X5A9	円形	0.86	—	0.34	—	107	85	32
上野	1区	46	母土坑	44X5A10	円形	0.81	—	0.25	—	107	85	33
上野	1区	47	母土坑	44X5A9	楕円形	1.16	0.86	0.19	N-26°-E	111	86	34
上野	1区	48	母土坑	44X5A9	円形	0.88	—	0.29	—	107	85	32
上野	1区	49	母土坑	43X5T9	円形	0.72	—	0.20	—	107	85	33
上野	1区	50	母土坑	43X5T10	円形	1.05	—	0.46	—	107	84	30
上野	1区	51	母土坑	44X5A9	円形	1.01	—	0.37	—	107	84	31
上野	1区	52	母土坑	43X5J8	不整楕円形	1.75	0.88	0.78	N-71°-E	116	90	37・38
上野	1区	53	母土坑	43X5T9	楕丸方形	2.36	1.87	0.47	N-67°-W	113	87	35
上野	1区	54	母土坑	43X5T10	楕丸長方形	1.83	1.17	0.59	N-83°-E	113	88	36
上野	1区	55	母土坑	43X5J8	不整形	1.82	1.40	0.23	N-57°-E	—	233	—
上野	1区	56	母土坑	43X5J8	楕円形	1.07	0.72	0.39	N-0°-E	—	233	—
上野	1区	57	母土坑	43X5R12	楕円形	1.86	1.25	0.87	N-81°-W	111	86	34
上野	1区	58	母土坑	43X5S12	円形・大型	1.53	—	0.78	—	107	83	30
上野	2区	59	母土坑	43X5C4	楕丸長方形	1.62	0.99	0.06	N-76°-W	113	88	36・37
上野	1区	60	母土坑	43X5S10	楕円形	(1.57)	1.28	0.17	N-52°-E	111	86	34
上野	1区	61	母土坑	43X5S11	円形・大型	1.46	—	0.89	—	107	83	30
上野	1区	62	母土坑	43X5S10	楕丸方形	1.26	1.00	0.14	N-33°-W	113	87	36
上野	1区	63	母土坑	43X5R10	楕丸長方形	1.40	0.62	0.11	N-89°-E	113	88	37
上野	1区	64	母土坑	43X5R10	楕丸長方形	1.82	0.62	0.12	N-89°-E	113	88	37
上野	1区	65	母土坑	43X5Q10	楕丸長方形	1.80	0.98	0.16	N-83°-E	113	88	37
上野	1区	66	母土坑	43X5Q10	楕丸長方形	1.48	0.94	0.20	N-82°-E	113	88	37
上野	1区	67	母土坑	43X5Q10	楕丸長方形	1.48	0.94	0.19	N-82°-E	113	88	37
上野	1区	68	母土坑	43X5P9	楕円形	1.26	0.99	0.18	N-83°-E	111	86	34
上野	1区	69	母土坑	43X5R11	円形	0.85	—	0.16	—	107	85	32
上野	1区	70	母土坑	43X5S9	円形	0.62	—	0.35	—	107	85	33
上野	1区	71	母土坑	43X5S11	楕丸方形	(2.10)	0.84	0.85	N-8°-E	113	87	35
上野	1区	72	母土坑	43X5S11	楕円形	(0.80)	0.74	0.48	N-43°-E	113	87	35
上野	1区	73	母土坑	43X5S11	楕円形	1.42	0.93	0.75	N-80°-W	113	87	35
上野	1区	74	母土坑	43X5S11	円形	0.93	—	0.36	—	107	85	33
上野	1区	76	母土坑	44X5A14	円形	0.78	—	0.25	—	107	85	33

7. 土坑一覽表

通称	区	No	遺構種	グリッド	平面形	長軸	短軸	残存壁高	長軸方位	本文 頁	挿図 番号	写真 P.L
						m	m					
上町	1区	77	母土坑	44区A14	円形	0.76	-	0.23	-	107	85	33
上町	1区	78	母土坑	43区T11	楕円形	1.60	1.25	0.83	N-5°-E	111	86	34
上町	1区	79	母土坑	43区S5	楕円方形か	2.0以上	1.92	0.88	N-31°-E	144	233	99
時次西郷屋谷	1区	1	母土坑	43区R17	円形	0.83	-	0.43	-	236	201	83
時次西郷屋谷	1区	3	母土坑	43区S18	楕円形	1.05	0.68	0.35	N-10°-E	240	204	86・87
時次西郷屋谷	1区	4	母土坑	43区S18	楕円長方形	1.54	0.94	0.48	N-18°-E	246	206	88
時次西郷屋谷	1区	5	母土坑	43区S16	楕円形	1.58	1.07	0.48	N-64°-W	240	203	85
時次西郷屋谷	1区	6	母土坑	43区R16	不整形	1.00	0.86	0.29	N-42°-W	247	207	88
時次西郷屋谷	1区	8	母土坑	43区S16	ピット状	0.72	0.63	0.76	N-90°-E	247	208	89
時次西郷屋谷	1区	9	母土坑	43区R17	楕円形	1.08	0.68	0.41	N-75°-W	240	204	87
時次西郷屋谷	1区	11	母土坑	43区R18	楕円長方形	1.19	0.89	0.32	N-68°-W	246	206	88
時次西郷屋谷	1区	13	母土坑	43区T15	ピット状	0.55	0.53	0.28	N-84°-W	247	208	89
時次西郷屋谷	1区	14	母土坑	43区S15	楕円形	1.30	1.13	0.28	N-56°-W	240	203	85
時次西郷屋谷	1区	15	母土坑	43区R16	円形	0.96	-	0.25	-	236	200	81
時次西郷屋谷	1区	16	母土坑	43区R16	円形	1.32	-	0.56	-	236	199	80
時次西郷屋谷	1区	17	母土坑	43区R14	楕円形	1.23	0.91	0.59	N-0°-E	240	203	85
時次西郷屋谷	1区	18	母土坑	43区D17	楕円形	1.19	(0.76)	0.61	N-70°-W	240	203	85
時次西郷屋谷	1区	20	母土坑	43区P14	楕円形	1.38	0.83	0.62	N-28°-E	240	203	85
時次西郷屋谷	1区	21	母土坑	43区T15	ピット状	1.10	1.08	0.58	N-85°-W	247	208	89
時次西郷屋谷	1区	22	母土坑	43区T15	不整形	1.13	0.82	0.85	N-85°-W	247	207	88
時次西郷屋谷	1区	24	母土坑	43区S15	楕円形	0.97	0.71	0.42	N-16°-E	240	203	85・86
時次西郷屋谷	1区	25	母土坑	43区P14	楕円形	0.93	0.80	0.36	N-77°-W	240	205	87
時次西郷屋谷	1区	26	母土坑	43区D14	楕円形	1.89	1.14	0.35	N-50°-W	240	202	84
時次西郷屋谷	1区	27	母土坑	43区T16	ピット状	-	-	0.35	測定不能	247	208	89
時次西郷屋谷	1区	28	母土坑	43区P17	不整形	2.06	0.84	0.62	N-0°-E	247	207	88
時次西郷屋谷	1区	29	母土坑	43区P16	不整形	1.89	0.91	0.57	N-85°-E	247	207	88
時次西郷屋谷	1区	30	母土坑	43区S15	不整形	2.70	(1.59)	0.37	N-83°-E	247	207	88・89
時次西郷屋谷	2区	31	母土坑	43区S1	不整形	(1.34)	0.83	0.36	N-74°-E	247	207	89
時次西郷屋谷	2区	33	母土坑	43区A1	楕円形	1.57	0.87	0.64	N-22°-E	240	203	85
時次西郷屋谷	2区	34	母土坑	43区C4	円形	1.25	-	0.21	-	236	199	80
時次西郷屋谷	2区	35	母土坑	43区D5	円形	0.95	-	0.32	-	236	200	82
時次西郷屋谷	2区	36	母土坑	43区D5	円形	0.82	-	0.14	-	236	201	83
時次西郷屋谷	2区	37	母土坑	43区D5	円形	0.94	-	0.23	-	236	200	82
時次西郷屋谷	2区	38	母土坑	42区S1	楕円形	0.62	(0.56)	0.19	N-12°-W	240	205	87
時次西郷屋谷	2区	39	母土坑	43区C6	円形	0.89	-	0.11	-	236	200	82
時次西郷屋谷	2区	40	母土坑	43区D6	円形	0.99	-	0.10	-	236	200	81
時次西郷屋谷	2区	41	母土坑	43区A5	円形	0.85	-	0.05	N-13°-W	236	200	82・83
時次西郷屋谷	2区	42	母土坑	43区A4	円形	0.88	-	0.15	N-70°-W	236	200	82
時次西郷屋谷	2区	43	母土坑	43区D5	円形	0.85	-	0.22	-	236	201	83
時次西郷屋谷	2区	44	母土坑	43区D5	円形	1.03	-	0.36	-	236	200	81
時次西郷屋谷	2区	45	母土坑	43区D5	円形	1.01	-	0.28	-	236	200	81
時次西郷屋谷	2区	46	母土坑	42区P8	ピット状	0.74	0.65	0.94	N-53°-W	247	208	90
時次西郷屋谷	2区	47	母土坑	42区O7	ピット状	0.64	0.57	1.03	N-23°-E	247	208	90
時次西郷屋谷	2区	50	母土坑	43区C7	円形	1.14	-	0.17	-	236	199	81
時次西郷屋谷	2区	51	母土坑	43区O7	円形	0.88	-	0.09	-	236	200	82
時次西郷屋谷	2区	52	母土坑	43区E7	円形	0.93	-	0.20	-	236	200	82
時次西郷屋谷	2区	53	母土坑	43区C7	円形	1.13	-	0.19	-	236	199	81
時次西郷屋谷	2区	54	母土坑	43区D7	円形	1.31	-	0.09	-	236	199	80
時次西郷屋谷	2区	55	母土坑	43区D8	円形	0.84	-	0.19	-	236	201	83
時次西郷屋谷	2区	56	母土坑	43区E6	円形	1.03	-	0.28	-	236	199	81
時次西郷屋谷	2区	57	母土坑	43区B10	楕円長方形	1.97	1.09	0.24	N-64°-W	246	206	87・88
時次西郷屋谷	2区	58	母土坑	43区B9	円形	0.87	-	0.21	-	236	200	82
時次西郷屋谷	2区	59	母土坑	43区B10	円形	1.21	-	0.17	-	236	199	81
時次西郷屋谷	2区	60	母土坑	43区C10	円形	1.01	-	0.24	-	236	200	81
時次西郷屋谷	2区	61	母土坑	43区C8	円形	1.39	-	0.25	-	236	199	80
時次西郷屋谷	2区	62	母土坑	43区C8	円形	1.35	-	0.25	-	236	199	80
時次西郷屋谷	2区	63	母土坑	43区D8	円形	1.30	-	0.23	-	236	199	80
時次西郷屋谷	2区	64	母土坑	43区C8	円形	0.80	-	0.19	-	236	201	83
時次西郷屋谷	2区	65	母土坑	43区D8	不整形	1.15	0.88	0.17	N-68°-E	247	207	89
時次西郷屋谷	2区	66	母土坑	43区D8	円形	0.79	-	0.11	-	236	201	83
時次西郷屋谷	2区	67	母土坑	43区C9	楕円形	1.41	1.10	0.23	N-15°-W	240	203	86
時次西郷屋谷	2区	68	母土坑	43区C11	楕円形	0.85	0.74	0.33	N-58°-E	240	205	87
時次西郷屋谷	2区	69	母土坑	42区S9	楕円形	0.75	0.51	0.52	N-56°-W	240	205	87
時次西郷屋谷	2区	70	母土坑	42区T8	楕円形	1.90	1.36	0.73	N-0°-E	240	202	84
時次西郷屋谷	2区	71	母土坑	42区T9	楕円形	1.79	1.51	0.65	N-0°-E	240	202	84
時次西郷屋谷	2区	72	母土坑	42区T9	楕円形	0.70	(0.49)	0.52	N-0°-E	240	202	84
時次西郷屋谷	2区	73	母土坑	42区T9	円形	0.85	-	0.25	-	236	201	83
時次西郷屋谷	2区	74	母土坑	43区C11	円形	1.39	-	0.22	-	236	199	79・80
時次西郷屋谷	2区	75	母土坑	43区E9	楕円形	1.77	1.44	0.45	N-45°-W	240	202	84
時次西郷屋谷	2区	76	母土坑	43区B11	楕円形	1.37	(1.15)	0.19	N-57°-E	240	204	86
時次西郷屋谷	2区	77	母土坑	43区A9	不整形	0.95	0.49	0.29	N-6°-W	247	207	89
時次西郷屋谷	2区	78	母土坑	43区A10	楕円形	1.26	0.89	0.16	N-58°-W	240	204	86
時次西郷屋谷	2区	79	母土坑	43区L15	楕円形	1.22	0.83	0.88	N-85°-W	240	204	86
時次西郷屋谷	2区	80	母土坑	43区M3	楕円形	1.82	1.32	0.66	N-11°-E	240	202	84

道構一覧表

通称	区	No	道構種	グリッド	平面形	長軸			短軸	残存壁高	長軸方位	本文 頁	挿図 番号	写真 P.L
						m	m	m						
時次西船屋谷戸	2区	81	母土坑	43Z613	楕円形	1.60	1.02	0.66	N-10°-E	240	203	84・85		
時次西船屋谷戸	2区	82	母土坑	43Z114	楕円形	1.56	1.25	0.71	N-0°-E	240	203	85		
時次西船屋谷戸	2区	83	母土坑	43Z111	楕円形	1.07	0.60	0.20	N-15°-W	240	204	87		
時次西船屋谷戸	2区	84	母土坑	43Z115	楕円形	0.90	0.87	0.45	N-12°-W	247	207	86・89		
時次西船屋谷戸	2区	85	母土坑	43Z115	楕円形	1.20	0.84	0.61	N-31°-E	240	204	86		
時次西船屋谷戸	2区	86	母土坑	43Z114	楕円形	1.31	1.08	0.80	N-34°-W	240	204	86		
時次西船屋谷戸	2区	87	母土坑	43Z114	楕円形	1.15	0.77	0.65	N-28°-W	240	204	86		
時次西船屋谷戸	2区	88	母土坑	43Z114	楕円形	1.28	0.95	0.69	N-0°-E	240	204	86		
時次西船屋谷戸	2区	89	母土坑	43Z69	楕円形	0.95	0.56	0.56	N-47°-E	240	205	-		
時次西船屋谷戸	2区	91	母土坑	43Z115	楕円形	0.90	0.43	0.11	N-66°-W	240	205	87		
時次西船屋谷戸	2区	92	母土坑	43Z115	楕円形	1.12	0.92	0.65	N-60°-W	240	205	87		
時次西船屋谷戸	2区	93	母土坑	43Z012	円形	1.31	-	0.53	-	236	199	80		
時次西船屋谷戸	2区	94	母土坑	43Z115	楕円形	1.30	0.90	0.96	N-12°-W	240	204	86・89		

8. ビット一覧表

通称	区	No	道構種	グリッド	平面形	長軸			短軸	残存壁高	長軸方位	埋没土	ビット 別図No	本文 番号	挿図 番号	写真 P.L
						m	m	m								
上野	2区	1	母ビット	43Z62	円形	0.38	-	0.20	-	-	7	117	99・100	-	-	-
上野	2区	2	母ビット	33ZKA17	楕円形	0.71	0.65	0.69	N-22°-W	-	8	117	101	-	-	-
上野	2区	3	母ビット	33ZC19	楕円形	0.32	0.31	0.35	N-67°-W	-	8	117	101	-	-	-
上野	2区	4	母ビット	33ZC19	楕円形	0.31	(0.27)	0.45	N-20°-W	-	8	117	101	-	-	-
上野	2区	5	母ビット	43Z61	楕円形	0.56	0.51	0.39	N-45°-E	-	7	117	99・100	-	-	-
上野	2区	6	母ビット	43Z61	楕円形	0.63	0.60	0.30	N-10°-W	-	7	117	99・100	-	-	-
上野	2区	7	母ビット	43Z61	円形	0.43	-	0.14	-	-	7	117	99	-	-	-
上野	2区	8	母ビット	43Z02	楕円形	0.30	0.27	0.40	N-59°-W	-	15	117	99・221	-	-	-
上野	2区	9	母ビット	43Z62	楕円形	0.39	0.28	0.21	N-10°-E	A	7	117	99	-	-	-
上野	2区	10	母ビット	43Z62	楕円形	0.50	0.41	0.40	N-22°-E	C	7	117	99	-	-	-
上野	2区	11	母ビット	43Z62	楕円形	0.39	0.35	0.32	N-17°-E	B	7	117	99	-	-	-
上野	2区	12	母ビット	43Z63	楕円形	0.35	0.33	0.24	N-49°-W	B	7	117	99	-	-	-
上野	2区	13	母ビット	43Z63	楕円形	0.38	0.34	0.20	N-81°-E	B	7	117	99	-	-	-
上野	2区	14	母ビット	43Z63	楕円形	0.41	0.40	0.24	N-24°-E	B	7	117	99	-	-	-
上野	2区	15	母ビット	43Z63	楕円形	0.21	0.18	0.20	N-29°-E	B	7	117	99	-	-	-
上野	2区	16	母ビット	43Z63	楕円形	0.28	0.26	0.22	N-30°-W	A	7	117	99	-	-	-
上野	2区	17	母ビット	43Z62	楕円形	0.41	0.37	0.31	N-74°-E	A	7	117	99	-	-	-
上野	2区	18	母ビット	43Z62	楕円形	0.34	0.26	0.21	N-56°-W	C	7	117	99	-	-	-
上野	2区	19	母ビット	43Z62	楕円形	0.31	0.22	0.20	N-51°-W	C	7	117	99	-	-	-
上野	2区	20	母ビット	43Z62	円形	0.30	-	0.44	-	C	5	117	97	-	-	-
上野	2区	21	母ビット	43Z12	楕円形	0.31	0.27	0.23	N-22°-E	B	5	117	97	-	-	-
上野	2区	22	母ビット	43Z63	楕円形	0.40	0.28	0.30	N-30°-W	B	5	117	97	-	-	-
上野	2区	23	母ビット	43Z63	円形	0.25	-	0.19	-	-	5	117	97	-	-	-
上野	2区	24	母ビット	43Z63	楕円形	0.33	0.23	0.26	N-79°-E	B	5	117	97	-	-	-
上野	2区	25	母ビット	43Z63	円形	0.42	-	0.30	-	C	5	117	97	-	-	-
上野	2区	26	母ビット	43Z63	楕円形	0.36	0.37	0.26	N-22°-E	C	5	117	97	-	-	-
上野	2区	27	母ビット	43Z63	楕円形	0.39	0.28	0.43	N-69°-E	C	5	117	97	-	-	-
上野	2区	28	母ビット	43Z63	楕円形	0.35	0.28	0.29	N-80°-E	C	5	117	97	-	-	-
上野	2区	29	母ビット	43Z14	楕円形	0.28	0.22	0.13	N-50°-W	B	5	117	97	-	-	-
上野	2区	30	母ビット	43Z14	円形	0.34	-	0.23	-	C	5	117	97	-	-	-
上野	2区	31	母ビット	43Z64	円形	0.22	-	0.32	-	A	6	117	98	-	-	-
上野	2区	32	母ビット	43Z14	楕円形	0.28	0.24	0.27	N-57°-W	B	5	117	97	-	-	-
上野	2区	33	母ビット	43Z14	楕円形	0.29	0.24	0.43	N-40°-E	A	5	117	97	-	-	-
上野	2区	34	母ビット	43Z14	楕円形	0.28	0.21	0.11	N-76°-W	C	5	117	97	-	-	-
上野	2区	35	母ビット	43Z15	円形	0.28	-	0.43	-	C	5	117	97	-	-	-
上野	2区	36	母ビット	43Z65	円形	0.32	-	0.33	-	B	6	117	98	-	-	-
上野	2区	37	母ビット	43Z64	楕円形	0.46	0.39	0.19	N-50°-E	C	6	117	98	-	-	-
上野	2区	38	母ビット	43Z64	楕円形	0.28	0.20	0.23	N-15°-E	A	6	117	98	-	-	-
上野	2区	39	母ビット	43Z64	円形	0.23	-	0.15	-	B	6	117	98	-	-	-
上野	2区	40	母ビット	43Z64	楕円形	0.29	0.23	0.15	N-32°-W	B	6	117	98	-	-	-
上野	2区	41	母ビット	43Z64	円形	0.22	-	0.16	-	A	6	117	98	-	-	-
上野	2区	42	母ビット	43Z65	不定形	0.38	0.19	0.29	N-29°-E	A	6	117	98	-	-	-
上野	2区	43	母ビット	43Z65	楕円形	0.35	0.30	0.46	N-39°-E	C	6	117	98	-	-	-
上野	2区	44	母ビット	43Z65	円形	0.20	-	0.31	-	C	6	117	98	-	-	-
上野	2区	45	母ビット	43Z65	円形	0.22	-	0.23	-	B	6	117	98	-	-	-
上野	2区	46	母ビット	43Z65	楕円形	0.18	0.16	0.17	N-46°-W	B	6	117	98	-	-	-
上野	2区	47	母ビット	43Z65	楕円形	0.42	0.35	0.15	N-27°-W	C	6	117	98	-	-	-
上野	2区	48	母ビット	43Z65	円形	0.23	-	0.17	-	B	6	117	98	-	-	-
上野	2区	49	母ビット	43Z64	円形	0.22	-	0.21	-	C	6	117	98	-	-	-
上野	2区	50	母ビット	43Z65	楕円形	0.55	0.40	0.50	N-54°-E	C	6	117	98	-	-	-
上野	2区	51	母ビット	43Z65	楕円形	0.30	0.26	0.50	N-23°-W	C	5	117	97	-	-	-
上野	2区	52	母ビット	43Z65	楕円形	0.34	0.29	0.41	N-40°-E	B	5	117	97	-	-	-
上野	2区	53	母ビット	43Z65	円形	0.31	-	0.30	-	C	5	117	97	-	-	-
上野	2区	54	母ビット	43Z15	円形	0.31	-	0.44	-	B	5	117	97	-	-	-
上野	2区	55	母ビット	43Z66	円形	0.31	-	0.37	-	B	5	117	97	-	-	-
上野	2区	56	母ビット	43Z16	楕円形	0.37	0.36	0.40	N-0°-E	B	5	117	97	-	-	-
上野	2区	57	母ビット	43Z66	楕円形	0.34	0.29	0.25	N-36°-E	B	5	117	97	-	-	-

8. ビット一覧表

通称	区	No.	通称種	グリッド	平面形	長軸	短軸	残存壁高	長軸方位	埋没土	ビット 削回数	本文 頁	挿図 番号	写真 PL
						m	m	m						
上野	2区	58	硝ビット	43区H6	楕円形	0.35	0.31	0.32	N-23°-E	A	5	117	97	-
上野	2区	59	硝ビット	43区H7	楕円形	0.22	0.19	0.16	N-79°-W	B	5	117	97	-
上野	2区	60	硝ビット	43区I6	楕円形	0.23	0.18	0.18	N-54°-E	B	5	117	97	-
上野	2区	61	硝ビット	43区I6	楕円形	0.26	0.2	0.22	N-73°-W	B	5	117	97	-
上野	2区	62	硝ビット	33区A19	楕円形	0.36	0.28	0.29	N-10°-E	B	8	117	101	-
上野	2区	63	硝ビット	33区B19	不定形	0.51	0.39	0.29	N-29°-E	C	8	117	101	-
上野	2区	64	硝ビット	33区B19	楕円形	0.57	0.41	0.11	N-4°-E	C	8	117	101	-
上野	2区	65	硝ビット	33区B20	楕円形	0.32	0.28	0.28	N-79°-E	C	8	117	101	-
上野	2区	66	硝ビット	43区B1	円形	0.32	-	0.19	-	C	8	117	101	-
上野	2区	67	硝ビット	43区B1	楕円形	0.29	0.27	0.17	N-39°-W	C	8	117	101	-
上野	2区	68	硝ビット	43区D2	楕円形	0.37	0.32	0.3	N-81°-W	C	15	117	101	-
上野	2区	69	硝ビット	43区D1	楕円形	0.28	0.23	0.24	N-17°-E	B	8	117	101	-
上野	2区	70	硝ビット	33区C19	楕円形	0.41	0.35	0.43	N-43°-E	B	8	117	101	-
上野	2区	71	硝ビット	33区C19	楕円形	0.36	0.3	0.25	N-82°-W	B	8	117	101	-
上野	2区	72	硝ビット	33区C18	円形	0.33	-	0.31	-	C	8	117	101	-
上野	2区	73	硝ビット	33区D19	楕円形	0.38	0.35	0.45	N-29°-W	D	8	117	101	-
上野	2区	74	硝ビット	33区B19	不定形	0.45	0.17	0.45	N-31°-E	D	8	117	101	-
上野	2区	75	硝ビット	33区G20	不定形	(0.50)	0.46	0.32	N-30°-E	D	7	117	99	-
上野	2区	76	硝ビット	33区G20	方形	0.26	0.25	0.24	N-29°-E	A	8	117	101	-
上野	2区	77	硝ビット	33区C19	楕円形	0.3	0.28	0.23	N-7°-W	B	8	117	101	-
上野	2区	78	硝ビット	43区B1	楕円形	0.51	0.47	0.46	N-36°-E	C	8	117	101	-
上野	2区	79	硝ビット	43区B2	不定形	0.36	0.32	0.31	N-37°-W	C	15	117	221	-
上野	2区	80	硝ビット	33区F20	不定形	0.7	0.39	0.37	N-50°-W	B	7	117	99	-
上野	1区	85	硝ビット	43区I6	楕円形	0.25	0.24	0.22	N-15°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	86	硝ビット	43区I6	不定形	0.4	0.4	0.4	N-0°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	87	硝ビット	43区I6	86号ビットと重複。	-	-	-	N-0°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	88	硝ビット	43区I6	楕円形	0.52	0.43	0.36	N-14°-W	A	5	117	97	-
上野	1区	89	硝ビット	43区I6	楕円形	0.32	0.27	0.18	N-17°-W	A	5	117	97	-
上野	1区	90	硝ビット	43区I6	楕円形	0.35	0.3	0.22	N-49°-W	A	5	117	97	-
上野	1区	91	硝ビット	43区I6	楕円形	0.26	0.23	0.14	N-8°-E	A	5	117	97	-
上野	1区	92	硝ビット	43区I7	楕円形	0.55	0.2	0.16	N-46°-E	A	5	117	97	-
上野	1区	93	硝ビット	43区I6	楕円形	0.39	0.34	0.23	N-78°-W	B	5	117	97	-
上野	1区	94	硝ビット	43区I6	不定形	0.47	0.46	0.52	N-40°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	95	硝ビット	43区I6	楕円形	0.39	0.28	0.44	N-8°-W	B	5	117	97	-
上野	1区	96	硝ビット	43区I6	不定形	0.49	0.32	0.4	N-33°-E	A	5	117	97	-
上野	1区	98	硝ビット	43区I7	楕円形	0.36	0.31	0.37	N-48°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	99	硝ビット	43区I6	不定形	0.42	0.41	0.48	N-39°-E	A	5	117	97	-
上野	1区	100	硝ビット	43区I5	楕円形	0.37	0.28	0.35	N-76°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	101	硝ビット	43区I5	楕円形	0.38	0.3	0.46	N-6°-W	B	5	117	97	-
上野	1区	102	硝ビット	43区I5	楕円形	0.34	0.32	0.43	N-48°-W	C	5	117	97	-
上野	1区	103	硝ビット	43区I5	楕円形	0.51	0.49	0.5	N-25°-E	C	5	117	97	-
上野	1区	104	硝ビット	43区I5	楕円形	0.37	0.26	0.21	N-61°-W	A	5	117	97	-
上野	1区	105	硝ビット	43区I4	円形	0.30	-	0.21	-	B	5	117	97	-
上野	1区	106	硝ビット	43区I4	不定形	0.36	0.23	0.24	N-45°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	107	硝ビット	43区I4	楕円形	0.45	0.38	0.24	N-45°-W	B	5	117	97	-
上野	1区	108	硝ビット	43区I4	円形	0.52	-	0.60	-	C	5	117	97	-
上野	1区	109	硝ビット	43区I4	楕円形	0.76	0.63	0.57	N-41°-E	C	5	117	97	-
上野	1区	110	硝ビット	43区I4	109号ビットと重複。	-	-	-	N-41°-E	C	5	117	97	-
上野	1区	111	硝ビット	43区I4	楕円形	0.73	0.48	0.50	N-58°-E	C	5	117	97	-
上野	1区	112	硝ビット	43区I4	楕円形	0.73	0.48	0.70	N-58°-E	C	5	117	97	-
上野	1区	113	硝ビット	43区I4	楕円形	0.38	0.34	0.36	N-46°-W	B	5	117	97	-
上野	1区	114	硝ビット	43区I5	楕円形	0.55	0.47	0.37	N-62°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	115	硝ビット	43区I4	円形	0.37	-	0.24	-	B	5	117	97	-
上野	1区	116	硝ビット	43区I3	楕円形	0.21	0.17	0.22	N-43°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	117	硝ビット	43区I3	楕円形	0.30	0.26	0.23	N-60°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	118	硝ビット	43区K4	楕円形	0.32	0.27	0.30	N-58°-W	B	5	117	97	-
上野	1区	119	硝ビット	43区K4	楕円形	0.49	0.40	0.53	N-45°-W	C	5	117	97	-
上野	1区	120	硝ビット	43区K4	楕円形	0.28	0.27	0.23	N-13°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	121	硝ビット	43区K4	楕円形	0.46	0.37	0.57	N-14°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	122	硝ビット	43区K4	楕円形	0.33	0.30	0.31	N-83°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	123	硝ビット	43区K4	楕円形	0.34	0.32	0.23	N-84°-E	B	5	117	97	-
上野	1区	124	硝ビット	44区A9	楕円形	0.29	0.29	0.38	N-0°-E	図	2	117	86・94	-
上野	1区	125	硝ビット	44区A9	円形	0.30	-	0.42	-	A	2	117	94	-
上野	1区	126	硝ビット	44区A9	楕円形	0.40	0.34	0.27	N-64°-W	A	2	117	94	-
上野	1区	127	硝ビット	44区A9	円形	0.27	-	0.16	-	A	2	117	94	-
上野	1区	128	硝ビット	44区A9	楕円形	0.40	0.26	0.37	N-30°-E	A	2	117	94	-
上野	1区	129	硝ビット	44区A9	円形	0.27	-	0.29	-	A	2	117	94	-
上野	1区	130	硝ビット	44区A10	円形	0.28	-	0.24	-	A	2	117	94	-
上野	1区	131	硝ビット	44区B10	楕円形	0.37	0.27	0.26	N-57°-W	A	2	117	94	-
上野	1区	132	硝ビット	44区A10	楕円形	(0.25)	0.19	0.22	N-66°-E	A	2	117	94	-
上野	1区	133	硝ビット	44区A10	楕円形	0.24	0.23	0.31	N-68°-W	A	2	117	94	-
上野	1区	134	硝ビット	44区A10	円形	0.34	-	0.34	-	A	2	117	94	-
上野	1区	135	硝ビット	44区A10	楕円形	0.36	0.30	0.38	N-37°-W	A	2	117	94	-
上野	1区	136	硝ビット	44区A10	板方形	0.38	0.27	0.17	N-84°-E	A	2	117	94	-

遺構一覧表

遺跡	区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸	短軸	残存壁高	長軸方位	埋没土	ピット 創設No.	本文 頁	挿図 番号	写真 P.L
						m	m	m						
上野	1区	137	母ビット	44ZSA10	円形	0.42	—	0.46	—	A	2	117	94	—
上野	1区	138	母ビット	44ZSA10	不定形	0.65	0.46	0.40	N-21°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	139	母ビット	44ZSA10	楕円形	0.31	0.29	0.25	N-45°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	140	母ビット	44ZSA10	長方形	0.52	0.33	0.29	N-59°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	141	母ビット	44ZSA10	円形	0.23	—	0.31	—	A	2	117	94	—
上野	1区	142	母ビット	44ZSA10	楕円形	0.36	0.31	0.33	N-75°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	143	母ビット	44ZSA10	楕円形	0.24	0.23	0.16	N-23°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	144	母ビット	44ZSA10	楕円形	0.43	0.29	0.28	N-70°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	145	母ビット	44ZSA11	楕円形	0.45	0.30	0.25	N-48°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	146	母ビット	44ZSA10	楕円形	0.32	0.28	0.15	N-67°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	147	母ビット	44ZSA11	楕円形	0.40	0.34	0.27	N-79°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	148	母ビット	44ZSA10	円形	0.60	—	0.32	—	A	2	117	94	—
上野	1区	149	母ビット	44ZSA11	楕円形	0.30	0.28	0.20	N-32°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	150	母ビット	44ZSA11	円形	0.22	—	0.19	—	A	2	117	94	—
上野	1区	151	母ビット	43ZT11	楕円形	0.37	0.29	0.35	N-12°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	152	母ビット	43ZT11	円形	0.32	—	0.21	—	A	2	117	94	—
上野	1区	153	母ビット	43ZT11	楕円形	0.29	0.28	0.16	N-73°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	154	母ビット	43ZT11	楕円形	0.36	0.30	0.15	N-75°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	155	母ビット	43ZT11	楕円形	0.37	0.27	0.33	N-71°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	156	母ビット	43ZT11	楕円形	0.33	0.24	0.21	N-35°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	157	母ビット	44ZSA10	楕円形	0.28	0.25	0.20	N-64°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	158	母ビット	43ZT10	長方形	0.40	0.25	0.24	N-84°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	159	母ビット	44ZSA10	楕円形	0.31	0.28	0.25	N-61°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	160	母ビット	43ZT10	円形	0.18	—	0.18	—	A	2	117	94	—
上野	1区	161	母ビット	43ZT10	楕円形	0.31	0.21	0.21	N-86°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	162	母ビット	43ZT10	円形	0.22	0.20	計測不能	N-23°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	163	母ビット	43ZT10	楕円形	0.41	0.28	0.18	N-8°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	164	母ビット	43ZT10	楕円形	0.33	0.27	0.16	N-46°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	165	母ビット	43ZT10	楕円形	0.68	0.58	0.22	N-72°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	166	母ビット	43ZT10	楕円形	0.67	0.47	0.28	N-56°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	167	母ビット	43ZT11	楕円形	0.35	0.24	0.18	N-18°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	168	母ビット	43ZT11	楕円形	0.35	0.27	0.16	N-65°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	169	母ビット	43ZT11	楕円形	0.38	0.35	0.17	N-24°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	170	母ビット	43ZK08	楕円形	0.43	0.34	0.31	N-38°-E	C	12	117	218	—
上野	1区	171	母ビット	43ZK07	楕円形	0.25	0.20	0.39	N-68°-W	C	12	117	218	—
上野	1区	172	母ビット	43ZK08	楕円形	(0.28)	0.34	0.34	N-55°-W	B	12	117	218	—
上野	1区	173	母ビット	43ZK08	楕円形	0.57	0.51	0.52	N-49°-E	B	12	117	218	—
上野	1区	174	母ビット	43ZK08	不定形	0.75	0.74	0.55	N-71°-E	B	12	117	218	—
上野	1区	175	母ビット	43ZL8	楕円形	0.65	0.54	0.39	N-36°-W	B	4	117	96	—
上野	1区	176	母ビット	43ZK07	楕円形	0.32	0.28	0.38	N-17°-E	B	12	117	218	—
上野	1区	177	母ビット	43ZM8	楕円形	0.31	0.29	0.36	N-59°-W	A	4	117	96	—
上野	1区	178	母ビット	43ZM8	楕円形	0.35	0.30	0.31	N-82°-W	A	4	117	96	—
上野	1区	179	母ビット	43ZL7	楕円形	0.43	0.32	0.58	N-83°-E	B	4	117	96	—
上野	1区	180	母ビット	43ZK07	円形	0.35	—	0.33	—	A	4	117	96	—
上野	1区	181	母ビット	43ZK06	楕円形	0.30	0.28	0.37	N-6°-E	A	4	117	96	—
上野	1区	182	母ビット	43ZK06	楕円形	0.27	0.25	0.13	N-48°-E	A	4	117	96	—
上野	1区	183	母ビット	43ZK08	円形	0.31	—	0.34	—	A	4	117	96	—
上野	1区	184	母ビット	43ZK08	楕円形	0.35	0.27	0.23	N-78°-W	A	4	117	96	—
上野	1区	185	母ビット	43ZK08	楕円形	0.38	0.33	0.25	N-90°-E	A	4	117	96	—
上野	1区	186	母ビット	43ZK08	楕円形	0.33	0.28	0.40	N-61°-W	A	4	117	96	—
上野	1区	187	母ビット	43ZK09	楕円形	0.26	0.24	0.28	N-77°-E	A	4	117	96	—
上野	1区	188	母ビット	43ZK09	楕円形	0.30	0.23	0.33	N-79°-W	A	4	117	96	—
上野	1区	189	母ビット	43ZK09	楕円形	0.41	0.30	0.22	N-57°-E	B	3	117	95	—
上野	1区	190	母ビット	43ZK09	楕円形	0.38	0.33	0.24	N-15°-E	A	3	117	95	—
上野	1区	191	母ビット	43ZK08	楕円形	(0.28)	0.23	0.23	N-9°-W	A	4	117	96	—
上野	1区	192	母ビット	43ZK08	不定形	0.44	0.18	0.29	N-65°-W	A	4	117	96	—
上野	1区	193	母ビット	43ZK09	楕円形	0.35	0.30	0.35	N-14°-E	A	4	117	96	—
上野	1区	194	母ビット	43ZK09	楕円形	0.32	0.26	0.47	N-59°-E	A	4	117	96	—
上野	1区	195	母ビット	43ZK09	楕円形	0.25	0.23	0.26	N-35°-E	A	4	117	96	—
上野	1区	196	母ビット	43ZK09	楕円形	0.33	0.25	0.27	N-76°-E	A	4	117	96	—
上野	1区	198	母ビット	43ZK09	楕円形	0.37	0.32	0.29	N-63°-E	A	4	117	96	—
上野	1区	199	母ビット	43ZK08	楕円形	0.33	0.28	0.20	N-52°-E	A	4	117	96	—
上野	1区	200	母ビット	43ZK09	楕円形	0.39	0.36	0.66	N-22°-E	A	4	117	96	—
上野	1区	201	母ビット	43ZK08	楕円形	0.30	0.30	0.35	N-0°-E	A	3	117	95	—
上野	1区	202	母ビット	43ZK12	楕円形	0.70	0.63	0.66	N-16°-E	図3	3	117	95	—
上野	1区	203	母ビット	43ZK12	楕円形	0.53	0.47	0.60	N-42°-E	図3	3	117	95	—
上野	1区	204	母ビット	43ZS12	楕円形	0.40	0.37	0.24	N-43°-E	図3	2	117	94	—
上野	1区	205	母ビット	43ZK11	楕円形	0.32	0.31	0.36	N-73°-W	図3	3	117	95	—
上野	1区	206	母ビット	43ZK11	楕円形	0.33	0.28	0.49	N-45°-W	A	3	117	95	—
上野	1区	207	母ビット	43ZS11	楕円形	0.46	0.28	0.28	N-45°-W	B	2	117	94	—
上野	1区	208	母ビット	43ZS11	楕円形	0.38	0.35	0.35	N-40°-W	A	2	117	94	—
上野	1区	209	母ビット	43ZK10	楕円形	0.32	0.25	0.26	N-13°-E	A	2	117	94	—
上野	1区	211	母ビット	43ZS10	方形	0.29	0.29	0.50	N-0°-E	B	2	117	94	—
上野	1区	212	母ビット	43ZS11	楕円形	0.33	0.28	0.06	N-10°-W	B	2	117	94	—

8. ビット一覧表

通称	区	No.	通称種	グリッド	平面形	長軸	短軸	残存壁高	長軸方位	埋没土	ビット 削回数	本文 削回数	挿固 番号	写真 P.L
						m	m	m						
上野	1区	213	号ビット	43E510	楕円形	0.41	0.36	0.46	N-54°-W	A	2	117	94	-
上野	1区	214	号ビット	43E110	楕円形	0.73	0.50	0.44	N-70°-E	B	2	117	94	-
上野	1区	215	号ビット	43E110	長方形	0.48	0.25	0.33	N-4°-W	A	2	117	94	-
上野	1区	216	号ビット	43E110	楕円形	0.54	0.39	0.25	N-80°-E	A	2	117	94	-
上野	1区	217	号ビット	43E512	不定形	(0.84)	(0.52)	0.49	N-78°-E	図2	2	117	94	-
上野	1区	218	号ビット	43E510	楕円形	0.56	0.43	0.36	N-46°-W	A	2	117	94	-
上野	1区	219	号ビット	44E1A14	楕円形	0.58	0.52	0.32	N-50°-E	図9	2	117	94・211	-
上野	1区	220	号ビット	44E1A14	楕円形	0.45	0.43	0.77	N-62°-W	A	9	117	211	-
上野	1区	221	号ビット	43E513	楕円形	0.38	0.33	0.20	N-34°-E	図2	2	117	94	-
上野	3区	222	号ビット	44E2C15	円形	0.52	-	0.37	-	A	1	117	92	-
上野	3区	223	号ビット	44E2C14	楕円形	0.50	0.41	0.24	N-9°-W	A	1	117	92	-
上野	3区	224	号ビット	44E2C14	楕円形	0.38	0.36	0.50	N-13°-E	A+C	1	117	92	-
上野	3区	225	号ビット	44E2C14	楕円形	0.60	0.46	1.14	N-65°-E	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	226	号ビット	44E2C13	円形	0.40	-	0.23	-	C	1	117	92・93	-
上野	3区	227	号ビット	44E2C13	円形	0.48	-	0.57	-	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	228	号ビット	44E2C13	円形	0.40	-	0.25	-	A	1	117	92	-
上野	3区	229	号ビット	44E2C13	円形	(0.18)	-	0.38	計測不能	A	1	117	92	-
上野	3区	230	号ビット	44E2C14	楕円形	0.90	0.79	0.62	N-26°-W	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	231	号ビット	44E2C13	楕円形	0.95	0.74	0.64	N-54°-W	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	232	号ビット	44E2C13	不定形	(0.90)	0.64	0.74	N-85°-E	図1	1	117	92	-
上野	3区	234	号ビット	44E2C13	不定形	0.76	(0.45)	0.55	N-15°-E	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	236	号ビット	44E2C12	楕円形	0.61	0.52	0.60	N-80°-E	A	1	117	92	-
上野	3区	237	号ビット	44E2C12	楕円形	0.50	0.42	0.69	N-11°-E	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	239	号ビット	44E2D12	楕円形	0.82	0.52	0.20	N-53°-W	-	1	117	92	-
上野	3区	240	号ビット	44E2D12	長方形	0.75	0.45	0.60	N-75°-E	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	241	号ビット	44E2D12	不定形	(0.38)	0.57	0.21	N-14°-W	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	242	号ビット	44E2C11	楕円形	0.72	0.44	0.57	N-6°-W	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	243	号ビット	44E2C12	円形?	0.51	0.47	0.31	N-53°-E	A	1	117	92	-
上野	3区	244	号ビット	44E2D12	不定形	(0.43)	(0.33)	0.58	N-19°-W	A	1	117	92	-
上野	3区	249	号ビット	44E2C13	円形	0.40	-	0.54	-	A+C	1	117	92・93	-
上野	3区	250	号ビット	44E2C13	円形	0.34	-	0.61	-	A+C	1	117	92	-
上野	3区	251	号ビット	44E2C13	円形	0.40	-	0.31	-	A	1	117	92・93	-
上野	3区	253	号ビット	44E2C13	不定形	0.57	0.39	0.61	N-46°-W	A	1	117	92	-
上野	3区	254	号ビット	44E2C13	楕円形	0.54	0.59	0.80	N-57°-E	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	257	号ビット	44E2C12	楕円形	0.26	0.24	0.30	N-52°-W	A	1	117	92	-
上野	3区	258	号ビット	44E2D11	不定形	0.43	0.36	0.55	N-46°-E	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	261	号ビット	44E2C15	円形	0.36	-	0.31	-	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	262	号ビット	44E2C14	円形	0.40	-	0.10	-	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	264	号ビット	44E2C13	不定形	0.61	0.52	0.47	N-51°-W	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	265	号ビット	44E2C12	楕円形	0.41	0.40	0.09	N-19°-E	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	266	号ビット	44E2C11	楕円形	0.57	0.49	0.14	N-73°-W	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	267	号ビット	44E2C11	楕円形	0.46	0.39	0.07	N-8°-E	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	268	号ビット	44E2C12	不定形	0.80	(0.52)	0.50	N-59°-E	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	269	号ビット	44E2C12	不定形	(0.75)	0.64	0.33	N-18°-E	図1	1	117	92・93	-
上野	3区	270	号ビット	44E2C10	円形	0.45	-	0.67	-	図1	1	117	92	-
上野	3区	271	号ビット	44E2C12	楕円形	0.39	0.33	0.12	N-5°-W	A	1	117	92	-
上野	3区	274	号ビット	44E2D14	円形	0.24	-	-	26号住棟床 面より0.21	-	1	117	92	-
上野	2区	275	号ビット	43E2H3	楕円形	0.60	0.45	0.15	N-4°-W	図5	117	97	-	-
上野	2区	276	号ビット	43E2H3	円形	0.44	-	0.21	-	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	277	号ビット	43E2G2	不整形楕円形	0.43	0.30	0.31	N-10°-E	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	278	号ビット	43E2H2	円形	0.30	-	0.18	-	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	279	号ビット	43E2F3	楕円形	0.62	0.48	0.26	N-65°-W	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	280	号ビット	43E2E4	楕円形	0.37	0.26	0.03	N-64°-E	図6	117	98	-	-
上野	2区	281	号ビット	43E2E4	楕円形	0.27	0.26	0.03	N-8°-E	図6	117	98	-	-
上野	2区	282	号ビット	43E2E3	楕円形	0.26	0.20	0.39	N-82°-E	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	283	号ビット	43E2E3	円形	0.30	-	0.15	-	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	284	号ビット	43E2F3	楕円形	0.29	0.25	0.18	N-65°-W	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	285	号ビット	43E2F3	楕円形	0.36	0.32	0.18	N-1°-E	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	286	号ビット	43E2D3	円形	0.30	-	0.18	-	図15	117	100・221	-	-
上野	2区	287	号ビット	43E2D3	楕円形	0.32	0.25	0.34	N-8°-W	図15	117	100・221	-	-
上野	2区	288	号ビット	43E2D3	楕円形	0.35	0.30	0.18	N-1°-E	図15	117	99・221	-	-
上野	2区	289	号ビット	43E2D2	楕円形	0.34	0.30	0.25	N-25°-W	図15	117	99・221	-	-
上野	2区	290	号ビット	43E2E2	楕円形	0.42	0.31	0.35	N-37°-W	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	291	号ビット	43E2E2	楕円形	0.44	0.31	0.14	N-32°-E	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	292	号ビット	43E2D2	不整形楕円形	0.43	0.33	0.51	N-42°-W	図15	117	99・221	-	-
上野	2区	293	号ビット	43E2D2	楕円形	0.27	0.22	0.38	N-32°-W	図15	117	99・221	-	-
上野	2区	294	号ビット	43E2E1	楕円形	0.40	0.35	0.37	N-17°-W	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	295	号ビット	43E2G2	楕円形	0.35	0.25	0.39	N-66°-E	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	296	号ビット	43E2F2	円形	0.25	-	0.22	-	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	297	号ビット	43E2F2	楕円形	0.38	0.27	0.18	N-27°-W	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	298	号ビット	43E2F1	楕円形	0.25	0.22	0.14	N-0°-E	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	299	号ビット	43E2F1	楕円形	0.65	0.20以上	0.45	N-40°-E	図7	117	99・100	-	-
上野	2区	300	号ビット	43E2F1	楕円形	0.33	0.25	0.62	N-90°-E	図7	117	99・100	-	-

遺構一覧表

遺跡	区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸	短軸	残存壁高	長軸方位	埋没土	ピット 創設回数	本文 番号	挿図 番号	写真 P.L
						m	m	m						
上町	2区	301	碁ビット	43E202	円形	0.24	—	0.42	—	図	15	117	99・221	—
上町	2区	302	碁ビット	43E3	楕円形	0.53	0.37	0.27	N-16°-W	図	7	117	99・100	—
時次西組屋谷	1区	1	碁ビット	43E117	楕円形	0.53	0.41	0.48	N-83°-E	—	9	251	210・211	—
時次西組屋谷	1区	2	碁ビット	43E117	円形	0.41	—	0.34	—	—	9	251	210・211	—
時次西組屋谷	1区	4	碁ビット	43E117	円形	0.29	0.28	0.29	N-71°-W	—	9	251	210・211	—
時次西組屋谷	1区	5	碁ビット	43E116	楕円形	0.42	0.40	0.46	N-76°-W	—	9	251	210・211	—
時次西組屋谷	1区	6	碁ビット	43E117	不定形	0.33	(0.32)	0.40	N-13°-W	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	8	碁ビット	43E517	円形	0.41	—	0.50	—	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	9	碁ビット	43E517	円形	0.33	—	0.49	—	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	11	碁ビット	43E817	楕円形	0.40	0.36	0.52	N-5°-W	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	12	碁ビット	43E816	楕円形	0.43	0.38	0.87	N-56°-W	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	14	碁ビット	43E816	楕円形	0.41	0.39	0.54	N-20°-E	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	15	碁ビット	43E517	楕円形	0.51	0.43	0.64	N-10°-E	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	16	碁ビット	43E517	不定形	0.49	0.48	0.76	N-10°-E	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	18	碁ビット	43E117	楕円形	0.42	(0.22)	0.49	N-12°-W	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	19	碁ビット	44E217	不定形	(0.25)	0.32	0.11	N-26°-W	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	20	碁ビット	44E217	楕円形	0.65	0.50	0.16	N-26°-W	—	9	251	211	91
時次西組屋谷	1区	21	碁ビット	44E217	楕円形	0.76	0.56	0.38	N-70°-W	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	22	碁ビット	44E215	楕円形	0.65	0.64	0.40	N-37°-W	—	9	251	211・212	91
時次西組屋谷	1区	23	碁ビット	44E217	楕円形	(0.22)	0.19	0.19	N-67°-E	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	24	碁ビット	44E217	楕円形	0.36	0.28	0.54	N-39°-W	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	25	碁ビット	44E215	円形	0.70	—	0.40	—	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	26	碁ビット	43E116	楕円形	0.47	0.34	0.53	N-82°-W	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	27	碁ビット	43E115	不定形	0.73	0.65	0.57	N-26°-W	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	28	碁ビット	43E515	楕円形	0.46	0.39	0.23	N-69°-W	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	29	碁ビット	43E516	不定形	—	—	0.28	計測不能	—	9	251	211	—
時次西組屋谷	1区	30	碁ビット	43E516	円形	0.35	—	0.20	—	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	32	碁ビット	43E516	楕円形	(0.31)	0.30	0.16	N-74°-E	—	9	251	211	—
時次西組屋谷	1区	37	碁ビット	43E515	楕円形	1.10	0.59	0.11	N-88°-E	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	39	碁ビット	43E816	楕円形	0.52	0.50	0.51	N-43°-W	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	40	碁ビット	43E016	不定形	0.70	0.55	0.55	N-43°-W	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	44	碁ビット	43E016	円形	0.50	—	0.39	—	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	49	碁ビット	43E016	不定形	0.50	0.27	0.51	N-23°-E	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	50	碁ビット	43E016	不定形	(0.53)	0.53	0.67	N-70°-W	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	54	碁ビット	43E016	円形	0.31	—	0.41	—	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	55	碁ビット	43E016	楕円形	0.40	0.37	0.58	N-77°-W	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	56	碁ビット	43E016	円形	0.34	—	0.41	—	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	57	碁ビット	43E016	楕円形	0.31	0.28	0.21	N-7°-E	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	58	碁ビット	43E016	円形	0.30	—	0.23	—	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	60	碁ビット	43E916	楕円形	0.32	0.30	0.26	—	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	61	碁ビット	43E015	漢丸方形	0.43	0.40	0.57	N-88°-W	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	63	碁ビット	43E015	楕円形	0.47	0.40	0.57	N-56°-E	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	64	碁ビット	43E015	円形	0.36	—	0.46	—	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	65	碁ビット	43E814	楕円形	0.61	0.51	0.74	N-73°-W	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	68	碁ビット	43E813	楕円形	0.50	0.37	0.58	N-74°-W	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	70	碁ビット	43E813	楕円形	0.74	0.49	0.58	N-16°-W	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	74	碁ビット	43E013	楕円形	0.53	0.46	0.65	N-85°-W	—	10	251	214・215	—
時次西組屋谷	1区	76	碁ビット	43E014	楕円形	0.30	0.25	0.29	N-80°-W	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	80	碁ビット	43E014	円形	0.51	—	0.52	—	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	82	碁ビット	43E016	楕円形	0.47	0.38	0.44	N-69°-W	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	85	碁ビット	43E916	楕円形	0.58	0.44	0.19	N-84°-W	—	10	251	215・216	91
時次西組屋谷	1区	86	碁ビット	43E116	楕円形	0.59	0.31	0.57	N-80°-W	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	87	碁ビット	43E116	楕円形	0.48	0.41	0.48	N-19°-E	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	90	碁ビット	43E116	円形	0.33	—	0.50	—	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	92	碁ビット	43E014	楕円形	0.58	0.42	0.26	N-40°-E	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	94	碁ビット	43E014	楕円形	0.43	0.33	0.47	N-0°-E	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	95	碁ビット	43E814	円形	0.48	—	0.56	—	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	96	碁ビット	43E814	楕円形	0.74	0.65	0.25	N-80°-W	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	97	碁ビット	43E015	円形	0.40	—	0.44	—	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	98	碁ビット	43E015	楕円形	0.43	0.40	0.54	N-29°-W	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	100	碁ビット	43E815	楕円形	0.44	0.40	0.21	N-47°-W	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	101	碁ビット	43E815	円形	0.46	—	0.12	—	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	102	碁ビット	43E815	楕円形	0.40	0.35	0.77	N-25°-W	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	103	碁ビット	43E815	円形	0.35	—	0.42	—	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	105	碁ビット	43E815	楕円形	0.51	0.39	0.75	N-79°-W	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷	1区	107	碁ビット	43E815	円形	0.36	—	0.38	—	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷	1区	108	碁ビット	43E815	楕円形	0.30	0.28	0.42	N-11°-W	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷	1区	109	碁ビット	43E815	楕円形	0.44	0.38	0.47	N-82°-E	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷	1区	114	碁ビット	43E115	円形	0.40	—	0.78	—	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷	1区	115	碁ビット	43E814	楕円形	0.45	0.39	0.50	N-38°-W	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷	1区	116	碁ビット	44E214	楕円形	(0.56)	0.55	0.59	N-55°-W	—	9	251	211・212	—
時次西組屋谷	1区	117	碁ビット	43E816	円形	0.49	—	0.51	—	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷	1区	119	碁ビット	43E818	楕円形	0.47	0.40	0.69	N-90°-E	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷	1区	120	碁ビット	43E517	円形	0.38	—	0.54	—	—	9	251	211・213	—

8. ビット一覧表

通称	区	No.	通称種	グリッド	平面形	長軸	短軸	残存壁高	長軸方位	埋没土	ビット 創回数	本文 頁	挿図 番号	写真 PL
						m	m	m						
時次西組屋谷戸	1区	121	号ビット	43E517	円形	0.43	—	0.28	—	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷戸	1区	122	号ビット	43E517	円形	0.30	—	0.38	—	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷戸	1区	123	号ビット	43E517	円形	0.34	—	0.35	—	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷戸	1区	124	号ビット	43E516	円形	0.29	—	0.31	—	—	11	251	217	—
時次西組屋谷戸	1区	125	号ビット	43E516	楕円形	0.59	0.45	0.52	N-38°-E	—	11	251	217	—
時次西組屋谷戸	1区	126	号ビットA	43E516	楕円形	0.34	0.34	0.26	N-26°-E	—	11	251	217	—
時次西組屋谷戸	1区	126	号ビットB	43E516	楕円形	0.26	0.25	0.46	N-26°-E	—	11	251	217	—
時次西組屋谷戸	1区	127	号ビット	43E516	楕円形	0.36	0.33	0.41	N-22°-E	—	11	251	217	—
時次西組屋谷戸	1区	128	号ビット	43E516	楕円形	0.76	0.54	0.38	N-52°-E	—	11	251	217	—
時次西組屋谷戸	1区	129	号ビット	43E516	楕円形	0.50	0.34	0.30	N-0°-E	—	11	251	217	—
時次西組屋谷戸	1区	130	号ビット	43E516	楕円形	0.54	0.31	0.54	N-43°-E	—	11	251	217	—
時次西組屋谷戸	1区	131	号ビット	43E516	円形	0.35	—	0.54	—	—	11	251	217	—
時次西組屋谷戸	1区	132	号ビット	43E516	円形	0.35	—	0.86	—	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷戸	1区	136	号ビット	43E518	円形	0.34	—	0.46	—	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷戸	1区	137	号ビット	43E517	楕円形	0.41	(0.20)	0.38	N-57°-W	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷戸	1区	140	号ビット	43E514	楕円形	0.42	0.38	0.27	N-12°-E	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷戸	1区	141	号ビット	43E516	楕円形	0.49	0.38	0.43	N-22°-W	—	11	251	217	—
時次西組屋谷戸	1区	142	号ビット	43E515	不定形	0.62	0.37	0.56	N-77°-E	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷戸	1区	143	号ビット	43E515	不定形	0.62	0.40	0.45	N-46°-W	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷戸	1区	144	号ビット	43E518	楕円形	0.41	0.37	0.46	N-23°-E	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷戸	1区	145	号ビット	43E517	円形	0.45	—	0.63	—	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷戸	1区	146	号ビット	43E515	楕円形	0.71	0.53	0.78	N-0°-E	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷戸	1区	150	号ビット	43E516	円形	0.29	—	0.42	—	—	10	251	215・216	—
時次西組屋谷戸	1区	151	号ビット	43E517	円形	0.22	—	1号溝底面 から0.15	—	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷戸	1区	152	号ビット	43E517	円形	0.26	—	0.53	—	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷戸	1区	154	号ビット	44E515	楕円形	0.75	0.62	0.71	N-36°-E	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷戸	1区	155	号ビット	44E515	円形	0.46	—	0.14	—	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷戸	1区	156	号ビット	43E516	楕円形	0.77	0.58	0.75	N-14°-E	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷戸	1区	157	号ビット	43E515	楕円形	0.92	0.80	0.44	N-18°-E	—	9	251	211・213	—
時次西組屋谷戸	2区	159	号ビット	43E515	楕円形	0.64	0.52	0.73	N-0°-E	図	17	251	223	—
時次西組屋谷戸	2区	160	号ビット	43E515	楕円形	0.63	0.55	0.56	N-69°-W	図	17	251	223	—
時次西組屋谷戸	2区	161	号ビット	43E515	楕円形	0.39	0.36	0.21	N-90°-E	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	162	号ビット	43E515	楕円形	0.42	0.40	0.25	N-0°-E	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	163	号ビット	43E515	楕円形	0.39	0.27	0.51	N-24°-W	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	164	号ビット	43E515	楕円形	0.31	0.28	0.42	N-0°-E	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	165	号ビット	43E515	楕円形	0.25	0.23	0.34	N-0°-E	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	166	号ビット	43E515	楕円形	0.70	0.52	0.65	N-0°-E	C	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	167	号ビット	43E515	楕円形	0.53	0.36	0.34	N-35°-E	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	168	号ビット	43E515	楕円形	0.53	0.45	0.41	N-64°-W	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	169	号ビット	43E515	楕円形	0.40	0.28	0.30	N-62°-E	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	170	号ビット	43E515	楕円形	0.27	0.22	0.29	N-19°-E	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	171	号ビット	43E515	楕円形	0.40	0.25	0.29	N-65°-E	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	172	号ビット	43E515	楕円形	0.30	0.25	0.30	N-22°-W	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	173	号ビット	43E515	楕円形	0.23	0.20	0.25	N-67°-W	A	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	174	号ビット	43E515	楕円形	0.26	0.21	0.33	N-0°-E	A	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	175	号ビット	43E515	楕円形	0.28	0.26	0.25	N-0°-E	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	176	号ビット	43E515	楕円形	0.28	0.21	0.14	N-60°-W	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	177	号ビット	43E515	楕円形	0.30	0.26	0.14	N-0°-E	A	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	178	号ビット	43E515	楕円形	0.20	0.16	0.16	N-90°-E	A	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	179	号ビット	43E515	楕円形	0.36	0.31	0.36	N-67°-E	C	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	180	号ビット	43E515	楕円形	0.31	0.25	0.37	N-27°-W	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	181	号ビット	43E515	楕円形	0.27	0.21	0.15	N-90°-E	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	182	号ビット	43E515	楕円形	0.25	0.18	0.28	N-46°-E	A	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	183	号ビット	43E515	楕円形	0.36	0.31	0.47	N-40°-W	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	184	号ビット	43E515	楕円形	0.40	(0.22)	0.29	N-40°-W	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	185	号ビット	43E515	楕円形	0.20	0.20	0.26	N-0°-E	A	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	186	号ビット	43E515	楕円形	0.36	0.30	0.39	N-0°-E	C	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	187	号ビット	43E515	楕円形	0.36	0.33	0.48	N-90°-E	C	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	188	号ビット	43E515	楕円形	0.35	0.29	0.43	N-46°-E	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	189	号ビット	43E515	楕円形	0.43	0.27	0.37	N-0°-E	B	15	251	221	—
時次西組屋谷戸	2区	190	号ビット	43E515	楕円形	0.20	0.18	0.28	N-56°-W	B	6	251	98	—
時次西組屋谷戸	2区	191	号ビット	43E515	楕円形	0.28	0.22	0.24	N-35°-W	B	6	251	98	—
時次西組屋谷戸	2区	192	号ビット	43E515	楕円形	0.30	0.25	0.33	N-60°-E	B	6	251	98	—
時次西組屋谷戸	2区	193	号ビット	43E515	不定形	0.29	0.20	0.26	N-77°-W	B	6	251	98	—
時次西組屋谷戸	2区	194	号ビット	43E515	楕円形	0.26	0.22	0.32	N-0°-E	B	6	251	98	—
時次西組屋谷戸	2区	195	号ビット	43E515	楕円形	0.36	0.27	0.38	N-10°-E	A	6	251	98	—
時次西組屋谷戸	2区	196	号ビット	43E515	楕円形	0.31	0.28	0.60	N-48°-W	B	6	251	98	—
時次西組屋谷戸	2区	197	号ビット	43E515	楕円形	0.35	0.28	0.21	N-0°-E	B	6	251	98	—
時次西組屋谷戸	2区	198	号ビット	43E515	円形	0.28	—	0.40	—	—	6	251	98	—
時次西組屋谷戸	2区	199	号ビット	43E515	楕円形	0.40	0.35	0.40	N-50°-E	B	6	251	98	—
時次西組屋谷戸	2区	200	号ビット	43E515	楕円形	0.25	0.20	0.41	N-32°-W	B	6	251	98	—
時次西組屋谷戸	2区	201	号ビット	43E515	楕円形	0.33	0.27	0.19	N-32°-E	B	6	251	98	—
時次西組屋谷戸	2区	202	号ビット	43E515	楕円形	0.47	0.41	0.21	N-63°-E	B	6	251	98	—

道構一覧表

道線	区	No.	道種	グリッド	平面形	長軸	短軸	残存壁高	長軸方位	埋没土	ピット 創設回数	本文 頁	挿図 番号	写真 P.L
						m	m	m						
時次西郷屋谷戸	2区	203	号ビット	43XE F6	楕円形	0.21	0.19	0.26	N-0°-E	B	6	251	98	-
時次西郷屋谷戸	2区	204	号ビット	43XE F6	楕円形	0.22	0.21	0.26	N-0°-E	B	6	251	98	-
時次西郷屋谷戸	2区	205	号ビット	43XE F6	楕円形	0.31	0.25	0.48	N-40°-E	B	6	251	98	-
時次西郷屋谷戸	2区	206	号ビット	43XE F6	楕円形	0.25	0.21	0.28	N-50°-W	C	6	251	98	-
時次西郷屋谷戸	2区	207	号ビット	43XE F6	楕円形	0.32	0.30	0.48	N-15°-W	B	6	251	98	-
時次西郷屋谷戸	2区	208	号ビット	43XE F6	楕円形	0.27	0.25	0.30	N-28°-E	B	6	251	98	-
時次西郷屋谷戸	2区	209	号ビット	43XE F6	楕円形	0.24	0.20	0.19	N-62°-W	B	6	251	98	-
時次西郷屋谷戸	2区	210	号ビット	43XF7	楕円形	0.28	0.24	0.22	N-90°-E	B	6	251	98	-
時次西郷屋谷戸	2区	211	号ビット	43XD6	楕円形	0.20	0.18	0.53	N-0°-E	園	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	212	号ビット	43XD6	楕円形	0.54	0.48	0.53	N-0°-E	C	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	213	号ビット	43XD6	楕円形	0.23	0.16	0.31	N-20°-E	A	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	214	号ビット	43XD6	楕円形	0.35	0.30	0.64	N-90°-E	C	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	215	号ビット	43XD6	楕円形	(0.30)	0.28	0.25	N-29°-E	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	216	号ビット	43XD6	楕円形	0.25	0.20	0.40	N-68°-W	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	217	号ビット	43XD5	楕円形	0.30	0.26	0.27	N-25°-E	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	218	号ビット	43XD6	楕円形	0.26	0.23	0.42	N-45°-E	C	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	219	号ビット	43XC5	円形	0.29	-	0.19	-	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	220	号ビット	43XC5	円形	0.30	-	0.38	-	C	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	221	号ビット	43XC5	楕円形	0.51	0.46	0.44	N-90°-E	C	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	222	号ビット	43XC5	楕円形	0.36	0.23	0.36	N-60°-W	C	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	223	号ビット	43XB5	楕円形	0.38	0.35	0.23	N-52°-W	C	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	224	号ビット	43XB5	楕円形	0.36	0.25	0.27	N-10°-E	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	225	号ビット	43XD5	楕円形	(0.30)	0.28	0.29	N-60°-E	A	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	226	号ビット	43XD5	楕円形	(0.35)	0.35	0.22	N-60°-E	A	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	227	号ビット	43XD5	不定形	0.40	0.30	0.52	N-15°-E	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	228	号ビット	43XD5	不定形	0.50	0.40	0.50	N-0°-E	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	229	号ビット	43XD5	楕円形	0.27	0.24	0.48	N-40°-E	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	230	号ビット	43XD5	楕円形	0.39	0.36	0.67	N-0°-E	A	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	231	号ビット	43XC5	楕円形	0.30	0.25	0.39	N-0°-E	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	232	号ビット	43XC5	楕円形	0.58	0.43	0.31	N-0°-E	C	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	233	号ビット	43XC5	楕円形	0.38	0.32	0.43	N-30°-E	D	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	234	号ビット	43XC5	楕円形	0.40	0.33	0.42	N-29°-E	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	235	号ビット	43XB5	楕円形	0.21	0.19	0.16	N-50°-E	D	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	236	号ビット	43XB5	楕円形	0.31	0.24	0.24	N-19°-E	D	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	237	号ビット	43XB4	楕円形	0.30	0.25	0.22	N-58°-W	D	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	238	号ビット	43XB5	楕円形	0.32	0.28	0.33	N-14°-W	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	239	号ビット	43XB5	楕円形	0.26	0.22	0.17	N-70°-W	C	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	240	号ビット	43XB5	楕円形	(0.23)	0.23	0.25	N-0°-E	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	241	号ビット	43XB4	楕円形	0.45	0.30	0.32	N-36°-E	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	242	号ビット	43XB4	楕円形	0.25	0.20	0.27	N-0°-E	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	243	号ビット	43XA4	楕円形	0.30	0.27	0.41	N-90°-E	B	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	244	号ビット	43XA4	楕円形	0.40	0.35	0.35	N-90°-E	A	15	251	221	-
時次西郷屋谷戸	2区	245	号ビット	43XA5	楕円形	0.36	0.30	0.33	N-43°-W	C	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	246	号ビット	43XA5	楕円形	(0.50)	0.35	0.22	N-33°-W	B	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	247	号ビット	43XA5	楕円形	0.40	0.35	0.42	N-53°-E	C	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	248	号ビット	42XB15	楕円形	0.35	0.31	0.28	N-22°-E	B	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	249	号ビット	42XB15	楕円形	0.41	0.34	0.28	N-0°-E	B	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	250	号ビット	42XB15	楕円形	0.32	0.25	0.26	N-61°-E	C	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	251	号ビット	42XB15	楕円形	0.34	0.26	0.32	N-43°-W	C	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	252	号ビット	42XB14	楕円形	0.28	0.21	0.27	N-43°-W	C	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	253	号ビット	42XB14	楕円形	0.32	0.25	0.30	N-0°-E	B	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	254	号ビット	43XB4	楕円形	0.27	0.23	0.20	N-38°-W	B	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	255	号ビット	43XB4	楕円形	0.38	0.30	0.27	N-20°-E	B	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	256	号ビット	42XB13	楕円形	(0.30)	0.28	0.22	N-0°-E	B	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	257	号ビット	42XB13	円形	0.24	-	0.40	-	B	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	258	号ビット	42XB54	楕円形	0.46	0.42	0.28	N-35°-E	A	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	259	号ビット	42XB9	楕円形	0.35	0.32	0.44	N-62°-W	D	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	260	号ビット	42XB8	楕円形	0.44	0.42	0.41	N-0°-E	D	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	261	号ビット	42XB9	不定形	0.41	0.30	0.11	N-0°-E	D	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	262	号ビット	42XB9	楕円形	0.56	0.43	0.38	N-90°-E	C	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	263	号ビット	42XB9	楕円形	0.36	0.33	0.34	N-0°-E	C	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	264	号ビット	42XB9	楕円形	0.36	0.30	0.24	N-90°-E	C	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	266	号ビット	42XB8	楕円形	0.56	0.50	0.41	N-22°-E	B	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	267	号ビット	42XB8	楕円形	0.58	0.43	0.27	N-0°-E	C	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	268	号ビット	42XB8	楕円形	0.56	0.50	0.37	N-90°-E	C	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	269	号ビット	42XB9	楕円形	0.57	0.50	0.45	N-51°-W	D	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	270	号ビット	42XB9	楕円形	0.54	0.42	0.22	N-60°-W	B	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	271	号ビット	42XB55	楕円形	0.40	0.30	0.32	N-30°-E	D	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	272	号ビット	42XB16	楕円形	0.25	0.23	0.18	N-0°-E	D	17	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	273	号ビット	42XB17	楕円形	0.45	0.38	0.20	N-90°-E	B	16	251	223	-
時次西郷屋谷戸	2区	274	号ビット	42XB17	楕円形	0.53	0.42	0.63	N-16°-W	A	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	275	号ビット	42XB17	楕円形	0.35	0.30	0.34	N-30°-W	A	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	276	号ビット	42XB17	楕円形	0.39	0.34	0.33	N-52°-W	A	16	251	222	-
時次西郷屋谷戸	2区	277	号ビット	43XA6	楕円形	0.23	0.18	0.37	N-39°-W	B	15	251	221	-

8. ビット一覧表

通称	区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸	短軸	残存壁高	長軸方位	埋没土	ビット 創回数	本文 頁	挿図 番号	写真 P.L	
						m	m	m							
時次西組屋谷	2区	276	円ビット	43E06	楕円形	0.25	0.17	0.34	N-19°-W	A	15	251	221	-	
時次西組屋谷	2区	279	円ビット	43E06	楕円形	0.29	0.23	0.39	N-10°-W	A	15	251	221	-	
時次西組屋谷	2区	280	円ビット	42E18	楕円形	0.44	0.34	0.31	N-90°-E	D	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	281	円ビット	42E18	楕円形	0.37	0.34	0.50	N-20°-E	D	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	287	円ビット	43E47	楕円形	0.32	0.30	0.23	N-0°-E	D	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	288	円ビット	43E06	楕円形	0.35	0.26	0.41	N-73°-W	D	15	251	221	-	
時次西組屋谷	2区	289	円ビット	43E06	楕円形	0.24	0.22	0.33	N-41°-W	D	15	251	221	-	
時次西組屋谷	2区	290	円ビット	43E06	楕円形	0.37	0.26	0.33	N-66°-W	D	15	251	221	-	
時次西組屋谷	2区	291	円ビット	43E06	不定形	0.38	0.25	0.28	N-15°-W	B	15	251	221	-	
時次西組屋谷	2区	292	円ビット	43E06	楕円形	0.35	0.30	0.45	N-0°-E	A	15	251	221	-	
時次西組屋谷	2区	293	円ビット	43E06	楕円形	0.30	0.22	0.39	N-21°-E	D	15	251	221	-	
時次西組屋谷	2区	294	円ビット	43E06	楕円形	0.29	0.18	0.27	N-45°-E	D	15	251	221	-	
時次西組屋谷	2区	295	円ビット	43E06	楕円形	0.31	0.27	0.28	N-77°-E	B	15	251	221	-	
時次西組屋谷	2区	296	円ビット	43E06	楕円形	0.26	0.23	0.41	N-90°-E	D	15	251	221	-	
時次西組屋谷	2区	297	円ビット	43E06	楕円形	0.43	0.29	0.54	N-37°-W	B	15	251	221	-	
時次西組屋谷	2区	298	円ビット	43E06	円形	0.40	-	0.31	-	-	B	15	251	221	-
時次西組屋谷	2区	301	円ビット	42E59	楕円形	0.55	0.32	0.65	N-70°-W	図	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	302	円ビット	42E59	楕円形	0.65	0.60	0.47	N-0°-E	図	16	251	222	91	
時次西組屋谷	2区	303	円ビット	42E58	楕円形	0.60	0.43	0.27	N-90°-E	B	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	304	円ビット	42E58	楕円形	0.38	0.35	0.17	N-90°-E	B	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	305	円ビット	42E57	楕円形	0.35	0.27	0.20	N-35°-W	D	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	306	円ビット	42E59	楕円形	0.33	0.30	0.45	N-90°-E	A	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	307	円ビット	42E88	楕円形	0.33	0.25	0.29	N-90°-E	A	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	308	円ビット	42E110	楕円形	0.70	0.65	0.23	N-0°-E	C	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	309	円ビット	43E49	楕円形	0.42	0.33	0.26	N-64°-W	B	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	314	円ビット	43E09	楕円形	0.45	0.41	0.35	N-48°-W	C	14	251	220	-	
時次西組屋谷	2区	315	円ビット	43E08	楕円形	0.37	(0.27)	0.22	N-60°-W	A	14	251	220	-	
時次西組屋谷	2区	316	円ビット	43E18	楕円形	0.39	0.30	0.43	N-15°-W	A	6	251	98	-	
時次西組屋谷	2区	317	円ビット	42E58	楕円形	0.34	0.26	0.22	N-40°-E	A	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	319	円ビット	43E010	楕円形	0.29	0.25	0.33	N-40°-W	C	14	251	220	-	
時次西組屋谷	2区	320	円ビット	43E10	楕円形	0.32	0.26	0.26	N-75°-E	C	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	321	円ビット	43E10	楕円形	0.40	0.32	0.28	N-10°-W	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	322	円ビット	43E10	楕円形	0.26	0.21	0.31	N-90°-E	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	323	円ビット	43E10	楕円形	0.28	0.24	0.25	N-10°-E	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	324	円ビット	43E09	円形	0.37	-	0.61	-	図	14	251	220	-	
時次西組屋谷	2区	325	円ビット	43E19	楕円形	0.23	0.20	0.28	N-19°-W	C	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	326	円ビット	43E19	楕円形	0.34	0.32	0.24	N-59°-E	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	327	円ビット	43E19	不定形	0.55	0.40	0.39	N-32°-E	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	328	円ビット	43E19	楕円形	0.30	0.27	0.55	N-13°-W	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	329	円ビット	43E18	楕円形	0.24	0.20	0.25	N-73°-W	A	6	251	98	-	
時次西組屋谷	2区	330	円ビット	43E09	楕円形	0.31	0.19	0.36	N-18°-E	C	14	251	220	-	
時次西組屋谷	2区	332	円ビット	43E810	円形	0.44	-	0.54	-	図	14	251	220	-	
時次西組屋谷	2区	333	円ビット	42E77	楕円形	0.67	(0.56)	0.29	N-28°-E	A	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	334	円ビット	43E10	楕円形	0.42	0.35	0.51	N-73°-W	図	14	251	220	-	
時次西組屋谷	2区	335	円ビット	43E07	楕円形	0.40	0.37	0.60	N-4°-W	A	14	251	220	-	
時次西組屋谷	2区	336	円ビット	43E011	楕円形	0.28	0.24	0.39	N-9°-E	A	14	251	220	-	
時次西組屋谷	2区	337	円ビット	43E011	楕円形	0.45	0.30	0.35	N-49°-W	C	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	338	円ビット	43E11	不定形	0.42	0.31	0.32	N-21°-E	C	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	339	円ビット	43E10	楕円形	0.33	0.24	0.38	N-21°-W	D	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	340	円ビット	43E10	楕円形	0.22	0.20	0.30	N-41°-W	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	341	円ビット	43E08	楕円形	0.32	0.26	0.41	N-55°-W	C	14	251	220	-	
時次西組屋谷	2区	344	円ビット	43E49	楕円形	0.54	0.39	0.31	N-86°-W	図	14	251	220	89	
時次西組屋谷	2区	345	円ビット	42E18	楕円形	0.60	0.54	0.64	N-90°-E	図	16	251	222	-	
時次西組屋谷	2区	346	円ビット	43E811	楕円形	0.31	0.30	0.39	N-46°-W	C	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	347	円ビット	43E811	楕円形	0.37	0.31	0.36	N-66°-E	C	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	348	円ビット	43E811	楕円形	0.34	0.28	0.33	N-8°-E	B	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	349	円ビット	43E811	隅丸長方形	0.35	0.23	0.25	N-5°-W	C	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	350	円ビット	43E811	円形	0.37	-	0.26	-	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	351	円ビット	43E811	楕円形	0.33	0.28	0.43	N-45°-W	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	352	円ビット	43E811	楕円形	0.61	0.43	0.41	N-30°-W	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	353	円ビット	43E811	楕円形	0.36	0.33	0.33	N-48°-E	B	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	354	円ビット	43E811	円形	0.31	-	0.24	-	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	355	円ビット	43E811	円形	0.25	-	0.25	-	C	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	356	円ビット	43E812	楕円形	0.31	0.28	0.27	N-0°-E	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	357	円ビット	43E812	楕円形	0.31	0.27	0.23	N-90°-E	C	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	358	円ビット	43E813	円形	0.40	-	0.23	-	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	359	円ビット	43E813	円形	0.28	-	0.26	-	C	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	360	円ビット	43E811	楕円形	0.30	0.25	0.55	N-12°-W	A	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	361	円ビット	43E811	楕円形	0.33	0.30	0.17	N-90°-E	A+D	13	251	219	-	
時次西組屋谷	2区	362	円ビット	43E801	円形	0.28	-	0.27	-	A+D	12	251	218	-	
時次西組屋谷	2区	363	円ビット	43E810	円形	0.34	-	0.50	-	C	12	251	218	-	
時次西組屋谷	2区	364	円ビット	43E811	円形	0.36	-	0.89	-	C	12	251	218	-	
時次西組屋谷	2区	365	円ビット	43E811	円形	0.36	-	0.24	-	D	12	251	218	-	
時次西組屋谷	2区	366	円ビット	43E111	楕円形	0.31	0.28	0.40	N-52°-W	C	12	251	218	-	

遺構一覧表

遺跡	区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸	短軸	残存壁高	長軸方位	埋没土	ピット 創設No.	本文 頁	挿図 番号	写真 P.L
						m	m	m						
時沢西組屋谷戸	2区	367	碁ビット	43区I11	円形	0.27	—	0.24	—	A	12	251	218	—
時沢西組屋谷戸	2区	368	碁ビット	43区H12	円形	0.32	—	0.23	—	A	12	251	218	—
時沢西組屋谷戸	2区	369	碁ビット	43区H11	楕円形	0.35	0.28	0.20	N-55° -E	A	12	251	218	—
時沢西組屋谷戸	2区	370	碁ビット	43区I11	楕円形	0.33	0.29	0.27	N-30° -W	A	12	251	218	—
時沢西組屋谷戸	2区	371	碁ビット	43区I11	楕円形	0.26	0.21	0.29	N-34° -W	D	12	251	218	—
時沢西組屋谷戸	2区	372	碁ビット	43区I11	円形	0.32	—	0.23	—	A	12	251	218	—
時沢西組屋谷戸	2区	373	碁ビット	43区N15	楕円形	0.36	0.28	0.47	N-27° -E	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	374	碁ビット	43区N15	円形	0.30	—	0.48	—	C	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	375	碁ビット	43区N15	楕円形	0.59	0.31	0.29	N-5° -E	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	376	碁ビット	43区N15	楕円形	0.47	0.38	0.68	N-65° -W	C	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	377	碁ビット	43区N15	不定形	0.59	0.28	0.47	N-70° -W	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	378	碁ビット	43区O15	楕円形	0.39	0.37	0.44	N-49° -W	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	379	碁ビット	43区O15	楕円形	0.39	0.32	0.33	N-28° -W	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	380	碁ビット	43区N15	楕円形	0.64	0.45	0.55	N-49° -W	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	381	碁ビット	43区N15	楕円形	0.31	0.26	0.47	N-11° -E	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	382	碁ビット	43区N15	円形	0.26	—	0.34	—	B	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	383	碁ビット	43区N15	楕円形	0.70	0.45	0.51	N-11° -E	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	384	碁ビット	43区N14	不定形	0.71	0.55	0.32	N-20° -E	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	386	碁ビット	43区N14	楕円形	(0.45)	0.28	0.28	N-0° -E	B	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	387	碁ビット	43区N14	不定形	0.45	0.37	0.42	N-23° -E	C	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	388	碁ビット	43区N14	楕円形	0.40	0.36	0.47	N-20° -E	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	389	碁ビット	43区N14	円形	0.40	—	0.20	—	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	390	碁ビット	43区N14	楕円形	0.37	0.32	0.75	N-70° -E	B	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	392	碁ビット	43区N14	楕円形	0.37	0.32	0.30	N-43° -W	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	393	碁ビット	43区N14	円形	0.25	—	0.29	—	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	394	碁ビット	43区N14	楕円形	0.50	0.37	0.58	N-36° -E	A+C	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	395	碁ビット	43区N13	楕円形	0.55	0.31	0.52	N-51° -W	A	11	251	217	—
時沢西組屋谷戸	2区	396	碁ビット	43区M14	楕円形	0.37	0.28	0.47	N-56° -W	A	11	251	217	—

9. その他の遺構一覧表(竈・溜井・道路)

遺跡	区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸	短軸	残存壁高	長軸方位	本文 頁	挿図 番号	写真 P.L
						m	m	m				
時沢西組屋谷戸	1区	1	竈	43区O・R14～15	—	—	—	—	—	265	215・224	91
上町	1区	1	号溜井	43区O6	不定形	(2.83)	2.10	0.87	N-56° -W	129	102～104	38～41
上町・時沢西組屋谷戸	1	号道路	43区X	N5～12	—	—	—	—	—	276	233～238	95～100

遺物観察表

凡例

1. 遺物観察表は土器・石器・金属器の順に、本文第4～6章の遺物掲載順に並べた。
2. 法量欄の()は残存値である。
3. 土師器・須恵器の胎土は特徴的な挟雑物について記載した。胎土中の細砂・粗砂・礫については、直径2mm以上を礫、直径2～0.2mmを粗砂、直径0.2mm以下を細砂とした。
4. 土師器・須恵器の焼成は酸化焙焼成か還元焙焼成かを記載した。
5. 土師器・須恵器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「標準土色帖」を用いて記載した。
6. 土師器・須恵器の計測値の「口」は口径、「底」は底径、「高」は器高、「台」は高台径、「摘」は蓋の摘み最大径を示す。
7. 陶磁器の分類は以下に拠った。
 渥美は安井俊則「渥美窯」、及び「編年表」『愛知県史別編 窯業3 中世・近世・常滑系』愛知県 2012による。
 肥前陶磁は『九州陶磁の編年—九州近世陶磁学会10周年記念—』九州近世陶磁学会 2000による。
 瀬戸窯は藤澤良祐「編年表」『愛知県史別編 窯業2 中世・近世・瀬戸系』2007による。
 美濃窯は楠崎彰一「編年表」『尾呂 愛知県瀬戸市定光寺カントリークラブ増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』瀬戸市教育委員会 1990による。
 13世紀以前の中国産白磁と青磁は山本信夫『太宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』太宰府市教育委員会 2000による。
 丹波すり鉢は長谷川 眞「近世丹波系擂鉢の変遷とその系譜」『関西近世考古学研究Ⅷ』関西近世考古学研究会 2000による。
8. 金属器観察表の計測値に()がついているものは残存部分での値である。
9. 石器・石製品の重量の計測にあたっては6000gまでは1g単位、20kgまでは50g単位、20kg以上は100g単位の秤を使用して計測した。

目次

1. 土師器・須恵器観察表	326
2. 陶磁器・在地系土器観察表	352
3. 金属製品観察表	353
4. 石製品観察表	355
5. 縄文土器観察表	357
6. 石器観察表	357
7. 非掲載遺物一覧表	359

遺物観察表

1. 土師器・須恵器観察表

上町遺跡 1号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第1292	1 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 底 11.8 —	高 一 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に撫でた部分を残す。内面は撫でた。	器面摩滅
第1292	2 土師器 皿	埋没土中 口縁部～底部片	口 底 17.8 —	高 一 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り。内 面は撫でた。	
第1292	3 須恵器 長頸壺	埋没土中 肩部～胴部片	口 底 — —	高 一 —	細砂粒/還元焼/灰	口コ形(回転方向不明)	外面に自然釉

上町遺跡 4号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第1592 P.L.101	1 土師器 杯	貯蔵穴西側床直 1/2	口 底 11.8 —	高 一 —	細砂粒・角閃石・軽石/にぶい 橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り。内 面は撫でた後、斜放射状のへう磨き。	
第1592	2 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 底 12.7 —	高 一 —	細砂粒・輝石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横溝で、体部外面は撫でた後、内面 は撫でた。底部は手持ちへう削り。	
第1592	3 土師器 皿	埋没土中 口縁部～底部片	口 底 15.6 —	高 一 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り。内 面は撫でた。	器面摩滅
第1592	4 須恵器 壺	北西部床直 溝	口 底 — —	横 4.5	細砂粒/還元焼/灰	口コ形(右回転) 狭みは環状溝付で、天 井部外面は回転へう削り後の貼り付け。	
第1592	5 須恵器 杯	埋没土中	口 底 11.7 7.3	高 3.4	細砂粒/還元焼/灰	口コ形(回転方向不明) 底部は回転へう削り こし無調整。	秋間か
第1592 P.L.101	6 須恵器 杯	北西部と東側の 遺物が接合 1/2	口 底 12.6 7.4	高 3.8	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	口コ形(右回転か) 底部回転糸切り無調 整で、腰部外面に回転へう削り。	体部内面に自然釉
第1592 P.L.101	7 須恵器 杯	貯蔵穴直直 口縁部一部欠損	口 底 12.8 7.6	高 3.5	細砂粒/還元焼/灰白	口コ形(右回転か) 底部は回転へう削り こし。	底部～体部外面、口縁部内 面の一部に自然釉・秋間か
第1592	8 須恵器 杯	埋没土中	口 底 13.3 8.0	高 3.6	細砂粒・粗砂粒・針状物/還元 焼/灰	口コ形(右回転) 底部回転糸切り後、周 辺を回転へう削り。	口縁部外面は変色・赤比色か
第1592	9 須恵器 鉢	北壁溝内 底部片	口 底 — 10.0	高 一	細砂粒/還元焼/にぶい黄橙	口コ形(回転方向不明) 高台は底部回転へ う削り後の削り出し高台。	
第1592 P.L.101	10 須恵器 椀	貯蔵穴西側上 14cm 1/4	口 底 11.8 —	高 一	細砂粒/還元焼/灰	口コ形(右回転)	体部内面にわずかに自然釉
第1592	11 須恵器 椀	北西部床直 底部片	口 底 6.4 6.8	高 一	細砂粒/還元焼/灰	口コ形(回転方向不明) 高台は付け高台。	内面に自然釉・秋間か

上町遺跡 5号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第1692	1 土師器 杯	埋没土中 1/4	口 底 11.6 8.0	高 2.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横溝で、体部外面は撫でた後、内面は丁 字な撫でた。底部は手持ちへう削り。	
第1692	2 須恵器 杯	埋没土中 1/4	口 底 12.6 8.3	高 4.0	細砂粒/還元焼/橙	口コ形(右回転か) 底部は回転糸切り無 調整。	
第1692 P.L.101	3 須恵器 杯	埋没土中 1/2	口 底 12.0 5.4	高 4.0	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	口コ形(右回転) 底部回転糸切り無調 整。	器面摩滅
第1692	4 須恵器 椀	北壁溝内 1/2	口 底 15.0 7.4	高 5.6	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	口コ形(右回転か) 高台は底部回転糸切 り後の付け高台。	器面摩滅
第1692	5 須恵器 椀	南西部床直上 5cm	口 底 12.9 7.2	高 5.7	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	口コ形(右回転か) 高台は底部回転糸切 り後の付け高台。	
第1692 P.L.101	6 須恵器 椀	中央部床下 3/4	口 底 14.3 7.0	高 一	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	口コ形(右回転) 高台は底部回転糸切 り後の付け高台で、貼り付け部から剥落。	見込み部に黒書「田」
第1692	7 須恵器 椀	埋没土中 口縁部～体部片	口 底 15.1 —	高 一	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	口コ形(右回転)	
第1692	8 須恵器 椀	掘り方埋没土中 口縁部～体部片	口 底 14.6 —	高 一	細砂粒/還元焼/灰	口コ形(回転方向不明)	秋間か
第1692	9 須恵器 椀	北東溝床直12cm 体部～高台部片	口 底 6.7 6.8	高 一	細砂粒・粗砂粒・角閃石/還元 焼/にぶい赤橙	口コ形(右回転か) 高台は底部回転糸切 り後の付け高台。	
第1692	10 須恵器 椀	中央部床直 体部～高台部片	口 底 6.5 6.6	高 一	細砂粒/還元焼/灰白	口コ形(右回転か) 高台は底部回転糸切 り後の付け高台。	器面摩滅顕著
第1692	11 須恵器 円盤状土製 品(器)	北東部床直14cm 先形	口 底 8.6 9.0	高 一	細砂粒/還元焼/灰白	口コ形(右回転) 高台は底部回転糸切 り後の付け高台。	胴部の立ち上がり部は打ち壊 き、円盤状土製品に加工か・ 秋間か
第1692 P.L.101	12 須恵器 皿か	埋没土中 先形	口 底 12.5 7.0	高 2.5	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	口コ形(右回転か) 高台は角高台状で、 底部回転糸切り後の付け高台。	内面は環状に摩滅
第1692	13 土師器 土台付壺	埋没土中 脚部欠	口 底 14.0 4.6	高 一	細砂粒・角閃石・軽石/良好/ にぶい赤橙	口縁部は横溝で、胴部外面は横～斜めへのう 削り。内面は撫でた。	口縁部内外面に輪積み痕
第1692 P.L.101	14 土師器 壺	黄使用面直上 1/2	口 底 4.6 —	高 一	細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/ 良好/にぶい橙	口縁部は横溝で、胴部外面は斜め～縦へのう 削り。内面は撫でた。	胴部内面中位に接合痕・口縁 部外面に輪積み痕
第1692 P.L.101	15 土師器 壺	黄左袖前 口縁部～胴部片	口 底 19.4 —	高 一	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横溝で、胴部外面に連続的な撫で た。胴部外面は斜めへのう削り。内面は撫でた。	
第1692 P.L.101	16 土師器 壺	黄左袖前 口縁部～胴部片	口 底 19.9 —	高 一	細砂粒・角閃石・軽石/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横溝で、胴部外面は斜めへのう削り 。内面は撫でた。	胴部内面中位に接合痕・胴部 外面に輪積み痕

1. 土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要	
第162D	17 須恵器 須	南東壁床直 口縁部～頸部片	□ 21.5 高 — 底	— 11.4 高 — 2.7	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	印き整形か。	口縁部～頸部外面に自然焼
第162D	18 須恵器 須	北東部床10cm 破片	□ — 高 — 底	— 11.4 高 — 3.3	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	印き整形。外面は平行印き。内面の当て具は 青海波文。	
第162D	19 須恵器 須	廻り方埋没土中 底部片	□ — 高 — 底	— 11.4 高 — 3.3	細砂粒/還元焼/灰白	口ロ口整形(回転方向不明) 底部回転糸切 り。	見込み部に墨書(文字不明)

上町遺跡 6号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要	
第192D	1 土師器 須	埋没土中 1/4	□ 11.4 高 — 底	— 2.7	細砂粒・角閃石・軽石/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に狭く撫での部分を残す。内面は横溝で、 間に撫での部分を残す。内面は横溝で。	内外面摩滅
第192D P.L.102	2 土師器 須	南前床直 3/4	□ 11.7 高 — 底	— 3.3	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に撫での部分を残す。内面は横溝で。	内外面摩滅
第192D P.L.102	3 土師器 須	埋没土中 底部一部欠損	□ 11.5 高 — 底	— 3.6	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に撫での部分を残す。内面は横溝で。	底部に黒斑
第192D	4 土師器 須	埋没土中 口縁部～底部片	□ 14.8 高 — 底	— 1	細砂粒・輝石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り。内 面は横溝で。	内面摩滅
第192D	5 土師器 須	西部床直 1/2	□ 15.8 高 — 底	— 3.6	細砂粒・角閃石・軽石/良好/ にふい橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に撫での部分を残す。内面は横溝で。	
第192D	6 土師器 須	埋没土中 口縁部～体部片	□ 15.6 高 — 底	— 1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り。内 面は横溝で。	
第192D	7 土師器 須	埋没土中 口縁部～底部片	□ 17.0 高 — 底	— 1	細砂粒・角閃石・軽石/にふい 赤褐	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に撫での部分を残す。内面は横溝で。	内面摩滅
第192D	8 須恵器 須	南壁心い床土6 cm 筒一部破片	□ 11.7 高 — 底	— 4.8	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	口ロ口整形(右回転) 天井部外面は回転へう 削り。握みは環状握み。	外面平面に薄く自然焼・口縁 部焼き歪みか
第192D	9 須恵器 須	埋没土中 口縁部～体部片	□ 14.8 高 — 底	— 1	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	口ロ口整形(右回転)	
第192D P.L.102	10 須恵器 須	北部床直 口縁部～頸部片	□ 10.1 高 — 底	— 1	細砂粒/還元焼/灰	口ロ口整形(右回転か) 外面下位に2条の凹 溝を巡らせる。	外面平面に薄く自然焼・口縁 部焼き歪みか
第192D P.L.102	11 土師器 須	事務用面直上 口縁部～胴部片	□ 21.8 高 — 底	— 1	細砂粒・角閃石/良好/にふい橙	口縁部は横溝で、胴部外面は斜めのへう削り。 内面は横溝で。	
第192D P.L.12	12 土師器 須	埋没土中 口縁部～胴部片	□ 21.6 高 — 底	— 1	細砂粒・軽石/良好/にふい黄褐	口縁部は横溝で、胴部外面は縦のへう削り。 内面は横溝で。	
第192D	13 土師器 須	北東部床土3cm 口縁部～胴部片	□ 16.6 高 — 底	— 1	細砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は横溝で、胴部外面は横のへう削り。 内面は横溝で。	
第192D	14 須恵器 須	北西部床土17cm 破片	□ — 高 — 底	— 1	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰黄褐	印き整形。外面は平行印き後、撫で。内面の 当て具は青海波文。	

上町遺跡 7号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要	
第222D	1 土師器 須	埋没土中 口縁部～体部片	□ 12.8 高 — 底	— 1	細砂粒・輝石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に撫での部分を残す。内面は横溝で。	内面摩滅

上町遺跡 8号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要	
第232D P.L.102	1 土師器 須	南東壁床直上 6cm 3/4	□ 10.6 高 — 底	— 3.2	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に撫での部分を残す。内面は横溝で。	粉っぽい素地
第232D	2 土師器 須	廻り方埋没土中 口縁部～底部片	□ 12.8 高 — 底	— 1	細砂粒・粗砂粒/良好/にふい橙	口縁部は横溝で、体部外面は横な撫で、内面 は横溝で、底部は手持ちへう削り。	
第232D	3 土師器 須	北部床土28cm 口縁部～胴部片	□ 17.7 高 — 底	— 1	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/ にふい黄褐	口縁部は横溝で、胴部外面は縦のへう削り。 内面は斜めのへう削り。	内面摩滅

上町遺跡 9号住居土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要	
第242D P.L.102	1 土師器 須	南西隅床直 3/4	□ 11.5 高 — 底	— 3.6	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、内面は丁 字な撫で、底部は手持ちへう削り。	
第242D P.L.102	2 土師器 須	廻り方埋没土中 1/4	□ 12.6 高 — 底	— 3.0	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、体部外面は横な撫で、内面 は横溝で、底部は手持ちへう削り。	
第242D P.L.102	3 須恵器 須	北壁南端直上 5cm 2/3	□ 17.2 高 — 底	— 4.1	細砂粒・粗砂粒・片岩/還元焼/灰白	口ロ口整形(右回転) 天井部外面は回転へう 削り。握みは扁平化した宝珠握みか。	磨同か

上町遺跡 12号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要	
第262D P.L.102	1 須恵器 須	南前床土8cm 片形	□ 10.4 高 — 底	— 2.9	細砂粒・角閃石・軽石/酸化焼/ にふい黄褐	口ロ口整形(右回転) 底部は回転糸切り無 調整。	内面全面及び体部外面の一部 吸灰・口縁部の内外面に油滲 付着
第262D	2 須恵器 須	南左脇 口縁部～胴部片	□ 19.0 高 — 底	— 1	細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石 /酸化焼/明赤褐	口ロ口整形か。柄はやや複雑な貼り付け。胴部 外面は斜めのへう削り。	
第262D	3 須恵器 須	西壁床土9cm 口縁部～胴部片	□ 19.8 高 — 底	— 1	細砂粒・粗砂粒・軽石/酸化焼/ 浅黄褐	口ロ口整形(回転方向不明)柄は丁字な貼り付 け。	

遺物観察表

上町遺跡 13号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図録番号	番 号	種 類	出 土 位 置	出 土 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要	
第282D P.L. 103	1	土師器 杵	埋没土中 先形	口	12.1 高 9.3	3.3 細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ぶい境	口縁部は壊損で、体部外面は直で、内面は丁寧な直で、底部は手持ちへうら削り。	内面清楚りか	
第282D P.L. 103	2	土師器 口縁部～底部片	埋没土中	口	12.8 高 9.0	3.0 細砂粒・角閃石・軽石/良好/境	口縁部は壊損で、体部外面は直で、内面は丁寧な直で、底部は手持ちへうら削り。	内面清楚りか	
第282D P.L. 103	3	黒色土器 1/3	埋没土中	口	6.6	—	細砂粒・軽石/酸化焼/境	ロク口整形(右回転) 底部は回転系切り後、周囲及び体部下縁をへうら削り、内面を丁寧なへうら磨き後、黒色処理	外面に自然釉
第282D P.L. 103	4	須恵器 蓋	埋没土中 槽～口縁部片	口	16.7 高 5.3	3.0 細砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(右回転) 天井部外面は回転へうら削り。筒みは環状筒み。	外面に自然釉	
第282D	5	須恵器 杵	埋没土中 口縁部～体部片	口	11.8	—	細砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(右回転)	器面摩滅
第282D	6	土師器 蓋	埋没土中 口縁部～胴部片	口	19.2	—	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明赤焼	口縁部は壊損で、胴部外面は横～斜めのへうら削り、内面は横のへうら直で。	胴部外面に輪積み痕
第282D P	7	土師器 口縁部～胴部片	埋没土中	口	19.3	—	細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤焼	口縁部は壊損で、胴部外面は横のへうら削り、内面は横のへうら直で。	胴部外面に輪積み痕
第282D	8	須恵器 埋没土中 破片	埋没土中	口	—	—	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	叩き整形、外面は斜格子叩き、内面の当て具は美文。	外面に自然釉

上町遺跡 18号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図録番号	番 号	種 類	出 土 位 置	出 土 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要	
第302D	1	黒色土器 杵	北壁床土上26cm 口縁部～底部片	口	12.5 高 6.0	—	細砂粒・角閃石/酸化焼/にぶい赤焼	ロク口整形(回転方向不明) 高台は付け台高で穴掘。口縁部外面及び内面はへうら磨き。	内面の黒色処理は不十分
第302D	2	須恵器 杵	埋没土中 体部～底部片	口	—	—	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	ロク口整形(右回転) 底部は回転系切り無調整。	内面に自然釉

上町遺跡 19号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図録番号	番 号	種 類	出 土 位 置	出 土 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要	
第322D	1	土師器 杵	埋没土中 口縁部～底部片	口	10.8	—	細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい境	口縁部は壊損で、底部は手持ちへうら削りで、間に磨で部分を残す。内面は直で。	器面摩滅・見込み部にXの刻痕
第322D P.L. 103	2	須恵器 杵	9号ビット埋没土中 3/4	口	12.7 高 6.8	3.7 細砂粒/還元焼/灰白	ロク口整形(右回転) 底部は回転系切り無調整。	器面摩滅	
第322D	3	須恵器 杵	埋没土中 3/4	口	12.7 高 6.0	3.8 細砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(右回転) 底部は回転系切り無調整。	器面摩滅	
第322D	4	須恵器 杵	埋没土中 体部～底部片	口	6.2	—	細砂粒・角閃石・軽石/還元焼/にぶい黄焼	ロク口整形(右回転) 底部は回転系切り無調整。	器面摩滅
第322D	5	須恵器 蓋	竈前床直 口縁部～底部片	口	15.4 高 7.6	6.7 8.2 細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(右回転) 高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台。	器面摩滅	
第322D	6	須恵器 杵	埋没土中 1/4	口	—	—	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(右回転) 高台は角台状で、底部回転系切り後の付け高台。	器面摩滅
第322D	7	須恵器 蓋	埋没土中 1/4	口	7.4 高 1.8	6.0 細砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(右回転) 筒みは環状筒みで、天井部外面は回転へうら削り後の貼り付け。	内面に重ね焼きによる変色	
第322D	8	土師器 蓋	埋没土中 口縁部～胴部片	口	13.8	—	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明赤焼	口縁部は壊損で、胴部外面は斜めのへうら削り、内面は直で。	胴部外面に輪積み痕・胴部外面の一部に炭化物付着
第322D	9	土師器 蓋	北部床土上3cm 口縁部～胴部片	口	19.7	—	細砂粒・角閃石/良好/境	口縁部は壊損で、胴部外面は斜めのへうら削り、内面は横のへうら直で。	口縁部外面に輪積み痕
第322D	10	土師器 蓋	埋没土中 口縁部～胴部片	口	18.8	—	細砂粒・角閃石/良好/境	口縁部は壊損で、胴部外面は横～斜めのへうら削り、内面は横のへうら直で。	胴部外面に輪積み痕・胴部外面の一部に炭化物付着
第322D	11	土師器 蓋	竈左前床土上4cm 口縁部～胴部片	口	18.8	—	細砂粒・角閃石/良好/境	口縁部は壊損で、胴部外面は横のへうら削り、内面は横のへうら直で。	口縁部外面に輪積み痕
第322D	12	須恵器 破片	北部床土上5cm 破片	口	—	—	細砂粒/還元焼/灰	叩き整形、外面は平行叩き。内面の当て具は青海波文。	器面摩滅

上町遺跡 20号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図録番号	番 号	種 類	出 土 位 置	出 土 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要	
第332D P.L. 103	1	土師器 杵	右袖船床土上4cm 口縁部～一部欠損	口	11.5 高 3.4	3.4 細砂粒・角閃石/良好/にぶい境	口縁部は壊損で、底部は手持ちへうら削りで、間に磨で部分を残す。内面は直で。	外面の磨で部分に輪積み痕	
第332D P.L. 103	2	土師器 杵	南東隅床直 口縁部～一部欠損	口	12.3	3.7 細砂粒・角閃石/良好/にぶい境	口縁部は壊損で、底部は手持ちへうら削りで、間に磨で部分を残す。内面は直で。	外面の磨で部分に輪積み痕	
第332D	3	土師器 杵	埋没土中 1/4	口	12.8	3.4 細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい境	口縁部は壊損で、底部は手持ちへうら削りで、間に型肌を残す。内面は直で。	器面摩滅	
第332D P.L. 103	4	土師器 杵	南東隅床土上7cm 体部一部欠損	口	14	4.2 細砂粒・輝石・軽石/良好/境	口縁部は壊損で、底部は手持ちへうら削り、内面は直で。	器面摩滅	
第332D	5	須恵器 破片	埋没土中 破片	口	—	—	細砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(右回転) 筒みは環状筒みで、天井部外面は回転へうら削り後の貼り付け。	外面に自然釉
第332D P	6	須恵器 機軸口 破片	埋没土中 破片	口	—	—	細砂粒/還元焼/灰	叩き整形、外面は平行叩き後、直で、内面の当て具は美文。	外面に自然釉
第332D	7	土師器 蓋	竈右袖床土上12cm 口縁部～胴部片	口	21.4	—	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明赤焼	口縁部は壊損で、胴部外面は横のへうら削り、内面は直で。	胴部外面に輪積み痕
第332D	8	土師器 蓋	南東隅床直 胴部～底部片	口	—	—	細砂粒・角閃石・軽石/良好/境	胴部外面は斜めのへうら削り、内面は直で。	胴部内面下位に接合痕・底部に黒斑

1. 土師器・須恵器観察表

上町遺跡 21号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図録番号	器 種	器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第37図	1	土師器 杯	埋没土中 1/2	口底 — 11.2 高 — 3.1	細砂粒・軽石/良好/にふい 黄橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に狭く煮での部分を残す。内面は煮で。 口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り。内 面は煮で。	
第37図	2	土師器 皿	埋没土中 口縁部～底部片	口底 — 14.8 高 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り。内 面は煮で。	
第37図	3	須恵器 蓋	埋没土中 天井部片	口底 — 15.7 高 —	細砂粒・粗砂粒/還元焰/にふい 黄橙	ロク口整形(右回転)天井部外面は回転へう削り。 内面厚減	
第37図	4	須恵器 杯	埋没土中 破片	口底 — 10.4 高 — 6.8	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	ロク口整形(右回転) 底部及び肩部外面は回 転へう削り。	
第37図	5	須恵器 椀	埋没土中 口縁部～底部片	口底 — 14.8 高 —	細砂粒・粗砂粒・軽石/酸化焰/ にふい黄橙	ロク口整形(右回転)	
第37図	6	須恵器 椀	埋没土中 底部片	口底 — 9.8 高 — 9.8	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	ロク口整形(右回転)が 高台は底部回転へう 削り後の付け高台。	外面厚減
第37図	7	土師器 鉢	溝使用直面上 口縁部～底部片	口底 — 21.8 高 —	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/ 橙	口縁部は横溝で、体部外面はへう削り。内面 は煮で。	器面厚減・粘っぽい素地
第37図	8	土師器 壺	埋没土中 口縁部～胴部片	口底 — 19.6 高 —	細砂粒・角閃石/良好/にふい橙	口縁部は横溝で、胴部外面は横のへう削り。 内面は煮で。	
第37図	9	須恵器 甕	東部床直 体部～底部片	口底 — 22.6 高 —	細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/ /酸化焰/にふい橙	ロク口整形(右回転)が	端部内外面使用に伴い吸込か
第37図	10	須恵器 羽釜	南壁寄り床上 2cm 口縁部～ 胴部片	口底 — 28.2 高 —	細砂粒・粗砂粒・軽石/酸化焰/ 浅黄橙	ロク口整形(回転方向不明)胴は丁寧な貼り付 け。胴部外面下半は斜めのへう削り。	
第37図	11	須恵器 壺	埋没土中 口縁部片	口底 — 高 —	細砂粒/還元焰/灰	ロク口整形(回転方向不明)。	
第37図	12	須恵器 横瓶	埋没土中 破片	口底 — 高 —	細砂粒/還元焰/灰	外面は同心円のケリ目。内面は煮で。	内面の接合痕顯著
第37図	13	須恵器 杯	埋没土中 破片	口底 — 高 —	細砂粒/還元焰/灰白	ロク口整形(回転方向不明)底部は回転へう削 りし。	

上町遺跡 22号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図録番号	器 種	器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第38図	1	土師器 杯	埋没土中 1/4	口底 — 11.7 高 — 3.1	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り。内 面は煮で。	粘っぽい素地
第38図	2	土師器 杯	南壁跡床上16cm 1/2	口底 — 13.1 高 — 3.2	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。 口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて 、間に煮での部分を残す。内面は煮で。	内面の一部吸込
第38図	3	土師器 杯	南部床上20cm 1/2	口底 — 13.0 高 — 3.2	細砂粒・角閃石/良好/にふい黄 橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて 、間に煮での部分を残す。内面は煮で。	内面やや厚減
第38図	4	土師器 杯	南壁跡床上6cm 1/2	口底 — 13.2 高 — 3.4	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	内面やや厚減
第38図	5	土師器 杯	埋没土中 2/3	口底 — 12.7 高 — 3.7	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	内面やや厚減
第38図	6	土師器 杯	埋り方直上7cm 1/2	口底 — 12.6 高 — 3.2	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい黄橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	内面は黒褐色の付着物
第38図	7	土師器 杯	北東部床上3cm 1/2	口底 — 13.7 高 — 3.2	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	
第38図	8	土師器 杯	南部床直 1/2	口底 — 13.4 高 — 3.7	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい橙	口縁部は横溝で、底部中央は一方の手持ち へう削りて、両面は煮で。押注。内面は煮で。	
第38図	9	土師器 杯	南部床上4cm 3/4	口底 — 13.7 高 — 3.8	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	器面厚減
第38図	10	土師器 杯	南部床上9cm 1/2	口底 — 13.2 高 — 3.4	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	器面厚減
第38図	11	土師器 杯	南壁跡床上12cm 1/2	口底 — 14.6 高 — 3.3	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	器面厚減・粘っぽい素地
第38図	12	土師器 杯	北部床上41cm 1/3	口底 — 13.1 高 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	器面厚減・粘っぽい素地
第38図	13	土師器 杯	埋没土中 1/2	口底 — 13.8 高 —	細砂粒・角閃石/良好/にふい橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	
第38図	14	土師器 杯	南部床直 底部一部欠損	口底 — 13.2 高 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	器面厚減
第38図	15	土師器 杯	北東部床上35cm 口縁部一部欠損	口底 — 14.3 高 — 4.3	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	底部やや厚減
第38図	16	土師器 杯	南壁跡床上40cm 1/4	口底 — 15.6 高 —	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/ 橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	器面厚減・粘っぽい素地
第38図	17	土師器 杯	7号床下土坑底 直上1/2	口底 — 15.8 高 — 5.3	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に煮での部分を残す。内面は煮で。	器面厚減・粘っぽい素地
第38図	18	土師器 杯	埋没土中 胴部～底部片	口底 — 高 — 8.0	細砂粒・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、内面は煮で後、故 射状短文を施文。底部は手持ちへう削り。 ロク口整形(右回転) 天井部外面は回転へう削 り。	秋間か
第38図	19	須恵器 蓋	南壁跡床上 天井部～体部片	口底 — 18.6 高 —	細砂粒/還元焰/灰白	ロク口整形(右回転) 鍋みは環状組みで、天 井部外面は回転へう削り後の貼り付け。	秋間か
第38図	20	須恵器 蓋	西部床上35cm 胴～口縁部片	口底 — 14.4 高 — 4.5	細砂粒/還元焰/灰	ロク口整形(右回転) 鍋みは環状組みで、天 井部外面は回転へう削り後の貼り付け。	秋間か

遺物観察表

検出番号 図記番号	番 種	種 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第382D PL.104	21	須恵器 蓋	南壁障床土5cm 1/2	口 14.7 高 3.0 — 楕 4.8	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	ロク口整形(右回転) 胎みは環状積み、天井部外面は回転へら削り後の丁寧な貼付け。	内面に重ね積きの痕跡
第382D PL.104	22	須恵器 椀	貯蔵六西側床土 44cm 1/2	口 12.7 高 3.3 — 楕 9.4	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	ロク口整形(右回転) 底部は回転へら起こし。	体部の内面摩滅、一部に縮かなハゼ
第382D PL.104	23	須恵器 椀	北東部床土 3/4	口 13.7 高 7.4 — 楕 3.7	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	ロク口整形(右回転) 底部回転糸切り後、底部周辺及び腰部外面を回転へら削り。	外面摩滅
第382D	24	須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 12.6 高 11.8 — 楕 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(右回転) 高台は高台台状で底部及び腰部外面を回転へら削りの付け高台。	器部内酸化・秋間か
第382D	25	須恵器 杯	北東部床土 底部片	口 11.6 高 11.8 — 楕 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	ロク口整形(右回転) 高台は底部回転へら削り後の付け高台。	内面中位に自然釉
第382D	26	須恵器 長頸壺	南東隅掘り方内 高台部片	口 9.0 高 10.8 — 楕 —	細砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(回転方向不明) 高台は付け高台で積み込み。	内面中位に自然釉
第382D	27	須恵器 壺	南部床土21cm 底部片	口 10.0 高 11.8 — 楕 —	細砂粒/還元焼/灰白	ロク口整形(回転方向不明)	胴部外面～底部に縮かなハゼ
第382D	28	土師器 土師	9号床下土坑遺 口縁部～胴部片	口 19.6 高 — — 楕 —	細砂粒・角閃石・雲母/良好/橙	口縁部は構棒で、胴部外面は構のへら削り、内面は撫で。	口縁部外面に輪積み痕
第382D PL.104	29	土師器 壺	貯蔵六西側 頸部～底部片	口 6.1 高 — — 楕 —	細砂粒・角閃石/良好/ぶい橙	胴部外面は構～斜めのへら削り、内面は撫で、底部はへら削り。	胴部内面下位に接合痕
第382D PL.104	30	土師器 壺	中央部床土6cm 口縁部～胴部片	口 21.7 高 — — 楕 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は構棒で、胴部外面は斜めのへら削り、内面は撫で。	器面摩滅
第382D	31	須恵器 壺	中央部床土38cm 口縁部～胴部片	口 18.9 高 — — 楕 —	細砂粒/還元焼/灰	叩き整形、外面は平行叩き。内面の当て具は青海波文。	器面摩滅
第382D	32	須恵器 壺	7号床下土坑底 上21cm 破片	口 — 高 — — 楕 —	細砂粒/還元焼/灰白	叩き整形、外面は平行叩き。内面の当て具は青海波文。	器面摩滅
第382D	33	須恵器 羽蓋	南東隅障床土 64cm 口縁部～胴部片	口 16.2 高 — — 楕 —	細砂粒・角閃石・軽石/酸化/ぶい黄橙	ロク口整形か、口唇部は丸みがあり、胴の貼り付けもやや雑で、土師器の羽蓋に近い。	口縁部は内外面吸灰

上町遺跡 23号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図記番号	番 種	種 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第42D PL.103	1	土師器 杯	甕使用内上18cm 口縁部～一部欠損	口 13.1 高 3.6 — 楕 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/ぶい黄橙	口縁部は構棒で、底部は手持ちへら削り、内面に撫での部分を残す。内面は丁寧な撫で。	口縁部外面の一部吸灰
第42D PL.103	2	土師器 杯	南東隅障床土17cm 光形	口 12.4 高 3.5 — 楕 —	細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/ぶい黄橙	口縁部は構棒で、底部は一方の手持ちへら削り、他に撫での部分を残す。	
第42D	3	土師器 壺	甕腰部 口縁部～胴部片	口 19.8 高 — — 楕 —	細砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は構棒で、胴部外面は斜めのへら削り、内面は撫で。	
第42D	4	土師器 壺	埋没土中 口縁部～胴部片	口 18.7 高 — — 楕 —	細砂粒・角閃石/良好/ぶい黄橙	口縁部は構棒で、胴部外面は構のへら削り、内面は撫で。	器面摩滅

上町遺跡 24号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図記番号	番 種	種 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第44D PL.104	1	土師器 杯	南壁障床土上7cm 光形	口 12.0 高 2.9 — 楕 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は構棒で、底部は手持ちへら削り、内面は撫で。	内面の摩滅顕著
第44D PL.104	2	土師器 杯	6号ビレット底上 5cm 口縁部～一部欠損	口 12.5 高 4.0 — 楕 —	細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/ぶい黄橙	口縁部は構棒で、底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面摩滅、内面に円形の痕色
第44D PL.104	3	土師器 杯	南東隅障床土上 31cm 口縁部～一部欠損	口 11.9 高 4.0 — 楕 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/ぶい橙	口縁部は構棒で、底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第44D PL.104	4	土師器 杯	甕左前床土14cm 口縁部～一部欠損	口 13.4 高 4.4 — 楕 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/ぶい橙	口縁部は構棒で、底部は手持ちへら削り、内面は撫で。	内面に縮かなハゼ顕著
第44D PL.104	5	土師器 杯	南西隅床土10cm 1/2	口 14.9 高 4.4 — 楕 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は構棒で、底部は手持ちへら削り。	内外面摩滅、内面にハゼ
第44D PL.104	6	土師器 壺	南壁障床土 1/4	口 17.9 高 4.2 — 楕 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は構棒で、底部は手持ちへら削り、内面は撫で。	器面摩滅
第44D	7	須恵器 蓋	埋没土中 天井部～口縁部 片	口 9.9 高 2.8 — 楕 —	細砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(回転方向不明) 天井部外面は手持ちへら削り。	外面に薄く自然釉
第44D	8	須恵器 蓋	埋没土中 天井部～体部片	口 9.9 高 2.8 — 楕 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(回転方向不明) 天井部外面は手持ちへら削り。	
第44D	9	須恵器 蓋	埋没土中 体部片	口 15.7 高 11.4 — 楕 —	細砂粒/還元焼/灰白	ロク口整形(回転方向不明)	
第44D	10	須恵器 蓋	埋没土中 襷片	口 17.7 高 — — 楕 —	細砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(回転方向不明)	
第44D	11	須恵器 杯	埋没土中 1/4	口 15.8 高 3.6 — 楕 11.4	細砂粒/還元焼/灰	ロク口整形(右回転) 高台は底部回転へら削り後の削りだし高台。	
第44D	12	須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 — 高 — — 楕 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰黄橙	ロク口整形(右回転) 高台は底部回転へら削り後の削り出し高台。	
第44D	13	土師器 壺	埋没土中 口縁部～胴部 片	口 20.8 高 — — 楕 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/ぶい黄橙	口縁部は構棒で、胴部外面は斜めのへら削り、内面は構のへら撫で。	

1. 土師器・須恵器観察表

上野道跡 25号住居出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第492号 P.L. 105	1	土師器 杯	1号ビット底面 2/3	口 12.0 底 1.1	高 3.3 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、体部外面は雑な溝で、内面は丁寧な溝で。底部は手持ちへら削り。
第492号 P.L. 105	2	土師器 台付甕	甕使用面上10cm 台付甕	口 12.1 底 4.0	高 14.9 台 7.4	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横溝で、胴部外面は横へら削り、内面はへら溝で。胴部内外面は横溝で。

上野道跡 26号住居出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第492号 P.L. 105	1	須恵器 杯	伊達川南縁床直 3/4	口 13.4 底 6.1	高 3.9 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/粗灰	ロクロ整形(右回転) 底部は回転糸切り無調整。口縁部を除く内外面均灰塗。

上野道跡 27号住居出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第502号 P.L. 105	1	土師器 杯	埋没土中 3/4	口 11.7 底 1.1	高 3.5 —	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへら削り、間に広く溝での部分を残す。内面は横溝で。
第502号	2	土師器 杯	埋没土中	口 12.6 底 1/2	高 1.1 —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、内面は横溝で。底部は手持ちへら削り。
第502号 P.L. 105	3	須恵器 杯	高輪東壁埋面直 3/4	口 12.1 底 7.1	高 3.5 —	細砂粒/還元焼/灰白	ロクロ整形(右回転) 底部回転糸切り後、周辺を回転へら削り。
第502号 P.L. 105	4	須恵器 杯	南部床上5cm 1/4	口 12.4 底 8.0	高 3.7 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	ロクロ整形(右回転) 底部回転糸切り後、周辺を回転へら削り。
第502号	5	須恵器 杯	南西部床上34cm 底部分	口 6.6 底 6.6	高 1.1 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	ロクロ整形(右回転) 底部は回転へら起こし無調整。
第502号	6	須恵器 壺	埋没土中 胴部分	口 1.1 底 1.1	高 1.1 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)
第502号	7	須恵器 壺	北東部床上4cm 破片	口 1.1 底 1.1	高 1.1 —	細砂粒/還元焼/灰白	叩き整形、外面は横溝で、内面の当て具は青海流文。
第502号	8	補輪 円筒補輪	埋没土中 破片	口 1.1 底 1.1	高 1.1 —	細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/橙	内面は雑な溝で、外面は縦のハゲ目。

上野道跡 28号住居出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第522号	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部分	口 12.8 底 1.1	高 1.1 —	細砂粒・雲母/良好/にぶい橙	口縁部は横溝で、体部外面は弘弘、内面は横溝で。底部は手持ちへら削り。
第522号	2	土師器 台付甕	2号床下土坑埋 没土中 胴部分	口 1.1 底 4.1	高 1.1 台 10.7	細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤	胴部は横溝で、胴部内面はへら溝で。

上野道跡 1号壺穴状遺構出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第532号	1	土師器 杯	底面 1/4	口 11.8 底 1.1	高 2.7 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、内面は丁寧な溝で。底部は手持ちへら削り。
第532号	2	土師器 杯	埋没土中 1/4	口 11.7 底 1.1	高 1.1 —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、内面は丁寧な溝で。底部は手持ちへら削り。
第532号	3	土師器 杯	埋没土中 1/4	口 11.8 底 8.0	高 3.0 —	細砂粒・軽石/良好/明赤橙	口縁部は横溝で、体部外面は弘弘。底部は手持ちへら削り。
第532号	4	土師器 杯	埋没土中 1/4	口 11.8 底 1.1	高 3.2 —	細砂粒/良好/にぶい赤橙	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、内面は横溝で。底部は手持ちへら削り。
第532号	5	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口 12.8 底 1.1	高 1.1 —	細砂粒・雲母/良好/明赤橙	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、内面は横溝で。底部は手持ちへら削り。
第532号 P.L. 105	6	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部分	口 12.6 底 1.1	高 1.1 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明赤橙	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、内面も横溝で。底部は手持ちへら削り。
第532号	7	土師器 杯	底面 1/4	口 12.7 底 1.1	高 1.1 —	細砂粒・雲母/良好/橙	口縁部は横溝で、体部外面は横溝のへら削り、内面は横溝で。放射状縦溝を施文。底部は手持ちへら削り。
第532号 P.L. 105	8	須恵器 杯	南西部床上4cm 口縁部一部欠損	口 11.8 底 6.8	高 3.2 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形(右回転) 底部回転糸切り無調整。
第532号 P.L. 105	9	須恵器 杯	南西部床上7cm 口縁部一部欠損	口 11.8 底 6.7	高 3.2 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形(右回転) 底部回転糸切り無調整。
第532号 P.L. 105	10	須恵器 杯	埋没土中 1/2	口 11.8 底 7.0	高 3.3 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形(右回転) 底部は回転へら削り。
第532号	11	須恵器 杯	埋没土中 1/4	口 13.7 底 7.7	高 3.7 —	細砂粒/還元焼/灰白	ロクロ整形(右回転) 底部は回転糸切り無調整。
第532号	12	須恵器 壺	南東部床直 1/2	口 14.8 底 8.0	高 6.1 台 8.1	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形(右回転) 高台は角筒角で、底部回転糸切り後の付け高台。
第542号	13	須恵器 横溝	中央部床上2cm 破片	口 1.1 底 1.1	高 1.1 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/にぶい黄橙	内面に閉塞溝、外面はカキ目。
第542号	14	須恵器 壺	中央～北西部床 上4cm 胴部分	口 1.1 底 1.1	高 1.1 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	叩き整形、外面の叩きは不明、内面の当て具は黄文。
第542号	15	須恵器 壺	中央～北西部床 上6cm 胴部分	口 1.1 底 1.1	高 1.1 —	細砂粒・粗砂粒/還元焼/にぶい黄橙	叩き整形、外面は平行叩き、内面の当て具は格子状。

1. 土師器・須恵器観察表

上町遺跡 1号溝出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第76号	1	須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 底 6.8	— 高 一	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形(右回転) 底部は回転糸切り無調整。
第76号 P.L. 106	2	須恵器 瓦塔	埋没土中 破片	口 底 —	— 高 一	細砂粒/還元	屋根の軒先の破片。平載竹管状の工具で丸瓦を楕出。

上町遺跡 4号溝出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第76号	4	土師器 皿	表面 1/4	口 16.7 底 —	— 高 一	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は楕圓で。底部は手持ちへう削り。内面は楕圓で。

上町遺跡 5号溝出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第77号	1	須恵器 椀	埋没土中 底部～高台部	口 — 底 6.6	— 高 一	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰/白	ロクロ整形(右回転) 高台は底部回転糸切り後の付け高台。	見込み部に重ね焼き痕
第77号	2	須恵器 香	埋没土中 胴部～底部	口 — 底 12.9	— 高 一	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形(回転方向不明)	胴部外面～底部に自然輪

上町遺跡 6号溝出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第78号	1	須恵器 杯	埋没土中 体部～底部片	口 — 底 7.0	— 高 一	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰/オリーブ	ロクロ整形(右回転) 底部は回転糸切り無調整。

上町遺跡 8号溝出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第79号	2	須恵器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口 14.7 底 —	— 高 一	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形(回転方向不明)
第79号	3	須恵器 杯	埋没土中 体部～底部片	口 — 底 7.9	— 高 一	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形(回転方向不明) 底部は回転へう起こし無調整。

上町遺跡 20号溝出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第80号	1	須 蓋	埋没土中 1/4	口 13.2 底 —	— 高 3.0 一 楕 5.2	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形(右回転) 縁みは環状楕円で。天井間が外周外面は回転へう削り後の貼り付け。

上町遺跡 土坑出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第89号	1	土師器 杯	20号土坑埋没土 中 2/3	口 12.7 底 9.6	— 高 3.4	細砂粒・角閃石/良好/ふい橙	口縁部は楕圓で。体部外面は楕圓で。内面は丁寧な楕圓で。底部は手持ちへう削り。	
第89号	2	土師器 杯	20号土坑埋没土 中 1/2	口 11.4 底 8.5	— 高 2.9	細砂粒・角閃石・雲母/良好/橙	口縁部は楕圓で。体部外面は楕圓で。内面は丁寧な楕圓で。底部は手持ちへう削り。	
第89号	3	土師器 杯	3号土坑埋没土中 口縁部～底部片	口 12.7 底 —	— 高 一	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は楕圓で。内面は楕圓で。	外面の摩滅顕著
第89号	4	須恵器 杯	3号土坑埋没土中 体部～底部片	口 — 底 8.0	— 高 一	細砂粒/還元焼/灰/白	ロクロ整形(回転方向不明) 底部回転へう削りか。	
第89号	5	土師器 椀	3号土坑埋没土中 口縁部～胴部片	口 19.6 底 —	— 高 一	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は楕圓で。胴部外面は斜めのへう削り。内面は楕圓で。	
第89号	6	土師器 杯	6号土坑埋没土中 口縁部～底部片	口 12.7 底 —	— 高 一	細砂粒/良好/橙	口縁部は楕圓で。底部は手持ちへう削りて、間に楕圓の部分を残す。内面は楕圓で。	
第89号	7	須恵器 杯	6号土坑埋没土中 口縁部～体部片	口 12.8 底 —	— 高 一	細砂粒/還元焼/灰/白	ロクロ整形(右回転)	

上町遺跡 ビット出土土師器・須恵器観察表

神田番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第92号	1	土師器 杯	234号ビット埋 没土中 口縁部～底部片	口 12.8 底 —	— 高 一	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は楕圓で。底部は手持ちへう削りて、間に楕圓の部分を残す。内面は楕圓で。	表面摩滅・底部に黒斑
第92号	2	土師器 杯	250号ビット埋 没土中 口縁部～底部片	口 11.8 底 —	— 高 一	細砂粒/良好/ふい橙	口縁部は楕圓で。底部は手持ちへう削り。内面は楕圓で。	表面摩滅
第94号	1	土師器 杯	164号ビット埋 没土中 口縁部～底部片	口 11.7 底 —	— 高 一	細砂粒・軽石/良好/橙	口縁部は楕圓で。	表面摩滅
第94号	2	土師器 杯	217号ビット埋 没土中 口縁部～体部片	口 11.9 底 —	— 高 一	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は楕圓で。底部は手持ちへう削りて、間に楕圓の部分を残す。内面は楕圓で。	

遺物観察表

上町遺跡 1号濠井出土土師器・須器観察表

検出番号 図版番号	番 種	種 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第105D	1	土師器 杯	埋没土中 4/5	口 12.8 底 —	3.6 細砂粒・角閃石/良好/明赤褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削り。内面は焼潰。	内面の摩滅顕著
第105D PL.106	2	土師器 杯	436グリッド 口縁部一部欠損	口 13.6 底 —	3.9 細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削り。内面は焼潰。	内面摩滅
第105D	3	土師器 杯	4306グリッド 1/4	口 13.0 底 —	— 細砂粒・角閃石・軽石/明赤褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に虫肌を残す。内面は焼潰。	
第105D PL.106	4	土師器 杯	436グリッド 2/3	口 13.2 底 —	3.6 細砂粒・角閃石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削り。内面は焼潰。	
第105D PL.106	5	土師器 杯	436グリッド 口縁部一部欠損	口 12.8 底 —	4.0 細砂粒・角閃石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	
第105D PL.106	6	土師器 杯	436グリッド 口縁部一部欠損	口 12.8 底 —	3.5 細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	外面摩滅
第105D	7	土師器 杯	436グリッド 1/2	口 12.1 底 —	3.6 細砂粒・角閃石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	外面摩滅
第105D	8	土師器 杯	436グリッド 1/2	口 12.8 底 —	3.4 細砂粒・角閃石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	外面摩滅
第105D	9	土師器 杯	436グリッド 1/4	口 12.0 底 —	3.5 細砂粒・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	外面摩滅・粉っぽい黄地
第105D	10	土師器 杯	436グリッド 1/2	口 13.0 底 —	3.6 細砂粒・角閃石/良好/にぶい褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	外面摩滅
第105D PL.106	11	土師器 杯	4306グリッド 光形	口 12.8 底 —	3.9 細砂粒・雲母/良好/にぶい褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	
第105D PL.106	12	土師器 杯	埋没土中 1/2	口 13.0 底 —	3.6 細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい褐色	口縁部は狭く焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	
第105D PL.106	13	土師器 杯	4306グリッド 光形	口 12.8 底 —	3.6 細砂粒・輝石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	外面摩滅
第105D PL.106	14	土師器 杯	4306グリッド 3/4	口 14.0 底 —	4.0 細砂粒・角閃石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	内外面摩滅
第105D PL.106	15	土師器 杯	436グリッド 口縁部・体部一部欠損	口 17.9 底 —	5.0 細砂粒・角閃石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	内外面や摩滅
第105D	16	土師器 浅鉢	436グリッド 1/4	口 16.8 底 —	— 細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削り。内面は焼潰。	外面摩滅
第105D	17	土師器 鉢	埋没土中 口縁部一部欠損	口 15.8 底 —	— 細砂粒/良好/にぶい褐色	口縁部は焼潰。体部外面は斜めへう削り。内面は焼潰後、放射状増文を施文。	
第105D	18	土師器 高杯	埋没土中 口縁部一部欠損	口 14.4 底 —	— 細砂粒/良好/褐色	口縁部は焼潰。体部外面は位は横のへう磨き。内面は焼潰後、縦線増文を施文。	
第105D	19	須恵器 転輪(蓋)	埋没土中 一體一部	— 口 6.0	6.0 細砂粒・粗砂粒/還元塩/灰	口縁部は焼潰。体部外面は横のへう削り。底面は焼潰後、縦線増文を施文。	
第105D PL.106	20	須恵器 杯	436グリッド 3/4	口 14.2 底 9.7	3.3 細砂粒・粗砂粒/還元塩/灰白	口縁部は焼潰。底面は還元塩へう起こし。	天井部外面は(右回転)へう削り後の貼り付け。
第105D PL.106	21	須恵器 杯	埋没土中 3/4	口 13.9 底 9.0	3.6 細砂粒/還元塩/灰白	口縁部は焼潰。底面は還元塩へう起こし後、底面周辺及び胴部外面を回転へう削り。	体部外面に重ね焼きによる破
第105D	22	須恵器 杯	埋没土中 1/3	口 12.5 底 8.0	3.2 細砂粒/還元塩/褐灰	口縁部は焼潰。底面は還元塩系切り無調整。	
第105D	23	須恵器 杯	埋没土中 1/4	口 14.9 底 10.4	3.2 細砂粒・粗砂粒/還元塩/灰白	口縁部は焼潰。底面は還元塩へう削り。	外面摩滅
第105D	24	須恵器 杯	埋没土中 体部一部欠損	口 — 底 10.0	— 細砂粒/還元塩/褐灰	口縁部は焼潰。底面は還元塩へう削り。高台は、底部回転へう削り後の削り出し高台。	
第105D PL.106	25	須恵器 杯	埋没土中 1/2	口 13.0 底 9.4	3.7 細砂粒/還元塩/灰	口縁部は焼潰。高台は底部回転へう削り後の削りだし高台。体部下半は回転へう削り。	秋間か
第105D PL.106	26	須恵器 杯	4307グリッド 口縁部一部欠損	口 13.0 底 9.0	3.1 細砂粒/還元塩/灰白	口縁部は焼潰。底面は還元塩へう起こし。	内面体部の立ち上がり部に凹線を巡らせる・秋間か
第105D	27	土師器 浅鉢	埋没土中 口縁部一部欠損	口 19.6 底 —	— 細砂粒・角閃石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。胴部外面は横のへう削り。内面は焼潰。	外面摩滅
第106D PL.106	28	土師器 杯	436グリッド 口縁部・体部一部欠損	口 11.8 底 —	3.4 細砂粒・角閃石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。	内面に塗層付着
第106D	29	土師器 杯	4306グリッド 口縁部一部欠損	口 13.3 底 —	3.8 細砂粒・軽石/良好/にぶい褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	
第106D PL.106	30	土師器 杯	埋没土中 口縁部一部欠損	口 13.1 底 —	4.0 細砂粒・軽石/良好/にぶい褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削り。内面は焼潰で、一部にハケ状の焼潰。	
第106D PL.106	31	土師器 杯	4305グリッド 光形	口 13.0 底 —	3.5 細砂粒・軽石/良好/にぶい褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は丁寧に焼潰。	
第106D PL.106	32	土師器 杯	436グリッド 口縁部一部欠損	口 11.8 底 —	3.7 細砂粒・角閃石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に広く焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	外面や摩滅
第106D PL.106	33	土師器 杯	436グリッド 口縁部一部欠損	口 13.8 底 —	3.8 細砂粒・角閃石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	外面や摩滅
第106D	34	土師器 杯	4306グリッド 1/2	口 13.4 底 —	3.7 細砂粒・軽石/良好/にぶい褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	
第106D	35	土師器 杯	埋没土中 1/2	口 12.2 底 —	3.3 細砂粒・角閃石・軽石/良好/褐色	口縁部は焼潰。底部は手持ちへう削りて、間に焼潰の部分を残す。内面は焼潰。	外面摩滅・内面にわずかにハケ

1. 土師器・須恵器観察表

検出番号 図記番号	番 号	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土/焼成/色調	成 形・整 形の特徴	摘 要
第106図	36	土師器 杯	437グリッド 1/3	□ 14.0 底 一	高 一 赤褐色	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明 細砂粒は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に磨で部分を残す。内面は磨で、	内面の摩滅顕著
第106図 P.L. 106	37	土師器 杯	436グリッド 口縁部一部欠損	□ 12.4 底 一	高 3.4 赤褐色	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明 細砂粒は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に磨で部分を残す。内面は磨で、	表面摩滅
第106図	38	土師器 壇没土中 杯	壇没土中 1/2	□ 14.0 底 一	高 3.4 赤褐色	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明 細砂粒は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に磨で部分を残す。内面は磨で、	表面摩滅
第106図 P.L. 107	39	土師器 杯	4306グリッド 1/2	□ 13.3 底 一	高 3.4 赤褐色	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明 細砂粒は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に磨で部分を残す。内面は磨で、	底部に広く黒斑
第106図 P.L. 107	40	土師器 壇没土中 杯	壇没土中 底部一部欠損	□ 13.3 底 一	高 3.8 赤褐色	細砂粒・輝石/良好/明 細砂粒は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に磨で部分を残す。内面は磨で、	内外面に細かなハゼ
第106図	41	土師器 杯	壇没土中 口縁部	□ 14.0 底 9.5	一 赤褐色	細砂粒・角閃石/良好/明 内外面で磨で、	発色の異なる粘土が繰り返された 素地構状
第106図	42	土師器 杯	壇没土中 口縁部	□ 15.0 底 一	一 赤褐色	細砂粒・軽石/良好/明 体部外面は横溝で、底部は手持ちへう削り、 内面は磨で後、放射状暗文を施文、	
第106図	43	土師器 杯	436グリッド 1/2	□ 15.2 底 一	高 3.5 赤褐色	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明 口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り、	内面の細かなハゼ顕著・内面 炭灰
第106図	44	土師器 杯	436グリッド 1/2	□ 15.0 底 一	高 3.1 赤褐色	細砂粒・軽石/良好/明 口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削りて、 間に磨で部分を残す。内面は磨で、	
第106図	45	土師器 杯	436グリッド 4/5	□ 15.0 底 一	高 3.3 赤褐色	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明 口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り、	表面摩滅
第106図	46	須恵器 壇没土中 杯	壇没土中 口縁部	□ 10.8 底 6.2	高 3.9 赤褐色	細砂粒/還元塩/灰白 ロク口整形(右回転) 底部は回転系切り無 調整、	体部外面に自然輪・秋間か
第106図	47	須恵器 壇没土中 杯	壇没土中 1/4	□ 11.6 底 7.0	高 3.5 赤褐色	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰白 ロク口整形(右回転) 底部は回転系切り無 調整、	
第106図	48	須恵器 杯	436グリッド 1/4	□ 11.8 底 7.2	高 3.7 赤褐色	細砂粒/粗砂粒/還元塩/靑灰 ロク口整形(右回転) 底部は回転系切り無 調整、	体部外面は重ね焼きによる変色 ・外面の一部に自然輪・器 胎セピア色
第106図 P.L. 107	49	須恵器 杯	437グリッド 3/4	□ 12.3 底 7.6	高 3.8 赤褐色	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰 ロク口整形(右回転) 底部回転系切り無 調整、	内面体部の立ち上がり部はシャ ープに整形
第106図 P.L. 107	50	須恵器 杯	4307グリッド 口縁部	□ 12.3 底 8.3	高 3.6 赤褐色	細砂粒/還元塩/灰白 ロク口整形(右回転) 底部及び体部外面を回 転へう削り、	体部外面～底部に自然輪・秋 間か
第106図	51	須恵器 杯	436グリッド 1/2	□ 12.9 底 8.5	高 3.9 赤褐色	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰白 ロク口整形(右回転) 底部は回転へう削り か、	表面摩滅
第106図 P.L. 107	52	須恵器 杯	436グリッド 3/4	□ 14.8 底 10.8	高 4.0 9.9	細砂粒/還元塩/灰白 ロク口整形(右回転) 高台は底部回転へう 削り後の丁寧な付け高台、	外面に自然輪・秋間か
第106図 P.L. 107	53	須恵器 壇没土中 杯	壇没土中 胴部～底部片	□ 一 底 8.8	高 10.8	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰 ロク口整形(右回転) 高台は付け高台、	高台内側の貼り付け部は焼き き
第106図	54	須恵器 壇没土中 杯	壇没土中 底部分	□ 一 底 8.9	高 一	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰 ロク口整形(右回転) 底部に粘土板貼付、 体部下端は回転へう削り、	内面及び底部は使用により摩 滅
第106図	55	土師器 壇没土中 杯	壇没土中 口縁部	□ 18.7 底 一	高 一	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明 口縁部は横溝で、胴部外面は横溝へう削り、 内面は磨で、	口縁部内面の摩滅顕著
第106図	56	須恵器 壇没土中 杯	壇没土中 口縁部	□ 15.8 底 一	高 一	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰 ロク口整形(回転方向不明)	
第107図	57	須恵器 壇没土中 杯	437グリッド 口縁部	□ 25.9 底 一	高 一	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰 叩き整形、外面は平行叩き、内面の当り具は 素文、	胴部内外面に薄く自然輪
第108図 P.L. 107	58	須恵器 壇没土中 杯	436グリッド 2/3	□ 21.0 底 一	高 一	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰白 叩き整形、外面は平行叩き、内面の当り具は 靑海流文、	胴部外面に刻線
第107図	59	須恵器 壇没土中 杯	壇没土中 破片	□ 一 底 一	高 一	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰白 外面に凹線と4条単位のクシ楕圓状文を施 せる、	
第107図	60	須恵器 壇没土中 杯	壇没土中 破片	□ 一 底 一	高 一	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰 外面に凹線と4条単位のクシ楕圓状文を施 せる、	
第107図	61	須恵器 壇没土中 杯	壇没土中 破片	□ 一 底 一	高 一	細砂粒/還元塩/灰 叩き整形、外面は平行叩き後、磨で、内面は 磨で、	器胎セピア色
第107図	62	須恵器 壇没土中 杯	437グリッド 破片	□ 一 底 一	高 一	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰 外面に凹線と11条単位のクシ楕圓状文を施 せる、内面は磨で、	
第107図	63	須恵器 壇没土中 杯	436グリッド 破片	□ 一 底 一	高 一	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰 叩き整形、外面は平行叩き、内面の当り具は 靑海流文、	外面に薄く自然輪
第107図	64	須恵器 壇没土中 杯	壇没土中 破片	□ 一 底 一	高 一	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰白 叩き整形、外面は平行叩き、内面の当り具は 靑海流文、	
第107図	65	須恵器 壇没土中 杯	壇没土中 破片	□ 一 底 一	高 一	細砂粒/粗砂粒/還元塩/靑黄濁 叩き整形、外面は平行叩き、内面の当り具は 素文、	多少顕著・秋間か
第108図 P.L. 107	66	土師器 壇没土中 杯	壇没土中 1/2	□ 11.8 底 8.6	高 3.2 赤褐色	細砂粒・輝石・軽石/良好/にぶ い褐色 口縁部は横溝で、体部外面は磨で、内面は磨 で、底部は手持ちへう削り、	体部外面に横溝み度
第108図	67	土師器 壇没土中 杯	壇没土中 1/4	□ 11.8 底 8.4	高 一	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明 口縁部は横溝で、体部外面は磨で、内面は 丁寧な磨で、底部は手持ちへう削り、	
第108図 P.L. 107	68	土師器 壇没土中 杯	436グリッド 1/2	□ 14.9 底 一	高 7.3 赤褐色	細砂粒・角閃石/酸化塩/褐色 ロク口整形(回転方向不明)口縁部外面に凹 線を施せる、内面はへう磨き後、黒色処理、	
第108図	69	黒色土師 壇没土中 杯	壇没土中 口縁部	□ 15.8 底 一	高 一	細砂粒/酸化塩/靑灰 ロク口整形(回転方向不明)内外面は丁寧な へう磨き後、内面を黒色処理、	
第108図	70	須恵器 壇没土中 杯	壇没土中 破片	□ 一 底 一	高 一	細砂粒/還元塩/灰白 ロク口整形(回転方向不明)	表面摩滅
第108図	71	須恵器 壇没土中 破片	437グリッド 破片	□ 一 底 一	高 一	細砂粒/粗砂粒/還元塩/灰 ロク口整形(右回転) 胴部下年は回転へう 削り、	体部外面に自然輪

遺物観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土/焼 成/色 調	成 形・形 態の特 徴	摘 要
第108回	72	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 13.8 底 1.1 高 1.1	—	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り。内面は横溝で、
第108回 PL.107	73	土師器 杯	43P7グリッド 1/2	口 12.3 底 7.9 高 3.6	—	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。
第108回 PL.107	74	須恵器 杯	43Q7グリッド 口縁部～底部片	口 12.4 底 5.8 高 4.1	—	細砂粒/還元焼/灰白	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回	75	須恵器 杯	埋没土中 1/2	口 12.8 底 7.2 高 3.2	—	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回 PL.107	76	須恵器 杯	43P7グリッド 3/4	口 12.5 底 6.0 高 3.7	—	細砂粒・片岩/還元焼/灰白	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回	77	須恵器 杯	43P7グリッド 1/4	口 12.8 底 6.2 高 3.3	—	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回	78	須恵器 杯	埋没土中 体部～底部片	口 14.7 底 6.0 高 5.1	—	細砂粒・粗砂粒/還元焼/横灰	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回 PL.107	79	須恵器 杯	43P7グリッド 1/4	口 13.0 底 6.5 高 6.4	—	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回	80	須恵器 杯	埋没土中 1/4	口 14.7 底 8.0 高 5.5	—	細砂粒/還元焼/灰白	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回	81	須恵器 杯	43P6グリッド 1/4	口 13.2 底 7.0 高 4.9	—	細砂粒・軽石/還元焼/灰	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回 PL.107	82	須恵器 杯	43P7グリッド 3/4	口 13.0 底 7.1 高 5.3	—	細砂粒/還元焼/にふい黄壤	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回	83	須恵器 杯	埋没土中 2/3	口 15.2 底 8.5 高 4.7	—	細砂粒/還元焼/灰	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回 PL.107	84	須恵器 杯	43P7グリッド 体部～底部片	口 17.4 底 7.4 高 7.3	—	細砂粒/還元焼/にふい黄壤	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回	85	須恵器 杯	埋没土中 1/4	口 12.5 底 1.1 高 1.1	—	細砂粒/還元焼/灰白	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回 PL.107	86	灰釉陶器 皿	埋没土中 1/2	口 17.6 底 8.4 高 3.7	—	細砂粒/還元焼/灰白	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、底部は手持ちへう削り。口縁部は横溝で、
第108回 PL.108	87	須恵器 紡錘車(柄)	埋没土中 穴形	長 6.9 幅 7.1	0.9	細砂粒・粗砂粒・片岩/還元焼/灰オリーブ	柄の部分で研磨整形し斜輪部に転用が、元となった柄は底部回転系切り後の付け高。穿孔は下側から。

上町跡 遺構外出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土/焼 成/色 調	成 形・形 態の特 徴	摘 要
第111回	13	土師器 杯	3区 口縁部～底部片	口 12.8 底 1.1 高 1.1	—	細砂粒/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り、内面に横溝で、
第111回	14	土師器 杯	3区 口縁部～底部片	口 10.6 底 1.1 高 3.1	—	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り、内面に横溝で、
第111回	15	須恵器 壺	2区埋没土中 口縁部～底部片	口 18.2 底 1.1 高 1.1	—	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰白	叩き整形、外面は格子叩き、内面の当て具は青黄澄文。
第111回	16	瓦 丸瓦か	1区IV層中 破片	口 1.1 底 1.1 高 1.1	—	細砂粒・粗砂粒/酸化焼/にふい赤褐色	外面は横溝で、内面は布目筋。

時沢西組屋台戸通跡 1号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土/焼 成/色 調	成 形・形 態の特 徴	摘 要
第112回	1	須恵器 杯	北西隅埋没土中 2/3	口 10.6 底 6.0 高 3.3	—	細砂粒・軽石/酸化/浅黄橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへう削り、内面に横溝で、
第112回	2	須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 9.8 底 1.1 高 1.1	—	細砂粒/還元焼/灰	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、
第112回	3	須恵器 壺	埋没土中 底部片	口 4.8 底 1.1 高 1.1	—	細砂粒/還元焼/灰白	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、
第112回 PL.109	4	須恵器 羽釜か	南前床面直上 胴部～底部片	口 7.0 底 1.1 高 1.1	—	細砂粒・軽石・角閃石/酸化/にふい黄壤	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、
第112回 PL.109	5	須恵器 羽釜	埋没土中 口縁部～胴部片	口 23.0 底 1.1 高 1.1	—	細砂粒・粗砂粒/酸化/橙	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、
第112回 PL.109	6	須恵器 羽釜	裏庭埋没土中 口縁部～胴部片	口 19.2 底 1.1 高 1.1	—	細砂粒・粗砂粒・角閃石/酸化/にふい黄壤	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、
第112回	7	須恵器 壺	埋没土中 胴部片	口 1.1 底 1.1 高 1.1	—	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	叩き整形、外面平打ち叩き、内面当て具は青黄澄文。

時沢西組屋台戸通跡 2号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土/焼 成/色 調	成 形・形 態の特 徴	摘 要
第115回	1	須恵器 杯	埋没土中 体部片	口 17.9 底 1.1 高 1.1	—	細砂粒/還元焼/灰	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、
第115回 PL.109	2	須恵器 壺	埋没土中 1/4	口 15.2 底 7.2 高 2.7	—	細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	口縁部は横溝で、体部外面は横溝で、押圧。内面は横溝で、

1. 土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土/焼成/色調	成 形・整 形の特 徴	摘 要
第1150号	3	須恵器 杯	甕前床上6cm 1/4	口 10.4 高 5.3	3.4 —	細砂粒・粗砂粒・角閃石/酸化 にぶい黄橙	ロク口整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。底部摩減
第1150号 P.L.109	4	灰釉陶器 樽	埋没土中 口縁部片	口 14.6 底 —	— —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(回転方向不明)。口縁部内面に1 条の凹線が走る。胎粒は濃け掛け。
第1150号	5	須恵器 杯	甕前床上15cm 底部片	口 7.0 底 2.0	— —	細砂粒・粗砂粒/酸化/にぶい黄 橙	ロク口整形(右回転)。底部回転糸切り無 調整。
第1150号	6	黒色土器 椀	埋没土中 口縁部片	口 12.0 底 —	— —	細砂粒/酸化/にぶい黄橙	ロク口整形(回転方向不明)。内面及び口縁部 外面へうろ過ぎ後、内面黒色処理。
第1150号 P.L.109	7	須恵器 羽釜	竈埋没部 口縁部～胴部片	口 22.2 底 —	— —	細砂粒・粗砂粒・角閃石/酸化 にぶい黄橙	ロク口整形(右回転)。筒は比較的可 成り付け。
第1150号 P.L.109	8	須恵器 羽釜	埋没土中 口縁部～胴部片	口 21.0 底 —	— —	細砂粒・粗砂粒・角閃石/酸化 にぶい黄橙	ロク口整形(右回転)。筒は比較的可 成り付け。
第1150号 P.L.109	9	須恵器 羽釜	中央部床上16cm 口縁部片	口 — 底 —	— —	細砂粒・粗砂粒・軽石・角閃石 /酸化/橙	ロク口整形(回転方向不明)。筒の貼り付けは 丁寧で、胴部外面は斜のへら削り。

時次西組壁谷戸通跡 3号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土/焼成/色調	成 形・整 形の特 徴	摘 要
第1160号	1	土師器 杯	埋没土中 1/4	口 9.8 底 —	2.8 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、底部手持ちへら削りで、間に 撫での部分を残す。内面撫で。
第1160号	2	土師器 杯	埋没土中 1/4	口 11.5 底 —	— —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、底部手持ちへら削りで、間に 撫での部分を残す。内面撫で。
第1160号	3	土師器 皿	埋没土中 口縁部～底部片	口 15.8 底 —	— —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部構成で、底部手持ちへら削り、内面撫 で。
第1160号 P.L.109	4	須恵器 蓋	埋没土中 1/4	口 14.3 高 5.3	2.7 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)。縁は環状撫で、天井部 外面回転へら削り後の貼り付け。
第1160号 P.L.109	5	須恵器 蓋	甕左袖前床上 46cm 口縁部一部欠損	口 16.4 底 —	2.2 —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。縁は環状撫で、天井部 外面手持ちへら削り後の貼り付け。
第1160号	6	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部片	口 20.8 底 —	— —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、胴部外面へら削り、内面撫で。
第1160号 P.L.109	7	土師器 甕	甕南側床上7cm 3/4	口 13.6 底 —	— —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部構成で、胴部外面斜のへら削り、内面 撫で。

時次西組壁谷戸通跡 4号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土/焼成/色調	成 形・整 形の特 徴	摘 要
第1170号 P.L.110	1	土師器 杯	甕壁際床直上 3/4	口 12.9 高 3.5	3.5 —	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/ にぶい橙	口縁部構成で、底部手持ちへら削りで、間に 撫での部分を残す。内面撫で。
第1170号 P.L.110	2	土師器 杯	埋没土中 3/4	口 12.7 底 —	3.4 —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/明 赤褐色角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部構成で、底部手持ちへら削りで、間に 撫での部分を残す。内面撫で。
第1170号 P.L.110	3	土師器 杯	甕壁際床直上 埋没土中	口 13.4 底 —	3.4 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ぶい橙	口縁部構成で、底部手持ちへら削りで、間に 撫での部分を残す。内面撫で。
第1170号 P.L.110	4	土師器 杯	埋没土中 3/4	口 13.4 底 —	3.4 —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/に ぶい橙	口縁部構成で、底部手持ちへら削りで、間に 撫での部分を残す。内面撫で。
第1170号	5	土師器 杯	甕壁際床上13cm 3/4	口 13.0 底 —	3.1 —	細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石 /良好/橙	口縁部構成で、底部手持ちへら削りで、間に 撫での部分を残す。内面撫で。
第1170号	6	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 13.8 底 —	— —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/明 赤褐色	口縁部構成で、底部手持ちへら削りで、間に 撫での部分を残す。内面撫で。
第1170号	7	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 14.9 底 —	— —	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部構成で、底部手持ちへら削りで、間に 撫での部分を残す。内面撫で。
第1170号	8	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口 15.8 底 —	— —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部構成で、底部手持ちへら削りで、間に 撫での部分を残す。内面撫で。
第1170号 P.L.110	9	須恵器 蓋	埋没土中 底部片	口 14.8 底 —	— —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。天井部外面回転へら削 り。
第1170号	10	須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 5.8 高 6.0	— —	細砂粒/還元/灰	ロク口整形(回転方向不明)。高台はシャープ な作りで、丁寧な付合。
第1170号	11	須恵器 蓋	埋没土中 口縁部～胴部片	口 6.8 底 —	— —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(回転方向不明)。
第1170号	12	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部片	口 23.0 底 —	— —	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、胴部外面横のへら削り、内面 撫で。
第1170号 P.L.110	13	土師器 甕	甕前床上14cm 口縁部～胴部片	口 21.8 底 —	— —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、胴部外面横のへら削り、内面 撫で。
第1170号	14	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部片	口 22.8 底 —	— —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/明 赤褐色	口縁部構成で、胴部外面横のへら削り、内面 撫で。
第1170号	15	土師器 甕	西部床上10cm 口縁部～胴部片	口 17.1 底 —	— —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、胴部外面横のへら削り、内面 撫でのへら撫で。
第1170号	16	須恵器 甕	埋没土中 胴部片	口 — 底 —	— —	細砂粒/還元/灰	印き整形。外面平行印き、内面当て具は青海 波文。
第1170号	17	須恵器 甕	埋没土中 胴部片	口 — 底 —	— —	細砂粒/還元/灰白	印き整形。外面平行印き、内面当て具は青海 波文。

遺物観察表

時沢西相屋谷戸遺跡 5号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	種 類	出 土 位 置	残 存 率	計 測 値	胎 土/焼 成/色 調	成 形・整 形の特 徴	摘 要	
第121号 PL.110	1	土師器 杯	埋没土中	底	15.0 高 1/4 底	—	細砂粒・粗砂粒/良好/ふい煙	口縁部構線で、底部手持ちヘラ削りで、間に狭く煮での部分を残す。内面煮で。	内外面摩滅 外面ハゼ顕著
第121号 PL.110	2	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	底	12.7 高 — 底	—	細砂粒/良好/橙	口縁部構線で、口縁部下に煮での部分を残す。内面煮で。	内外面摩滅
第121号 PL.110	3	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	底	13.8 高 — 底	—	細砂粒・角閃石/良好/ふい黄橙	口縁部構線で、口縁部下に煮での部分を残す。内面煮で。	内外面わずかに喫炎
第121号 PL.109	4	須恵器 甕	埋没土中 口縁部片	底	15.2 高 — 底	—	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(右回転)。口縁部下に喫炎を返らさず。	器面摩滅

時沢西相屋谷戸遺跡 7号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	種 類	出 土 位 置	残 存 率	計 測 値	胎 土/焼 成/色 調	成 形・整 形の特 徴	摘 要	
第123号 PL.110	1	須恵器 取鉢(杯)	埋没土中 口縁部片	口	10.2 高 — 底	—	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。杯を取鍋として転用か。	器面の被熱は顕著で、還元は転用時か 内面にガラス質の融着物。器面の一部発泡
第123号 PL.110	2	須恵器 取鉢(杯)	埋没土中 口縁部片	口	10.4 高 — 底	—	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。杯を取鍋として転用か。	外面は被熱により発泡 内面に発泡した融着物 還元は転用時か
第123号 PL.110	3	須恵器 取鉢(杯)	埋没土中 口縁部片	口	— 高 — 底	—	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。	器面の被熱顕著 還元は転用時か 内面にやや赤味を帯びたガラス質の融着物 一部発泡
第123号 PL.110	4	須恵器 取鉢(杯)	埋没土中 口縁部片	口	— 高 5.0 底	—	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。杯を取鍋に転用。	内面に発泡した付着物 還元は転用時 全体に被熱
第123号 PL.111	12	須恵器 椀	南西隅1号土坑 底上20cm 1/4	口	14.2 高 7.2 底	—	細砂粒/酸化/にふい黄橙	ロクロ整形(回転方向不明)。高台は付台高で欠風。	外面煤付 全体に被熱
第123号 PL.111	13	須恵器 椀	南西隅上8cm 口縁部～底部 一部欠損	口	11.9 高 6.8 底	4.6 6.5	細砂粒・粗砂粒/酸化/にふい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付台高。	高台接地部喫炎顕著
第123号 PL.111	14	須恵器 杯か	裏使用面上13cm 口縁部片	口	15.6 高 — 底	—	細砂粒・軽石・角閃石/酸化/にふい黄橙	ロクロ整形(回転方向不明)。	内外面煤付
第123号 PL.111	15	須恵器 椀	埋没土中 底部片	口	— 高 8.6 底	8.0	細砂粒・粗砂粒/酸化/にふい橙	ロクロ整形(回転方向不明)。高台は三角高台で、丁拿な付高台。	内面に粘土状の付着物
第123号 PL.111	16	須恵器 椀	埋没土中 底部片	口	— 高 5.5 底	5.2	細砂粒・粗砂粒/酸化/にふい黄橙	ロクロ整形(回転方向不明)。高台は付台高で、接地部が平坦となる。	内外面煤付
第123号 PL.111	17	須恵器 羽釜	埋没土中 口縁部～胴部片	口	19.4 高 — 底	—	細砂粒・粗砂粒/酸化/浅黄橙	ロクロ整形(右回転)。柄は丁拿な貼り付け。胴部外面下半斜のヘラ削り。	器面摩滅
第123号 PL.111	18	須恵器 羽釜	裏使用面上6cm 口縁部～胴部片	口	23.0 高 — 底	—	細砂粒・粗砂粒・角閃石/酸化/明赤橙	ロクロ整形(右回転)。柄は丁拿な貼り付け。胴部外面縦のヘラ削り。	器面摩滅
第123号 PL.111	19	須恵器 羽釜	埋没土中 口縁部～胴部片	口	15.8 高 — 底	—	細砂粒/粗砂粒・角閃石/酸化/にふい黄橙	ロクロ整形(右回転)。柄は丁拿な貼り付け。	器面摩滅
第123号 PL.111	20	須恵器 甕	南西隅上6cm 胴部～底部片	口	— 高 15.9 底	—	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。胴部外面下側回転ヘラ削り。	器面摩滅

時沢西相屋谷戸遺跡 8号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	種 類	出 土 位 置	残 存 率	計 測 値	胎 土/焼 成/色 調	成 形・整 形の特 徴	摘 要	
第124号 PL.111	1	須恵器 杯	埋没土中	口	13.0 高 7.0 底	3.0	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。底部に墨書「葉」か	器面摩滅
第124号 PL.111	2	須恵器 杯	埋没土中	口	12.8 高 6.8 底	3.4	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	体部外面ねじりによるものかわずかに喫炎
第124号 PL.111	3	須恵器 椀か	裏使用面上6cm 口縁部片	口	15.0 高 — 底	—	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。	器面摩滅
第124号 PL.111	4	土師器 甕	裏使用面上24cm 口縁部～胴部片	口	19.8 高 — 底	—	細砂粒・軽石/良好/にふい煙	口縁部構線で、胴部外面上平輪。下半斜のヘラ削り。内面煮で。	内外面煤付
第124号 PL.111	5	土師器 甕	裏使用面上11cm 口縁部～胴部片	口	20.5 高 — 底	—	細砂粒・雲母/良好/橙	口縁部構線で、胴部外面横のヘラ削り。内面横のヘラ煮で。	胴部外面に輪構み疵
第124号 PL.111	6	土師器 甕	裏使用面上19.2cm 口縁部～胴部片	口	19.2 高 — 底	—	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	口縁部構線で、胴部外面横のヘラ削り。内面横のヘラ煮で。	胴部外面に輪構み疵
第124号 PL.111	7	土師器 甕	裏使用面上19cm 口縁部～胴部片	口	18.8 高 — 底	—	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構線で、胴部外面横のヘラ削り。内面横のヘラ煮で。	胴部外面に輪構み疵
第124号 PL.111	8	土師器 甕	裏使用面上19.0cm 口縁部～胴部片	口	19.0 高 — 底	—	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部構線で、胴部外面斜のヘラ削り。内面横のヘラ煮で。	胴部外面に輪構み疵

時沢西相屋谷戸遺跡 9号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種	種 類	出 土 位 置	残 存 率	計 測 値	胎 土/焼 成/色 調	成 形・整 形の特 徴	摘 要	
第130号 PL.112	1	土師器 杯	中央部床土53cm 1/2	口	13.8 高 3.9 底	3.9	細砂粒・角閃石・軽石/良好/にふい煙	口縁部構線で、底部手持ちヘラ削りで、間に広く煮での部分を残す。内面煮で。	器面摩滅
第130号 PL.112	2	土師器 杯	P1南縁床土 29cm 3/4	口	14.0 高 — 底	4.7	細砂粒・角閃石/良好/にふい煙	口縁部構線で、底部手持ちヘラ削り。内面煮で。底部中央に指先の押圧。	底部に黒斑
第130号 PL.112	3	土師器 杯	埋没土中	口	12.3 高 — 底	3.7	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	口縁部構線で、底部手持ちヘラ削りで、間に煮での部分を残す。内面煮で。	器面摩滅

1. 土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第13001	4	土師 杯	中央部床土53cm 3/4	□ 12.6 底 —	高 3.5 —	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	内面摩擦 細かなハゼ
第13005 PL.112	5	土師 杯	北部床土48cm 3/4	□ 14.1 底 —	高 4.5 —	細砂粒・角閃石/良好/にふい橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	外面摩擦 内面に細かなハゼ
第13006	6	土師 杯	西部床土46cm 1/3	□ 13.2 底 —	高 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	外面摩擦
第13007 PL.112	7	土師 杯	中央部床直 1/3	□ 13.0 底 —	高 4.5 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	外面摩擦
第13008 PL.112	8	土師 杯	南東部南溝底上 61cm 1/2	□ 12.4 底 —	高 — —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	
第13009	9	土師 杯	埋没土中 1/4	□ 15.6 底 —	高 4.7 —	細砂粒・角閃石/良好/にふい黄	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	底部に黒斑
第13010	10	土師 杯	埋没土中 1/4	□ 13.1 底 —	高 3.6 —	細砂粒・角閃石/良好/にふい橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。一部に型頭状の亀裂が見 られる。内面撫で。	外面摩擦
第13011 PL.112	11	土師 杯	北西部床土50cm 口縁部一部欠損	□ 12.0 底 —	高 3.8 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 広く撫での部分を残す。内面撫で。	外面摩擦
第13012 PL.112	12	土師 杯	掘り方直道直上 1/2	□ 13.6 底 —	高 4.1 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	
第13013 PL.112	13	土師 杯	臺使用面直上 1/4	□ 16.2 底 —	高 — —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	
第13014	14	土師 杯	埋没土中 1/3	□ 12.2 底 —	高 3.4 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい赤褐	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	外面摩擦
第13015 PL.112	15	土師 杯	西段際床直 3/4	□ 11.3 底 —	高 3.2 —	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	内面摩擦
第13016 PL.112	16	土師 杯	埋没土中 1/4	□ 12.6 底 —	高 — —	細砂粒/良好/にふい橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 広く撫での部分を残す。内面撫で。	外面に輪組み痕
第13017 PL.112	17	土師 杯	南部床土18cm 2/3	□ 12.2 底 —	高 3.5 —	細砂粒・角閃石/良好/にふい橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	底部に黒斑
第13018 PL.112	18	土師 杯	埋没土中 1/4	□ 17.8 底 —	高 4.9 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、内面撫 での部分を残す。内面撫で。	内面に厚付着
第13019 PL.112	19	土師 杯	口中央部床土 38cm 縁部～底 部一部欠損	□ 13.6 底 —	高 3.7 —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	
第13020	20	土師 杯	北西部床土51cm 1/2	□ 13.7 底 —	高 — —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/に ふい橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	
第13021	21	土師 杯	埋没土中 1/4	□ 12.0 底 —	高 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	
第13022 PL.112	22	土師 杯	西部床土42cm 3/4	□ 12.3 底 —	高 3.5 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	内面摩擦 底部に黒斑
第13023	23	土師 杯	中央部床土41cm 1/2	□ 13.2 底 —	高 3.5 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい赤褐	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	
第13024 PL.112	24	土師 杯	埋没土中 1/3	□ 15.3 底 —	高 — —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	
第13025 PL.112	25	土師 杯	埋没土中 口縁部～底部片	□ 14.9 底 —	高 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、内面撫 で。	外面摩擦
第13026	26	土師 杯	西部床土50cm 1/4	□ 13.8 底 —	高 4.0 —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/に ふい橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、間に 狭く撫での部分を残す。内面撫で。	外面摩擦
第13027 PL.112	27	土師 杯	埋没土中 口縁部～底部片	□ 15.8 底 —	高 4.8 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ふい黄橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう前りで、内面撫 で。	
第13028	28	須恵 蓋	中央部床直 体部片	□ — 底 —	高 — 幅 6.0	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロウク整形(右回転)。輪は現状前で、天井部外 面回転へう前り後の貼り付け。天井部外 面回転へう前り後の貼り付け。	
第13029	29	須恵 蓋	埋没土中 体部片	□ 15.8 底 —	高 — —	細砂粒/還元/灰	ロウク整形(右回転)。天井部外面回転へう前 り。輪は欠損しているため形状不明。欠損の ため形状不明。	底部内外面に重ね焼きの痕跡
第13030	30	須恵 蓋	埋没土中 体部片	□ 15.8 底 —	高 — —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロウク整形(右回転)。天井部外面回転へう前 り。	外面摩擦
第13031 PL.112	31	須恵 杯	墓土前床土27cm 1/4	□ 14.4 底 —	高 3.8 幅 9.9	細砂粒/還元/灰白	ロウク整形(回転方向不明)。底部回転へう起 こし。	
第13032	32	須恵 杯	埋没土中 底部片	□ — 底 —	高 — 幅 7.8	細砂粒/還元/灰	ロウク整形(回転方向不明)。底部回転へう起 こし。	
第13033 PL.112	33	須恵 杯	埋没土中 口縁部～底部片	□ 16.4 底 —	高 3.8 幅 11.0	細砂粒/還元/灰白	ロウク整形(右回転)。高台は削り出し高台。	
第13034 PL.112	34	土師 杯	北西部床土48cm 口縁部～体部片	□ 13.8 底 —	高 2.0 —	細砂粒・雲母/良好/にふい黄橙	口縁部横溝で、体部外面撫で。内面撫で。底 部手持ちへう前り。	底部及び内面のハゼ顕著
第13035 PL.112	35	土師 杯	北段階上51cm 口縁部～体部片	□ 25.0 底 —	高 — —	細砂粒・雲母/良好/橙	口縁部横溝で、体部外面撫で。内面撫で。	外面摩擦 粉っぽい素地
第13036 PL.112	36	土師 杯	北西部床土48cm 口縁部～胴部片	□ 12.0 底 —	高 — —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、胴部外面撫でのへう前り。内面 撫で。	外面の摩擦顕著
第13037 PL.112	37	土師 杯	埋没土中 口縁部～胴部片	□ 10.0 底 —	高 — —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、胴部外面撫でのへう前り。内面 撫で。	

遺物観察表

検出番号 図録番号	番 号	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土/焼成/色調	成 形・整 形の特 徴	摘 要
第1300号	38	土師器 壺	埋没土中 口縁部～胴部片	□ 19.8 — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横線で、胴部外面へう削り、内面直で。胴部外面に輪積み痕
第1300号 P.L. 113	39	土師器 壺	甕左前床土39cm 口縁部～胴部片	□ 22.5 — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横線で、胴部外面斜のへう削り、内面斜のへう直で。
第1300号	40	土師器 壺	甕使用面直上 口縁部～胴部片	□ 22.5 — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤褐色	口縁部横線で、胴部外面横線のへう削り、内面直で。
第1300号	41	土師器 壺	埋没土中 口縁部～胴部片	□ — — —	高 一 — —	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	胴部外面斜の直で、内面へう直で。
第1300号 P.L. 113	42	土師器 壺	甕内床土27cm 胴部～底部片	□ 12.0 — —	高 一 — —	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/明赤褐色	胴部外面横～斜のへう削り、内面斜のへう直で、底部へう削り。
第1300号	43	須恵器 壺	埋没土中 口縁部片	□ 8.8 — —	高 一 — —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロク口整形(回転方向不明)。

時西石組屋谷戸遺跡 10号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図録番号	番 号	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土/焼成/色調	成 形・整 形の特 徴	摘 要
第1310号	1	土師器 杯	中央部上36cm 1/2	□ 13.0 — —	高 3.2 — —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	口縁部横線で、底部手持ちへう削りで、間に広く撫でた部分を残す。内面直で。
第1310号 P.L. 113	2	土師器 杯	甕内床土34cm 1/2	□ 16.1 — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部横線で、底部手持ちへう削りで、間に広く撫でた部分を残す。内面直で。
第1310号 P.L. 113	3	土師器 杯	埋没土中 1/4	□ 11.9 — —	高 3.7 — —	細砂粒・輝石/良好/橙	口縁部横線で、底部手持ちへう削りで、間に撫でた部分を残す。内面直で。
第1310号	4	土師器 杯	P 1北縁床直 1/3	□ 12.5 — —	高 2.8 — —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤褐色	口縁部横線で、底部手持ちへう削りで、間に撫でた部分を残す。内面直で。
第1310号	5	土師器 杯	埋没土中 1/3	□ 12.8 — —	高 一 — —	細砂粒・雲母/良好/明赤褐色	口縁部横線で、底部手持ちへう削りで、間に撫でた部分を残す。内面直で。
第1310号	6	土師器 杯	甕内床直上 6cm 3/4	□ 12.8 — —	高 3.8 — —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	口縁部横線で、底部手持ちら削りで、間に狭な撫でた部分を残し、輪積み痕が認められる。内面直で。
第1310号	7	土師器 杯	P 3南東縁床土 7cm 1/3	□ 12.8 — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄褐色	口縁部横線で、底部手持ちへう削りで、間に撫でた部分を残す。内面直で。
第1310号 P.L. 113	8	黒色土器 椀	埋没土中 口縁部片	□ 18.6 — —	高 一 — —	細砂粒/酸化/橙	ロク口整形(回転方向不明)。口縁部～体部外面横のへう直。内面へう直き後黒色処理。
第1310号	9	土師器 杯	甕内床直上 32cm 1/2	□ 12.8 11.0	高 2.8 — —	細砂粒・軽石/良好/橙	口縁部横線で、体部外面直で、内面丁字な撫で、底部手持ちへう削り。
第1310号	10	土師器 杯	埋没土中 1/3	□ 12.8 — —	高 一 — —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/にぶい黄褐色	口縁部横線で、体部外面直で、内面直で、底部手持ちへう削り。
第1310号 P.L. 113	11	土師器 杯	埋没土中 1/4	□ 13.8 — —	高 4.5 — —	細砂粒・雲母/良好/にぶい赤褐色	口縁部横線で、体部外面横線のへう削りで、体部内面放射状。見込部縦線状噴文施文。底部手持ちへう削り。
第1310号	12	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	□ 10.9 — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横線で、体部外面直な撫で、内面直で、体部外面に輪積み痕
第1310号	13	土師器 杯	埋没土中 底部片	□ — — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤褐色	体部外面へう削り、内面直で後、体部内面放射状。見込部縦線状噴文施文。
第1310号	14	土師器 杯	埋没土中 破片	□ — — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤褐色	体部外面及び底部へう削り、体部内面放射状、見込部縦線状噴文施文。
第1310号 P.L. 113	15	須恵器 壺	埋没土中 襷一体部片	□ 16.2 — —	高 3.1 4.2 —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。柄は環状線で、天井部外面回転へう削り後の貼り付け。
第1310号 P.L. 113	16	須恵器 壺	P 2北縁床土 11cm 1/2	□ 15.0 — —	高 2.5 3.8 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)。柄は環状線で、天井部外面回転へう削り後の貼り付け。
第1310号 P.L. 113	17	須恵器 壺	甕左袖床土23cm 1/4	□ 13.2 — —	高 3.9 9.2 —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。底部回転へう起こし。
第1310号 P.L. 113	18	須恵器 壺	中央部床土21cm 口縁部～底部片	□ 9.0 8.2	高 4.2 — —	細砂粒・粗砂粒・角閃石/酸化/橙	ロク口整形(回転方向不明)。底部切り離し不明。
第1310号	19	須恵器 壺	埋没土中 口縁部～底部片	□ 14.1 11.0	高 2.5 — —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(回転方向不明)。底部及び体部下縁回転へう削り。
第1310号 P.L. 113	20	須恵器 壺	甕内床土50cm 高台片	□ — — —	高 一 13.2 —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(回転方向不明)。
第1310号	21	土師器 壺	埋没土中 口縁部～胴部片	□ 11.7 — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤褐色	口縁部横線で、胴部外面横～斜のへう削り、内面直で。
第1310号	22	土師器 壺	中央部床土19cm 口縁部～胴部片	□ 20.1 — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横線で、胴部外面横～斜のへう削り、内面直で。
第1310号 P.L. 113	23	土師器 壺	甕内床土23cm 口縁部～胴部片	□ 22.6 — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横線で、胴部外面横～斜のへう削り、内面直で。
第1310号 P.L. 113	24	土師器 壺	埋没土中 口縁部～胴部片	□ 21.0 — —	高 一 — —	細砂粒/良好/橙	口縁部横線で、胴部外面斜のへう削り、内面直で。
第1310号 P.L. 113	25	土師器 壺	甕内床土20cm 口縁部～胴部片	□ 21.8 — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横線で、胴部外面斜のへう削り、内面直で。
第1310号	26	土師器 壺	北部床土35cm 胴部～底部片	□ — — —	高 4.2 — —	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	胴部外面直のへう削り、内面直で。
第1310号	27	土師器 壺	P 4周辺部直 口縁部～胴部片	□ 23.2 — —	高 一 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横線で、胴部外面横線のへう削り、内面直で。
第1310号	28	須恵器 壺	甕内床土37cm 胴部片	□ — — —	高 一 — —	細砂粒/還元/灰	叩き整形。外面平行叩き、内面直で貝は青海文。

1. 土師器・須恵器観察表

時沢西組屋谷戸遺跡 11号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種 類	出位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第136回 1	土師器 甕	埋没土中 胴部～底部片	口 — 底 4.4	高 — —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/ ぶい黄褐色	胴部外面側のへう削り。内面撫で。	

時沢西組屋谷戸遺跡 12号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種 類	出位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第135回 1	須恵器 甕	埋没土中 胴部片	口 — 底	高 — —	細砂粒/還元/灰オリーブ	印き整形。外面平行印き後撫で。内面当て具は青海波文。	

時沢西組屋谷戸遺跡 13号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種 類	出位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第139回 P.L. 114	1 土師器 杯	甕右袖前床直 口縁部～底部一 部欠損	口 — 底 14.9	高 — 5.0	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	口縁部撫で。底部手持ちへう削り。内面撫 で。	
第139回 P.L. 114	2 土師器 杯	貯蔵穴直上18cm 3/4	口 — 底 11.9	高 — 3.8	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部撫で。底部手持ちへう削り。内面撫 で。	
第139回 P.L. 114	3 土師器 杯	甕右袖残存袖上 先形	口 — 底 10.5	高 — 2.8	細砂粒・雲母/良好/ぶい黄褐色	口縁部撫で。体部外面側のへう削りか。体 部内面撫で後放射状凹凸文。底部手持ちへ う削り。	器面摩擦 著 平滑に摩擦
第139回	4 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 — 底 15.7	高 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部撫で。底部手持ちへう削り。内面撫 で。	器面摩擦 内面に細かなハゼ
第139回	5 須恵器 転用磁(蓋)	北西隅床直上8cm 1/3	口 — 底	高 — —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(回転方向不明)。天井部外面側 へう削り。	内面を砥面として使用 平滑に摩擦
第139回	6 須恵器 蓋	埋没土中 体部片	口 — 底 17.0	高 — —	細砂粒/還元/灰	ロク口整形(回転方向不明)。天井部にへう削 りか。	
第139回 P.L. 114	7 土師器 杯	甕・貯蔵穴付近 の遺物が接合 口縁部～胴部片	口 — 底 26.8	高 — —	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部撫で。胴部外面側のへう削り。内面 撫で。	口縁部外面に輪組み直 横のへう撫で。
第139回	8 土師器 甕	埋没土中 口縁部片	口 — 底 23.0	高 — —	細砂粒・雲母/良好/ぶい黄褐色	口縁部撫で。胴部外面側のへう削り。内面 撫で。	
第139回 P.L. 114	9 土師器 甕	貯蔵穴直直 胴部片	口 — 底	高 — —	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/ 橙	胴部外面側のへう削り。内面側のへう撫で。	
第139回	10 須恵器 甕	埋没土中 胴部片	口 — 底	高 — —	細砂粒/還元/ぶい黄褐色	印き整形。外面かき目。内面当て具は青海波 文で、粗く当て具面に撫で。	

時沢西組屋谷戸遺跡 14号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種 類	出位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第141回 P.L. 114	1 土師器 杯	甕前床直 3/4	口 — 底 11.9	高 — 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部撫で。底部手持ちへう削り。内面撫 で。	器面摩擦 底部に黒斑
第141回 P.L. 114	2 土師器 杯	2号床下土坑直 3/4	口 — 底 12.5	高 — 3.9	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部撫で。底部手持ちへう削り。内面撫 で。	器面摩擦
第141回 P.L. 114	3 土師器 皿	南壁周溝直上 9cmと2号床下 土坑直上11cmの 破片が接合 1/2	口 — 底 19.7	高 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部撫で。底部手持ちへう削り。内面撫 で。	器面摩擦 粉っぽい素地
第141回 P.L. 114	4 須恵器 甕	甕前床直上5cm 1/4	口 — 底 19.6	高 — 6.4	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。縁は扁平環状状態で、 天井部外面側へう削り後の貼り付け。	
第141回	5 須恵器 蓋	甕前床直上16cm 体部片	口 — 底 20.3	高 — —	細砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)。天井部外面側へう削 り。縁は形状不明。	
第141回	6 須恵器 長須蓋	南壁周溝直上10cm 胴部片	口 — 底	高 — —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(回転方向不明)。筒部外面クシ状 工具による判突。胴部外面側のかき目。	筒部外面にわずかに自然輪
第141回	7 土師器 甕	埋没土中 胴部片	口 — 底 23.7	高 — —	細砂粒・角閃石/良好/ぶい黄 褐色	口縁部撫で。胴部外面側のへう削り。内面 撫で。	口縁部外面に輪組み直 横のへう撫で。
第141回	8 土師器 甕	南壁床直直 口縁部片	口 — 底 21.5	高 — —	細砂粒・角閃石/良好/灰白	口縁部撫で。胴部外面側のへう削り。内面 撫で。	器面摩擦
第141回 P.L. 114	9 土師器 甕	埋没土中 底部片	口 — 底 6.1	高 — —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	胴部外面側のへう削り。内面撫で。底部へう 削り。	

時沢西組屋谷戸遺跡 15号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 器 種 類	出位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第142回	1 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 — 底 12.8	高 — —	細砂粒/良好/ぶい黄褐色	口縁部撫で。底部手持ちへう削り。間に 残る撫で部分を残す。内面撫で。	
第142回	2 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 — 底 12.7	高 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部撫で。底部手持ちへう削り。間に 撫で部分を残す。内面撫で。	器面摩擦
第142回	3 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 — 底 13.2	高 — —	細砂粒/良好/橙	口縁部撫で。底部手持ちへう削り。間に 撫で部分を残す。内面撫で。	
第142回	4 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 — 底 12.6	高 — —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/ ぶい黄褐色	口縁部撫で。底部手持ちへう削り。間に 撫で部分を残す。内面丁寧な撫で。	
第142回	5 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 — 底 13.5	高 — —	細砂粒/良好/橙	口縁部撫で。底部手持ちへう削り。間に 撫で部分を残す。内面撫で。	

遺物観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・形 態 の 特 徴	摘 要
第142図	6	須恵器 蓋	埋没土中 楕円	口 底 — — — — 楕 — — — 3.6	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。横溝で丁寧な貼り付け。	
第142図	7	須恵器 須恵	埋没土中 口縁部片	口 底 — — — — 高 — — — 19.2	高 — — — — 灰 — — — — 3.6	細砂粒/還元/灰	ロク口整形(回転方向不明)。
第142図	8	須恵器 須恵	埋没土中 胴部片	口 底 — — — — 高 — — — 19.2	高 — — — — 灰 — — — — 3.6	細砂粒/還元/にぶい黄橙	印き整形・外面平行印き後手で、内面当て具 青海波文。

時次西組屋谷戸遺跡 16号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・形 態 の 特 徴	摘 要
第144図 P.L. 115	1	土師器 杯	西壁溝内 完形	口 底 — — — — 高 — — — — 10.9	高 — — — — 3.5	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構線で、底部手持ちヘラ削りで、間に 溝での部分を残す。内面撫で。
第144図 P.L. 115	2	土師器 杯	西壁溝内 完形	口 底 — — — — 高 — — — — 11.5	高 — — — — 3.6	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	口縁部構線で、底部手持ちヘラ削りで、間に 溝での部分を残す。内面撫で。
第144図 P.L. 115	3	土師器 杯	竪前床直 口縁部～底部片	口 底 — — — — 高 — — — — 16.9	高 — — — — 1	細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤 橙	口縁部構線で、底部手持ちヘラ削り。内面撫 で。
第144図 P.L. 115	4	須恵器 蓋	竪前床直上39cm 1/4	口 底 — — — — 高 — — — — 18.0	高 — — — — 3.5	細砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)。柄は扁平な環状で、 天井部外面回転ヘラ削り後の貼り付け。
第144図 P.L. 115	5	須恵器 蓋	北西部西壁深い 床直 1/4	口 底 — — — — 高 — — — — 11.5	高 — — — — 3.7	細砂粒・粗砂粒/還元/褐灰	ロク口整形(右回転)。天井部外面回転ヘラ削 り後柄を貼付。柄は欠損しているため形状不 明。
第144図 P.L. 115	6	須恵器 蓋	北西部床直23cm 1/2	口 底 — — — — 高 — — — — 19.6	高 — — — — 1.6	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)。柄は扁平なボタン状柄 で、天井部外面回転ヘラ削り後の貼り付け。
第144図 P.L. 115	7	須恵器 杯	中央部床直 底部片	口 底 — — — — 高 — — — — 11.8	高 — — — — 10.8	細砂粒/還元/灰	ロク口整形(回転方向不明)。高台は角高台状 で、丁寧な貼り付け。
第144図 P.L. 115	8	土師器 須恵	竪前床直 口縁部～胴部片	口 底 — — — — 高 — — — — 21.2	高 — — — — 1	細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄 橙	口縁部構線で、底部外面斜のヘラ削り。内面 撫で。
第144図 P.L. 115	9	土師器 須恵	竪前床直上22・20cm 口縁部～胴部片	口 底 — — — — 高 — — — — 22.4	高 — — — — 1	細砂粒・雲母/良好/にぶい橙	口縁部構線で、胴部外面斜のヘラ削り。内面 構線のヘラ撫で。
第144図 P.L. 115	10	土師器 須恵	竪前床直上12・20cm 口縁部～胴部片	口 底 — — — — 高 — — — — 21.8	高 — — — — 1	細砂粒・軽石・角閃石/良好/に ぶい橙	口縁部構線で、胴部外面斜～縦のヘラ削り。 内面斜のヘラ撫で。
第144図 P.L. 115	11	土師器 須恵	中央部床直26cm 口縁部～胴部片	口 底 — — — — 高 — — — — 22.2	高 — — — — 1	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	口縁部構線で、胴部外面斜のヘラ削りで、ヘ ラが口縁部に当たる。内面撫で。

時次西組屋谷戸遺跡 17号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・形 態 の 特 徴	摘 要
第145図 P.L. 115	1	黒色土器 杯	東側土師器 3/4	口 底 — — — — 高 — — — — 11.8	高 — — — — 4.1	細砂粒/酸化/にぶい黄橙	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。 内面へう磨き後黒色処理。
第145図 P.L. 115	2	須恵器 杯	中央部北寄り床 直 1/4	口 底 — — — — 高 — — — — 11.8	高 — — — — 3.2	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。 20号住居10と胎土・焼成・色 調類似

時次西組屋谷戸遺跡 18号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・形 態 の 特 徴	摘 要
第146図 P.L. 116	1	土師器 杯	南部床直上18cm 口縁部～底部一 部欠損	口 底 — — — — 高 — — — — 10.8	高 — — — — 3.5	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	口縁部構線で、底部手持ちヘラ削りで、間に 溝での部分を残す。内面撫で。
第146図 P.L. 116	2	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口 底 — — — — 高 — — — — 10.9	高 — — — — 1	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部構線で、体部外面粗い撫で、内面撫で、 底部手持ちヘラ削り。
第146図 P.L. 116	3	須恵器 杯	南部床直上19cm 2/3	口 底 — — — — 高 — — — — 12.4	高 — — — — 4.4	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。
第146図 P.L. 116	4	須恵器 杯	南部床直上12cm 1/2	口 底 — — — — 高 — — — — 13.2	高 — — — — 4.1	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。
第146図 P.L. 116	5	土師器 須恵	南部床直上20cm 口縁部～胴部片	口 底 — — — — 高 — — — — 20.8	高 — — — — 1	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構線で、胴部外面上半溝、下半斜のヘ ラ削り。内面撫でのヘラ撫で。
第146図 P.L. 116	6	土師器 須恵	南東隅張り方底 直上37cm 胴部～底部片	口 底 — — — — 高 — — — — 4.8	高 — — — — 1	細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄 橙	胴部外面斜のヘラ削り。内面へう撫で、底部 ヘラ削り。

時次西組屋谷戸遺跡 19号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・形 態 の 特 徴	摘 要
第148図 P.L. 116	1	須恵器 杯	1号床下土坑底 上61cm 1/4	口 底 — — — — 高 — — — — 11.6	高 — — — — 3.8	細砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。 内外面摩滅
第148図 P.L. 116	2	須恵器 椀	1号床下土坑底 上54cm 1/2	口 底 — — — — 高 — — — — 15.0	高 — — — — 1	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)高台は底部回転系切り後 の付け高台で、貼り付け部から剥落。
第148図 P.L. 116	3	土師器 須恵	竪前床直 口縁部～胴部	口 底 — — — — 高 — — — — 20.2	高 — — — — 1	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ぶい赤橙	口縁部は構線で、胴部外面は斜め構線のヘ ラ削り。内面は撫で。

1. 土師器・須恵器観察表

時河西相摩古戸遺跡 20号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考	
第154号 PL.117	14	土師器 杯	南前床床直 1/2	口 12.1 底 7.8	高 3.1 —	細砂粒・粗砂粒・軽石・角閃石 /良好/明赤灰	口縁部横溝で、外部外面溝で、内面溝で、底部手持ちへう削り。	底状の楽地
第154号 PL.117	15	土師器 杯	北前床上4cm 1/2	口 12.5 底 9.1	高 2.8 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/に ぶい黄褐	口縁部横溝で、外部外面溝で、内面丁寧な溝で、底部手持ちへう削り。	内面厚減
第154号 PL.117	16	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 12.8 底 8.6	高 3.1 —	細砂粒・軽石/良好/にぶい橙	口縁部横溝で、内部外面溝で、底部手持ちへう削り。	器面厚減
第154号 PL.117	17	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 10.8 底 —	高 — —	細砂粒/良好/橙	口縁部横溝で、外部外面溝で、内面丁寧な溝で、底部手持ちへう削り。	器面厚減
第154号 PL.117	18	須恵器 蓋	3号床下土坑底 上14cm 1/4	口 15.4 底 —	高 — —	細砂粒・粗砂粒・片岩/還元/灰	ロク口整形(右回転)。天井部外面回転系切り無調整。蓋の貼付なし。	縁間か
第154号 PL.117	19	須恵器 蓋	9号床下土坑底 直 1/4	口 16.1 底 —	高 2.5 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)。天井部外面手持ちへう削り。蓋はなし。	見込み部使用による厚減か 外部外面の一部破欠
第154号 PL.117	20	須恵器 杯	南東部床直 2/3	口 12.8 底 5.6	高 4.5 —	細砂粒・軽石/酸化/にぶい赤褐	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。	見込み部使用による厚減か 外部外面の一部破欠
第154号 PL.117	21	須恵器 杯	北壁障床下3cm 1/2	口 12.6 底 7.8	高 3.8 —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。	
第154号 PL.117	22	須恵器 杯	西壁障床上12cm 1/2	口 13.2 底 7.2	高 3.1 —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。	
第154号 PL.117	23	須恵器 杯	南前床上10cm 1/2	口 12.2 底 5.6	高 3.2 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。	17号住居2と胎土・焼成、色調類似
第154号 PL.117	24	須恵器 杯	中央部床上10cm 1/4	口 11.3 底 6.9	高 3.0 —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。	秋間か
第154号 PL.117	25	須恵器 杯	埋没土中 1/4	口 13.0 底 7.8	高 3.4 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。	
第154号 PL.117	26	須恵器 杯	南前床上11cm 1/2	口 12.8 底 8.8	高 3.1 —	細砂粒/還元/褐灰	ロク口整形(右回転)。底部回転へう起こし無調整。	
第154号 PL.117	27	須恵器 杯	5号床下土坑底 上10cm 1/2	口 11.2 底 5.6	高 3.4 —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。	
第154号 PL.117	28	須恵器 杯	南西部南壁障床 直 1/4	口 12.8 底 6.8	高 3.5 —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。	
第154号 PL.117	29	須恵器 杯	埋没土中 1/4	口 13.0 底 7.8	高 2.8 —	細砂粒/還元/にぶい橙	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。	口縁部外面還元
第154号 PL.117	30	須恵器 皿	埋没土中 1/4	口 14.6 底 6.2	高 2.7 —	細砂粒・粗砂粒・小礫/還元/灰	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。	
第154号 PL.117	31	灰輪陶器 皿	埋没土中 口縁部片	口 15.0 底 —	高 — —	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(回転方向不明)。施釉は削り残し。	内面厚く施釉
第154号 PL.117	32	須恵器 杯	南東部床上3cm 1/2	口 13.0 底 7.8	高 2.7 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。底部回転系切り無調整。	秋間か
第154号 PL.117	33	須恵器 杯	南東部床直 1/2	口 13.5 底 7.2	高 4.1 2.1	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。高台は底部回転系切り後の付高台。	高台接地部厚減
第154号 PL.117	34	須恵器 杯	埋没土中 1/3	口 15.2 底 8.4	高 5.4 8.6	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。高台は底部回転系切り後のやや盛な付高台。	
第154号 PL.117	35	須恵器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 14.5 底 —	高 — —	細砂粒/還元/灰黄褐	ロク口整形(回転方向不明)。	器面厚減
第154号 PL.117	36	須恵器 杯	西部掘り方直上 地か 9cm 口縁部片	口 17.0 底 —	高 — —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)。	
第154号 PL.117	37	須恵器 杯	南前上18cm 底部片	口 — 底 6.8	高 — 6.8	細砂粒・粗砂粒・雲母/還元/灰 白	ロク口整形(右回転)。高台は底部回転系切り後の付高台。	器面厚減 内外面わずかに吸 け
第154号 PL.117	38	須恵器 杯	南西部床上22cm 底部片	口 — 底 6.5	高 — 6.5	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。高台は底部回転系切り後の付高台。	器面厚減
第154号 PL.117	39	須恵器 杯	5号床下土坑底 上38cm 底部片	口 — 底 6.7	高 — 6.1	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。高台は底部回転系切り後のやや盛な付高台。	器面厚減 底部～外部外面の 一部破欠
第154号 PL.118	40	須恵器 杯	南前床上12cm 底部片	口 — 底 7.5	高 — 7.2	細砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)。高台は底部回転系切り後の付高台。	
第154号 PL.118	41	須恵器 杯	南東部床直 底部片	口 — 底 8.2	高 — 7.9	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)。高台は底部回転系切り後の付高台。	体部内面にへう掘き 底部及び 見込み部厚減 器面厚減
第154号 PL.118	42	土師器 小型甕	北西隅床直 口縁部～底部片	口 11.8 底 —	高 — —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部横溝で、胴部外面斜のへう削り。内面溝。	胴部外面に輪溝み盛
第154号 PL.118	43	土師器 小型甕	南東部床上5cm 口縁部～底部片	口 19.3 底 —	高 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、胴部外面へう削り。内面溝。	胴部内面に輪溝み盛
第154号 PL.118	44	土師器 小型甕	中央部床上22cm 口縁部～底部片	口 20.2 底 —	高 — —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、胴部外面斜のへう削り。内面溝。	胴部外面に輪溝み盛
第154号 PL.118	45	土師器 小型甕	中央部床上12cm 口縁部～底部片	口 18.9 底 —	高 — —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/に ぶい黄褐	口縁部横溝で、胴部外面斜のへう削り。内面溝。	胴部内面に輪溝み盛
第154号 PL.118	46	須恵器 蓋	南前と中央部床 上5～14cmの破 片が接合 胴部～底部片	口 — 底 13.0	高 — —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)。胴部外面下幅回転へう削り。高台は底部へう削り後の付高台で、貼り付け部から剥落。	
第154号 PL.118	47	須恵器 転用好輪	埋没土中 1/4	口 — 底 —	高 — —	細砂粒/還元/灰白	裏の破片を研ぎ整形したものか。	
第155号	48	須恵器 甕	南東部床上13cm 口縁部片	口 32.0 底 —	高 — —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロク口整形(回転方向不明)。	器面厚減

1. 土師器・須恵器観察表

時沢西組聖谷戸遺跡 24号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	器 種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第165号 P.L.120	1 土師器 杯	埋没土中 1/3	口 11.4 底 9.0	3.5 細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄 橙	口縁部構成で、体部外面撫で、内面撫で、底 部手持ちへラ削り。	
第165号	2 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 11.8 底 —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤 褐	口縁部構成で、体部外面粗い撫で、内面撫で、 底部手持ちへラ削り。	口縁部外面にわずかに埋付着
第165号	3 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 10.8 底 —	細砂粒・雲母/良好/橙	口縁部構成で、体部外面粗い撫で、内面撫で、 底部手持ちへラ削り。	
第165号	4 須恵器 杯	西部床上44cm 底部片	口 — 底 9.0	高 — 細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)、底部回転糸切り無調整。	
第165号	5 須恵器 皿か	北東部床上35cm 底部片	口 — 底 6.0	高 — 細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロク口整形(右回転)、底部回転糸切りで、体 部下端に回転へラ削り。	柄の付かない蓋の可能性あり
第165号 P.L.120	6 土師器 罌	西部床直 口縁部～胴部片	口 22.8 底 —	高 — 細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、外部上半科、下半縁の へラ削り、内面撫のへラ撫で。	胴部外面中に帯状に粘土付 着 胴部内面下位に接合痕
第165号	7 須恵器 罌	埋没土中 胴部片	口 — 底 —	高 — 細砂粒・粗砂粒/還元/灰	叩き整形、外面叩き撫でか、内面当て具は 青海波文。	

時沢西組聖谷戸遺跡 25号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	器 種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第166号	1 須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 — 底 10.9 10.5	高 — 細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(回転方向不明)、高台は底部回転 へラ削り後の付合痕。	
第166号	2 土師器 罌	甕石脇床上15cm 口縁部～胴部片	口 21.3 底 —	高 — 細砂粒/良好/橙	口縁部構成で、外部外面撫のへラ削り、内面 撫のへラ撫で。	
第166号 P.L.120	3 土師器 罌	甕石口部使用面 上13cm 口縁部～胴部片	口 19.7 底 —	高 — 細砂粒・軽石・角閃石/良好/ にぶい黄褐	口縁部構成で、外部上半科、下半縁の へラ削り、内面撫のへラ撫で。	胴部外面に粘土付着 胴部外 面に輪組み痕
第166号	4 土師器 罌	南東隅床上16cm 口縁部～胴部片	口 20.6 底 —	高 — 細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、胴部外面斜のへラ削り、内面 撫で。	

時沢西組聖谷戸遺跡 26号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	器 種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第169号	1 須恵器 杯	2号床下土坑底 上19cm 1/2	口 15.0 底 —	高 4.7 細砂粒・粗砂粒・軽石・角閃石/ 良好/橙	口縁部構成で、体部外面撫のへラ削り、内面 撫で、底部手持ちへラ削り。	器底摩滅
第169号	2 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 11.8 底 —	高 — 細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部構成で、底部手持ちへラ削りで、間に 雑な撫での部分を残す。内面撫で。	
第169号	3 土師器 杯	北東部床直 口縁部～底部片	口 13.7 底 —	高 — 細砂粒/良好/橙	口縁部構成で、底部手持ちへラ削りで、間に 撫での部分を残す。内面撫で。	器底摩滅 縄状の裏地
第169号	4 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 12.0 底 —	高 — 細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部構成で、底部手持ちへラ削りで、間に 撫での部分を残す。内面撫で。	
第169号	5 土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 11.7 底 8.1	高 — 細砂粒・角閃石/良好/にぶい 黄	口縁部構成で、体部外面撫のへラ削り、内面 撫で後放射状暗文施文、底部手持ちへラ削り。	7と胎土・焼成・色調類似
第169号 P.L.120	6 須恵器 杯	3号床下土坑底 上15cm 宍形	口 12.6 底 7.6	3.4 細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロク口整形(右回転)、底部回転糸切り無調整。	
第169号 P.L.120	7 須恵器 杯	2号床下土坑底 直上20cm 光形	口 12.6 底 7.1	3.5 細砂粒・還元/灰	ロク口整形(右回転)、底部回転糸切り無調整。	6と胎土・焼成・色調類似
第169号 P.L.120	8 須恵器 杯	4号床下土坑底 上3cm 口縁部一部欠損	口 12.5 底 7.2	3.6 細砂粒・軽石/還元/灰	ロク口整形(右回転)、底部回転糸切り無調整。	
第169号	9 須恵器 杯	埋没土中 口縁部片	口 11.7 底 —	高 — 細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(回転方向不明)。	
第169号	10 須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 — 底 7.1 7.0	高 — 細砂粒/還元/灰白	ロク口整形(回転方向不明)。高台は付合痕。	器底摩滅
第169号	11 須恵器 長狭壺	西部部屋り方底 上47cm 口縁部片	口 9.0 底 —	高 — 細砂粒・粗砂粒/還元/オリブ 黄	ロク口整形(回転方向不明)。内面のロク口内 面磨。	内外面に薄く自然輪
第169号	12 土師器 小型 壺	埋没土中 口縁部～胴部片	口 8.7 底 —	高 — 細砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部構成で、胴部外面撫～斜のへラ削り、 内面撫で。	
第169号	13 土師器 台付壺	埋没土中 胴部片	口 — 底 —	高 — 細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄 橙	内外面撫で。	
第169号	14 土師器 罌	甕石埋没土中 口縁部～胴部片	口 18.7 底 —	高 — 細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、胴部外面斜のへラ削り、内面 撫のへラ撫で。	器底摩滅
第169号	15 須恵器 罌	北西部部屋り方底 上8cm 胴部～胴部片	口 — 底 —	高 — 細砂粒・粗砂粒/還元/褐灰	叩き整形、外面平行叩き、内面当て具は青海 波文。	

時沢西組聖谷戸遺跡 27号住居出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	器 種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第170号 P.L.121	1 土師器 杯	中央部床上3cm 口縁部一部欠損	口 12.6 底 —	3.4 暗さ理由・軽石・角閃石/良好/ にぶい橙	口縁部構成で、体部外面撫で、内面丁寧な撫 で、底部手持ちへラ削り。	
第170号	2 土師器 杯	甕石脇床上11cm 口縁部片	口 12.7 底 —	高 — 細砂粒/良好/橙	口縁部構成で。	器底摩滅 粉っぽい裏地

遺物観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要
第1700号 P.L.121	3	土師器 杯	貯蔵・南緯床直 2/3	□ 13.2 高 4.5 底 9.2	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横溝で、体部外面横のへう削り、内面撫で。底部手持ちへう削り。	器面摩滅 粉っぽい黄地 暗文の可能性あり
第1700号 P.L.121	4	須恵器 土師器	北西部床上4cm 口縁部一部欠損	□ 11.3 高 3.5 底 7.0	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(右回転)、底部回転糸切り無調整。	器面摩滅 体部外面直ね焼きによるものかわずかに夜透
第1700号 P.L.121	5	土師器 罎	横間和直上6cm 口縁部～胴部片	□ 19.7 高 — 底 —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、胴部外面上横溝。下平斜のへう削り、内面撫で。	胴部内面の下位に夜透
第1700号	6	土師器 罎	南上緯床直上5cm 口縁部～胴部片	□ 21.8 高 — 底 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、胴部外面横のへう削り、内面撫で。	胴部内面に下位に夜透

時次西組屋谷戸遺跡 1号竪穴式遺構出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要
第17200号	1	須恵器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	□ 11.6 高 3.4 底 6.0	細砂粒・還元/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。底部は回転糸切り無調整。	器面摩滅
第17200号	2	黒色土器 椀	埋没土中 底部片	□ — 高 — 底 5.8	細砂粒・角閃石・軽石/酸化/にぶい橙	ロクロ整形(右回転方向不明)。高台は付高台。内面へう磨き。	焼き戻しか
第17200号	3	須恵器 罎	埋没土中 底部片	□ — 高 — 底 15.0	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。胴部外面下横へう削り。	

時次西組屋谷戸遺跡 2号竪穴式遺構出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要
第17300号	1	土師器 土師器	中央部直上29cm 1/4	□ 12.0 高 3.6 底 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう削りで、間に狭く撫での部分を残す。内面撫で。	
第17300号	2	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	□ 12.8 高 — 底 —	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう削り、内面撫で。	
第17300号	3	土師器 杯	埋没土中 1/4	□ 11.6 高 2.6 底 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	
第17300号	4	須恵器 罎	埋没土中 体部片	□ 12.8 高 — 底 —	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面回転へう削り。撫では欠損するため形状不明。	
第17300号	5	須恵器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	□ 15.8 高 — 底 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロクロ整形(右回転)状不明。	器面摩滅

時次西組屋谷戸遺跡 3号竪穴式遺構出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要
第17500号 P.L.121	1	須恵器 平皿	10ライン付近直上22cm 口縁部～胴部片	□ 6.6 高 — 底 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。肩部に2本の凹線を造らせる。口縁部の作りはやや雑。	天井部の厚層部剥落
第17500号 P.L.121	2	須恵器 罎	西壁厚直直上2/3	□ 11.5 高 3.5 底 2.3	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(右回転)。撫では宝珠縁でけり付け。	天井部外面直ね自然輪 天井部内面にへう磨き「X」
第17500号	3	須恵器 罎	埋没土中 胴部片	□ — 高 — 底 —	細砂粒/還元/灰	叩き整形。外面平行叩き、内面当て具は青海波文。	外面に自然輪
第17500号	4	須恵器 罎	北部直上67cm 胴部片	□ — 高 — 底 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	叩き整形。外面平行叩き後横の力キ目。内面当て具は青海波文。	

時次西組屋谷戸遺跡 1号竪穴式遺構出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要
第17600号	1	土師器 杯	P7埋没土中 口縁部～底部片	□ 12.8 高 — 底 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	
第17600号	2	土師器 杯	P13埋没土中 口縁部片	□ 16.6 高 — 底 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう削りで、間に狭く撫での部分を残す。内面撫で。	器面摩滅

時次西組屋谷戸遺跡 4号竪穴式遺構出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要
第17900号	1	須恵器 杯	P2埋没土中 底部片	□ — 高 — 底 6.8	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形(右回転)、底部回転糸切り無調整。	

時次西組屋谷戸遺跡 7号竪穴式遺構出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・整 形 の 特 徴	摘 要
第18200号	1	土師器 杯	P10埋没土中 口縁部片	□ 12.8 高 — 底 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	
第18200号	2	土師器 杯	P3埋没土中 口縁部片	□ 12.8 高 — 底 —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤橙	口縁部横溝で、底部手持ちへう削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	
第18200号	3	須恵器 罎	P6埋没土中 体部片	□ 15.8 高 — 底 —	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。	外面に自然輪 内面端部に直ね焼きの直跡
第18200号	4	須恵器 椀	P4埋没土中 底部片	□ — 高 — 底 —	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。高台は付高台で、接合部から剥落。	
第18200号 P.L.121	5	須恵器 罎	P5直上17cm 胴部～底部片	□ — 高 — 底 7.0	細砂粒・角閃石/酸化/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)、底部回転糸切り無調整。	
第18200号	6	土師器 罎	P6埋没土中 口縁部片	□ 18.7 高 — 底 —	細砂粒・角閃石/良好/明赤橙	口縁部横溝で。	器面摩滅

1. 土師器・須恵器観察表

時次西組屋谷戸遺跡 9号獨立柱建物出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第184回	1	土師器 甕	P2埋没土中 口縁部～胴部片	口 底 19.8 — 高 —	— — 高 —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部横溝で、胴部外面横のへら削り、内面撫で。

時次西組屋谷戸遺跡 1号溝出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第188回	1	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部片	口 底 19.8 — 高 —	— — 高 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい橙	口縁部横溝で、胴部外面横のへら削り、内面撫で。
第188回	2	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部片	口 底 20.7 — 高 —	— — 高 —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部横溝で、胴部外面横のへら削り、胴部外面に輪轆みぬ内面横のへら撫で。

時次西組屋谷戸遺跡 5号溝出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第189回	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口 底 12.8 — 高 —	— — 高 —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部横溝で、内面撫で。
第189回 P.L.121	2	土師器 杯	埋没土中 3/4	口 底 13.5 — 高 —	3.6 — 高 —	細砂粒・軽石・角閃石/良好/にぶい赤橙	口縁部横溝で、底部手持ちへら削りで、間に広く撫での部分を残す。内面撫で。
第189回 P.L.121	3	須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 底 9.0 — 高 —	— — 高 —	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転へらこし無調整。
第189回	4	須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 底 8.0 — 高 —	— — 高 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周辺及び体部下縁回転へら削り。
第189回	5	須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 底 10.0 — 高 —	— — 高 —	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。底部手持ちへら削り。
第189回	6	須恵器 長頸甕か	埋没土中 底部片	口 底 9.4 — 高 —	9.0 — 高 —	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形(右回転)。高台は底部回転へら削り後の付高台。
第189回	7	須恵器 杯か	埋没土中 底部片	口 底 6.5 — 高 —	6.8 — 高 —	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台は付高台。
第189回	8	須恵器 甕	埋没土中 胴部片	口 底 — — 高 —	— — 高 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	叩き整形。外面平行叩き、内面当て具は青海波文。
第189回	9	須恵器 甕	埋没土中 胴部片	口 底 — — 高 —	— — 高 —	細砂粒/還元/褐灰	叩き整形。外面平行叩き後撫で、内面当て具は青海波文。

時次西組屋谷戸遺跡 6号溝出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第190回	1	須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 底 8.0 — 高 —	— — 高 —	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。
第190回	2	須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 底 8.0 — 高 —	— — 高 —	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。底部回転へら削り。
第190回	3	須恵器 杯	埋没土中 底部片	口 底 10.2 — 高 —	9.8 — 高 —	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。高台は底部回転へら削り後の付高台。
第190回	4	須恵器 甕	埋没土中 胴部片	口 底 — — 高 —	— — 高 —	細砂粒/還元/灰	叩き整形。外面平行叩き後撫で、内面当て具素文。

時次西組屋谷戸遺跡 7号溝出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第193回	3	須恵器 長頸甕か	9ライン高辺底 上8cm 底部片	口 底 8.0 — 高 —	— — 高 —	細砂粒/還元/灰オリーブ	ロクロ整形(右回転)。高台は付高台。胴部外面下半部回転へら削り。

時次西組屋谷戸遺跡 11号溝出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第196回	3	須恵器 甕	8ライン高辺底 上5cm 体部片	口 底 13.9 — 高 —	2.9 — 高 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロクロ整形(右回転)。胴は環状溝で、天井部外面回転へら削り後の貼り付け。

時次西組屋谷戸遺跡 1号井戸出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第198回	1	須恵器 杯	埋没土中 口縁部片	口 底 11.6 — 高 —	— — 高 —	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部横溝で、底部手持ちへら削り、内面撫で。
第198回	2	須恵器 杯	埋没土中 体部片	口 底 14.7 — 高 —	2.8 3.8 — 高 —	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(右回転)。胴は環状溝で、天井部外面回転へら削り後の貼り付け。
第198回	3	須恵器 杯	埋没土中 体部片	口 底 — — 高 —	2.9 — 高 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロクロ整形(右回転)。胴は扁平化した宝珠溝で、天井部外面回転へら削り後の貼り付け。
第198回	4	須恵器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 底 12.2 — 高 —	3.5 — 高 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。
第198回	5	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部片	口 底 24.6 — 高 —	— — 高 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、胴部外面横のへら削り、内面横のへら撫で。
第198回	6	須恵器 甕	埋没土中 胴部片	口 底 — — 高 —	— — 高 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	叩き整形。外面平行叩き、内面当て具は青海波文。
第198回	7	須恵器 甕	埋没土中 胴部片	口 底 — — 高 —	— — 高 —	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。胴部外面力キ目、内面撫で。

遺物観察表

時河内相屋谷戸遺跡 土坑出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土・焼 成・色 調	成 形・整 形の特 徴	備 考
第209号	1	黒色土器 椀	4号土坑埋没土 中 底部分	口 底 — 高 6.3 台 6.8	細砂粒・角閃石・軽石/酸化に ぶい黄褐色	ロウク型(回転方向不明)。高台は雑な作り で、底部回転糸切り後の付台高。内面はへう 磨き後黒色処理。	
第209号 P.L.122	2	黒色土器 椀	5号土坑埋没土 中 底部分	口 底 — 高 7.1 台 6.6	細砂粒・角閃石/酸化にぶい黄 褐色	ロウク型(回転方向不明)。高台は底部回転 糸切り後の付台高。内面は丁寧なへう磨き後 黒色処理と見られる。	内面黒色処理焼き戻しか 高 台接地部の摩滅顕著
第209号	3	須恵器 杯	14号土坑埋没土 中 体部分	口 底 — 高 16.7 台 —	細砂粒/還元/灰白	ロウク型(回転方向不明)。	内面縁部に重ね焼きによる変色
第209号	4	須恵器 蓋	16号土坑埋没土 中 破片	口 底 — 高 — 台 —	細砂粒/還元/灰	ロウク型(回転方向不明)。シャープな突帯 を巡らす。	天井部及び突帯に自然釉 上 野型短頸の蓋
第209号	5	須恵器 壺	16号土坑埋没土 中 胴部分	口 底 — 高 — 台 —	細砂粒/還元/灰	印き整形。外面印き厚、内面当て具は青海 波文。	
第209号	6	土師器 杯	20号土坑埋没土 中 口縁部分	口 底 — 高 10.8 台 7.8	細砂粒・角閃石/良好にぶい赤 褐色	口縁部構成で、体部外面粗い肌で、内面滑で、 底部手持ちへう削り。	
第209号	7	須恵器 壺	20号土坑埋没土 中 胴部分	口 底 — 高 — 台 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	印き整形。外面印き具不明で、裏で後細かな カキ目状。内面当て具は青海波文。	
第209号	8	須恵器 杯	22号土坑埋没土 中 口縁部分	口 底 — 高 12.8 台 —	細砂粒/還元/灰	ロウク型(右回転)。	体部外面に薄く自然釉 秋間 か
第209号	9	須恵器 杯	25号土坑埋没土 中 口縁部分	口 底 — 高 13.8 台 —	細砂粒/良好/橙	口縁部構成で、底部手持ちへう削りで、間に 滑での部分を残す。内面滑で。	
第209号	10	須恵器 杯	29号土坑埋没土 中 底部分	口 底 — 高 — 台 6.0	細砂粒/還元/灰白	ロウク型(回転方向不明)。底部回転糸切り 無調整。	
第209号	11	土師器 杯	30号土坑埋没土 中 口縁部分	口 底 — 高 12.8 台 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、底部手持ちへう削りで、間に 滑での部分を残す。内面滑で。	
第209号	12	土師器 杯	30号土坑埋没土 中 口縁部～体 部分	口 底 — 高 13.0 台 5.8	細砂粒・軽石・角閃石/良好に ぶい黄褐色	口縁部構成で、体部外面雑な肌で、内面滑で、 底部手持ちへう削り。	体部外面に輪轆み度
第209号	13	土師器 壺	31号土坑埋没土 中 口縁部～胴 部分	口 底 — 高 19.6 台 —	細さ理由・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、胴部外面斜のへう削り、内面 縁のへう滑で。	外面摩滅
第209号	15	須恵器 壺	38号土坑埋没土 中 頸部～外部 片	口 底 — 高 — 台 —	細砂粒/還元/灰	印き整形か。頸部に低い補強帯を貼付。	外面に自然釉
第209号	16	土師器 杯	46号土坑埋没土 中 口縁部分	口 底 — 高 13.7 台 —	細さ理由・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、内面滑で。	
第209号 P.L.122	17	土師器 壺	46号土坑底面上 16cm 口縁部～ 胴部分	口 底 — 高 19.0 台 —	細砂粒・粗砂粒・雲母/良好/橙	口縁部構成で、胴部外面斜のへう削り、内面 滑で。	胴間か
第209号 P.L.122	18	須恵器 壺	47号土坑埋没土 中 胴部～底部分	口 底 — 高 — 台 —	細砂粒/還元/灰白	ロウク型(右回転)か。胴部外面下半回転 へう削り。	外面にハゼ 高台と底部割落
第209号	19	須恵器 杯	79号土坑埋没土 中 1/4	口 底 — 高 12.0 台 6.4	細さ理由・雲母/還元/灰オリー ブ	ロウク型(右回転)。底部回転糸切り無調整。	外面の摩滅顕著
第209号	20	須恵器 杯	79号土坑埋没土 中 口縁部分	口 底 — 高 10.7 台 —	細砂粒/還元/灰	ロウク型(回転方向不明)。	
第209号	21	須恵器 杯	86号土坑埋没土 中 底部分	口 底 — 高 8.7 台 8.6	細砂粒/還元/灰	ロウク型(回転方向不明)。高台は底部滑 で後の丁寧な付台高。	
第209号	22	須恵器 杯	86号土坑埋没土 中 体部分	口 底 — 高 — 台 4.9	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロウク型(右回転)。柄は環状構成で、展示用 部外面回転へう削り後の貼り付け。	
第209号	23	瓦 平瓦	89号土坑埋没土 中 破片	口 底 — 高 — 台 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	表面細かな布目で、硬骨痕が明瞭。裏面格子 印きで、縁部面取り。	

時河内相屋谷戸遺跡 ビット出土土師器・須恵器観察表

検出番号 図版番号	番 号	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎 土・焼 成・色 調	成 形・整 形の特 徴	備 考
第211号 P.L.122	1	土師器 杯	20号ビット埋没 土中 1/4	口 底 — 高 11.9 台 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、底部手持ちへう削り、内面滑 で。内面滑で。	
第211号	2	土師器 杯	20号ビット埋没 土中 口縁部～底部分	口 底 — 高 12.4 台 —	細砂粒/良好/橙	口縁部構成で、底部手持ちへう削り、内面滑 で。	
第211号	3	須恵器 杯	21号ビット埋没 土中 口縁部分	口 底 — 高 12.8 台 —	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロウク型(右回転)。	外面摩滅
第211号	4	土師器 杯	22号ビット底面 上34cm 2/3	口 底 — 高 12.6 台 2.8	細砂粒・軽石・角閃石/良好/明 赤褐色	口縁部構成で、体部外面滑で、内面丁寧な滑 で、底部手持ちへう削り。	
第211号 P.L.122	5	須恵器 杯	22号ビット底面 上15cm 2/3	口 底 — 高 12.0 台 6.6	細砂粒・粗砂粒・片岩/還元/灰	ロウク型(右回転)。柄は環状構成で、展示用 部外面回転へう削り後の貼り付け。	胴間か
第211号	6	土師器 杯	26号ビット埋没 土中 口縁部～底部分	口 底 — 高 13.6 台 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部構成で、底部手持ちへう削りで、間に 滑での部分を残す。内面滑で。	
第211号	7	須恵器 杯	151号ビット埋 没土中 口縁部分	口 底 — 高 12.8 台 —	細砂粒/還元/灰	ロウク型(回転方向不明)。	

遺物観察表

検出番号 回収番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・形 式 の 特 徴	摘 要
第232回	4	須恵器 椀	埋没土中 底部片	口 底 — — 7.6 — 高 7.0	細砂粒・還元/灰	口口整形(回転方向不明)。高台は底部横で後の付高台。	器面厚減
第232回 P.L.123	5	灰釉陶器 皿	埋没土中 口縁部~底部片	口 底 14.8 — 8.0 台 8.0	細砂粒・還元/灰白	口口整形(回転方向不明)。高台は角高台で、底部回転へうり後の付高台。旋輪は内面のみ。	黒帯14号葉式
第232回	6	須恵器 椀	14ライン付近 東縁部底上31cm 胴部片	口 底 — — 高 —	細砂粒・還元/灰	印き整形。外面平行印き、内面当て具束文。	
第232回	7	須恵器 小皿	埋没土中 胴部片	口 底 — — 高 —	細砂粒・還元/灰白	口口整形(右回転)。胴部外面下平回転へうり削り。	外面に自然輪

上町・時沢西組屋谷戸遺跡 1号遺跡出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・形 式 の 特 徴	摘 要
第239回	1	土師器 杯	遺跡下部埋没土中 口縁部~底部片	口 底 15.6 — 高 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへうり削り、間に溝での部分を残す。内面溝で。	器面厚減
第239回	2	土師器 杯	遺跡下部埋没土中 口縁部片	口 底 12.8 — 高 —	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部横溝で、底部手持ちへうり削り、間に溝での部分を残す。内面溝で。	外面厚減
第239回	3	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口 底 11.8 — 高 —	細砂粒・粗さ理由/良好/橙	口縁部横溝で、内面溝で。	器面厚減
第239回	4	土師器 杯	埋没土中 口縁部~底部片	口 底 13.7 — 高 3.2	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへうり削り。内面は溝で。	器面厚減
第239回	5	土師器 杯	B罫り込み底直 1/4	口 底 12.8 — 高 —	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへうり削り。内面は溝で。	器面厚減・粉っぽい素地
第239回	6	須恵器 椀	B罫り込み底上 7cm	口 底 — — 高 6.4	細砂粒・粗砂粒・還元塩/灰	口口整形(右回転) 底部は回転へうり起し後、高辺及び膝部外面に回転へうり削り。	
第239回	7	須恵器 椀	B罫り込み底上 7cm 底部	口 底 — — 高 7.0	細砂粒・雲母/酸化塩/にぶい黄 橙	口口整形(右回転) 底部は回転系切り無調整。	器面厚減
第239回 P.L.124	8	須恵器 椀	B罫り込み底上 20cm 体部~底部片	口 底 — — 高 7.5	細砂粒・粗砂粒・雲母/還元塩/ 7.6 黄	口口整形(右回転) 高台は底部回転系切り後の付け高台。	底部及び体部内面は酸化気味・酸欠
第239回	9	須恵器 椀	埋没土中 底部片	口 底 7.2 — 高 6.9	細砂粒・粗砂粒・還元塩/灰白	口口整形(右回転) 高台は底部回転系切り後の付け高台。	器面厚減
第239回	10	須恵器 椀	埋没土中 口縁部~底部片	口 底 15.7 — 高 9.7	細砂粒/還元塩/灰	口口整形(右回転) 高台は底部回転系切り後の付け高台で、貼り付け部から割落。	
第239回	11	須恵器 椀	埋没土中 体部~底部片	口 底 — — 高 7.6	細砂粒・粗砂粒・還元塩/灰黄濁	口口整形(右回転) 高台は付け高台。	内面中央に自然輪・高台接地面に焼き台からの割離痕
第239回	12	須恵器 樽	A罫り込み部底 直 胴部片	口 底 — — 高 —	細砂粒/還元/灰	印き整形。外面平行印き、内面溝で。	外面自然輪 融着痕
第239回 P.L.124	13	土製品 土埴	埋没土中 完形	長 3.4 — 厚 1.1 — 口 1.0 重 4.3	細砂粒・角閃石/良好/灰	器面は溝で。	器面凹凸

上町・時沢西組屋谷戸遺跡 12号溝出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・形 式 の 特 徴	摘 要
第240回	1	土師器 杯	南部底上27cm 1/2	口 底 12.8 — 高 3.9	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横溝で、底部は手持ちへうり削り。内面は溝で。	底部に黒帯・器面厚減
第240回 P.L.124	2	土師器 杯	埋没土中 底部片	口 底 — — 高 9.0	細砂粒・角閃石/良好/橙	体部外面は溝で、内面は丁寧な溝で、底部は手持ちへうり削り。	底部に墨書、文字不明
第240回 P.L.124	3	土師器 杯	埋没土中 底部片	口 底 — — 高 8.2	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明 赤濁	底部は手持ちへうり削り。	内面に墨書「HH」
第240回 P.L.124	4	土師器 杯	南部底上43cm 1/2	口 底 12.2 — 高 7.6	細砂粒・角閃石/良好/ぶい橙	口縁部は横溝で、体部外面は溝で後、押圧。内面は溝で。底部周囲は手持ちへうり削り。	底部中央に型削り残。
第240回	5	須恵器 杯	中央部底上28cm 1/4	口 底 10.8 — 高 6.0	細砂粒/還元/灰	口口整形(右回転)。底部及び体部下縁回転へうり削り。	器面厚減
第240回 P.L.124	6	須恵器 杯	埋没土中 2/3	口 底 12.5 — 高 3.6	細砂粒・軽石/還元塩/灰	口口整形(右回転) 底部回転系切り無調整。	器面厚減
第240回 P.L.124	7	須恵器 椀	南部底上24cm 体部~底部片	口 底 — — 高 7.6	細砂粒・雲母/還元塩/灰/オリーブ	口口整形(右回転) 高台は底部回転系切り後の付け高台。	底部凹凸
第240回 P.L.124	8	須恵器 椀	埋没土中 胴部~高台部片	口 底 — — 高 11.9	細砂粒・粗砂粒/還元塩/灰	口口整形(回転方向不明)高台は付け高台。胴部内面下縁に強い溝で。	胴部外面に自然輪
第240回	9	須恵器 平皿	中央部底上5cm 天井部片	口 底 — — 高 —	細砂粒/還元塩/灰白	口口整形(回転方向不明)天井部は内縁で外面の自然輪。厚く厚がる。	外面の自然輪。厚く厚がる

上町・時沢西組屋谷戸遺跡 13号溝出土土師器・須恵器観察表

検出番号 回収番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎 土 / 焼 成 / 色 調	成 形・形 式 の 特 徴	摘 要
第240回 P.L.124	10	瓦 平瓦	中央部底上4cm 破片	口 底 — — 高 —	細砂粒・粗砂粒・軽石/酸化塩/ 橙	表面布目。裏面は溝で、端部面取り。	裏面と端部の一部割れ顕著

検出番号 図版番号	番 号	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第240図	11	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	□	12.8 底	高 —	細砂粒・粗砂粒・雲母/良好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は撫で、内面は丁寧な撫で。底部は手持ちへら削り。
第240図 P.L. 124	12	土師器 杯	埋没土中 1/3	□	12.4 底	高 2.9	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明 赤褐色	口縁部は横撫で。体部外面は縦な撫で、内面は丁寧な撫で。底部は手持ちへら削り。
第240図	13	須恵器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	□	11.9 底	高 6.0	2.9 細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形(右回転) 底部は回転糸切り無調整。
第240図 P.L. 124	14	須恵器 杯	埋没土中 2/3	□	11.9 底	高 7.1	3.2 細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形(右回転) 底部回転糸切り無調整。
第240図	15	須恵器 杯	埋没土中 1/3	□	12.4 底	高 7.0	3.5 細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形(右回転) 底部回転糸切り無調整。
第240図	16	須恵器 椀	埋没土中 底部片	□	— 底	高 6.8	— 6.8 細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロクロ整形(右回転か)。高台は底部回転糸切り後の付高台。
第240図	17	須恵器 椀	埋没土中 底部片	□	— 底	高 6.6	— 6.6 細砂粒・角閃石/還元/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。高台は付高台。
第240図	18	灰輪陶器 椀	埋没土中 底部片	□	— 底	高 3.0	— 3.0 細砂粒/還元/浅黄	ロクロ整形(回転方向不明)。高台は三日月高台で付高台。施輪技法不明。
第240図 P.L. 124	19	須恵器 罐	埋没土中 口縁部と高台欠損	□	— 底	高 —	— — 細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。体部外面下半はへら削り、体部の穿孔部は注口状に突出し、先端部は欠損する。高台は削り出しか。頸部より上位欠損。
第240図	20	須恵器 甕	6ライン付近底上5cm 12号溝・15号溝出土の破片と接合破片	□	— 底	高 —	— — 細砂粒・粗砂粒/還元焼/灰	叩き整形。外面は平行叩き、内面の当て具は融着した部分を削がした痕跡無文。

遺物観察表

2-1. 上町遺跡出土陶磁器観察表

検出番号 図録番号	種別・器形	残存	出土位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	色調	形・成調整等	備考
第790号 PL.106	1 龍泉窯系青磁 坏	底部片	7号溝 埋没土中	—	(5.6)	—	灰	高台断面は細く、逆三角形状。軸はやや厚く、青緑色。底部内面に貼付文。貼付文は双魚文か。	Ⅱ-1類。13世紀中頃～14世紀初頃前後。

2-2. 時沢西組屋谷戸遺跡出土陶磁器観察表

検出番号 図録番号	種別・器形	残存	出土位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	色調	形・成調整等	備考
第189号 PL.121	10 瀬美陶器 甕	体部片	5号溝 埋没土中	—	—	—	黒	断面は灰色。器表は黒色。内面に自然軸が斑状にかり、体部下位片と考えられる。外面に帯状の印き目。	12世紀～13世紀初頃。
第190号 PL.121	5 古瀬戸 緑釉皿	1/8	6号溝 埋没土中	(7.8)	—	—	灰白	口縁部は僅かに内湾。口縁部付近の灰釉。	15世紀。
第190号 PL.121	6 瀬戸・美濃陶器 小碗	1/4	6号溝調査区北 端底上12cm	(8.6)	—	—	灰白	口縁部は外反。内面から高台輪に薄く灰釉。	江戸時代。
第190号 PL.121	7 龍泉窯系青磁 すり鉢	体部下位片	6号溝 埋没土中	—	—	—	灰白	底部内面周縁は低い段をなす。体部下位下は4条の線描き。体部内面は片形による施文。	Ⅱ-1・2・3類。12世紀中頃～後半。
第190号 PL.121	8 丹波陶器 すり鉢	口縁部片	6号溝 埋没土中	—	—	—	灰白	断面は灰白色。器表はにぶい赤褐色。口縁部は縁帯をなし、外面下部は突帯状に張り出す。	17世紀後半～18世紀中頃。
第193号 PL.121	1 瀬戸・美濃陶器 折縁皿	口縁部一部 底部1/6	11号溝北半部 11ライン付近床 上5cm	—	—	—	灰白	丸縁状工具により体部内面を菊花状に削く。口縁部は外反し、端部は小さく立ち上がる。底部内面を除き灰釉。体部下位から高台に夾道具が別個体が付着するが、割れ口を擦って使用している。	大塚IV段階後半。
第193号 PL.121	2 瀬戸・美濃陶器 輪壳皿	底部	7号溝8ライン 付近床土上12cm	—	—	—	灰白	底部内面中央付近は低い段をなして円形に窪む。内面に透明に近い灰釉施釉後、底部内面周縁の軸を乾く目状に削る。外面は無釉。高台輪は水平に削る。高台輪部は欠損。	17世紀中頃～18世紀初頃。
第196号 PL.121	1 在地系土器 すり鉢	1/2	11号溝8ライン 付近直上	(11.3)	(6.0)	2.5	黒～にぶい 黄褐色	胎土は黒色磁物少量含む。透明磁物の量は少ない。鉄分を多く含む粘土粒少量含む。底部に回転糸切無調整。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は僅かに厚薄。	底部内面に油状黒色物付着。江戸時代。
第196号 PL.121	2 在地系土器 地烙	体部片	11号溝7ライン 付近直上5cm	—	—	—	黒褐色～黒	断面はにぶい黄褐色。内面器表は黒色で体部外面下端から底部外面は黒褐色。体部外面下段から底部外面は皺状彫製。	江戸時代。
第209号 PL.122	14 常滑陶器 甕	口縁部から 肩部片	33号土坑 埋没土中	—	—	—	—	断面はにぶい黄褐色。内面器表はにぶい赤褐色。外面器表はにぶい赤褐色。口縁部は外反し、端部内面を大きく窪ませる。口縁部内面と肩部外面に斑状の自然釉多くかかる。	13世紀前半。
第225号	1 美濃陶器 蟹水入	底部片	無名沢 水田	—	—	—	灰白	側面に鉄粒具による磨り筋。内面から体部外面に灰釉。部深井製品。	16世紀。
第229号	17 常滑陶器 壺か	体部片	12号住居 埋没土中	—	—	—	灰褐色	体部の積りが少なく、歪の可能性ある。断面から内面器表は灰褐色。下部断面外半から外面器表は黄褐色。	中世

2-3. 上町・時沢西組屋谷戸遺跡出土陶磁器観察表

検出番号 図録番号	種別・器形	残存	出土位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	色調	形・成調整等	備考
第239号 PL.124	14 在地系土器 地烙	口縁部片	1号道路 埋没土中	—	—	—	黒	胎土は黒色磁物少量含む。透明磁物の量は少ない。鉄分を多く含む粘土粒少量含む。断面は黒色。器表付近は灰白色。器表は黒色。口縁部上面は内傾し、内面側は丸みを持つ。	江戸時代。
第239号 PL.124	15 在地系土器 地烙	口縁部片	1号道路 埋没土中	—	—	5.2	黒	胎土は黒色磁物少量含む。透明磁物の量は少ない。鉄分を多く含む粘土粒少量含む。断面は黒色。器表付近は灰白色。器表は黒色。口縁部下外面に接合色。体部外面に皺状彫製。	江戸時代。
第239号 PL.124	16 在地系土器 地烙	口縁部片	1号道路 埋没土中	—	—	—	灰黄褐色 黒褐色	胎土は黒色磁物少量含む。透明磁物の量は少ない。鉄分を多く含む粘土粒少量含む。断面は黒色。器表付近は浅褐色。内面器表は灰黄褐色。外面器表は黒褐色。口縁部下で内湾し、湾曲部外面に接合色。口縁部外面は横歯状により窪み、端部外面が突き出るように見える。口縁部上面は内傾し、内面側は明瞭な線をなす。体部器壁は薄い。	江戸時代。
第240号 PL.124	21 美濃陶器 反皿	口縁部一部 底部1/5	1号道路 側溝13号溝	(13.3)	(6.8)	2.3	灰白	口縁部小さく外反。高台輪幅広く削り込む。内面から高台外面に灰釉。底部内面に目直し箇所明瞭に残る。	17世紀中頃。
第240号 PL.124	22 製作地不詳磁器 碗	底部	1号道路 側溝13号溝	—	4.5	—	灰白	全体に軸4白濁し焼成不良。底部内面2重面輪内に輪物文。	江戸時代。

3-1. 上町遺跡出土金属製品観察表

検出番号 写真図版	番号	種類	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	製作状態・加工状態	備考
第16020 PL. 102	20	羽口	5号住居左脇 床直	5.5	9.0	0.4	120.0	土製羽口の挿入部分の破片。復元した場合は7.0cm。送風装置は1.5cm。端部から4.0~4.5cmの位置まで灰色に変色した部分がある。端部は黒くガラス化して溶融しており、その端部にはやや砂を染み込ませた跡が付着している。	
第16020 PL. 102	21	鉄線	5号住居居残り方 壇遺土中	4.9	3.5	0.35		縦又の鉄線で錆化がすすみ鉄内面が丸みか細かな形状は不明。基部は酸化後破損する。	
第16020 PL. 102	22	刀子	5号住居	9.6	1.1	0.4	9.7	刃先の一部を欠く刀子で棟削刃側にもまちを持つ。茎は長くくねくねと曲がり、残存する部分は著し短い。	
第16020 PL. 102	23	紡錘車	5号住居左脇前 床直	32.1	4.7	0.4	35.7	紡錘車約32cm紡錘直径4.8cmのほぼ元の紡錘車。紡錘は前面や角ばった円形で紡錘接続部で0.6cmの端に向かい細くなり端部で140.1cmほどで丸みをもって終わる。かざり等の形状は持たずまっすぐである。反対側はやや細くなり直から端部0.4cmほどの断面で終わる。紡錘はほぼ円形で厚みは0.1~0.2cmほどでやや球面的な丸みを持つが一部は錆化により膨れとみられる。	
— PL. 102	25	鉄斧 塊状	5号住居 壇遺土中	2.39	1.29	1.02	1.48	土砂を噛み込んだ塊状の小型塊状の鉄斧。	写真のみ
第32020 PL. 103	14	鉄線	19号住居 壇遺土中	6.7	0.45	0.3	3.62	長頸線の破片。断面形状は頸部ではほぼ正円形で先端に向かい長方形となり先端では菱形となり両刃で鋭角にとかが。頭部で酸化後破損している。	
第32020 PL. 103	15	刀子	19号住居居残り方 壇遺土中	6.1	1.2	0.45	7.1	茎からまちと刃の一部が残存する刀子。茎は端部から5mmほどで折れ曲がった状態で錆化。棟削に2mmほどのまちを持つ。まちから1cmの刃部で酸化後破損している。	
第37020 PL. 103	14	鉄線か	21号住居 壇遺土中	4.3	0.45	0.25	0.88	刃砂を巻き込んで錆化本体は空洞化するが断面4.5mm×2.5mmのや丸みをもち長方形の形状が観察され刀子茎とみられる。	
第38020 PL. 104	35	鉄線か	22号住居 壇遺土中	3.4	0.45	0.35	2.72	断面4.5mm×3.5mmの長方形のまっすぐな頸部の鉄製品で木質の付着等は見られない。両端とも酸化後破損し全体形状は不明。	
第38020 PL. 104	36	鉄線か	22号住居 壇遺土中	9.6	0.6	0.5	14.32	刃・砂を巻き込み錆化し本体は脆弱だがX線写真等から長頸線の破片とみられる。頸部と茎との境に緩やかな段を持ち茎はわずかに曲がり2cm程で終わる。両端とも錆に覆われ鉄線は不明瞭だが破損の可能性もある。	
第38020 PL. 104	37	鉄線か	22号住居 壇遺土中	6.8	0.7	0.4	6.37	鉄線破片で先端を欠き縁から茎が見える。茎は途中で折れ曲がる。	
第49020 PL. 105	2	鉄線か	26号住居 壇遺土中	9.3	0.5	0.3	4.2	断面四角形で徐々に細くなる角釘で先端部を欠く。頭部は特別な形状を持たず鋭角に切ったような形状で終わる。	
第50020 PL. 105	10	刀子	27号住居左脇 床直	11.9	1.8	0.4	12.06	刃砂を巻き込んで錆化する刀子。茎は細く端部は尖り意味で棟削にまち持ちが刃部はなだらかに刃側に移行する。残存する刃部は茎と変わらないほど細く先は酸化後破損である。	
第54020 PL. 105	17	刀子	1号竪穴遺構 壇遺土中	4.8	1.3	0.4	5.6	茎からほぼき付近で破損する刀子破片。茎は柄とみられる錆化した木質に覆われる。ほぼき下棟削にはまちを有し、段から2~3cmで刃は酸化後破損している。	
第57020 PL. 105	6	鎌	2号竪穴遺構 中央部直上26cm	8.6	3.4	3.5	28.6	刃砂を巻き込み錆化する。刃部は採取付部より3cm付近から細くなり研ぎ減りとみられる。刃先はわずかに破損後錆化している。	
第57020 PL. 105	19	刀子	2号竪穴遺構 西西側直上11cm	6.7	0.8	0.3	5.05	刀子刃先の破片。両端で先端は細くとかがる。	
第10100 PL. 105	1	釘	4号ピット 壇遺土中	4.4	1.1	0.4	3.67	断面四角形の角釘で頭部をたいて楕円形に広げることが折り曲げ等の加工は見られない。先端はやや丸に細くなりとかがる。	
第11100 PL. 108	1	煙管嘴	遺構外 (13号住居)	5.4	1.1	1.1	10.0	表面が白色の煙管の嘴部だが腐食の状態からメッキの可能性が。内部に籾すの籾竹とみられる植物茎をのこす。肩から首の段および腹反しは退化し小型の火筒を持つ。	

3-2. 時沢西畑屋戸遺跡出土金属製品観察表

検出番号 写真図版	番号	種類	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	製作状態・加工状態	備考
第11200 PL. 109	8	鉄線	1号住居 壇遺土中	3.9	0.7	0.4	4.4	断面長方形塊状の鉄製品で両端とも破損し全体形状・用途は不明。	
第11700 PL. 110	20	鉄線	4号住居居残り方 直上36cm	10.2	0.8	0.4	12.74	刃砂を巻き込んで錆化二つの鉄製品が癒合する。一つは先端三角部の長頸線が破損し残りがみられす茎に移行基部で酸化後破損している。この他に錆びにより癒合する鉄製品は断面四角長さ2.8cmで両端とも酸化後破損し詳細は不明であるが、断面形状が類似し同様な鉄線の可能性も考えられる。	
第11700 PL. 110	21	釘	4号住居居残り方 直上37cm	7.6	19.0	0.4	16.7	刃砂を巻き込み錆化される。先は棟削型で断面楕円形で縁を持たずに段差を持ち茎へ移行し先は酸化後破損する。	
第11700 PL. 110	22	刀子	4号住居 壇遺土中	4.1	0.65	0.2	2.7	刃砂を巻き込み錆化した形状は不明瞭だが断面は縦に細長く下がり台形状で刀子の茎とみられる。刃部は酸化後破損している。	
第113100 PL. 113	29	刀子	10号住居9号床 下土坑直上23cm	13.3	1.1	0.4	14.2	刃先および基部が酸化後破損した刀子で棟削・刃側ともに明確なまちをもち鉄製はばき付くが刃へ移行する。上面から観察すると刃部は緩やかに曲がり、まちから茎へ1cm程のところまでややくびれをもつて強く曲がり酸化前に強い力により曲がったことが観察される。	
第13900 PL. 114	11	刀子	13号住居2号床 下土坑壇遺土中	9.8	1.7	0.3	15.25	刃先および基部が酸化後破損した刀子で棟削・刃側ともに明確なまちをもち鉄製はばき付く。はばきから茎部に向かい木質が錆化したまま。刃先はまち先より急激に細くなり使用による研ぎべりとみられる。	
第13900 PL. 114	12	不明	13号住居 壇遺土中	1.6	6.5	0.6	1.05	断面縦に細長い台形状をした字に折れ曲がる上方は酸化後の破損。	
第14800 PL. 116	5	刀子	19号住居3号土 坑壇遺土中	4.3	0.6	0.35	2.47	断面三角形で両端とも酸化後破損した鉄製品。刀子の破片か。	
第15000 PL. 116	1	釘	20号住居北東壁 付直上4cm	9.9	1.1	0.7	18.98	断面四角の角釘で頭部は錆化が著しく不明瞭だがX線観察から端部で僅かに頭が広がっている形状が観察される。	
第15000 PL. 116	2	釘	20号住居北東壁 付直上2cm	8.2	1.2	0.4	9.3	断面四角の角釘で頭部はたき痕状に広がるが折り曲げはされていない。木質等の付着は確認できない。	
第15000 PL. 116	3	釘	20号住居北東壁 付直上2cm	8.1	0.9	0.4	9.6	断面四角の角釘で頭部は特別な作りは見られす木質等の付着も確認できない。	

遺物観察表

検出番号 写真記録	番号	器種 形態	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	製作状態・加工状態	備考
第1500号 PL.116	4	釘	20号住居前床 上3cm	7.2	1.3	0.4	18.44	断面やや長方形の角釘で先は尖らず丸みをもつ破壊後の錆化の可能性がある。頭部周辺は足跡を巻き込み錆化するがX線観察等から折れ曲がりの確信は見られない。	
第1500号 PL.116	5	釘	20号住居西部床 上10cm	5.5	0.7	0.4	6.43	断面長方形で頭部はわずかに側方に突出する様相を呈するが錆化のため明確ではない。木質等の付着はなく頭部から5.5cmで劣化後破壊する。	
第1500号 PL.116	6	釘	20号住居2号床 下土坑埋没土中	4.8	0.8	0.6	5.95	断面やや丸みを持つ四角形で一端は細く反対側は劣化後破壊した釘の破片とみられる。	
第1500号 PL.117	7	刀子	20号住居前床 上11cm	14.9	2.65	0.5	52.4	断面四角で先が細くなる葉状の部分から断面が平たく先の丸いへらへ移行する鉄製品。前面ではやや片側が薄くなるが刃部とは断定しがたく先端も丸く刀子・小刀とは言い難く用途不明。	
第1500号 PL.117	8	斧	20号住居前床 直床	9.8	4.2	2.6	101.9	柄の装飾部を袋状に制作した鉄斧で袋部の一か所が大きく開く。袋部の断面は楕円形で内部に柄等の木質は確認できない。斧頭は13°だが刃先1cm程で急に細くなり先端の刃先角は24°になる。刃の先端は直線ではなく弧を描くように曲がっている。	
第1500号 PL.117	9	紡錘車 軸	20号住居3号床 下土坑埋没土中	14.0	0.55	0.55	11.93	断面の丸い棒状鉄製品の破片2点で直線の接合関係はないが同一個体と考えられる。一破片は端にむかい細くなり端部では径1mmほどで丸みがあり反対側は劣化破壊する。もう一方の破片は両端とも劣化破壊するが片側に向かいやや細くなる形状を示す。	
第1500号 PL.117	10	箸?	20号住居北東壁 付近床土10cm	17.9	0.6	0.45	22.3	断面やや丸みを持つ四角形で両端部に向かいならかに細くなるが端部で1mmほどの径をもち鋭利にとがらない。紡錘車の紡錘軸の形態に似るが長さがかなり短く不明。	
第1500号 PL.117	11	不明	20号住居9号床 下土坑直上72cm	7.8	2.2	0.9	28.29	断面長方形で楕円に広がる形状の鉄製品で、楕円の端部も刃の様な特徴はない。反対側は葉に似た形状を示すが用途を確定しうるような形状は見られない。	
第1500号 PL.117	12	刀子	20号住居12号床 下土坑直上51cm	7.0	0.9	0.35	6.94	足跡を巻き込んで錆化するが、X線観察等により短い葉を持つ小型の刀子とみられる。葉は現状では短いが破壊後に錆化した可能性がある。	
第1500号 PL.117	13	不明	20号住居北東壁 直床	3.8	1.6	0.4	15.32	断面長方形の短い棒状の鉄製品。全体的に錆に覆われるが木質等の付着は見られない。両端とも角形で刃部等の形状は見られず用途不明。	
第1500号 PL.117	7	不明	21号住居3号床 下土坑直上20cm	5.7	0.55	0.5	8.33	断面ほぼ正方形の角釘で、端部はわずかにくちし状に飛び出る。錆化が著しく木質等は確認できない。	
第1500号 PL.118	8	不明	21号住居 埋没土中	5.0	2.0	5.5	3.27	断面長い長方形で一端は細く入り反対側が刃がため葉のような形状を呈する。二か所で同方向に曲がりとはなマークのような形になっている。端部に釘のような突起も無く木質等も見られず用途特定できない。	
第1500号 PL.118	9	不明	21号住居1号床 下土坑直上5cm	7.9	0.9	0.5	15.4	断面長方形のはほぼ同じ太さの角棒状鉄製品で、一端は丸みを持って釘のような反対側は劣化後の破片である。	
— PL.118	10	鉄斧 柄形銅治漆	21号住居西側 床土3cm	9.39	6.63	4.32	268.7	長軸の一端が欠損する柄形銅治漆。上面中央部はやや凹み、底面には土砂が噛み込んでいる。	写真のみ
— PL.118	11	鉄斧 塊状	21号住居1号床 下土坑埋没土中	3.01	2.42	1.87	11.7	土砂を噛み込んだ小型塊状の鉄斧。	写真のみ
第1610号 PL.119	10	鉄鍬	22号住居4号床 下土坑直上43cm	10.8	0.7	0.6	12.11	錆化が著しく細い形状は不明だが、X線および観察等により端部は断面長方形で中央付近にかけて断面ほぼ正方形角形になりわずかな段をへて低い茎へ移行する。鉄鍬破片とみられる。	
第1610号 PL.119	11	鉄鍬	22号住居 埋没土中	5.2	0.8	0.5	8.4	断面四角の棒状で徐々に細くなりながら端部は丸みを持つ反対側は劣化後の破片である。	
— PL.119	12	22号住居4号床 下土坑埋没土中	4.03	2.62	0.63	7.47	縦着痕のある金属剥片。	写真のみ	
第1630号 PL.119	11	刀子	23号住居中央部 床直	14.5	2.2	0.45	30.2	茎に納められる木質が錆化残存する刀子で種別刃部ともに細やかなまちを持つ。刃は現存長6cmで刃部はまちから急激に幅を減じ1.3cm程になりさらに刃先では種・刃部とも急に幅が狭くなり折先状にとがる。	
第1630号 PL.119	12	刀子	23号住居北壁埋 床直	9.6	1.0	0.2	6.2	小型の刀子で、茎は長さ4.5cmで刃部へ向かいVがけり種別・刃部とも厚なまちを持たずに折れ曲がるように刃部へ移行する。刃部は現存長5.3cm・最大幅1.1で刃先が細く曲がり使用による研ぎべりとみられる。	
第1630号 PL.119	13	刀子	23号住居北壁埋 床土6cm	7.1	1.2	0.3	7.0	茎の大半を欠く小型刀子。刃から茎にかけて泥・砂を巻き込み錆化した形状が不明だがは種別問わずかなまちがみられる。茎はまちから0.8cm程で劣化後破壊している。	
第1630号 PL.119	14	不明	23号住居中央部 床土8cm	11.1	1.1	1.5	28.53	平の似た鉄製品。端部はやや丸みをもつ平行四角形で鋭利ではない。反対側は柄とみられる木質が茎端部へ7.5cmにわたって錆化し残存する柄との境を示す痕や段差等は見られない。	
第1650号 PL.120	8	不明	24号住居北西部 床直	2.8	3.0	1.0	14.2	断面長方形のくの字形の鉄製品で、一方ではやや扁平になり端部では観察し薄くなるが用途は不明。	
第1690号 PL.120	19	鎌	26号住居北西部 床直	12.7	2.8	0.3	40.52	柄取付部は40.7cm程と小さく折れ曲り取付角90°に近い。刃部断面は種別で2mm中央では3mmと厚くなるが、中央断面は錆化空洞となっているため劣化前の形状と異なる可能性がある。	
第1690号 PL.120	20	鉄鍬	26号住居南側方 北西部床直上10cm	7.8	0.5	0.4	8.15	断面正方形に近い棒状でへらの形に曲がる鉄製品。両端は錆化前の破片の可能性があるが全体形状・用途は不明。	
— PL.120	21	鉄斧 柄形銅治漆	26号住居北西部 床直	9.37	7.28	5.31	296.5	完形の柄形銅治漆。上面中央部はやや凹み、酸化土砂に覆われている。	写真のみ
第229号 PL.123	19	鏡筒 遺構外 (1区表探)		2.4	2.4	0.1	3.0	皇土遺構 緑の外周にみられる凹凸は劣化による破片。表面の跡はわずかにゆがみ裏面は平坦で郭・縁とも不明。	

3-3. 上町・時沢西廻廊谷戸遺跡出土金属製品観察表

検出番号 写真記録	番号	器種 形態	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	製作状態・加工状態	備考
第232号 PL.123	8	刀子	15号溝埋没土中	3.45	0.85	0.3	3.47	茎・刃先と破壊する刀子破片。種別は1mmほどのまちを有する。破壊部分は錆に覆われ破壊後錆化が進行している状況がみられる。	
第239号 PL.124	17	不明	1号道筋ライン 付近道路面下 15cm	6.3	0.5	0.5	15.42	若小石を巻き込み錆化した鋳物。X線観察により20.5cm程の棒状であると推察するが器種・用途は不明。	

4-1. 上町遺跡出土石製品観察表

検出番号 写真図版	番 形	種 類・素材	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	製作状態・加工状態	石 材		
第1792 PL. 102	24	石? 龍左壁障床土	5号住居	32.2	21.2	10.2	7,470.0	背面側中央付近に黒色付着物が付く。被熱して深くなる。	相粒輝石安山岩		
—	—	龍石	5号住居 位置不明床土	11.3	11.9	8.1	1,197.6	精門礎で小口部に敲打痕がある。	相粒輝石安山岩		
第1920 PL. 102	15	龍石	6号住居	12.2	8.0	4.5	432.5	小口部・側縁に敲打痕。部分的に剥離痕が生じている。	相粒輝石安山岩		
第2382 PL. 102	4	龍石	8号住居	12.4	5.8	3.8	377.5	小口部両端に敲打痕がある。	相粒輝石安山岩		
第2482 PL. 102	4	精輪 台形状	9号住居 龍左脇南満底土 (切り礎石)	—	—	—	50.3	表裏面とも平坦だが、裏面側から体部にかけて丸味を持ち、薄餅状を呈する。 径10mmの孔を両側穿孔する。	砥石		
第2822 PL. 103	9	丸駒	13号住居 A硬化面直上	(2.6)	(3.1)	0.5	4.9	左下の一部を欠損する。復元幅3.6cm。表面および側縁部は磨かれており光沢をもつ。裏面は線状の製作痕跡が残る。磨孔は高さ6mm、幅は14mm以上。内面には線状の磨痕が顕著に残る。側部は強く磨かれた光沢がある。溝り穴は裏面磨孔の上部と左側に穿たれている。直径1.25mm、50°の角度で斜め方向に回転穿孔され、V字状につながっていた。	蛇紋岩		
第3222 PL. 103	13	精輪 厚板状 (切り礎石)	19号住居 埋没土中	—	—	—	4.2	高さ 2.2	55.7	背面側は平坦だが、裏面側は丸味を持つ。体部は面取り整形の磨痕がよく残る。	砥石
第3822 PL. 104	34	礎石	22号住居 中央部床土20cm	(6.1)	4.5	2.6	62.8	背面側・右側面に面取り整形痕が残る。粗粒石材だが、裏面側に使用面が残る。	相粒輝石安山岩		
第4422 PL. 104	14	石製品	24号住居床土 坑 底上5cm	5.4	4.8	(2.9)	84.4	背面側2ヶ所・裏面側1ヶ所に未貫通の孔を穿つ。裏面側は被熱破損する。小口部両端に磨傷タガネ痕が残る。	砥石		
第5022 PL. 105	3	精輪 台形状	27号住居 北壁障床上4cm	—	—	—	3.6	高さ 1.9	37.3	背面側の小側縁部は縁が磨耗。使用時の状態を示す。径7mmの孔を両側穿孔する。	蛇紋岩
第5722 PL. 105	7	礎石	2ヶ所 2号壁状遺構 横 意面上10cm	12.1	5.7	4.9	347.3	小口部両端・両側縁に敲打痕がある。	相粒輝石安山岩		
第6022 PL. 105	1	石製品	14号壁立柱建物 P 1埋没土中	4.4	3.9	3.4	98.2	体部をノミ状工具で粗く整形するほか、表裏面とも粗い線状磨痕が残る。	砥石		
第7222 PL. 106	3	礎石	2号溝 埋没土中	(10.7)	3.4	3.5	139.2	表裏両面に使用面を、研ぎ減る。両側面には刀子状工具による整形痕が明瞭に残る。	砥石		
第7622 PL. 106	5	礎石	4号溝 埋没土中	9.1	7.5	2.9	299.6	背面側・両側縁に敲打痕がある。敲打痕は90度と並び、敲打対象は直線的であることが分かる。	相粒輝石安山岩		
第10922 PL. 108	88	礎石	1号溜井 埋没土中	31.5	28.8	16.8	6,500.0	右辺側・下端部に幅の広い刃ならしキズが付く。	角閃石安山岩		
第10922 PL. 108	89	礎石	1号溜井 埋没土中	(14.8)	5.5	3.8	364.5	上端側小口部に鋭い敲打痕がある。被熱破損が。	ひん岩		
第10922 PL. 108	90	礎石	1号溜井 埋没土中	(3.7)	(3.6)	(0.7)	7.0	背面側・右側面に使用面が残る。やや軟質だが細粒質で、仕上げ研ぎとして使用したもののか。	流紋岩凝灰岩		
第11122 PL. 108	1	台石 扁平輪	1層中	15.1	14.1	4.5	1,494.2	背面側に敲打痕、裏面側の凹部に磨耗痕がある。被熱して縁部辺部が割裂。全面が磨ける。	相粒輝石安山岩		
第11122 PL. 108	19	五輪塔 空風輪	1層中	30	15.3	15	6,350.0	最大径を空輪上方に有し、四方に緩やかな角を持つ。境の溝は幅が狭く浅い。磨り込み、風化による磨料は少く、全体に幅2mm程度の丸タガネ状工具による横〜斜の整形痕。	相粒輝石安山岩		
—	8	礎石	3号住居 埋没土中	10.5	6.9	3.8	415.3	小口部上端に敲打痕。	閃緑岩		

4-2. 時沢西組屋台戸遺跡出土石製品観察表

検出番号 写真図版	番 形	種 類・素材	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	製作状態・加工状態	石 材		
第11722 PL. 110	18	石製品	4号住居3号床 下土坑底上6cm	8.4	3.7	6.0	207.8	背面側に径5mmの未貫通の孔があるほか、裏面側の同じ位置に穿孔孔がある。糸巻状を呈す砥石縁部で破損したもののだが、破損面には刃ならしキズがある。	砥石		
第11722 PL. 110	19	礎石	4号住居 埋没土中	(5.0)	(4.9)	3.2	109.4	表裏面・両側面その他、小口部にも使用面があり、小口部を多用した研磨が行われている。	砥石		
—	23	礎石	4号住居 北東隅床土	10.6	4.9	4.0	324.7	小口部両端に鋭い敲打痕。	ひん岩		
第13022 PL. 113	44	礎石	9号住居南壁 磨面直上14cm	(6.6)	(6.7)	4.7	212.0	四面使用。糸巻状を呈する礎石の端部破片。小口部は粗く磨き整形。	砥石		
第13022 PL. 113	45	礎石	9号住居南壁 磨面直上10cm	(8.4)	5.4	3.4	189.4	小口部・側縁に敲打痕がある。下半部欠損。	変質デイサイト		
第13022 PL. 113	46	礎石	9号住居南壁 磨面直上14cm	11.7	6.1	4.5	420.4	小口部両端・両側縁に敲打痕がある。	相粒輝石安山岩		
第14822 PL. 116	4	礎石	19号住居 埋没土中	(4.2)	(3.3)	1.4	27.3	四面使用。小形・薄手で、使用面は著しく研ぐ減る。	砥石		
第15222 PL. 118	53	精輪 台形状	20号住居西壁障 床上4cm	—	—	—	4.5	高さ 1.1	29.6	背面側に同心円状の線状磨痕。裏面側平坦面の周縁部に敲打痕がある。体部に磨傷状文を刻削する。	蛇紋岩
第15222 PL. 118	54	精輪 台形状	20号住居 埋没土中	—	—	—	5.1	高さ 1.4	62.5	背面側に放射状刻削・渦巻状の弧文を刻む。体部にもこれに準じる線刻を刻む。	滑 石
第15222 PL. 118	55	石製品	20号住居3号土 坑埋没土中	4.4	4.2	1.6	40.7	上端側に片側穿孔した径4mmの孔を穿つ。各面とも整形に伴う粗い線状磨痕が残る。	砥石		
第16322 PL. 119	9	礎石	23号住居中央部 床土	(13.1)	5.1	7.5	568.5	四面使用。著しく研ぎ減り、形態は糸巻状に近い。両側面端部には粗い整形面が残る。	砥石		

遺物観察表

検出番号 写真図版	番 号	器 種 形態・素材	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	製作状態・加工状態	石 材
第163号 PL. 119	10	紡輪 板状	23号住居 中央部床上22cm	4.5	4.8	高さ 1.4	41.3	裏面側に紡輪製作に伴う整形痕が線条痕として残る。断面形は表裏面とも弱く反り、平面形も歪む。砥石転用。	砥沢石
第169号 PL. 120	16	紡輪 台形状 (切り砥石)	26号住居西壁際 床上8cm	5.1	5.3	3.5	111.2	表裏面とも平坦な紡輪未製品。体部は面取り整形。裏面側・中央に径3mm・深さ4mmの未貫通の孔がある。	砥沢石
第169号 PL. 120	17	紡輪 台形状 (切り砥石)	26号住居南西隅 床直	6.1	6.7	3.2	165.4	径9mmの孔を両側穿孔する。裏面側・体部に刀子状工具による整形痕が残り、紡輪の未製品であることは確実。裏面側に磨き整形した砥石の側面が、体部に光沢の強い砥石の使用面が小さく残る。	砥沢石
第169号 PL. 120	18	砥石 切り砥石	26号住居北壁際 床直	(9.6)	4.8	3.8	255.5	表裏面・両側面の他、小口部にも使用面がある。著しく研ぎ減り、形状は糸巻状を呈す。	砥沢石
第189号 PL. 121	11	砥石 棒状礎	5号溝 埋没土中	14.7	5.6	3.5	360.7	小口部上端に著しく敲打され、潰れている。	相粒輝石安山岩
第190号 PL. 121	9	砥石 扁平礎	遺構外 (6号溝)	11.7	8.2	3.7	347.0	背面側中央・小口部上端に敲打痕がある。打痕の風化が新解で、排膿時期は明らかではない。	相粒輝石安山岩
第196号 PL. 121	4	砥石 切り砥石	11号溝 S 1	(10.8)	3.4	2.8	108.6	四面使用。背面側上半に刃ならしキズ様の峻位工具痕が集中、両側縁には深い刃ならし痕がある。背面側工具痕は切新痕に見える。裏面側には埋蝕タガネ痕が残る。	砥沢石
—	—	砥石	141号ビット 埋没土中	12.9	6.1	4.0	459.5	小口部両端・側縁に敲打痕。	流紋岩
—	—	砥石	157号ビット 5層埋没土中	10.6	4.7	2.6	215.3	小口部下端に敲打痕。	相粒輝石安山岩
第228号 PL. 122	1	砥石 Cトレンチ	無名沢 Cトレンチ	(6.2)	(3.3)	(3.1)	88.0	背面側は著しく研ぎ減り、大きく変形する。残る3面は未使用で、整形痕が良く残る。	砥沢石
第229号 PL. 123	18	砥石 切り砥石	II・III層	(6.6)	(4.3)	2.2	117.6	四面使用、小口部の整形痕は不明瞭。裏面側の白み色を帯び、風化状態が異なる。	流紋岩

4-3. 上町・時沢西組屋谷戸遺跡出土石製品観察表

検出番号 写真図版	番 号	器 種 形態・素材	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	製作状態・加工状態	石 材
第239号 PL. 124	18	石製品 切り砥石	1号道路 H-ボ ライン付近 直直上	(4.9)	(4.0)	(2.2)	57.0	上端側に片側穿孔した径6mmの孔を穿つ。下端側は節理面で破壊しているが、裏面側に幅3mm・深さ1.5mmの溝状の工具痕があり、これをリード線として上端側を意図的に切断した可能性がある。	砥沢石
第239号 PL. 124	19	砥石 棒状礎	1号道路 埋没土中	12.6	4.9	4.3	394.0	小口部上端に敲打痕、下端側は敲打・摩耗痕がある。	安賀安山岩
—	—	砥石	表面採集	11.9	6.4	3.0	294.0	小口部両端に敲打痕。	珪質頁岩
—	—	砥石	1号道路 埋没土中	12.6	15.7	4.0	1,021.1	側縁が敲打され、これに伴う剥離痕が生じている。	黒色頁岩

5-1. 上町遺跡出土縄文土器観察表

縄文番号 図録番号	番号	器形	残存	出土位置	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	時期
第111号 PL_106	1	深鉢	胴部片	遺構外 (Z5・263ピット)	粗砂、細礫	褐色	良好	胴部にR.Lの縄文を施す。	諸磯b式
第111号 PL_106	2	深鉢	胴部片	遺構外 (A-11トレンチ)	粗砂、細礫	褐色	良好	内縁する口縁部で、ベン先状の刻文が沿う隆帯で楕円等の区画を行う。区画内には沈線で文様が施される。	勝坂式
第111号 PL_106	3	深鉢	胴部片	遺構外 (1号濠井埋没土中)	粗砂、細礫	黄褐色	ふつう	胴部に0段多量のL.Rの縄文を横位・縦位に施す。	中期
第111号 PL_106	4	深鉢	口縁部片	遺構外 (21号住居埋没土中)	粗砂	褐色	ふつう	屈曲する平口縁の口唇下に2条の沈線を巡らせ、屈曲下に横位沈線をもつ。	堀之内1式
第111号 PL_106	5	深鉢	口縁部片	遺構外 (1号濠井埋没土中)	粗砂	暗褐色	ふつう	平口縁の口縁が有段となり、胴部に横位の沈線が通るが、器面が荒れ詳細は不明。	堀之内2式
第111号 PL_106	6	深鉢	胴部片	遺構外 (19号住居P4埋没土中)	粗砂、細礫	暗褐色	ふつう	胴部に横位の沈線を巡らせて文様帯を区画するが、器面が荒れ詳細は不明。	堀之内2式
第111号 PL_106	7	深鉢	胴部片	遺構外 (1号濠井埋没土中)	粗砂、細礫	暗黄褐色	ふつう	胴部に湾曲および横位の沈線を巡らせて文様帯を区画するが、器面が荒れ詳細は不明。	堀之内2式
第111号 PL_106	8	深鉢	胴部片	遺構外 (21号住居埋没土中)	粗砂	暗黄褐色	良好	胴部に沈線で重畳した三角形の幾何学文を横位に展開し、文様間に細いL.Rの縄文を充満する。	堀之内2式
第111号 PL_106	9	深鉢	胴部片	遺構外 (70号土坑埋没土中)	粗砂	黄褐色	良好	胴部に沈線で重畳した三角形の幾何学文を描く。	堀之内2式

5-2. 時沢西組屋谷戸遺跡出土縄文土器観察表

縄文番号 図録番号	番号	器形	残存	出土位置	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	時期
第230号 PL_123	20	深鉢	胴部片	遺構外 (IV層中)	粗砂、細礫	褐色	良好	胴部に隆帯を巡らせて文様帯を分帯し、隆帯で楕円等の区画および区画内に平行沈線を沿わせる。環状突起を有する。	勝坂式
第230号 PL_123	21	深鉢	口縁部片	遺構外 (9号濠埋没土中)	粗砂、細礫	黄褐色	ふつう	内反する平口縁の口唇下に沈線を1条巡らせ、口縁部文様に沈線で楕円区画と区画内に横位矢羽根状沈線を施す。	加曾利E3式
第230号 PL_123	22	深鉢	口縁部片	遺構外 (1号住居埋没土中)	粗砂、細礫	褐色	ふつう	内反する平口縁の口唇下に沈線を1条巡らせ、口縁部文様に沈線で弧状の文様を施し、地文に、Rの縄文を施す。	加曾利E3式
第230号 PL_123	23	深鉢	胴部片	遺構外 (13号溝埋没土中)	粗砂、細礫	黄褐色	ふつう	口縁部文様に隆帯と沈線で楕円等の文様を区画し、区画内に縄文を施す。	加曾利E3式
第230号 PL_123	24	深鉢	胴部片	遺構外 (17号住居埋没土中)	粗砂、細礫	黄褐色	ふつう	胴部に沈線で縦長楕円等の文様を区画し、区画内にR.Lの縄文を施す。また、区画間に翼手状の彫刻文を有する。	加曾利E3式
第230号 PL_123	25	深鉢	胴部片	遺構外 (遺構外)	粗砂、細礫	黄褐色	ふつう	胴部下半に点線で逆U字状の文様を区画し、区画内にR.Lの縄文を縦位に施す。	加曾利E3式

6-1. 上町遺跡遺構外出土石器観察表

縄文番号 図録番号	番号	器種 形態・素材	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	製作状態・加工状態	石材
第111号 PL_106	10	石錐 凸基有蓋錐	遺構外 (VI層)	2.7	1.7	0.3	1.0	完成状態。丁寧な押圧刻磨が全面を覆う。	チャート
—	—	前磨 打製石斧	遺構外 (1号道路)	8.9	4.5	1.4	62.0	刃部：石片破損品を再加工	黒色頁岩
—	—	前磨 幅広削片	遺構外 (1号道路)	8.6	3.8	0.8	27.7	刃部：削片端部	黒色頁岩
—	—	前磨 幅広削片	遺構外 (1号道路)	10.3	6.1	1.6	90.0	刃部：削片端部	黒色頁岩
—	—	前磨 幅広削片	遺構外	5.1	11.1	1.9	118.9	刃部：左側縁	黒色頁岩
—	—	前磨 幅広削片	遺構外 (23号住居)	10.3	3.9	1.8	74.8	刃部：削片端部	黒色頁岩
—	—	前磨 幅広削片	遺構外 (12号溝)	10.5	5.4	1.7	101.5	刃部：両側縁	黒色頁岩
—	—	前磨 幅広削片	遺構外 (3号住居)	6.1	6.6	2.6	106.3	刃部：右辺裏面側	黒色頁岩
—	—	前磨 幅広削片	遺構外 (VI層)	8.1	9.7	1.5	90.3	刃部：削片端部・左辺裏面側	黒色頁岩
第111号 PL_106	11	打製石斧 短冊型	遺構外 (1号濠井)	10.5	3.8	1.3	64.7	完成状態。刃部摩耗・側縁摩耗がある。	黒色頁岩
—	—	打製石斧 短冊型	遺構外 (IV層)	(10.1)	4.1	1.3	71.8	完成状態。側縁摩耗が残る。刃部欠損。	黒色頁岩
—	—	打製石斧 短冊型	遺構外 (22号住居)	(6.3)	3.8	1.6	50.3	完成状態？胴部破片。	黒色頁岩
—	—	打製石斧 短冊型	遺構外 (III層)	(8.8)	6.7	2.3	139.6	完成状態。刃部再生。上半部欠損。	黒色頁岩
—	—	打製石斧 不明	遺構外 (22号住居)	(2.7)	(4.8)	1.5	27.9	未製品。胴部破片。	黒色頁岩
—	—	石核 大型削片	遺構外 (12号溝)	4.7	7.4	1.7	66.5	作業面：表裏両面・右辺小口部。	黒色頁岩
—	—	石核 大型削片	遺構外 (VI層)	8.2	7.3	2.0	124.3	作業面：裏面側。	ホルンフェルス

遺物観察表

検出番号 図版番号	番 号	器 種 形態・素材	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	製作状態・加工状態	石 材
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (IV層)	遺構外	6.3	3.7	1.6	37.7	加工意図：削磨	黒色頁岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (VI層)	遺構外	(8.8)	7.3	1.9	107.7	加工意図：削磨	黒色頁岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (14号住居)	遺構外	5.2	7.8	2.0	75.4	加工意図：削磨？	ホルンフェルス
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (24号住居)	遺構外	6.6	7.1	2.0	90.4	加工意図：削磨？	黒色頁岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (1号土坑)	遺構外	7.2	8.1	1.1	73.2	加工意図：削磨	黒色頁岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (1号土坑)	遺構外	5.1	(5.9)	1.4	33.0	加工意図：削磨	黒色頁岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (IV層)	遺構外	3.2	3.8	0.9	14.2	加工意図：削磨	黒色頁岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片	遺構外	5.1	6.3	1.8	21.3	加工意図：削磨？	黒色頁岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片	遺構外	5.1	6.8	1.9	48.9	加工意図：削磨？	黒色頁岩
第11号 PL 108	12	スタンピング器 棒状礎	遺構外 (1号道路) (24号住居)	(6.8)	5.4	3.4	206.7	分割面が著しく摩耗するほか、体部エッジに敲打に伴う小刻磨痕が生じている。	粗粒輝石安山岩

6-2. 時沢西組屋谷戸遺跡遺構外出土石器観察表

検出番号 図版番号	番 号	器 種 形態・素材	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	製作状態・加工状態	石 材
第230号 PL 123	26	石礫 凹縁無茎錐	遺構外 (2号住居)	2.6	(1.3)	0.4	1.0	完成状態。加工は両辺加工に止まり、表面面に素材剥離面を残す。左辺側の「返し部」を欠損する。	黒色頁岩
第230号 PL 123	27	石礫 平基無茎錐	遺構外 (IV層)	2.4	1.7	0.5	1.3	完成状態。部分的に凹縁状剥離となり、加工は粗い。	黒色安山岩
—	—	削磨 短長列片	遺構外 (4号住居)	(5.3)	6.7	1.6	54.8	刃部：割片端部	ホルンフェルス
—	—	削磨 短長列片	遺構外 (13号溝)	7.1	7.9	2.2	131.4	刃部：割片端部	黒色頁岩
—	—	打製石斧？ 短型型	遺構外 (9号住居)	6.1	5.0	1.6	42.3	未製品。頭部側を欠損。	黒色頁岩
第230号 PL 123	28	打製石斧 短型型	遺構外 (15号溝)	9.1	5.0	1.7	80.2	完成状態。両側縁のエッジはシャープで、刃部摩耗も見られない。	黒色頁岩
第230号 PL 123	29	打製石斧 短型型	遺構外 (VI層)	(7.0)	4.9	1.3	57.4	完成状態。両側縁は弱く摩耗する。刃部再生時に破損。	黒色頁岩
第230号 PL 123	30	打製石斧 短型型	遺構外 (13号溝)	(9.8)	8.8	2.1	167.5	完成状態。刃部摩耗が著しい。上半部を欠損。	黒色頁岩
第230号 PL 123	31	打製石斧 短型型	遺構外 (5号住居)	12.3	5.3	1.7	116.5	完成状態。刃部摩耗・側縁摩耗が著しい。	粗粒輝石安山岩
第230号 PL 123	32	打製石斧 短型型	遺構外 (II・III層)	15.3	7.2	2.3	216.5	完成状態。やや幅身の着筋部に幅広い体部が付く。刃部摩耗があるほか、両側縁が磨耗する。刃部は未加工で、偏角気味である。	粗粒輝石安山岩
—	—	打製石斧 短型型	遺構外 (15号住居)	(5.7)	4.4	1.6	51.3	完成状態？頭部破片。	黒色頁岩
—	—	打製石斧 短型型	遺構外 (14号住居)	(11.9)	3.8	2.3	108.9	未製品頭部側を欠損。	黒色頁岩
第230号 PL 123	33	石礫？ (V層)	遺構外	(9.9)	(8.1)	3.2	377.3	未製品。側縁の縁が新鮮で、製作途上に破損か。頭部破片だが大形であり、石礫未製品と見えた。	砂岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (VI層)	遺構外	6.8	4.4	1.1	35.2	加工意図：削磨	黒色安山岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (VI層)	遺構外	(5.9)	8.3	1.8	104.1	加工意図：削磨	黒色頁岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片	遺構外	9.5	9.5	4.1	318.7	加工意図：削磨	黒色頁岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (9号住居)	遺構外	7.1	5.0	1.8	71.5	加工意図：削磨？	黒色安山岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片	遺構外	(6.3)	5.8	2.1	63.3	加工意図：削磨？	黒色頁岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (16号住居)	遺構外	5.5	8.7	1.3	51.2	加工意図：削磨	粗粒輝石安山岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (23号住居)	遺構外	(3.1)	3.9	0.8	9.4	加工意図：不明	黒色頁岩
—	—	加工痕ある切片 短長列片 (14号溝)	遺構外	(4.2)	(3.6)	(1.1)	29.8	加工意図：打製石斧？	頁岩
第230号 PL 123	34	敲石 棒状礎	遺構外	8.9	7.8	3.7	347.9	小口部両端・側縁に敲打痕があるほか、背面中央が敲打され、深く凹状に窪む。	粗粒輝石安山岩
第230号 PL 123	35	磨石 棒状礎	遺構外	15.8	8.6	5.2	1,123.5	表面面とも摩耗するほか、両側縁が敲打・摩耗する。	粗粒輝石安山岩
第230号 PL 123	36	石製研器具 棒状礎	遺構外 (22号住居)	8.2	2.6	1.9	65.6	小口部両端に線条痕。部分的に光沢面がある。	黒色頁岩

7. 上町・時沢西廻屋谷戸遺跡非掲載遺物集計表

遺跡	区	遺構番号	遺構種	土器器				須恵器			灰釉陶器	中世		近世			近現代		不詳
				杯・椀類	高坏等	甕・壺類	不明	杯・碗・皿類	壺・甕・瓶類	不明		椀・皿	国産焼締陶器	在地系鉢・鍋	国産磁器	国産陶器	在地系磁器・鍋	陶磁器	
上町	2	1	住居	50		118		7											
上町	2	2	住居	149		110		20	4										
上町	2	3	住居	14		19		5	2										
上町	2	4	住居	20		98		13	1										
上町	2	5	住居	35		260		6	3										
上町	2	6	住居	35		136		2	4										
上町	2	7	住居	4															
上町	2	8	住居	2		17		3	1										
上町	2	9	住居	7		24		5											
上町	2	12	住居	4		8		2											
上町	2	13	住居	24		111		11	1										
上町	2	14	住居	2				2											
上町	2	3-14	住居	77		136		23	10										
上町	2	15	住居			7													
上町	2	16	住居			3													
上町	2	17	住居			4		1											
上町	2	18	住居					1	1										
上町	1	18	住居					3	1										
上町	1	19	住居	211		819		73	20										
上町	1	20	住居	95		155	2		5										
上町	1	21	住居	171		808		38	2	1									
上町	1	22	住居	692		1227	95	69	35										
上町	1	23	住居	17		75		10	4										
上町	1	24	住居	94		733		17	7										
上町	1	25	住居	9		109	4	3											
上町	3	26	住居	4		45		10											
上町	3	27	住居	8		30		5	2										
上町	3	28	住居	8		38		4	3										
上町	2	1	竪穴			8		5	28										
上町	2	2	竪穴	9															
上町	2	3	竪立	3		7													
上町	2	5	竪立			1													
上町	1	14	竪立			7		1											
上町	1	15	竪立	8		117		2	1										
上町	2	4	溝	24		149		12	10										
上町	2	5	溝	1		1		1	1		1						2		
上町	2	6	溝	3		3		3	6										
上町	2	7	溝					4	5										
上町	2	8	溝					2	1										
上町	1	12	溝	1		64		46	24		3								
上町	1	13	溝	49		9		21	6										
上町	1	14	溝	13		25		5											
上町	1	16	溝	2				1	2										
上町	1	18	溝					2	1										
上町	1	20	溝	1		2		1											
上町	2	1	土坑	3		1													
上町	2	2	土坑	2		2			2										
上町	2	5	土坑	7															
上町	2	8	土坑			3													
上町	2	20	土坑	6		4													
上町	2	25	土坑	1		8			1										
上町	2	32	土坑	2		13		3											
上町	2	34	土坑						1										
上町	2	36	土坑	4															
上町	2	45	土坑			4													
上町	1	43	土坑	1		2													
上町	1	45-2	土坑																
上町	1	46	土坑			2													
上町	1	47	土坑	2		3													
上町	1	48	土坑			1													

遺物観察表

道 路	区	遺構 番号	遺構種	土 師 器				須 恵 器			灰輪陶器	中 世		近 世			近 現 代		不詳
				杯・椀類	高坏等	甕・甕類	不明	杯・椀・ 皿類	甕・甕・ 皿類	不明		椀・皿	国産焼 締陶器	在地系 鉢・鍋	国産 磁器	国産焼 締陶器	在地系 地輪・鍋	陶磁器	
上町		1 49	土坑	1		3	2		1										
上町		1 50	土坑					16		2									
上町		1 51	土坑					8			4								
上町		1 53	土坑		5	32			2	1									
上町		1 54	土坑	1		2				2									
上町		1 58	土坑					21			1								
上町		1 61	土坑	41		228				4									
上町		1 62	土坑		2	12			1										
上町		1 63	土坑	9		15			1										
上町		2 64	ピット			1													
上町		1 65	土坑	13		37			1	2									
上町		1 66	土坑	3		42			1										
上町		2 68	ピット			1													
上町		1 69	土坑	3		9													
上町		1 70	土坑	1		2													
上町		1 71	土坑	3		35			1										
上町		1 72	土坑	2		9			1	1									
上町		1 73	土坑			3													
上町		1 74	土坑			2	2												
上町		1 78	土坑	1		2													
上町		3 81	土坑	2															
上町		1 25	ピット			3													
上町		1 83	ピット			1													
上町		1 126	ピット			1													
上町		1 144	ピット			1													
上町		1 146	ピット	1		4													
上町		1 163	ピット			3													
上町		1 164	ピット			2													
上町		1 204	ピット	1		1													
上町		1 205	ピット			1													
上町		1 207	ピット			5													
上町		1 213	ピット			4				1									
上町		1 217	ピット	2		12													
上町		1 218	ピット			1													
上町		1 220	ピット			1													
上町		3 225	ピット	1		1													
上町		3 233	ピット	2															
上町		3 234	ピット	1															
上町		3 238	ピット						1										
上町		3 247	ピット			1													
上町		3 250	ピット			1													
上町		3 266	ピット	1															
上町		3 268	ピット							2									
上町		1 1	溜井	2368		1668		600	246					1					
上町		1 1	溝	9		28		37	14										
上町		1	表探	171		700		73			4			1	3		1	1	
上町		1	IV層	4		33													
上町		1	IV層	181		426		76	51										
上町		1	V層	1															
上町		1	旧黒道西側	4		13													
上町		2	表土	2															
上町		2	表面採集	2		12			1			1							
上町		2	覆瓦	12		43		7											
上町		2	IV層	8		34													
上町		2	旧石器調査坑	1		10		2											
上町		2	無名/Aトレンチ	3		8		1	2					1	1				
上町		2	帯状凹地												1				

7. 非掲載遺物集計表

遺跡	区	遺構番号	遺構種	土 師 器				酒 器			灰輪陶器	中 世		近 世			近 現 代		不詳		
				杯・椀類	高杯等	甕・甕類	不明	杯・瓶・皿類	甕・甕・胆類	不明		椀・皿	国産焼締陶器	在地系鉢・鍋	国産磁器	国産陶器	在地系地絡・鍋	陶磁器		土器類	土器類
時次西組屋谷戸	1	1	住居	18		134		46	13												
時次西組屋谷戸	1	2	住居	29		341		67	22												
時次西組屋谷戸	1	3	住居	18		19		7	1												
時次西組屋谷戸	1	4	住居	327	19	1050		31	13												
時次西組屋谷戸	1	5	住居	13		76															
時次西組屋谷戸	1	6	住居			4		1													
時次西組屋谷戸	1	7	住居	8		121		21	7												
時次西組屋谷戸	1	8	住居	21		3		17	145												
時次西組屋谷戸	1	9	住居	458		1530		69	16												
時次西組屋谷戸	1	10	住居	272		515		41	6												
時次西組屋谷戸	2	11	住居	2		9															
時次西組屋谷戸	2	12	住居			4															
時次西組屋谷戸	2	13	住居	33		112	1	2	5												
時次西組屋谷戸	2	13	住居 2土坑																		
時次西組屋谷戸	2	14	住居	10		86		4													
時次西組屋谷戸	2	15	住居	80		145		10	5												
時次西組屋谷戸	2	16	住居	36		205		3	2												
時次西組屋谷戸	2	17	住居			5	1	13													
時次西組屋谷戸	2	18	住居	21		132		1	2												
時次西組屋谷戸	2	19	住居					2													
時次西組屋谷戸	2	20	住居	235		748		346	52												
時次西組屋谷戸	2	21	住居	108		155		77	9												
時次西組屋谷戸	2	22	住居	44		321		162	20												
時次西組屋谷戸	2	23	住居			109															
時次西組屋谷戸	2	24	住居	15		32		8	4												
時次西組屋谷戸	2	25	住居			36		1													
時次西組屋谷戸	2	26	住居	98		549		84	11												
時次西組屋谷戸	2	27	住居			2															
時次西組屋谷戸	1	1	竪穴			21		3	1												
時次西組屋谷戸	1	2	竪穴	68		118															
時次西組屋谷戸	2	1	竪穴	6		54		20	8												
時次西組屋谷戸	2	3	竪穴			3		1													
時次西組屋谷戸	2	5	竪立			3															
時次西組屋谷戸	2	7	竪立	13		36		4	1												
時次西組屋谷戸	2	8	竪立	2		6		1													
時次西組屋谷戸	2	9	竪立			1			1												
時次西組屋谷戸	1	1	溝	14		3		3													
時次西組屋谷戸	1	2	溝	9				2													
時次西組屋谷戸	1	1-2	溝合流部	5		3		6	2												
時次西組屋谷戸	1	3	溝	52	1	15		2													
時次西組屋谷戸	2	4	溝			2		3													
時次西組屋谷戸	2	5	溝	109		204		32	28												
時次西組屋谷戸	2	6	溝	28		153		39	36												
時次西組屋谷戸	2	7	溝	2		1		4	5												
時次西組屋谷戸	2	10	溝	1		1															
時次西組屋谷戸	2	13	溝																		
時次西組屋谷戸	2	14	溝	9		3															
時次西組屋谷戸	2	15	溝	5		22		12	7												
時次西組屋谷戸	1	1	井戸	53		66		16													
時次西組屋谷戸	1	1	土坑			2															
時次西組屋谷戸	1	2	土坑			1															
時次西組屋谷戸	1	4	土坑	2		12		2	1												
時次西組屋谷戸	1	5	土坑	4		10		2													
時次西組屋谷戸	1	6	土坑					1	1												
時次西組屋谷戸	1	7	土坑			2		1	1												
時次西組屋谷戸	1	9	土坑			7		1													
時次西組屋谷戸	1	11	土坑			2		1													
時次西組屋谷戸	1	12	土坑			1															
時次西組屋谷戸	1	14	土坑	11		7		1													
時次西組屋谷戸	1	15	土坑						1												
時次西組屋谷戸	1	16	土坑	20		3															
時次西組屋谷戸	1	17	土坑	10				2													

遺物観察表

遺跡	区	遺構番号	遺構種	土器器				酒器			灰釉陶器	中世		近世			近現代		不詳		
				杯・椀類	高坏等	甕・甕類	不明	杯・椀・皿類	甕・甕・胆類	不明		椀・皿	国産焼締陶器	在地区系	国産磁器	国産陶器	在地区地味・磁	陶磁器		土器類	土器類
時次西郷屋谷戸	1	18	土坑					1	2												
時次西郷屋谷戸	1	20	土坑	8		3				3											
時次西郷屋谷戸	1	21	土坑	1																	
時次西郷屋谷戸	1	22	土坑	3				1													
時次西郷屋谷戸	1	23	土坑	5		1		2													
時次西郷屋谷戸	1	24	土坑			2															
時次西郷屋谷戸	1	25	土坑					1													
時次西郷屋谷戸	1	27	土坑			15															
時次西郷屋谷戸	1	29	土坑	4		3		2													
時次西郷屋谷戸	1	30	土坑	22		8															
時次西郷屋谷戸	2	31	土坑			21															
時次西郷屋谷戸	2	33	土坑	3		2															
時次西郷屋谷戸	2	34	土坑			1															
時次西郷屋谷戸	2	38	土坑	3		9		2													
時次西郷屋谷戸	2	46	土坑	6		5		2	1												
時次西郷屋谷戸	2	57	土坑	3		1		1													
時次西郷屋谷戸	2	59	土坑	1																	
時次西郷屋谷戸	2	69	土坑	2		3			1												
時次西郷屋谷戸	2	71	土坑	2		12			2												
時次西郷屋谷戸	2	74	土坑	1		2															
時次西郷屋谷戸	2	75	土坑			1															
時次西郷屋谷戸	2	76	土坑			2			2												
時次西郷屋谷戸	2	79	土坑			12		6	1												
時次西郷屋谷戸	2	82	土坑			3		1													
時次西郷屋谷戸	2	84	土坑			4		1	2												
時次西郷屋谷戸	2	86	土坑					2													
時次西郷屋谷戸	2	87	土坑			1															
時次西郷屋谷戸	2	88	土坑			1		2													
時次西郷屋谷戸	2	93	土坑			2															
時次西郷屋谷戸	2	94	土坑					1													
時次西郷屋谷戸	1	1	ビット	2		2															
時次西郷屋谷戸	1	3	ビット	1																	
時次西郷屋谷戸	1	4	ビット			5															
時次西郷屋谷戸	1	5	ビット			3															
時次西郷屋谷戸	1	8	ビット			1															
時次西郷屋谷戸	1	11	ビット			17		1													
時次西郷屋谷戸	1	14	ビット			1															
時次西郷屋谷戸	1	18	ビット					1													
時次西郷屋谷戸	1	19	ビット	9		18		1													
時次西郷屋谷戸	1	20	ビット	8		5		2													
時次西郷屋谷戸	1	21	ビット	8		13			1												
時次西郷屋谷戸	1	22	ビット	2		12		1													
時次西郷屋谷戸	1	24	ビット			2															
時次西郷屋谷戸	1	25	ビット	7		51		1													
時次西郷屋谷戸	1	26	ビット			3															
時次西郷屋谷戸	1	27	ビット	3																	
時次西郷屋谷戸	1	29	ビット			1															
時次西郷屋谷戸	1	32	ビット			10															
時次西郷屋谷戸	1	33	ビット			2															
時次西郷屋谷戸	1	34	ビット			1															
時次西郷屋谷戸	1	39	ビット	2																	
時次西郷屋谷戸	1	40	ビット	2																	
時次西郷屋谷戸	1	63	ビット	2		2															
時次西郷屋谷戸	1	67	ビット	6		10															
時次西郷屋谷戸	1	68	ビット	1		5															
時次西郷屋谷戸	1	69	ビット			4															
時次西郷屋谷戸	1	70	ビット			13															
時次西郷屋谷戸	1	71	ビット	1		3															
時次西郷屋谷戸	1	74	ビット	1		3															
時次西郷屋谷戸	1	79	ビット	1		1															
時次西郷屋谷戸	1	81	ビット	1		1		2													
時次西郷屋谷戸	1	84	ビット			1															

7. 非掲載遺物集計表

道 路	区	遺構 番号	遺構種	土 師 器				須 恵 器			灰 輪 陶 器		中 世		近 世			近 現 代		不 詳	
				杯・椀類	高坏等	甕・甕類	不明	杯・椀・ 皿類	甕・甕・ 皿類	不明	椀・皿	国産焼 締陶器	在 地 系 鉢・鍋	国産 磁器	国産焼 締陶器	在 地 系 地 碁 碁	陶磁器	土器類	土器類		
時次西組屋谷戸	1	85	ビット					65													
時次西組屋谷戸	1	88	ビット	1		5		1	1												
時次西組屋谷戸	1	90	ビット			10															
時次西組屋谷戸	1	91	ビット			1															
時次西組屋谷戸	1	92	ビット	2				9													
時次西組屋谷戸	1	95	ビット			7		1													
時次西組屋谷戸	1	96	ビット	6				1	1												
時次西組屋谷戸	1	98	ビット	1		1															
時次西組屋谷戸	1	100	ビット	1				1													
時次西組屋谷戸	1	102	ビット	2																	
時次西組屋谷戸	1	103	ビット	2																	
時次西組屋谷戸	1	104	ビット	2																	
時次西組屋谷戸	1	106	ビット	3																	
時次西組屋谷戸	1	107	ビット			1															
時次西組屋谷戸	1	111	ビット	1																	
時次西組屋谷戸	1	112	ビット	2																	
時次西組屋谷戸	1	115	ビット			1															
時次西組屋谷戸	1	118	ビット			2															
時次西組屋谷戸	1	128	ビット			1															
時次西組屋谷戸	1	129	ビット						1												
時次西組屋谷戸	1	130	ビット						1												
時次西組屋谷戸	1	138	ビット			1			1												
時次西組屋谷戸	1	140	ビット			1															
時次西組屋谷戸	1	143	ビット			1															
時次西組屋谷戸	1	150	ビット			2															
時次西組屋谷戸	1	151	ビット			1															
時次西組屋谷戸	1	154	ビット	4		19															
時次西組屋谷戸	1	156	ビット	3		1			1												
時次西組屋谷戸	2	159	ビット			1															
時次西組屋谷戸	2	180	ビット					1													
時次西組屋谷戸	2	262	ビット			2			1												
時次西組屋谷戸	2	266	ビット			2		1													
時次西組屋谷戸	2	268	ビット			1															
時次西組屋谷戸	2	272	ビット			1															
時次西組屋谷戸	2	284	ビット			1															
時次西組屋谷戸	2	285	ビット			1															
時次西組屋谷戸	2	290	ビット			1															
時次西組屋谷戸	2	291	ビット	1		1															
時次西組屋谷戸	2	302	ビット						1												
時次西組屋谷戸	2	306	ビット	1																	
時次西組屋谷戸	2	333	ビット			2															
時次西組屋谷戸	2	342	ビット	2																	
時次西組屋谷戸	2	374	ビット			1															
時次西組屋谷戸	2	376	ビット			2															
時次西組屋谷戸	1	1	鼎			3															
時次西組屋谷戸	2	1	道路	41		43		27	28			1	1				3				
時次西組屋谷戸	1		I層					1					1	1							
時次西組屋谷戸	1		II層	16		201		64	17												
時次西組屋谷戸	1		III層	52		470		1	103		3										
時次西組屋谷戸	1		II・III層	101		471		73	38												
時次西組屋谷戸	1		IV層			87		11	7									1		1	
時次西組屋谷戸	1		覆瓦	2		3		4													
時次西組屋谷戸	1		旧石器調査坑	26		65		6	1												
時次西組屋谷戸	2		表土	26		40		28	17	1				4				3			
時次西組屋谷戸	2		IV層	79		29		20	158												
時次西組屋谷戸	2		試験Aトレンチ	1		7		6	2												
時次西組屋谷戸	2		試験Bトレンチ															1			
合計				7,504	20	18,033	110	2,760	1,351	1	16	1	1	5	18	4	6	1	1	1	
小計							29,795					2		27			7		1		
総計											29,832										

報告書抄録

書名ふりがな	かみちょう・ときざわにしこんやがいのいせき
書名	上町・時沢西組屋谷戸遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	561
編著者名	小島敦子
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20130318
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	かみちょう・ときざわにしこんやがいのいせき
遺跡名	上町・時沢西組屋谷戸遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししにかみほそいまち・ふじみまち
遺跡所在地	群馬県前橋市上細井町・富士見町
市町村コード	10201
遺跡番号	00798・90097
北緯(世界測地系)	36° 25' 30.78234"
東経(世界測地系)	139° 05' 00.06937"
調査期間	20090701-20100131
調査面積	9806.0
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	飛鳥/奈良/平安/中世/近世/不明
遺跡概要	集落-飛鳥-竪穴住居3+土坑1-土師器+須恵器/集落-奈良-竪穴住居20+掘立柱建物4+土坑+ピット-土師器+須恵器+金属製品/集落-平安-竪穴住居24+土坑+掘立柱建物4+道路+溜井-土師器+須恵器+灰釉陶器+黒色土器+金属製品+石製品/時期不明-竪穴住居2+掘立柱建物9+溝7+ピット/中世-土坑+掘立柱建物1/近世-水田/その他-縄文-遺構外-縄文土器+縄文石器
特記事項	平安時代の両側に側溝をもつ道路跡が検出された。
要約	赤城山南麓の赤城白川の流域に形成された白川扇状地上の遺跡である。飛鳥時代から平安時代の集落遺跡で、遺跡内にある帯状凹地には平安時時代の道路跡と溜井も検出された。竪穴住居の床下には大型で深い床下土坑が掘られており、下層にある粘土を採掘して竪構築や土器製作に使用していたと推定される。